

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集

深谷市

しん や しき ひがし ほん ごう まえ ひがし
新屋敷東・本郷前東

一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告

— III —



(第1分冊)

1992

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



横楯形石製模造品



同 上 (裏面)

序

カーラジオから流れる交通情報に、「国道17号は、籠原駅前と深谷警察の上下〇kmが渋滞しています。」と、常連のように登場していた一節です。この国道17号の慢性的な渋滞の対策として、また北関東の政治・経済・文化を支える交通網の整備の一環として、深谷バイパスは計画されました。

文化財については、建設省大宮国道工事事務所と埼玉県教育委員会との間で協議が重ねられました。その結果、どうしても避けられない埋蔵文化財について、埼玉県埋蔵文化財調査事業団が建設省の委託を受け、発掘調査を実施して記録保存を行うことになりました。

新屋敷東遺跡のある幡羅郡は、古代から開発が進んでいました。多賀城跡出土の木簡によると多賀城へ大同四年に五斗の米が運ばれていたことが記されており、これを裏付けています。しかし弘仁九年に大地震が起り、壊滅的な打撃を受けました。新屋敷東遺跡もこの被害を受けたようで、地震による噴砂の痕跡が遺跡の全面で確認されました。

発掘調査によって、縄文時代の住居跡、埼玉古墳群と同じ時代の川辺の住居跡、平安時代の水田・住居跡等、各時代の集落の様子が浮き彫りとなりました。

また土器をはじめとする遺物は、当時の生活様式を今に伝えてくれました。中でも横櫛を真似た石製模造品は、横櫛の登場を探る全国でも数少ない遺物であります。これらは、今後の北武蔵の歴史を考えるうえでもまたと無い貴重な資料です。

本書が、歴史教育や学術研究の基礎資料として、広くご活用頂けることを切望いたします。

刊行にあたり、ご指導ご協力賜りました埼玉県教育局指導部文化財保護課をはじめ建設省大宮国道工事事務所・同熊谷出張所、さらに深谷市教育委員会並びに地元関係各位に深く感謝の意を表わします。

平成3年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井修二

例 言

1 本書は、深谷市明戸字駒埴前774—2番地他、同市明戸字本郷前313番地他に所在する、新屋敷東遺跡、本郷前東遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査届に対する文化庁長官からの指示通知番号は、新屋敷東遺跡が昭和59年5月29日付け委保第5の538号、本郷前東遺跡が、昭和59年5月29日付け委保第5の538号である。新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡に関する文献は、下記のもので発表されているが、内容に関しては本書が優先するものである。なお『年報6』の深谷バイパスB区遺跡を本郷前東遺跡、同C区・C—2区遺跡を新屋敷東遺跡としていただきたい。

(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『年報6』1986

2 発掘調査は一般国道17号深谷バイパス建設に先立つ事前調査であり、埼玉県教育局指導部文化財保護課の調整を経て、建設省大宮国道工事事務所の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書作成作業も引き続き、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

3 発掘調査は、新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡とも昭和60年4月5日から昭和61年9月30日まで実施し、整理・報告書作成作業は、平成元年4月1日から平成3年9月30日まで実施した。遺構番号は、新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡を通して新たに振り直した。

4 土器の胎土分析は、(株)第四紀地質研究所 井上 巖氏に委託した。

土器展開写真は、小川忠博氏に委託した。

土器集合写真は、折原基久氏に委託した。

プラント・オパール分析はパリノ・サーベイに委託した。

5 出土品の整理及び図の作成は田中広明が担当し、東海林早苗の補助を受け、縄文土器・石器・石製品を新屋敷雅明、土偶・土製品を濱野美代子が担当した。

6 本書の執筆は、第I章第1節を埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第85集より転載し、主に田中が当たり、一部を以下のとおり分担した。

新屋敷雅明 III—1の(5)・(6) 濱野美代子 III—1の(6)土偶・土製品の項

7 発掘調査時の写真は、小野義信・浜野一重・中村倉司・磯崎 一・剣持和夫・立石盛詞・宮井英一・栗島義明・岩瀬 譲・関 義則・田中・奥野麦生・江口尚史が撮影し、遺物写真は、田中が行った。

8 本書の編集は資料部資料整理第2課の田中が行った。

9 本書にかかる資料は、平成4年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

10 本書を作成するに当たり、下記の方々からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

岡田 賢治 金子 正之 金子 真土 河瀬 信幸 小池 普録 斉藤 国夫
酒井 清治 坂井 秀弥 品田 高志 寺社下 博 鈴木 徳雄 平田 重之
森田 克行 渡辺 一

(敬称略)

凡 例

1 本書内の挿図における指示は次のとおりである。

- ・遺構表記記号は、S J：竪穴式住居跡，SK：土壇，SD：溝，SB：掘立柱建物跡，P：ピットである。
- ・X，Yの座標表示は、国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を示す。グリッド名称は、北東隅の杭名称を用い、南北優位で表示している。
- ・縮尺は、次の率を原則とし、それ以外は個別に表示した。

遺構 竪穴式住居跡 1/60 掘立柱建物跡・土壇 1/80

カマド詳細図・遺物出土状態図 1/40

遺物 縄文土器拓影・石器 1/3 土器 1/4

土製品・土偶・鉄製品・石製模造品 1/2 石鏃・玉類 1/1

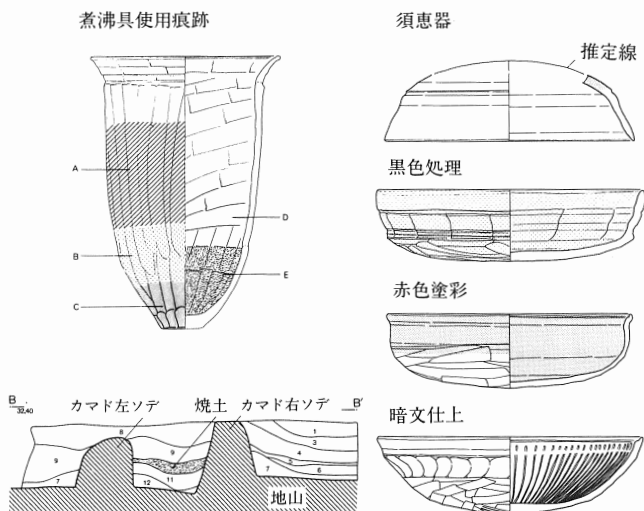
- ・図中におけるスクリーントーンは、下図のとおりである。

なお煮沸具使用痕跡の表記は以下のとおりとする。

- A 煤の付着。または黒色に変色した箇所。
- B 過熱によって生じた器面の変色（主に赤色）と器面の剥離
- C 粘土や砂等の付着物のこびりつき
- D 器面の変色や剥離（器面をリング状に全周する内容物の跡も含む。）
- E 付着物のこびりつきなどその他

2 土器観察表の記載は以下のとおりである。

- ・器種分類は、各時期の器種分類に従っている。
- ・法量の単位は、cmである。測定不可能な場合は—とした。容量は、蕎麦殻で測定した。
- ・残存度は、分数で表記した。
- ・手法の特徴・成形の順序は、各技法の抽出が可能な最小限度の記載に留めた。
- ・色調は、「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修）による。
- ・出土遺物には、調査時点の取り上げ番号と、報告書記載の挿図番号が記載されている。



目 次

序

例 言

凡 例

(第1分冊)

I 調査の概要	1
1 発掘調査に至るまでの経過	1
2 新屋敷東遺跡の調査経過	3
3 発掘調査の方法	5
II 遺跡の立地と環境	6
III 調査された遺構と遺物	14
1 縄文時代後・晩期の遺構と遺物	21
2 古墳時代第I期の遺構と遺物	77
3 古墳時代第II期の遺構と遺物	125
4 古墳時代第III期の遺構と遺物	175
5 古墳時代第IV期の遺構と遺物	243
6 古墳時代第V期の遺構と遺物	289

(第2分冊)

7 古墳時代第VI期の遺構と遺物	391
8 古墳時代第VII期の遺構と遺物	501
9 奈良・平安時代の遺構と遺物	567
10 中・近世の遺構と遺物	633
IV 自然科学的分析—土師器の胎土分析—	658
V 考察—古墳時代後期の北武蔵と新屋敷東遺跡—	667

写真図版

挿図目次

第1分冊

第1図	新屋敷東遺跡発掘調査作業分担図	3	第35図	第1(4)・2(1)号住居跡出土土器	39
第2図	埼玉県的地質と新屋敷東遺跡位置図	6	第36図	第2号住居跡出土土器(2)	40
第3図	新屋敷東遺跡と周辺の遺跡	8	第37図	第3号住居跡出土土器(1)	41
第4図	新屋敷東遺跡周辺に広がる条里地割	12	第38図	第3号住居跡出土土器(2)	42
第5図	新屋敷東遺跡遺構集中部割図	14	第39図	第4号住居跡出土土器(1)	45
第6図	遺構集中部拡大(1)	15	第40図	第4号住居跡出土土器(2)	46
第7図	遺構集中部拡大(2)	16	第41図	第4号住居跡出土土器(3)	47
第8図	遺構集中部拡大(3)	17	第42図	第4号住居跡出土土器(4)	48
第9図	遺構集中部拡大(4)	18	第43図	第4号住居跡出土土器(5)	49
第10図	遺構集中部拡大(5)	19	第44図	第5号住居跡出土土器(1)	50
第11図	遺構集中部拡大(6)	20	第45図	第5号住居跡出土土器(2)	51
〈縄文時代後・晩期〉					
第12図	縄文時代後・晩期の新屋敷東遺跡	21	第46図	第6号住居跡出土土器(1)	52
第13図	縄文時代後・晩期遺構全体図	22	第47図	第6号住居跡出土土器(2)	53
第14図	第1号住居跡	23	第48図	第6号住居跡出土土器(3)	54
第15図	位置図	24	第49図	第6号住居跡出土土器(4)	55
第16図	第2号住居跡	24	第50図	第6号住居跡出土土器(5)	56
第17図	位置図	25	第51図	土壇出土土器(1)	58
第18図	位置図	25	第52図	土壇出土土器(2)	59
第19図	位置図	25	第53図	土壇出土土器(3)	60
第20図	第3号住居跡	26	第54図	グリッド出土土器(1)	61
第21図	第4号住居跡	27	第55図	グリッド出土土器(2)	62
第22図	位置図	28	第56図	グリッド出土土器(3)	63
第23図	第5号住居跡	28	第57図	遺構内出土土器—石鏃・砥石—	66
第24図	第6号住居跡	29	第58図	遺構内出土土器—石斧・石棒等(1)—	67
第25図	位置図	30	第59図	遺構内出土土器—石斧・石棒等(2)—	68
第26図	位置図	30	第60図	遺構内出土土器—石皿・磨石等—	69
第27図	第7号住居跡	30	第61図	遺構外出土土器(1)	70
第28図	第8号住居跡	31	第62図	遺構外出土土器(2)	71
第29図	位置図	31	第63図	遺構外出土土器(3)	72
第30図	第6号住居跡遺物出土状態	32	第64図	土偶	74
第31図	土壇	34	第65図	土製品・石製品その他	75
第32図	第1号住居跡出土土器(1)	36	 		
第33図	第1号住居跡出土土器(2)	37	〈古墳時代第1期〉		
第34図	第1号住居跡出土土器(3)	38	第66図	古墳時代第1期の新屋敷東遺跡	77
			第67図	古墳時代第1期遺構全体図(1)	78
			第68図	古墳時代第1期遺構全体図(2)	79
			第69図	位置図	81

第70図	第9号住居跡……………81	〈古墳時代第Ⅱ期〉	
第71図	位置図……………82	第106図	古墳時代第Ⅱ期の新屋敷東遺跡……………125
第72図	第10号住居跡……………82	第107図	古墳時代第Ⅱ期遺構全体図(1)……………126
第73図	第11号住居跡……………83	第108図	古墳時代第Ⅱ期遺構全体図(2)……………127
第74図	位置図……………84	第109図	位置図……………129
第75図	位置図……………84	第110図	第19号住居跡……………129
第76図	位置図……………84	第111図	位置図……………130
第77図	第12号住居跡……………85	第112図	位置図……………130
第78図	位置図……………86	第113図	第20号住居跡……………130
第79図	第13号住居跡……………86	第114図	第21号住居跡……………131
第80図	位置図……………87	第115図	位置図……………132
第81図	第14号住居跡……………87	第116図	第22号住居跡……………132
第82図	第15号住居跡……………88	第117図	第23号住居跡……………133
第83図	位置図……………89	第118図	位置図……………134
第84図	第16(上)・17(下)号住居跡……………89	第119図	位置図……………134
第85図	位置図……………90	第120図	第24号住居跡……………135
第86図	位置図・第18号住居跡……………90	第121図	位置図……………135
第87図	第12号住居跡遺物出土状態……………92	第122図	第25号住居跡……………135
第88図	第13号住居跡遺物出土状態……………93	第123図	位置図……………135
第89図	第17号住居跡遺物出土状態……………94	第124図	第26・27号住居跡……………136
第90図	第18号住居跡遺物出土状態……………95	第125図	位置図……………137
第91図	第9・10・12号住居跡 カマド・遺物出土状態……………97	第126図	位置図……………137
第92図	第13号住居跡 カマド・遺物出土状態……………98	第127図	位置図……………137
第93図	第17号住居跡 カマド・遺物出土状態……………99	第128図	第28号住居跡……………138
第94図	古墳時代第Ⅰ期以前の出土土器……………100	第129図	第29号住居跡……………139
第95図	古墳時代第Ⅰ期の出土土器分類……………105	第130図	第19号住居跡遺物出土状態……………140
第96図	第9・10(1)号住居跡出土遺物……………106	第131図	第23号住居跡遺物出土状態……………141
第97図	第10(2)・11・12(1)号住居跡出土遺物……………107	第132図	第22号住居跡遺物出土状態……………142
第98図	第12(2)号住居跡出土遺物……………108	第133図	第19・21号住居跡 カマド・遺物出土状態……………143
第99図	第12(3)・13(1)号住居跡出土遺物……………109	第134図	第22・23号住居跡 カマド・遺物出土状態……………144
第100図	第13(2)・15(1)号住居跡出土遺物……………110	第135図	第29号住居跡 カマド・遺物出土状態……………145
第101図	第15(2)・16・17(1)号住居跡出土遺物……………111	第136図	古墳時代第Ⅱ期の出土土器分類……………149
第102図	第17(2)号住居跡出土遺物……………112	第137図	第19・20号住居跡出土遺物……………151
第103図	第18(1)号住居跡出土遺物……………113	第138図	第21・22(1)号住居跡出土遺物……………152
第104図	第18(2)号住居跡出土遺物……………114	第139図	第22(2)号住居跡出土遺物……………153
第105図	古墳時代第Ⅰ期の編物石……………124	第140図	第22(3)・23(1)号住居跡出土遺物……………154
		第141図	第23(2)号住居跡出土遺物……………155

第212図	古墳時代第Ⅲ期の編物石……………	242	第246図	第57(2)号住居跡出土遺物……………	276
	〈古墳時代第Ⅳ期〉		第247図	第58・59(1)号住居跡出土遺物……………	277
第213図	古墳時代第Ⅳ期の新屋敷東遺跡……………	243	第248図	第59(2)号住居跡出土遺物……………	278
第214図	古墳時代第Ⅳ期遺構全体図(1)……………	244	第249図	古墳時代第Ⅳ期の編物石……………	288
第215図	古墳時代第Ⅳ期遺構全体図(2)……………	245		〈古墳時代第Ⅴ期〉	
第216図	第51号住居跡……………	247	第250図	古墳時代第Ⅴ期の新屋敷東遺跡……………	289
第217図	位置図……………	248	第251図	古墳時代第Ⅴ期遺構全体図(1)……………	290
第218図	位置図……………	248	第252図	古墳時代第Ⅴ期遺構全体図(2)……………	291
第219図	第52号住居跡……………	249	第253図	位置図……………	293
第220図	位置図……………	249	第254図	第60号住居跡……………	293
第221図	第53号住居跡……………	250	第255図	第61号住居跡……………	294
第222図	位置図……………	250	第256図	位置図……………	295
第223図	第54号住居跡……………	251	第257図	位置図……………	295
第224図	位置図……………	252	第258図	位置図……………	295
第225図	位置図……………	252	第259図	第62号住居跡……………	296
第226図	位置図……………	252	第260図	第63号住居跡……………	297
第227図	第55号住居跡……………	252	第261図	位置図……………	298
第228図	第56号住居跡……………	253	第262図	位置図……………	298
第229図	第57号住居跡……………	254	第263図	位置図……………	298
第230図	位置図……………	255	第264図	第64・65号住居跡……………	299
第231図	位置図……………	255	第265図	第67号住居跡……………	300
第232図	第58号住居跡……………	256	第266図	第66号住居跡……………	301
第233図	第59号住居跡……………	257	第267図	位置図……………	302
第234図	第57号住居跡遺物出土状態……………	258	第268図	位置図……………	302
第235図	第51・52号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	260	第269図	位置図……………	302
第236図	第54・56号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	261	第270図	第69号住居跡……………	303
第237図	第57・58号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	262	第271図	位置図……………	303
第238図	第59号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	263	第272図	第70号住居跡……………	304
第239図	古墳時代第Ⅳ期の出土土器分類……………	269	第273図	位置図……………	305
第240図	第51号住居跡出土遺物……………	270	第274図	位置図……………	305
第241図	第52(1)号住居跡出土遺物……………	271	第275図	第71号住居跡……………	306
第242図	第52(2)・53・54(1)号住居跡出土遺物…	272	第276図	位置図……………	306
第243図	第54(2)・55(1)号住居跡出土遺物……………	273	第277図	第72号住居跡……………	307
第244図	第55(2)・56号住居跡出土遺物……………	274	第278図	第73・74号住居跡……………	308
第245図	第57(1)号住居跡出土遺物……………	275	第279図	位置図……………	309
			第280図	位置図……………	309
			第281図	位置図……………	309
			第282図	第75・76号住居跡……………	310
			第283図	第77号住居跡……………	311

第284図	第78号住居跡	312
第285図	位置図	313
第286図	位置図	313
第287図	位置図	313
第288図	第79号住居跡	313
第289図	第82号住居跡	314
第290図	位置図	315
第291図	位置図	315
第292図	位置図	316
第293図	位置図	316
第294図	位置図	316
第295図	第84・85号住居跡	317
第296図	位置図	317
第297図	第86号住居跡	318
第298図	第87号住居跡	319
第299図	位置図	319
第300図	第88号住居跡	320
第301図	位置図	320
第302図	第61号住居跡遺物出土状態	321
第303図	第69号住居跡遺物出土状態	322
第304図	第77号住居跡遺物出土状態	323
第305図	第82号住居跡遺物出土状態	324
第306図	第61号住居跡 カマド・遺物出土状態	326
第307図	第62・63・66号住居跡 カマド・遺物出土状態	327
第308図	第67号住居跡 カマド・遺物出土状態	328
第309図	第69・70・71号住居跡 カマド・遺物出土状態	329
第310図	第72・74号住居跡 カマド・遺物出土状態	331
第311図	第77号住居跡 カマド・遺物出土状態	333
第312図	第82・83号住居跡 カマド・遺物出土状態	334
第313図	第87・88号住居跡 カマド・遺物出土状態	335
第314図	古墳時代第Ⅴ期の出土土器分類	339
第315図	第60・61(1)号住居跡出土遺物	341

第316図	第61(2)号住居跡出土遺物	342
第317図	第61(3)号住居跡出土遺物	343
第318図	第61(4)・62・63・64・66号 住居跡出土遺物	344
第319図	第67(1)号住居跡出土遺物	345
第320図	第67(2)・68(1)号住居跡出土遺物	346
第321図	第68(2)・69号住居跡出土遺物	347
第322図	第70号住居跡出土遺物	348
第323図	第71号住居跡出土遺物	349
第324図	第72・73・74・75(1)号 住居跡出土遺物	350
第325図	第75(2)・76(1)号住居跡出土遺物	351
第326図	第76(2)・77・78・79号 住居跡出土遺物	352
第327図	第80・81(1)号住居跡出土遺物	353
第328図	第81(2)号住居跡出土遺物	354
第329図	第81(3)号住居跡出土遺物	355
第330図	第82(1)号住居跡出土遺物	356
第331図	第82(2)号住居跡出土遺物	357
第332図	第82(3)号住居跡出土遺物	358
第333図	第82(4)号住居跡出土遺物	359
第334図	第82(5)・83(1)号住居跡出土遺物	360
第335図	第83(2)・84・85・86・87号 住居跡出土遺物	361
第336図	古墳時代第Ⅴ期の編物石(1)	387
第337図	古墳時代第Ⅴ期の編物石(2)	388
第338図	古墳時代第Ⅴ期の編物石(3)	389

第2分冊

〈古墳時代第Ⅵ期〉

第339図	古墳時代第Ⅵ期の新屋敷東遺跡	391
第340図	古墳時代第Ⅵ期遺構全体図(1)	392
第341図	古墳時代第Ⅵ期遺構全体図(2)	393
第342図	位置図	395
第343図	位置図	395
第344図	位置図	395
第345図	第89号住居跡	396
第346図	第90号住居跡	397
第347図	位置図	398
第348図	第91号住居跡	398

第349図	第92号住居跡……………	399	第389図	第106号住居跡遺物出土状態……………	422
第350図	位置図……………	399	第390図	第111号住居跡遺物出土状態……………	423
第351図	第93・94・95・96号住居跡……………	400	第391図	第113号住居跡遺物出土状態……………	424
第352図	位置図……………	401	第392図	第90号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	426
第353図	位置図……………	401	第393図	第91号住居跡 カマド・遺物出土状態(1)……………	427
第354図	位置図……………	401	第394図	第91号住居跡 カマド・遺物出土状態(2)……………	428
第355図	第98号住居跡……………	402	第395図	第92号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	429
第356図	位置図……………	402	第396図	第95・96・98号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	430
第357図	第99・100号住居跡……………	403	第397図	第100号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	431
第358図	位置図……………	404	第398図	第101・103・104号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	432
第359図	位置図……………	404	第399図	第106・109・110号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	435
第360図	位置図……………	404	第400図	第111・112・114号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	436
第361図	第101号住居跡……………	405	第401図	第113号住居跡 カマド・遺物出土状態……………	439
第362図	位置図……………	405	第402図	古墳時代第Ⅵ期の出土土器分類……………	441
第363図	第102号住居跡……………	406	第403図	第89号住居跡出土遺物……………	444
第364図	第103号住居跡……………	407	第404図	第90(1)号住居跡出土遺物……………	445
第365図	位置図……………	407	第405図	第90(2)号住居跡出土遺物……………	446
第366図	位置図……………	408	第406図	第91(1)号住居跡出土遺物……………	447
第367図	第104号住居跡……………	408	第407図	第91(2)号住居跡出土遺物……………	448
第368図	位置図……………	408	第408図	第91(3)号住居跡出土遺物……………	449
第369図	第106号住居跡……………	409	第409図	第91(4)号住居跡出土遺物……………	450
第370図	第107号住居跡……………	410	第410図	第91(5)号住居跡出土遺物……………	451
第371図	位置図……………	410	第411図	第91(6)号住居跡出土遺物……………	452
第372図	位置図……………	411	第412図	第91(7)号住居跡出土遺物……………	453
第373図	位置図……………	411	第413図	第91(8)・92(1)号住居跡出土遺物……………	454
第374図	第109号住居跡……………	411	第414図	第92(2)・93号住居跡出土遺物……………	455
第375図	位置図……………	411	第415図	第94・95・96・97・98(1)号 住居跡出土遺物……………	456
第376図	第110号住居跡……………	412	第416図	第98(2)号住居跡出土遺物……………	457
第377図	位置図……………	412	第417図	第99・100(1)号住居跡出土遺物……………	458
第378図	第111・112号住居跡……………	413			
第379図	位置図……………	413			
第380図	第113号住居跡……………	414			
第381図	位置図……………	414			
第382図	第114号住居跡……………	415			
第383図	位置図……………	415			
第384図	第90号住居跡遺物出土状態……………	417			
第385図	第91号住居跡遺物出土状態(1)……………	418			
第386図	第91号住居跡遺物出土状態(2)……………	419			
第387図	第92号住居跡遺物出土状態……………	420			
第388図	第98号住居跡遺物出土状態……………	421			

第418図	第100(2)号住居跡出土遺物	459	第455図	位置図	513
第419図	第100(3)・101(1)号住居跡出土遺物	460	第456図	位置図	513
第420図	第101(2)・102・103(1)号 住居跡出土遺物	461	第457図	位置図	513
第421図	第103(2)号住居跡出土遺物	462	第458図	第124・125号住居跡	514
第422図	第104・105・106号住居跡出土遺物	463	第459図	第126号住居跡	515
第423図	第110(1)号住居跡出土遺物	464	第460図	位置図	515
第424図	第110(2)・111(1)号住居跡出土遺物	465	第461図	第1号掘立柱建物跡	516
第425図	第111(2)号住居跡出土遺物	466	第462図	位置図	516
第426図	第111(3)・112(1)号住居跡出土遺物	467	第463図	第2号掘立柱建物跡	517
第427図	第112(2)号住居跡出土遺物	468	第464図	位置図	518
第428図	第113(1)号住居跡出土遺物	469	第465図	位置図	518
第429図	第113(2)号住居跡出土遺物	470	第466図	第3号掘立柱建物跡	518
第430図	第113(3)・114号住居跡出土遺物	471	第467図	位置図	519
第431図	古墳時代第Ⅵ期の編物石(1)	494	第468図	第4号掘立柱建物跡	519
第432図	古墳時代第Ⅵ期の編物石(2)	495	第469図	位置図	520
第433図	古墳時代第Ⅵ期の編物石(3)	496	第470図	第5・6号掘立柱建物跡	520
第434図	古墳時代第Ⅵ期の編物石(4)	497	第471図	位置図	521
第435図	古墳時代第Ⅵ期の編物石(5)	498	第472図	第115号住居跡遺物出土状態	522
			第473図	第115・117号住居跡 カマド・遺物出土状態	523
	<古墳時代第Ⅶ期>		第474図	第118・119号住居跡 カマド・遺物出土状態	524
第436図	古墳時代第Ⅶ期の新屋敷東遺跡	501	第475図	第121・122・136号住居跡 カマド・遺物出土状態	525
第437図	古墳時代第Ⅶ期遺構全体図(1)	502	第476図	第123・126号住居跡 カマド・遺物出土状態	526
第438図	古墳時代第Ⅶ期遺構全体図(2)	503	第477図	位置図	527
第439図	位置図	505	第478図	位置図	527
第440図	第115号住居跡	505	第479図	位置図	527
第441図	第116号住居跡	506	第480図	第129号住居跡	528
第442図	位置図	506	第481図	第130号住居跡	528
第443図	位置図	506	第482図	位置図	529
第444図	第117号住居跡	507	第483図	位置図	529
第445図	位置図	507	第484図	位置図	529
第446図	第118号住居跡	508	第485図	第131・134号住居跡	529
第447図	位置図	508	第486図	位置図	530
第448図	第119号住居跡	509	第487図	位置図	530
第449図	第120号住居跡	510	第488図	位置図	530
第450図	位置図	510	第489図	位置図	531
第451図	位置図	510	第490図	位置図	531
第452図	第121・122号住居跡	511			
第453図	位置図	512			
第454図	第123号住居跡	512			

第491図	位置図	531	第525図	位置図	572
第492図	第135号住居跡	532	第526図	第145号住居跡	572
第493図	位置図	532	第527図	位置図	572
第494図	位置図	533	第528図	第146・147・148号住居跡	573
第495図	位置図	533	第529図	位置図	574
第496図	位置図	533	第530図	第149・150号住居跡	574
第497図	第142号住居跡	533	第531図	位置図	575
第498図	位置図	534	第532図	位置図	575
第499図	第142号住居跡 カマド・遺物出土状態	535	第533図	位置図	575
第500図	古墳時代第Ⅶ期の出土土器分類	537	第534図	第152号住居跡	576
第501図	第115(1)号住居跡出土遺物	539	第535図	位置図	576
第502図	第115(2)号住居跡出土遺物	540	第536図	第153号住居跡	577
第503図	第115(3)・116・117・118(1)号 住居跡出土遺物	541	第537図	位置図	577
第504図	第118(2)号住居跡出土遺物	542	第538図	第154・155号住居跡	578
第505図	第119号住居跡出土遺物	543	第539図	位置図	579
第506図	第120・121・123(1)号 住居跡出土遺物	544	第540図	第156号住居跡	579
第507図	第123(2)・124・125・126(1)号 住居跡出土遺物	545	第541図	第157号住居跡	580
第508図	第126(2)号住居跡出土遺物	546	第542図	位置図	581
第509図	土壌出土遺物	555	第543図	第158号住居跡	581
第510図	溝出土遺物	557	第544図	位置図	582
第511図	河川跡出土遺物(1)	559	第545図	第152号住居跡遺物出土状態	583
第512図	河川跡出土遺物(2)	560	第546図	第145・146・147号住居跡 カマド・遺物出土状態	585
第513図	河川跡出土遺物(3)	561	第547図	第148・150・152号住居跡 カマド・遺物出土状態	586
第514図	河川跡出土遺物(4)	562	第548図	第153・154・155・156・158号住居跡 カマド・遺物出土状態	587
第515図	古墳時代第Ⅶ期の編物石(1)	564	第549図	浅間山B軽石層確認範囲	589
第516図	古墳時代第Ⅶ期の編物石(2)	565	第550図	浅間山B軽石の影響範囲	589
〈奈良・平安時代〉			第551図	平安時代水田跡	590
第517図	奈良・平安時代の新屋敷東遺跡	567	第552図	奈良・平安時代の出土土器分類	593
第518図	奈良・平安時代の遺構全体図(1)	568	第553図	第145・146(1)号住居跡出土遺物	594
第519図	北武蔵の噴砂を確認した遺跡	569	第554図	第146(2)・147・148(1)号 住居跡出土遺物	595
第520図	奈良・平安時代の遺構全体図(2)	570	第555図	第148(2)・149・150・151(1)号 住居跡出土遺物	596
第521図	奈良・平安時代の遺構全体図(3)	570	第556図	第152(1)号住居跡出土遺物	597
第522図	位置図	571	第557図	第152(2)・155号住居跡出土遺物	598
第523図	位置図	571	第558図	第153・156・24・157号 住居跡出土遺物	599
第524図	位置図	571			

第9表	第12号住居跡出土土器②	117	第49表	第31号住居跡出土土器①	227
第10表	第12号住居跡出土土器③	118	第50表	第31号住居跡出土土器②	228
第11表	第13号住居跡出土土器①	118	第51表	第31号住居跡出土土器③	229
第12表	第13号住居跡出土土器②	119	第52表	第31号住居跡出土土器④	230
第13表	第15号住居跡出土土器①	119	第53表	第32号住居跡出土土器	230
第14表	第15号住居跡出土土器②	120	第54表	第33号住居跡出土土器①	231
第15表	第16号住居跡出土土器	120	第55表	第33号住居跡出土土器②	232
第16表	第17号住居跡出土土器①	120	第56表	第34号住居跡出土土器	232
第17表	第17号住居跡出土土器②	121	第57表	第35号住居跡出土土器	232
第18表	第18号住居跡出土土器①	121	第58表	第36号住居跡出土土器①	232
第19表	第18号住居跡出土土器②	122	第59表	第36号住居跡出土土器②	233
第20表	第18号住居跡出土土器③	123	第60表	第36号住居跡出土土器③	234
第21表	古墳時代第Ⅰ期の編物石	124	第61表	第37号住居跡出土土器	234
第22表	古墳時代第Ⅱ期住居跡一覧	128	第62表	第38号住居跡出土土器①	235
第23表	第19号住居跡出土土器①	161	第63表	第38号住居跡出土土器②	236
第24表	第19号住居跡出土土器②	162	第64表	第38号住居跡出土土器③	237
第25表	第20号住居跡出土土器	162	第65表	第39号住居跡出土土器	237
第26表	第21号住居跡出土土器	163	第66表	第40号住居跡出土土器	237
第27表	第22号住居跡出土土器①	163	第67表	第41号住居跡出土土器	238
第28表	第22号住居跡出土土器②	164	第68表	第42号住居跡出土土器	238
第29表	第22号住居跡出土土器③	165	第69表	第43号住居跡出土土器①	238
第30表	第22号住居跡出土土器④	166	第70表	第43号住居跡出土土器②	239
第31表	第22号住居跡出土土器⑤	167	第71表	第44号住居跡出土土器①	239
第32表	第23号住居跡出土土器①	167	第72表	第44号住居跡出土土器②	240
第33表	第23号住居跡出土土器②	168	第73表	第45号住居跡出土土器	240
第34表	第23号住居跡出土土器③	169	第74表	第47号住居跡出土土器	241
第35表	第24号住居跡出土土器	169	第75表	第50号住居跡出土土器	241
第36表	第25号住居跡出土土器①	169	第76表	古墳時代第Ⅲ期の編物石	242
第37表	第25号住居跡出土土器②	170	第77表	古墳時代第Ⅳ期住居跡一覧	246
第38表	第26号住居跡出土土器	170	第78表	第51号住居跡出土土器①	279
第39表	第27号住居跡出土土器①	170	第79表	第51号住居跡出土土器②	280
第40表	第27号住居跡出土土器②	171	第80表	第52号住居跡出土土器①	280
第41表	第27号住居跡出土土器③	172	第81表	第52号住居跡出土土器②	281
第42表	第28号住居跡出土土器①	172	第82表	第53号住居跡出土土器	281
第43表	第28号住居跡出土土器②	173	第83表	第54号住居跡出土土器①	281
第44表	第29号住居跡出土土器	173	第84表	第54号住居跡出土土器②	282
第45表	古墳時代第Ⅱ期の編物石	174	第85表	第55号住居跡出土土器①	282
第46表	古墳時代第Ⅲ期住居跡一覧	178	第86表	第55号住居跡出土土器②	283
第47表	第30号住居跡出土土器①	226	第87表	第56号住居跡出土土器①	283
第48表	第30号住居跡出土土器②	227	第88表	第56号住居跡出土土器②	284

第89表	第56号住居跡出土土器③	284	第129表	第79号住居跡出土土器	376
第90表	第57号住居跡出土土器	285	第130表	第80号住居跡出土土器	376
第91表	第58号住居跡出土土器①	285	第131表	第81号住居跡出土土器①	376
第92表	第58号住居跡出土土器②	286	第132表	第81号住居跡出土土器②	377
第93表	第59号住居跡出土土器①	286	第133表	第81号住居跡出土土器③	378
第94表	第59号住居跡出土土器②	287	第134表	第81号住居跡出土土器④	379
第95表	古墳時代第Ⅳ期の編物石	287	第135表	第82号住居跡出土土器①	379
第96表	古墳時代第Ⅴ期住居跡一覽	292	第136表	第82号住居跡出土土器②	380
第97表	第60号住居跡出土土器	362	第137表	第82号住居跡出土土器③	381
第98表	第61号住居跡出土土器①	362	第138表	第82号住居跡出土土器④	382
第99表	第61号住居跡出土土器②	363	第139表	第82号住居跡出土土器⑤	383
第100表	第61号住居跡出土土器③	364	第140表	第82号住居跡出土土器⑥	384
第101表	第61号住居跡出土土器④	365	第141表	第83号住居跡出土土器	384
第102表	第62号住居跡出土土器	365	第142表	第85号住居跡出土土器	384
第103表	第63号住居跡出土土器①	365	第143表	第84号住居跡出土土器	385
第104表	第63号住居跡出土土器②	366	第144表	第86号住居跡出土土器	385
第105表	第64号住居跡出土土器	366	第145表	第87号住居跡出土土器①	385
第106表	第66号住居跡出土土器	366	第146表	第87号住居跡出土土器②	386
第107表	第67号住居跡出土土器①	366	第147表	古墳時代第Ⅴ期の編物石	390
第108表	第67号住居跡出土土器②	367	第148表	古墳時代第Ⅵ期住居跡一覽	394
第109表	第68号住居跡出土土器①	367	第149表	第89号住居跡出土土器①	471
第110表	第68号住居跡出土土器②	368	第150表	第89号住居跡出土土器②	472
第111表	第69号住居跡出土土器①	368	第151表	第90号住居跡出土土器①	472
第112表	第69号住居跡出土土器②	369	第152表	第90号住居跡出土土器②	473
第113表	第70号住居跡出土土器①	369	第153表	第90号住居跡出土土器③	474
第114表	第70号住居跡出土土器②	370	第154表	第91号住居跡出土土器①	474
第115表	第71号住居跡出土土器①	370	第155表	第91号住居跡出土土器②	475
第116表	第71号住居跡出土土器②	371	第156表	第91号住居跡出土土器③	476
第117表	第71号住居跡出土土器③	372	第157表	第91号住居跡出土土器④	477
第118表	第72号住居跡出土土器	372	第158表	第92号住居跡出土土器①	477
第119表	第73号住居跡出土土器	372	第159表	第92号住居跡出土土器②	478
第120表	第74号住居跡出土土器①	372	第160表	第93号住居跡出土土器	478
第121表	第74号住居跡出土土器②	373	第161表	第94号住居跡出土土器	478
第122表	第75号住居跡出土土器①	373	第162表	第95号住居跡出土土器	478
第123表	第75号住居跡出土土器②	374	第163表	第96号住居跡出土土器	479
第124表	第76号住居跡出土土器①	374	第164表	第97号住居跡出土土器①	479
第125表	第76号住居跡出土土器②	375	第165表	第97号住居跡出土土器②	480
第126表	第77号住居跡出土土器	375	第166表	第98号住居跡出土土器	480
第127表	第78号住居跡出土土器①	375	第167表	第99号住居跡出土土器	481
第128表	第78号住居跡出土土器②	376	第168表	第100号住居跡出土土器①	481

第169表	第100号住居跡出土土器②	482	第209表	第125号住居跡出土土器	552
第170表	第100号住居跡出土土器③	483	第210表	第126号住居跡出土土器	553
第171表	第101号住居跡出土土器①	483	第211表	土壇出土土器	556
第172表	第101号住居跡出土土器②	484	第212表	第14号溝跡出土土器	558
第173表	第102号住居跡出土土器	484	第213表	河川跡出土土器①	558
第174表	第103号住居跡出土土器①	484	第214表	河川跡出土土器②	562
第175表	第103号住居跡出土土器②	485	第215表	河川跡出土土器③	563
第176表	第103号住居跡出土土器③	486	第216表	古墳時代第Ⅶ期の編物石	565
第177表	第104号住居跡出土土器	486	第217表	北武蔵の在地産暗文土器の系列	566
第178表	第105号住居跡出土土器	486	第218表	奈良・平安時代住居跡一覧	570
第179表	第106号住居跡出土土器①	486	第219表	第145号住居跡出土土器	601
第180表	第106号住居跡出土土器②	487	第220表	第146号住居跡出土土器	601
第181表	第110号住居跡出土土器①	487	第221表	第147号住居跡出土土器	602
第182表	第110号住居跡出土土器②	488	第222表	第148号住居跡出土土器	602
第183表	第111号住居跡出土土器①	488	第223表	第149号住居跡出土土器①	602
第184表	第111号住居跡出土土器②	489	第224表	第149号住居跡出土土器②	603
第185表	第111号住居跡出土土器③	490	第225表	第150号住居跡出土土器	603
第186表	第112号住居跡出土土器①	490	第226表	第151号住居跡出土土器	603
第187表	第112号住居跡出土土器②	491	第227表	第152号住居跡出土土器①	603
第188表	第113号住居跡出土土器①	492	第228表	第152号住居跡出土土器②	604
第189表	第113号住居跡出土土器②	493	第229表	第153号住居跡出土土器	604
第190表	第114号住居跡出土土器	493	第230表	第155号住居跡出土土器	605
第191表	古墳時代第Ⅵ期の編物石①	499	第231表	第156号住居跡出土土器①	605
第192表	古墳時代第Ⅵ期の編物石②	500	第232表	第156号住居跡出土土器②	606
第193表	古墳時代第Ⅶ期住居跡一覧	504	第233表	第157号住居跡出土土器	606
第194表	そのほかの古墳時代住居跡一覧	536	第234表	第24号住居跡出土土器	606
第195表	第115号住居跡出土土器①	546	第235表	第158号住居跡出土土器①	606
第196表	第115号住居跡出土土器②	547	第236表	第158号住居跡出土土器②	607
第197表	第116号住居跡出土土器	547	第237表	第84号住居跡出土土器(上層)	607
第198表	第117号住居跡出土土器	548	第238表	土壇出土土器①	609
第199表	第118号住居跡出土土器①	548	第239表	土壇出土土器②	611
第200表	第118号住居跡出土土器②	549	第240表	溝出土土器①	611
第201表	第119号住居跡出土土器①	549	第241表	溝出土土器②	614
第202表	第119号住居跡出土土器②	550	第242表	奈良・平安時代の編物石	617
第203表	第120号住居跡出土土器	550	第243表	グリッド・表土層中出土の編物石	617
第204表	第121号住居跡出土土器①	550	第244表	土錘計測表	632
第205表	第121号住居跡出土土器②	551	第245表	板石塔婆一覧	656
第206表	第123号住居跡出土土器①	551	第246表	胎土性状表	659
第207表	第123号住居跡出土土器②	552	第247表	北武蔵の集落のピーク	668
第208表	第124号住居跡出土土器	552	第248表	新屋敷東遺跡と各遺跡の併行関係①	674

第249表	新屋敷東遺跡と各遺跡の併行関係②	675	第254表	有段口縁坏と比企型坏	685
第250表	古墳時代後期の窯業	676	第255表	内斜口縁坏と須恵器の伴出関係	685
第251表	埴輪生産の指数累積	680	第256表	在地産須恵器と北島型暗文土器 の共伴関係	686
第252表	6・7世紀の関東地方北西部の 食膳具	684	第257表	有段口縁坏と須恵器の共伴関係	686
第253表	北島型暗文土器と有段口縁坏	684			

図 版 目 次

図版 1	調査区全体空中写真①他	図版31	出土土器(9)
図版 2	調査区全体空中写真②他	図版32	出土土器(10)
図版 3	第1号住居跡他	図版33	出土土器(11)
図版 4	第5号住居跡他	図版34	出土土器(12)
図版 5	第13号住居跡玉類出土状態他	図版35	出土土器(13)
図版 6	第20号住居跡他	図版36	出土土器(14)
図版 7	第23号住居跡カマド他	図版37	出土土器(15)
図版 8	第31号住居跡遺物出土状態他	図版38	出土土器(16)
図版 9	第38号住居跡カマド他	図版39	出土土器(17)
図版10	第51号住居跡他	図版40	出土土器(18)
図版11	第61号住居跡他	図版41	出土土器(19)
図版12	第66号住居跡他	図版42	出土土器(20)
図版13	第74号住居跡カマド他	図版43	出土土器(21)
図版14	第90号住居跡他	図版44	出土土器(22)
図版15	第95号住居跡カマド他	図版45	出土土器(23)
図版16	第100号住居跡カマド他	図版46	出土土器(24)
図版17	第114号住居跡カマド他	図版47	出土土器(25)
図版18	第123号住居跡他	図版48	出土土器(26)
図版19	第148号住居跡他	図版49	出土土器(27)
図版20	噴砂状態他	図版50	出土土器(28)
図版21	河川跡他	図版51	出土土器(29)
図版22	遺跡近景①他	図版52	出土土器(30)
図版23	出土土器(1)	図版53	出土土器(31)
図版24	出土土器(2)	図版54	出土土器(32)
図版25	出土土器(3)	図版55	出土土器(33)
図版26	出土土器(4)	図版56	出土土器(34)
図版27	出土土器(5)	図版57	出土土器(35)
図版28	出土土器(6)	図版58	出土土器(36)
図版29	出土土器(7)	図版59	出土土器(37)
図版30	出土土器(8)	図版60	出土土器(38)

- | | | | |
|------|----------|-------|-------------------------|
| 図版61 | 出土土器(39) | 図版82 | 出土土器(60) |
| 図版62 | 出土土器(40) | 図版83 | 出土土器(61) |
| 図版63 | 出土土器(41) | 図版84 | 出土土器(62) |
| 図版64 | 出土土器(42) | 図版85 | 出土土器(63) |
| 図版65 | 出土土器(43) | 図版86 | 土偶・土製品・耳飾り |
| 図版66 | 出土土器(44) | 図版87 | 石鏃・玉・砥石・石器(1) |
| 図版67 | 出土土器(45) | 図版88 | 石器(2) |
| 図版68 | 出土土器(46) | 図版89 | 石器(3) |
| 図版69 | 出土土器(47) | 図版90 | 土製支脚・石製模造品削り屑(右)・焼土塊(左) |
| 図版70 | 出土土器(48) | 図版91 | 玉類 |
| 図版71 | 出土土器(49) | 図版92 | 紡錘車・滑石製模造品類 |
| 図版72 | 出土土器(50) | 図版93 | 滑石製模造品・土師器未製品 |
| 図版73 | 出土土器(51) | 図版94 | 土錘 |
| 図版74 | 出土土器(52) | 図版95 | 鉄製品・砥石 |
| 図版75 | 出土土器(53) | 図版96 | 常滑焼大甕・在地産軟質土器・古銭 |
| 図版76 | 出土土器(54) | 図版97 | 陶磁器・石製品 |
| 図版77 | 出土土器(55) | 図版98 | 板碑 |
| 図版78 | 出土土器(56) | 図版99 | 編物石(1) |
| 図版79 | 出土土器(57) | 図版100 | 編物石(2) |
| 図版80 | 出土土器(58) | 図版101 | 編物石(3) 他 |
| 図版81 | 出土土器(59) | | |

※ 遺物写真のキャプションは遺構名、挿図番号、番号の順で記さいしている。

I 調査の概要

1 発掘調査に至るまでの経過

一般国道17号は、東京から新潟に至る幹線道路で、増大する交通量に対処するため、建設省では昭和37年以来、各種バイパスを建設している。深谷バイパスもその一環として計画された。

埼玉県教育委員会では、この事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、昭和45年に国庫補助を得て分布調査を実施してきた。

昭和46年、深谷バイパスの計画にあたり、建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所調査課長から文化財保護室長（当時）あて、昭和46年11月25日付け大国調第146号をもって、「一般国道16号線の東大宮バイパス、西大宮バイパスおよび一般国道17号線の熊谷バイパス、深谷バイパス、上武バイパスの建設予定地内における埋蔵文化財の所在について（依頼）」があり、分布調査の結果とを照合し、深谷バイパス線路上に数箇所の遺跡が確認されているため、即日、教文第854号をもって埋蔵文化財が所在する旨回答した。

昭和48年7月30日付け大国調151号をもって、調査費用等について協議があり、調査機関、時期、経費の明細等については改めて協議するよう回答した。昭和55年財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が設立され、実施機関は事業団とし、昭和55年10月、新ヶ谷戸遺跡から発掘調査は開始された。これについては昭和57年3月に報告書が刊行された。

工事区間の延長にともなって、昭和57年12月16日付け大国調第167号をもって、大宮国道工事事務所長から県教育長あて、「一般国道17号深谷バイパス改良工事に伴う埋蔵文化財の所在について（照会）」があり、昭和58年11月8日付け教文第755号をもって、上敷免遺跡ほか4遺跡が所在する旨回答した。また、これにともない、昭和59年3月14日付け大国調第27号で発掘調査について協議があり、昭和59年3月16日付け教文第1163号で、発掘調査は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に依頼して実施するのが適当と思われる旨回答した。これらの遺跡の調査は、昭和59年4月から実施された。

さらに、工事区間が岡部町方面に延長するにともない、その区間の埋蔵文化財の所在について、昭和60年10月9日付け大国調第147号で照会があり、昭和60年10月21日付け教文第699号をもって四十坂下遺跡のほか2遺跡が所在する旨回答した。これについては、埋蔵文化財包蔵地の範囲を明確にするため予備調査を実施し、実施については文化財保護課と協議して欲しい旨付け加えた。

この回答をもとに、大宮国道工事事務所長から県教育長あて、昭和62年3月3日付け大国調第17号をもって「一般国道17号（深谷バイパス）改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査について（協議）」があり、昭和62年3月23日付け教文第1127号で、その後新たに発見された明戸上敷免遺跡を加え、先に回答をした四十坂下遺跡、矢島遺跡、戸森遺跡の4遺跡が発掘調査を実施する必要がある、実施機関を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団にする旨の回答をした。これらの遺跡は昭和62年4月から発掘調査が開始された。（文化財保護課）

発掘調査の組織

1 発掘調査（昭和60・61・62年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 長井 五郎
 副 理 事 長 岩田 明(60・61年度)
 " 百瀬 陽二(62年度)
 常務理事兼管理部長 町田 勝義(60・61年度)
 常務理事兼
 調査研究部長 早川 智明(62年度)

庶務経理

管 理 部 長 原田 家次(62年度)
 主 査 関野 栄一
 主 事 江田 和美
 " 岡野美智子
 " 福田 浩
 " 本庄 朗人

発掘調査

調査研究部 部長 中島 利治(60・61年度)
 調査研究部 副部長 小川 良祐(60・61年度)
 " 塩野 博(62年度)
 調査研究部 第一課長 今泉 泰之
 主 任 調 査 員 小野 義信(60年度)
 " 中村 倉司(61年度)
 調 査 員 濱野 一重(60年度)
 " 橋本 勉(61年度)
 " 磯崎 一(60・61年度)
 " 劔持 和夫(62年度)
 " 立石 盛詞(60年度)
 " 宮井 英一(60・61年度)
 " 栗島 義明(60年度)
 " 岩瀬 讓(60・61年度)
 " 関 義則(61年度)
 " 田中 広明(60・61年度)
 " 奥野 麦生(61年度)

2 整理事業（平成元・2・3年度）

主体者（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 荒井 修二
 副 理 事 長 百瀬 陽二(元年度)
 " 早川 智明(2・3年度)
 常務理事兼管理部長 古市 芳之(元・2年度)
 常務理事兼管理部長 倉持 悦夫(3年度)
 理事兼調査研究部長 吉川 國男(元年度)

庶務経理（平成元年度）

管 理 課 長 関野 栄一
 主 事 江田 和美
 " 岡野美智子
 " 本庄 朗人
 " 斉藤 勝秀

庶務経理（平成2・3年度）

庶 務 課 長 高田 弘義
 主 査 松本 晋
 主 事 長滝美智子
 経 理 課 長 関野 栄一
 主 任 江田 和美
 主 事 本庄 朗人(2年度)
 " 斉藤 勝秀(2年度)
 " 福田 昭美(3年度)
 " 腰塚 雄二(3年度)
 " 菊池 久

整 理（平成元年度）

調査研究部 副部長 塩野 博
 調査研究部 第五課長 今泉 泰之
 調 査 員 田中 広明

整 理（平成2・3年度）

資 料 部 長 栗原 文蔵(2年度)
 " 中島 利治(3年度)
 資料部 副部長兼
 資料整理 第一課長 増田 逸朗
 資料整理 第二課長 石岡 憲雄
 調 査 員 田中 広明

2 新屋敷東遺跡の調査経過

一般国道17号深谷バイパス建設予定地内に所在する14の遺跡のうち、新屋敷東遺跡の発掘調査は、昭和60年4月から昭和63年8月にかけて行なわれた。途中工事の関係や仮設事務所の移転などから、断続的な調査となった部分もあるが、足掛け三年に亘る発掘調査となった。またこれに先立ち昭和59年4月からバイパス予定地内の事前調査（試掘調査）が行なわれ、ある程度の遺構・遺物の包蔵量が推定されている。とくに明戸地区は、遺構が不鮮明ながら、遺物が多量に確認され、大規模な集落跡があることが予想された。

遺跡が、自然堤防上、とくに周辺の低地の埋没が激しいことと、畠の土取りの激しいことから、現在では旧状を留めておらず、旧来から行なわれてきた遺跡の線引は、困難な状況にある。そのため発掘調査は、便宜的に現在バイパス予定地内を走る道路・水路等によって、作業分担を決めた。ここに報告する遺跡も同様で、当初、C区とB区とした区域に当たる。その後字名からC区は、新屋敷東遺跡、B区は、本郷前東遺跡として調査が進められた。さらに整理事業が進むにつれ、この両遺跡は、本来一つの集落跡の遺跡であったことが明らかになった。そのため報告に当たっては、新屋敷東遺跡として統一して報告することとした。これは沖積地の遺跡の認証が、いかに難しいかを示していよう。

以下年度ごとに調査の概要を記す。

昭和60年4月 バイパス本線上り車線に仮設事務所を設置し、調査の体制を整える。

5月 新田裏遺跡との境目、調査区東側から重機により、無遺物層を除去する。

6月 調査区東側から遺構確認。後、遺構の調査に入る。雨が多い。

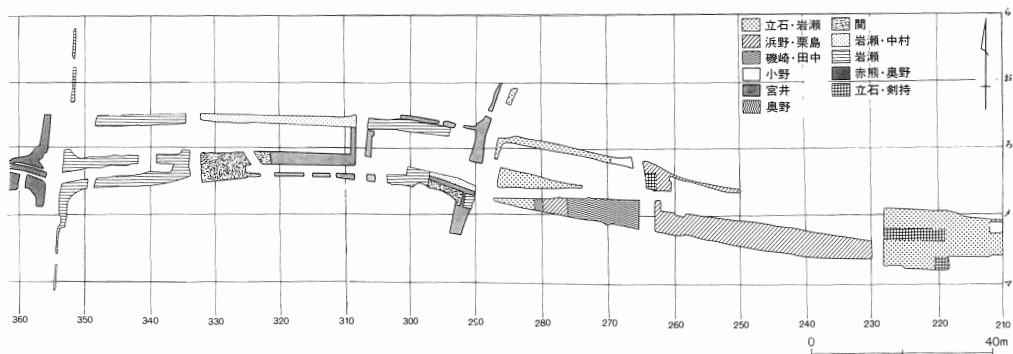
7月 第1・2号堀の調査を進める。湧水激しく、調査に支障をきたす。

8月 井戸・平安時代の住居跡群の調査をすすめる。台風で一夜にして水没。水引かず。

9月 溝・住居跡の調査が引き続き行なわれる。用水の水が容赦なく調査区へ入る。

10月 東側部分の遺構実測・写真撮影をすすめる。中央部分の遺構確認。住居跡多数。

11月 狭い区域で住居跡を100軒近く確認。調査員を3名増員。C-2区とする。



第1図 新屋敷東遺跡発掘調査作業分担図

第1表 調査工程表

遺跡名		年度					担当者
		59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	
旧 新							
子備調査 (原～上敷免)							坂野・磯崎
明戸・上敷免遺跡	G区	原遺跡					坂野・磯崎
	F区	明戸東遺跡 F区					大和・中村 坂野・磯崎 磯崎・田中(広) 田中(広)
	E区	明戸東遺跡 E区					宮井 田中(広)
	D区	新田裏東遺跡					立石・岩瀬 劔持・立石
	C区	新屋敷 東遺跡					浜野(一)・栗島 立石・岩瀬 小野・田中(広)・磯崎 劔持
	B区	本郷前 東遺跡					宮井 宮井・江口・橋本・関・岩瀬 中村・岩瀬
	A区	上敷免遺跡					立石・岩瀬 62 {瀧瀬・岩本 金子・西口 61 {赤熊・奥野・瀧瀬 磯崎・田中(広)・栗島・岩瀬
予備調査 (森下～原ヶ谷戸)							磯崎
戸森遺跡	高畑遺跡・ 戸森遺跡	森下遺跡 戸森松原遺跡					木戸・岩瀬・宮井・江口・橋本 61劔持・西口62劔持・高崎
	深谷イン ター遺跡	起会遺跡					劔持・関 木戸・田中(広) 磯崎・宮 劔持・高崎
	矢島南 遺跡	矢島遺跡 矢島南遺跡					劔持・高崎 磯崎・宮 金子・西口
四十坂下遺跡	善濟寺遺跡	樋詰遺跡					井上・吉田
	岡遺跡	砂田前遺跡					62 {岩瀬・山本(禎)63岩瀬・栗島 瀧瀬・山本(靖) 井上・吉田
	岡西遺跡	滝下遺跡					61井上・関62山本(禎)・岩瀬
	四十坂下遺跡	原ヶ谷戸遺跡					61 {関・吉田 山本(禎)・吉田 62井上・吉田

12月 遺構の重複が激しく、調査は難行。北区とした部分では、平安時代の水田跡確認。

昭和61年1月 C-2区の東側では、縄文時代後晩期の住居跡を調査。覆土が固く、瓦のように凍る。

2月 さらに調査員4名増員し、B区の調査に着手する。B区も遺構の重複が激しい。

3月 覆土と地山が、乾燥と凍土で判別が難行。7人の調査員が、新屋敷東遺跡に集結する。
4月 年度が改まり、調査員も新たに編成され、激しい遺構の重複に挑む。
5月 最も遺構の重複の激しい部分の発掘調査を完了する。用水に水が来るのも間近。
6月 C区は全ての写真撮影・空撮が終り、B区を残すのみとなる。
7月 B区の重複遺構の調査を完了する。湧水と水田の用水が激しく、河川跡の調査は困難。
8月 工事計画の変更にともない、B区の補償道路部分が新しく調査される。
9月 B区の調査も完了し、一応の成果を上げる。台風来る。調査区水没。
昭和62年8月 工事計画の変更に伴い、C区の仮設事務所部分の調査を行なう。住居跡1軒。
夏は、激しい湧き水と水田の用水の溢れ水、冬は、いてつく凍土とからっ風に悩まされながらも、補助員の献身的な努力によって、事故無く調査が終了できた。

3 発掘調査の方法

発掘調査は、一般国道17号深谷バイパスにかかる本線下り車線及び北側補償道路部分に限り、対象調査区となった。そのため路線の中央部分は、調査対象外ということになり、現状のまま保存されている。

また調査区域内に、水田等の用排水路や道路・構造物がある場合は、遺構の性格等を考慮し、できるかぎり関係部分について、調査区の拡張の処置を講じた。

グリッドの設定方法は、平面直角座標第IX系に基づき、イー1グリッドが、 $X = +22, 294.0\text{m}$
 $Y = -45, 522.0\text{m}$ にあたる。これより $6 \times 6\text{m}$ グリッドで、北へイ・ロ・ハ…、西へ1・2・3…の順にグリッドを設定した。南東の隅の杭を用い、この $6 \times 6\text{m}$ の範囲を示すこととした。

また30mおきに太杭を用い、標準視準高とした。

遺構の実測は、グリッド杭を基準に、地山に1m間隔の方眼を水糸で作り、簡易遣り方によって実測を行なった。湧き水が激しいため、空中写真測量は、全く意味がなく行なわなかった。ただし空中写真撮影は、適宜行なっている。

Ⅱ 遺跡の立地と環境

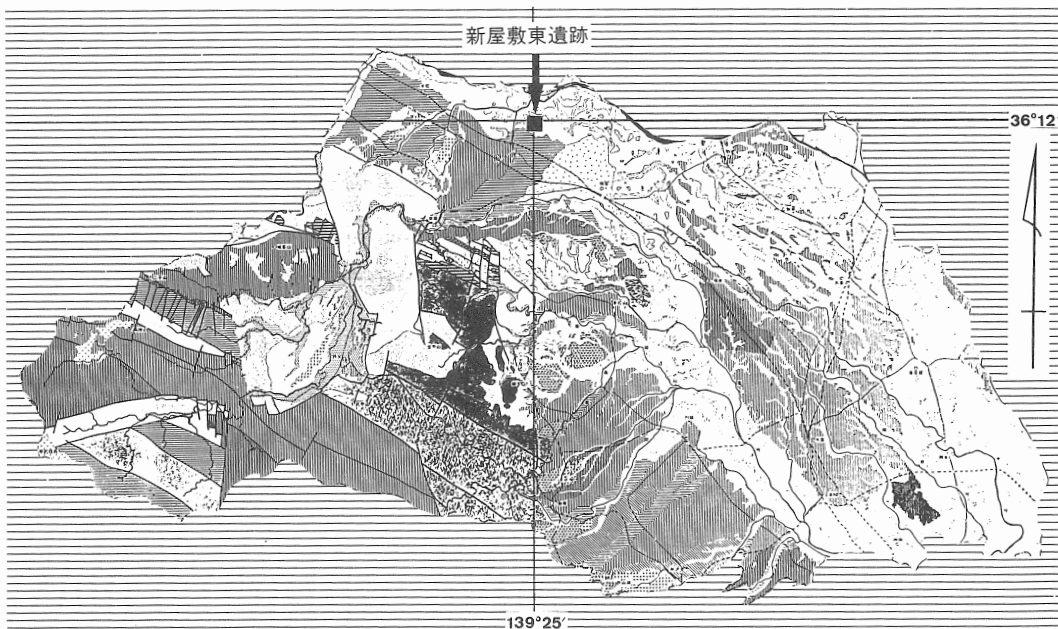
新屋敷東遺跡は、深谷市明戸字駒埴前744-2番地他に位置する。縄文時代後期から古墳・奈良・平安時代そして中・近世に至る複合遺跡である。

遺跡は、北緯 $36^{\circ}12'$ 東経 $139^{\circ}25'$ に位置する。ちなみに現在の気候は、冬は北西の季節風が強く、夏は湿度が高く暑い。三方は、遥かに山を臨み、南に開ける関東平野の中央に位置する。やや盆地性の気候である。初冬から晩春にかけては、土埃を巻き上げ「からっかぜ」が吹く。雪は、ほとんど降らない。初夏には、しばしば空梅雨となり、秋には、大きな台風が時折来る。

現在では、治水がしっかりしているため、洪水はほとんどみられない。しかし大正14年には、大洪水が起こり、本遺跡を含めた妻沼低地のほとんどが、水のなかに消えたこともあった。新屋敷東遺跡が形成された当時は、常にこの洪水と、極寒・猛暑との戦いであったはずである。発掘調査では、奇しくもこの三つを経験することとなった。

遺跡の周辺は、現状ではほとんど水田である。しかし明治時代までは、「畠七分に田が三分」と呼ばれたように、圧倒的に畠地が多かったという。ところがこの地も、文明開花の波に乗り、明治経済界の立役者渋沢栄一の経営するレンガ工場が、深谷市明戸の小山川沿いに造られる。するとその原料として、畠に利用されていた微高地の粘土が、ところかまわずレンガ工場に売られることとなる。

さらに大正以降、とくに昭和に入って豪農の屋敷から、住宅の建替を契機に瓦葺とするものが増



第2図 埼玉県の地質と新屋敷東遺跡位置図

え、明戸地区は、瓦産業が勃興する。昭和初期には、子供も粘土をこねる作業に参加したという。昭和30～40年代が、盛期だった。この瓦作りにより、良質の粘土を含んだ畠の土は売られ、微高地をさらに低くしたという。

昭和50年代のオイルショックを境に、瓦産業は、燃料の高騰や物不足、さらに安いコストの参州瓦が、関東に参入してきたことで、マニファクチュア的経営が行き詰った。ところが微高地の開発は、ここでストップすることはなかった。政府の景気てこ入れ策は、圃場整備事業や道路・橋脚などの公共投資として地方に波及し、新屋敷東遺跡周辺の自然堤防をさらに細める結果となった。

現在では、後継者問題等の水田経営の抜本的な行き詰りが、商品作物である長葱「深谷葱」を栽培させ、収穫期には、独特の香りを生むまでになっている。

この自然堤防は、以下の地形的な条件の下で形成されたと考えられる。

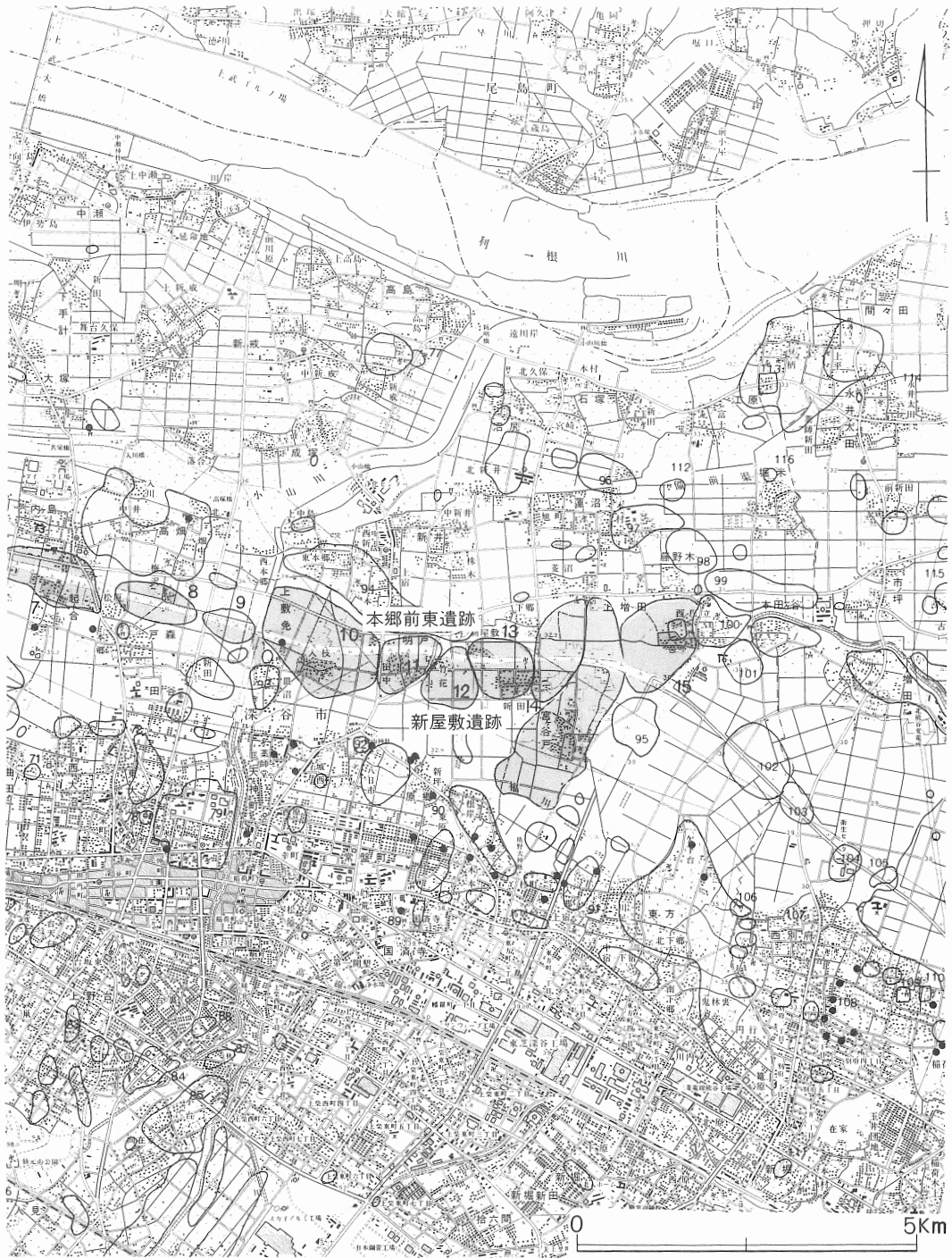
新屋敷東遺跡周辺の地形は、南側の櫛挽台地と北側の妻沼低地からなる。二つは、東西に走る深谷断層によって明瞭な崖線で区分され、その比高は、5～10mにも及ぶ。この崖線にそって、小山川の支流である福川が流れている。

1 岡遺跡	23 古川端遺跡	47 今泉館跡	71 桜田馬場跡	95 東川端遺跡
2 原ヶ谷戸遺跡	24 大寄B遺跡	48 岡部町No.82古墳	72 大沼弾正館跡	96 ウツギ内遺跡
3 滝下遺跡	25 大寄A遺跡	49 本郷陣屋跡	73 内ヶ島氏館跡	97 砂田遺跡
4 砂田前遺跡	26 西浦北遺跡	50 百間堀館跡	74 陣屋跡	98 柳町遺跡
5 樋詰遺跡	27 稲荷塚遺跡	51 新井館跡	75 瀧瀬氏館跡	99 城北遺跡
6 矢島南遺跡	28 六反田遺跡	52 針ヶ谷館跡	76 横瀬氏館跡	100 居立遺跡
7 起合遺跡	29 宮西遺跡	53 西谷遺跡	77 新開荒次郎館跡	101 前遺跡
8 戸森松原遺跡	30 河辺館跡	54 水久保遺跡	78 深谷町遺跡	102 清水上遺跡
9 森下遺跡	31 東光寺裏遺跡	55 上杉館跡	79 深谷城跡	103 根絡遺跡
10 上敷免遺跡	32 伊勢塚遺跡	56 西龍ヶ谷遺跡	80 萱場松原遺跡	104 横間栗遺跡
11 本郷前東遺跡	33 安保氏陣屋跡	57 熊野遺跡	81 島之上遺跡	105 関下遺跡
12 新屋敷東遺跡	34 榛沢六郎成清館跡	58 御手長山古墳	82 前島遺跡	106 湯殿神社祭祀遺跡
13 新田裏遺跡	35 地神祇A遺跡	59 寅稲荷塚古墳	83 鼠裏遺跡	
14 明戸東遺跡	36 地神祇B遺跡	60 岡部城跡	84 割山埴輪窯跡群	107 西別府館跡
宮ヶ谷戸堀ノ内遺跡	37 関畑館跡	61 四十坂遺跡	85 小台遺跡	108 東別府古墳群
15 原遺跡	38 水窪遺跡	62 稲荷塚古墳	86 人見館跡	109 別府氏館跡
増田四郎重富館跡	39 新井遺跡	63 内出遺跡	87 秋元氏館跡	110 別府氏城跡
16 本庄城跡	40 千光寺古墳群	64 白山遺跡	88 桜ヶ丘石組遺構	111 籠原裏古墳群
17 薬師堂遺跡	41 西山古墳群	65 岡部町No.3古墳	89 疋鼻城跡	112 蓮沼氏館跡
18 諏訪新田遺跡	42 川輪聖天塚古墳	66 岡部六弥太忠澄館跡	90 木の本古墳群	113 荏原氏館跡
19 五十子城跡	43 長坂聖天塚古墳	67 愛宕神社古墳	91 東方城跡	114 高城城跡
20 牧西堀の内遺跡	44 諏訪山古墳群	68 上原古墳	92 幡羅太郎館跡	
21 東五十子城跡	45 北坂遺跡	69 源勝院館跡	93 皿沼城跡	
22 庄小太郎頼家館跡	46 猪山遺跡	70 曲田城跡	94 上敷免北遺跡	



第3図 新屋敷東

櫛挽台地は、寄居町を頂点とした扇状に広がる台地である。西側の武蔵野段丘と東側の立川段丘堆積層から構成され、両者の中間には、唐沢川が北流している。櫛挽台地上には、仙元山・観音山



遺跡と周辺の遺跡

等の第三紀層の残丘が残っている。

一方新屋敷東遺跡の形成された妻沼低地は、利根川流域に広がる低い低地である。境界は明確で

はないが、東を加須低地、南を荒川低地に接し、広大な平野を形成している。妻沼低地は、利根川の支流である小山川・星川（旧荒川）・福川等の堆積・侵食作用によって形成されたいわゆる「乱流地帯」に当たる。

そのため自然堤防と後背湿地が発達し、各地に湖沼を残す。男沼・妻沼・別府沼・蓮沼・大沼・皿沼等が最近まで残っていた。一方発達した自然堤防は、度重なる洪水の際の退避帯であり、集落が積極的に形成された。洪水時には、あたかも南洋の島のように水面に浮かぶことから「○○島」の地名が残る。血洗島・伊勢島・高島・矢島・内ヶ島・大塚島・向島等である。

この自然堤防を中心に確認される人々の痕跡は、縄文時代前期末葉を今のところ遡らない。しかも明確な住居跡が、確認されているわけではなく、その実態は霧中とってよい。ただし新屋敷東遺跡に隣接する、深谷市本郷前東遺跡（川口 1989）で数点の土器片が確認されており、今後資料の増加が期待される。

縄文時代中期の資料についても妻沼低地内では、明らかにされていない。しかし中期の遺跡は、櫛挽台地先端部の低地との境目に多く立地しており、調査された遺跡も少なくない。前畠遺跡・島之上遺跡・出口遺跡（横川 1977）をはじめ、深谷町遺跡（沢出 1985）・小台遺跡（沢出 1989）・原ヶ谷戸遺跡などで確認されている。台地先端の湧水や川沿いの河川沼沢の水産資源の確保等に基づく移動が考えられる。

縄文時代中期後葉から後期になると、彼らは、盛んに妻沼低地の各自然堤防上に進出していく。縄文時代には、現在とは相当掛け離れた自然・地形であったはずである。現状では、それを復元することは困難である。しかし台地の生体系から低地の生体系へと転身した彼らの痕跡は、自然堤防上の随所にみることができ、発掘調査された遺跡も少なくない。先の深谷町遺跡・本郷前東遺跡・原遺跡（磯崎 1989）・上敷免遺跡・前遺跡などである。

さらに縄文時代晩期になると、妻沼低地では、前述のこれらの遺跡を継承した位置に、再び集落が営まれるようになる。新屋敷東遺跡も例外ではない。

ところが弥生時代に入ると、新たな形の低地との関わりが出てくる。水稲耕作にともなう低地の開発である。低地の、しかも後背湿地を抱えた自然堤防上に、墓域・住居域・水田域が、一体となった集落が形成される。それも、関東地方にあっては、古い段階からその痕跡が見られる。

墓域では、熊谷市横間栗遺跡・妻沼町飯塚南遺跡・深谷市上敷免遺跡・岡部町四十坂遺跡などといわゆる再葬墓が確認されている。集落としては、この段階の明確な遺跡は確認されていないが、行田市小敷田遺跡・深谷市上敷免遺跡などで最近確認されつつある。生産跡である水田遺構等はまだ確認されていないが、深谷バイパスの一連の整理が進行していけば、さらに細かなことも分かっていこう。

さらに弥生時代も後期になると、徐々にではあるが、地域間交流が激しくなったようであり、各地の土器が、妻沼低地の各遺跡にみられ始まる。熊谷市東沢遺跡・行田市池守遺跡・明戸東遺跡などで、吉ヶ谷式土器が確認されている。注目すべきは、北関東の土器である二軒屋敷式土器が、これらの遺跡から相伴していることである。この土器、本庄市の薬師寺遺跡や群馬県境町の三ツ木遺

跡などでも確認されており、今後注目される土器群である（磯崎 1989）。

古墳時代に入っても、集落として大規模な展開をみることはできない。しかし東海系のいわゆるS字甕に反映される、大きな土器の動きは、随所に認めることができる。とくに方形周溝墓や古墳などでは、その傾向が強くみられる。ただ新屋敷東遺跡周辺では、この段階の古墳は認めることはできない。

五領式土器を出す遺跡は、妻沼低地では大きく広がっている。新屋敷東遺跡の周辺では、ちなみに列挙すると、起会遺跡・森下遺跡・本郷前東遺跡・明戸東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡・横間栗遺跡・東別府条理遺跡・弥藤吾新田遺跡・上江袋遺跡・鶴ノ森入胎遺跡などがある。また戸森松原遺跡や東川端遺跡などでは、方形周溝墓が調査され、墓域の存在も確認されている。

さらに清水上遺跡では、この段階の水田跡が確認されている。

むしろ集落が大規模に展開するのは、和泉式土器後半の段階からである。各自然堤防上に雨後の筍のように集落が出現し、急速に沖積地の開発が進展したことを示す。しかし自然堤防上の各集落は、跛行の発展を遂げ、各集落の構成は、相互に伸縮があった。その伸縮は、集落変遷の画期としてとらえられる。5世紀後葉・6世紀前葉・6世紀第Ⅲ四半期・7世紀後葉がその画期である。

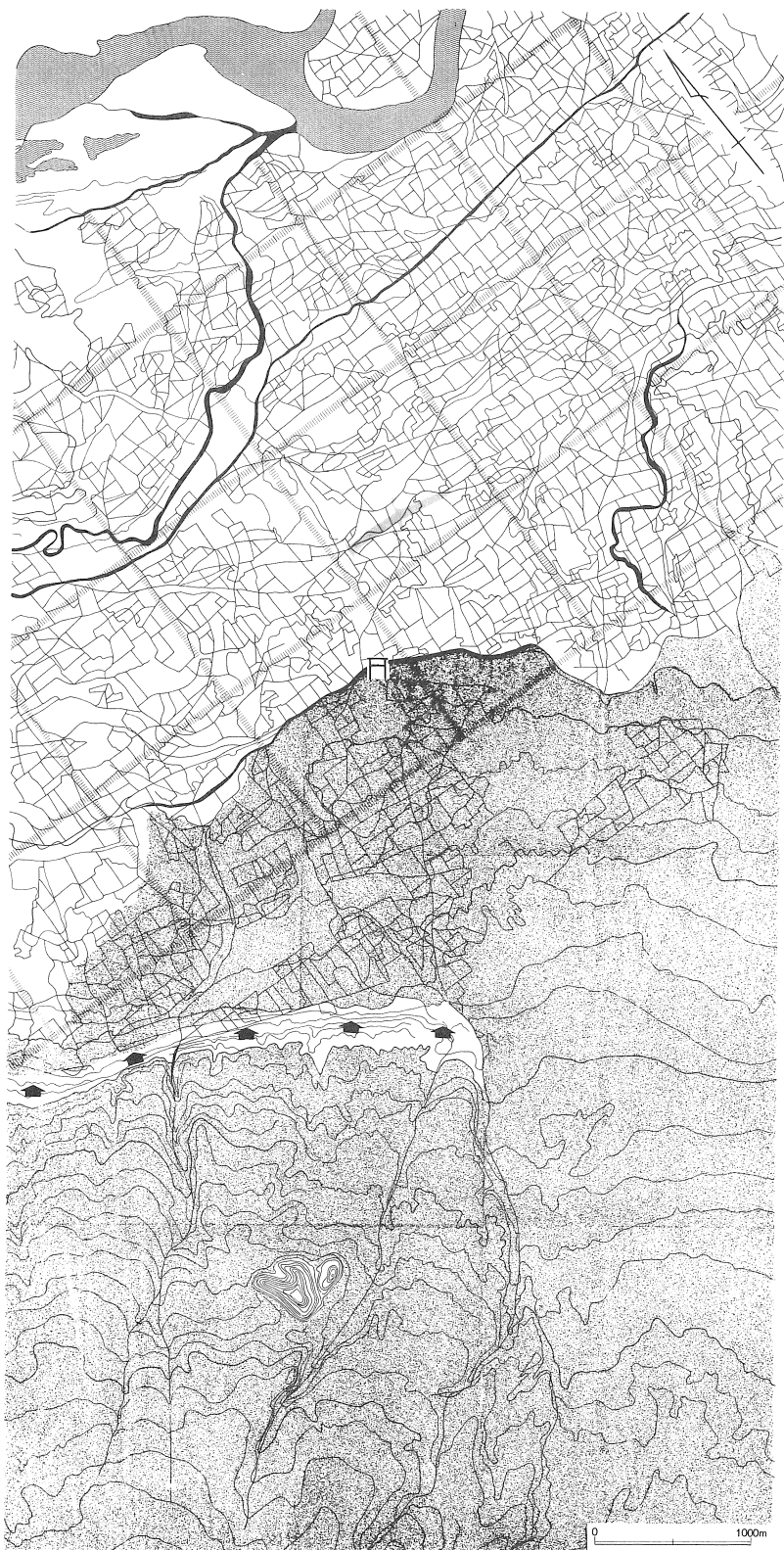
この画期は、遺跡の移動という現象ではとらえきれない、もっと細かなメカニズムによって形成されている。それは、遺跡内部の伸縮関係を分析することによって、次第に明らかになっていくことであろう。この段階の遺跡は、原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田前遺跡・居立遺跡・城北遺跡・柳町遺跡・六反田遺跡・北島遺跡・鶴ノ森入胎遺跡・飯塚南遺跡・道ヶ谷戸遺跡・弥藤吾遺跡・土用ヶ谷戸遺跡・樋の上遺跡・新ヶ谷戸遺跡・小敷田遺跡などで確認されている。

とくにこの古墳時代後期集落の変動と、自然堤防上への積極的な進出は、一方で、後期古墳の造墓活動というかたちで考えられていた。しかし新屋敷東遺跡の周辺には、古墳時代後期の巨大な前方後円墳はなく、十数基単位の古墳群が、櫛挽台地の縁辺部や自然堤防上に立地しているに過ぎない。この大型前方後円墳の不在こそが、新屋敷東遺跡の周辺部で、自然堤防上の集落が大きく展開した原動力となったのであろう。

古墳時代後期の古墳群として、櫛挽台地上の木の本古墳群・籠原裏古墳群・白山古墳群・四十坂古墳群、妻沼低地の自然堤防上の上増田古墳群・鶴ノ森入胎古墳群・中条古墳群がある。立地条件や古墳の構築材に若干の相違があるが、概6世紀から8世紀初頭にかけて形成された古墳群とみてよいであろう。これらの古墳群からは、それぞれ埴輪が採集されており、割山窯跡群との関係が注目されるところである。

8世紀に入ると、新屋敷東遺跡周辺も、律令制社会の枠組に組み込まれていったらしい。新屋敷東遺跡及びその周辺は、榛沢郡と播羅郡が錯綜する地域で、その境は、おそらく旧小山川と考えられる。ちなみに埼玉郡・大里郡との境も、旧荒川のルートである星川と考えられる。

榛沢郡は、新居郷・榛沢郷・膽形郷・藤田郷・余戸郷、播羅郡は、上秦郷・下秦郷・広沢郷・荏原郷・播羅郷・那珂郷・霜見郷・余戸郷からなっていたことが、『倭名類聚抄』や『延喜式』など



第4図 新屋敷東遺跡周辺に広がる条里地割

からわかる。

しかし両郡の成立が、いつであるかは定かではない。播羅郡が、その郡郷名に、少なからず渡来系氏族の名称を含むことからすると、郡の成立に彼らに加わっていた可能性はある。とくに渡来系氏族の多く居住する郡が、7世紀末以降のいわゆる建郡記事に当たるとすれば、播羅郡は周辺の旧来の郡の分割統合によって成立した可能性がある。新屋敷東遺跡は、周辺の地名などから、榛沢郡の新居郷か、播羅郡の播羅郷であった可能性が高い。筆者はとくに後者を支持したい。

平安時代には、概この郡郷に近付いていたと思われる。大同4年(809)には、播羅郡から米五斗が、多賀城に送られていたこ

とを示す木簡が見つまっている。坂東が、律令国家の東北経営の後方支援的立場にあったことが分かる。9世紀前葉の播羅郡の文献資料は豊富で、他にも、弘仁9年(818)の武蔵国大地震の記載や、承和元年(834)の播羅郡の荒廢田123町が、冷然院へ寄進される記事などがある。

奈良・平安時代の遺跡として、とくに妻沼低地の遺跡では、砂田前遺跡・高畑遺跡・上敷免遺跡・籠原裏遺跡・土用ヶ谷戸遺跡・鶴ノ森入胎遺跡・飯塚南遺跡・下辻遺跡・樋の上遺跡・台耕地遺跡・北島遺跡・新ヶ谷戸遺跡等著名な遺跡が多い。これらの遺跡は、やはり古墳時代以来の堅穴式住居からなる集落で、一部に掘立柱建物跡を含む。それぞれ各河川の側に立地する水田経営を、生業の基本とした集落である。

平安時代末以降、この地域は、武蔵七党などの中世武士団に象徴される『吾妻鏡』の世界が、繰り広げられていたと思われる。ただし妻沼低地でも、深谷市明戸周辺は、横山党の別府・玉井・成田・中条氏など、あるいは猪俣党の岡部・人見氏などに囲まれながら、名のある武士や彼らの「名子の地」として史料には登場しなかった。

14世紀の末になると、深谷上杉氏の祖である上杉憲英が、庁鼻和城を現在の国済寺に築いた。中世後期の新屋敷東遺跡をめぐる諸関係は、ここから始まる。康正2年(1456)、上杉憲英の曾孫、房憲が、深谷城を築くと、その周辺に出城的な中世城郭が多く造られた。天正18年(1590)、豊臣秀吉の関東攻めにより、深谷上杉氏は、小田原北条氏と命運を共にした。替わって松平康長が、徳川家康にともない深谷に一万石で陣屋を構える。そして近世に突入する。

こうした中世の遺跡は、決して少なくはなく、在地武士の居館跡をはじめ、寺跡等が新屋敷東遺跡の周辺には見ることができる。別府氏城・西別府館・蓮沼氏館・東方城・庁鼻和城・伝幡羅太郎館・皿沼城等である。

近世の様子は、『新編武蔵風土記稿』によって概ね知ることができる。以下に該当部を転載する。

「○明戸村 明戸村は元悪戸とも書せりと云、家数百八軒皆畑なり、東は、宮ヶ谷戸・上増田の両村南は原ノ郷、西は榛沢郡上舗免村、北は当郡新井村なり、東西十一丁、南北九丁、当村天正の頃は、上杉蔵人大夫所領なりと、御入国の後は、酒井讃岐守領分なりしが、夫も上がりて寛永の頃は、松平大膳領の知る所にて、同十六年上りて御料となり、寛文四年今の大久保上野介知行となれり、検地は慶長十六年また万治二年にも、佐藤興五右衛門・大谷惣右衛門・柴山伊兵衛等糺せり、

高札場 小名 本郷・入り枝・駒寄・田中・下郷・新田

諏訪社 村の鎮守なり、阿弥陀寺持、下同じ、

大神宮

雷電社 別当大善院 本山修験、榛沢郡黒田村萬光寺配下なり、雷電山と号す、本尊不動を安ず

弁天社 別当喜福院 前と同じ配下なり、本尊不動を置、

稲荷社二字 大善院持

阿弥陀寺 古義真言宗、蓮沼村総持寺末、安養山蓮華院と号す、開山伝慶寛永六年の草創なり本尊阿弥陀仏を安ず

天神社・護摩堂・○弥陀堂 阿弥陀寺持ち 下同じ ・○地藏堂・○観音堂 村民持ち 下同じ ○薬師堂

このように新屋敷東遺跡の周辺には、縄文時代以来、多くの遺跡が存在し、たゆまない人々の生活の痕跡を知ることができる。

Ⅲ 調査された遺構と遺物

新屋敷東遺跡は、縄文時代後晩期、古墳時代後期、奈良平安時代、中近世におよぶ複合遺跡である。とくに古墳時代から平安時代にかけては、濃密な遺構の重複関係が確認でき、武蔵国の古代の集落のあり方を知ることのできる格好の遺跡である。

遺跡は、利根川の南側に広がる沖積低地、妻沼低地の自然堤防上に位置する。標高32.0～34.0m前後である。

調査区は、17号国道深谷バイパスの本線車道（下り車線のみ）・北側補償道路部分及び、県道深谷妻沼線取付け部にかかる23,300㎡が対象となった。東西に細長い調査区で、遺跡の北側部分に長いトレンチを入れた形である。なお東を新田裏遺跡、西を上敷免東遺跡と境を接している。

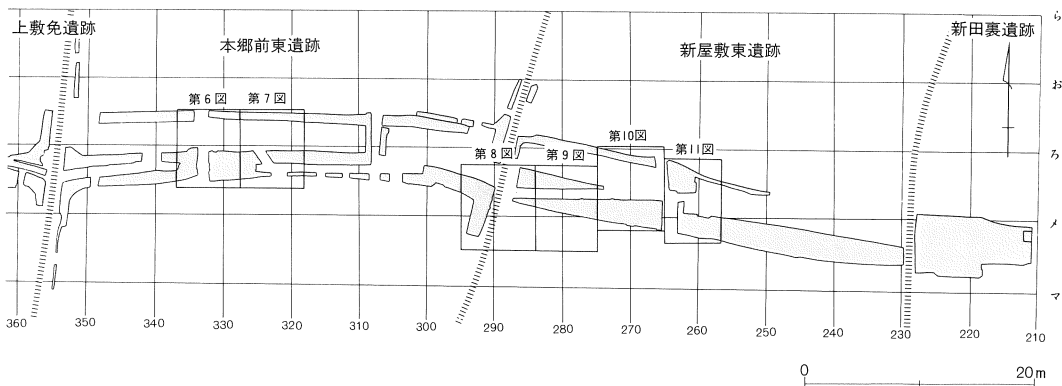
発掘調査の作業区分として、県道深谷妻沼を境に、東を新屋敷東遺跡（C区）、西を本郷前東遺跡（B区）を設定し、調査を行なった。これは現状では、遺跡を明確に区分できる根拠が、地表の肉眼観察では不可能なため、地上の工作物を指標として境を設定したからである。

調査の結果、両者は、遺構の広がり具合や、埋没地形の検討から、同一の遺跡であることが確認された。本稿では、この点を重要視し、新屋敷東遺跡と本郷前東遺跡を一括し、新屋敷東遺跡として分析を行うこととする。

ところで、すでに県道深谷妻沼線の拡複工事に伴う発掘調査が、当事業団によって行われており、報告書も第78集として刊行されている。遺構・遺物等の分析のあたりには、併読されることを望む。調査は、試掘調査を昭和59年度、本調査を昭和60・61年度にかけて行い、作業用仮設建物が存在していた部分を昭和62年度に捕足調査した。

調査は、縦横6×6mの方眼を、遺跡上に向け、東から西へ算用数字、南から北へイロハ（ンの次は、いろは）を各東南の杭に振り、この一柵を1グリッドとして作業を行った。調査区は、コ～わ、229～354の範囲に広がっている。さらに標高の基準杭として、このグリッド30mおきに三寸角の太杭をもって、代用した。

予想を上回る湧水と、逆に水分を全く無くした粘土は、瓦のようになり、調査に大変支障を来た



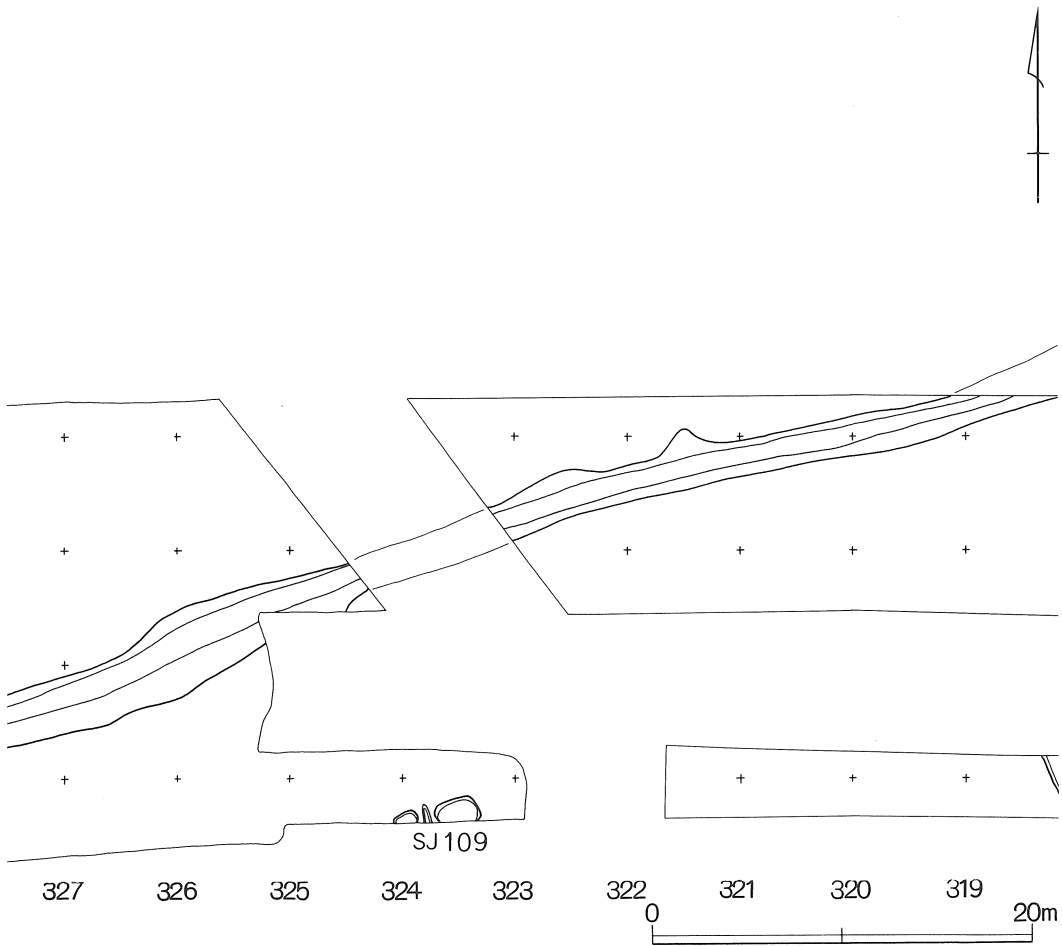
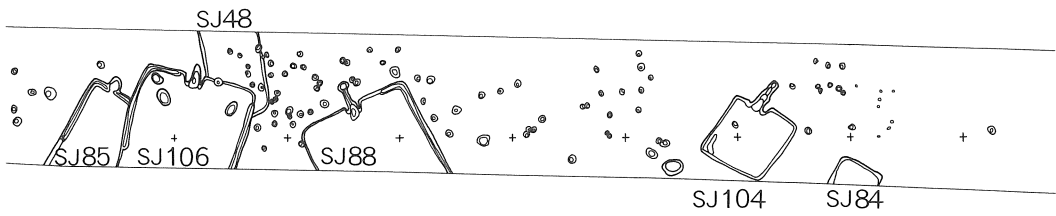
第5図 新屋敷東遺跡遺構集中部剖図



第6図 遺構集中部拡大(1)

した。そのため、遺物の取り上げも、本来は全点の出土位置を記録すべきところではあるが、いかんせん自然条件に調査員の奮闘も叶わなかった場合も少なくない。時々刻々と変わる自然条件の下で最善の記録保存を模索したつもりである。

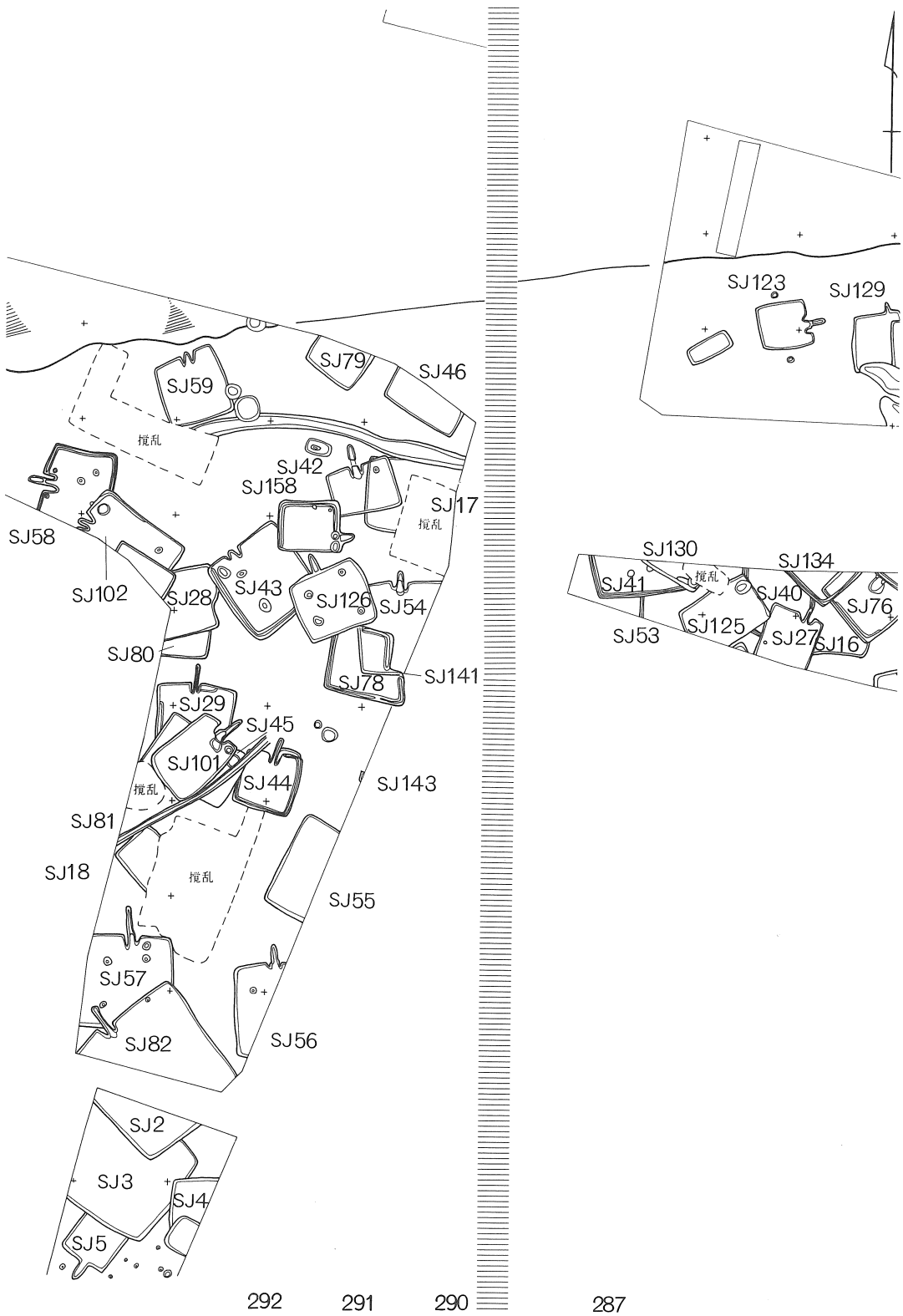
竪穴式住居跡の遺物は、床面に接しているか、覆土中のものであっても完形品に近いものは、その出土位置を明確に記載した。また覆土中の遺物は、竪穴式住居を四分分割し、カマド側から時計回



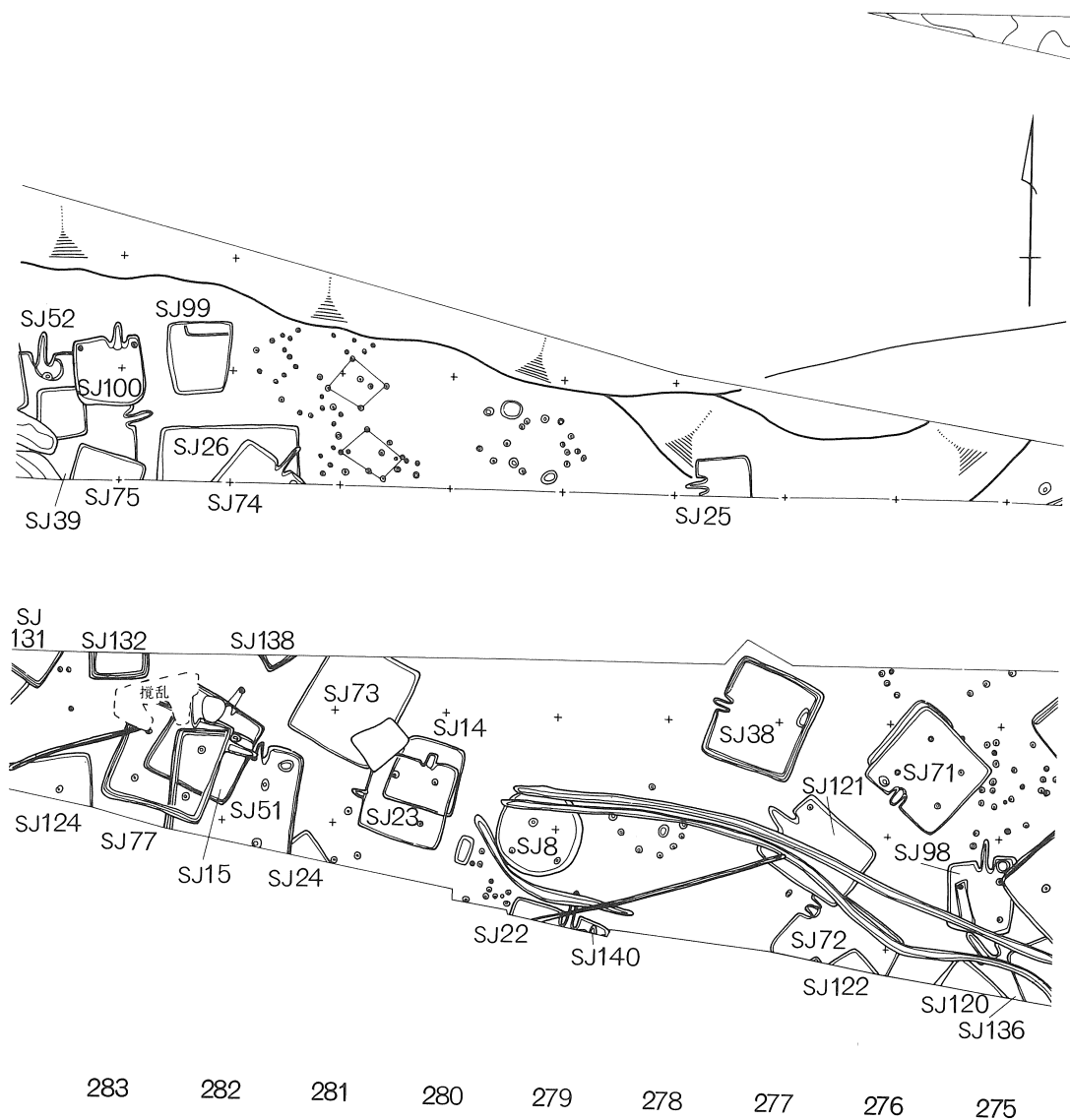
第7図 遺構集中部拡大(2)

りにa・b・c・d区とし、一括で上げるようにした。溝・土壇・水田跡・井戸等は、遺物が各遺構の一部や、その遺構の性格を反映する場合に限り記録をし、他は遺構一括とした。

遺跡は、南側に広がる集落域と、北側の河川跡、河川跡の埋没した後に作られた水田跡から構成されている。検出した遺構は、竪穴式住居跡159軒・掘立柱建物跡6棟・土壇61基・溝51条・堀跡2条・井戸跡5井・水田跡3枚・畠跡1か所の他、遺構ではないが河川跡1条・埋没谷1か所が確



第 8 図 遺構集中部拡大(3)



第9図 遺構集中部拡大(4)

認されている。

とくに遺構は、全体の中央部に濃密に分布しているといえる。細かくは、遺構の重複状態などから、3つの群に分けて考えることができる。

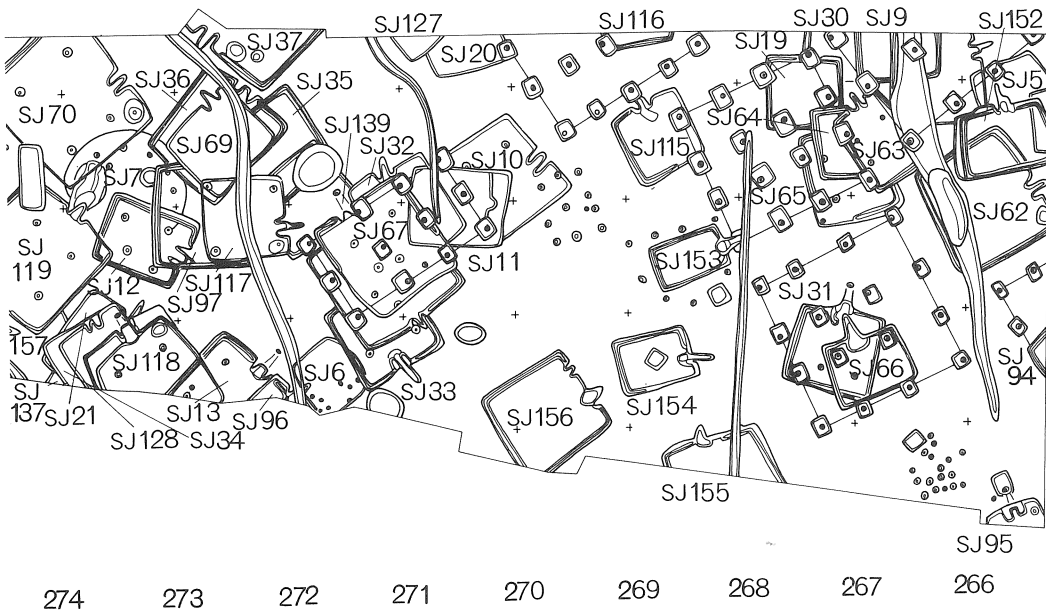
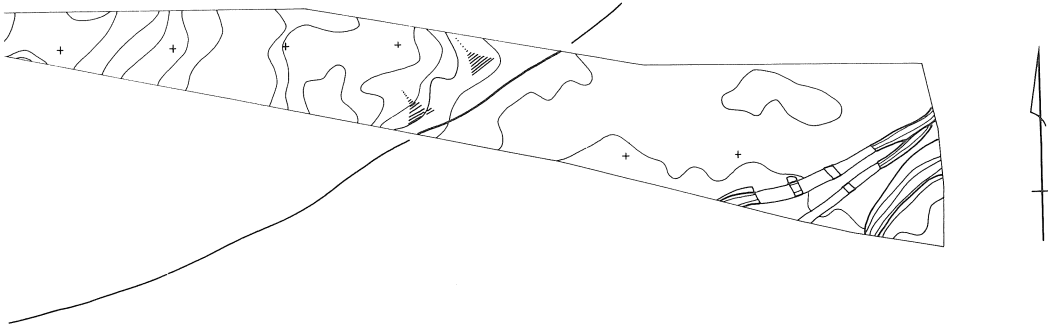
最も東の一群は、平安時代と中近世の遺構がみられる。新田裏遺跡に継続する遺構であろう。

中央の一群は、古墳時代後期から平安時代に及ぶ一大複合遺跡であり、本報告書の中心的存在といえよう。集落は、南に大きく広がると思われる。

最も西の一群は、7世紀に入ってから始まる比較的短期間な集落といえる。

また調査区全体縦横に、近世の溝が広がっている。

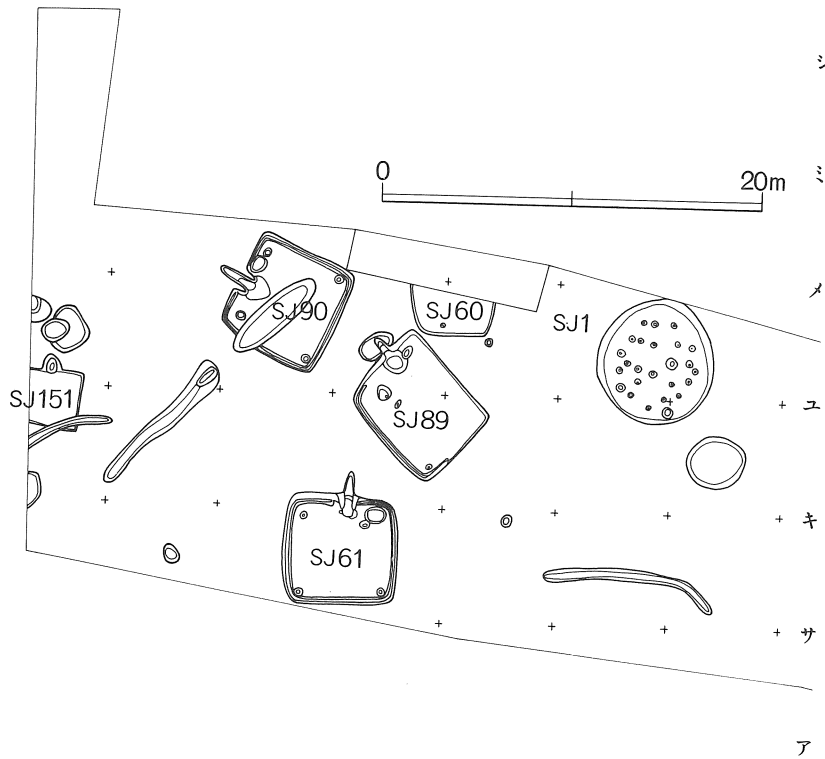
遺物は、土器を中心に、石器・石製模造品・板碑・石製品・土製品・鉄製品等豊富である。縄文



第10図 遺構集中部拡大(5)

時代の遺物は、縄文時代後晩期を代表する土器、石棒・石皿・石鏃等の石製品、土偶・耳飾り等の土製品がある。古墳時代後期から平安時代までの遺物は、生活雑器である土師器や須恵器、糸紡ぎのための紡錘車・滑石製の石製模造品や玉類、鉄鏃・鉄製紡錘車・鉄鎌等の鉄製品等がある。さらに中近世の遺物は、常滑産の大甕や軟質陶器・輸入陶磁器等の日常雑器を中心に、板碑や砥石・石臼、さらには石製塔の一部等がみつまっている。

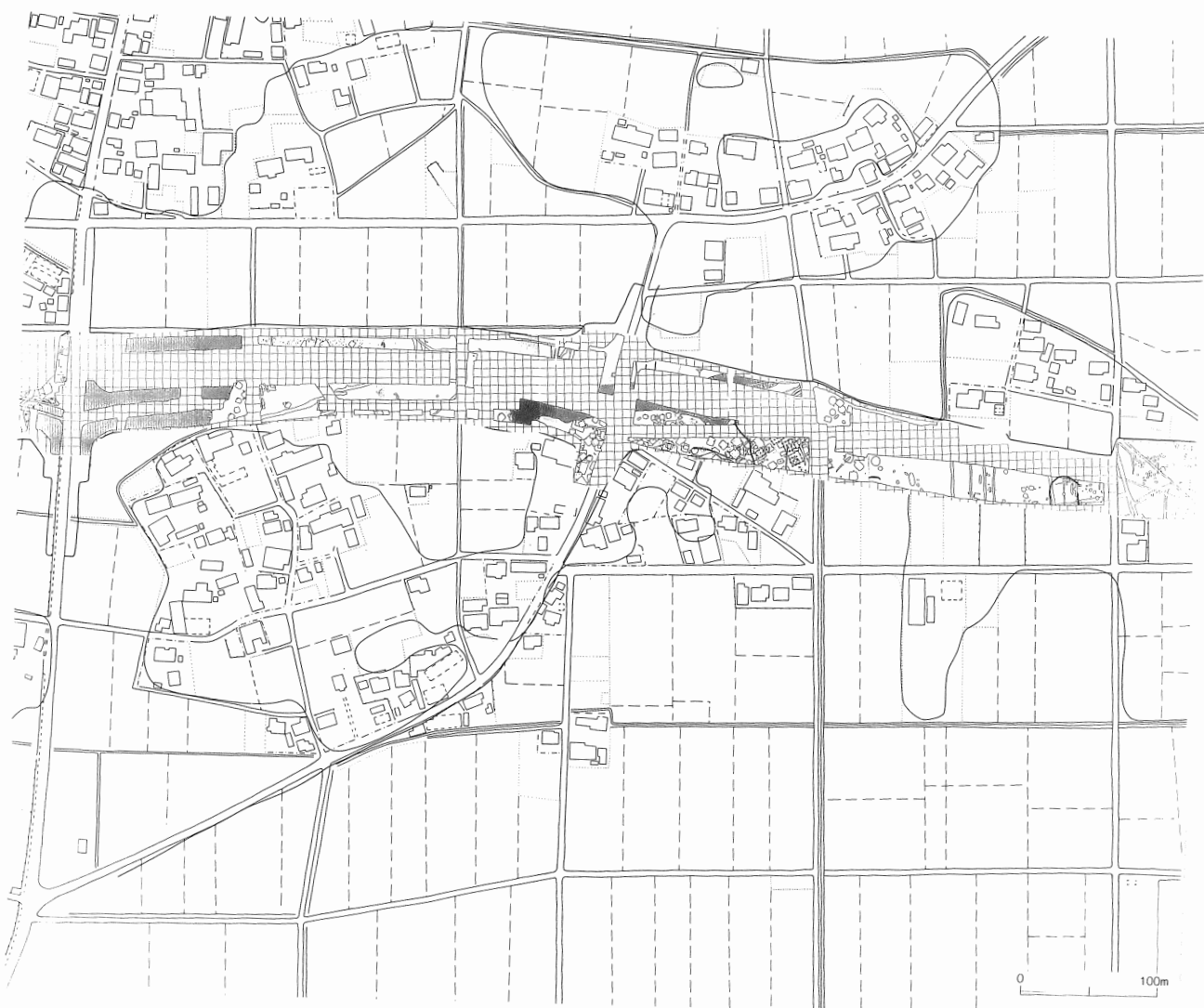
このように新屋敷東遺跡は、内容が大変豊富、かつ多岐に互っているため、各時代・時期ごとに



264 263 262 261 260 259 258 257 256

第11図 遺構集中部拡大(6)

遺跡の推移を知ることが重点に本稿は進めていきたい。ここでは、遺跡の推移を縄文時代後晩期・古墳時代後期（第Ⅰ期～第Ⅶ期）・奈良平安時代・中近世の10期に区分して、「遺構と遺物」の詳述を進めていきたい。



第12図 縄文時代後・晩期の新屋敷東遺跡

1 縄文時代後・晩期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

新屋敷東遺跡に始めて集落が営まれたのは、漸く縄文時代後期に入ってからである。かつての調査で隣接する本郷前東遺跡から縄文時代前期の土器片が確認されていたが、明確な住居跡等の遺構は確認されていなかった。

円形を基本とする竪穴式住居跡は、数本の柱で支えられ中央には炉がつくられていた。そこからは、豊富な資料が出土している。縄文時代後期から晩期にかけての土器。打製石斧や石鏃・石剣・砥石等の石で造られた多彩な道具。耳飾り・土偶・玉類などは、新屋敷東遺跡に住んだ人々の生活の復元をより豊かにしてくれる。

■集落の構成 縄文時代後・晩期の遺構は、竪穴住居跡と土壇から構成されていた。遺構は、調査区のほぼ中央に集中して確認されている。確認面は、細かな砂層中で、住居内の覆土も砂層であったため、調査には手間取った。

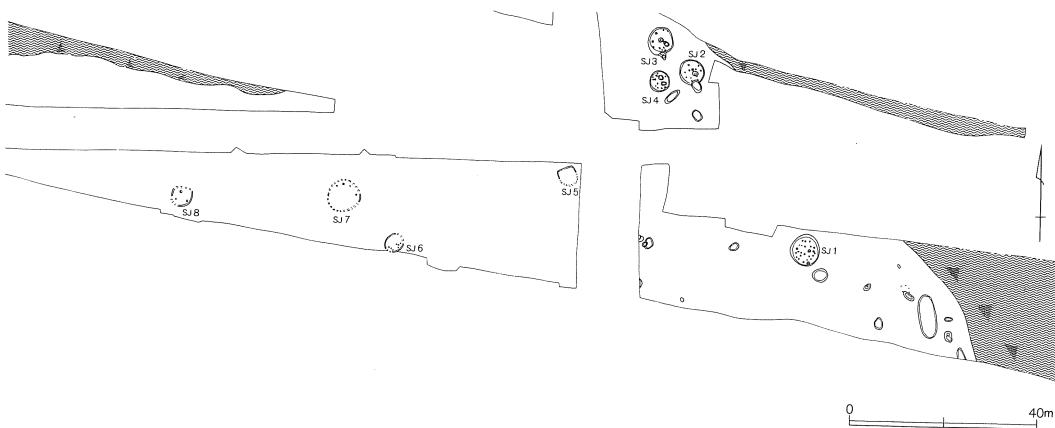
■竪穴式住居跡 8軒確認されている。いずれも円形の住居跡で、柱穴と思われる小穴が床面に確認されている。また床面中央には、炉跡が確認できる。

■縄文土器 時期的には、後期前葉から晩期前葉に限定される。出土土器は、第1号住居跡において後期前葉の堀之内1式、第4～6号住居跡において晩期前葉の安行3b式がまとまっている。古墳時代以降における集落形成は、少なからず縄文時代の遺物の遺存に影響を与えているかもしれないが、後期前葉と晩期前葉が、縄文時代の集落のピークと考えられる。

■土壇 土壇は、円形の土壇を中心に長楕円形の土壇を含め、17の確実な土壇が確認されている。このほかにもしみ状の部分がいくつか確認されたが、土器等の遺物をともなっておらず、また掘り込み等が確認されないためここでは資料化していない。あるいは風倒木の跡であろうか。土壇から出土した土器は、後期中葉、後葉の土器も散見される。

■石器 出土した石器は、打製石斧や石鏃・石剣・石匙・砥石・石棒・磨石・石皿等の道具類を中心に多彩である。これらの石器の組成も縄文時代後期の器種構成を示すものであるが、特に第4・6号住居跡から石棒・石剣類が、各2点出土している。また第4号住居跡から出土した砥石は、共伴する緑色玉類の性格を考えると決して無視できない存在である。

■そのほか そのほかにも土偶や耳飾りなど、新屋敷東遺跡の内容を豊富にさせる遺物が出土している。今まで少なかった妻沼低地のこれらの資料が増加したことにより、縄文時代を復元するうえで新しい展開が予想される。

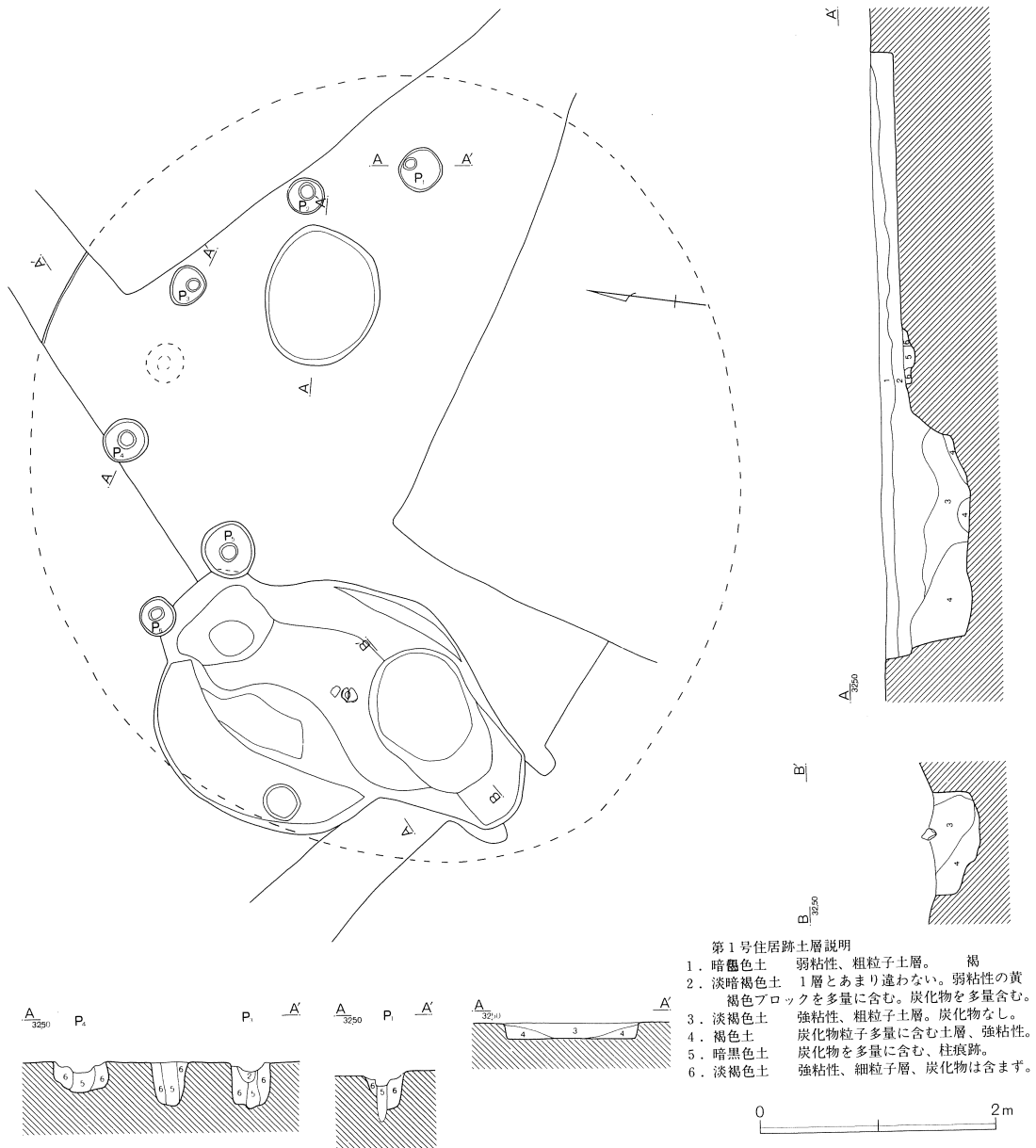


第13図 縄文時代後・晩期遺構全体図

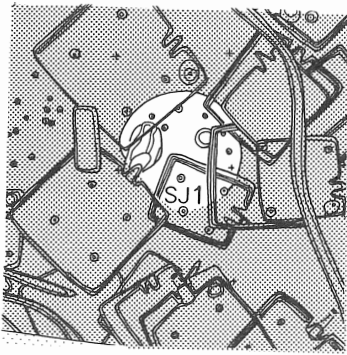
(2) 遺構各説 —遺構構築段階—

第1号住居跡 (調査時C2区104号住居跡)

ミ-272グリッドに位置する。重複関係は、第35・138・69・36・34・32号住居跡よりも古い。縄文時代の遺構とは重複していない。古墳時代の竪穴式住居跡との重複によって、遺構として確認できる掘り込み部分は、ごく僅かしかない。



第14図 第1号住居跡



第15図 位置図

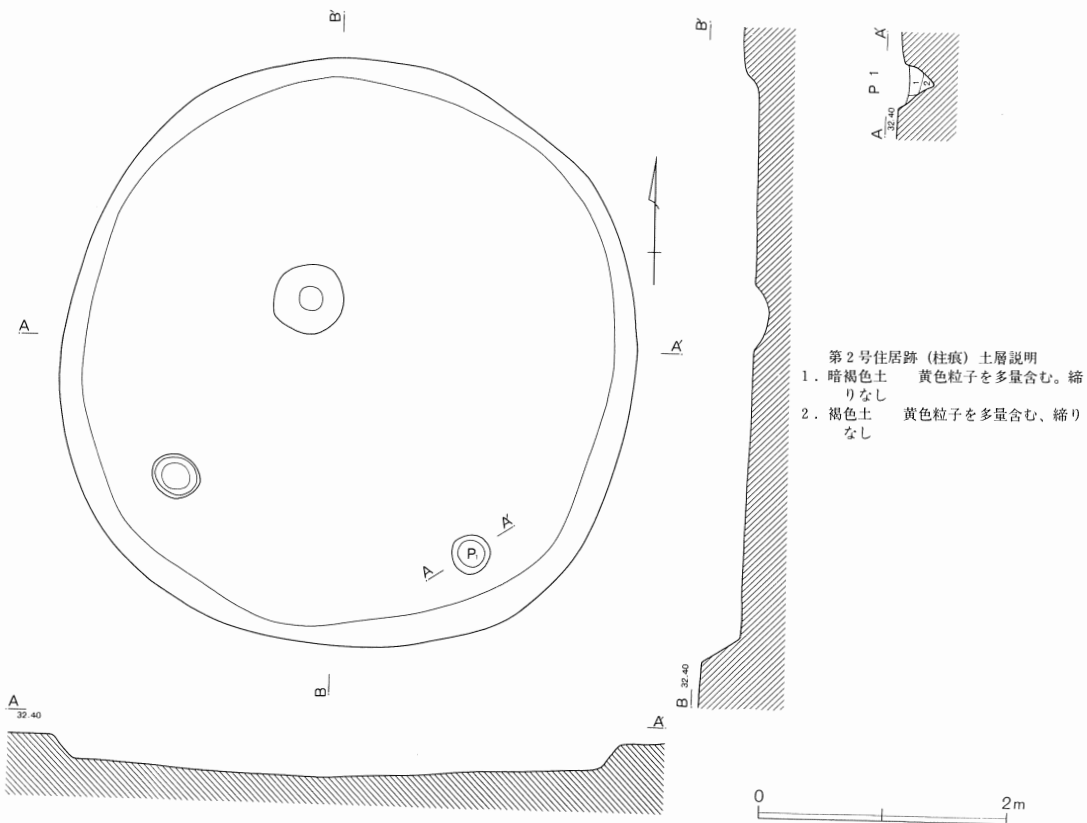
規模は、長軸・短軸共に不明確であり、資料化できない。ただし掘り込みは、15cm前後と考えられる。およそ図示した範囲内に粗い胎土の土器片が、比較的密に確認されることから、住居跡とした。柱穴は、この推定される円内の壁面に沿う形で、円形に配置されている。比較的柱痕跡も明瞭にわかる。

最も注目すべきは、やや南側で確認されている不定形の土壌である。深さ1m程度の掘り込みで、前後にやや深い部分がある。大量の土器片が出土しており、どのような施設かわからないが、竪穴式住居を構成する重要な部門であろう。

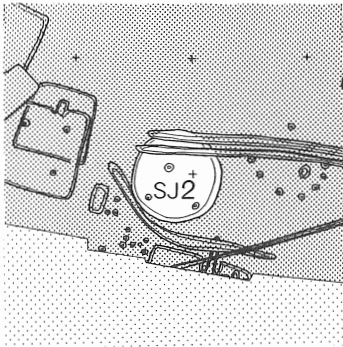
遺構の確認は、前述の古墳時代の竪穴式住居跡を確認中、あまりにも該期の土器片の出土の多いことから判明した。

第2号住居跡（調査時C2区65号住居跡）

メー278グリッドに位置する。重複関係は、近世の溝によって、北・西の壁面の一部が破壊されているが、総じて明瞭に確認された住居跡である。円形の住居跡で、床面には、3本の柱穴が確認



第16図 第2号住居跡



第17図 位置図

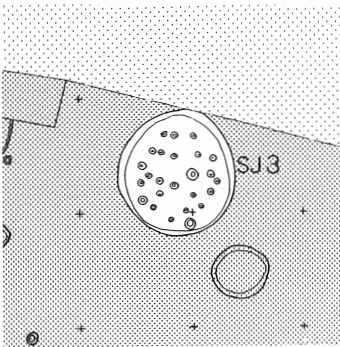
されている。長軸4.65m、短軸4.55mのほぼ円形の竪穴式住居跡である。掘り込みの深さ30cmと比較的しっかりしており、明確に確認することができた。柱穴は、小穴で柱痕跡等は不明確である。炉跡等は確認されていない。

遺構の重複が少なく、確認にはそれほど手間取らなかった。

第3号住居跡（調査時C区7号住居跡）

ユ-257グリッドに位置する。重複関係が、まったくみられず、総じて明瞭に確認された住居跡である。長軸6.35m、短軸6.00mのやや不正円形の住居跡である。掘り込みの深さは、20cmとやや浅めである。床面には、小穴が、数多く確認され、25基を数える。そのほとんどが、一様に柱痕跡が残り、柱穴ないしはそれに付随する小穴と考えられ、数回の建替も考慮しておく必要がある。

中央やや北寄りに、比較的大きめの掘り込みが見られるが、炉跡ではない。明瞭な焼土等は、確認されていない。



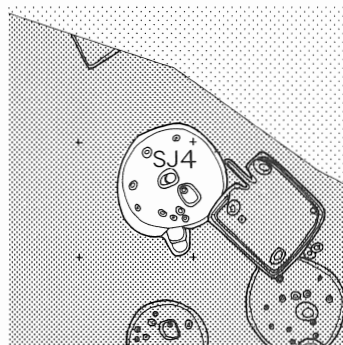
第18図 位置図

第4号住居跡（調査時C区14号住居跡）

セ-262グリッドに位置する。南東の一部を第92号住居跡によって破壊されているが、そのほか重複関係は、まったくみられず、総じて明瞭に確認された住居跡である。長軸5.70m、短軸5.62mを測る。やや不正円形の竪穴の掘り込みで、南側に張り出しをもつ住居跡である。掘り込みの深さは、50cmと比較的深い住居跡である。

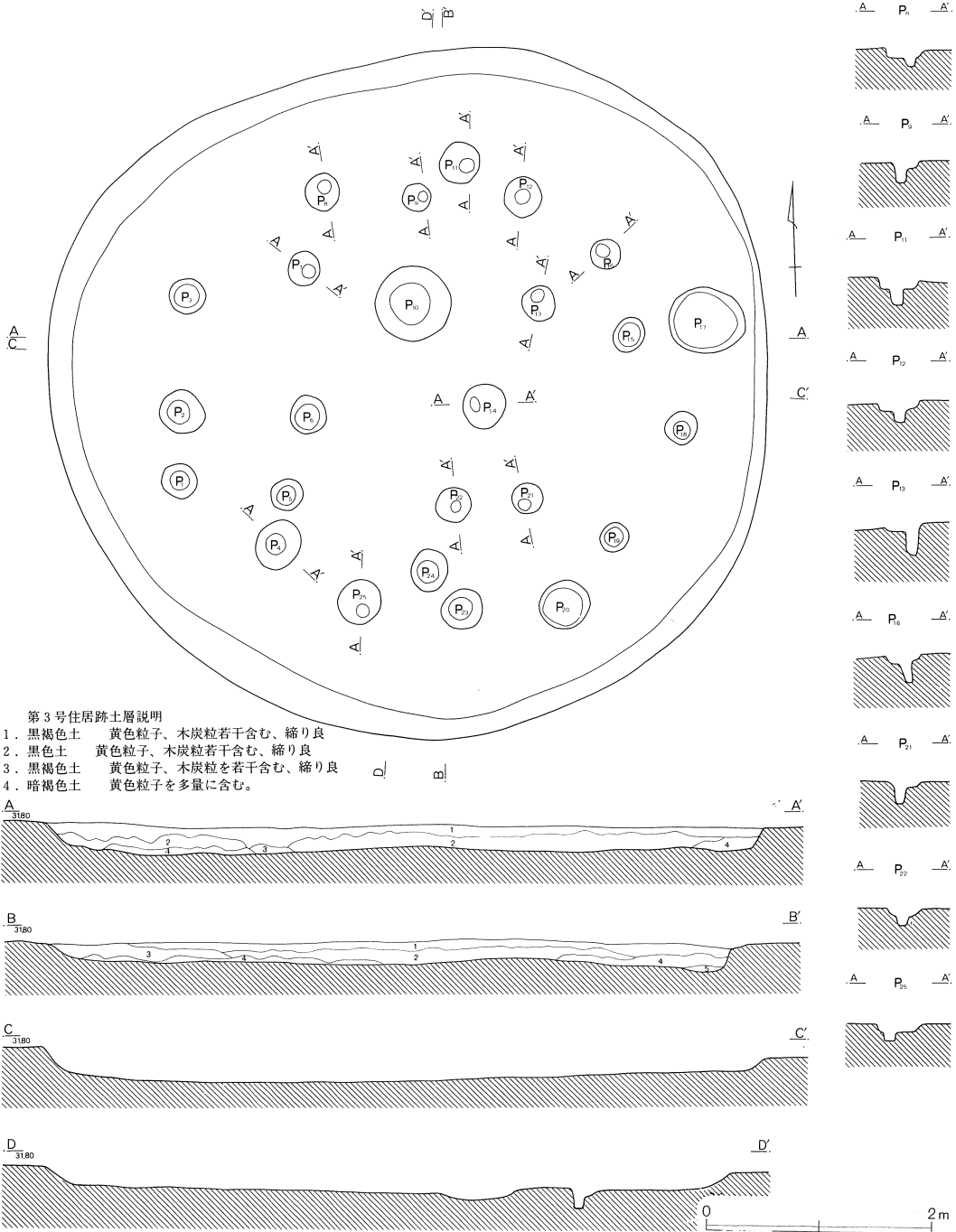
床面には、小穴が、壁のラインにそって確認され、張り出し側では、2個一対の柱穴が確認された。ほとんど一様に柱痕跡が残り、柱穴ないしはそれに付随する柱穴と考えられ、数回の建替も考慮しておく必要がある。中央やや北寄りに、比較的大きめの掘り込みがあり、微量の焼土を含んだ堆積層が存在したことから炉跡と考えられる。

南側に張り出す部分は、細長い台形状に作られ、2つの段によって構成されている。この部分の底面は、固く叩き締められた様子はなく、比較的ソフトであった。



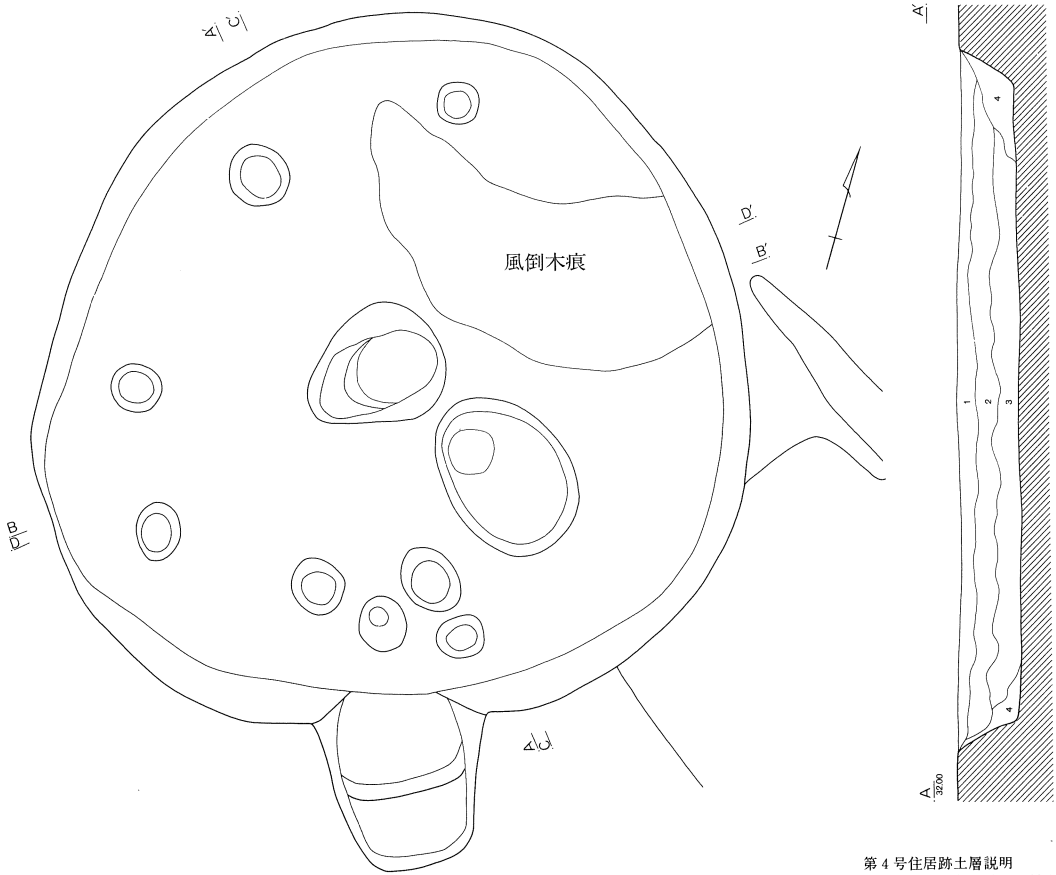
第19図 位置図

出土遺物が多く、縄文時代の遺構の中では代表的な住居跡といえよう。



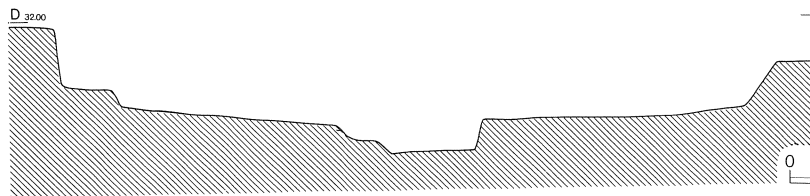
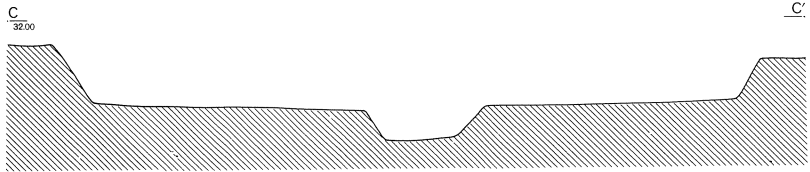
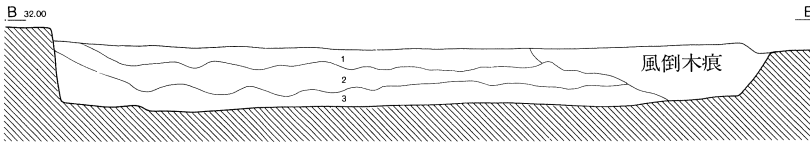
第5号住居跡（調査時C区15号住居跡）

モー262グリッドに位置する。重複関係は、一切見られない。明瞭に確認された住居跡である。長軸4.50m、短軸4.28mを測る。やや不正楕円形の竪穴の掘り込みで、床面には、柱穴を含めたい



第4号住居跡土層説明

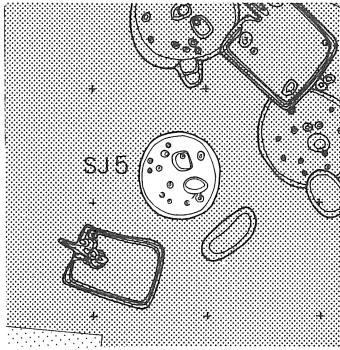
- 1. 黒褐色土 白色粒子少量含む。縮り良
- 2. 黒褐色土 白色粒子、黄色粒子、木炭粒少量含む。縮り良
- 3. 褐色土 白色粒子少量、黄色粒子多量含む。黄色粒子多量含む。
- 4. 暗褐色土 木炭粒少量含む。



第21図 第4号住居跡

くつかの掘り込みが見られる。掘り込みの深さは、36cmと比較的深い住居跡である。

床面には、小穴が、ほぼ壁のラインにそって確認されている。2箇所、の土壌状の掘り込みを除き



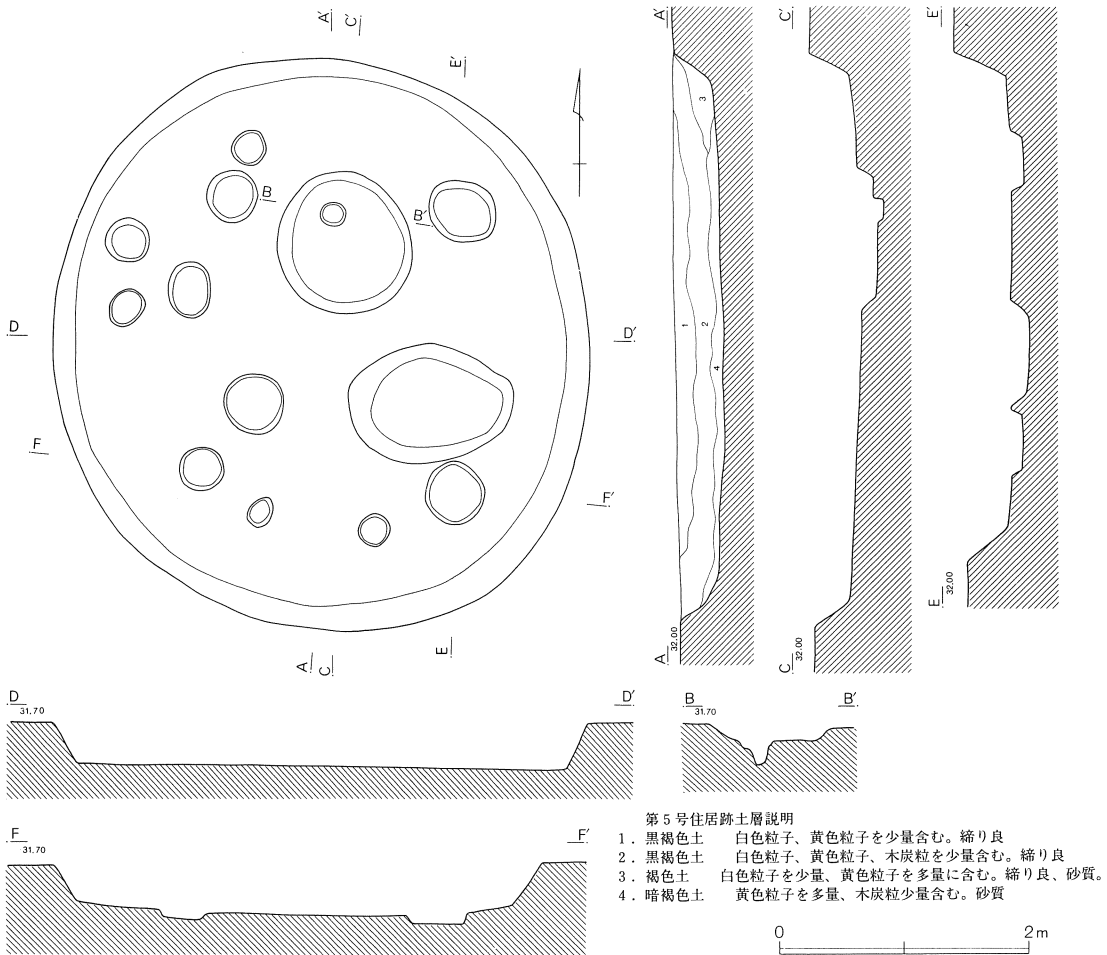
第22図 位置図

全て一様に柱痕跡が残り、柱穴ないしはそれに付随する柱穴と考えられる。数回の建替も考慮しておく必要がある。中央やや北寄りに、2箇所の土壇状の掘り込みには、焼土等の堆積層が見られず炉跡とは考えられない。

とくに付属するほかの施設は見られず、この遺跡のなかでは一般的な形態の住居跡といえようか。

第6号住居跡（調査時C区16号住居跡）

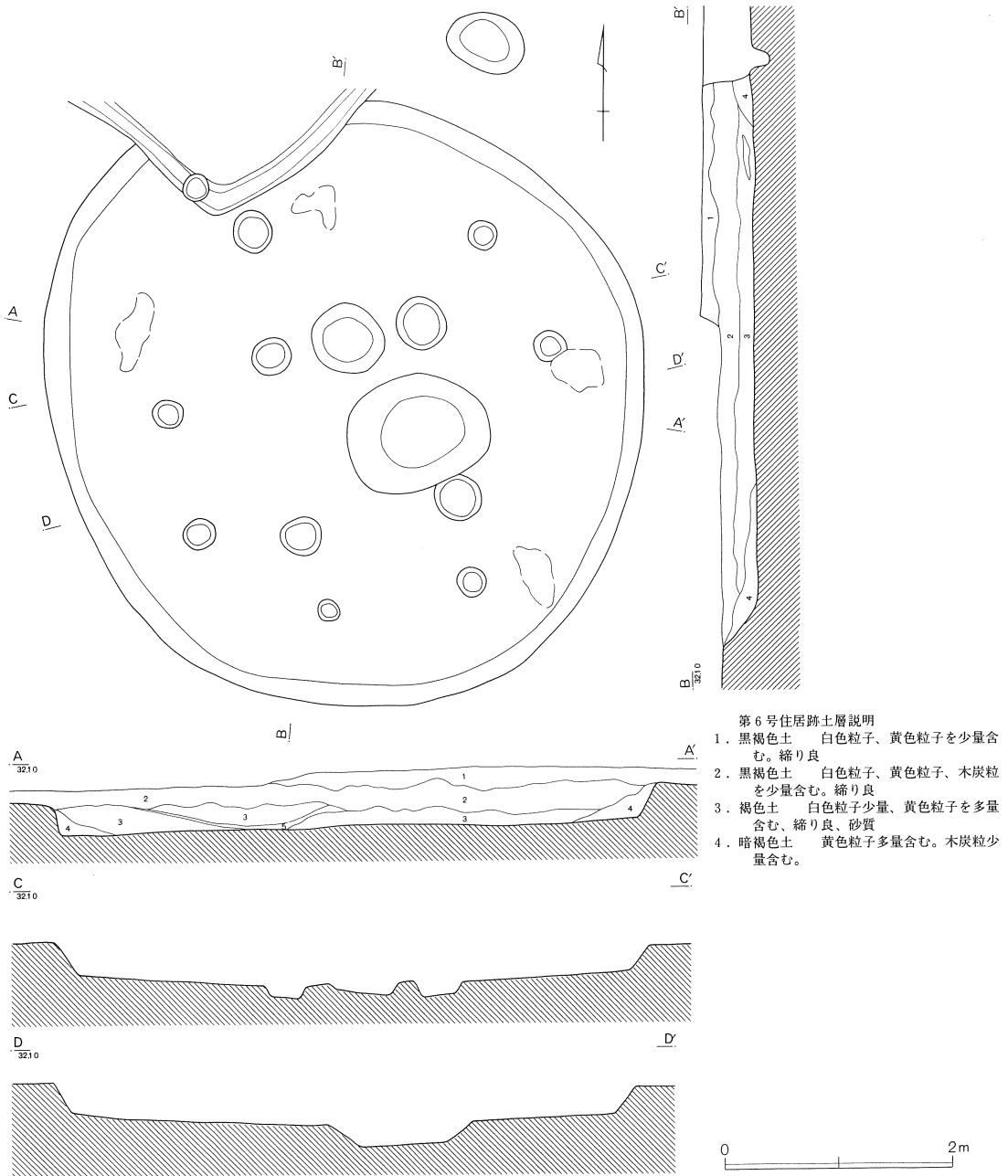
モー261グリッドに位置する。重複関係は、北側を第92号住居跡によって破壊されているが、比較的明瞭に確認された住居跡である。長軸5.61m、短軸5.15mを測る。やや不正円形の掘り込みで、床面には、柱穴を含めた掘り込みが見られる。掘り込みの深さは、45cmと比較的深い住居跡である。床面には、小穴が、ほ



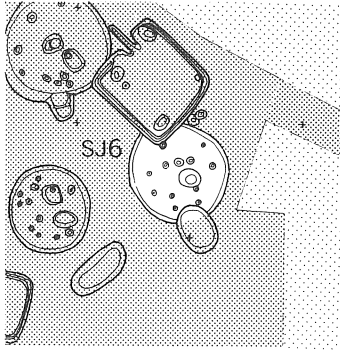
第23図 第5号住居跡

ば壁のラインにそって二重に確認されている。あるいは中心の四本の柱穴は、支柱穴になるの
 だろうか。中央に2箇所の土壇状の掘り込みがあり、大きい掘り込みには、焼土の堆積層が確認され
 ていることから炉跡と考えられる。

とくに付属するほかの施設は見られず、この遺跡のなかでは一般的な住居跡といえよう。床面に



第24図 第6号住居跡



第25図 位置図

掘り込みの深さは、20cmと比較的浅い住居跡である。焼土の粒子が、堆積層の一面に確認されているが、明確な炉跡と考えられる遺構は確認されなかった。

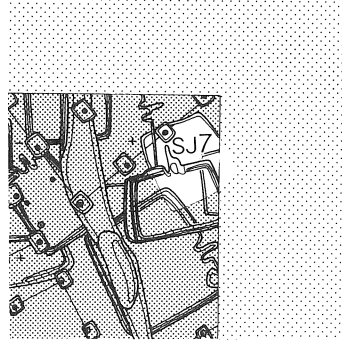
第8号住居跡（調査時C2区63号住居跡）

ミー279グリッドに位置する。重複関係は、西側を第13・96号住居跡、東側を第33号住居跡によって破壊されているが、

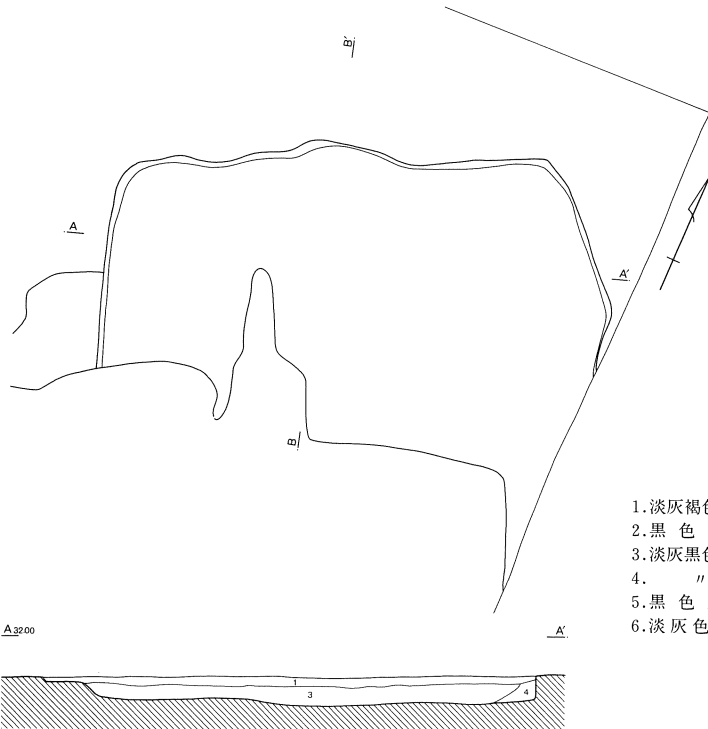
は草木根による攪乱がある。

第7号住居跡（調査時C2区24号住居跡）

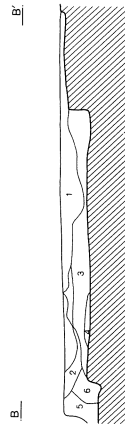
シー265グリッドに位置する。重複関係は、南側を第152号住居跡によって破壊され、遺構全体の形状は不明である。遺構の規模は不明確ながら、長軸4.00m以上の不正方形と考えられる。床面には、柱穴等の掘り込み状の遺構は見られず、また壁面のラインも一定していない。



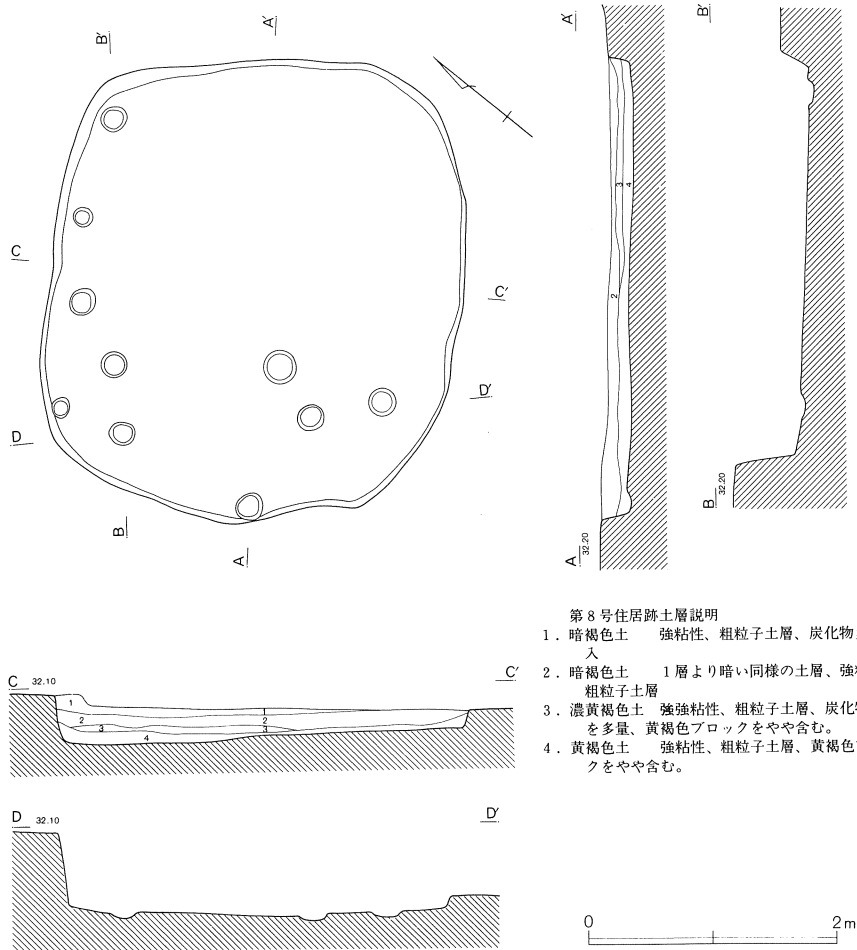
第26図 位置図



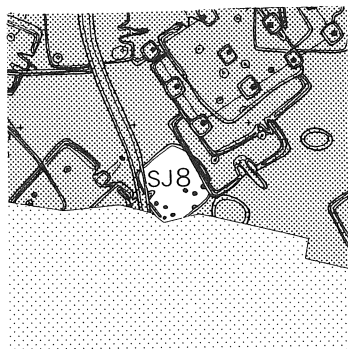
- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 淡灰褐色土層 | 粘性強く粒子粗い、土器片多数 |
| 2. 黒色土層 | 炭化物を多量に含む焼土層 |
| 3. 淡灰黒色土層 | 粘性強く粒子粗い |
| 4. " " | 粘性弱く、粒子細かい |
| 5. 黒色土層 | 炭化物層 |
| 6. 淡灰色土層 | 粘性強く粒子粗い |



第27図 第7号住居跡

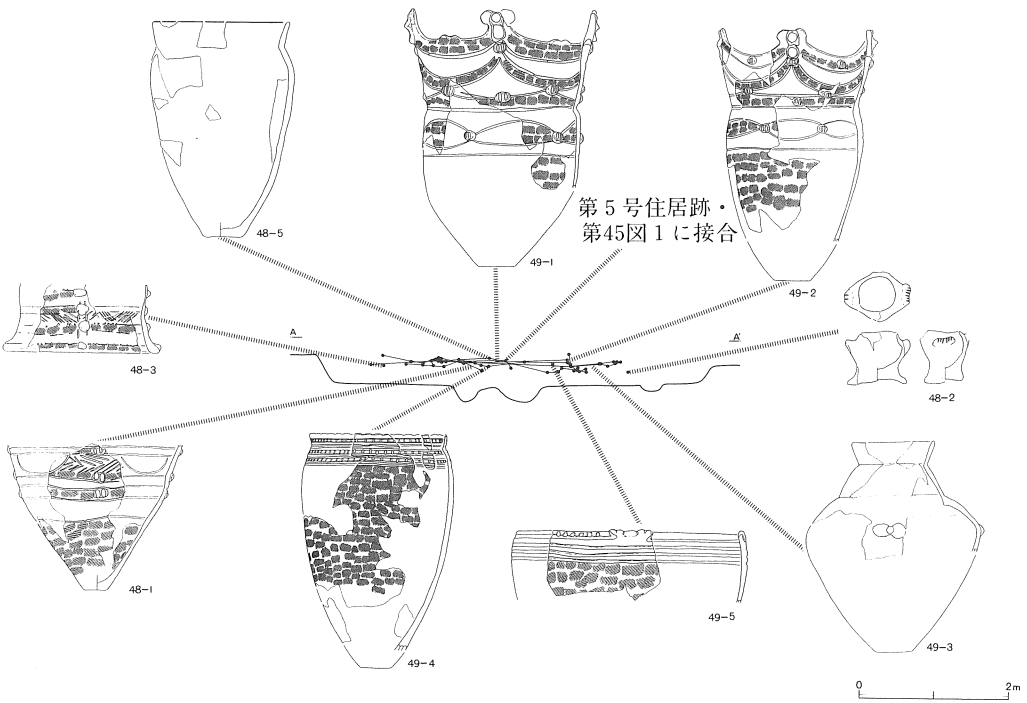
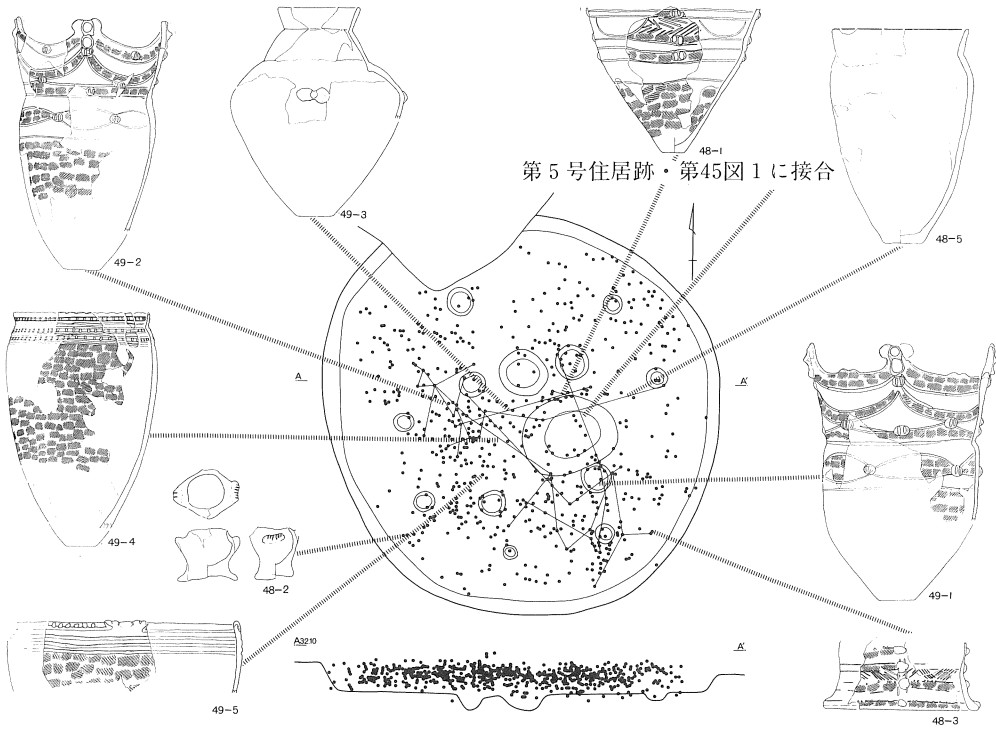


第28図 第8号住居跡



第29図 位置図

遺構全体の形状は分かる。長軸3.28m以上の不整形と考えられる。床面には、小さな柱穴が、壁面にそって確認されている。壁面のラインは、一定していない。掘り込みの深さは、20cmと比較的浅い住居跡である。焼土の粒子が、堆積層の一面に確認されているが、明確な炉跡と考えられる遺構は確認されなかった。



第30図 第6号住居跡遺物出土状態

(3) 遺構各説 一遺物出土状態一

本来は全ての遺構について、遺物の出土状態の作図・解説を行えば良いのであるが、先にも記したように古墳時代の遺物との切りあい関係が激しく、良好な状態での遺物の取り上げ等ができなかった。今回ここに図示したのは、比較的切りあい関係の少なく、出土遺物の豊富だった第6号住居跡である。なお第2・3・4・5・6号住居跡については、出土遺物全点の出土地点の記録は保存されている。

ここに図示したのは、第6号住居跡出土の縄文土器の出土状態である。ほとんどが、床面から浮いた状態で一定のレベルで出土している。第48・49図に図示した完形個体に近い出土土器は、土器片の接合関係も含めて検討を行なった。また第48図一3に示した土器は、第4号住居跡の覆土中の土器と接合関係をもつ。

そのほかに竪穴式住居跡の遺物の出土状態で特筆すべきは、第4号住居跡の張り出し部分の手前で確認された自然石と土器と石剣である（写真図版4参照）。張り出し部の手前に大形の自然石が置かれ、その横には、小形の第43図一1の土器が横倒しの状態で出土している。さらにそのかたわらには、第59図一4の石剣が床面に突き刺さった状態で出土している。この張り出し部がどのような機能を果たすか明らかではないが、土偶等の第4号住居跡のそのほかの出土遺物とともに考えていく必要がある。

(4) 遺構各説 一土壌一

新屋敷東遺跡の縄文時代の土壌は、17基確認されている。基本的には円形ないしは楕円形の摺り鉢状の土壌である。覆土は、細かなやや粘性のある砂粒状の土で構成されている。土壌は、調査区の中央部でしかも東側に緩く傾斜する地点で多く確認されている。これらを見ると、竪穴式住居跡群と土壌群が、やや異なった場所に占地していたことが分かる。

遺構確認面が、先にも記したように自然堤防のために細かな砂で形成されていることから、確認・精査作業は大変困難であった。

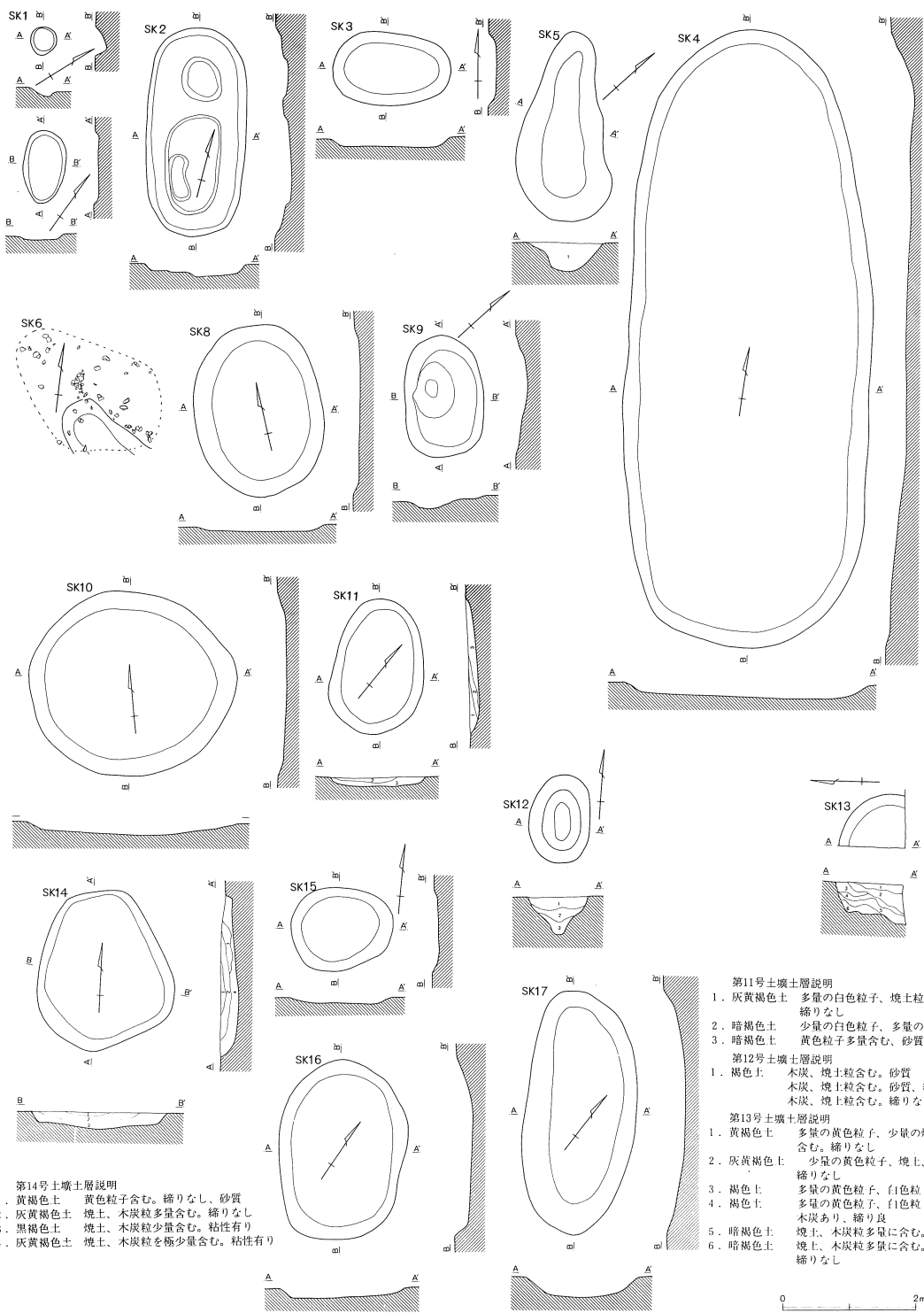
以下特徴的な土壌について若干記しておきたい。第4号土壌は、東によったところで確認された遺構で、9.2m×3.7mを測る長大な遺構である。しかし掘り込みは浅く、確認面からは20cm前後である。遺物はほとんど確認されていない。当初住居跡として調査していたが、遺物が少ないことや明瞭な床面の出てこないことなどから土壌として扱った。

(5) 遺物各説 一縄文時代後・晩期の出土土器一

第1号住居跡出土土器（第32図～第35図6）

後期前葉の堀之内1式がほとんどで、後期中葉、後葉の土器がごく少量認められる。

第32図の土器は胴部が張って、括れ部を有し、括れ部から口縁部に向かって外反する形態のものである。1～13、16は口縁部に一条の沈線を巡らせる口縁部の破片である。1はほぼ全体を知り得るが括れ部にも装飾なく無文である。5は括れ部に二条の沈線を巡らせる。6～13、16は突起が施



- 第14号土層説明
1. 黄褐色土 黄色粒子含む。締りなし、砂質
 2. 灰黄褐色土 焼土、木炭粒多量含む。締りなし
 3. 黒褐色土 焼土、木炭粒少量含む。粘性有り
 4. 灰黄褐色土 焼土、木炭粒を極少量含む。粘性有り

- 第11号土層説明
1. 灰黄褐色土 多量の白色粒子、焼土粒子含む。締りなし
 2. 暗褐色土 少量の白色粒子、多量の焼土含む
 3. 暗褐色土 黄色粒子多量含む、砂質である。

- 第12号土層説明
1. 褐色土 木炭、焼土粒含む。砂質
 - 木炭、焼土粒含む。砂質、締りなし
 - 木炭、焼土粒含む。締りなし

- 第13号土層説明
1. 黄褐色土 多量の黄色粒子、少量の焼土、木炭含む。締りなし
 2. 灰黄褐色土 少量の黄色粒子、焼土、木炭含む。締りなし
 3. 褐色土 多量の黄色粒子、白色粒子含む。
 4. 褐色土 多量の黄色粒子、白色粒子含む。木炭あり、締り良
 5. 暗褐色土 焼土、木炭粒多量に含む。締り良
 6. 暗褐色土 焼土、木炭粒多量に含む。砂質。締りなし

0 2m

第31図 土層

されている。6～9は沈線と円文が施され、9は波頂部下に隆帯を垂下させている。10、11の口縁部の円文は貫通している。12は突起下に沈線と円文、13、16は隆帯を垂下させている。14、17、18は括れ部の破片である。8の字状の貼付が施されている。19～22は胴部破片である。地文は縄文で、多条の沈線を弧状に施している。20は隆帯を施している。15は他とは形態を異にするもので、波頂部を若干欠損している。二条の隆帯が垂下しており、斜沈線等が施されている。

第33図1～3も括れ部を有する形態の深鉢形土器。地文はなく、沈線のみである。4～9は胴部が緩く張る形態のもの。地文縄文上に縦位の沈線、斜位の沈線等を施す。10～13は緩く内湾する形態のもの。10、12、13は鉢形土器であろう。14～20は粗製の深鉢形土器である。14は細沈線を垂下させる。15、16は無文のもの。18～20はLRの縄文を横位に施している。

第34図1の無文の口縁部が外傾する深鉢形土器である。第34図2は地文に縄文を施すもので、やや内湾する形態、口縁部に一条沈線を巡らせる。第34図3は半円形の沈線文を口縁部に施している。

第34図4～18は底部から口縁部にかけて直線的に推移する形態のもの。4～13は曲線的なモチーフを施す。14～18は沈線を多条に施し、三角形の区画文をモチーフにしている。

第34図19は波状縁の土器で口辺部に矢羽根状沈線を施す。加曾利B3式、第34図20～22は内湾する口縁部形態を持つもので、20、21は無節のL、22は三条の横線を施している。曾谷式。第35図1～6に底部の破片をまとめた。

第2号住居跡出土土器（第35図7、8 第36図）

堀之内2式がほとんどで、加曾利B1式を若干含む。

第35図7は注口土器で、1/6以下の残存度である。器面は摩滅しており、縄文施文の有無は明確でない。第35図8は単純な形態の深鉢形土器である。無節Rを施す。1/3残存。

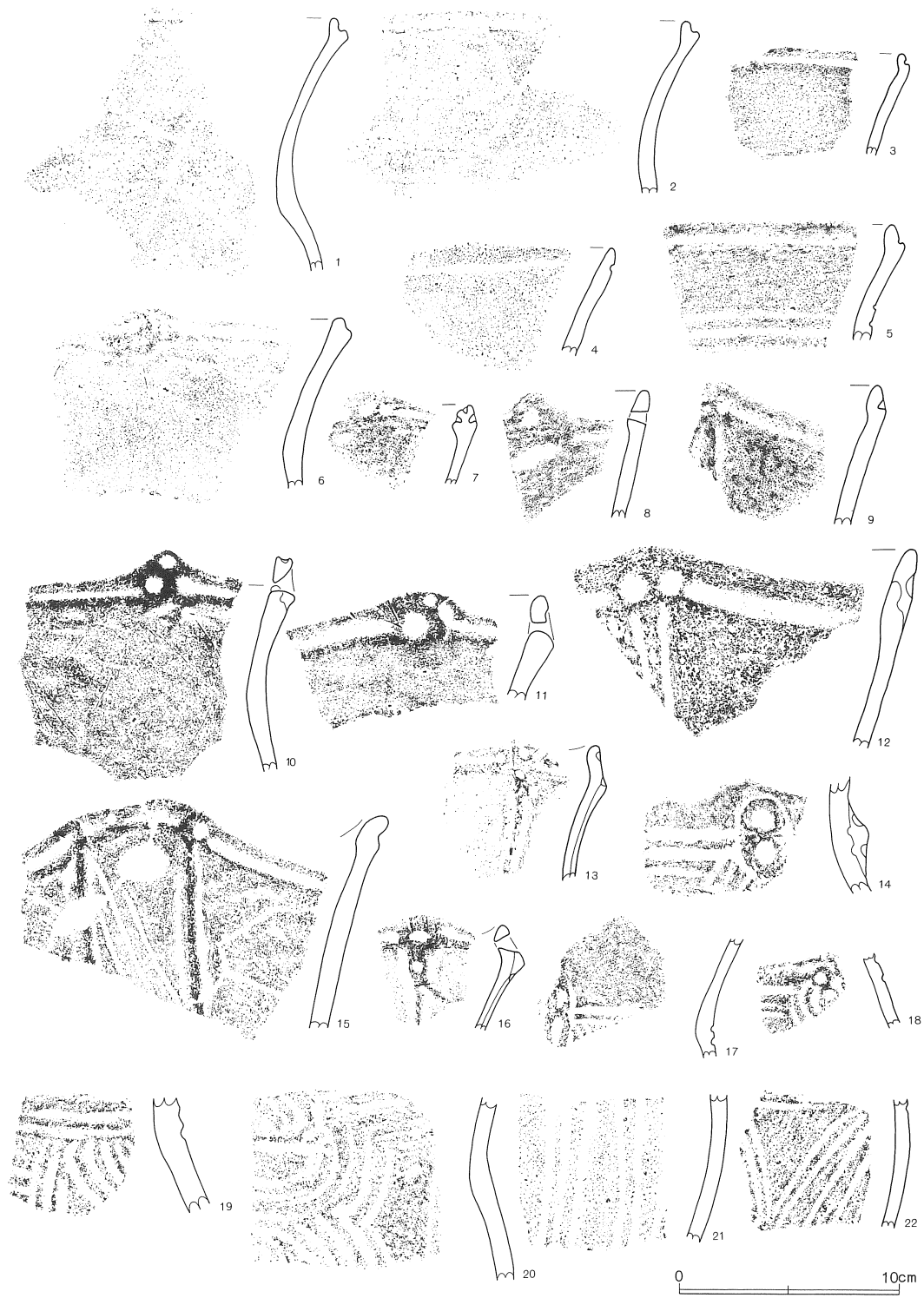
第36図1～4、6～12は底部から口縁部へ外反気味に推移するもので、いわゆる朝顔形の形態を呈する堀之内2式の深鉢形土器である。横位の沈線区画の内部に三角形状のモチーフ等を施している。5は胴部が僅かに張る形態のもので横位の沈線区画内部に渦巻状のモチーフを施している。第36図13～20は無文の粗製土器である。口縁部近くで円みを帯びて直立的になる形態のものが主体である。21は指ナデによる調整痕が顕著である。22、23は格子目状の沈線文を施す土器である。24、25は注口土器の胴部破片である。26は小形の鉢形土器である。口縁部に沈線と刻みを、体部には並行沈線を施している。23、25、26は加曾利B1式。

第3号住居跡出土土器（第37図、第38図）

曾谷式、安行1式が出土している。

第37図1～8、10を括れ部を有し、口縁部がくの字状に内傾する形態の深鉢形土器である。

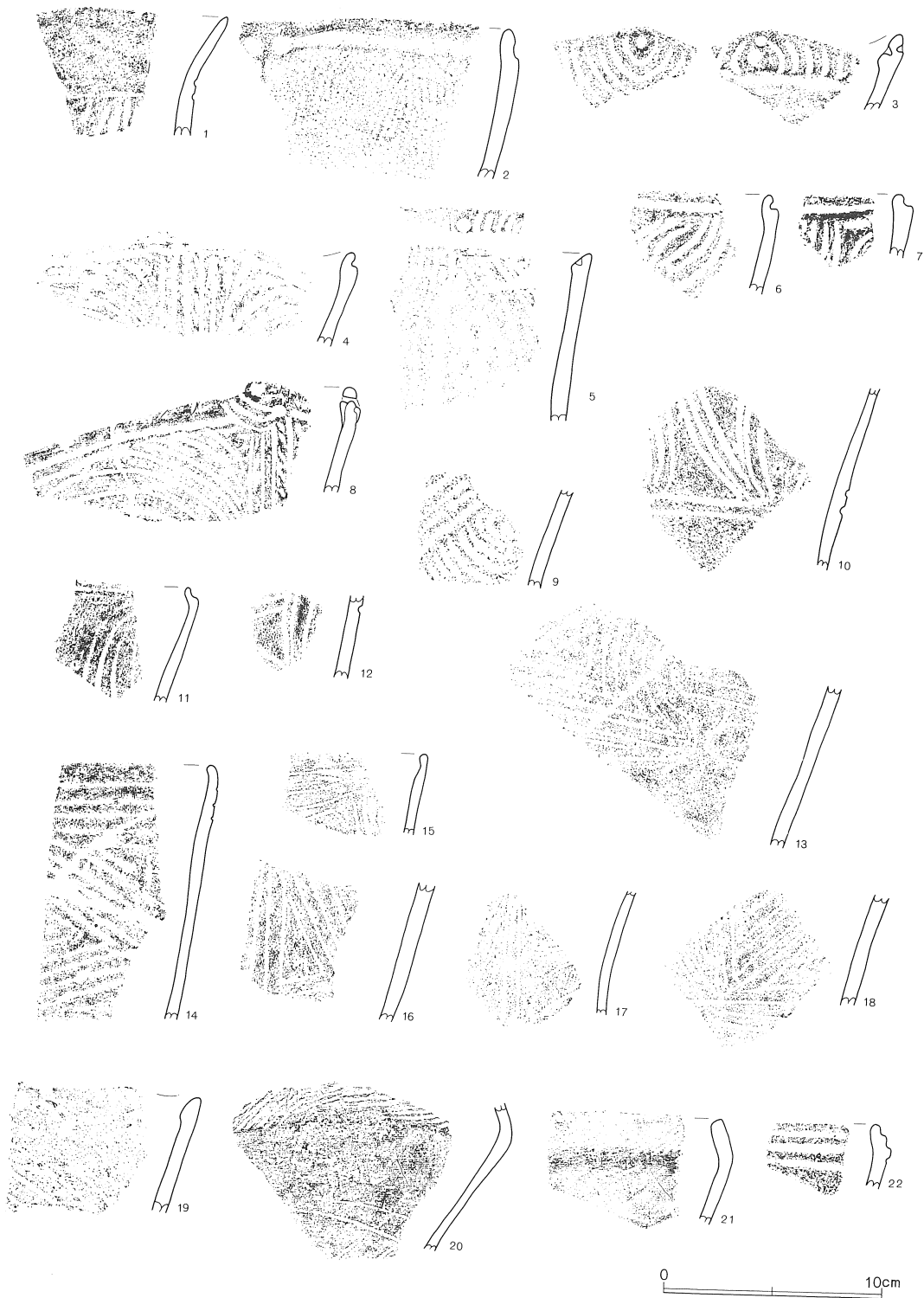
1～8は平口縁のもの。1は口縁部に無節L、8は二条の横線を施しており、それ以外は無文である。10は波状縁土器の波頂部である。口縁部には二条の沈線と無節Lを施す。波頂部には縦長の貼付文を施している。第37図9は口縁部に横線とコブを施す平口縁深鉢形土器である。いずれも曾谷式。



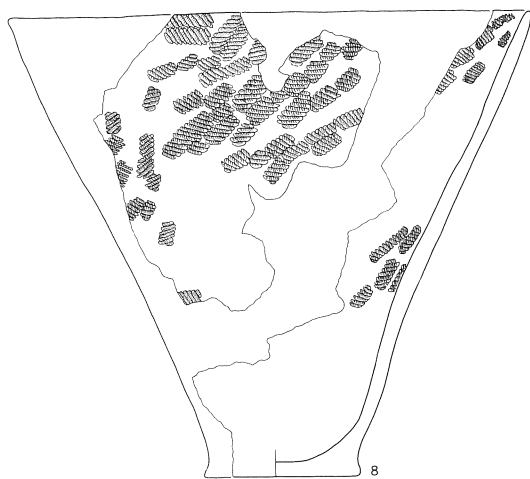
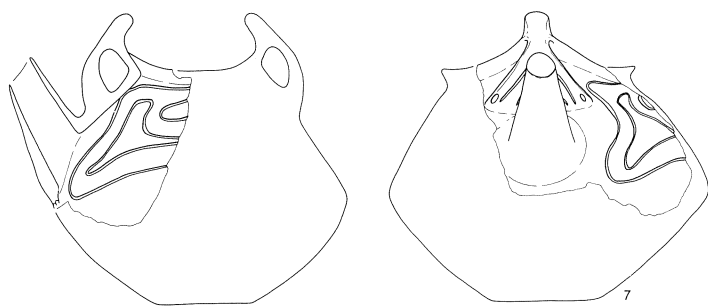
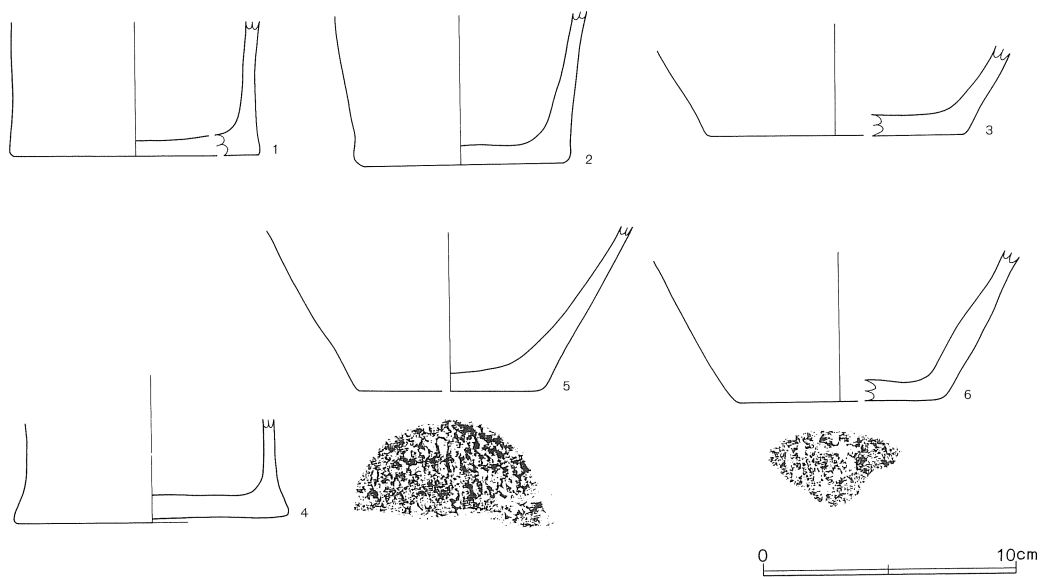
第32图 第1号住居跡出土土器(1)



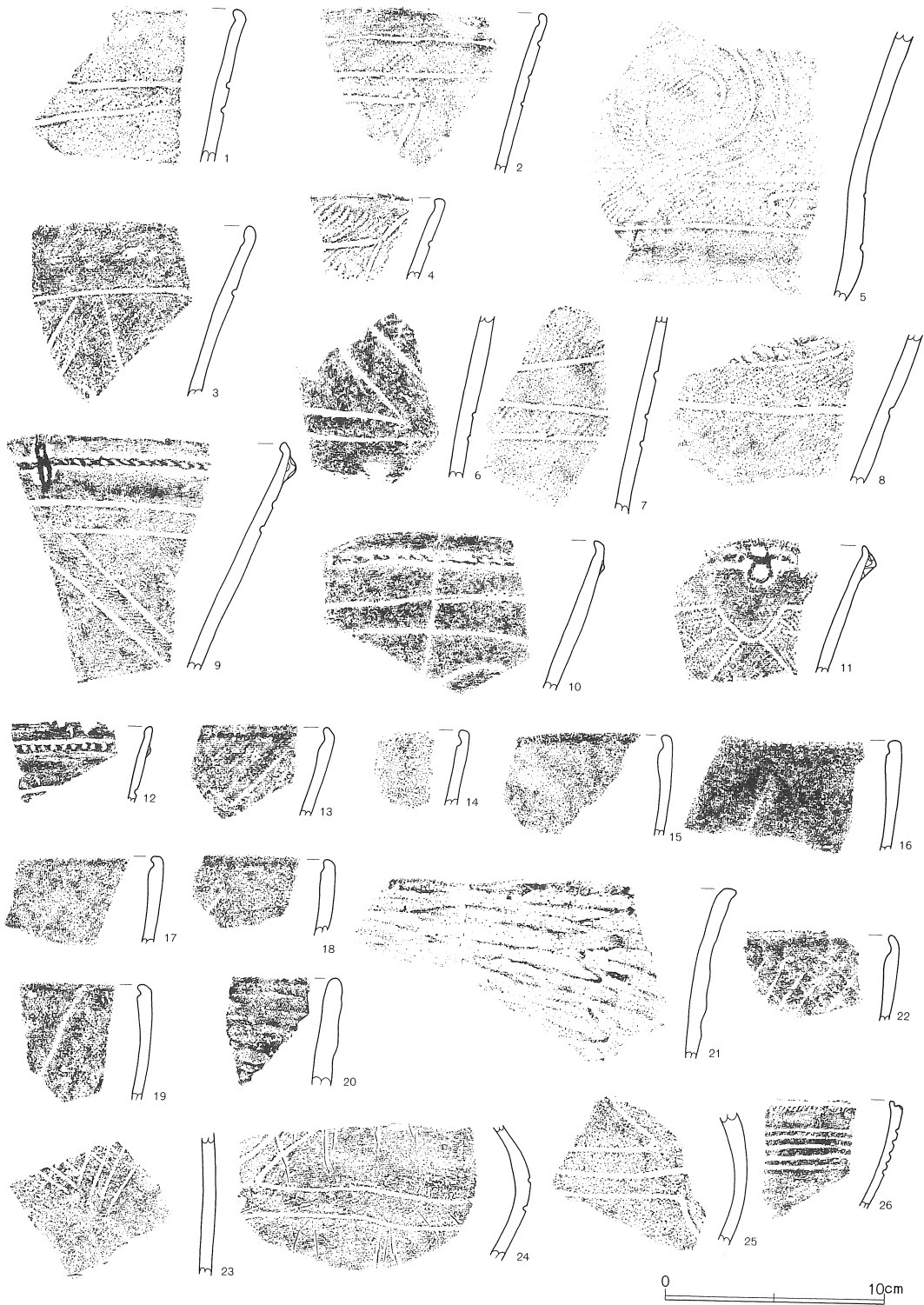
第33图 第1号住居迹出土土器(2)



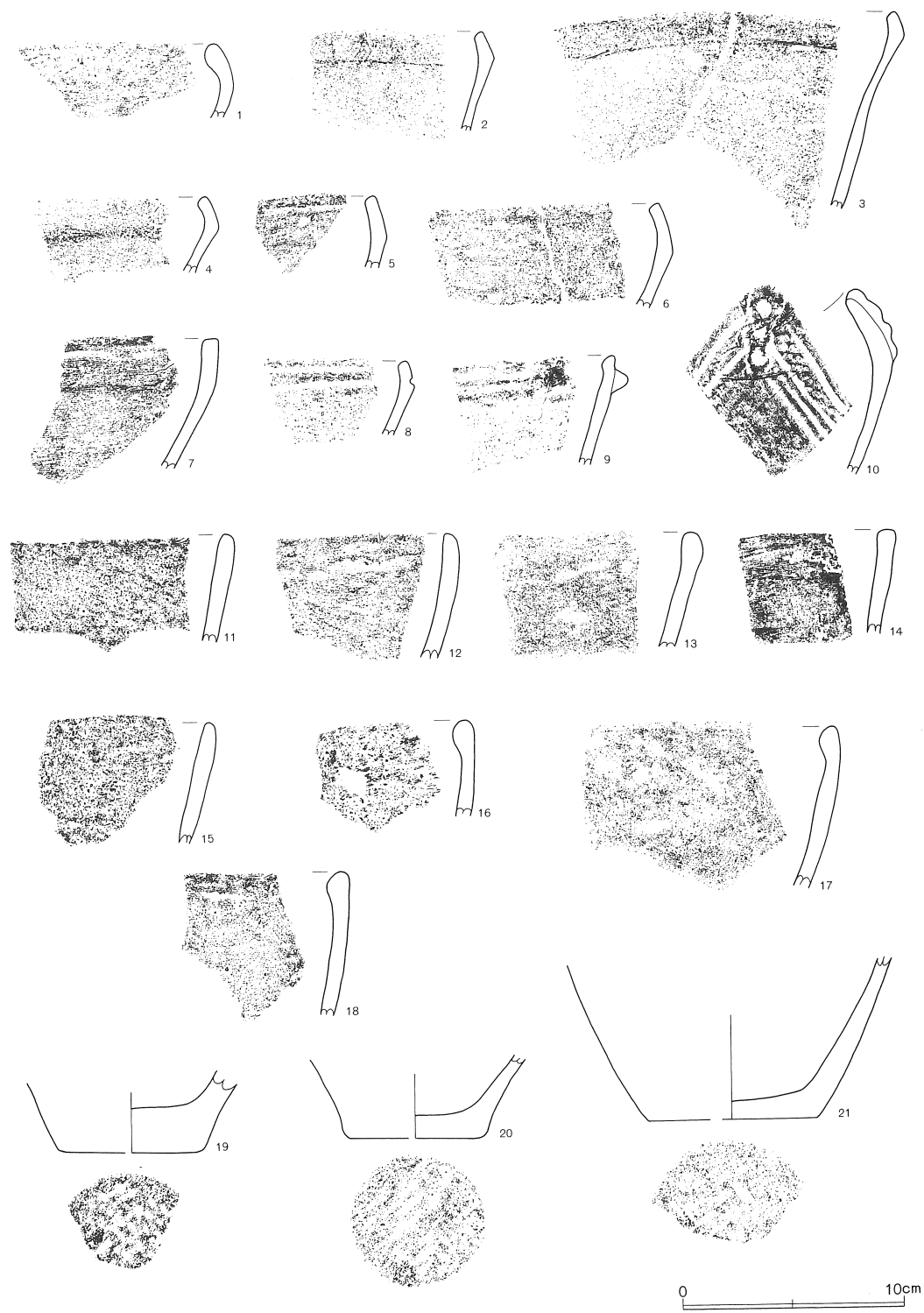
第34图 第1号住居跡出土土器(3)



第35图 第1(4)·2(1)号住居迹出土土器



第36图 第2号住居跡出土土器(2)



第37图 第3号住居跡出土土器(1)



第38図 第3号住居跡出土土器(2)

第37図11～18は底部付近から口縁部にかけて直線的に、あるいは口縁部付近でやや円みを帯びて推移する単純な形態の無文の粗製深鉢形土器である。第37図19～21、第38図2は深鉢形土器の底部である。21の底部圧痕は二本超え・一本潜り・一本送りの網代と判別できる。

第38図1は括れを有する安行1式の平口縁深鉢形土器である。口縁部文様帯に横線とコブ、頸部と胴部に弧線文による磨消縄文が配されている。1／6程度の残存度である。

第4号住居跡出土土器（第39図～第43図）

後期中葉、後葉の土器も若干含むが、晩期前葉の土器が主体である。

第39図1～22、26～29、第40図17、18、第41図4、6が後期の土器である。

第39図1～7は加曽利B式土器である。1、2は並行沈線を施した大形の鉢形土器。3、4は括れ部から口縁部へ大きく外傾する深鉢形土器。7はいわゆる算盤玉形の鉢形土器で口縁部は直立する。5、6は体部がはる形態の鉢形土器である。第40図17、18は釣手形土器の釣手の部分である。

第39図8～22、26～29、第41図4、6は曾谷式及び後期安行式である。第39図8～15は口縁部が内傾する形態の深鉢形土器である。8、10、11は平口縁で、10、11は無文、8はRLが施されている。9、12～15は波状口縁のもの。9は口縁部に縄文、12～15は隆帯、沈線が施されている。第39図16、17は口縁部が内湾する形態。16は横線とコブ、17は横線とRLの縄文を施す。第39図18、19は単純な形態の鉢形土器で、口縁部に横線と縦長のコブを施す。第39図20は緩い波状を呈する帯縄文の鉢形土器。第39図21はコブと横線を施した鉢形土器である。第39図22は深鉢形土器の胴部破片で弧線文による磨消縄文を施す。第39図26～29は口縁部が直立気味になる粗製の深鉢形土器である。条線が施されている。第40図1は口縁部が内湾する形態である。条線は施されない。晩期初頭か。第41図4は台付鉢形土器の台部である。コブ、刻文帯、円孔を施す。縄文はLRである。第41

図6は小形深鉢形土器の胴部である。弧線文により磨消縄文を配する。縄文はRLである。

第39図23～25、第40図2～16、19～23、第41図1～3、5、7、第42図、第43図は晩期前葉の安行式土器である。

第39図23は弧線と横線を施す平口縁深鉢形土器。第39図24は波状口縁の鉢形土器。口縁部に沿って、点列を施す。胴部には磨消縄文を配する。縄文はLR。第39図25は波状口縁の深鉢形土器で、口縁部に沿って弧線文を施す。

第41図1は全体が楕円形を呈する浅鉢形土器である。体部には三叉文を横位に連続させている。底部には「井」の字状に沈線文を施す。縄文はLR。ほぼ完形である。第41図2も浅鉢形土器である。4単位に口縁部の突起と玉抱三叉文を配する。完形品。第41図3は器壁の薄い小形品。無文である。第41図5は体部との境に隆帯をめぐらせている。横線によって磨消縄文を施す。縄文はLR。第41図7は注口土器。胴部は球形で、直立する口縁部形態。三叉文を横位に施す。完形品。

第40図2～16、第42図、第43図1、2は晩期前葉の粗製深鉢形土器である。第40図9～12は口縁部にコブを施す。第40図13～16は胴部で括れるもの。第42図、第43図2は口縁部が内湾する形態のものである。第42図1～3は口縁部に隆帯を巡らせている。体部は無文で輪積痕を残している。第42図1～3は1/6以下の残存度である。第42図4は口縁部の一部を欠くがほぼ完形。第42図5は1/2が残存。第43図2は1/6以下の残存度である。第43図1は底部から口縁部に丸みを帯びて推移し、口縁部が直立気味になる単純な形態の深鉢形土器である。4単位に突起を施している。上半部にLRの縄文を施している。完形である。

第40図19～21は注口部、22は台付鉢形土器の台部。第40図23、第43図3～8は底部の破片である。

第5号住居跡出土土器（第44図、第45図）

晩期前葉の土器が主体を占め、後期の破片を少量含む。

第44図1は朝顔形の深鉢形土器。堀之内2式。第44図2は加曾利B式の鉢形土器。3～6は口縁部が内傾する深鉢形土器である。3～5は平口縁で口縁部は無文である。6は波状口縁のもの。曾谷式。7は台付鉢形土器の台部である。安行1式。8は体部に縄文を施す曾谷式の鉢形土器。

第44図9～18、第45図は晩期前葉の安行3b式である。

第44図9、11は胴部が張り、口縁部が外傾する形態の深鉢形土器である。10も深鉢形土器の胴部で三叉文が施される。

第44図13、15、16、第45図5は粗製深鉢形土器である。5の残存度は1/6以下。第44図17～19は底部。18の圧痕は二本超え、二本潜り、一本送りの綱代痕である。19は木葉痕が認められる。

第45図1は胴部で括れ、口縁部付近でさらに括れを有し、口縁部が外傾する形態。口縁部には縄文を施す。括れ部を境にして横線を施し、文様帯を区画している。二つの文様帯はともに三叉文による入組文が施される。縄文はLRを施す。1/3残存する。第45図2は底部から胴部下半にかけての破片。胴部には入組文による磨消縄文が施される。縄文はLR。第45図3は小形の深鉢形土器で口辺部を欠損している。縄文はLRである。第45図4は波状口縁深鉢形土器である。波頂部間を

弧線文でつなぎ、磨消縄文を施す。波頂部下には三叉文、対向する三叉文を施す。1/6以下の残存度である。第45図5は口縁部が内湾する形態の粗製深鉢形土器である。口縁部に隆帯を施す。体部には輪積痕を残している。1/6以下の残存度である。

第6号住居跡出土土器（第46図～第50図）

晩期前葉の土器が主体を占めている。

後期の土器（第46図1～14、第47図3～6、第48図1、3）も見られるので先にこれらについてふれておく。第46図1は堀之内2式の深鉢形土器で、把手部の破片である。第46図2、3は加曽利B式である。2は体部のはる浅鉢形土器。3に口縁部が外傾する深鉢形土器である。4～13は曾谷式である。4～8、10、11は平口縁深鉢形土器で、口縁部に横線を巡らせる。9、13は波状口縁土器である。9は波底部の破片で隆帯が施されている。13は波頂部の把手部の破片である。12は口縁部が内湾する形態で、刺突とコブが施される。14は平口縁の深鉢形土器で、口辺部に斜沈線を垂下させ磨消縄文とするもの。安行2式である。15も同様だが晩期初頭か。第47図3～6は後期安行式の粗製土器で、口縁部刺突を巡らせ、体部に条線を施している。第48図1は帯縄文系の波状口縁深鉢形土器の胴部以下である。括れ部の屈曲は緩やかである。頸部文様帯には矢羽根状沈線と弧線文、胴部には縄文帯が施されている。縄文はRL。底部には一本超え、一年潜り、一本送りの網代痕が認められる。安行2式である。第48図3は帯縄文を施した台付鉢形土器の台部である。縄文はRL。安行1式である。

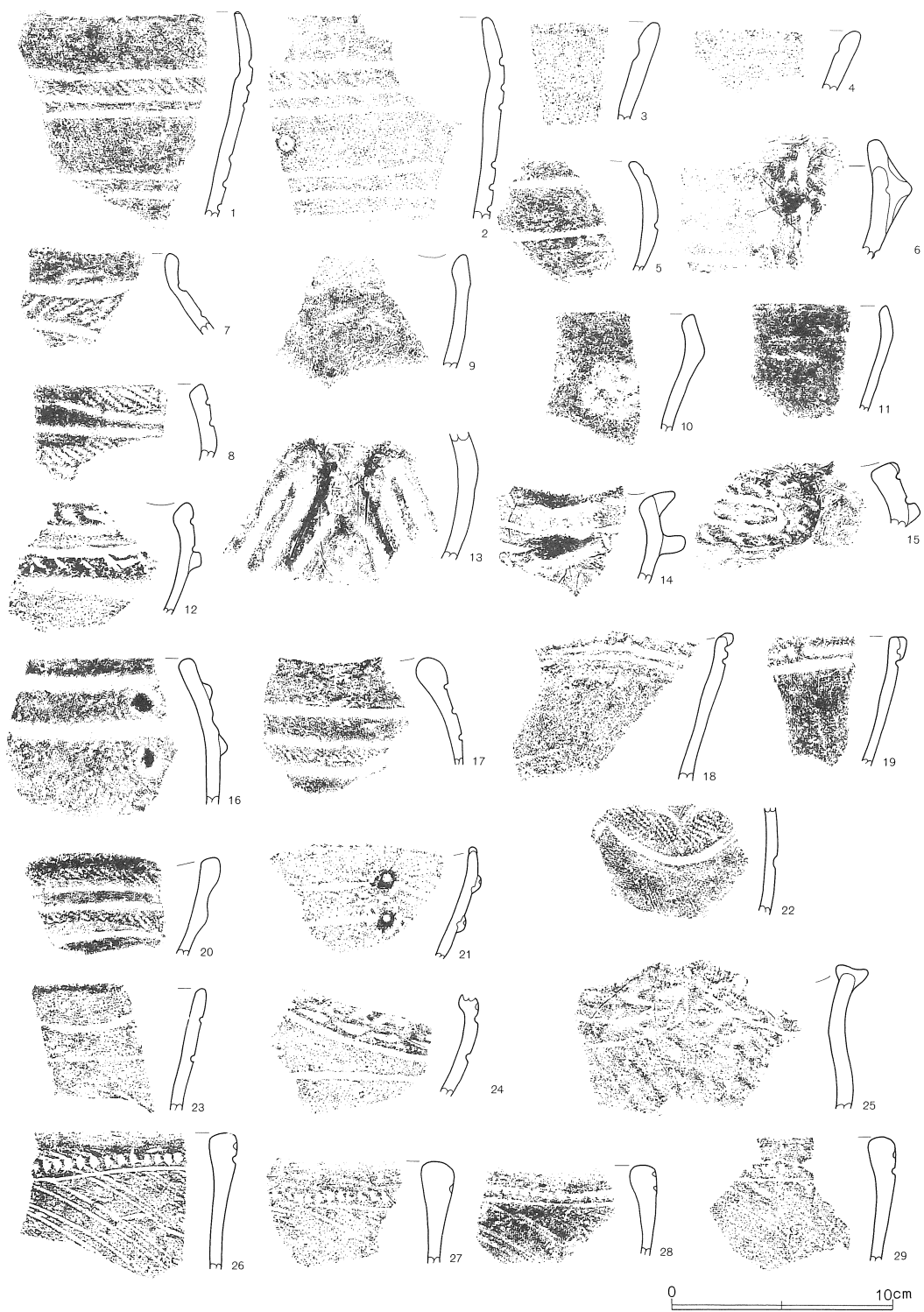
晩期前葉の土器（第46図16～23、第47図1、2、7～24 第48図2、4、5、6、第49図）は大形の破片も多く、精製土器もまとまっている。これらは当地域の安行3b式の構成を示す良好な資料と考えている。

第46図16、17、第49図1、2は後期以来の安行系波状口縁深鉢形土器である。第49図1、2は口辺部に弧線文による磨消縄文と括れ部直上の縄文帯によって三角形区画文を配する。胴部には弧線文によるレンズ状の磨消縄文を横位に連続させている。縄文はLR。要所にブタ鼻状の貼付を施している。4単位である。波頂部には縦長に貼付文を施す。1は波底部に突起を有する。1は1/2残存。2は1/3残存。

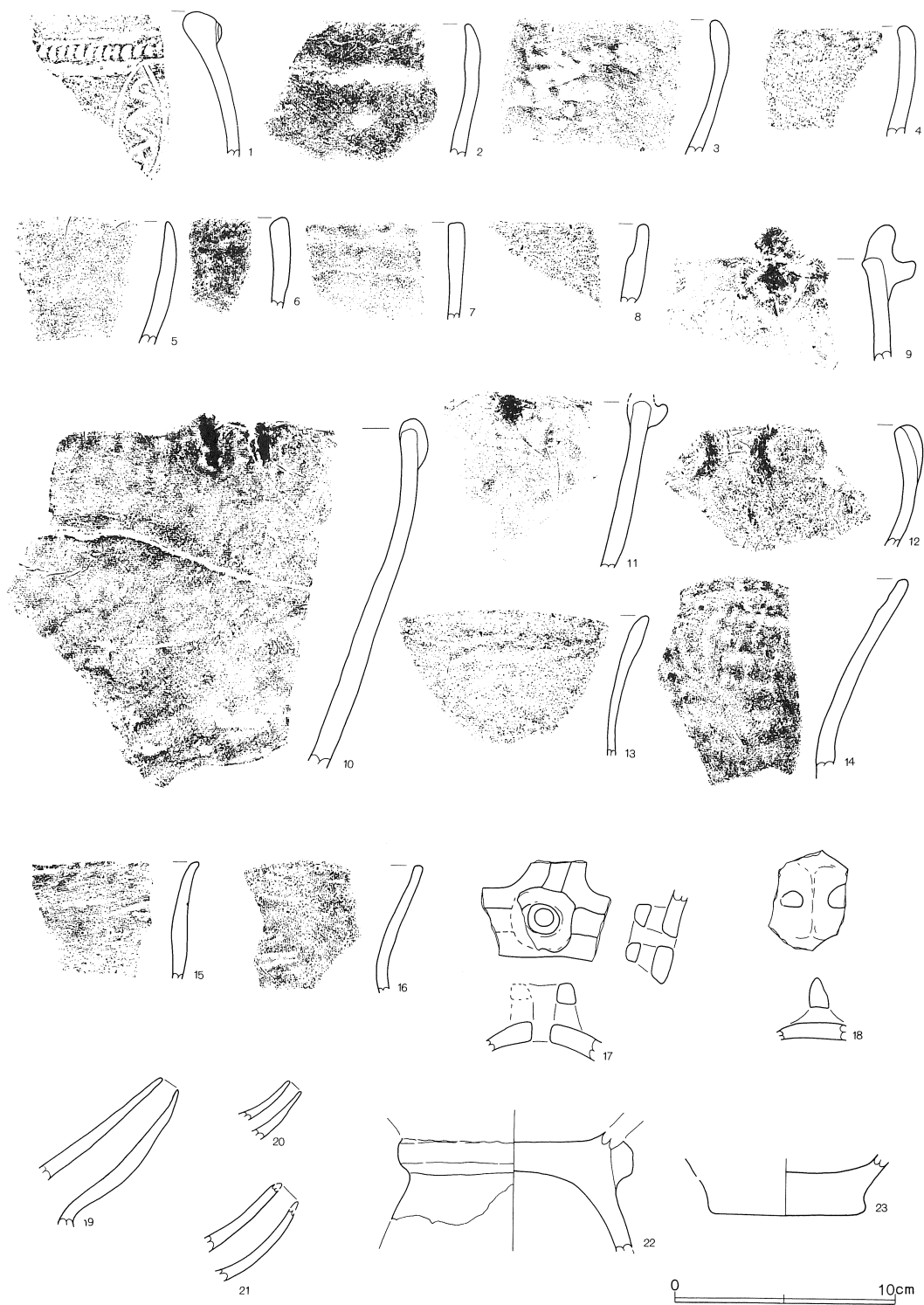
第46図18～21は胴部がはり、口縁部付近で括れ、口縁部が外傾する形態の平口縁深鉢形土器である。18、19のように三叉文による磨消縄文の入組文が施される。20、21は口縁部破片である。第46図22、23も平口縁の深鉢形土器である。弧縄文や三叉文を施し、磨消縄文を口辺部に配する。

第47図1、第50図13、14は注口土器である。1は無文の体部、13、14は注口部である。第47図7～24、第48図5、6は無文の粗製深鉢形土器である。第47図7～9は口縁部に隆帯を施す。第48図10は貼付文を施している。第48図5、6は口縁部が外傾する形態のもの。5はほぼ完形に近い。6は1/6以下の残存度である。

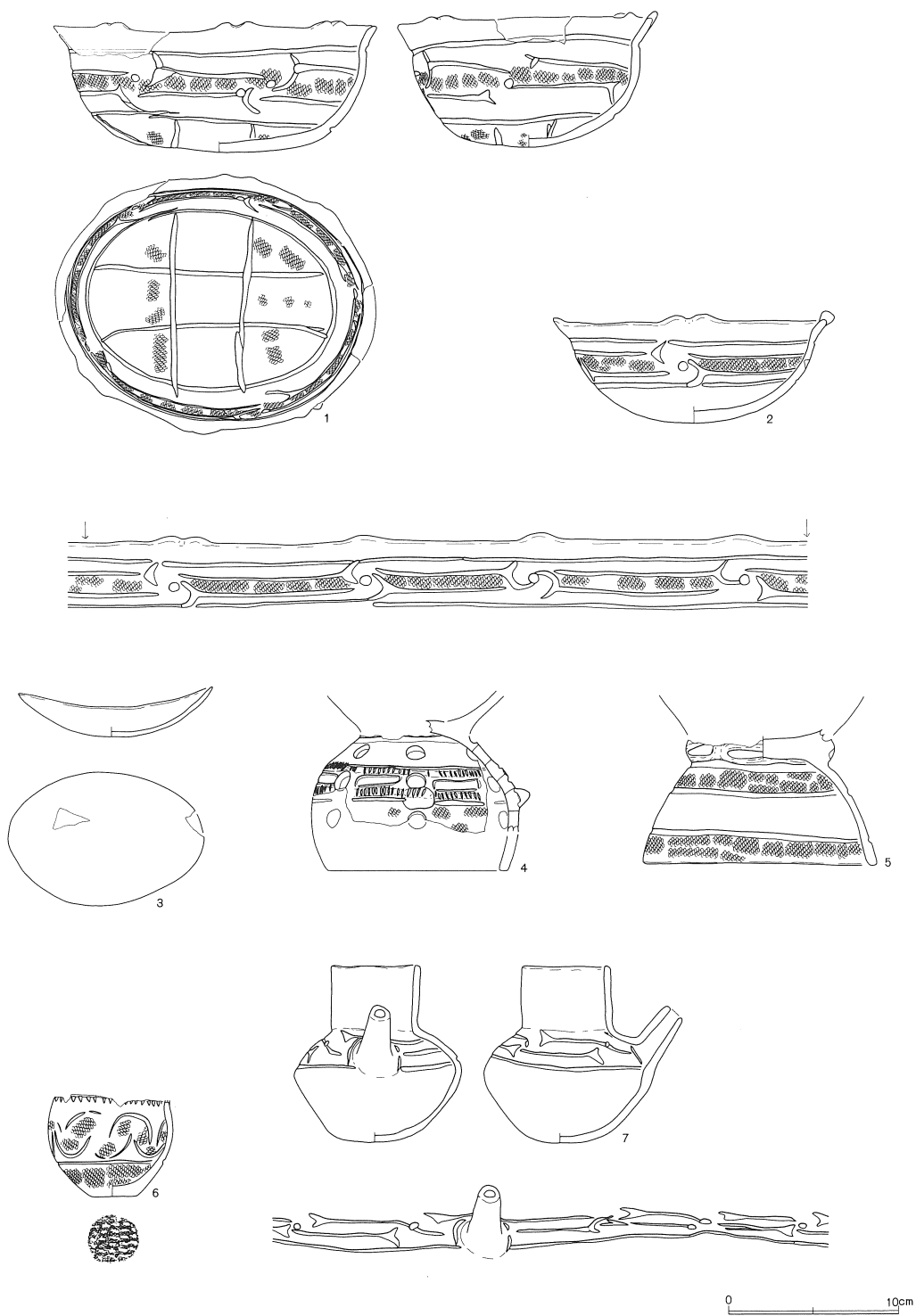
第48図2、4は台付鉢形土器である。2はコブ以外は無文で、やや粗雑なつくりである。小形で、完形に近い。4は外傾する口縁部に縄文を施す。体部には三叉文等により、入組状の磨消縄文を施している。縄文はLR。



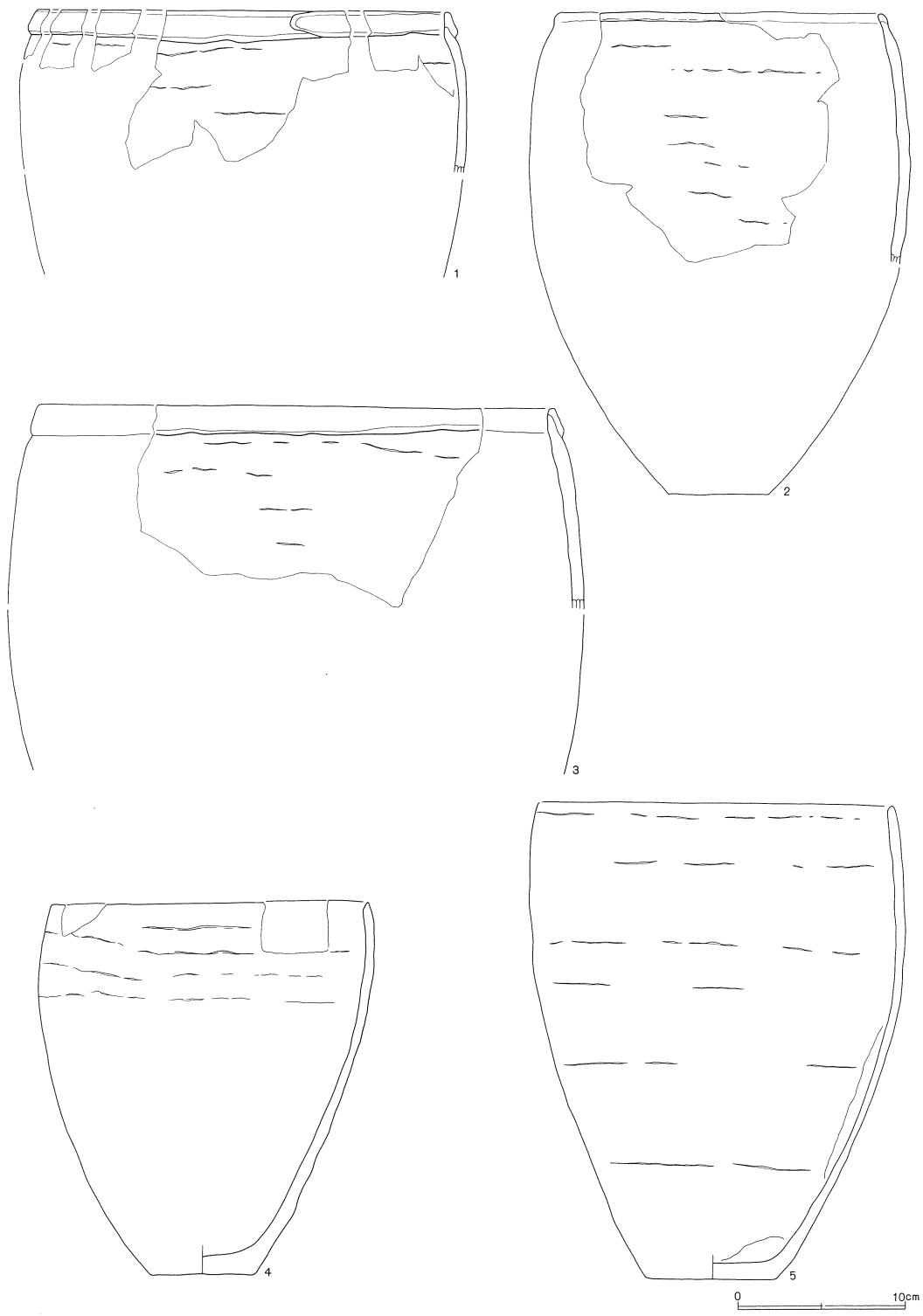
第39图 第4号住居跡出土土器(1)



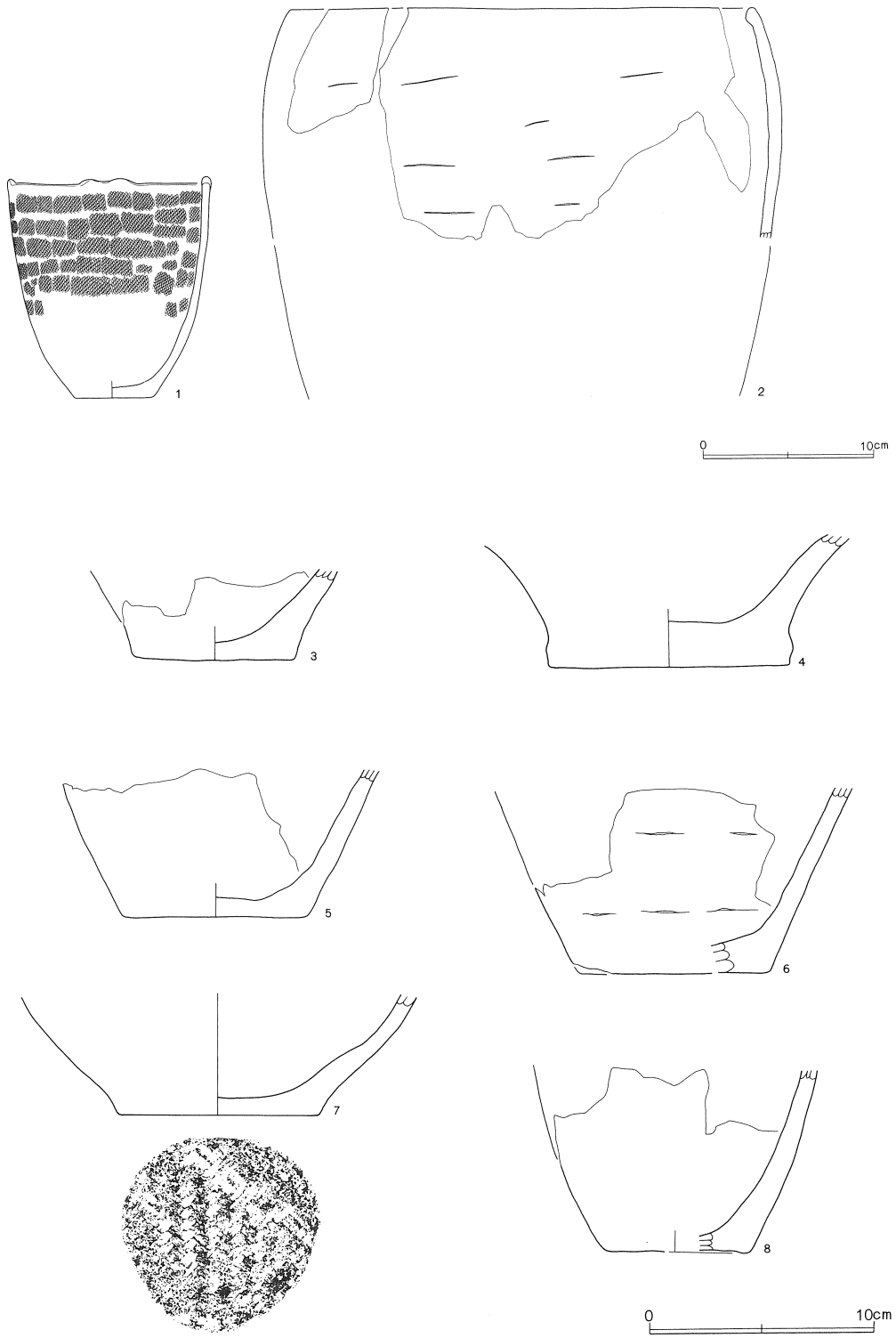
第40图 第4号住居跡出土土器(2)



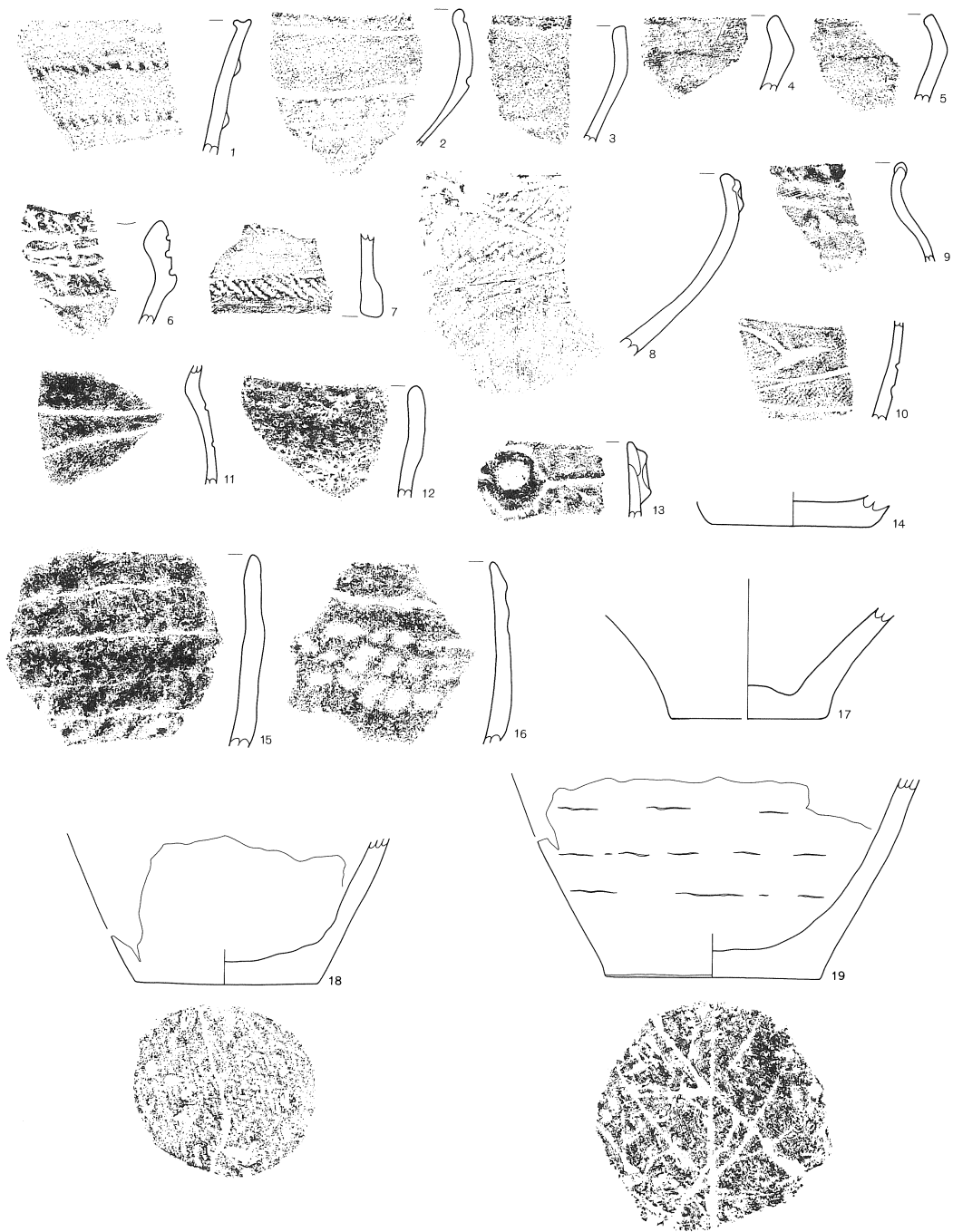
第41图 第4号住居跡出土土器(3)



第42图 第4号住居跡出土土器(4)

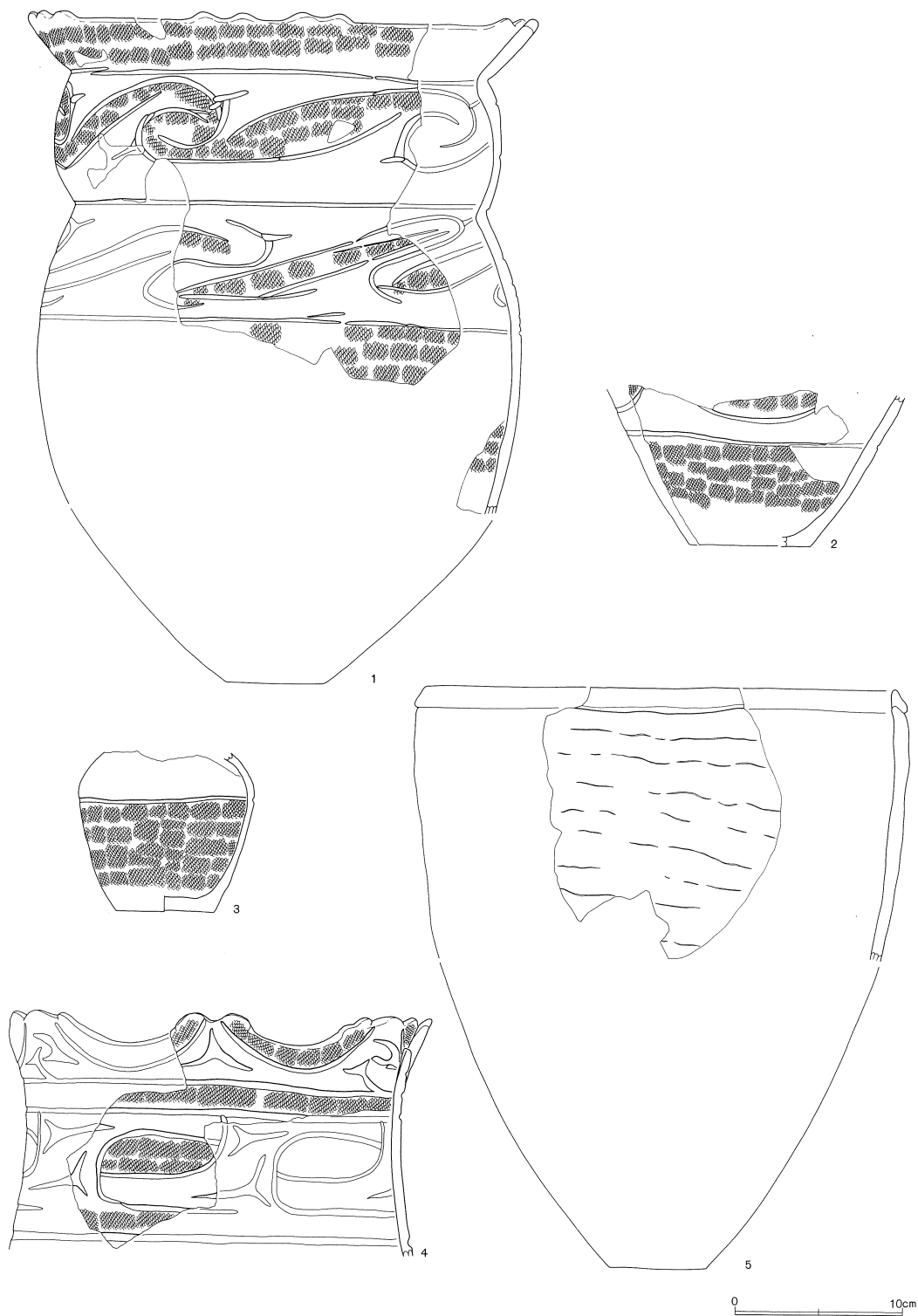


第43图 第4号住居跡出土土器(5)

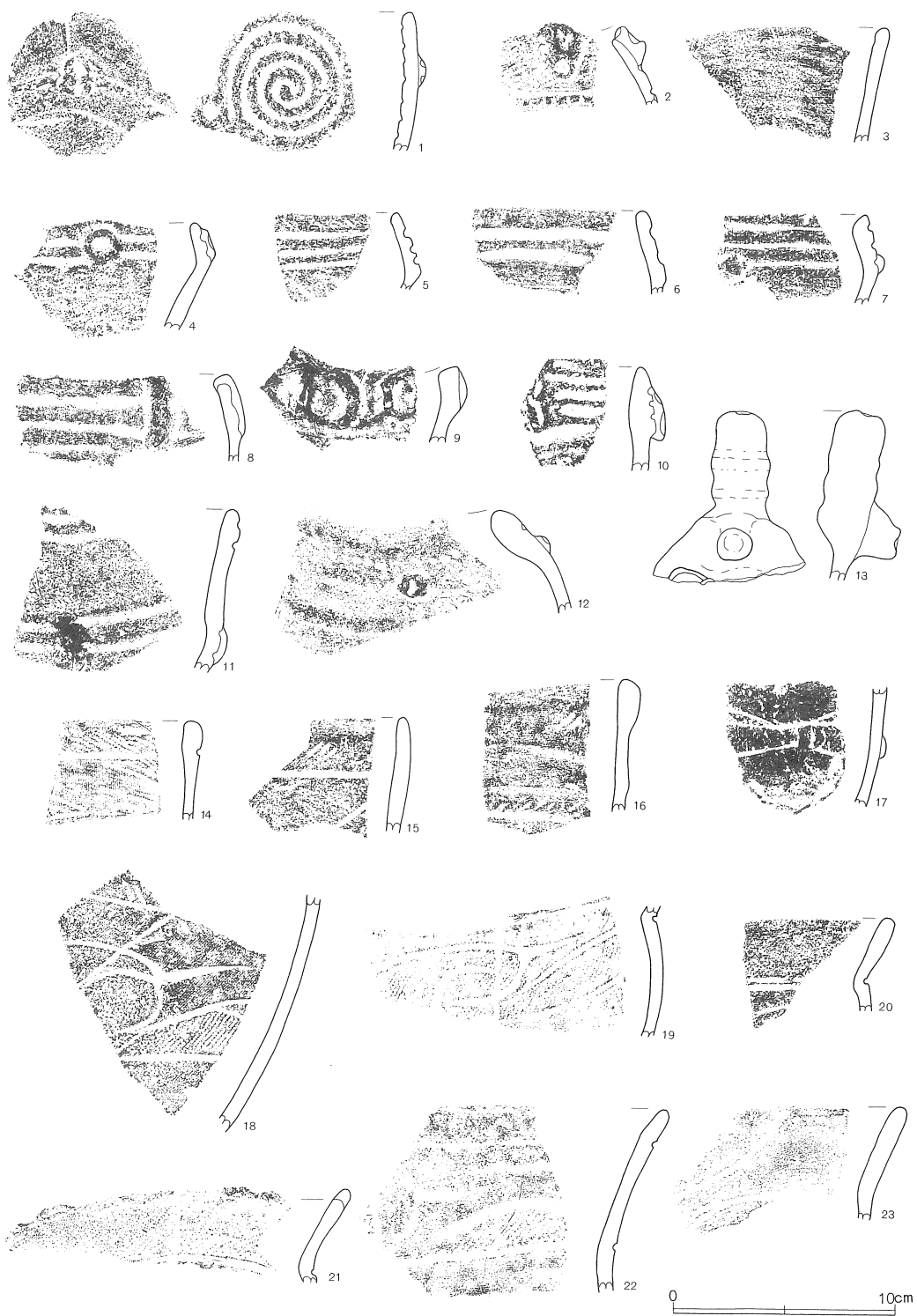


0 10cm

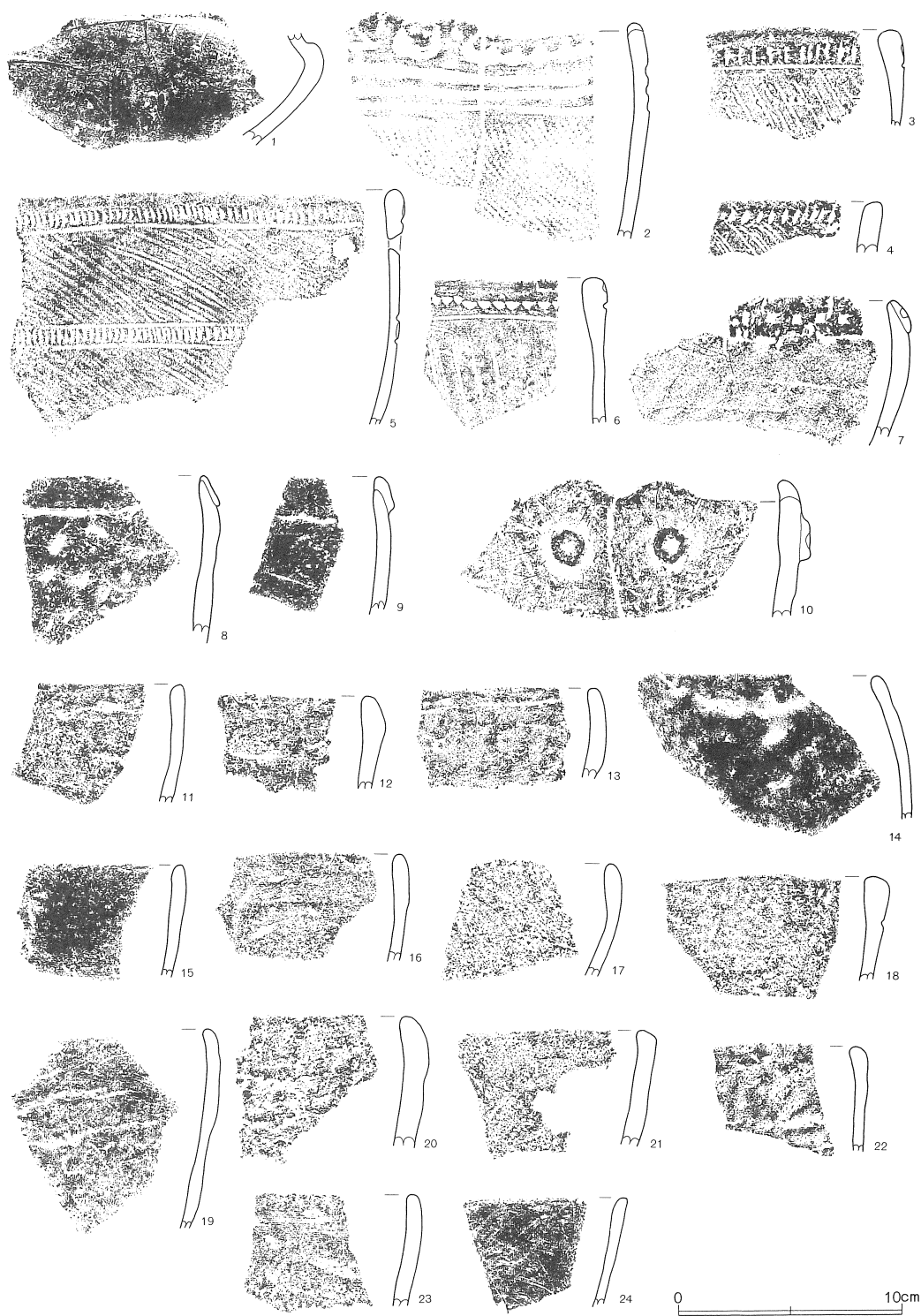
第44图 第5号住居跡出土土器(1)



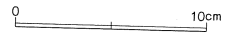
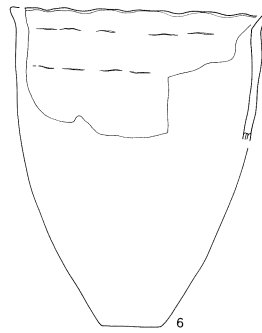
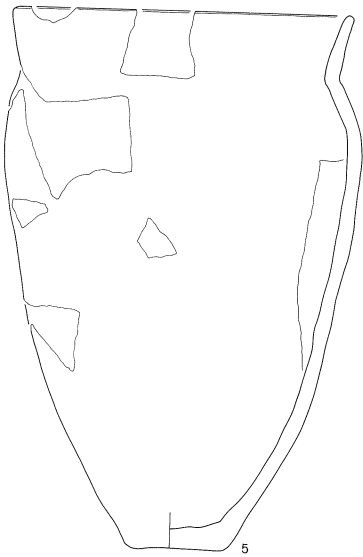
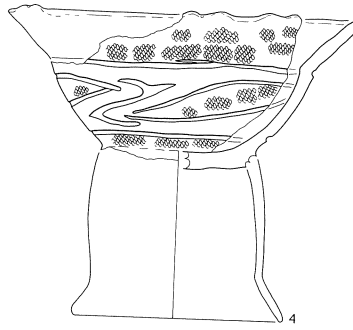
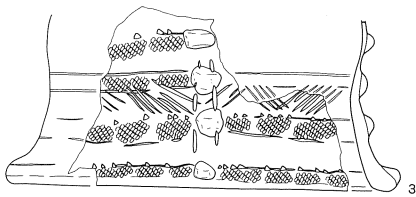
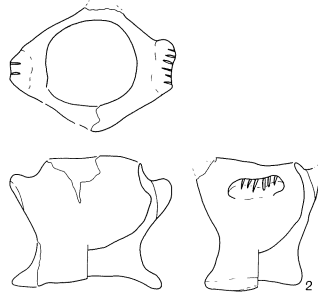
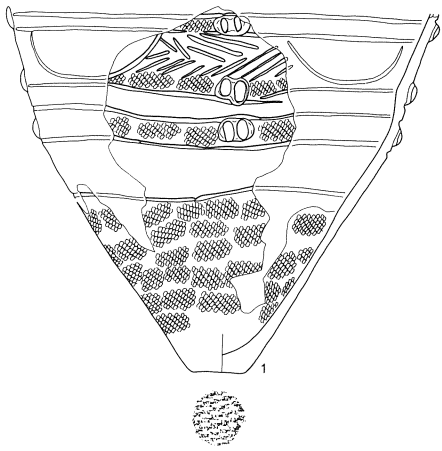
第45图 第5号住居跡出土土器(2)



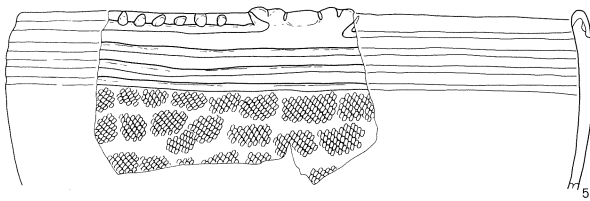
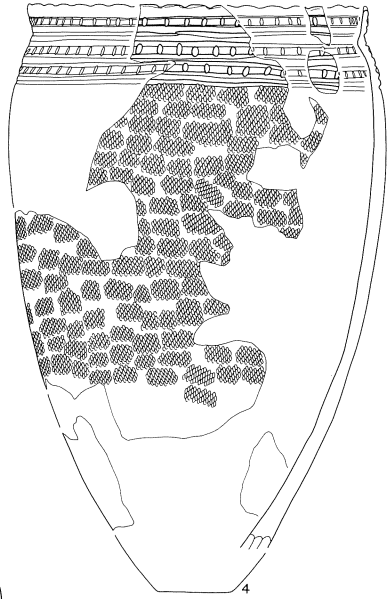
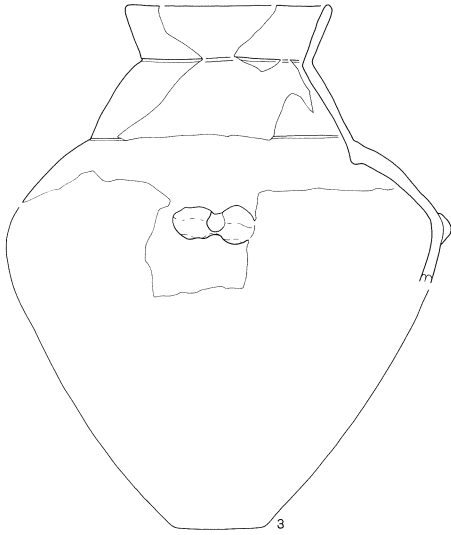
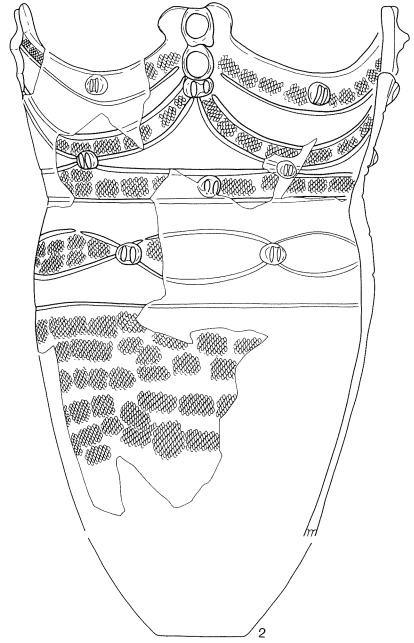
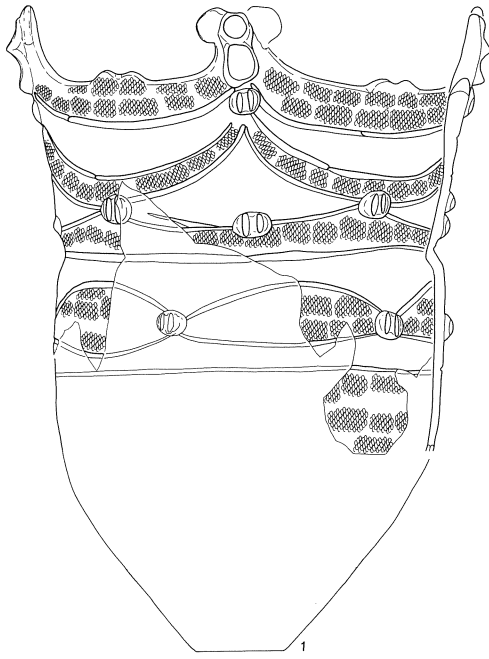
第46图 第6号住居跡出土土器(1)



第47图 第6号住居跡出土土器(2)

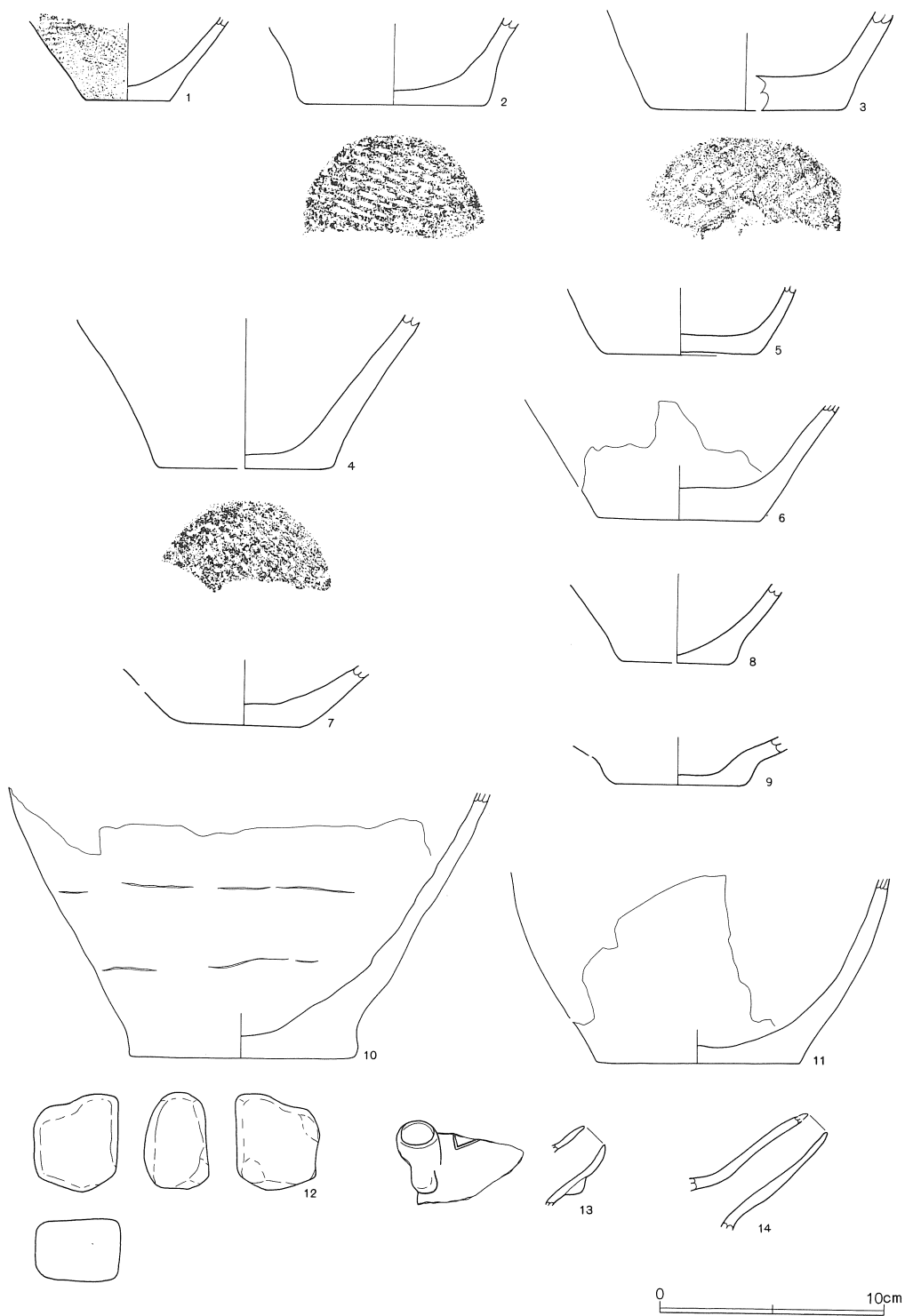


第48图 第6号住居跡出土土器(3)



0 10cm

第49图 第6号住居跡出土土器(4)



第50图 第6号住居跡出土土器(5)

第47図2、第49図4、5は大洞系の土器である。第47図2は鉢形土器。突起が施されている。口縁部に短い弧線文を横位に連続させている。三条の横線を巡らせる。縄文はRL。口縁部が外傾する形態で、横線間に刺突を施している。1/3残存。縄文はLR。第49図5は鉢形土器の口縁部である。口縁部には刺突と横線を巡らせる。縄文はRLである。1/6以下の残存度である。

第49図3は2段に括れて、口縁部が外傾する形態である。括れ部に横線、体部にコブを施している。1/2残存。第50図1～11に底部破片をまとめた。網代痕は1が二本超え・二本潜り・一本送り、2が二本超え・一本潜り・一本送りである。第50図9は粘土塊である。

土壇出土土器（第51図～第53図）

第51図1は後期の深鉢形土器の底部である。2～5は称名寺式で、2、4、5は沈線と列点文、3は櫛歯状工具による細線を施す。第51図6、7は晩期前葉の土器で三叉文が施される。縄文はRLである。8は口縁部が外反する形態の深鉢形土器である。後期前葉。9、10は堀之内2式の朝顔形の深鉢形土器である。11は口縁部に隆帯を施した加曾利B1式の深鉢形土器である。12～16は胴部で括れ、口縁部が内傾する深鉢形土器である。13、14は平口縁、12、15、16は波状口縁を呈するものである。17は深鉢形土器の括れ部である。18は磨消縄文にコブを施す。注口土器の口辺部であろう。12～18は後期後葉の土器である。19、20は深鉢形土器の底部で20には二本超え・一本潜り・一本送りの網代痕が認められる。21、22は口縁部に隆帯を施した粗製深鉢形土器である。晩期前葉のものである。

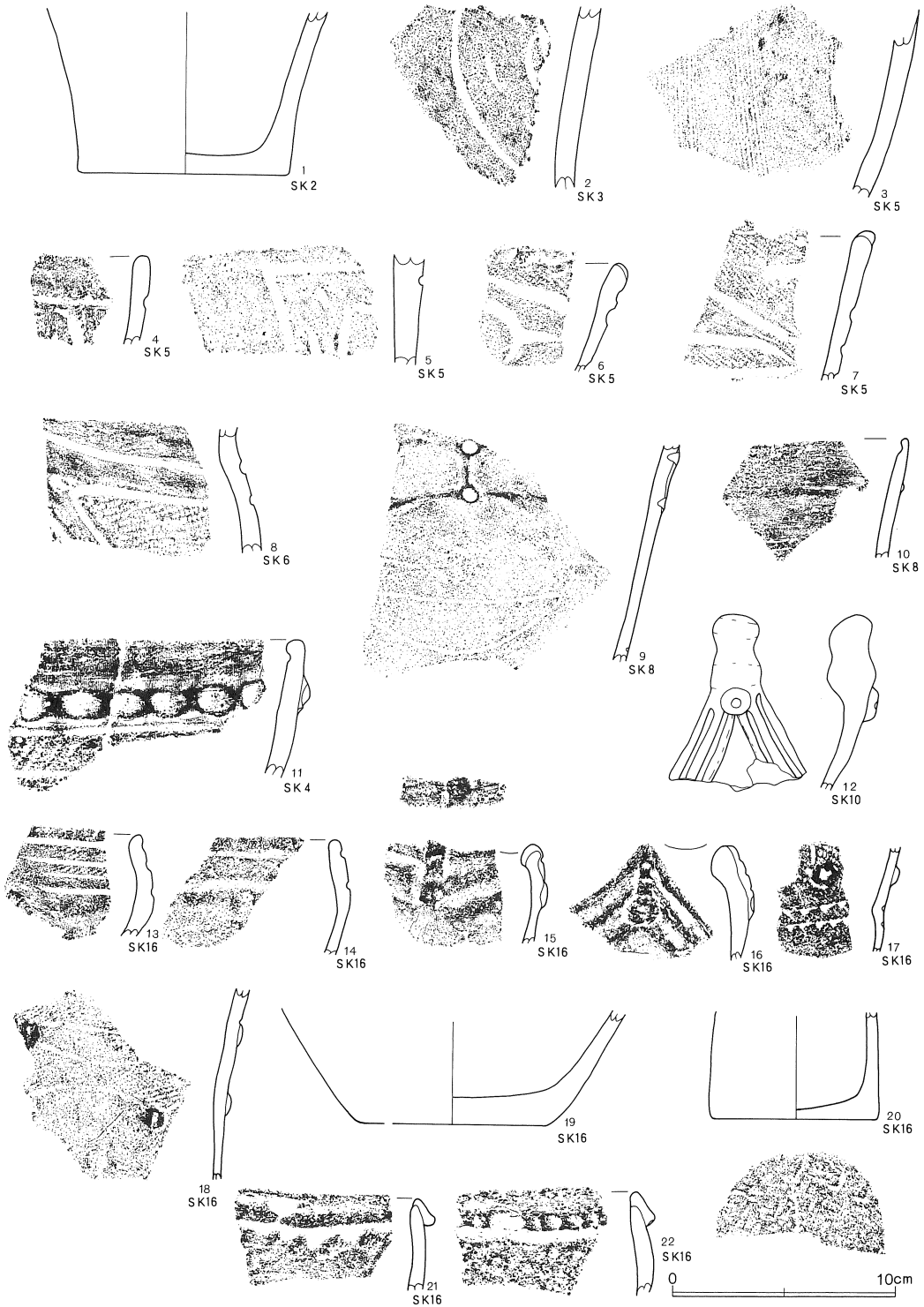
第52図1は安行1式の台付鉢形土器である。台部の破片で条線文が施されている。2は注口土器の体部か。3～7は晩期前葉の土器である。3は液状口縁深鉢形土器である。4は口縁部が外傾する深鉢形土器である。突起が施されている。5は口縁部に隆帯を施した晩期前葉の粗製土器である。7は口辺部に三叉文と沈線文を施し、磨消縄文を施す。6、7はRLの縄文を施している。8～11、13、14は堀之内1式である。8は口縁部が外傾する深鉢形土器である。9～11は地文にLRの縄文を施している。

第53図1は口縁部に二条の隆帯を巡らせる加曾利B1式の深鉢形土器で、口辺部には地文縄文上に鉤の手状の沈線文を施している。縄文はLRである。残存度は1/6以下である。

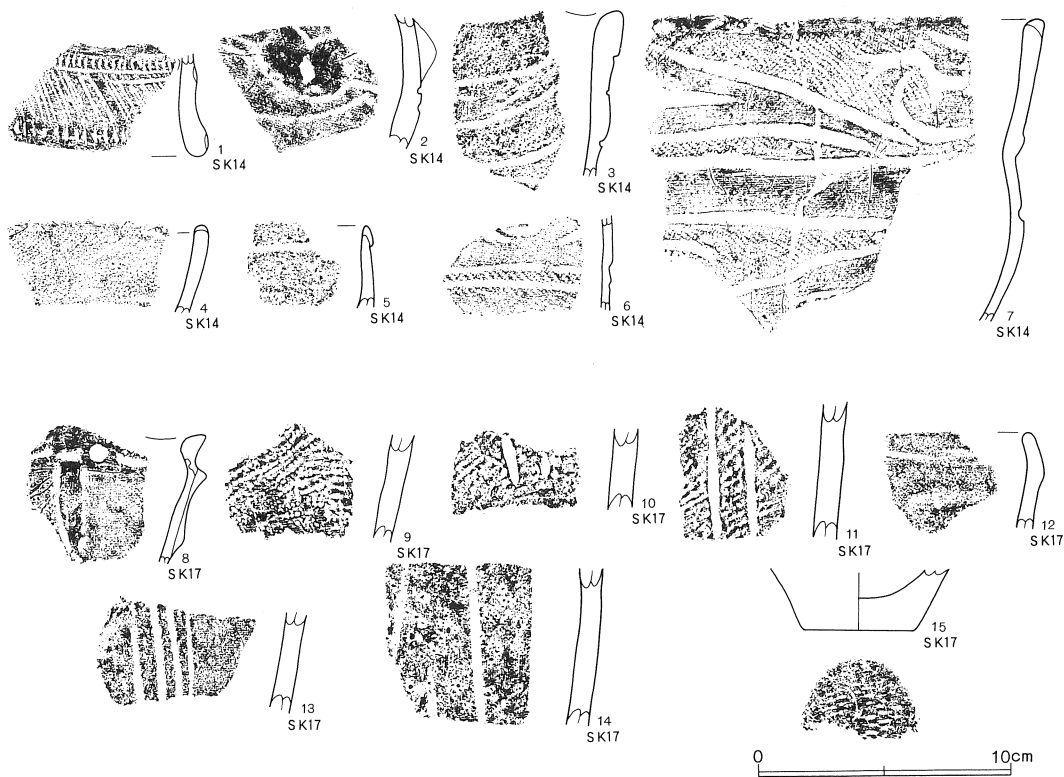
第53図2～5は晩期前葉の土器である。2は波状口縁深鉢形土器である。4単位。口辺部に弧線文による磨消縄文と括れ部直上の縄文帯によって三角形区画文を配する。胴部文様帯は玉抱三叉文による入組状の区画に縄文を充填している。縄文はLR。1/5残存。安行3b式。3は粗製土器で、器面に輪積み痕を残している。口縁部に貼付文を施す。1/4残存。4は深鉢形土器の底部である。5は器面に指ナデ痕がみられる粗製深鉢形土器である。1/2残存。

グリッド出土土器（第54図～第56図）

第54図1～11、第55図1、2は後期前葉の土器である。1は区画内縄文充填、2は沈線のみで施文する。3～10は口縁部に一条沈線を巡らせる深鉢形土器で、いずれも沈線のみによる施文である。11は器面全体に縄文を施す深鉢形土器で、LRの縄文を横位、斜位に施している。1/2残



第51图 土壙出土土器(1)



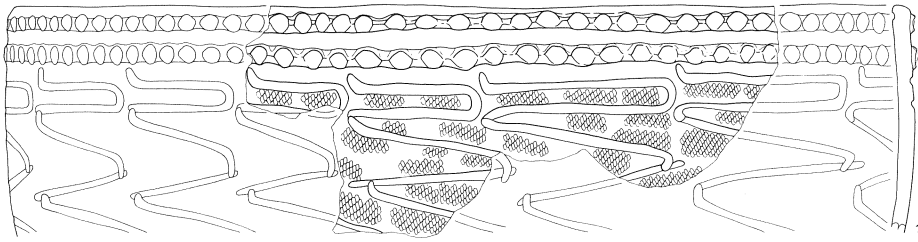
第52図 土壌出土土器(2)

存。第55図1も同様。2は朝顔形の深鉢形土器である。

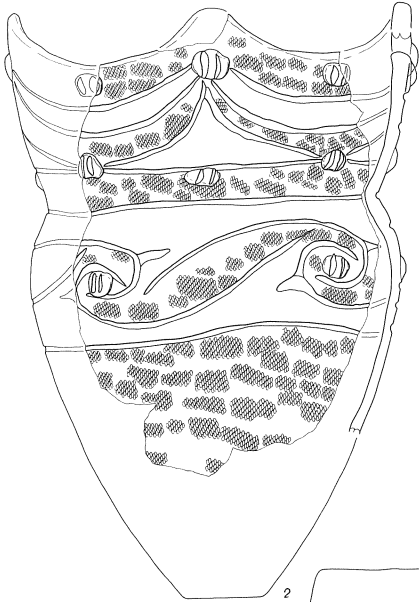
第55図3～10は後期中葉の土器である。2～6は底部から口縁部にやや丸みを帯びて推移する形態の深鉢形土器で、口辺部に並行沈線を施す深鉢形土器である。いずれも平口縁を呈する。3、4は内文を施す。7、8、10は3単位に把手を有する深鉢形土器である。

第54図12、第55図11～17、第56図1～5は後期後葉の土器である。第54図12は4単位の波状口縁深鉢形土器で、口縁部には隆帯、コブが施される。波頂部には漏斗状の把手を施す。1／6以下の残存度である。11～14は口縁部が内傾する深鉢形土器で、無文のもの。15～17は口縁部に沈線文を施す。15、16は平口縁、17は波状縁のもの。1、2、5は波状縁深鉢形土器の波頂部の破片である。3、4は口縁部に帯縄文を施す。いずれも平口縁で、口縁部が内湾する。

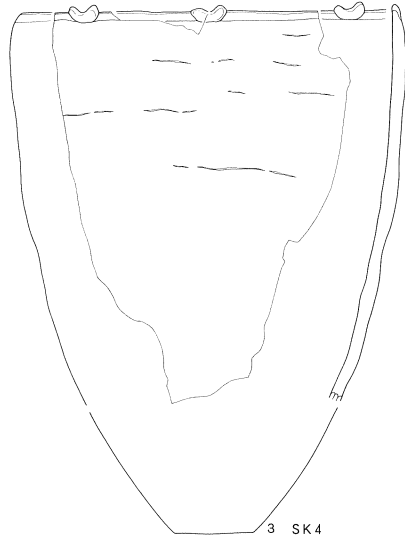
第56図6～20は晩期前葉の土器である。6は口縁部に玉抱三叉文を施す鉢形土器である。7は体部の破片。8は体部に弧縄文、三叉文が施された鉢形土器で、波状を呈する。9は波状口縁深鉢形土器。10～14は大洞系の土器である。10～12は口縁部の破片で横線間に列点が施されている。13、14は体部の破片である。15～19は粗製土器である。15、16、18は内湾する形態のもので、17、18は口縁部が外傾している。



1
SK11



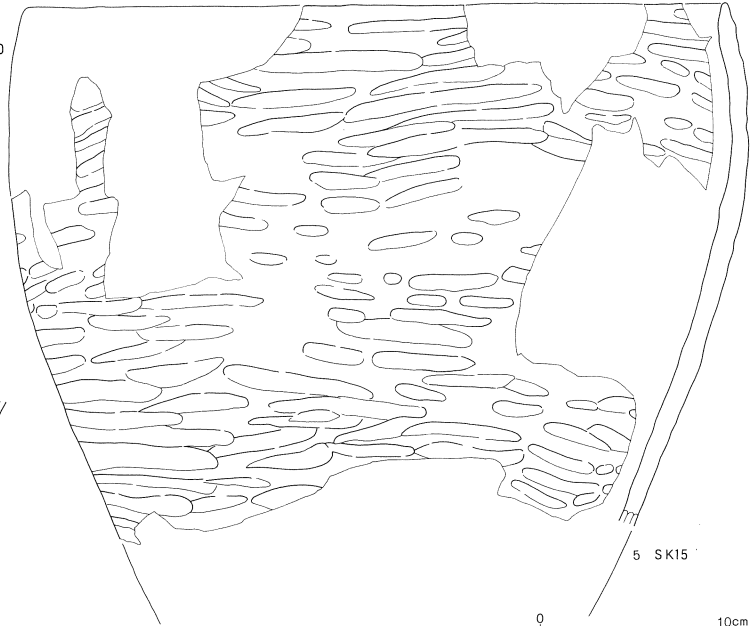
2
SK10



3 SK4



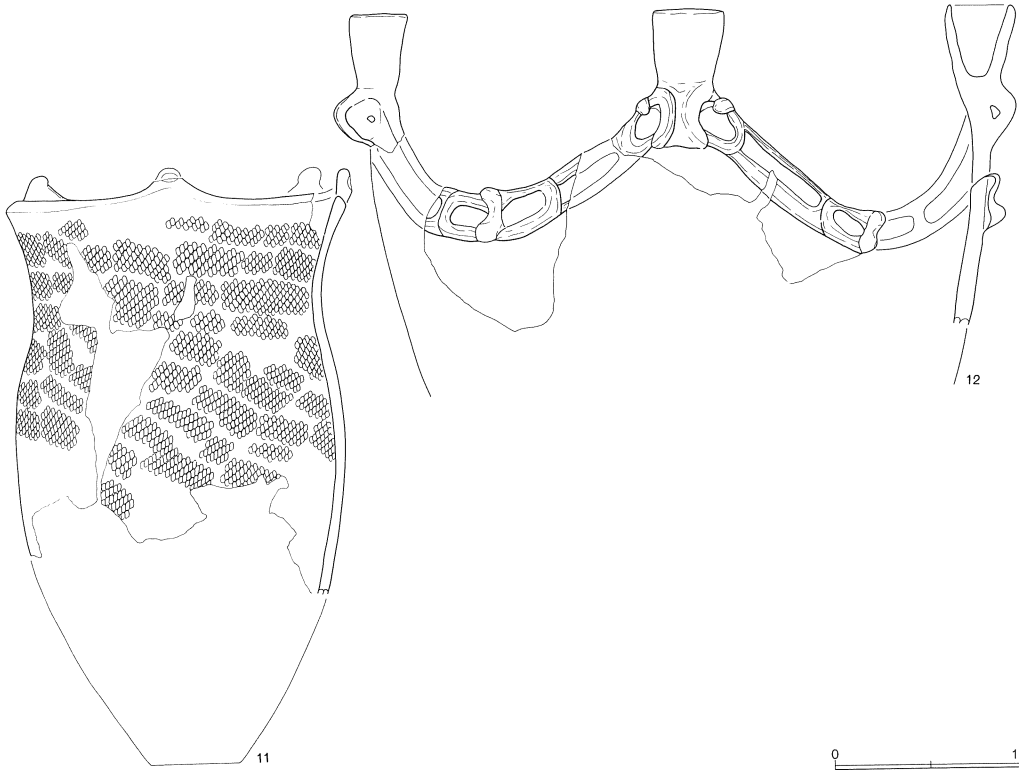
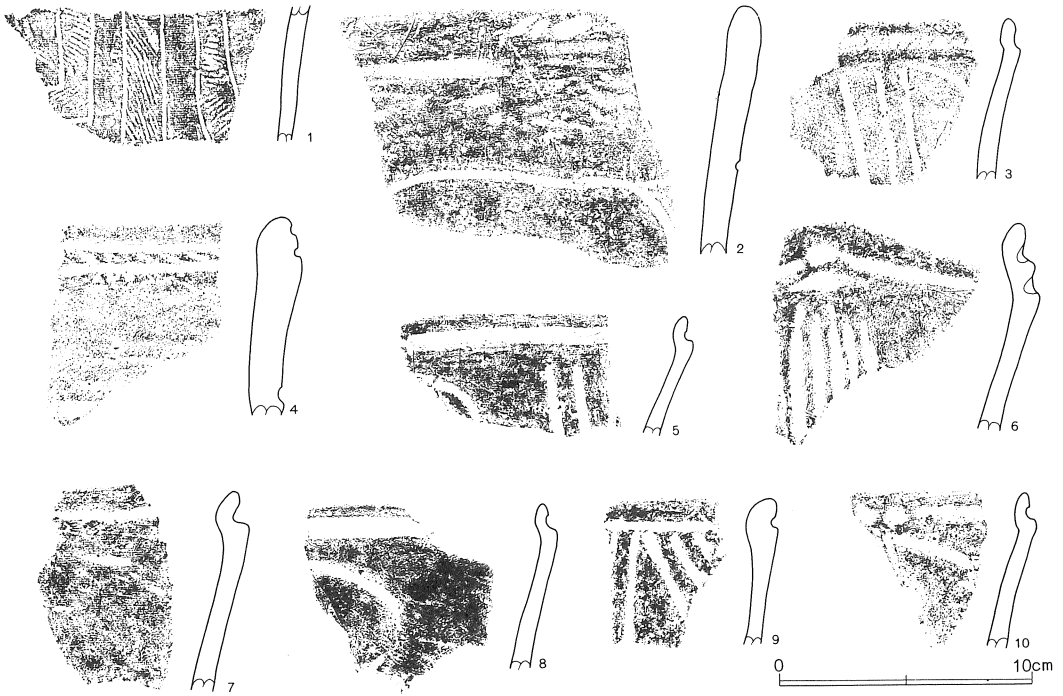
4
SK4



5 SK15

0 10cm

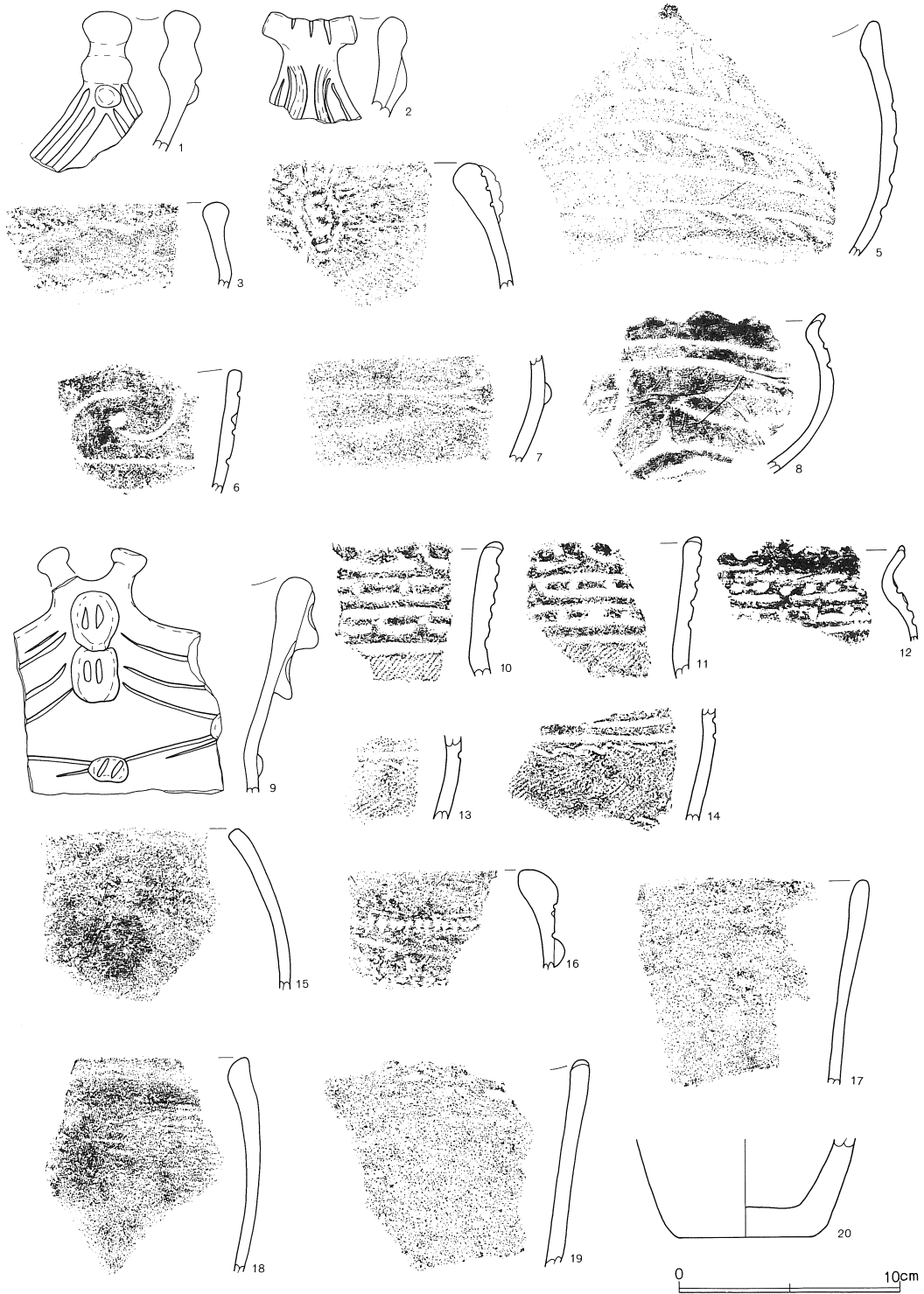
第53図 土壙出土土器(3)



第54図 グリッド出土土器(1)



第55図 グリッド出土土器(2)



第56図 グリッド出土土器(3)

(6) 遺物各説 一縄文時代後・晩期の石器・石製品・玉類・土偶等一

打製石斧（第58図、第61図、第62図1～5）

遺構内出土のものを第58図にまとめた。第4号住居跡出土のものが5点あり、まとまっている。

長さ15cm以下のものが多く、20cm以上のものがもうひとつのグループ（第61図）を形成する。

第58図1は抉り部が基端部寄りの位置に設けられており、基端部の稜端を最大幅とする。表面の基端部に一部自然面を残す。両側縁には整形加工が主軸に直行する形で行われ主軸方向に稜線が見られる。刃部は入念な調整加工により円刃に仕上げられている。第58図2は短冊形を呈する。表面の左側縁近くには自然面を残す。上半部には研磨が施される。一部を欠損する。第58図3は分銅形を呈する。刃部を含む右側縁及び上半部を欠損している。刃部は直刃に仕上げられている。第58図4は整った形状の分銅形を呈する。表面には自然面を残す。調整加工は周縁的に行われているが、特に刃部に集中し円刃に仕上げられている。第58図5は表面に大きく自然面を残している。風化のため細かい調整は観察できないが、刃部に調整加工を若干施している。上半部は欠損している。第58図6、7は表面に自然面、裏面に分割面を大きく残している。裏面から表面方向への調整加工は抉り部に偏っている。第58図6は小形の部類に属する。薄手である。基端部の両側端を欠損している。第58図6、7ともに刃部は円刃に仕上げられている。

第61図1、2は大形のグループに属するものである。1は撥形を呈しており、基端部から刃部に向かって徐々に広がり、刃部両側端にて最大径となる。刃部は円刃に仕上げられている。表面から裏面方向への調整加工が顕著である。表面には大きく自然面を残す。2は分銅形を呈する。角形の厚みのある板状礫を素材にして、刃部は直刃に仕上げられている。表裏両面に自然面を残している。

第62図1は厚みのある石斧で分銅形を呈する。周縁的に調整加工が施されているが特に刃部は入念に行われ円刃に仕上げられている。第63図2はやや小形である。分銅形を呈する。表面には自然面を大きく残している。第63図3は方形に近い形状で、基部中央に抉りを施している。表面に自然面、裏面に分割面を大きく残している。刃部は直刃に仕上げられている。第63図4は分銅形を呈する。表面は自然面を残す。周縁的な調整加工によって裏面は分割面を残さない。裏面から表面方向への調整加工はやや右側縁に偏っている。第63図5はやや薄手のつくりで撥形を呈している。周縁的な調整加工が施され、刃部は直刃に仕上げられている。

横刃形石器（第59図1）

表面に自然面、裏面に分割面を大きく残している。裏面の右側縁から刃部にかけて、表面方向からの調整加工が集中している。刃部の調整は顕著ではなく、分割面によって作出された縁辺部を刃部として用いている。

礫器（第59図2）

拳大の礫を素材としており、裏面から表面方向に剝離加工を施している。

石剣（第59図3～6、第63図）

晩期前葉の第4号住居跡、第6号住居跡から各2点出土している。第63図の2点はグリッドから

の出土である。石材はいずれも緑泥石片岩を用いたものである。

第59図3は身の断面が偏平な楕円形を呈しており、側縁を走る稜線が不明瞭で石棒に近い。把頭は平面形が三角形に近く、直径9mmを測る円形の上端面がある。身との境には弱い稜線が認められる。第59図4は把頭を欠いている。両面ともに稜線が側端から8mm程度の部分に認められる。側端にも稜線が走り、身の横断面は偏平な六角形を呈する。先端部は尖り気味になっており、対象形に入念な仕上げがなされている。第59図3、4は両側縁に剥離加工を施したままのやや粗雑なつくりのものである。把部両側縁をえぐるように剥離して把頭部を作り出している。5は把頭の上端にも剥離加工を施している。6は刀身の縦断面が大きく湾曲している。

第63図1は両面ともに側縁から5mm～10mmの位置に稜線を有している。側縁にも稜線が認められ、身の横断面は偏平な六角形を呈する。把頭を欠くが右側縁には把頭に続く抉りの部分が認められ、研磨によって面をなし稜線をつくっている。第63図2は粗雑なつくりをしたもの。他に比べやや厚手の素材を用いており、厚みは把頭に向かって薄くなっている。把部及び身の両側縁には剥離加工がなされ側縁に稜線を作出する。身の部分の剥離面はさらに敲打されている。

石匙（第62図6）

上半部を欠損している。裏面から表面方向への調整加工は周縁的に行われている。裏面は主要剥離面を大きく残している。刃部の調整加工は入念に行われている。

未製品（第62図7）

磨製石斧の未製品か。表面は自然面を大きく残し、裏面から表面方向への調整加工を両側縁に加えている。刃部の研磨が両面に認められる。裏面は分割面のままである。

石鏃（第57図—1・2）

1は完形だが、2は基部が欠けている。両者とも側縁部は、細かく丁寧に調整されている。両者とも第4号住居跡から出土している。

砥石（第57図—3～12）

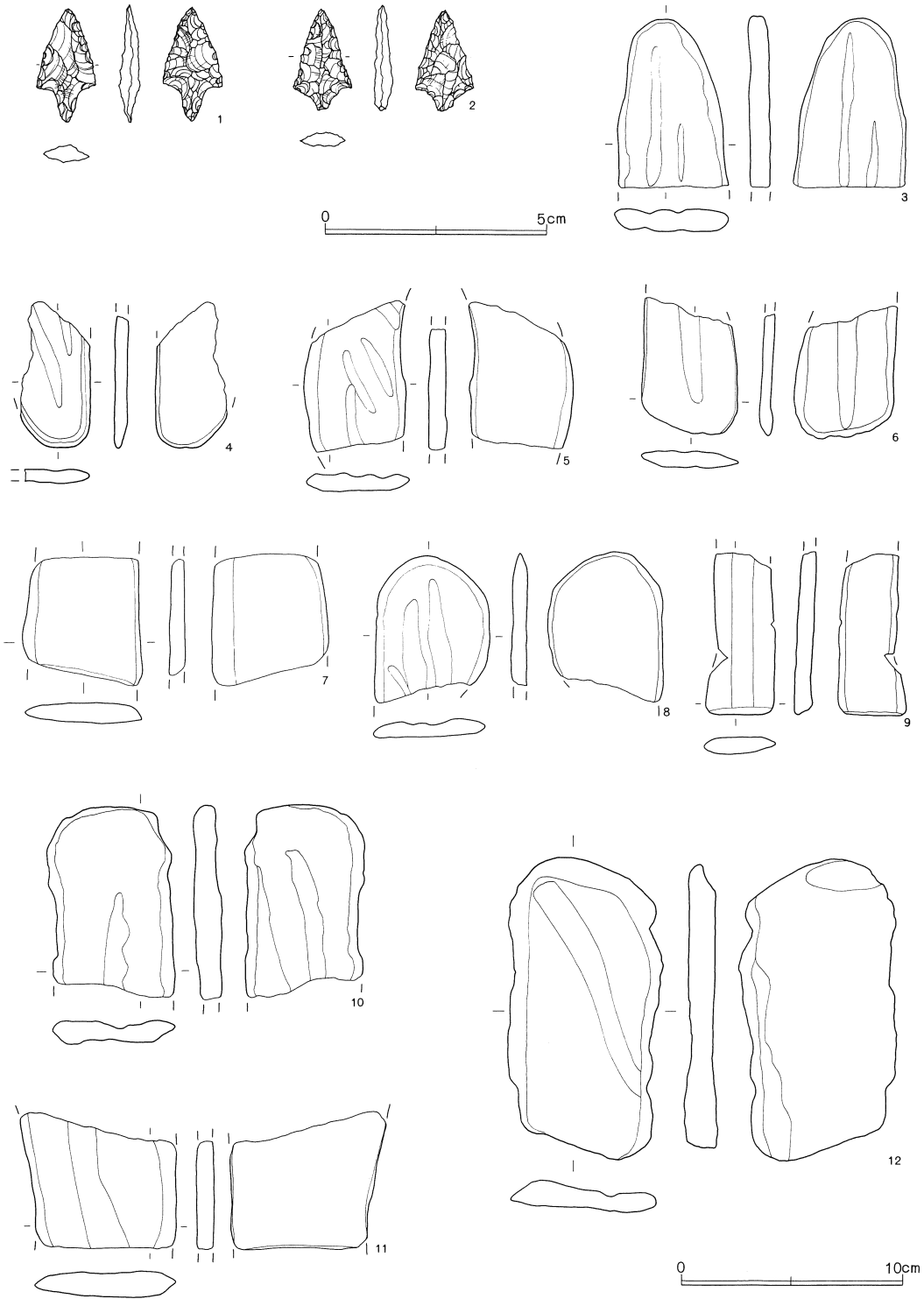
砂岩系の石材で、すべて第4号住居跡から出土している。偏平な石材で、片面ないしは両面に溝状の刻み目がみられる。3は、両面に2条の刻み目が並行して長軸方向にある。4は、片面に2条の刻み目が確認できる。5は、片面に3条の長軸方向斜めに刻みがみられる。6は、両面に長軸方向に1条ずつの刻みがみられる。7は、両面とも偏平にされているが、溝状の痕跡はみられない。8は、片面に3条の長軸方向に並行した刻みがみられる。9は、両面とも側辺が丁寧に加工されているが、溝状の刻み等はみられない。10は、両面に長軸方向に1条ずつ溝状の痕跡がみられる。11は、片面に1条の溝状の痕跡がみられる。12は、片面に斜めに1条の刻みがみられる。

石皿（第60図—1～4、21・22）

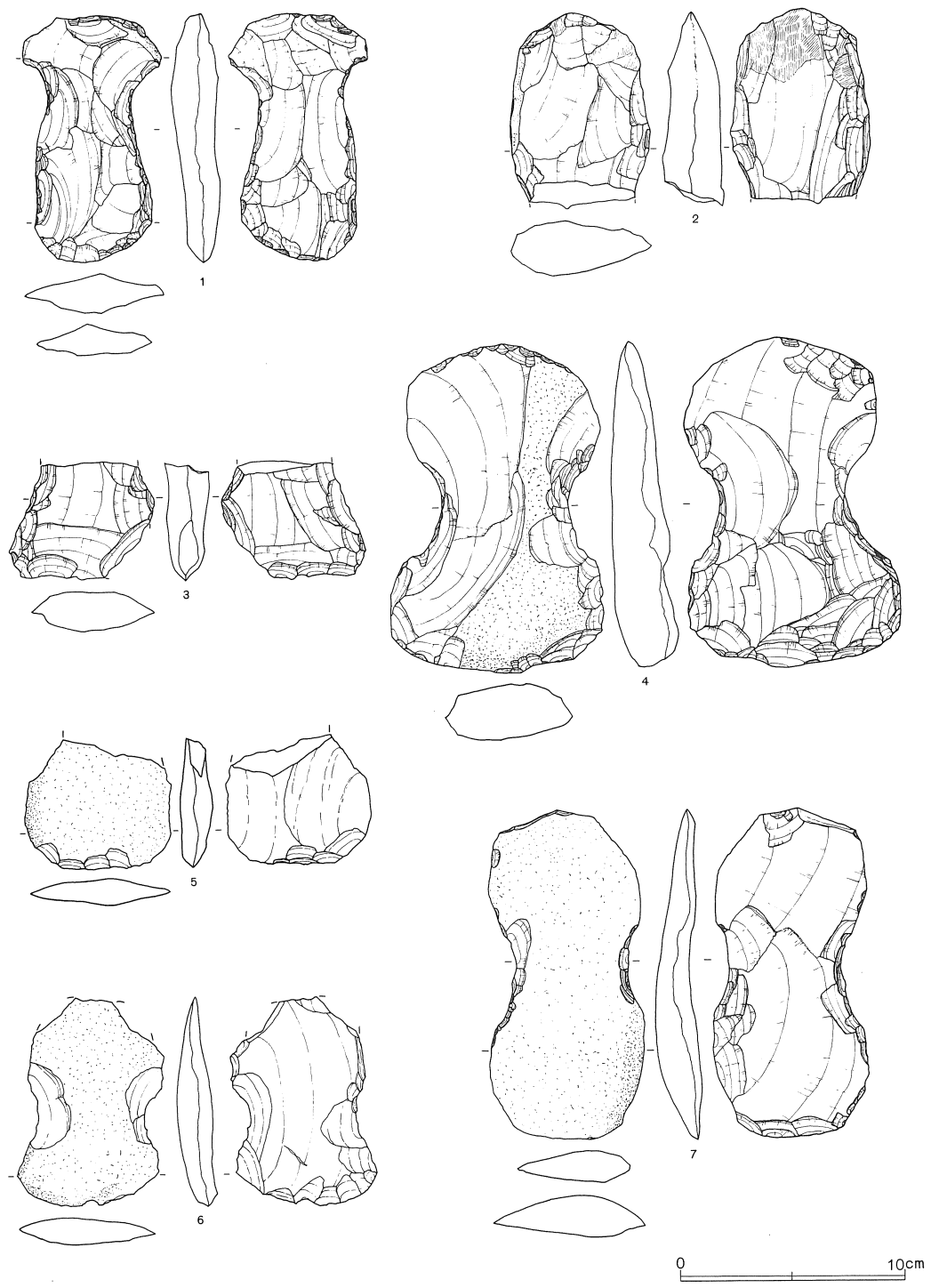
第4・6号住居跡から石皿が出土している。全て破損品で、完形品は1点もない。裏面及び側面には、1～3cmの凹みを確認することができる。

磨石（第60図5～15、17～20）

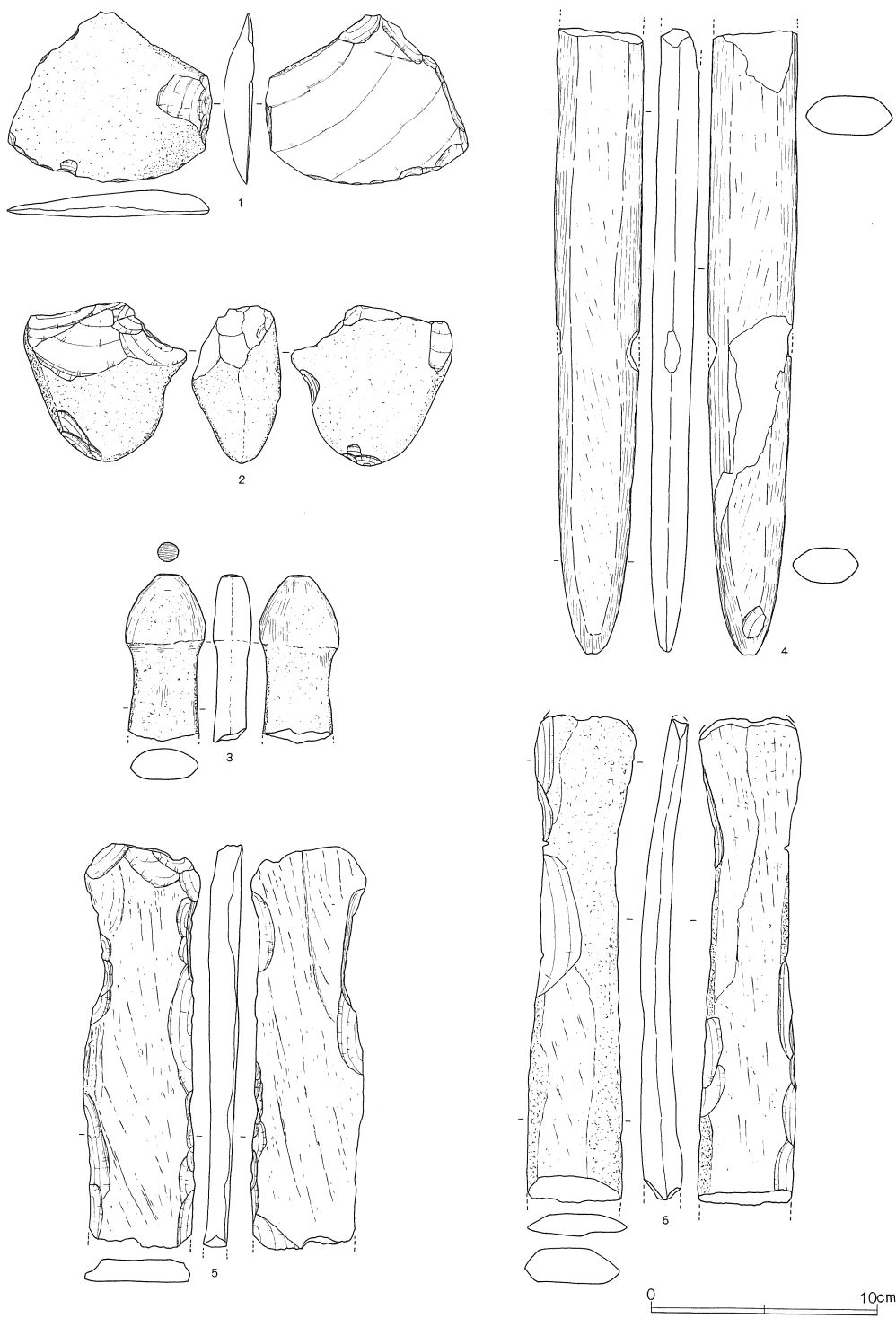
第4・5号住居跡からすり石が出土している。自然の円礫をもちいてさらに側辺部を円形に加工している。石材は全て安山岩である。



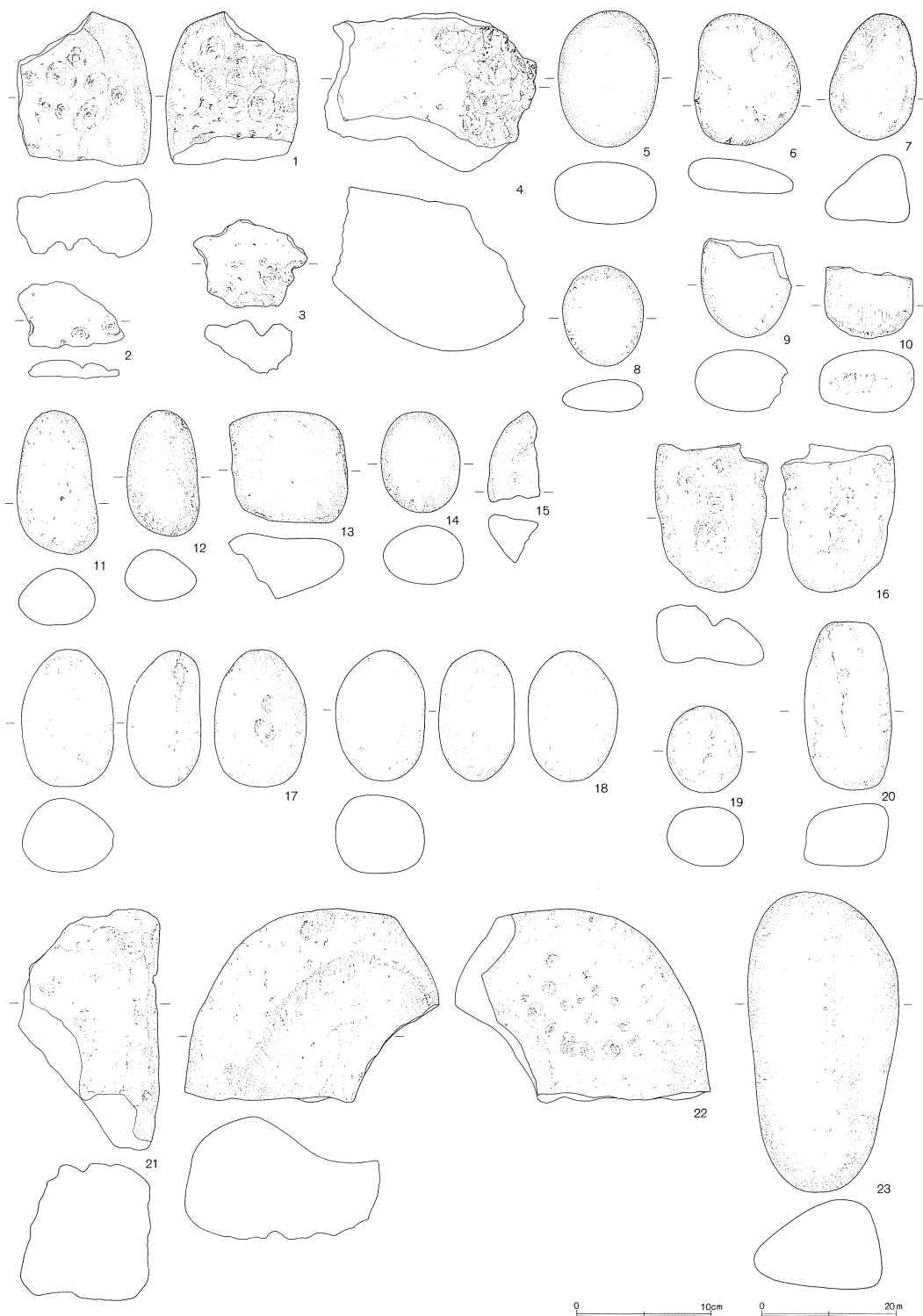
第57図 遺構内出土石器—石鏃・砥石—



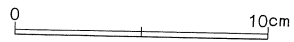
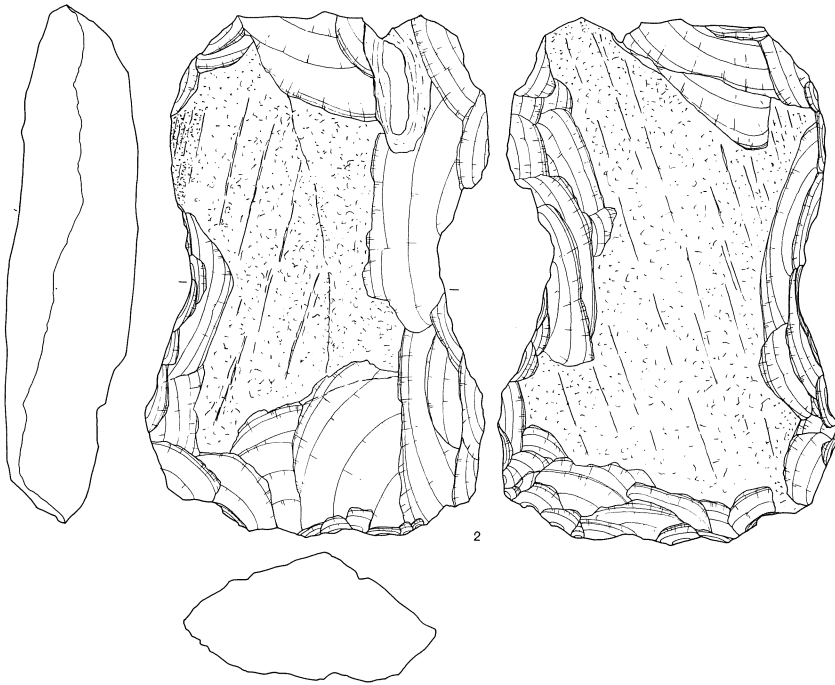
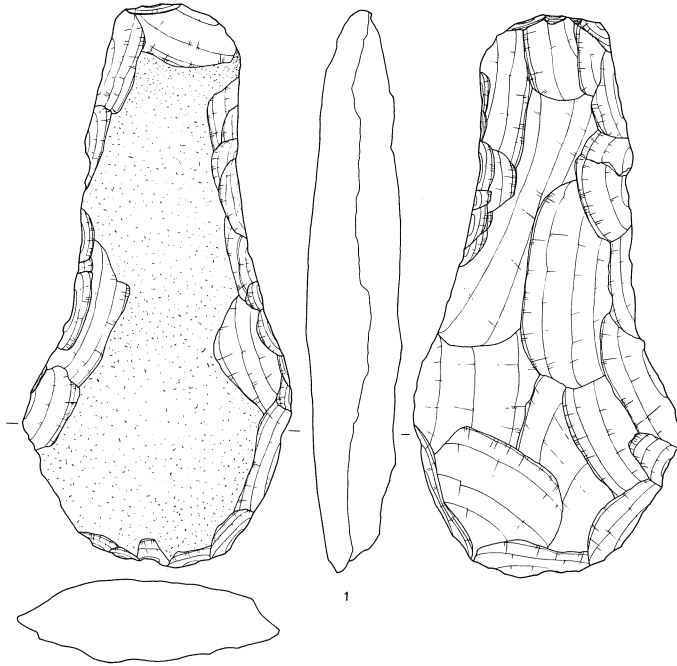
第58図 遺構内出土石器—石斧・石棒等(1)—



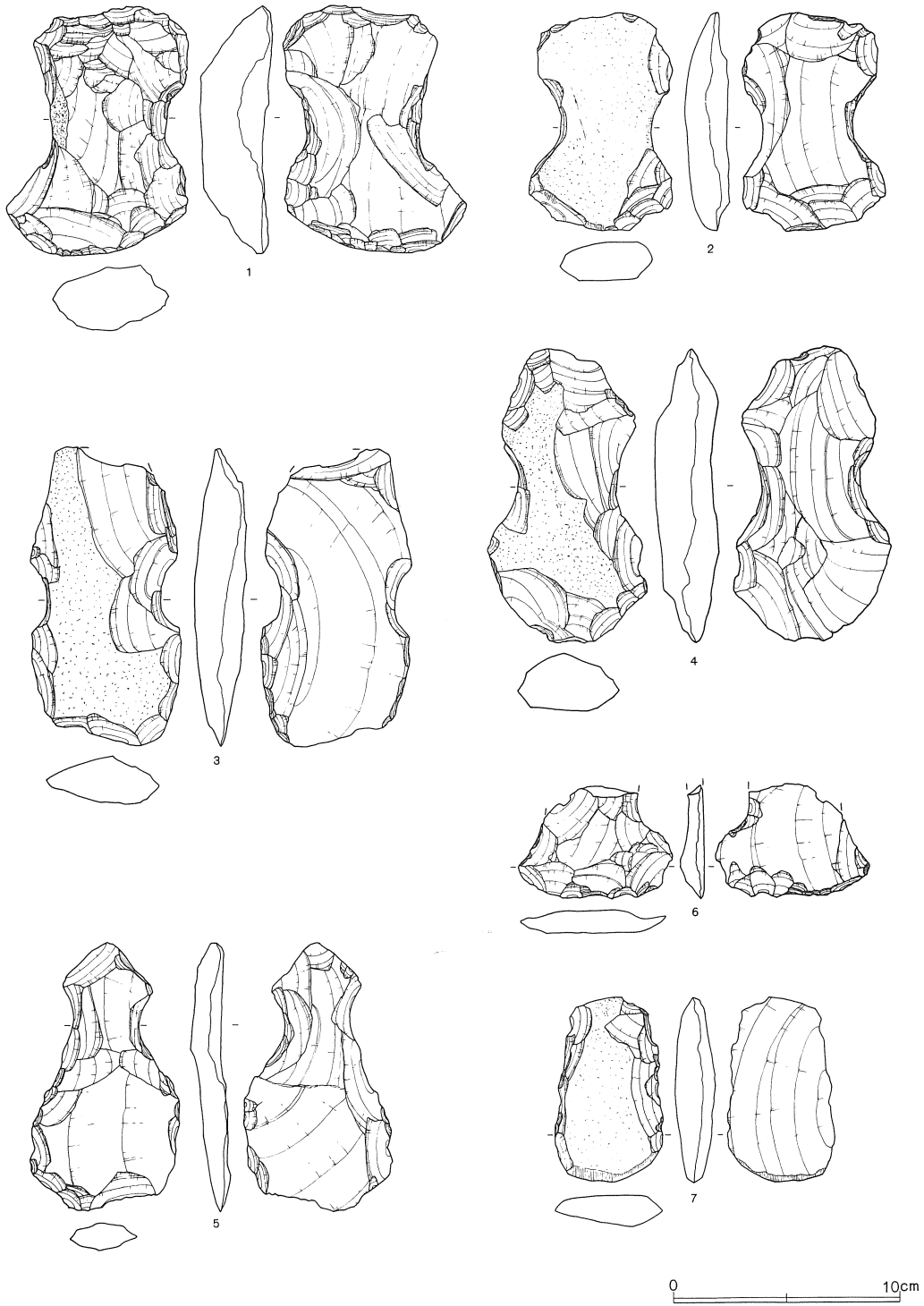
第59図 遺構内出土石器—石斧・石棒等(2)—



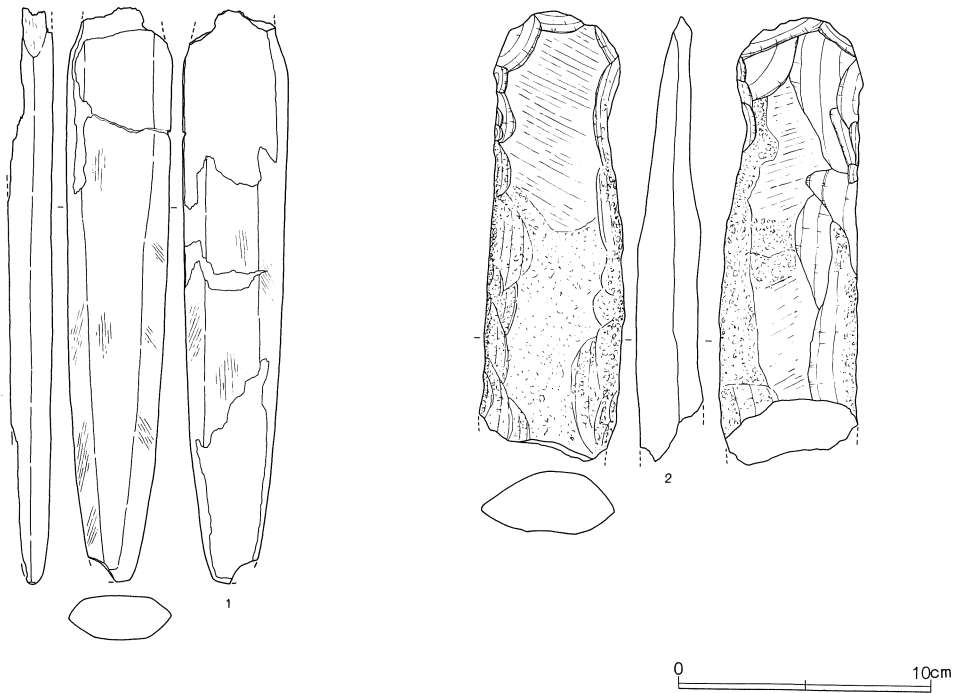
第60図 遺構内出土石器—石皿・磨石等—



第61図 遺構外出土石器(1)



第62図 遺構外出土石器(2)



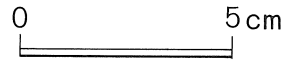
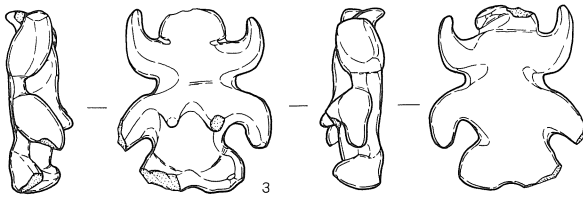
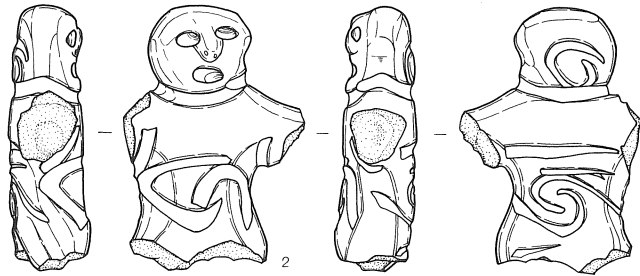
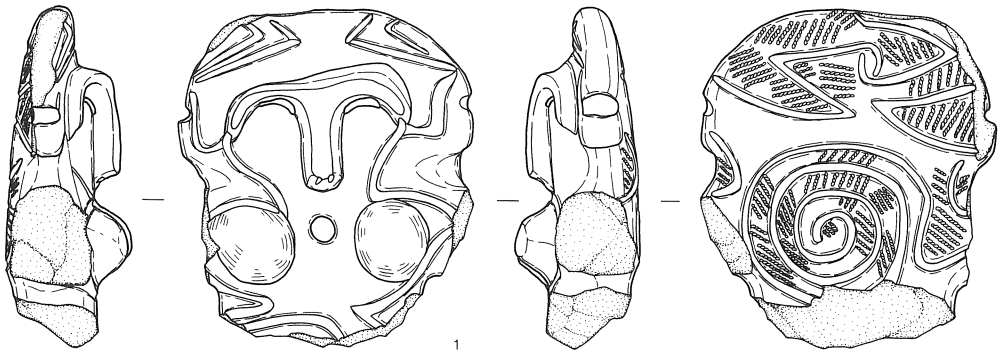
第63図 遺構外出土石器(3)

第2表 石器計測表①

番号	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	
第57図	1	第4号住居跡	石 鏃	2.5	1.2	0.5	3.2	黒曜石
	2	"	"	2.3	1.3	0.4	3.6	黒曜石
	3	"	砥 石	(8.0)	5.0	0.5	7.2	砂岩
	4	"	"	(6.6)	(3.2)	0.6	12.8	"
	5	"	"	(6.3)	5.0	0.4	13.4	"
	6	"	"	(5.2)	4.2	0.4	12.4	"
	7	"	"	(5.4)	5.1	0.4	13.2	"
	8	"	"	(6.0)	5.1	0.3	11.4	"
	9	"	"	(7.2)	3.0	0.4	9.5	"
	10	"	"	(8.3)	5.1	0.5	23.2	"
	11	"	"	(5.0)	3.0	0.5	13.4	"
	12	"	"	13.0	5.1	0.6	34.5	"
第58図	1	第4号土 壙	打製石斧	11.0	6.2	2.1	151.19	安山岩
	2	第4号住居跡	"	(8.8)	6.3	2.7	195.49	凝灰岩
	3	第5号住居跡	"	(5.3)	(5.6)	1.9	89.03	ホルンフェルス
	4	第4号住居跡	"	14.8	9.6	2.7	413.00	凝灰岩
	5	"	"	(5.7)	5.5	1.5	56.99	ホルンフェルス

第3表 石器計測表②

番号	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	
第59図	6	第4号住居跡	9.3	6.1	1.6	126.56	砂岩	
	7	"	14.7	6.8	1.9	203.53	凝灰岩	
	1	第6号住居跡	横刃形石器	5.6	8.8	1.3	83.07	粘板岩
	2	第60号土壌	礫器	7.1	7.1	4.0	235.09	ホルンフェルス
	3	第6号住居跡	石剣	(7.4)	3.6	1.7	72.37	緑泥石片岩
	4	第4号住居跡	"	(27.5)	3.9	1.9	366.58	"
第60図	5	第6号住居跡	(18.0)	5.1	1.3	252.24	"	
	6	第4号住居跡	(21.7)	4.2	1.8	249.16	"	
	1	"	石皿	(11.2)	(9.8)	5.6	545.10	安山岩
	2	"	"	(8.3)	(5.2)	(1.2)	74.05	"
	3	"	"	(8.2)	(9.2)	11.0	100.05	"
	4	"	"	(15.4)	(6.7)	(4.0)	1450.70	"
	5	"	擦り石	10.1	7.6	4.6	579.78	"
	6	"	"	9.7	8.0	2.6	301.56	"
	7	"	"	9.8	6.6	5.0	560.23	"
	8	"	"	7.2	6.2	2.6	295.35	"
	9	"	"	(7.0)	7.0	4.9	322.23	"
	10	"	"	(5.0)	7.0	4.8	225.24	"
	11	"	"	10.6	5.8	4.1	280.07	"
	12	"	"	9.6	5.2	3.8	390.08	"
	13	"	"	8.2	(8.2)	4.6	425.45	"
14	"	"	7.8	6.0	4.2	515.65	"	
15	"	"	6.9	(4.0)	3.2	64.08	"	
16	第5号住居跡	叩き石	(11.2)	(8.2)	5.4	354.43	"	
17	"	擦り石	10.3	5.4	5.3	390.40	"	
18	"	"	10.0	6.7	5.8	408.65	"	
19	"	"	6.2	6.0	4.2	126.09	"	
20	"	"	12.8	6.2	4.3	500.60	砂岩	
21	第6号住居跡	石皿	(18.0)	10.0	10.0	666.75	安山岩	
22	"	"	(14.0)	19.2	9.1	1200.80	"	
23	第60号土壌	自然石	45.0	23.1	13.1	7500.00	"	
第61図	1	表 採	打製石斧	22.5	10.5	3.7	1006.83	砂岩
	2	ユ-258	"	20.9	13.2	5.1	1905.00	ホルンフェルス
第62図	1	メ-273	"	10.8	8.1	3.0	333.15	安山岩
	2	B-4区	"	9.6	6.3	1.9	157.55	ホルンフェルス
	3	ユ-275	"	12.4	6.6	2.3	254.00	砂岩
	4	ヒ-260	"	13.0	6.9	2.6	254.00	ホルンフェルス
	5	メ-267	"	11.5	6.5	1.4	123.13	ホルンフェルス
	6	ヒ-284	石匙	(5.0)	6.6	1.1	41.20	粘板岩
	7	ユ-267	磨製石斧	8.2	4.8	1.8	108.65	砂岩
第63図	1	ヒ-261	石剣	22.8	4.1	1.8	246.06	緑泥石片岩
	2	ヒ-258	"	17.2	5.3	2.5	398.60	"



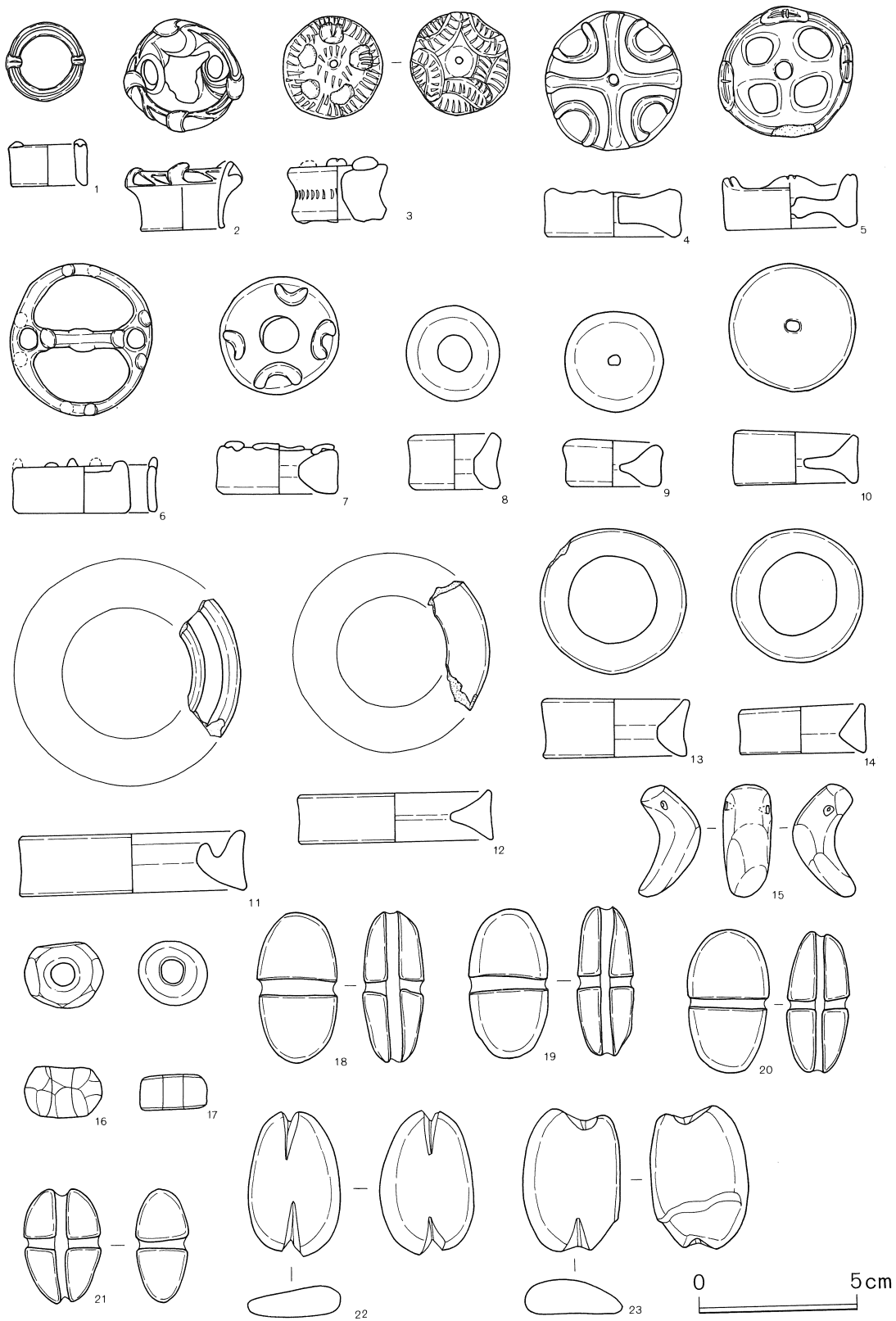
第64図 土偶

土偶（第64図）

新屋敷東遺跡からは3個体の土偶が出土している。いずれも住居跡からの出土であるが、特殊な状況で出土したものは見られなかった。土偶の総破片数も3点で、接合事例も見られなかった。それぞれの残存率は高い。土偶の時期は、晩期のものと考えられる。以下に個々の説明を加えていきたい。

第64図-1は、頭部から胸部にかけて破片で、胴下半部以下と両腕を欠く。造りはさほど丁寧ではなく、形もくずれている。胎土粒子は密で、焼成はしっかりしている。眉から鼻にかけてはT字状の隆帯を貼りつけて表現されており、鼻孔はちいさな刺突で現される。眼は眉の根元にかすかな沈線で、口は円形の刺突で表現されている。円形の貼りつけて豊かな乳房が表現される。文様は沈線とLRの縄文が施されている。黒褐色で、一部に赤彩の痕跡を残している。4号住居跡からの出土である。

第64図-2は、両腕と両脚を欠く。小型の土偶で、造りは粗雑である。胎土粒子は粗く、砂粒を多く含んでいる。焼成はしっかりしている。鼻はやや隆起した状態で表現され、眼や口は刺突で現



第65図 土製品・石製品・その他

される。乳房の表現は無い。文様は沈線のみで現される。明るい褐色で、赤彩痕は見られない。6号住居跡からの出土である。

第64図-3は、小型の土偶で、ほぼ完形である。右の手先と足先を欠く。造りは比較的丁寧であるが、胎土粒子は粗く、焼成はやや脆い。顔面の表現は無く、豊かな乳房だけが現されている。文様は無い。明るい橙褐色で、一部に赤彩痕が残る。6号住居跡からの出土である。

耳飾り（第65図-1～14）

新屋敷東遺跡からは合計14個体の耳飾りが出土している。いずれも住居跡からの出土である。対になっているものは見られず、それぞれ片方だけの出土である。出土住居跡の内訳は、4号住9点（第65図1～3、5、6、8、10、12、13）、5号住2点（第65図11、14）、6号住3点（第65図4、7、9）であり、4号住居跡からの出土が最も多い。

1～7は有文のもの、8～14は無文のものである。第65図1は小型で、器壁も薄い。赤褐色を呈している。2は透かし彫りのものである。丁寧な造りで、胎土も密である。灰黒褐色を呈し、赤彩痕が残る。3は円形の突起が5個付けられ、両面とも細かい刻みで施文され、側面には爪形の突起が入る。胎土は密で、明るい橙褐色を呈している。4は胎土も粗く、砂粒が多く混じる。焼成はあまり良くなく、淡い黄褐色を呈している。5は胎土も密で、赤褐色を呈している。6の胎土は粗く、淡い黄褐色を呈している。7は造りが粗雑で、胎土も粗く、砂粒が多く混じる。淡い黄褐色を呈している。8・9・10はいずれも胎土が密で、赤褐色を呈している。11は破損品である。かなり大きく、直径は約7cm程になると思われる。胎土が密で、赤褐色を呈している。12も破損品で、比較的大きく、直径は約6cm程になると思われる。胎土は密で、赤褐色を呈している。13は胎土も粗く、淡い黄褐色を呈している。14は胎土も密で、赤褐色を呈している。

土製曲玉（65図-15）

土製曲玉は5号住居跡から一点出土している。造りはあまり丁寧ではなく、孔は貫通しておらず、両側から突き刺している。胎土は密で、焼成もしっかりしている。赤褐色を呈している。

硬玉（65図-16・17）

6号住居跡から2点出土している。比較的大きめの玉で、16が約1.3cm、17が約1.1cmである。

土錘（65図-18～21）

18・19・21が6号住居跡、20が4号住居跡から出土している。18・19・20は胎土も密で、赤褐色を呈している。21は胎土に砂粒が多く混じり、淡い黄褐色を呈している。18・19・20はいずれも約20g、21は約12gである。

石錘（65図-22・23）

22は4号住居跡、23は出土遺構が不明である。22の重量は約16g、23は約20gである。



第66図 古墳時代第Ⅰ期の新屋敷東遺跡

2 古墳時代第Ⅰ期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

カマドをもった竪穴式住居跡が、それぞれの集落で見え始めた頃、新屋敷東遺跡は、再び幕を開ける。小山川が運んだ、肥沃な土砂の堆積する平野を開発するため、わずかな高まり（自然堤防）に、縄文時代以来見られなかった竪穴式住居が、ちらほらと見られ始まる。

カマドによる炊飯技術を携えた彼らではあるが、いまだに伝統的な土器を用いていた。調理のための器は、カマドに掛けるのに、ぎこち無い丸い胴の甕。盛り付けは、ほとんど高坏が使われ、まだ坏・椀は、少ない。何を蓄えたか、各住居には壺がある。首が、ラッパのように開く、小形の壺も見逃せない。

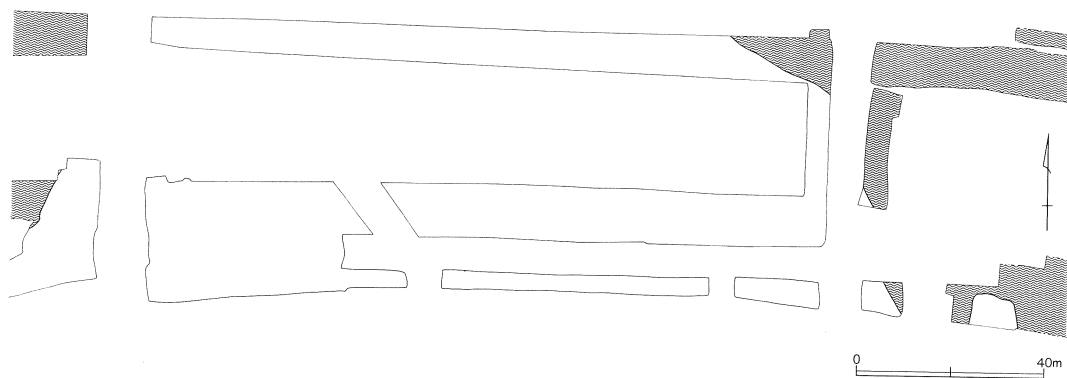
■集落の構成 確認された竪穴式住居跡は、9軒である。小山川、もしくは福川の河川跡が、調査区域内を蛇行しながら走り、その南側の自然堤防上に集落が形成されている。この段階の河川跡は、川底が、現地表面から3m程度のところにあったことが、出土した土器から分かっている。

■竪穴式住居 全掘ってきた住居跡は一つもなく、どこかしら他の住居跡の重複を受けている。カマドの確認された住居跡は、6軒である。北東にカマドを設置するものが多いカマドは長煙道が4軒、短煙道が2軒である。特別変わった住居内施設はない。竪穴の平面形が正方形の（第9・10・13・15号住居跡）と、やや小形で長方形の（第11・12・14・17・18号住居跡）とがある。

■カマド カマドの初源段階から長煙道が、付設されていたことは、特筆される。この煙道、トンネル式に壁の面を四角く掘り、クランク状に壁の外に続く様に作られている。第12・13号住居跡で明瞭に確認された。従来こうしたカマドは、短煙道のカマドよりも、比較的新しくされがちであった。これに対し、短煙道のカマドは、壁面を這うように垂直に作られ、壁の外へは、ほとんどでていない。第10・17号住居跡が、明瞭である。またカマドが構築されていない住居も3軒確認されている。

■煮沸具 カマドで使われた器は、煮沸のための甕、食物を蒸すための甑、甕を支えるための支脚である。カマドで煮沸された痕跡は、外面に煤・炎痕跡、内面に内容物の焦付きとなって残る。甕は、口の大きく開く球胴の甕である。蒸し器である甑は、甕と同様の形態で、底が筒抜けとなっているものと、ロート状の小形の甑がある。どちらも内容物の付着が認められる。支脚として明瞭な形で製作されたそれはなく、高坏の坏部を下にして、この上に甕を置き使われている。なおカマドの袖の心材として、甕はまだ使われていない。

■食膳具 高坏と、坏とで構成される。それまで食膳具の一部でしかなかった坏が、この段階に急速にその地位を確立してくる。高坏：坏＝2：1の比率である。ただ、坏も高坏も器形にバラエティーが多いが、いわゆる和泉式土器の系譜を引く土器が、主体的である。須恵器を模倣した顕著な土師器は現われていない。

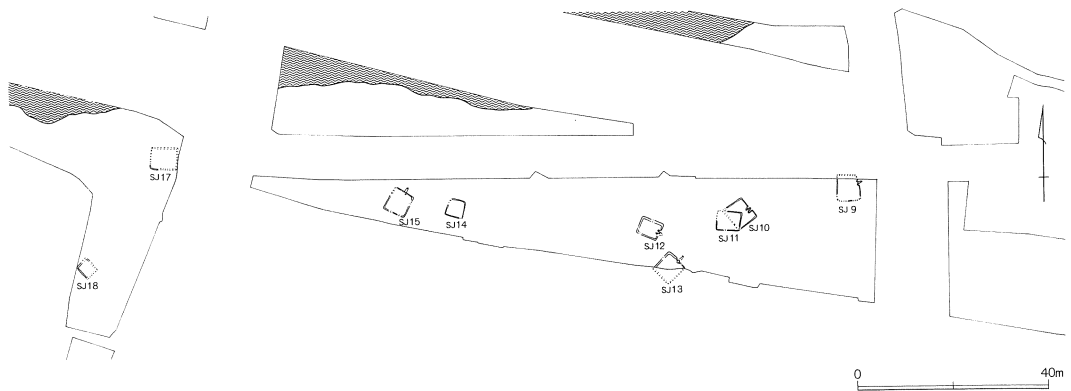


第67図 古墳時代第I期遺構全体図(1)

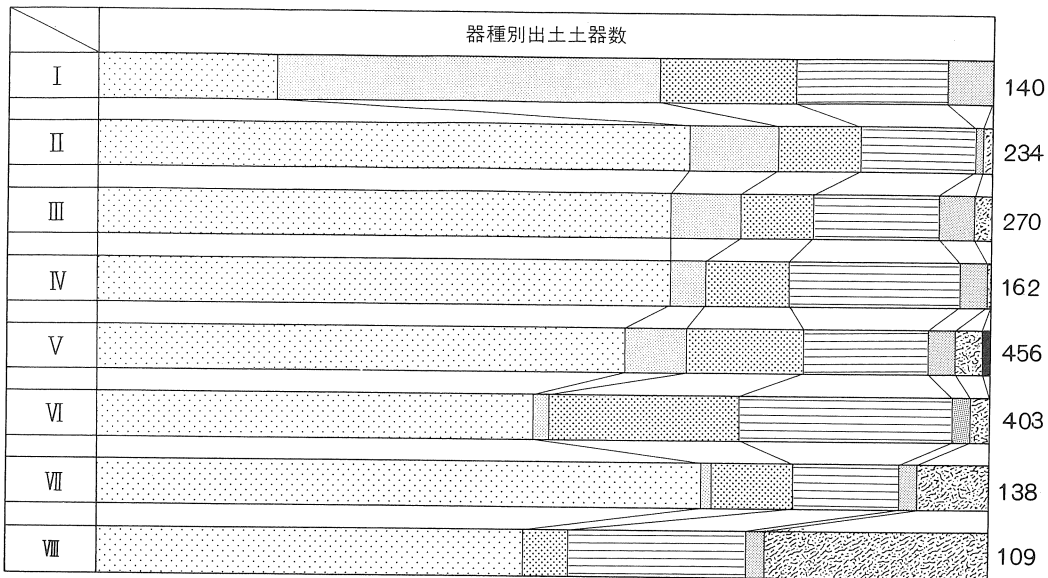
■貯蔵具 大形の壺が、第12・18号住居跡で出土しているが、煮沸具の甕を凌ぐほどの大きさではない。他は、ほとんど煮沸具の甕よりも小振りである。第18号住居跡から11点の甕が、集中して出土したことは、特筆しておく必要がある。なお明確な貯蔵穴は、確認されていない。

■玉飾り 第13号住居跡の北壁に接した、竪穴式住居の床面から、一連の玉飾りが出土している。全て片岩系の滑石製品で、勾玉・管玉・臼玉から構成されている。出土した当初、勾玉は薄い緑色、管玉は深い緑色、臼玉は乳白色であったが、時間が経過するに従い、現在の色調になった。この玉飾りは、勾玉2・管玉7・臼玉5から構成される頸飾り（腕飾り）と推定される。住居跡からこのような玉飾りが出土したことは、貴重である。

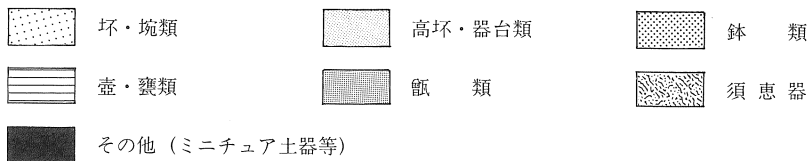
■鉄鎌 第10号住居跡の床面から、木柄部の遺存した鉄鎌が出土している。この鉄鎌は、刃部が水平に伸びる直刃鎌である。刃部の状態から、比較的使い込まれている状態がよく分かる。



第68図 古墳時代第I期遺構全体図(2)



資料数



1915

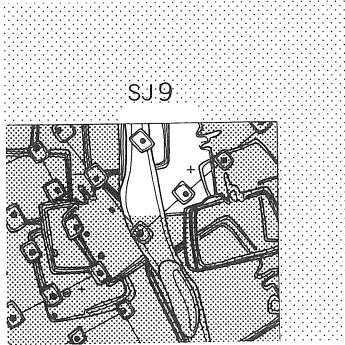
土師器器種別生産量の推移

第4表 古墳時代第I期住居跡一覧

No.	住居跡規模				カマド					貯蔵穴		備考
	長軸長さ	短軸長さ	掘込深さ	形態	煙道長さ	煙道幅	右袖長さ	左袖長さ	形態	幅	深さ	
9	5.08	4.65	0.20	長方形	0.58		0.38		B類			シ-226
10	5.40	4.80	0.50	正方形			1.25	1.08	A類			ミ-270
11	5.50	4.20	0.50	長方形								ミ-271
12	4.70	3.75	0.33	長方形	0.80	0.20	0.92	0.86	C類			メ-273
13	3.20		0.55	長方形	1.30	0.28	1.55	0.65	C類			ユ-272
14	3.70	3.70	0.36	正方形						4.20	1.80	ミ-280
15	5.00	4.80	0.52	正方形								ミ-282
16	3.60		0.10	長方形								ミ-282
17	5.80	4.58	0.28	正方形								エ-290
18	3.10		0.03	正方形								ユ-293

(2) 遺構各説 一遺構構築段階一

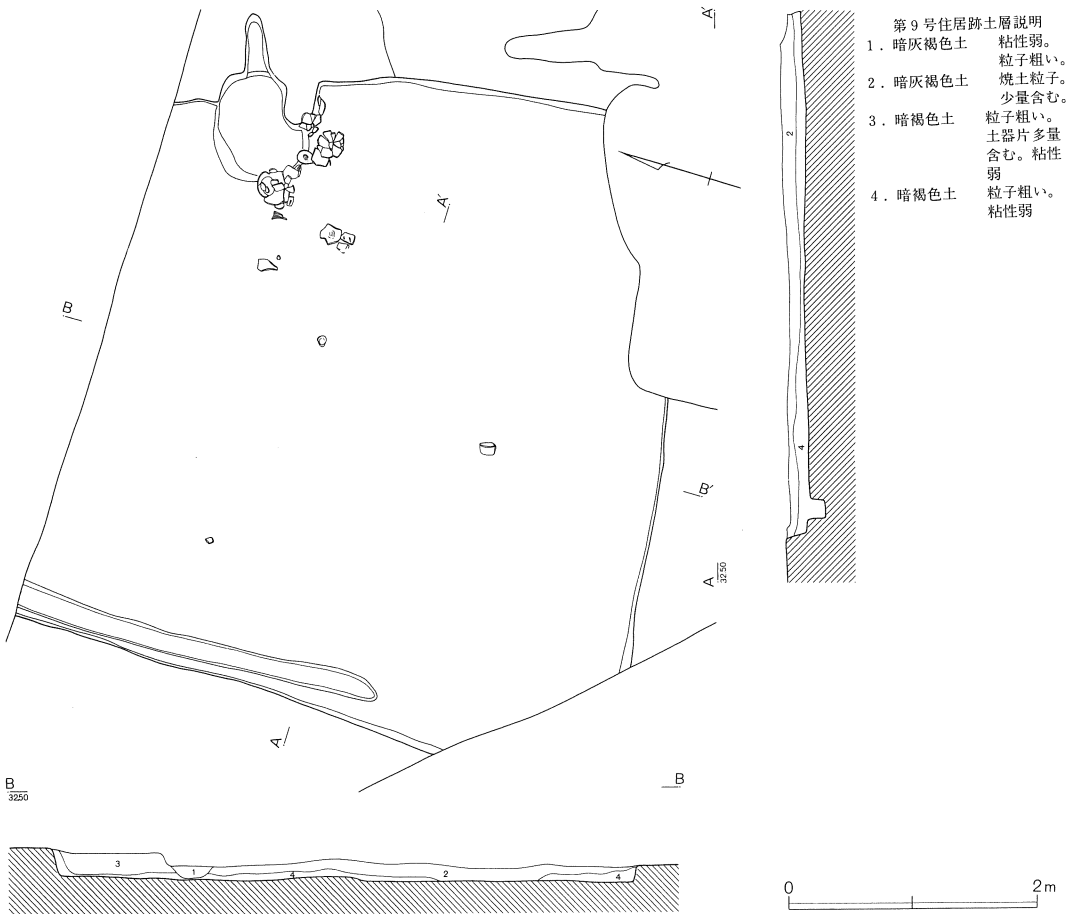
第9号住居跡 (調査時C2区31号住居跡)



第69図 位置図

シー226グリッドに位置する。重複関係は、第30・152号住居跡よりも古い。西半分を地震の亀裂によって切られている。なお北辺は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸5.08m短軸4.65mを測る。掘り込みの深さは、20cmである。

壁周溝は、西辺と、南辺の一部に残るのみで、完周していない。柱穴は、一ヶ所も確認できなかった。カマドは、東辺に接し、左よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残して造られ、壁外へ袖の長さと同程度煙道が延びる。燃烧部は、極端に規模が小さく、わずかな焼土層をみるだけである。燃烧部か

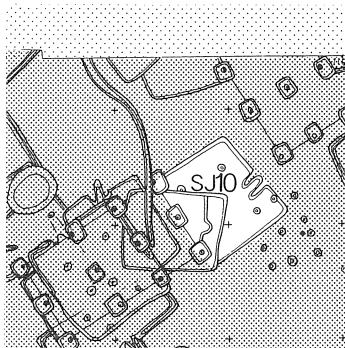


第70図 第9号住居跡

ら煙道部までの立ち上がりは、あまり段差がなく造られている。

当初の遺構確認の時点では、噴砂が激しく、カマドの存在が分かっただけである。噴砂の亀裂に堆積した覆土と、第9号住居の覆土が攪拌され、水平堆積を示していない。

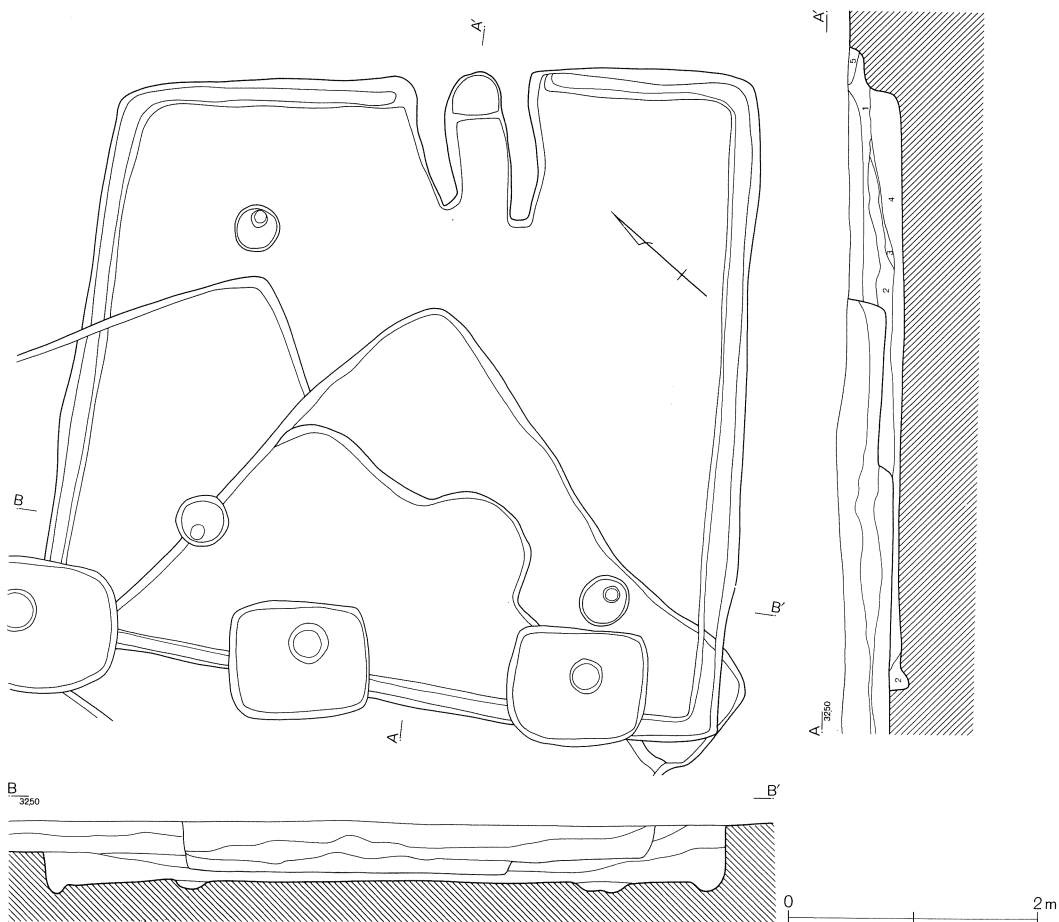
出土遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑などがある。



第71図 位置図

第10号住居跡 (調査時C 2区89号住居跡)

ミー270グリッドに位置する。重複関係は、第11号住居跡よりも古い。西半分が、第11号住居跡によって壊されているが、全体の形状は復元できる。住居跡の規模は、長軸5.40m、短軸4.80mを測る。掘り込みの深さは、50cmである。壁周溝は巡っていない。床面には、カマド側に柱穴が1対存在している。き



第72図 第10号住居跡

わめて浅い柱穴である。

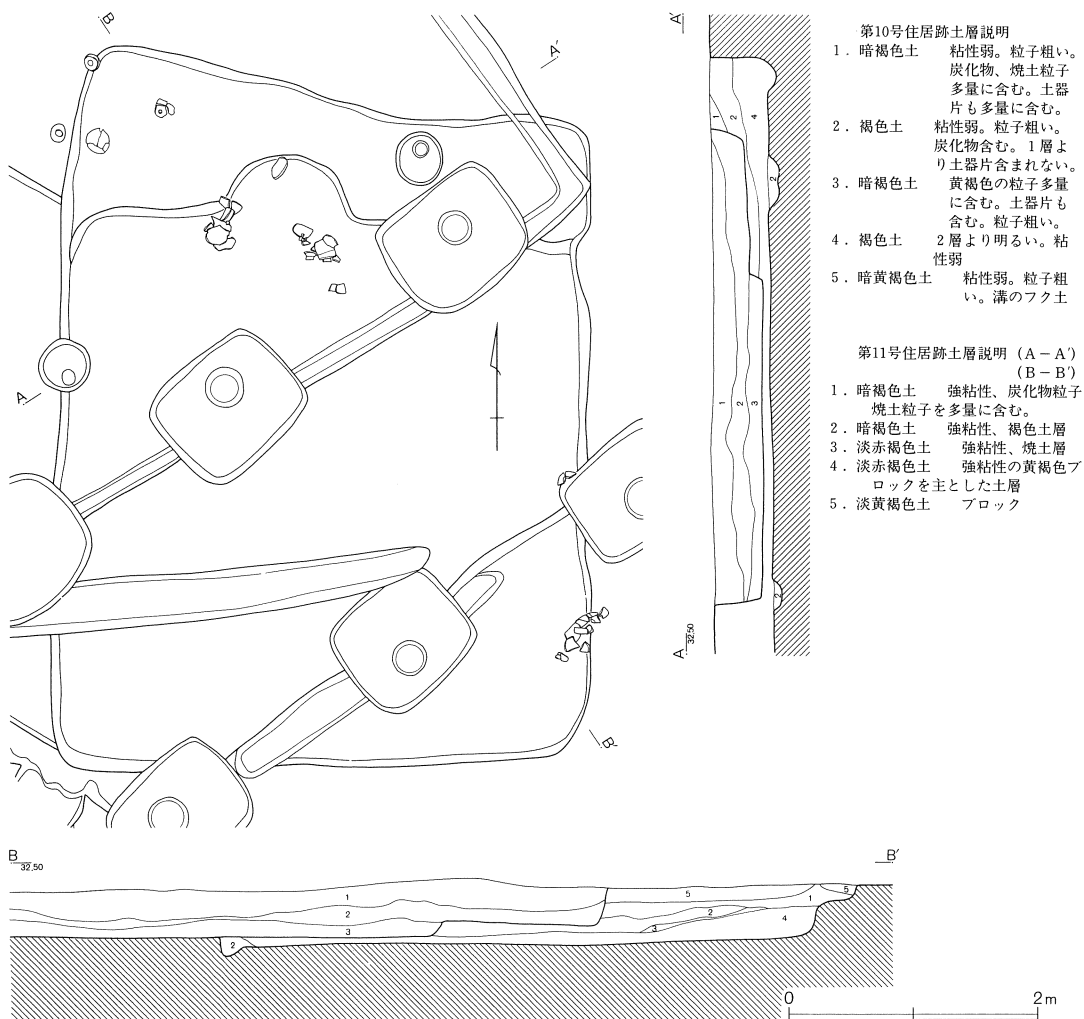
カマドは、東辺に接し、右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、壁外へ煙道はほとんど延びない。燃烧部には、わずかな焼土の堆積層が認められた。燃烧部から煙道部までの立ち上がりは、高く造られている。

当初の遺構確認の時点では、確認することができず、第11号住居跡の床面確認のサブトレンチで断面精査の際に確認された。覆土が、地山の堆積層と近似していて検出が困難であった。

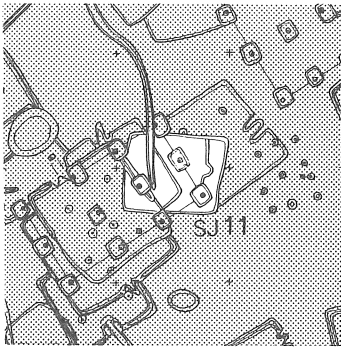
出土遺物は、土師器坏・高坏・甕などがある。

第11号住居跡 (調査時C 2区33号住居跡)

ミー271グリッドに位置する。重複関係は、第10号住居跡よりも新しく、第32・128号住居跡より



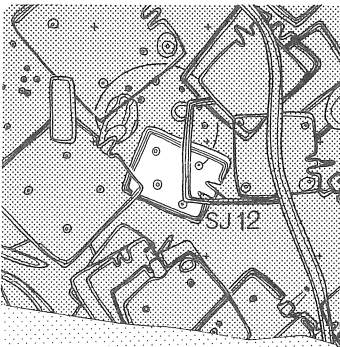
第73図 第11号住居跡



第74図 位置図

断面精査で確認された。地山の堆積層と覆土が、近似し検出が困難であった。

出土遺物は、土師器高坏・甕・甑・小形壺などがある。



第75図 位置図

カマドは、第97号住居跡に壊されながらも、住居跡の東辺にかろうじて残っていた。東辺に接し右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、壁外へ袖の長さと同じくらい煙道



第76図 位置図

も古い。西半分が、第32・128号住居跡によって壊されているが、床面までは達しておらず、全体の形状は復元できる。住居跡の規模は長軸5.50m、短軸4.20mを測る。掘り込みの深さは、50cmである。壁周溝は巡らない。柱穴は一本も確認されていない。

カマドは、明瞭には確認できず、わずかに中央東よりに、半円型の地山掘り残し部分が、確認されたにすぎない。袖・焚き口・煙道等は、検出されていない。また微量の焼土が、この部分に存在しただけである。

当初の遺構確認の時点では、多量の遺物の散乱が認められるのみで、遺構として確認できなかった。床面はサブトレンチの

第12号住居跡（調査時C2区94号住居跡）

メー273グリッドに位置する。重複関係は、第7号住居跡よりも新しく、第119・97号住居跡よりも古い。西南隅が、第119号住居跡によって壊され、東半分が、第97号住居跡によって壊されている。しかし、破壊は、床面までは達しておらず、全体の形状は復元できる。住居の規模は、長軸4.90m、短軸3.95mを測る。掘り込みの深さは、33cmである。壁周溝は、四辺を巡りカマドの部分で切れる。幅12～15cm。柱穴は、4本確認されてはいるが、柱位置がずれており、上屋を支えることが可能か、やや疑問が残る。

カマドは、第97号住居跡に壊されながらも、住居跡の東辺にかろうじて残っていた。東辺に接し右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、壁外へ袖の長さと同じくらい煙道が延びる。燃烧部は、比較的大きく、焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃烧部から煙道部までの立ち上がりは、あまり段差がない。地山の堆積層と覆土が、近似し検出が困難であった。

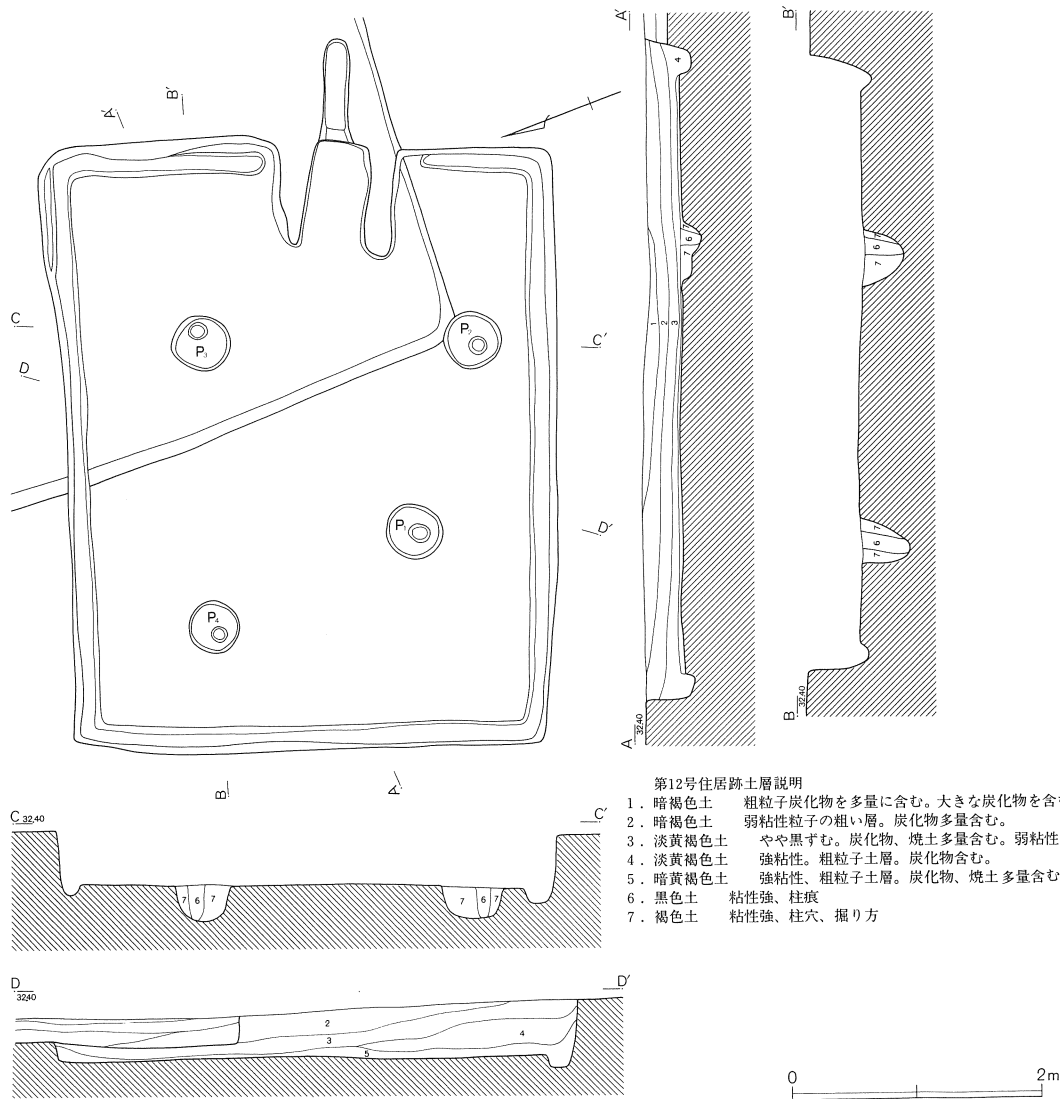
覆土中から第7号住居跡に伴う、多量の縄文時代後期の土器片が出土している。第12号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏坑・高坏・甕・甑・埴・埴・小形壺・壺など良好なセットがある。

第13号住居跡（調査時C2区52号住居跡）

ユー272グリッドに位置する。重複関係は、第96・118・128号住居跡よりも古い。西半分は第118号住居跡によって壊され、

東半分は第96号住居跡によって壊されている。しかし破壊は、床面までは達しておらず、また掘り込み深さも深く、全体としては良好に検出されている。なお南半分は、調査区域外である。住居の規模は、長軸3.20m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは55cmである。壁周溝は、北辺・東辺で確認したのみである。カマドの部分で切れる。幅12~15cm。柱穴は北壁側に2本確認されている。

カマドは、かろうじて他の遺構によって壊されていない。カマド燃焼部の天井部分は落ちていたが、煙道部の天井は良好に残っていた。東辺に接し右よりに構築されている。左右の袖は地山を一部掘り残して造られ、壁外へ袖の長さの2倍くらい煙道が延びる。燃焼部は、比較的大きく、焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃焼部から煙道部までの立ち上がり

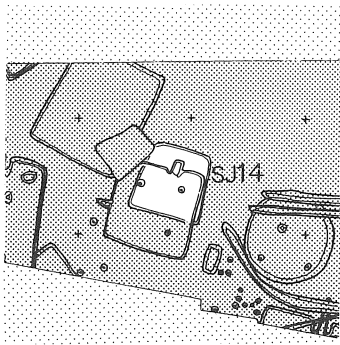


第77図 第12号住居跡

は、段差が存在する。また煙道もクランク状に構築され、煙出し部は、隅丸長方形に見える。

遺構の確認は困難を極め、当初煙り出しの丸い穴しか確認することができず、この部分からどの方向に住居跡が、展開するのかもはっきりしなかった。

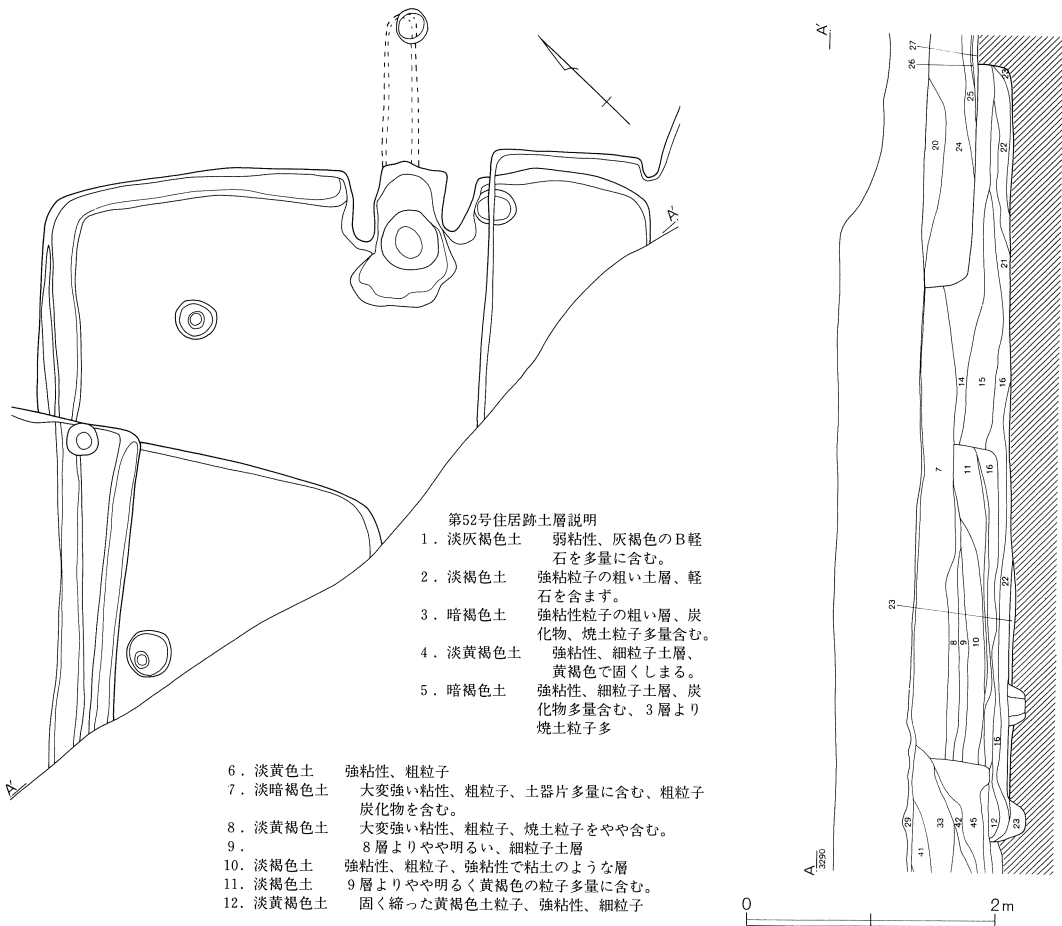
第13号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・壺・高坏・甕・甑・壺など良好なセットがある。



第78図 位置図

第14号住居跡（調査時C 2区109号住居跡）

ミー280グリッドに位置する。重複関係は、第23号住居跡よりも古い。南3分の1が、第23号住居跡によって壊される。破壊は、床面までは達しておらず、全体の形状はつかめた。住居跡の規模は、長軸3.70m、短軸3.70mを測る。掘り込みの深さ



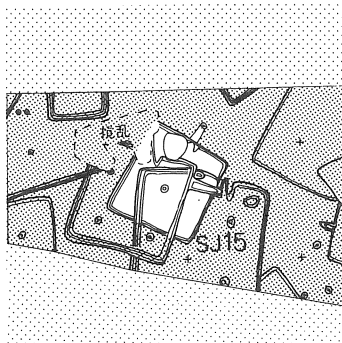
第79図 第13号住居跡

は、36cmである。壁周溝は、確認されていない。第23号住居跡のカマドに接して貯蔵穴が、確認されているが、これは本住居跡に伴うものではない。柱穴は、確認されていない。

カマドは存在せず、煮炊の遺構は、確認することができなかった。炉跡の痕跡もない。

遺構の確認は、第23号住居跡のカマドの構築過程を探るサブトレンチの断面観察によって検出された。覆土が、地山と全く区別がつかず、調査は大変困難であった。

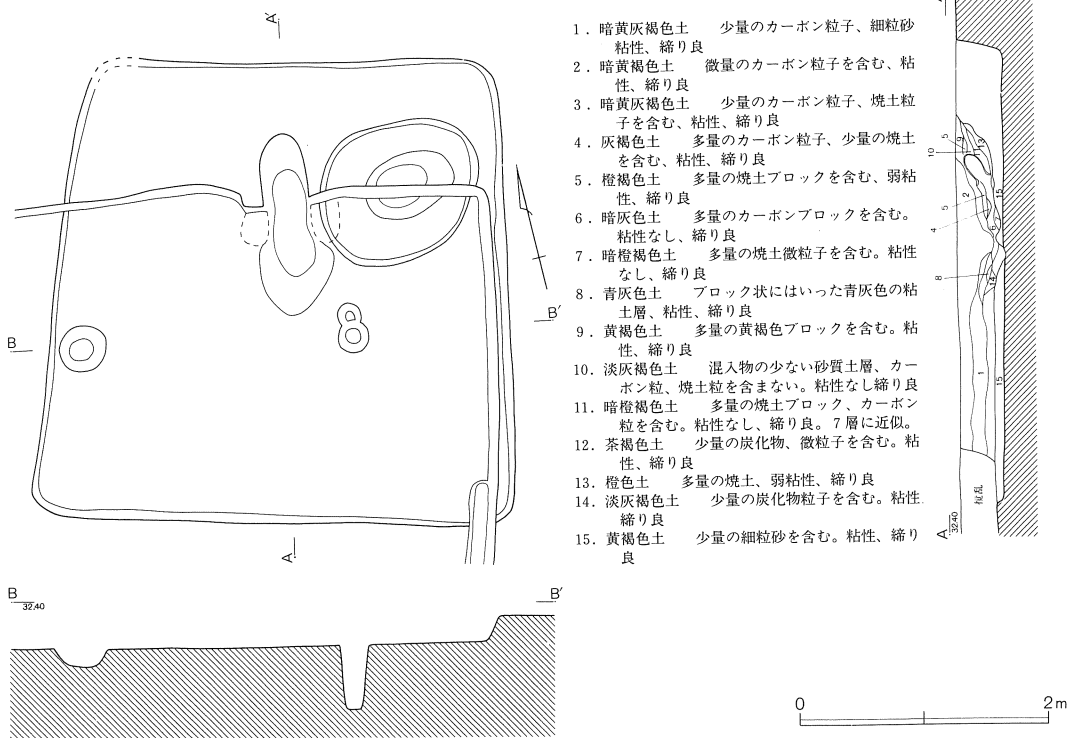
第14号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕の小破片が確認されただけである。



第80図 位置図

第15号住居跡 (調査時C 2区116号住居跡)

ミー282グリッドに位置する。重複関係は、第51・77号住居跡よりも古い。南3分の2は、第51・77号住居跡によって壊され、西辺は、攪乱によって破壊されている。しかし破壊は、かろうじて床面までは達しておらず、全体のプランは、良好に検出された。住居跡の規模は、長軸5.00m、短軸4.80mを測る。掘り込みの深さは、52cmである。壁周溝は、一周するが、北辺・西辺でやや途切れる。柱穴は、四本確認されており、住居の上屋を支えるに足る大きさと考えられる。西辺が、やや開きぎみ



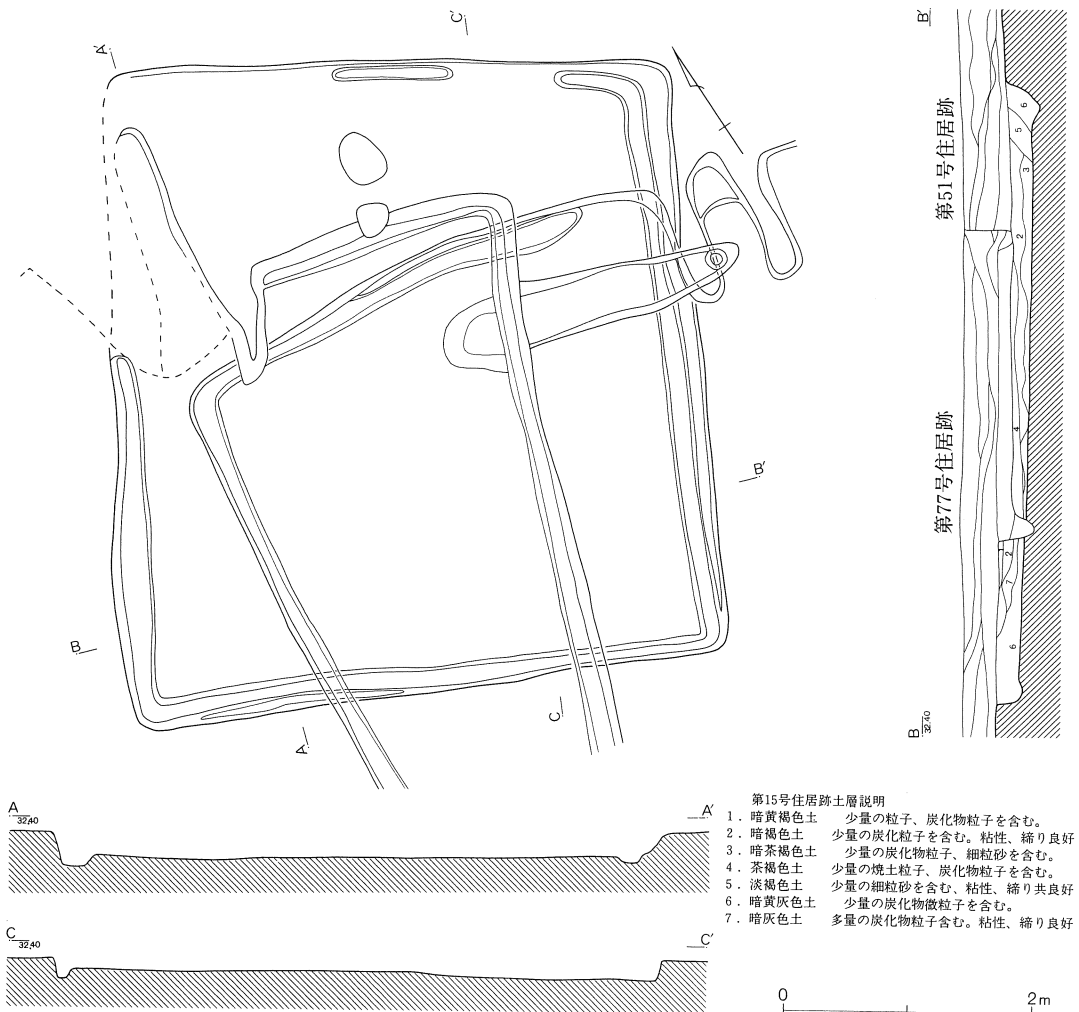
第81図 第14号住居跡

なのは、住居平面プランと相似形であるためか。

カマドは、確認されていない。しかし北側の柱2本と北壁の間に、焼土の塊が二か所確認されている。おそらく炉跡の痕跡と考えられる。

当初は、第77号住居跡の覆土中に、この住居跡の遺物よりも相当古い遺物が、混じって出土していたことから、さらに古い住居跡の存在が予測されていた。しかし、第15号住居跡の覆土は、地山とまったく区別がつかず、遺構の確認は困難を極めた。

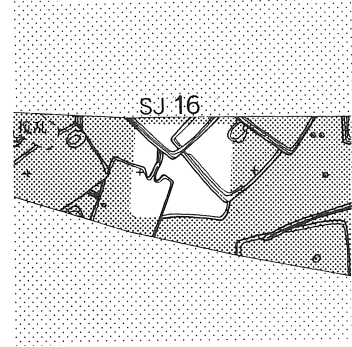
第15号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑・壺・小壺、須恵器（器形不明）など良好なセットである。



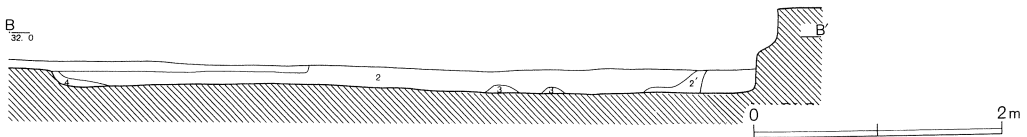
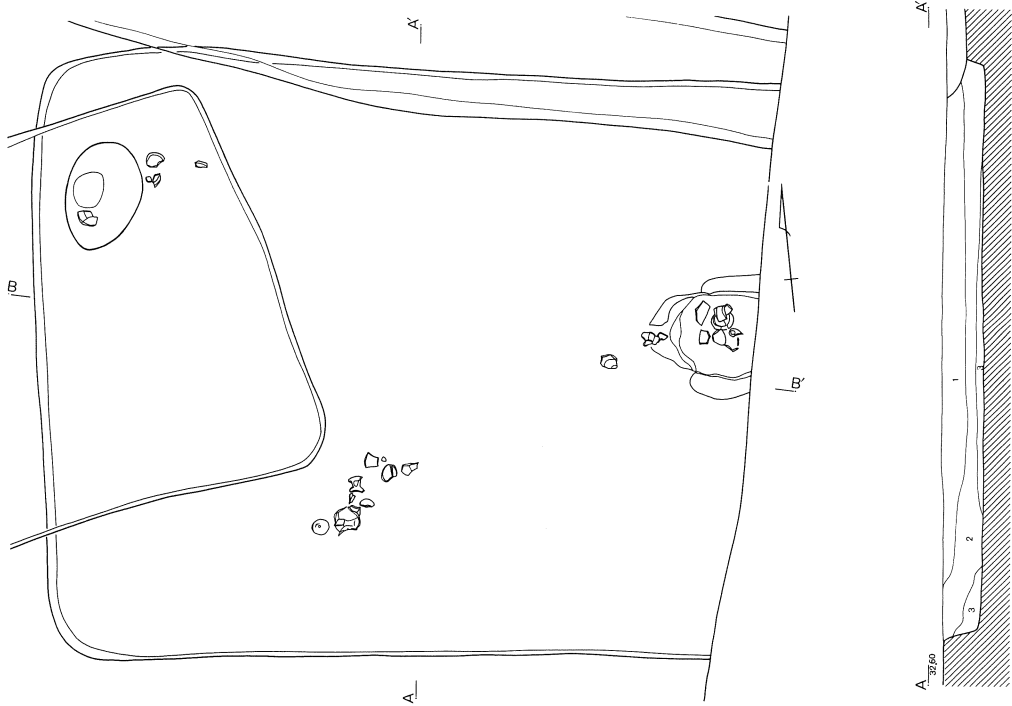
第82図 第15号住居跡



- 第17号住居跡土層説明
1. 暗褐色土 多量の褐色粒子、少量の炭化粒子を含む。粘性なし
 2. 褐色土 少量の炭化粒子を含む。粘性なし
やや砂っぽい
 - 2'. 褐色土 2層に似るか焼土粒子を含む。
 3. 褐色土 微量の炭化粒子含む。粘性なし
2層よりもっと砂っぽい
 4. 黒褐色土 少量の炭化粒子、褐色粒子を含む。僅に粘性あり



第83図 位置図



第84図 第16(上)・17(下)号住居跡

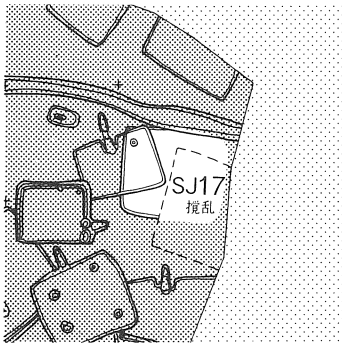
第16号住居跡（調査時C 2区82号住居跡）

ミー284グリッドに位置する。重複関係は、第27・76・134号住居跡よりも古い。北3分の2は、第76・134号住居跡によって壊され、西半分は、第27号住居跡によって破壊されている。住居跡の規模は長軸3.60m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは10cmである。壁周溝・柱穴は、見られなかった。

カマドは、確認されていない。煮沸形態については、検討する材料がない。

重複が激しく、検出された部分は、ごく僅かであった。

第16号住居跡に伴う出土遺物は、土師器高坏のみである。

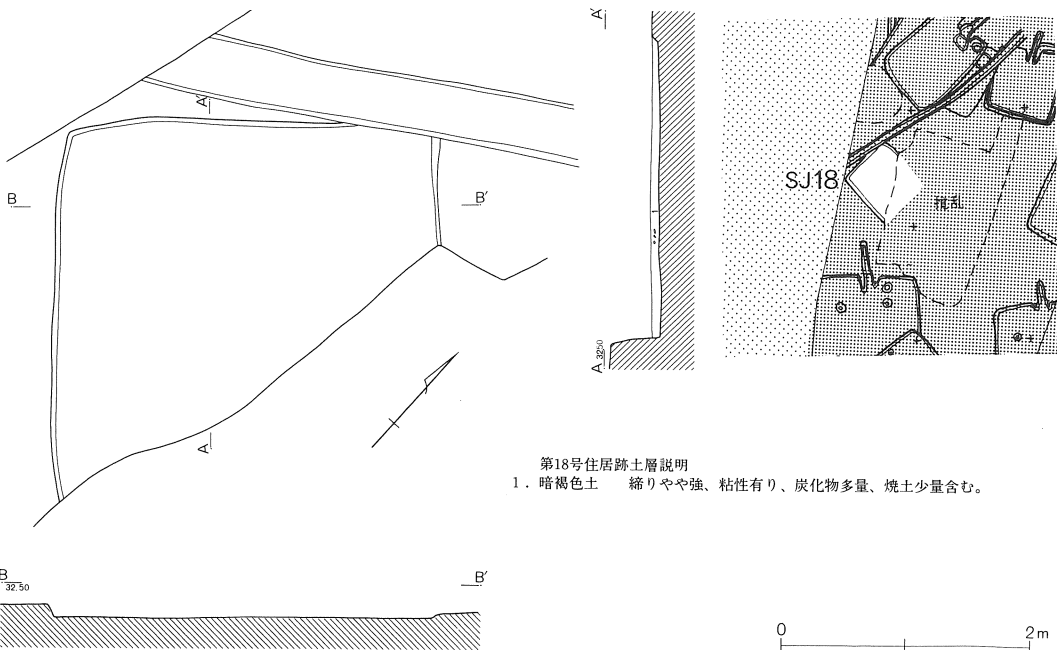


第85図 位置図

第17号住居跡（調査時B区53号住居跡）

ユー290グリッドに位置する。重複関係は、第42号住居跡よりも古い。西3分の1は、第42号住居跡によって壊され、東辺は、調査区域外である。床面まで破壊されておらず、全体のプランは、良好に検出された。住居跡の規模は、長軸5.80m、短軸4.68mを測る。掘り込みの深さは、28cmである。壁周溝は、検出されていない。柱穴は、確認されていない。

カマドは、煙道部を調査区外に残すが、燃烧部のほとんどを調査することができた。カマド燃烧部の天井部分は落ちていたが、使用の痕跡をうかがう資料が得られた。左右の袖は、基底



第86図 位置図・第18号住居跡

部の地山の一部を残して、ほとんどが他の粘土をもって造られている。

燃焼部は、比較的大きく、焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃焼部と煙道部の関係は全く不明である。

第17号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・埴・高坏・埴・甕・甗・壺などがある。

第18号住居跡（調査時B区35号住居跡）

ユー293グリッドに位置する。重複関係は、第81号住居跡よりも古い。南辺が攪乱によって壊されており、全体のプランは不明確である。住居跡の規模は、長軸3.10m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、3cmである。壁周溝は、検出されていない。

柱穴は、確認されていない。カマドも、検出されていない。

住居跡の覆土と、地山が近似しているため、確認に大変手間取ったが、出土遺物の分布状況も大いに役立った。

第17号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・埴・高坏・埴・小形甕・甕・壺などがある。

(3) 遺構各説 一遺物出土状態一

遺物の出土状態について、確認される明瞭なもののみ、遺物分布図とともに記述しておきたい。

第12号住居跡

（壁ぎわ） 南壁の中央付近から甗・小形甕が出土している。甗は、伏せて置かれ、小形甕は、倒されて置かれている。南東のコーナーに甕と小形甕が、壁面にへばり付くように置かれていた。

（床面） 南西よりの床面には、高坏・坏類が散漫に確認されている。確認されている遺物のほとんどが、床直である。

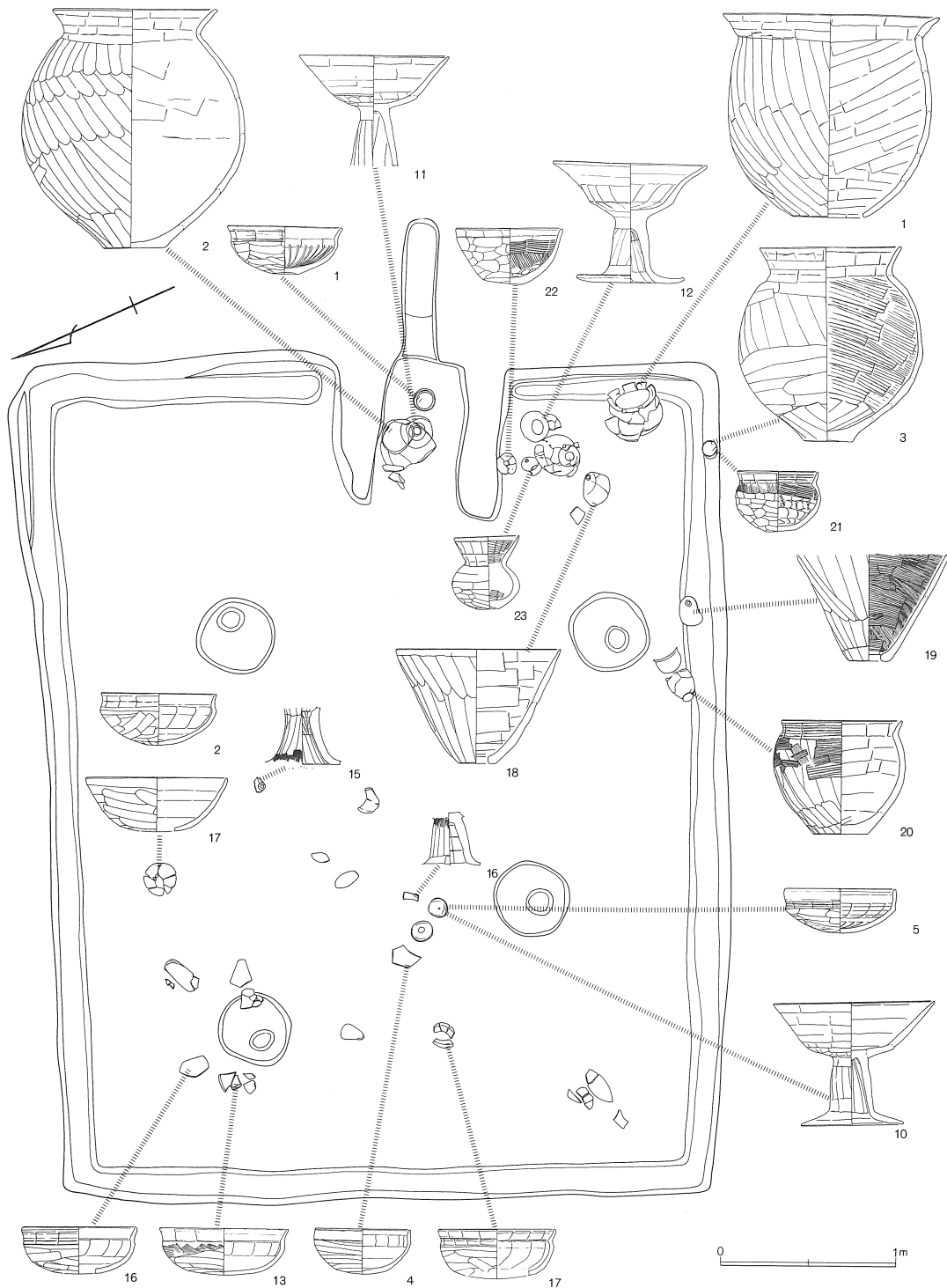
（カマド内） カマド内の遺物は、高坏・坏・甕がある。燃焼部の最も奥に坏が、一点伏せて置かれ、この前方の燃焼部中央に、脚部を欠損した高坏が伏せて置かれている。高坏は支脚として据えられ、上部に甕が載っていたのであろうか、甕は潰された状態で、高坏の脚部を覆っていた。

（カマド左側） カマド袖に接して小形鉢が出土している。また貯蔵穴の位置には、高坏・小形埴・小形甗・大型甗が雑然とおかれている。大型甗は、正位に置かれ、その口縁部は、坏によって蓋がされていた。小形甗は、底部を上に向け、伏せた状態で置かれていた。

第13号住居跡

（壁ぎわ） 北壁付近に滑石製の玉類が、まとめて確認されている。臼玉・管玉・勾玉がおそらく一連分出土している。壁ぎわから壁周溝にかけて、床直の状態を確認されており、住居跡からの滑石製品を考える上で重要である。

（床面） 中央やや南寄りに土師器坏が、2点確認されている。しかし床面からやや浮いた状態で確認されていることから別の住居跡、すなわち第128号住居跡に伴う遺物である可能性が高い。他は、顕著な遺物を見るができない。



第87図 第12号住居跡遺物出土状態

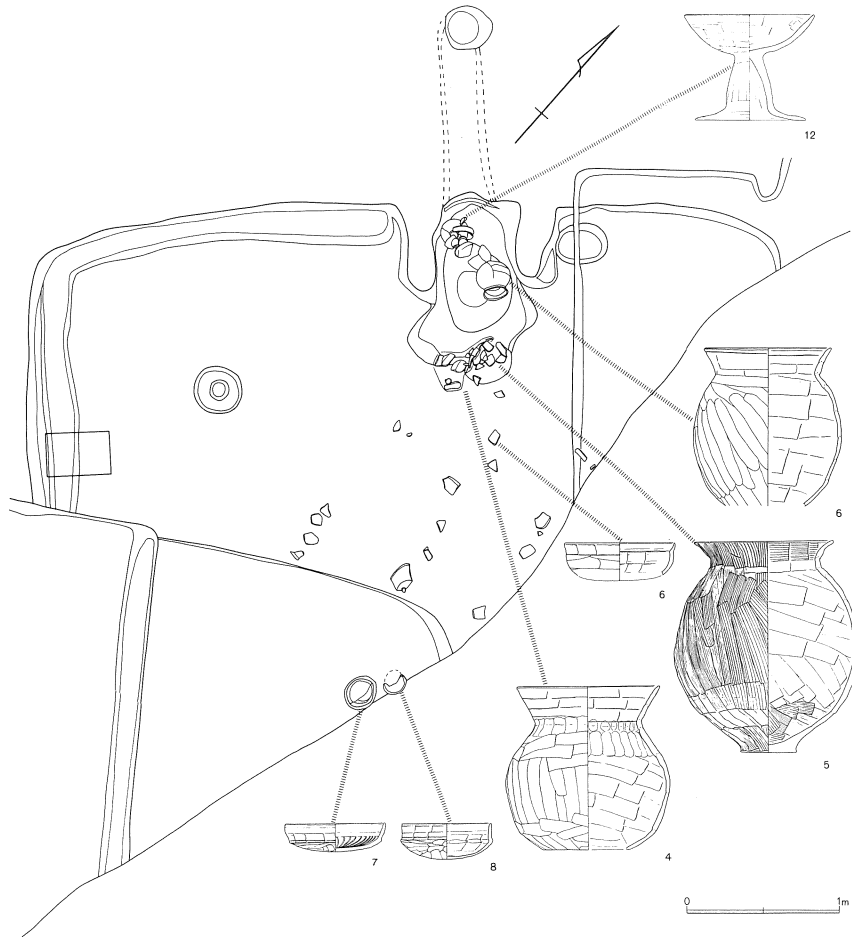
(カマド内) カマド内の遺物は、高坏・甕・甕がある。燃烧部の奥まった部分のやや左よりに高坏が転倒されておかれ、その上に甕が載せられた状態で出土している。ただ土圧によって甕自体は

焚き口の方向に押し潰されていた。焚き口部には甕と甑が、横倒しのまま確認されている。甕は、底部を北にし、甑も底部を北に向けていた。

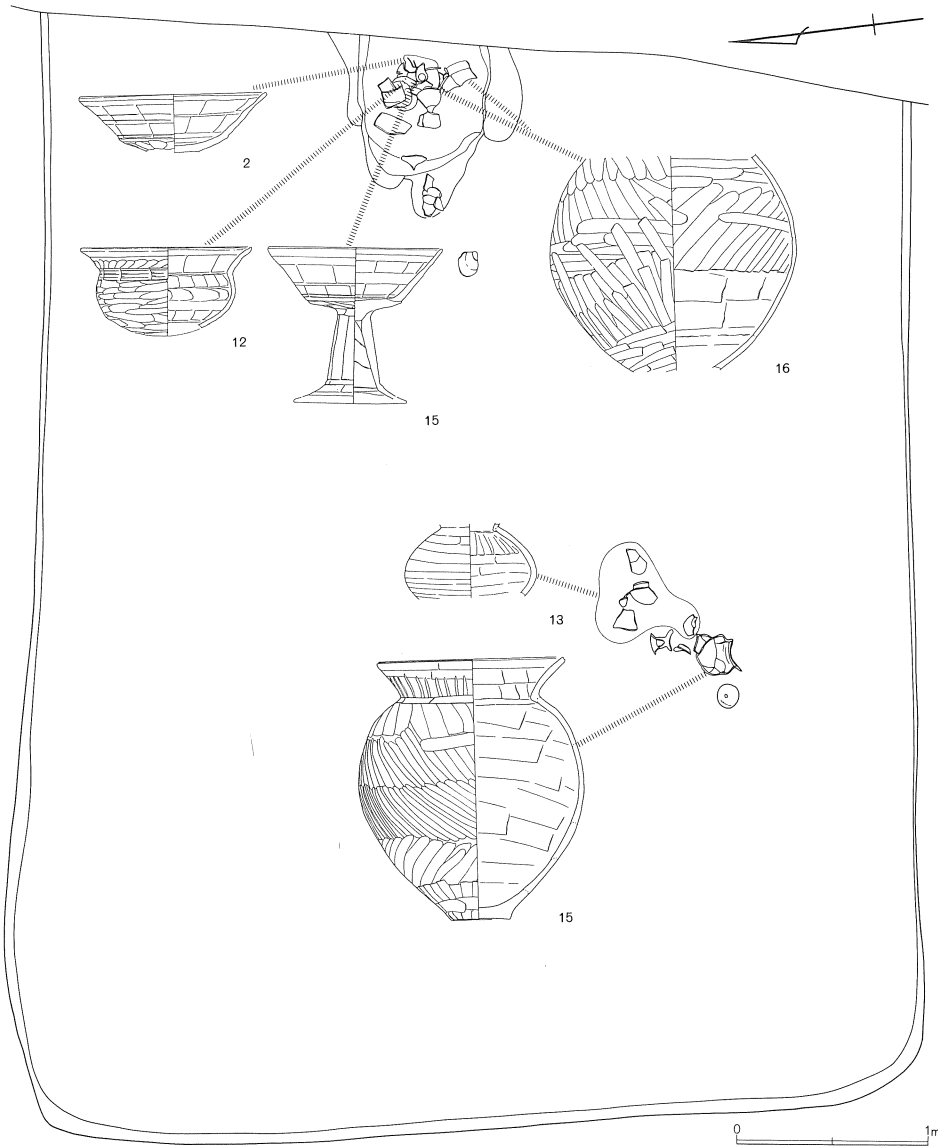
カマドの両脇には、顕著な遺物の出土状態をみることはできなかった。

第17号住居跡

(床面) 中央やや南寄りに土師器甕・小形壺が、床直の状態を確認されている。とくに甕は、横転した状態を確認されており、口縁部は南を向いている。小形壺は、破片程度である。

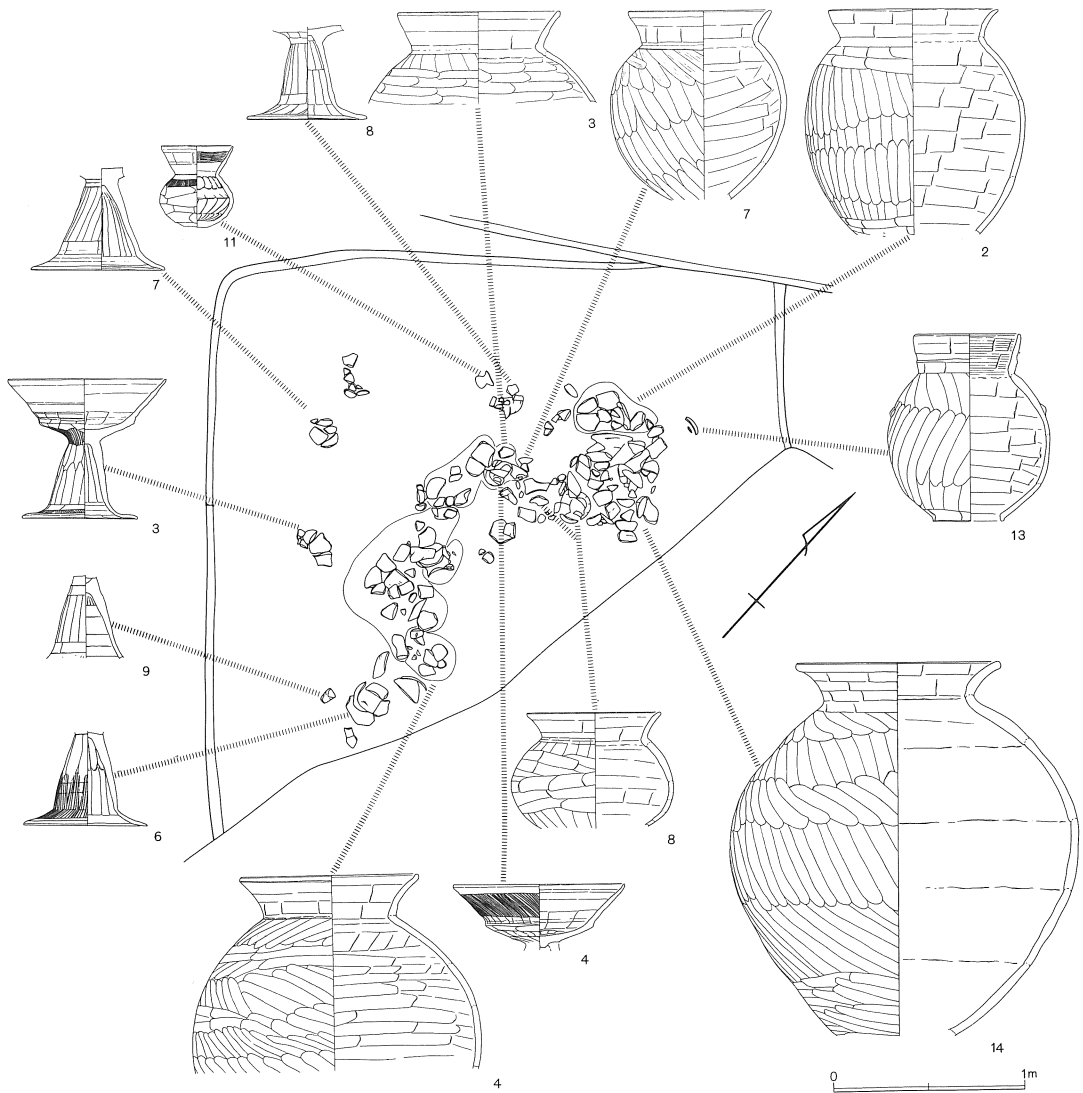


第88図 第13号住居跡遺物出土状態



第89図 第17号住居跡遺物出土状態

(カマド内) カマド内の遺物は、高坏・鉢・甕がある。燃焼部の中央部分に高坏が転倒した形で据えられ、上を向いた脚部のその上には、甕の大形破片が覆っていた。鉢と高坏の坏部はこれを覆うように確認されている。ただしこの二つの土器は、カマドに直接関係した土器か疑問である。壁ぎわ・カマド脇などその他の部分には、遺物の出土を見ることができなかった。



第90図 第18号住居跡遺物出土状態

第18号住居跡

(床面) 中央にまとまって大形の甕・甕・小突起付複合口縁壺・壺が確認されている。土器は全て正位に確認されている。この甕類を取り巻くように、高坏が60~70cmおきにやや離れて等間隔におかれている。さらに北側の高坏列の中央には、小形埴が高坏の横に置かれていた。高坏は、正位に置かれていたらしく、また坏部を残すものは少ない。遺物の出土のあり方から、やや他の住居跡とは異なった性格が伺えようか。

そのほかの部分には、顕著な遺物の出土状態をみることはできなかった。

(4) 遺構各説 —カマドと煮沸土器—

古墳時代第Ⅰ期のカマドと、煮沸にかかわる土器の関係について述べる。

古墳時代第Ⅰ期のカマドの確認された住居跡とその構造については、すでに述べたが、5軒のカマドについて詳細が分かっている。

第9号住居跡

カマドに関係した遺物として、甕2点と甑が出土しているが、これらに明確な使用痕跡は残っていなかった。しかしこれらが、カマド周辺から出土していることから、カマドに何らかの形で関係した遺物であることは間違いない。とくにカマド焼き口部に接して出土している大形の甕は、横倒しの状態で出土している。

第10号住居跡

カマド自体明確な痕跡としては残っておらず、僅かに燃烧部覆土中に焼土の堆積を知るのみである。遺物との関係も明らかではない。

第12号住居跡

カマド内からの遺物の出土状態も明瞭である。甕・甑などが、カマドに掛けられたままの状態を確認されている。99—2の甕は、胴上半に焼土（カマド構築粘土）の帯を見ることができる。頸部にはこの帯は見られない。内面に付着物はみられない。99—1の甑は、胴上半に焼土及び煤の付着が見られ、下半部にはこの痕跡はない。内面下半には、粒状の付着物が見られる。また98—18の甑は、小形の甑で外面全体に被熱痕跡が見られ、内面下半に粒状の付着痕跡が見られる。カマド以外の被熱痕とも考えられる。

第9号住居跡カマド土層説明

- 1 暗褐色土 住居跡覆土
- 2 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。黄褐色ブロック含む
- 3 淡黄褐色土 粘性強。粒子細かい。カマド袖
- 4 淡灰褐色土 粘性強。粒子細かい。カマド煙道部
- 5 淡赤褐色土 焼土

第10号住居跡カマド土層説明

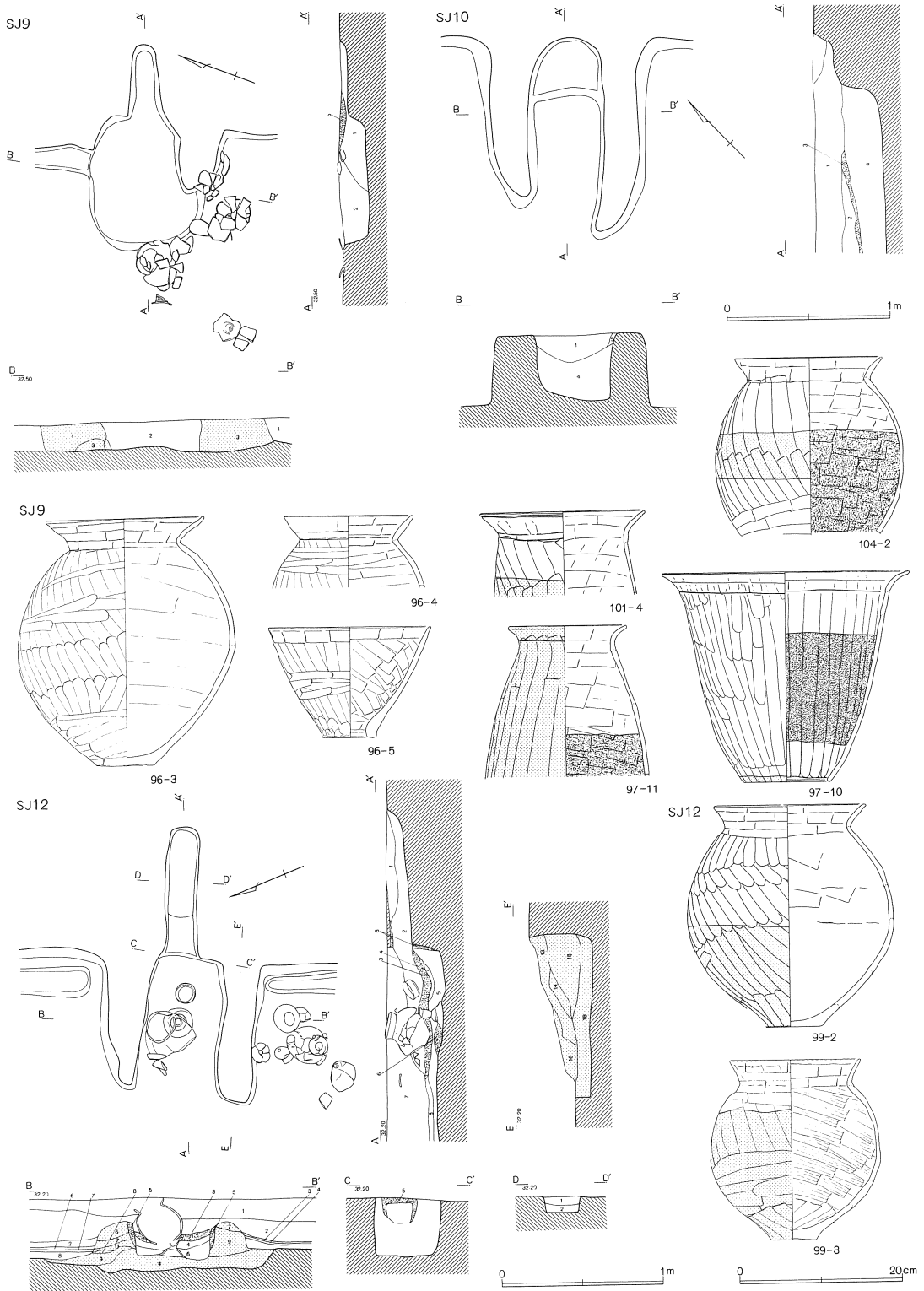
- 1 暗灰褐色土 1層よりやや明るい。粒子粗い。やや焼土粒子を含む
- 2 暗褐色土 粘性の強い粒子の粗い土層で、黄褐色ブロック含む
- 3 淡黄褐色土 粘性の強い粒子の細かい。カマド袖
- 4 淡灰褐色土 粘性の強い粒子の細かい。カマド煙道部
- 5 淡赤褐色土 焼土層

第12号住居跡カマド土層説明

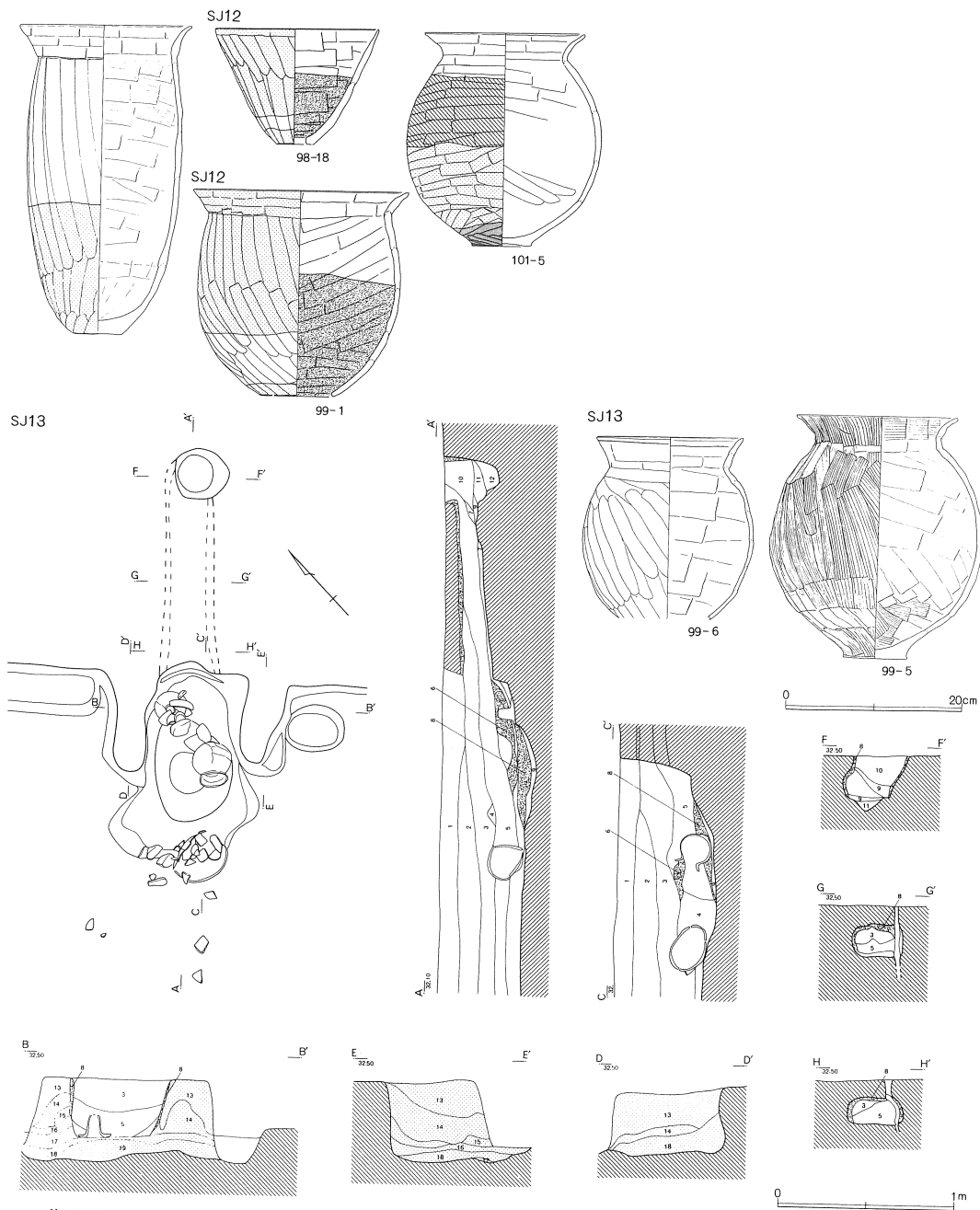
- 1 暗褐色土 粘性の弱い粒子の粗い。炭化物を微量含む
- 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒子を多量に含む。粘性強粒子の粗。
- 3 竜天井部焼土
- 4 灰
- 5 灰・炭化物の混入
- 6 粘土
- 7 炭化物
- 8 暗黄褐色土 粘性強粒子粗。炭化物・焼土粒子を多量に含む

第13号住居跡カマド土層説明

- 1 暗褐色土 粘性の強い粒子の粗い土層。カマド煙道内覆土
- 2 暗赤褐色土 焼土混じり、粘性の少ない粒子の粗い土層カマド煙道内覆土
- 3 赤褐色土 固く焼き締った焼土層、下方に至るに従い淡くなるカマド焼き口部被熱部分
- 4 暗黄褐色土 粘性の強い粒子の粗い土層で、固くしまっている住居跡貼り床
- 5 赤褐色土 固く焼き締った焼土層、下方に至るに従い淡くなるカマド煙道部天井焼土残存
- 6 暗灰褐色土 灰褐色の粘土を主体として、粒子の粗い粘土（黄褐色）を若干まぜる。やや軟らかいカマド構築材
- 7 黄褐色土 粘土層、粒子の細かい固くしまった粘土層カマド構築材
- 8 黒色土 パサパサの炭化物層カマド構築前の炭化物層
- 9 黄褐色土 6層・7層の間カマド構築前の粘土層
- 10 淡黄褐色土 9層よりも軟質で、粘性の強い粒子の細かい粘土層カマド構築材
- 11 灰褐色土 焼土混じりで6層と同様カマド構築材
- 12 黄褐色土 粘土のブロック
- 13 暗黄褐色土 粘性の強い粒子の粗い土層で、炭化物をやや混入する103号住居跡覆土
- 14 淡褐色土 14層よりも更に炭化物を混ぜるが他と同様103号住居跡覆土
- 15 赤褐色土 固く焼き締った焼土層下方に至るに従い淡くなるカマド被熱部分



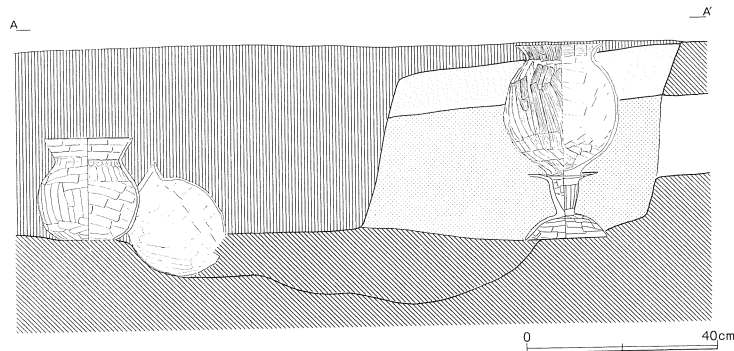
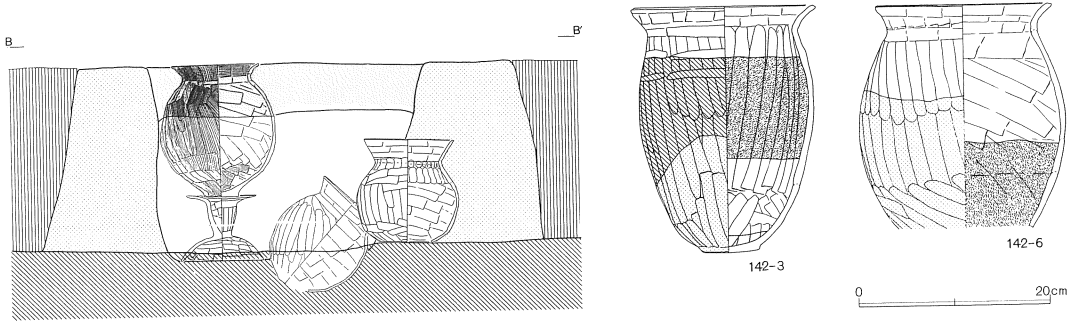
第91図 第9・10・12号住居跡カマド・遺物出土状態



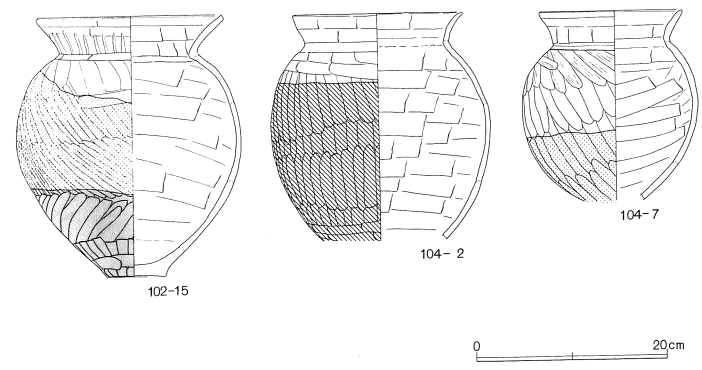
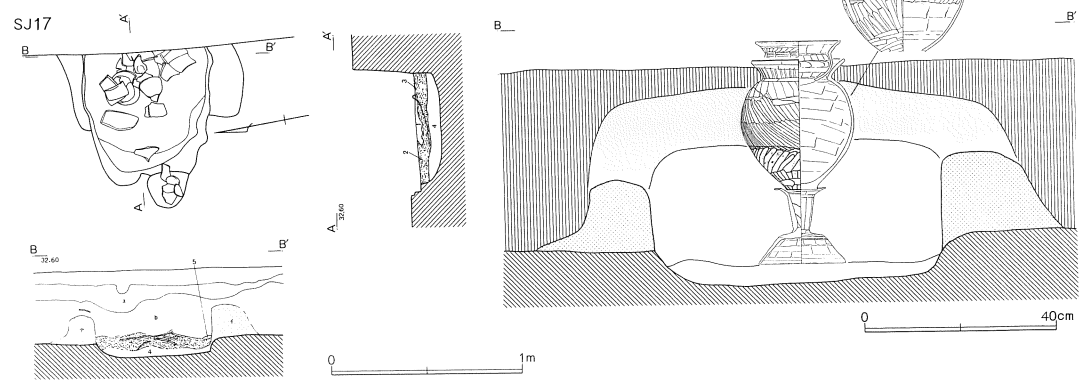
第13号住居跡 (カマド) 土層説明

- | | | | |
|-----------|---------------------------|------------|--------------------------|
| 1. 黄褐色土 | 地山。粘性強。粒子の細かい層 | 11. 淡褐色土 | 煙道。煙出口部の堆積層。粘性強。粒子細かい |
| 2. 暗褐色土 | 粘性強。粒子の細かい層。多量の炭化物含む。 | 12. 淡褐色土 | 煙道。煙出口部の堆積層。粘性強。11層より明るい |
| 3. 暗褐色土 | 粘性強。粒子の細かい層。多量の炭化物含む。 | 13. 暗褐色土 | 粘性強。粒子粗い。焼土粒子。炭化物多量含む。 |
| 4. 赤褐色土 | 焼土の塊り。粘性強。粒子細かい | 14. 淡黄褐色土 | 粘性強。粒子粗い。炭化物少量含む。 |
| 5. 淡褐色土 | 粘性強。粒子の細かい層。天井部の崩落土 | 15. 淡灰褐色土 | 粘性強。粒子粗い。炭化物少量含む。貼床 |
| 6. 淡黒褐色土 | 粘性強。粒子の細かい層。炭化物含む。 | 16. 淡暗黄褐色土 | 粘性強。粒子粗い。掘方の土 |
| 7. 淡褐色土 | 粘性強。粒子の細かい層。6層より明るい。 | 17. 淡暗黄褐色土 | 粘性富む。16層より明るい。掘方の土 |
| 8. 赤褐色土 | 粘性強。固く締った層。カマド焚口部に堆積した焼土層 | 18. 黄褐色土 | 地山。粘性強。粒子細かい。 |
| 9. 淡赤褐色土 | 8層の影響より淡赤色になった黄褐色層 | 19. 黄褐色土 | 地山。粘性強。粒子細かい。やや明るい |
| 10. 淡暗褐色土 | 煙道。煙出口部の堆積層。粘性強。粒子細かい。 | | |

第92図 第13号住居跡カマド・遺物出土状態



- 第17号住居跡土層説明
- 1. 赤褐色土 焼土層
 - 2. 黄褐色土 焼土粒子、炭化粒子多量含む
 - 3. 褐灰色土 灰層、焼土粒子多量含む
 - 4. 暗赤褐色土 焼土層、灰少量含む
 - 5. 暗赤褐色土 焼土層
 - ア 褐色土 焼土粒子多量含む
 - イ 褐色土 焼土粒子極少量含む
 - a 暗褐色土 焼土粒子少量含む
 - b 褐色土 焼土粒子、炭化粒子多量含む



第93図 第17号住居跡カマド・遺物出土状態

第13号住居跡

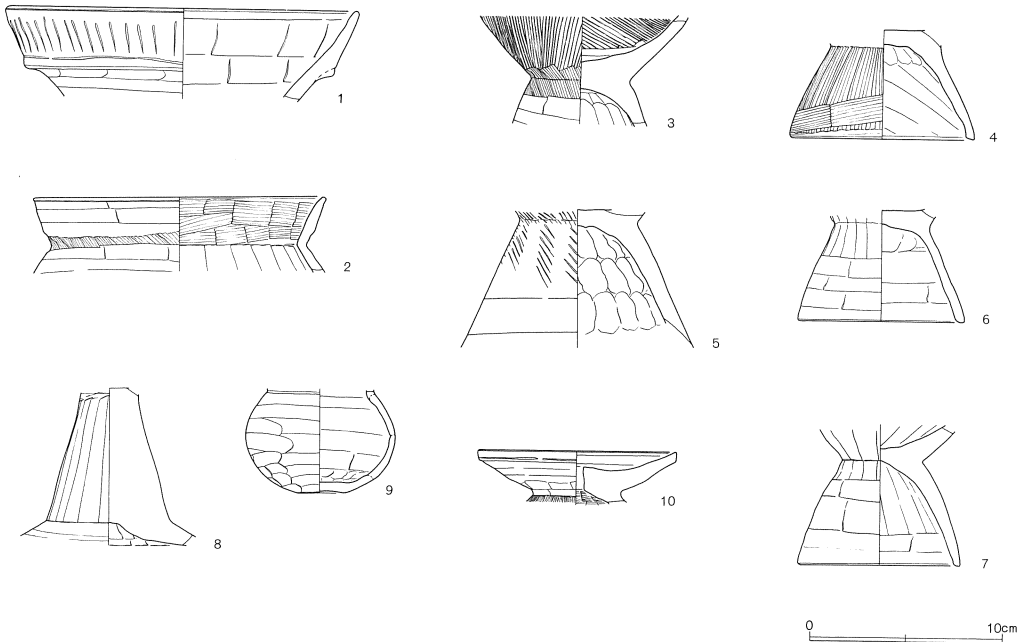
カマドの燃焼部中に支脚として高坏が残り、これに支えられた甕、さらにカマドの脇から正位に据えられた甕が出土している。カマドを巡る3つの土器が、共伴して出土したことは、カマドの使用方法を考えるうえで興味深い。高坏は、燃焼部の中心軸には置かれず、左半分には置かれている。これは、煙道部が、燃焼部の左よりに設置されたことからくる措置であろう。甕は、高坏の支脚上に据えられたままの形で、土砂の堆積による圧迫を受け、燃焼部内でも前方に押しやられていた。これらからカマド内部における燃焼部の空間が推定できる（第98図参照）。ただし出土した土器の被熱痕等の痕跡が、不明確なことが残念である。

第17号住居跡

2点の甕に被熱痕等が見つかった。このうちの一点がカマドに掛けられていた甕である（104—2）。とくにこの甕は、肩部より下が、焼土（カマド構築粘土）によって覆われている。高坏が、支脚の代用として使用されている点は、第12号住居跡と同様である。復原図では、122—15の甕を代用している。この甕が、カマドに掛けられた状態では、口縁部に103—1の坏が載せられていた。単なるカマド部分における片付けなのか、それとも煮沸に関係した土器なのかは判然としなかった。カマドの残存状態も良くなかったため、燃焼部の空間を復元することは難しいが、敢えて今後の理解のために復元した。

このほかに二次的な被熱痕等のある土器は、各住居跡から出土している。

97—10は、外面にはこれらの痕跡が見られないが、内面の中位に、帯状に粒状の付着物が見られる。下部1/5程度のところにその痕跡が見られないのは、大形甕の機能の一端を反映しているの



第94図 古墳時代第I期以前の出土土器

97—11は、古墳時代第Ⅰ期の製品ではないが、この段階の住居跡の覆土中から出土した遺物である。外面いっばいに焼土等の粒子が付着している。カマド構築材として芯に使用されたのであろうか。内面には、下半に付着物を見ることができる。

101—5は、胴中位に帯状に粘土痕跡が巡る。カマドの構築用粘土であろう。この粘土帯の直下は赤くただれた被熱痕跡が残る。内面には付着物等は見られない。

102—15は、やはり帯状に胴中位に粘土痕跡が巡り、肩部やや上まで及ぶ。内面には、付着物等を見ることはできない。

(5) 遺物各説 一古墳時代第Ⅰ期以前の出土土器一

古墳時代第Ⅰ期以前の出土土器で図化できたものは、10点だけである。これらは、ほ—295グリッド付近に集中して確認された。旧河川に掛かる谷状の肩部に、破片で散らばっていた。明確な遺構には伴ってはいない。しかし本郷前東遺跡(既報告分)でも、この段階の遺物は確認されていることから、周囲にこの段階の集落の存在したであろうことは予想される。

第94図1は、壺形土器の口縁部である。口縁部外面に縦位に8mm前後の間隔で、細かなヘラミガキが施されている。口縁部の作りは、一度大きく外反したのちに、内湾しつつ立ち上がり、口縁端部に到達する。そのため途中で一段稜をもつ。この稜は、口縁部に添付された稜で、断続的な圧着不足から来る亀裂が見られる。内面は丁寧な断続的なヨコナデがみられる。

第94図2は、甕の口縁部である。口縁部内面と肩部の一部に、細かなハケメが残っている。外面のハケメは、ほとんどわからない。内面のハケメは、横方向に断続的に施されている。器形の特徴として、口縁部の中央が、緩く肥厚化していることをあげられる。

第94図2～7は、台付甕の台及び接合部である。全て作りは同様で、甕を転倒させ、断面台形の台部へ指押えによって圧着して付ける。外面には、圧着したあとにハケメによって、さらに接着効果を増させる。工具は胴部に使用した工具と、同様の工具を用いてハケメを施している。また外面は、縦のナデのあと横のナデによって仕上げられている。

第94図8は、高坏の脚部である。中実の脚柱部で、他の部分は欠損して見られなかった。外面は丁寧に削られ仕上げられている。

第94図9は、柑の胴部である。指押えと細かなナデによって丁寧に作られている。外面には、ヨコナデのあと、胴下半に細かなヘラケズリを施している。底部は、やや上げ底気味の底部である。口縁部の形態は、全く分からないが、「く」の字に立ち上がっていくものと思われる。

第94図10は、器台の口縁部である。口縁部の作りは、緩やかに内湾しつつ立ち上がり、口縁端部で急に立ち上がる。口縁端部は、面をもって作られ、外面は、ふっくらとしている。脚部は、大部分欠損しているが、その付け根の部分が僅かに残っており、作りが分かる。細かなハケメが、横方向に施されており、圧着した様子が良く分かる。脚部の穴は、下から上に向かって穿孔されていたようである。外面脚部には、僅かにハケメが残っている。土器は被熱痕がある。

(6) 遺物各説 一古墳時代第Ⅰ期の出土土師器分類一

古墳時代第Ⅰ期の出土土師器を本来の機能をもとにまず大別し、次に成形の手法・器形によって分類する。ここでは土器の変化を軸に、どこがどのように変化したのか、あるいは変化しないのかを明確にしておく。一軒の竪穴式住居内に残された良好なセットを代表させ、土器の総合的な変化をとらえるのではない。まず各器種の跛行の変化を縦軸にし、各住居跡の相伴関係で出来るだけ多く横軸をとらえる。なお括弧内は略号。略号は、土器観察表と対応する。

1 坏碗類 食膳具の坏碗類には、5つの器種がある。

内斜口縁坏1（内坏1） 碗形の胴部で、口縁部でS字状に屈曲する。口縁内面は、扁平な面を形成し、傾斜しつつ立ち上がる。口縁部と胴部の接合は、外面は緩やかだが、内面には稜がある。外面は、底部を細かくヘラケズリし、口縁部を数回に亙る断続的なヨコナデによって仕上げる。内面の稜を作り出す際に、断続的なヨコナデを行なう。在地の土器生産のなかに、すでに存在していた形態である。

内屈口縁坏1（屈坏1） 分厚い底部から緩やかに立ち上がり、口縁部で内側にやや屈曲する。胴部は、細かな指押えによっていねいに成形され、底部は細かくヘラケズリされる。口縁部は、断続的なヨコナデによって成形され、口縁部と底部の境は、内面で凹んでいる。底面は細かなヘラオサエが残る。在地の土器生産のなかにすでに存在している器種である。

碗1（碗1） 緩やかに内湾するいわゆる碗形の土器である。全体をヨコナデによって成形し、底部を細かなヘラケズリでまとめる。底部から口縁部にかけては、際立った厚みの変化はない。口縁部は素口縁で、端部は丸い。

須恵器模倣坏蓋1（蓋坏1） 須恵器の蓋付坏の蓋を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK208～23の須恵器坏蓋Bに、プロポーショナル的には近似している。底部内面を円形にヘラオサエを行ない、口縁部を断続ヨコナデによって作りあげる。口縁部はややS字状になり、緩く内湾しながら立ち上がる。外稜はあまり明瞭ではなく、工具による押えはみられるものの甘い。底部は細かくていねいにヘラケズリされている。口唇部はやや内側に傾斜している。この器種は、在来の土器生産のなかには無く、須恵器の食膳具内への参入とともに、出現した器種であろう。

須恵器模倣坏身1（身坏1） 須恵器の蓋付坏の身を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK208～23の須恵器坏身Bに、プロポーショナル的には近似している。蓋坏1と同様、底部内面を円形にヘラオサエを行ない、口縁部を断続ヨコナデによって作りあげる。口縁部は、垂直に緩く外反しながら立ち上がる。しかし外稜よりも決して突出することはない。蓋坏1とは、口縁部が内湾するか、外反するか程度の差である。しかし須恵器を念頭に考えるとすれば、決して看過できない問題である。底部は細かくていねいにヘラケズリされている。口唇部はやや内側に傾斜している。この器種も、在来の土器生産のなかには無く、須恵器の食膳具内への参入とともに、出現した器種であろう。

2 高坏・器台類 食膳具の高坏・器台類には、6つの器種がある。

和泉式系高坏1（和高1） 和泉式土器に、普遍的に見られる高坏の系譜を引く高坏である。細長

い柱状の脚は、輪積みによって高く作られている。外稜によって底部と口縁部が区切られ、緩く立ち上がる底部と外反していく口縁部とで構成される。断続ヨコナデによってこの外稜は作り出され、底部を突出させ成形を終る。この突起を脚部の頂きに接合し、成形は完了する。従来から存在した和泉式系の高坏である。

平底高坏 1（平高 1） 高坏坏部が平底の高坏である。口縁部の長さが、脚部の長さと同程度まで長く、緩やかに外反しつつ立ち上がるのが特徴である。外稜は明確で、外面はヘラオサエ、内面はハケメが施されている。しかし坏部と脚部の成形は、縦方向のナデのあとにハケメによる圧着が行なわれていた。脚裾部もハケメが残り、全体の成形には、ハケによる成形が、行なわれていたと理解できる。

有稜口縁高坏 1（有稜高 1） 口縁部・裾部の中央に、突出した外稜が巡る高坏である。裾部・口縁部の一方のみの場合もある。口縁部の突出する外稜は、ハケメが接合部に残り、ハケによる圧着が行なわれていたと思われる。裾部も同様である。ただ裾部は、ハケメの痕跡を綺麗にヨコナデによって拭い去っている。基本的には、和泉式土器のなかにある高坏を踏襲しているのだが、優れて精巧な作りである。

素口縁高坏 1（素高 1） 口縁部が内湾する、壜形の坏が乗る高坏である。口縁外面は、縦位のハケメが残っている。このハケメを消すように脚接合部と口唇部には、ヨコナデが施されている。脚部は、縦にしていねいにヘラケズリされ、これをヨコナデによって整えている。坏部内面は、ていねいなヨコナデが見られる。口唇部は、素口縁である。系譜は定かではない。

内斜口縁高坏 1（内高 1） 内斜口縁坏に、脚部が付いた器形である。ただし坏部は、単独の坏よりもやや大振りで、しかも深い。各部位の成形方法は、ていねいである。脚部は一般的な裾と、有稜の二者がある。従来の土器生産の内部に認められる器種である。

須恵器小形高坏模倣高坏（須高 1） 須恵器高坏の模倣をしたと考えられる高坏である。しかし明瞭な坏部が、伴っておらずやや不明瞭である。脚接合部の著しいくびれ、脚から裾への激しい屈曲、丁寧なヨコナデ等から、従来の高坏の内部には、この器形を抽出することは難しい。外来からの要素、おそらく須恵器高坏の影響であろう。

3 小形製品 小形製品は、機能毎に本来多くの柱を立てるべきであるが、ここに一括した。8つの器種を設定した。

罎 1（罎 1） 小形の罎形土器である。従来からの系譜を引く土器である。胴部は細かく、指押え成形され、胴下半をヘラケズリされる。底部は上げ底気味になる。胴上半は、ヨコナデが施され、ていねいな作りである。口縁部外面は、ヨコナデによって成形されるが、内面は、細かなハケメが残っている。口縁部は、緩く内湾しながら立ち上がる。

小形丸底壺 1（小丸 1） 従来大形の罎とされていた器形である。胴部まで明瞭に残る資料は見られない。しかし口縁部の特徴等から、和泉式土器の系譜を引いている土器である。外面・内面ともにヨコナデが施され、内面には、断続ヨコナデが残る。口縁部は、緩く内湾する。

鉢 B 類 1（鉢 B 1） 小形の鉢形土器である。成形方法は、内湾坏のそれに類似する。形態的特徴として、深めの湾形で、口縁部で内湾し、斜めの面をもって立ち上がる。底部は、非常に細かなへ

ラケズリが施されている。内面は、断続ヨコナデが明瞭に残っている。

鉢D類1（鉢D1） 小形の鉢形土器である。口縁部は素口縁で、ヨコナデによって成形されている。底部から内面をハケで撫で付け、外面を指押えして作り上げる。外面は、そのあと細かくヘラケズリされ、成形される。厚い底部から緩く内湾しつつ立ち上がる。

鉢I類1（鉢I1） 大形の鉢で、きわめて丁寧な作りである。内高1の口縁部の成形方法と似ている。底部を細かくヘラケズリし、口縁部は、断続ヨコナデによって作られている。強く内湾した胴部からくの字に屈曲する口縁部へ至る。口唇部では、一端外反気味に伸びたものが、再び内側に戻る。内面底部には、ヘラオシアテ痕跡が残る。

小形壺1（小壺1） 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで成形する。外面は、胴部を縦にヘラ削りしたあと、横方向のヘラケズリを行ない調整する。口縁部は断続ヨコナデによって作られている。口縁は、球胴の胴部から強く屈曲して作られている。外反する。

小形甕1（小甕1） 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで、胴下半を成形する。内面の胴上半は、断続的なヨコナデによって成形される。外面は、胴部を縦にヘラ削りしたあと、胴上半部には横方向のハケメが残る。短い口縁部は、球胴の胴部から強く屈曲し外反する。

球胴甕1（球胴甕1） 球に近い胴部に、緩く立ち上がる口縁部が付く。外面は、縦にヘラケズリされたのちに、胴中位のみが再度縦にヘラケズリされる。口縁部は長い。内面は、横にヘラオサエされる。口縁内側は、ハケメが残る。胴部に一對の貼付が見られる。

4 甑 甑は、土師器の全体の占める割合は、決して多くない。しかし4つの器種の設定が可能である。

三角甑1（三角甑1） 消火活動で使用する三角バケツに、プロポーションが近似する三角甑は、和泉式土器以来の伝統的な甑のなかに存在する形態である。小さな底部から一直線に口縁部へ伸びる形態で、小形の甑である。胴部は、縦にヘラケズリされ、口縁部が僅かにヨコナデされている。内面は、ヘラオサエによって成形されている。

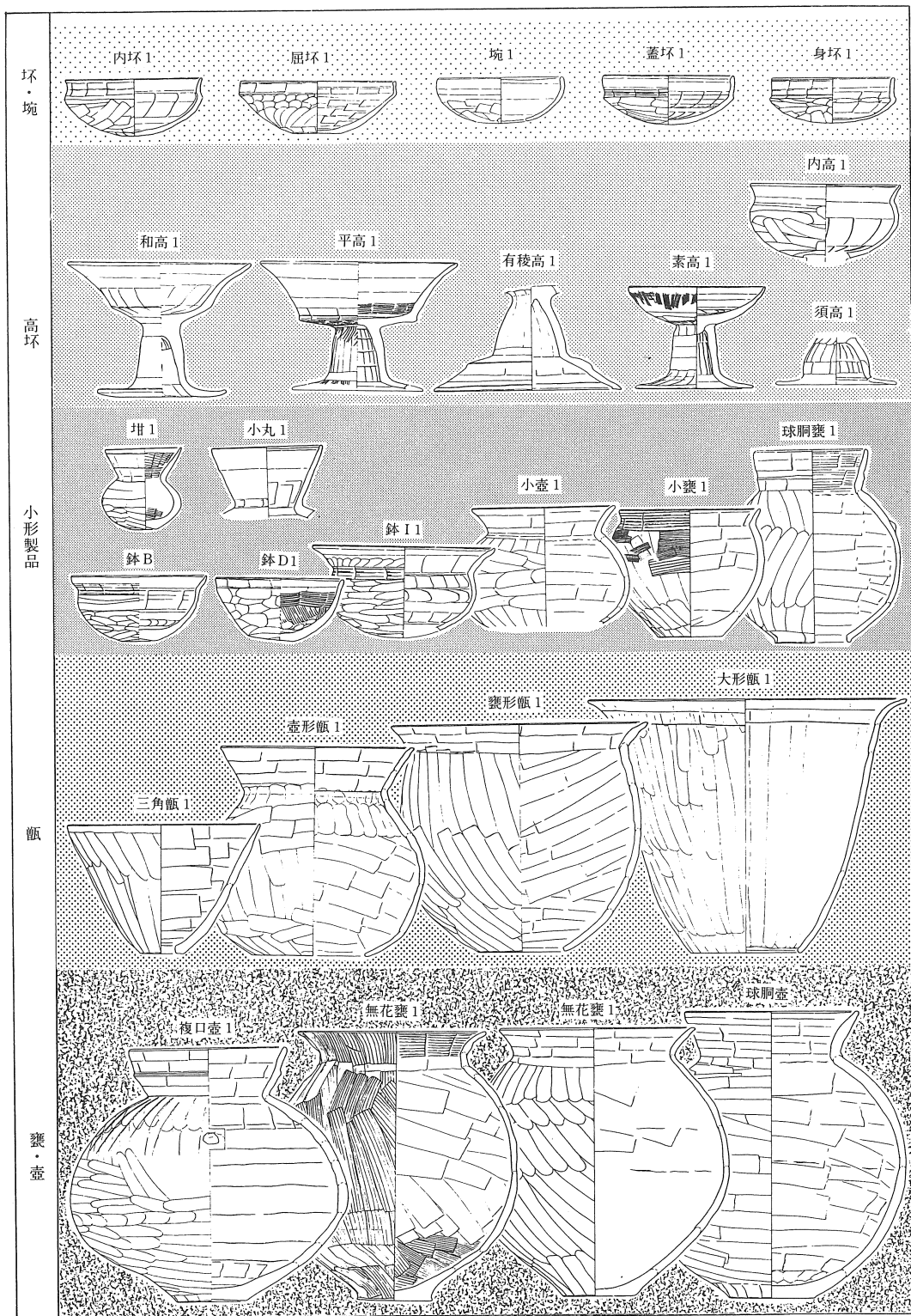
壺形甑1（壺形甑1） 大形の壺の底部が、筒抜けになった形態で、一見底部穿孔土器を想像させる。口縁部が長く、外反しつつ開き、ていねいにヨコナデされている。胴部は指押えの後、縦にヘラケズリされ、肩部と底部が横にヘラケズリされている。内面は、ヘラオサエで成形されている。初期的な大形甑であろう。

甕形甑1（甕形甑1） 頸部のあまり締まらない甕形の甑で、滑らかなS字カーブを描き、口縁部に到達する。外面は、縦にヘラケズリされ、口縁部は断続的にヨコナデされている。内面は、横にヘラオサエされている。作りにていねいさが見られない。新しく登場した器種である。

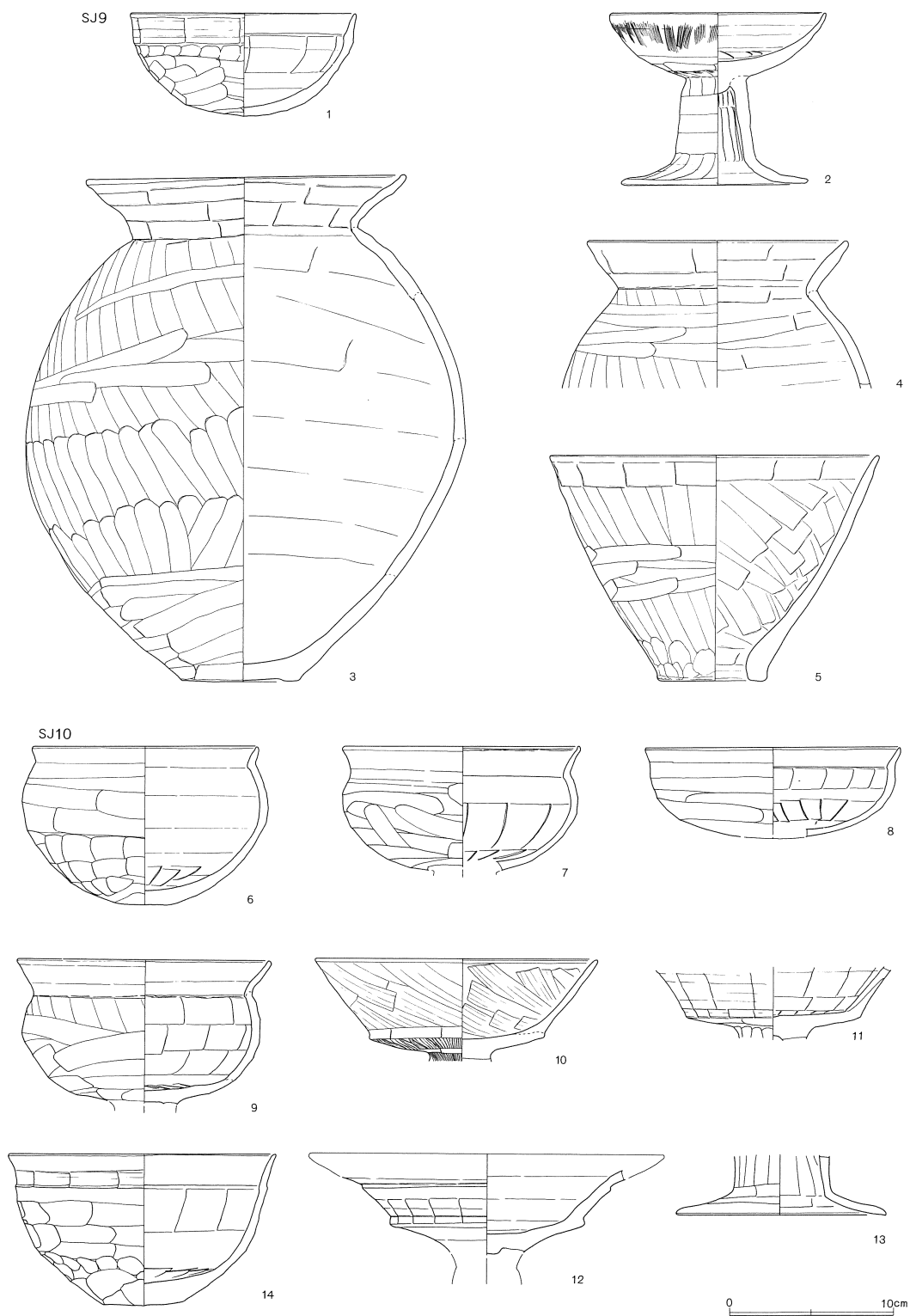
大形甑1（大形甑1） 大形の筒抜けの甑で、底部近くでやや絞まる他は、一直線に口縁部に達する。口縁部は、短くしかも急激に屈曲する。新しく登場した器種である。

5 甕・壺 甕・壺は、煮沸・貯蔵用として多く生産され、各住居跡に普遍的に見られる。ここでは、4つの器種の設定が可能である。

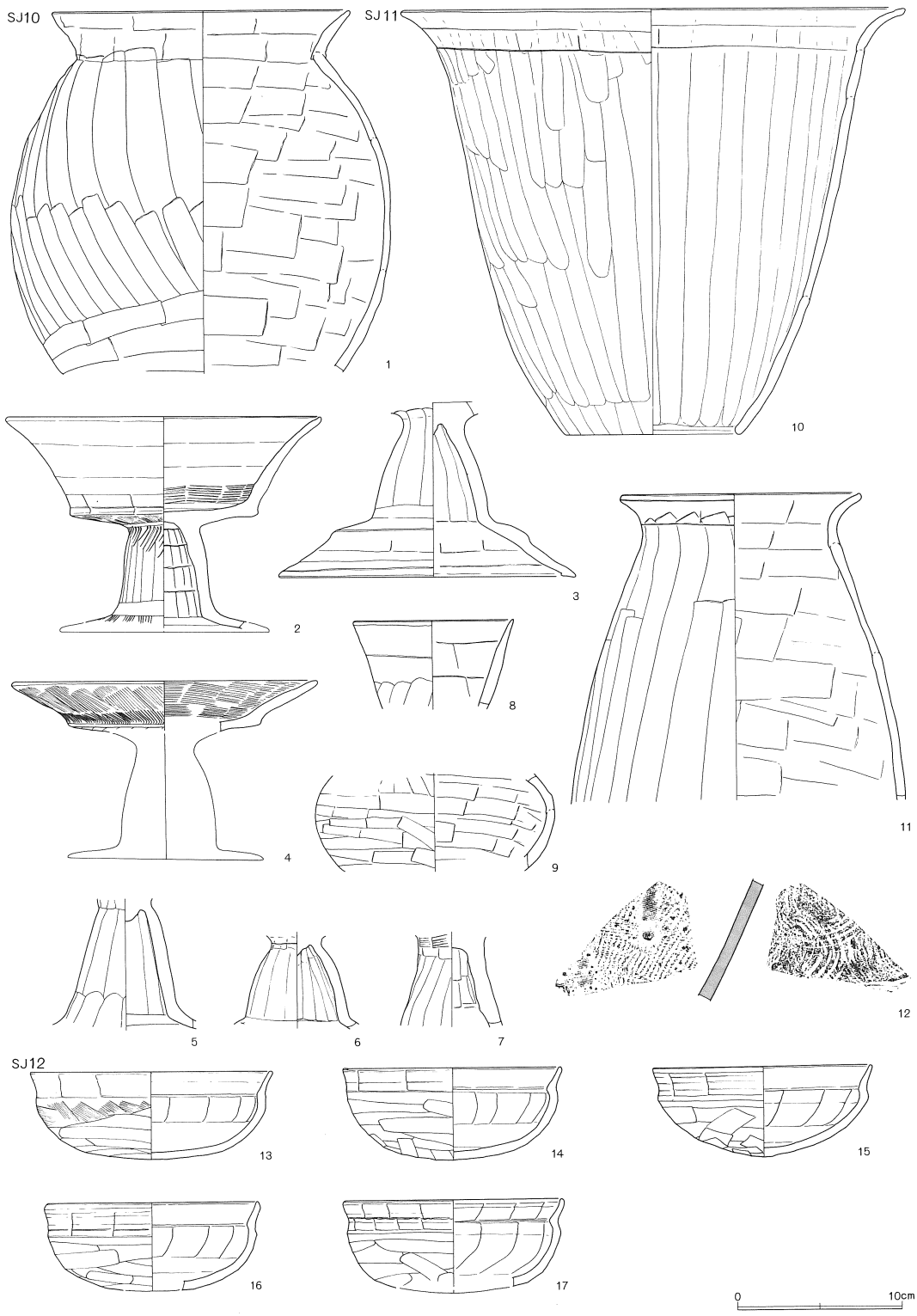
複合口縁壺1（複口壺1） 扁平な球胴部に、口の広い口縁部がくの字に付く形態。口縁部は、途中に稜を作り、いわゆる複合口縁となっている。ヨコナデによって成形される。胴部は、縦に粗く



第95図 古墳時代第I期の出土土器分類

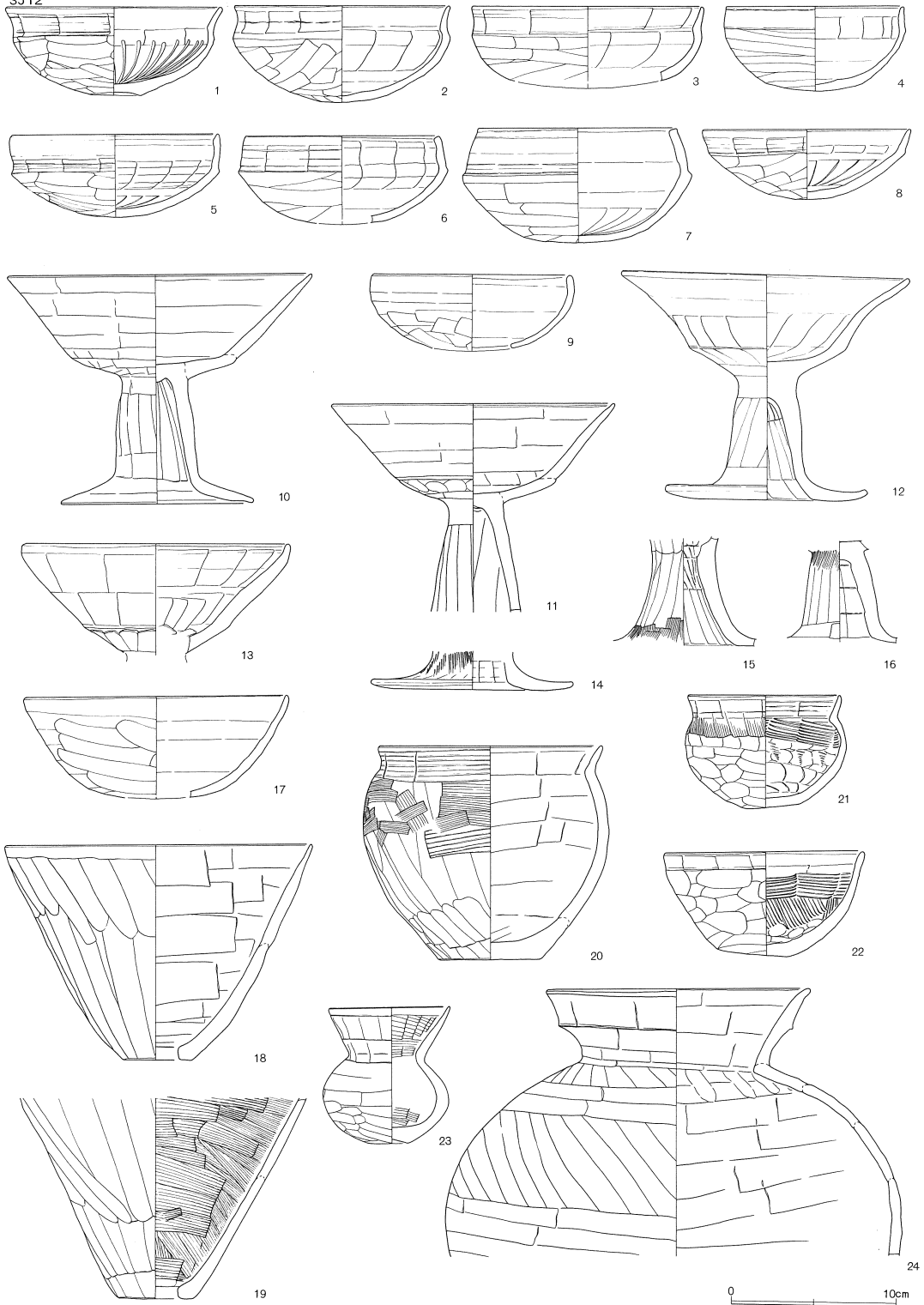


第96图 第9・10(1)号住居跡出土遺物

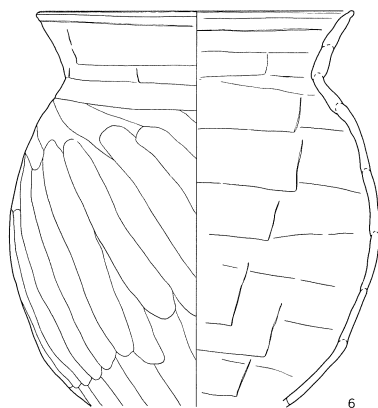
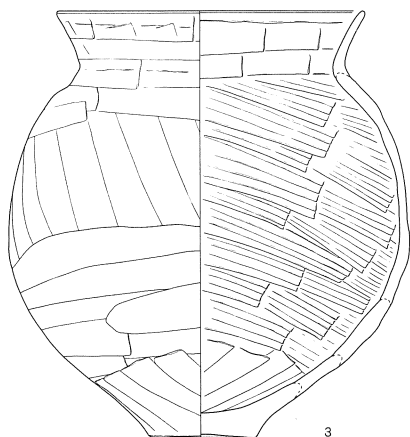
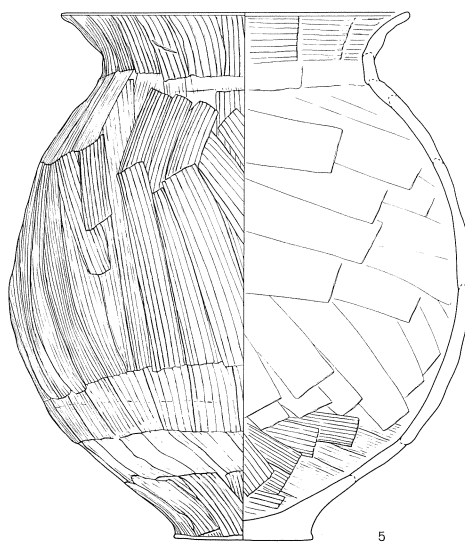
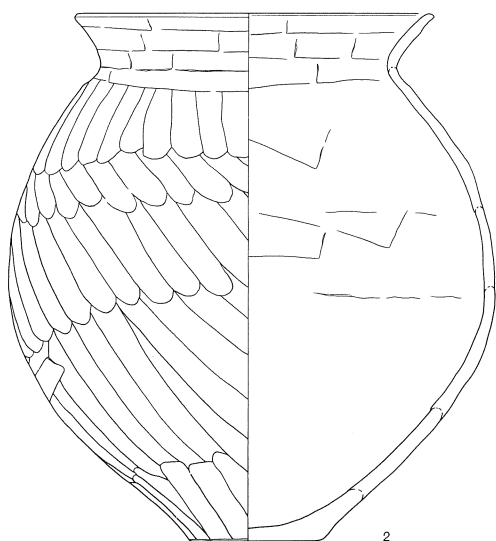
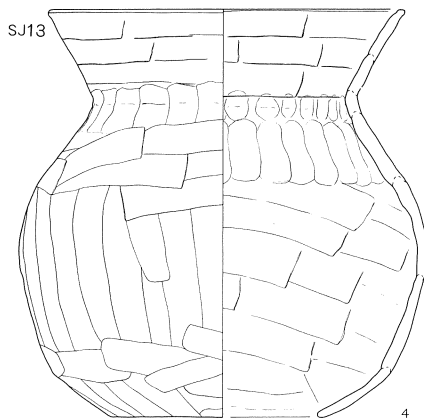
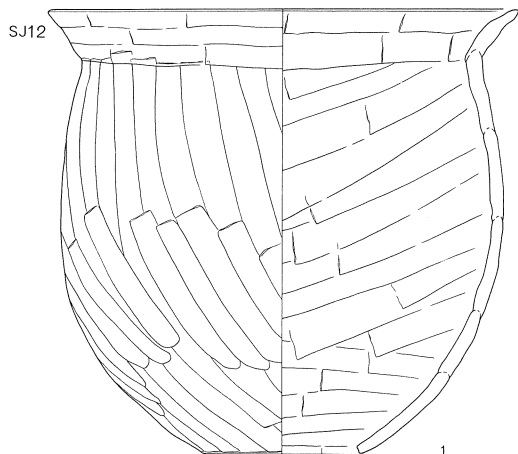


第97图 第10(2)·11·12(1)号住居跡出土遺物

SJ12



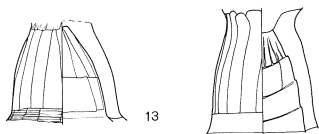
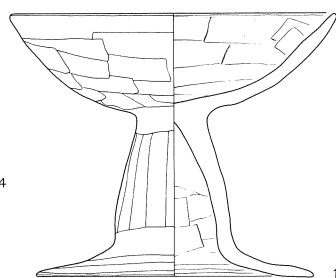
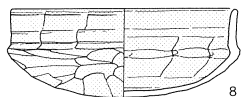
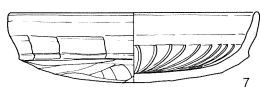
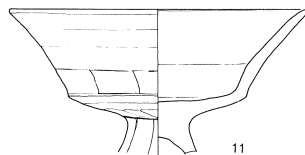
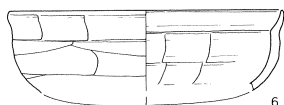
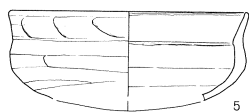
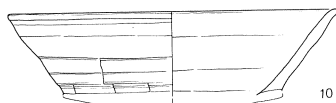
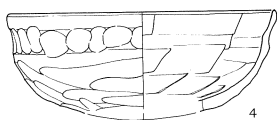
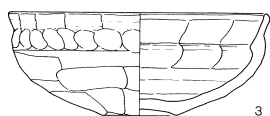
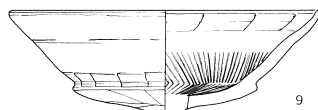
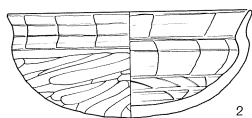
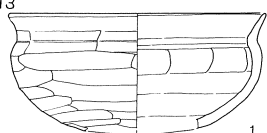
第98图 第12(2)号住居跡出土遺物



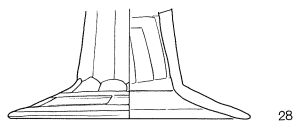
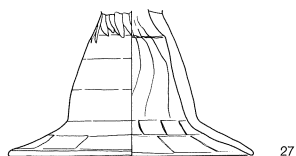
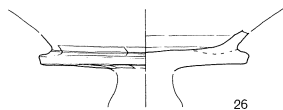
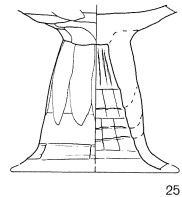
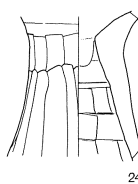
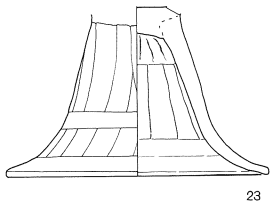
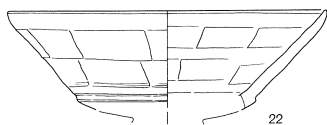
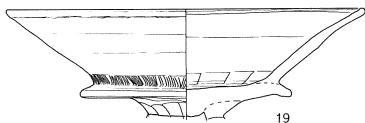
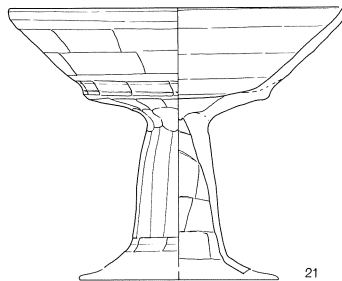
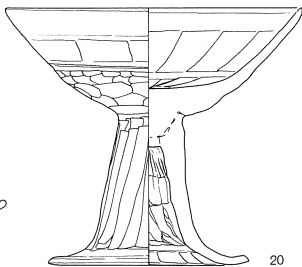
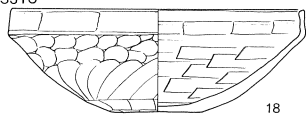
0 10cm

第99图 第12(3)·13(1)号住居迹出土遺物

SJ13

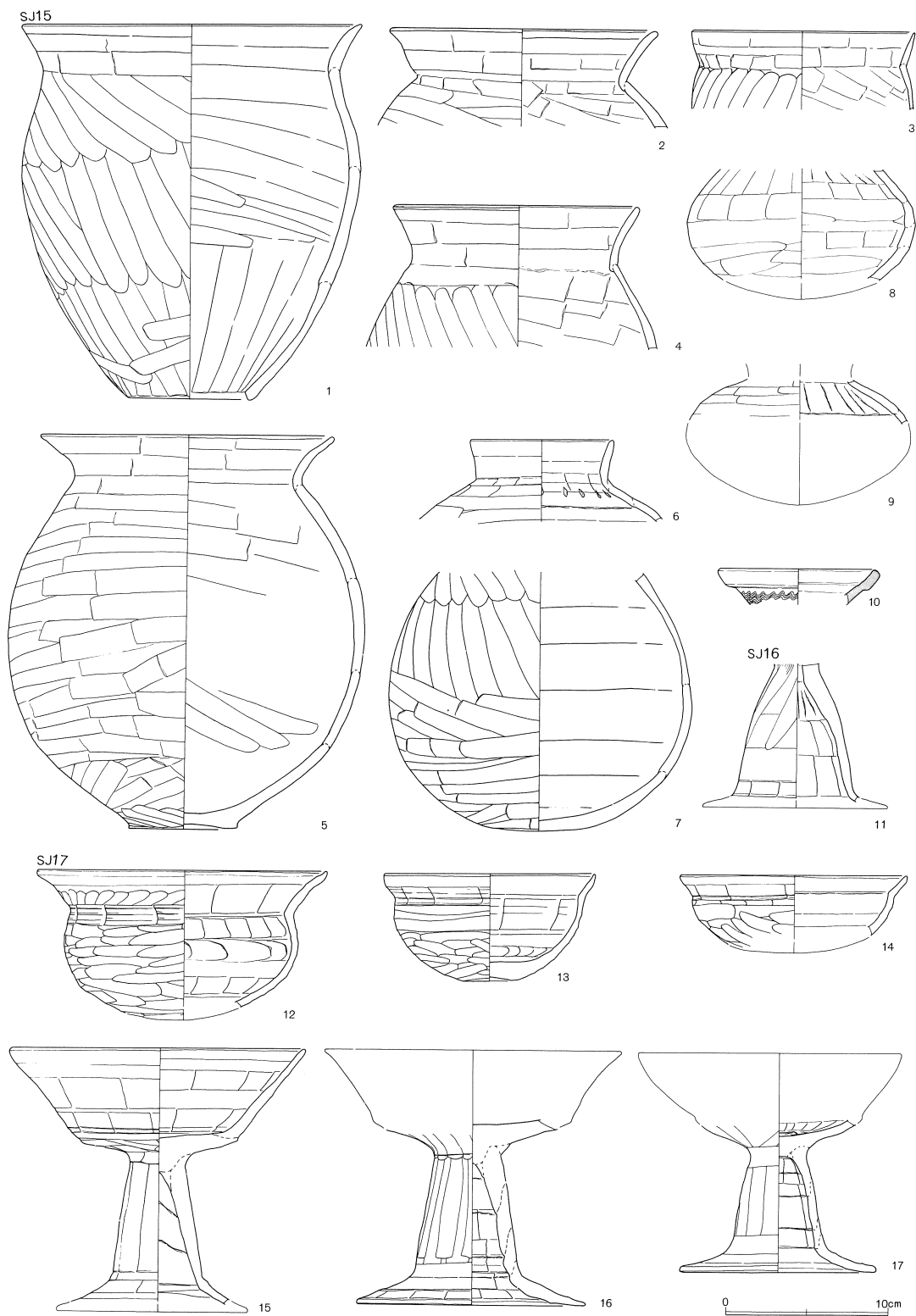


SJ15



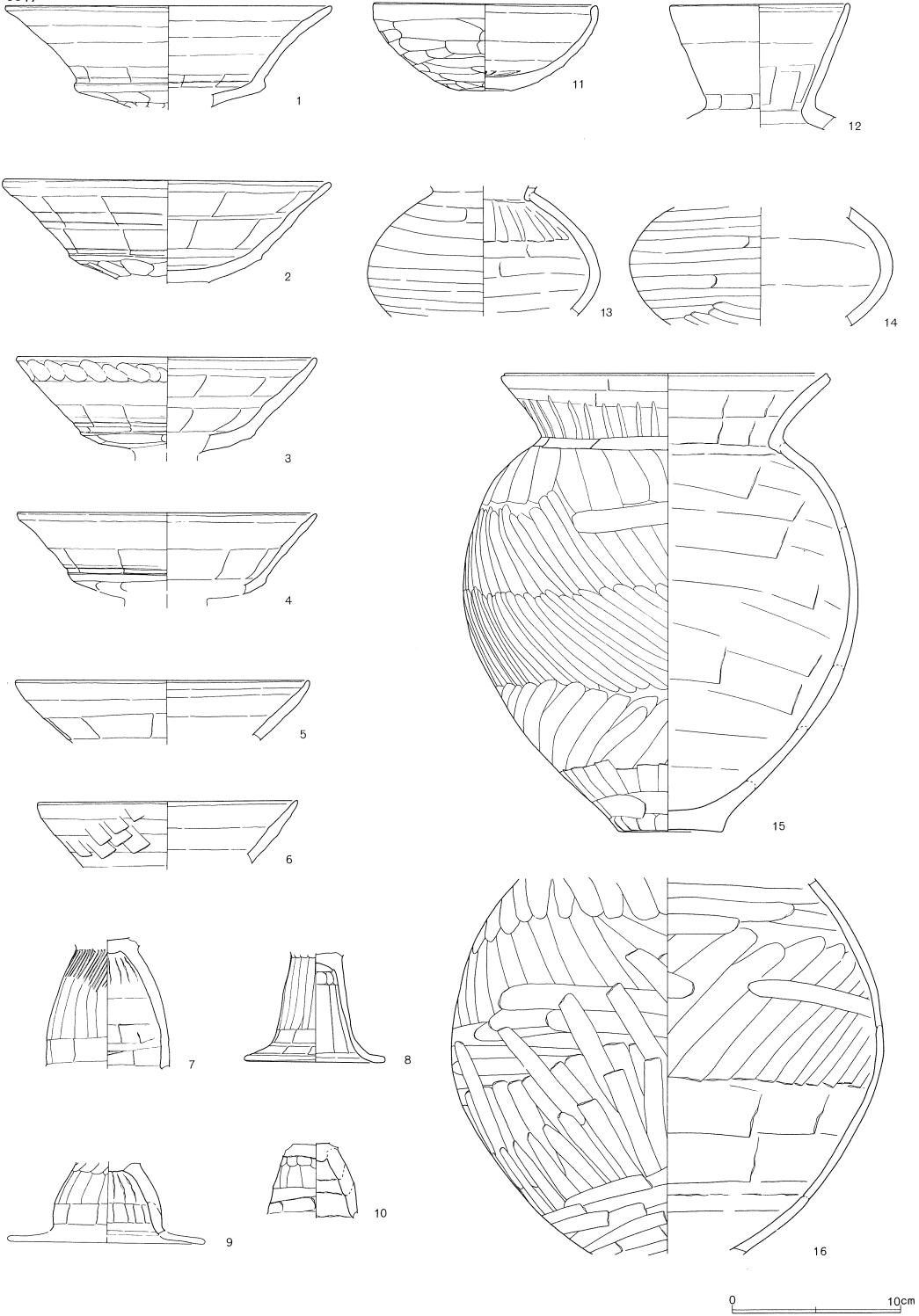
0 10cm

第 100 图 第13(2)·15(1)号住居跡出土遺物

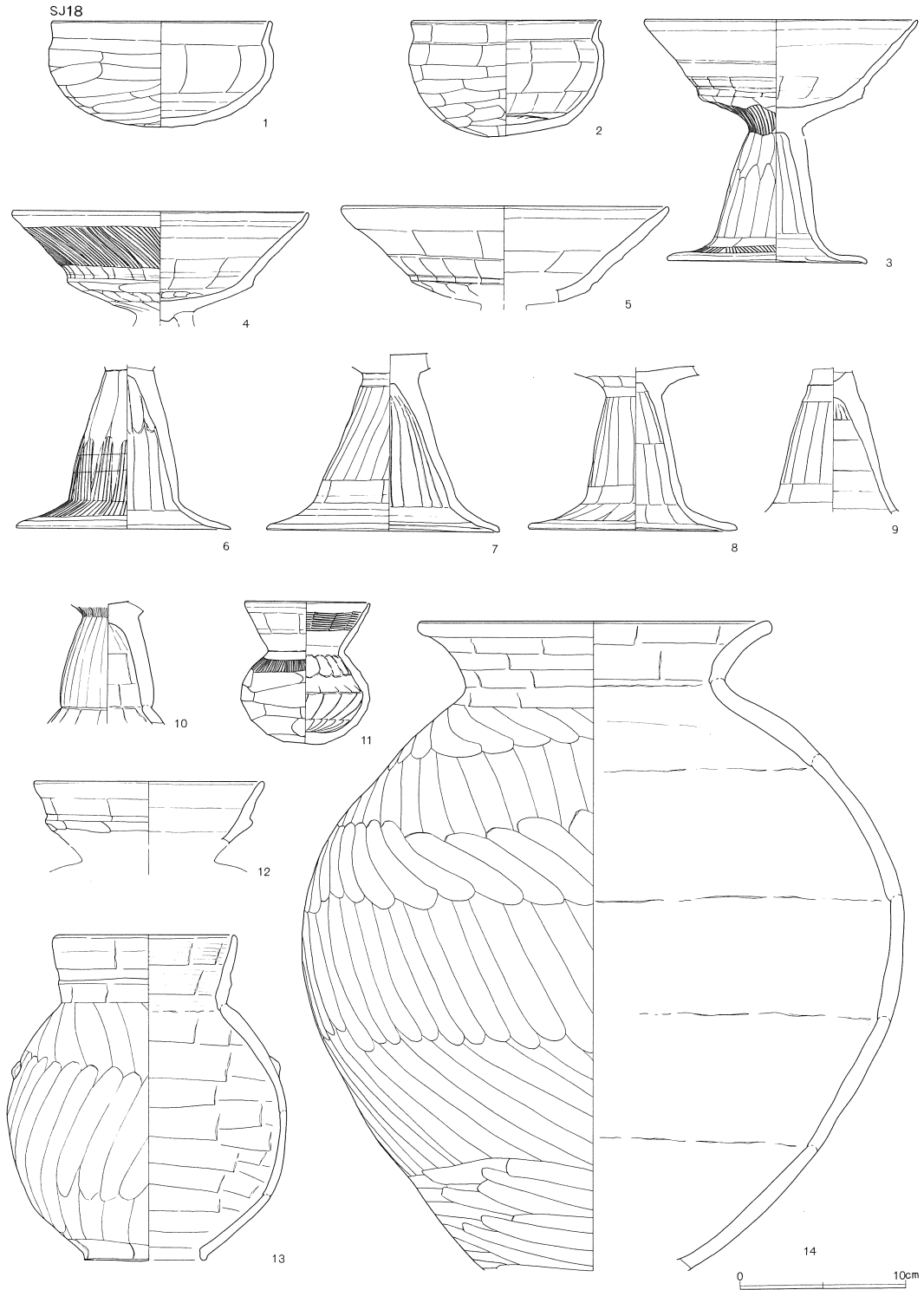


第101图 第15(2)·16·17(1)号住居跡出土遺物

SJ17

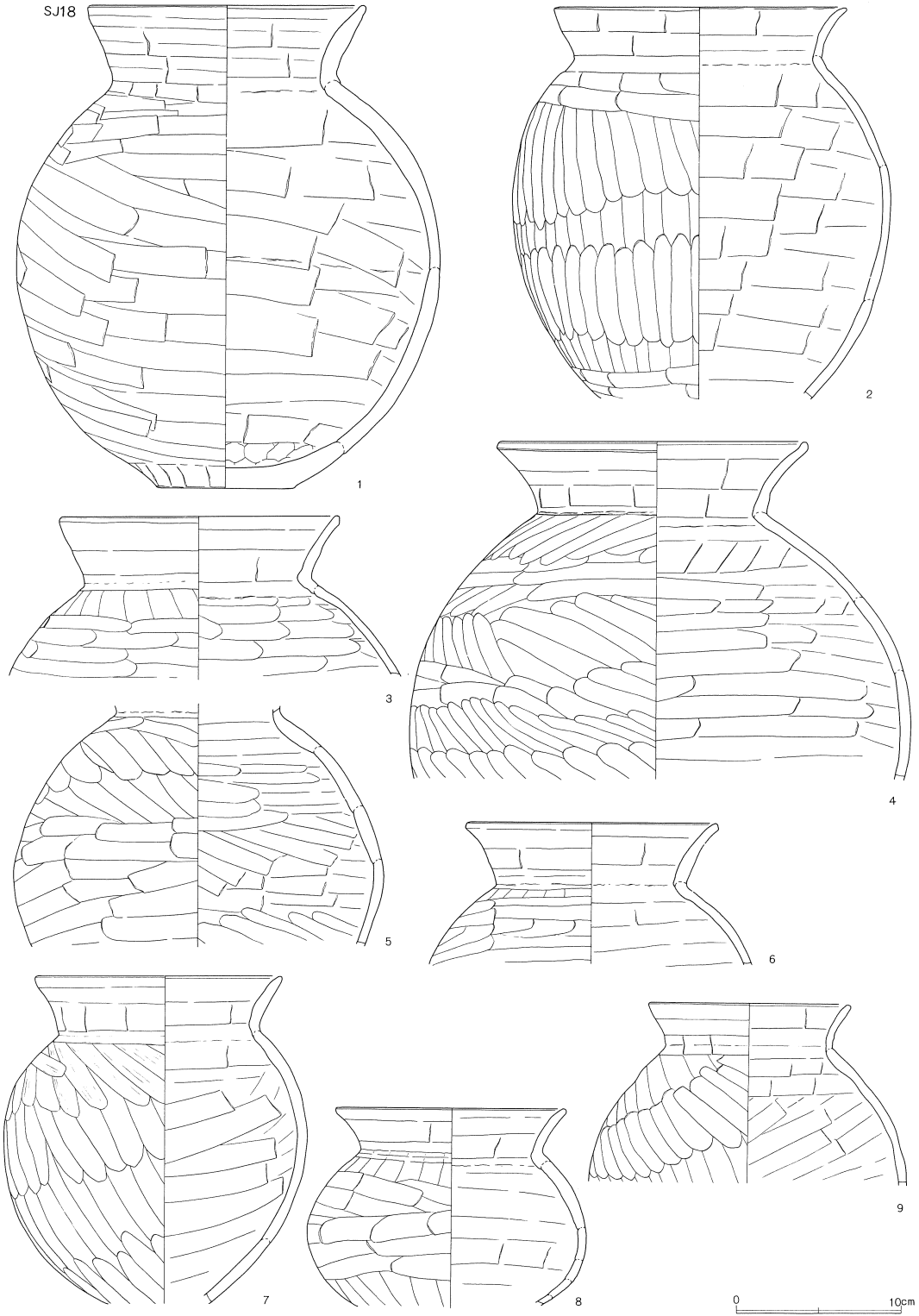


第 102 图 第17(2)号住居跡出土遺物



第 103 图 第18(1)号住居跡出土遺物

SJ18



第 104 图 第18(2)号住居跡出土遺物

第5表 第9号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第96図								
1	内環 1	14.0	13.7	6.3		1/3	底部ユビオサエ→口縁部断続ナデ→底部ヘラケズリ（3単位）。内面断続ナデ。	5 Y R 6 / 8
2	素高 1	13.3	12.9	10.6		2/3	坏底部ユビオサエ→タテハケオサエ→ハケ痕のユビスリケン。脚部ユビオサエ→横位ナデ→脚柱部2段ヘラケズリ。	2.5 Y R 6 / 8
3	無花壺 1	19.3	7.3	30.9	9,200	2/3	胴上半左上から右下ヘラケズリ→胴下半2段ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面ナデ。	7.5 Y R 7 / 6
4	無花壺 1					1/7	胴上半左上から右下ヘラケズリ→肩部横位ヘラケズリ→口縁部断続ナデ。内面横位ヘラオサエ→口縁部断続ナデ。	5 Y R 4 / 8
5	三角甕 1	20.4	6.8	13.8	1,800	2/3	口縁部断続横ナデ→胴部タテヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ→胴下端ユビオサエ。内面右下から左上ヘラオサエ→口縁部断続ナデ。	5 Y R 5 / 8

第6表 第10号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第96図								
6	鉢A	14.0	13.2	9.8	840	2/3	底部ユビオサエ→横位ヘラケズリ→胴下半さらに細かなヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→横位ナデ→口縁部ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
7	内高 1	14.7	14.0			1/2	胴部左上から右下にかけてのヘラケズリ→横位ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→口縁部ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
8	内環 1	15.8	15.3	5.6		1/4	胴部横ナデ→底部ヨコヘラケズリ。内面ヘラオサエ2段。	2.5 Y R 5 / 6
9	内高 1	15.6	13.6	2.4	920	1/2	胴部左右から右下ヘラケズリ→坏底部横位ヘラケズリ→口縁部断続ナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部横ヘラオサエ→口縁部ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
10	和高 1	17.9	11.2			1/2	口縁部右下から左上ヘハケメ→口唇部ナデ。坏底部脚部から坏部ヘハケメ。内面左上から右下ヘハケメ。	5 Y R 7 / 4
11	平高 1					1/4	脚部タテヘラケズリ。口縁部断続横ナデ。坏底部内面ヘラオサエ。	2.5 Y R 6 / 6
12	有稜高 1					1/3	坏部断続横ナデ。内面ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
13	和高 1					1/5	脚部タテヘラケズリ→脚部横ナデ。脚部内面ヘラケズリ→横ヘラケズリ。	5 Y R 6 / 6
14	小壺 3	16.5	15.7	9.3	900	2/3	胴部横ヘラケズリ→胴下半ユビオサエ→口縁部断続ナデ。内面底部ヘラオサエ→横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
第97図								
1	球胴壺 1	18.5		24.2		2/3	口縁部横ナデ→胴部左上から右下ヘラケズリ→胴上半より傾斜ヘラケズリ→右上から左下ヘラケズリ。内面横ヘラオシアテ。	5 Y R 6 / 8

第7表 第11号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第97図								
2	平高 1	19.0	12.0			2/5	坏底部ハケナデ→口縁部ハケメをナデ消す→脚部タテハケメ→タテナデ→脚折部横ナデ。内面口縁部ハケナデ→脚柱内部輪積のまま。	7.5YR 8/4
3	有稜高 1					1/2	脚部タテヘラケズリ→横ナデ→横断続ナデ。内面タテヘラケズリ→横ナデ。	5 Y R 7 / 6
4	有稜高 1	19.6				1/4	口縁部右下から左上へハケメ→内面横ハケメ。	5 Y R 6 / 6
5	和高 1					1/4	外面タテヘラケズリ→内面横ヘラケズリ。	5 Y R 6 / 8
6	和高 1					1/6	外面タテヘラケズリ→内面横ヘラケズリ。	2.5YR 5 / 8
7	和高 1					1/6	外面タテヘラケズリ→上端部横ナデ→ハケメ。内面横ヘラケズリ。	2.5YR 6 / 6
8	小丸 1					1/7	横ナデ→下部タテヘラケズリ。内面横ナデ。	2.5YR 4 / 6
9	小丸 1					1/5	タテヘラケズリ→横ヘラケズリ。内面横ナデ。	2.5YR 3 / 4
10	大型甌 1	31.1		26.1		1/3	下方から上方へタテヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面タテナデ→口縁部横ナデ。	7.5YR 7 / 6
11	長下甕 1	14.8				1/3	タテヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ→口縁部横ナデ。	5 Y R 5 / 8
12	甕 (須恵器)					破片	外面平行タタキ→横カキメ。自然釉が付着。内面同心円文タタキ。	5 Y 7 / 1

第8表 第12号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第97図								
13	内环 1	15.1	14.2	5.4		3/5	口縁部断続横ナデ→底部左上から右下へハケメ→底部横ヘラケズリ。内面断続ナデ。	5 Y R 6 / 6
14	内环 1	13.5	13.0	5.6	420	2/3	口縁部断続横ナデ→底部タテヘラケズリ→横ヘラケズリ。内面断続ナデ。	2.5YR 6 / 6
15	内环 1	13.6	13.0	5.0		1/3	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ。	2.5YR 6 / 6
16	内环 1	13.1	13.0	5.4		1/2	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	2.5YR 6 / 6
17	内环 1	13.6	13.3	5.7		1/2	口縁部断続横ナデ（2段）→底部横ヘラケズリ→内面断続横ナデ。	2.5YR 6 / 8
第98図								
1	内环 1	13.4	12.5	5.5	400	一部欠損	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ→放射状暗文。	5 Y R 6 / 6
2	内环 1	13.4	13.6	5.9	600	1/2	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ。	2.5YR 5 / 8
3	内环 1						口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ。	7.5YR 7 / 6
4	蓋坏 1	11.0	11.3	5.1	300	完形	口縁部横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
5	蓋坏 1	12.9	12.9	5.1	400	2/3	口縁部断続横ナデ→底部タテヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面断続横ナデ（2段）。	2.5YR 7 / 6

第9表 第12号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
6	身坏1	12.2	13.0	5.5		1/3	口縁部断続横ナデ→底部タテヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面口縁部断続横ナデ。	2.5YR6/6
7	鉢F2	12.4	14.3	7.1	600	1/2	口縁部横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ。内面底部断続オシアテ。	7.5YR8/4
8	蓋坏1	12.9	12.1	4.4	260	一部欠損	口縁部断続横ナデ→底部ヘラケズリ。内面底部断続オシアテ→口縁部断続横ナデ。	5YR7/6
9	壺1	12.3	12.3	4.7	340	一部欠損	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面横ナデ。	2.5YR6/8
10	和高1	18.9	12.0	14.1		2/3	口縁部断続横ナデ（4段）→坏底部横ヘラケズリ→脚柱部タテヘラケズリ→脚端部断続横ナデ。口縁部内面横ナデ。脚部内面断続ヘラケズリ。	5YR6/8
11	和高1	17.5			640	一部欠損	口縁部断続横ナデ（2段）→坏底部ユビオサエ脚接合部横ナデ→脚部タテヘラケズリ。口縁部内面横ナデ。脚内面断続ヘラケズリ。	2.5YR5/8
12	和高1	17.8	9.6	13.8	500	一部欠損	口縁部断続横ナデ→脚部タテヘラケズリ→脚接合部横ナデ。内面口縁部断続横ナデ。脚部タテヘラケズリ→脚部断続横ナデ。	2.5YR6/8
13	和高1	16.5	9.0			1/4	口縁部断続横ナデ（2段）→底部ユビオシアテ。内面口縁部断続横ナデ。	5YR7/6
14	和高1					1/6	脚部タテハケメ→断続横ナデ。内面横ヘラケズリ。	5YR6/6
15	和高1					1/4	タテヘラケズリ→タテハケメ。内面断続ヘラケズリ。	2.5YR6/6
16	須高1					1/5	タテヘラケズリ→横ナデ。内面横ナデ。	2.5YR6/8
17	素高1	16.3	16.1	6.4		3/4	口縁部横ヘラケズリ。内面横ナデ。	5YR6/8
18	三角甌1	19.0		13.3	1,300	1/3	胴下半タテヘラケズリ→胴上半タテヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ヘラオサエ。	5YR8/4
19	三角甌1					2/5	胴下半タテヘラケズリ→胴上半タテヘラケズリ→底部脇横ナデ。内面右下から左上ヘラケズリ→同方向ヘハケメ。	7.5YR7/4
20	小甕1	13.9	6.2	13.1	1,000	一部欠損	胴上半部タテヘラケズリ→胴下半部タテヘラケズリ→胴上半横ハケメ→口縁部横ハケメ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	2.5YR7/8
21	鉢C1	9.5	9.0	7.0	300	完形	底部横ヘラケズリ→胴中央部横ナデ→胴上半下から上ヘハケメ→口縁部断続横ナデ。内面底部断続ヘラアテビキ→断続横ナデ→胴上半部横ハケメ→口縁部横ハケメ。	2.5YR6/8
22	鉢D1	12.4	12.0	6.4	340	完形	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ユビオシアテ→下から上ヘハケメ→横ハケメ。	2.5YR6/8
23	埴	7.5	2.5	8.5	180	完形	胴部横ヘラケズリ→胴下半細かな横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ハケメ。	7.5YR8/6
24	複口壺3	16.4				1/4	胴上半部左上から右下ヘラケズリ→胴中央部・肩部横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	

第10表 第12号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第99図								
1	甕形甌 1	25.0	8.0	23.5	6,400	3/4	胴上半タテヘラケズリ→胴中位タテヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ→左下から右下ヘナデアゲ→口縁部断続横ナデ。	7.5Y R 7 / 3
2	無花壺 1	19.0	7.0	27.8	7,200	3/4	胴下半ナメヘラケズリ→胴中位ナメヘラケズリ→胴上半タテヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ナデ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 5 / 8
3	無花壺 1	16.4	5.7	22.5	4,200	一部欠損	胴部タテヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ→口縁部横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面右下から左上ヘハケメ→底部ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	7.5Y R 6 / 8

第11表 第13号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第99図								
4	壺形甌 1	18.7	7.3		4,100	4/5	胴部タテヘラケズリ→胴下部横ヘラケズリ→肩部横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→肩部ユビオサエ→口縁部断続ナデ。	5 Y R 6 / 8
5	無花壺 1	18.4	7.5	27.8	7,100	4/5	口縁部から胴部ヘタテハケメ→胴上半タテハケメ→底部タテハケメ。内面底部横ハケメ→胴部内面横ナデ→口縁部横ハケメ。	5 Y R 8 / 4
6	球胴壺 1	16.8				3/4	肩部ナメハケメ→胴中位ナメハケメ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部横ナデ。	2.5Y R 6 / 8
第100図								
1	内環 1	13.7	13.0	6.5		1/5	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面横ナデ→肩部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
2	内環 1	13.0	12.6	5.6		1/3	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ→底部工具オシアテ。	2.5Y R 6 / 8
3	内環 1	14.6	14.3	5.0	400	完形	口縁部断続横ナデ→ユビオシアテ→底部横位ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	2.5Y R 5 / 6
4	内環 1	14.3	13.5	5.7		1/5	口縁部断続横ナデ→ユビオシアテ→底部横位ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	7.5Y R 7 / 8
5	内環 1	13.0	12.6	5.6		1/7	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面横ナデ。	2.5Y R 6 / 6
6	内環 1	14.6	14.3	5.0		1/7	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	2.5Y R 5 / 6
7	蓋環 1	14.0	13.5	5.5	300	完形	口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ→タテヘラケズリ。内面横ナデ→放射状ヘラミガキ。	2.5Y R 6 / 8
8	身環 1	12.0	12.4	4.7		2/3	口縁部断続横ナデ（2段）→底部横ヘラケズリ→タテヘラケズリ。内面断続横ナデ→横ナデ。	10Y R 7 / 4 黒色処理
9	和高 1	16.5	9.8			1/5	口縁部横ナデ→断続横ナデ→環底部ヘラケズ	7.5Y R 6 / 4

第12表 第13号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
10	和高1	17.4				1/5	リ。内面坏部横ナデ→底部タテハケメ→口唇部断続横ナデ。	2.5YR6/6
11	和高1	15.8	9.5			1/3	横ナデ→断続横ナデ。内面横ナデ。	5YR6/6
12	素高1	17.3	14.6	14.4	500	2/3	口縁部横ナデ→断続横ナデ→坏底部ヘラケズリ→脚部タテヘラケズリ。内面横ナデ。	5YR6/8
13	素高1					2/5	口縁部横ナデ→口縁部ヘラケズリ→脚部タテヘラケズリ→脚接合部横ナデ。内面横ナデ→脚内部横ヘラケズリ→横ナデ。	2.5YR7/6
14	素高1					1/5	タテヘラケズリ→横ハケメ。内面横ヘラケズリ。	2.5YR6/8
15	和高1					1/7	タテヘラケズリ→横ナデ。内面横ナデ。	5YR6/8
16	和高1					1/7	断続横ナデ。内面タテヘラケズリ→断続横ナデ。	5YR6/6
17	球胴甕1	15.8	9.5			1/7	断続横ナデ。内面横ヘラケズリ。	2.5YR6/8

第13表 第15号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第100図								
18	屈杯1	15.6	15.7	5.4		1/2	横ユビオサエ成形→口縁部断続横ナデ→底部横ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	5YR8/3
19	有稜高1	19.0	11.2			1/3	タテハケメ下から上へ→口縁部横ナデ→脚部タテヘラケズリ。内面断続横ナデ→横ナデ。	2.5YR7/6
20	素高1	15.3	10.5	13.5	400	2/3	口縁部断続横ナデ→底部周辺ヘラケズリ→タテヘラケズリ→脚部タテヘラケズリ→横ナデ。内面口縁部断続横ナデ→脚部横ヘラケズリ→脚握部断続横ナデ。	2.5YR6/6
21	和高1	18.0	10.0	14.3		1/2	口縁部断続横ナデ→底部タテヘラケズリ→脚部タテヘラケズリ→脚頭部ユビオサエ→横ナデ。内面口縁部横ナデ→脚部横ヘラケズリ。	2.5YR5/6
22	和高1	17.0	9.7			1/5	口縁部断続横ナデ（2段）。内面断続横ナデ。	2.5YR5/6
23	和高1						タテヘラケズリ→中位・下位横ナデ。内面横ヘラケズリ→横ナデ。	7.5YR7/6
24	和高1					1/4	タテヘラケズリ。内面横ヘラケズリ。	5YR7/6
25	和高1					1/3	横ナデ→タテヘラケズリ→脚握部断続横ナデ。	5YR6/6
26	有稜高1					1/5	断続横ナデ。内面横ナデ。	5YR6/8
27	和高1					1/4	横ナデ→タテヘラケズリ→断続横ナデ→内面タテヘラケズリ→断続横ナデ。	2.5YR6/8
28	和高1					1/5	タテヘラケズリ→横ヘラケズリ→断続横ナデ。内面横ヘラケズリ→横ナデ。	2.5YR5/6
第101図								
1	甕形甕1	14.0				2/3	胴下半左上から右下ヘラケズリ→胴中位同方向ヘラケズリ→胴上半同方向ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面タテナデ→胴上半横ナデ。	5YR6/8
2	無花壺1	16.8				1/5	胴上半タテヘラケズリ→左上から右下ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部	2.5YR6/8

第14表 第15号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
3	長下甕Ⅰ	14.0				1/7	断続横ナデ。 タテヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面右下から左上ヘナデアゲ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 5 / 8
4	球胴壺Ⅰ	15.5				1/4	左上から右下ヘタテヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部ナデ。	5 Y R 4 / 6
5	無花壺Ⅰ	18.4		24.5	5,200	2/3	胴部タテヘラケズリ→横ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ナデ→口縁部断続横ナデ。	7.5 Y R 7 / 6
6	小丸Ⅰ					1/5	肩部横位ヘラケズリ→口縁部ナデ。内面横ナデ 口縁部断続横ナデ。	5 Y R 5 / 8
7	球胴壺Ⅰ		7.5	18.8		1/3	中位タテヘラケズリ→下・上位横ヘラケズリ。 内面横ナデ。	7.5 Y R 6 / 8
8	小丸Ⅰ					1/4	肩部タテヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ。内 面タテナデ→横ナデ。	5 Y R 5 / 8
9	小丸Ⅰ					1/6	横ヘラケズリ。内面横ナデのみ。	5 Y R 6 / 6
10	須恵器 甌					破片	ロクロナデ→頸部波状文。内面ロクロナデ。	須恵器 N 5 / 0

第15表 第16号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
11	第101図 和高Ⅰ			第101図		1/5	横ナデ→タテヘラケズリ（ハケメ）→断続横ナ デ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 8 / 6

第16表 第17号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
12	第101図 鉢ⅠⅠ	18.0	13.9	9.3		4/5	胴タテナデ→胴細かな横ナデ→底部タテヘラケ ズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 8
13	鉢ⅠⅡ	13.2	10.8	6.7	400	4/5	横ナデ→胴部下半細かな横ヘラケズリ→口縁部 断続ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
14	内環Ⅰ	14.3	12.2	4.9		1/5	横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ→口縁部断 続横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
15	和高Ⅰ	18.5	10.0	16.4	800	一部欠 損	口縁部断続横ナデ→坏底部横ヘラケズリ→脚柱 部タテヘラケズリ→脚頭・裾部横ナデ。内面口 縁部断続横ナデ→脚柱部螺旋状ヘラケズリ。	5 Y R 6 / 6
16	和高Ⅰ					1/3	脚柱部タテヘラケズリ→坏底部タテヘラケズリ →脚裾部断続横ナデ。内面横ヘラケズリ→断続 横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
17	和高Ⅰ					1/4	脚柱部タテヘラケズリ→横ナデ。内面坏底部ヘ ラオシアテ→脚部ヘラケズリ→横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6

第17表 第17号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第102図								
1	和高1					1/6	口縁部横ナデ→断続横ナデ→内面横ナデ→断続横ナデ。	5 Y R 7 / 8
2	和高1	19.9	11.6			1/3	口縁部横ナデ→断続横ナデ→横ヘラケズリ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 6
3	和高1	18.2	10.2			1/3	口縁部横ナデ→断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 6
4	和高1	18.2	10.8			1/6	口縁部横ナデ→断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
5	和高1	17.8				1/8	口縁部横ナデ→断続横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
6	和高1	15.8				1/5	口縁部横ナデ→ヘラオシアテ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
7	和高					1/3	タテヘラケズリ→タテハケメ→横ナデ。内面横ナデ。	5 Y R 7 / 8
8	和高					1/4	タテヘラケズリ→断続横ナデ。内面横ヘラケズリ→横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	須高1					1/3	タテヘラケズリ→断続横ナデ。内面断続横ナデ→横ナデ。	5 Y R 6 / 6
10	須高1					1/3	タテヘラケズリ→断続横ナデ。内面横ナデ。	5 Y R 6 / 8
11	屈坏1	13.5	13.5	5.4	380	完形	横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
12	小丸1					1/7	横ナデ→頸部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 8
13	小丸1					1/3	横ナデ。内面横ナデ→タテヘラオサエ。	7.5 Y R 7 / 8
14	小丸1					1/3	横ナデ。内面横ナデ。	7.5 Y R 6 / 8
15	無花壺1	19.5	6.2	27.4	6,200	3/5	左上から右下ヘタテヘラケズリ→胴上半同方向細タテヘラケズリ→胴中位同方向タテヘラケズリ→胴下半右上から左下ヘタテヘラケズリ→底部タテヘラケズリ。内面工具オシアテ→口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
16	無花壺1					1/2	胴上半左上から右下ヘタテヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ→胴下半タテヘラケズリ→底部タテヘラケズリ→胴上半タテヘラケズリ。内面横ナデ→ナナメナデアゲ。	2.5 Y R 5 / 8

第18表 第18号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第103図								
1	内坏1	9.5	10.4	6.5		1/2	底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面断続横ナデ→横ナデ。	5 Y R 8 / 1
2	鉢A1	11.6	11.5	7.0	340	1/2	底部横ヘラケズリ→底部タテヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部工具オシアテ→断続横ナデ→横ナデ。	2.5 Y R 7 / 6
3	和高1	16.2	10.0	14.8	340	2/3	口縁部横ナデ→断続横ナデ→坏底部周辺横ヘラケズリ→底部タテハケメ→脚部タテヘラケズリ→横ナデ→タテハケメ→ナデ。内面口縁部横ナデ→断続横ナデ→脚柱部横ヘラケズリ。	2.5 Y R 4 / 6

第19表 第18号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	和高1	18.2	11.5			1/3	口縁部タテハケメ→断続横ナデ→横ナデ→坏底部タテハラケズリ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 8
5	和高1	20.0	11.0		800	2/3	口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 6
6	和高1					1/6	タテハラケズリ→タテハケメ→横ナデ。内面タテハラケズリ→横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
7	和高1	13.1	11.5	4.2		1/3	タテハラケズリ→断続横ナデ。内面タテハラケズリ→横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
8	和高1					1/3	タテハラケズリ→断続横ナデ→横ナデ。内面タテハラケズリ→断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
9	和高1					1/4	タテハラケズリ→横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
10	和高1					1/4	タテハラケズリ→タテハケメ→断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
11	埴1	7.7	4.7	8.6	180	一部欠損	胴部タテハケメ→横ハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオシアテ→断続横ナデ→ユビオサエ→口縁部横ハケメ。	2.5 Y R 6 / 8
12	球胴壺1	14.2	12.8			1/8	口縁部断続横ナデ。内面ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
13	球胴壺1	11.0		19.7	2,400	2/3	胴上半タテハラケズリ→胴中位タテハラケズリ。下端→底部横ハラケズリ。内面横ハラナデ→口縁部横ハケメ。胴中位やや上小突起2。	底部焼成後穿孔。 7.5 Y R 7 / 6
14	無花壺1	21.5		39.3		3/4	胴下半ナメハラケズリ→胴上半タテハラケズリ→胴下位横ハラケズリ→胴中位タテハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ。	7.5 Y R 7 / 6
第 104 図								
1	球胴壺1				7,800	2/3	横ハラケズリ→底部タテハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面胴部ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ	5 Y R 5 / 8
2	無花壺1	18.0			(4,200)	2/3	胴部タテハラケズリ→胴上部・中位タテハラケズリ→肩部・底部横ハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ハラオシアテ→口縁部横ナデ。	5 Y R 7 / 3
3	無花壺1	17.1				1/4	胴上半タテハラケズリ→横ハラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ユビオサエ→口縁部横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
4	無花壺1	19.0				1/3	胴上半タテハラケズリ→ヨコハラケズリ→肩部タテハラケズリ→胴部タテハラケズリ→胴下部タテハラケズリ（2段）。内面横ヘラオサエ→肩部ハラナデ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
5	球胴壺1					1/5	肩部ナメハラケズリ→胴部横ハラケズリ→胴下半横ハラケズリ。内面横ナデ→胴下半ナメナデ。	5 Y R 6 / 6
6	球胴壺1	15.4				1/6	肩部タテハラケズリ→横ハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	7.5 Y R 7 / 8
7	球胴壺1	15.2				2/3	胴部タテハラケズリ→肩部ナメハラケズリ（2段）底部ナメハラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ハラケズリ→口縁部横ナデ。	5 Y R 5 / 6
8	小壺1	14.1				3/5	胴部タテハラケズリ→胴部横ハラケズリ→口縁部断続横ナデ。胴部内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 6

第20表 第18号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
9	球胴壺Ⅰ	12.5				1/4	胴部タテヘラケズリ→ナナメヘラケズリ。内面 ナナメナデアゲ→口縁部横ナデ。	7.5YR5/6

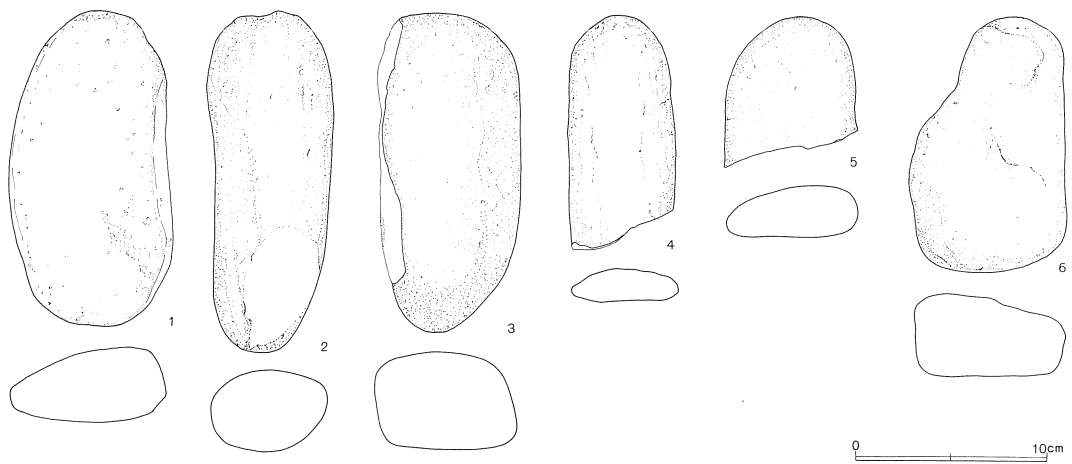
成形されたあと、胴下半を横に細かくヘラケズリされている。内面は、丁寧にヨコナデ仕上げされている。肩部には、一對の貼付が見られる。

無花果形甕Ⅰ（無花甕Ⅰ） 胴部が、無花果形をした壺を一括する。底部は、やや出っ張りを残し緩いカーブを描きながら口縁部に到達する。口縁部は、くの字に曲がり胴部と付く。胴部は、縦に細かなハケメ調整をしたあと、削り取られたようで、ハケメの残るものと、残らないものが出土している。口縁部も同様である。従来から存在する器種である。

球胴壺Ⅰ（球胴壺Ⅰ） 底部から、ほぼ円形に口縁部へ到達する。球胴の壺である。口縁部は、狭く外反しつつ立上がる。口縁部はヨコナデ、胴部は、横方向の細かなヘラケズリが施されている。内面は、ヘラオサエによって器面を押えている。従来から存在する器種である。

古墳時代第Ⅰ期として分類した土師器は、さらに細分が可能である。しかしここでは、新屋敷東遺跡の古墳時代集落の出現期の様相をとらえるために、大きくとらえておくこととする。またこの段階の良好な資料が、隣接する上敷免遺跡から大量に出土しているため、こちらの資料とともに対比させ検討していくこととしたい。





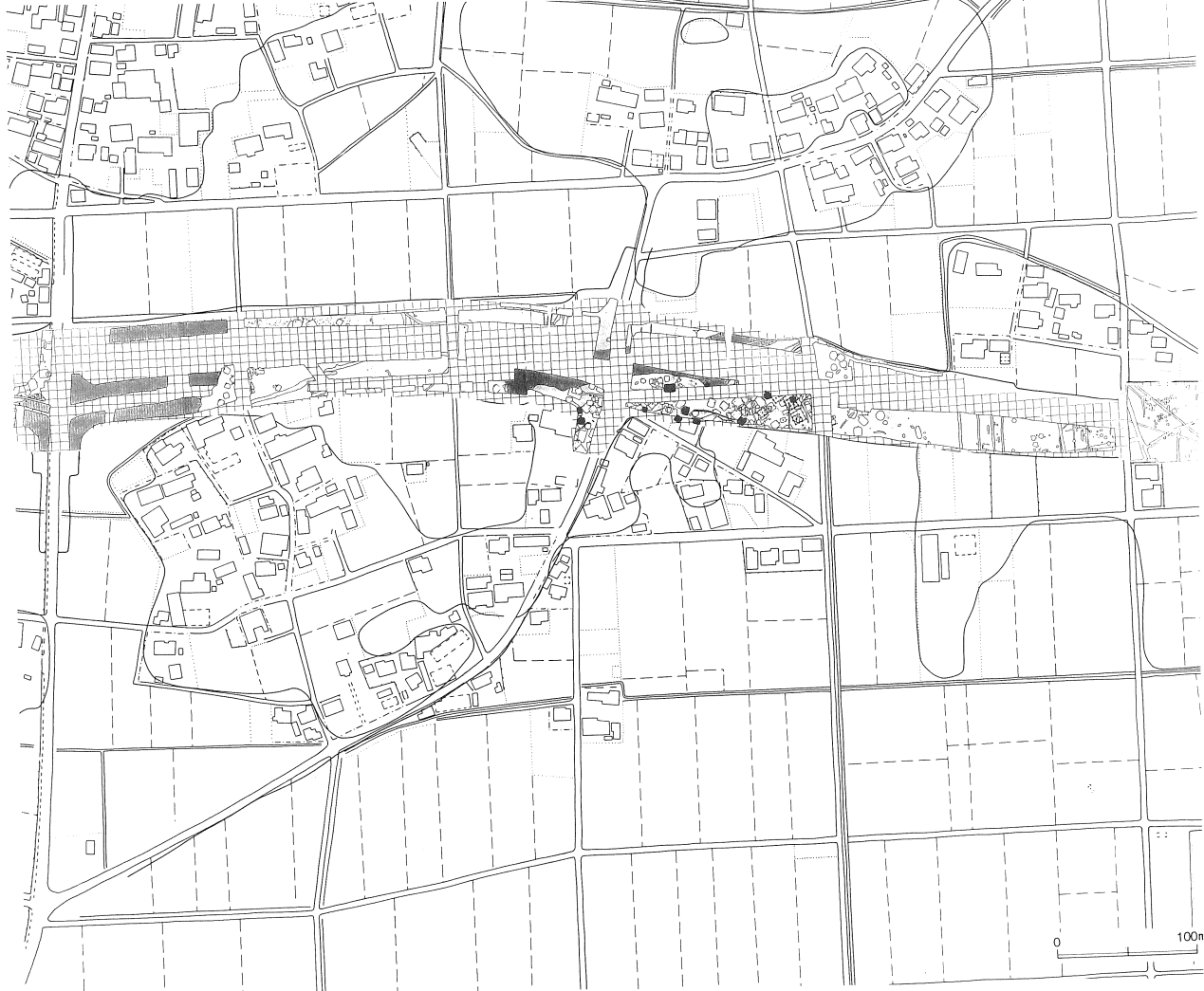
第105図 古墳時代第Ⅰ期の編物石

(7) 遺物各説 —古墳時代第Ⅰ期の編物石—

第11号住居跡の覆土中から編物石が5点、第12号住居跡の覆土中から1点出土している。しかし両者とも住居跡の使用時に伴う編物石ではない。古墳時代第Ⅰ期には、編物石をもつ住居跡は確認されていない。

第21表 古墳時代第Ⅰ期の編物石

番号	出土遺構	長さmm	厚みmm	重さ g	石質等
第105図					
1	S J11	168	65	1120	安山岩
2	S J11	180	61	715	安山岩
3	S J11	166	86	730	安山岩
4	S J11	120	52	190	緑泥石片岩
5	S J11	-----	-----	-----	安山岩
6	S J12	132	71	720	安山岩



第106図 古墳時代第Ⅱ期の新屋敷東遺跡

3 古墳時代第Ⅱ期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

小山川の自然堤防の開発を機に進出した集落は、ほぼ同様な場所へ竪穴式住居を営んでいた。行田市埼玉稲荷山古墳の鉄剣に前後する段階の出来事である。

カマドによる炊飯技術は定型化し、どの住居跡にもカマドが付設されている。調理のための器が、丸い胴の甕から、細長い胴の甕へと変化していく。あれほど多かった高坏は、徐々に少なくなり、変って坏・壺の絶対量が増してくる。しかし何と云っても、この段階の最大の特徴は、須恵器の坏蓋を模倣した土師器の坏が、大量に各住居跡から出土するようになったことである。このような土師器の坏は、群馬県の平野部から埼玉県、東京都にわたる地域で普遍的に見られる。いわゆる模倣坏（坏蓋模倣坏）である。

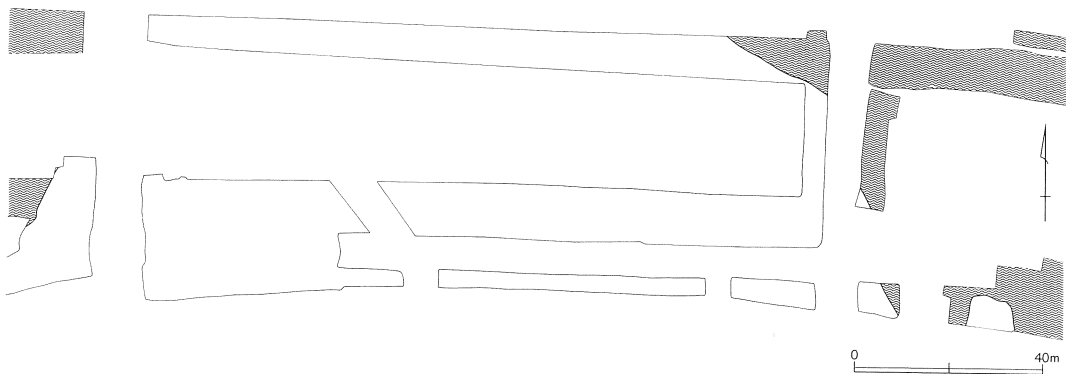
■集落の構成 確認された竪穴式住居跡は、11軒である。第Ⅰ期同様、小山川、もしくは福川の河川跡が、調査区域内を蛇行しながら走り、その南側の自然堤防上に形成されている。この段階の河川跡も、川底が、現地表面から3 m程度である。いまだに本郷前東・新田裏の自然堤防上には、集落の痕跡をみる事ができない。竪穴式住居跡は、北～北東にカマドを設置するものが多い。第26号住居跡のみが、大形の住居跡である。他は、全て住居跡の規模にあまり変化がない。

■竪穴式住居跡 全掘できた住居跡は、わずか第23号住居跡の一軒のみである。他は、どこかしら他の住居跡の重複を受けている。竪穴式住居跡の基本的な構造は、壁の回りに壁周溝をもち、一辺にカマドを付設し、4本の柱で上屋を支える。一般的な構造である。

■カマド 調査されたカマドは、初源段階から長煙道を踏襲し、短煙道はみられなかった。だがこの調査区内で短煙道がみられなくても、この集落内の竪穴式住居跡に短煙道の付設された竪穴式住居跡が、無かったことにはならない。カマドの構造は、壁の面を四角くトンネル式に煙道を掘り、クランク状に壁の外に作られている。第19号住居跡では、調査区ぎりぎりに、垂直に立ち上がる煙道を、明瞭に確認した。また煙り出し穴の工作法について、第21号住居跡のカマドで明らかになった。まず煙り出し穴の位置に縦に小穴を掘り、これに向かって住居跡の竪穴側から煙道を掘っていく。そのため煙道の底部よりも、煙り出し穴が深く掘られている。

■煮沸具 カマドで使われた器は、煮沸のための甕、食物を蒸すための甑、甕を支えるための支脚である。カマドで煮沸された痕跡は、外面に煤・炎痕跡、内面に内容物の焦付きとなって残る。甕は、長胴の下膨れの甕が出現し、球胴の甕が、カマドに掛けられることは少なくなっている。蒸し器である甑も、甕と同様の形態で、大形で底が筒抜けか、小形のロート状である。どちらも内容物の付着が認められる。支脚は、明瞭な形で製作され始まり、円筒の筒状の支脚である。すでに中実と中空の2者が存在し、カマドの構築の際は固定的に使用されていたと考えられる。高坏の坏部を下にして利用した支脚は、高坏の減少とともに少なくなる傾向にある。

■食膳具 高坏と坏とで構成されているのは、第Ⅰ期と同様だが、生産量は、高坏：坏＝1：9と大逆転する。注目すべきは、須恵器の坏蓋を模倣した、いわゆる模倣坏が出現することである。この模倣坏、他の関東地方の各地の模倣坏と違い、口唇の端部に至るまで忠実に須恵器を模倣した



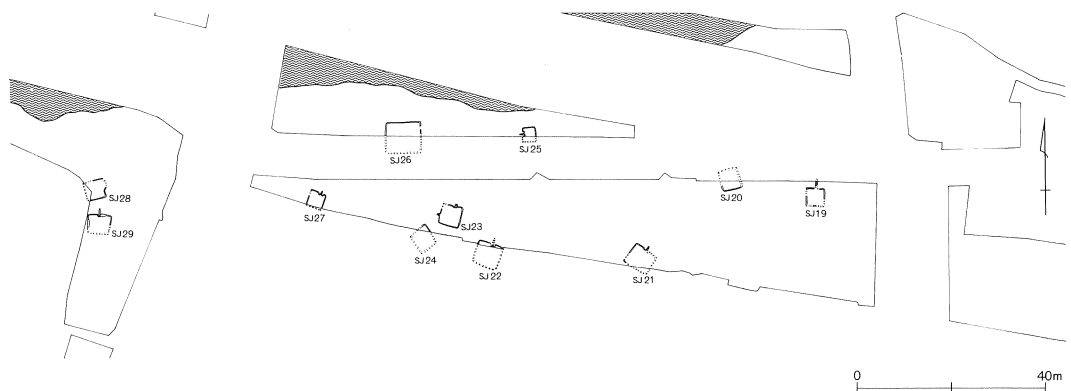
第107図 古墳時代第Ⅱ期遺構全体図(1)

土師器であり、これを作った工人が、かりに須恵器の原土を用い製作し、この製品を須恵器の窯で焼成したならば、全く須恵器と見間違ふであろう。こうした模倣坯が、定型化した形で出現してくる背景を考えていく必要がある。ただし須恵器は、破片で出土しているが、食膳具の中へは全く参入していなかった。

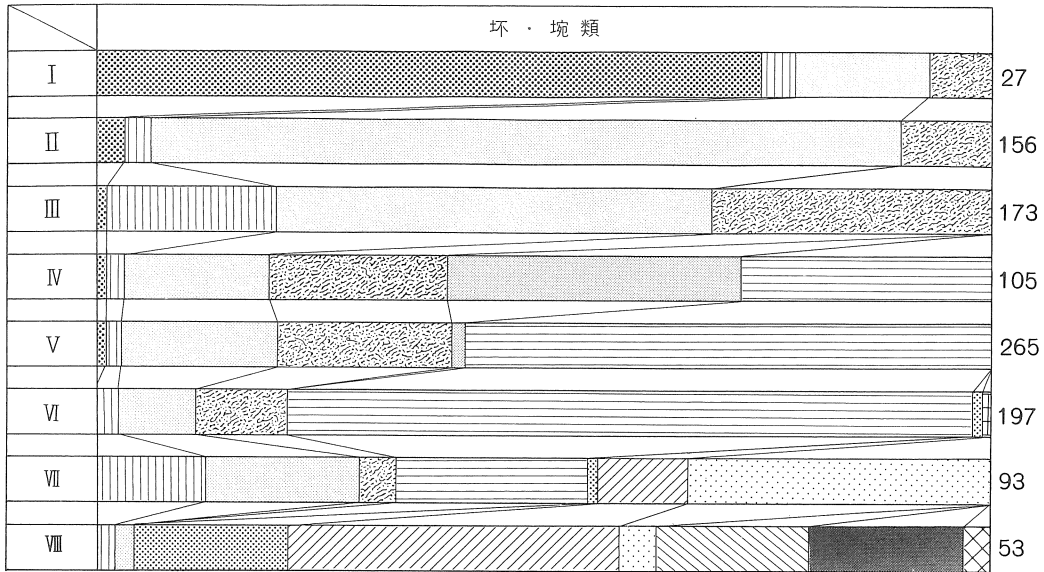
■貯蔵具 貯蔵具としての明瞭な甕・壺は、見られなかったが、第23号住居跡出土の甕は、ていねいに作られた球胴の甕で、口縁部に波状のヘラ状工具による沈線文が施されていた。この沈線文、おそらく須恵器の口縁部の波状文を、意識して付けられたものと予測される。貯蔵穴は、第19・23号住居跡から確認されており、貯蔵穴に坯が落ち込むような状態で確認されている。

■手燭形土器 第20号住居跡から出土した手燭形土器は、他に類例の乏しい土器である。使用方法やこの土器の性格等について、詳しいことは分かっていないが、まま集落遺跡から出土している。いわゆる杓子形ではなく、コップ状に作られている。柄の部分は、欠けていて明確ではないが、おそらく復元通りであろう。

■第22号住居跡 第22号住居跡の床面からは、大量の坯・壙が確認されている。この住居跡の調査が、カマド部分のみであったことを考えると、全体で果たして、どれくらいの土器があったことであろう。ちなみに出土した土器のうち実測可能だった土器は、坯類だけで74個体があった。



第108図 古墳時代第Ⅱ期遺構全体図(2)



- | | | | | | |
|--|----------|--|---------|--|----------|
| | 内斜口縁坏 | | 埴 | | 須恵器坏蓋模倣坏 |
| | 須恵器坏身模倣坏 | | 小針型坏 | | 有段口縁坏 |
| | 比企型坏 | | 盤形暗文土器 | | 暗文土器 |
| | 無高台埴 | | 削り出し高台埴 | | 脚高高台埴 |

資料数

1069

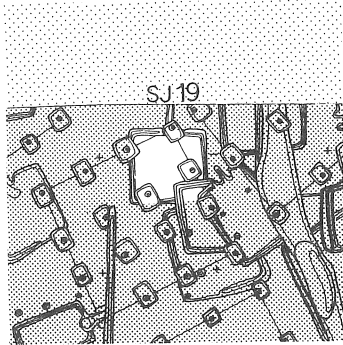
坏・埴類器種別生産量の推移

第22表 古墳時代第Ⅱ期住居跡一覧

No. /	住居跡規模				カ マ ド					貯蔵穴		備考	
	長軸長さ	短軸長さ	掘込深さ	形態	煙道長さ	煙道幅	右袖長さ	左袖長さ	形態	幅	深さ		
19	3.75	3.05	0.15	正方形	1.37	0.27					1.85	1.60	シ-267
20	4.00		0.10	長方形									シ-270
21			0.10		1.30	0.32		0.80	C類				ユ-273
22	5.30		1.20	長方形	1.27	0.38	0.73	0.84	C類				ユ-278
23	4.50	4.35	0.30	正方形	0.42	0.36	0.46	0.47	B類				メ-280
24			0.54	長方形									メ-281
25			0.05	長方形									ヒ-277
26	7.50		0.38	長方形									ヒ-282
27	3.60		0.20	長方形									ミ-285
28	4.10		0.51	長方形									ミ-293
29	4.85		0.58	長方形	1.15	0.14	0.75	0.74					メ-293

(2) 遺構各説 —遺構構築段階—

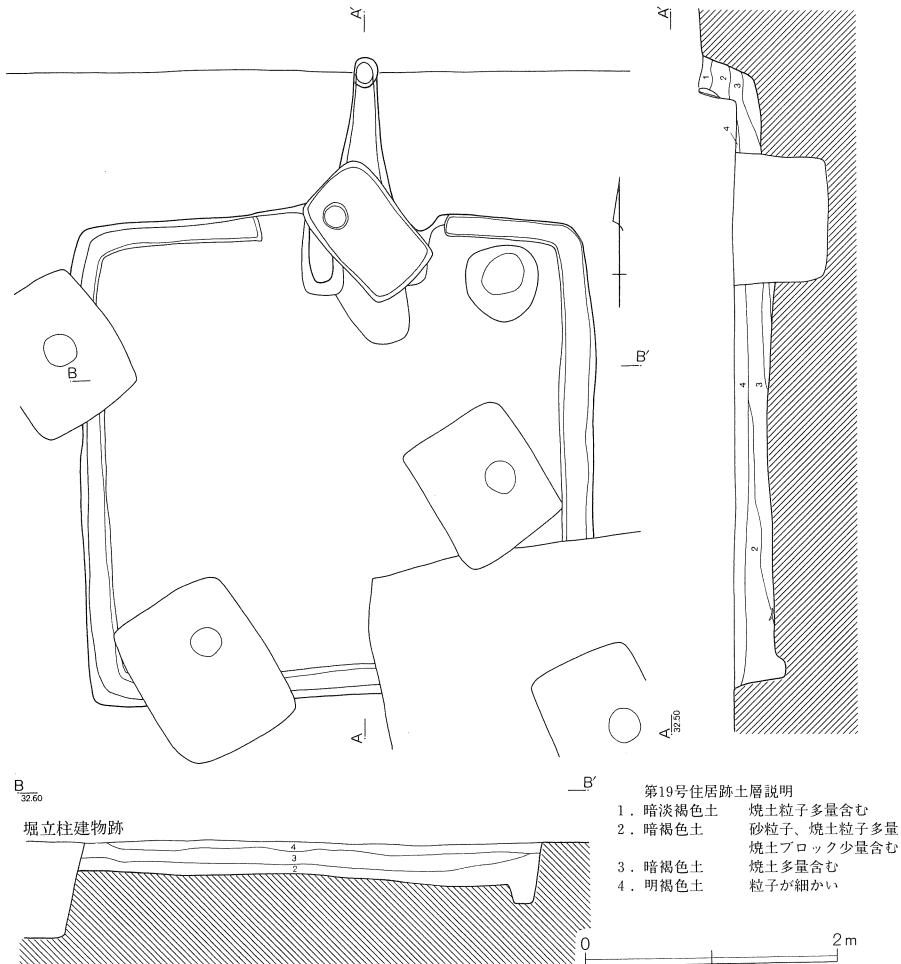
第19号住居跡（調査時C 2区25号住居跡）



第109図 位置図

シー267グリッドに位置する。重複関係は、第64号住居跡・第2号掘立柱建物跡よりも古い。北辺のカマドの一部は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸3.75m、短軸3.05mを測る。掘り込みの深さは、15cmである。壁周溝は、カマド部分を残し、完周している。柱穴は、一ヶ所も確認できなかった。

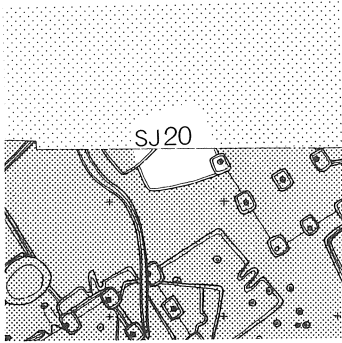
カマドは、北辺に接し、右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残して造られ、壁外へ袖の長さよりもやや長く煙道が延びる。燃烧部は、第2号掘立柱建物跡の柱穴によって壊されており、わずかな焼土層をみるだけである。煙道は、クラ



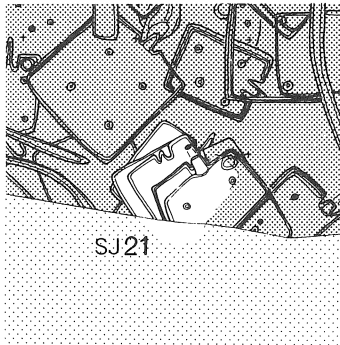
第110図 第19号住居跡

ンク状に造られ、調査区外に延びる。

他の遺構の重複が激しく、また噴砂も発達しており、遺構確認は困難であった。
出土遺物は、土師器坏類のみである。



第 111 図 位置図



第 112 図 位置図

第20号住居跡（調査時C 2区49号住居跡）

シー270グリッドに位置する。重複関係は、第127号住居よりも古い。北半分が調査区域外で、西半分が、第127号柱によって壊されている。住居跡の規模は、長軸4.00m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、10cmである。壁周溝は巡っていない。柱穴は確認できなかった。カマドは、調査区域外である。

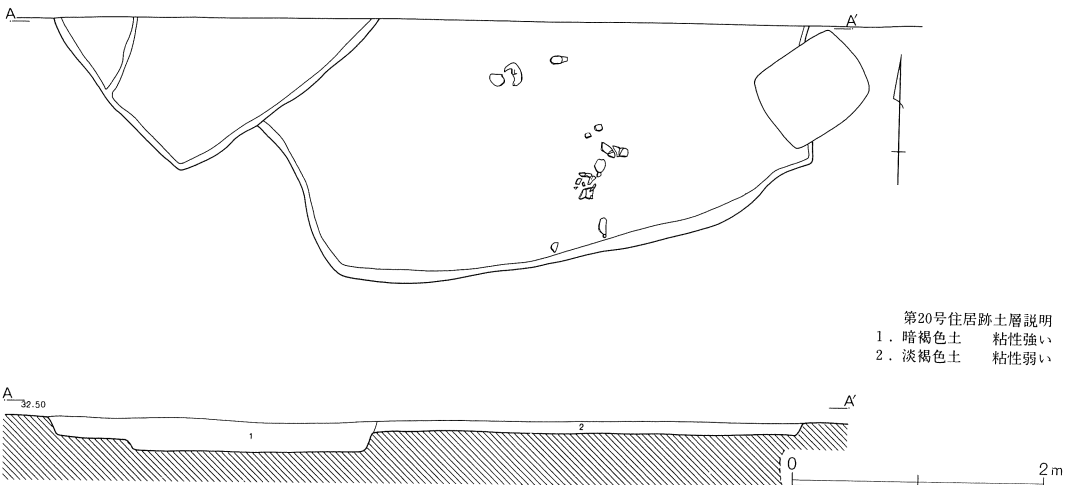
覆土が、地山の堆積層と近似していて検出が困難であった。当初、遺物の分布状態から住居跡の存在を感じていた。

出土遺物は、土師器坏・小形甕・手燭形土器・須恵器壺破片などがある。

第21号住居跡（調査時C 2区70号住居跡）

ユ—273グリッドに位置する。重複関係は、第34・118・128号住居跡よりも新しい。これらの住居跡によって、遺構のほとんどが壊されているが、辛うじて西側の一部が残っている。住居の規模は、測定不可能。掘り込みの深さは、10cmである。壁周溝は巡らない。柱穴は一本も確認されていない。

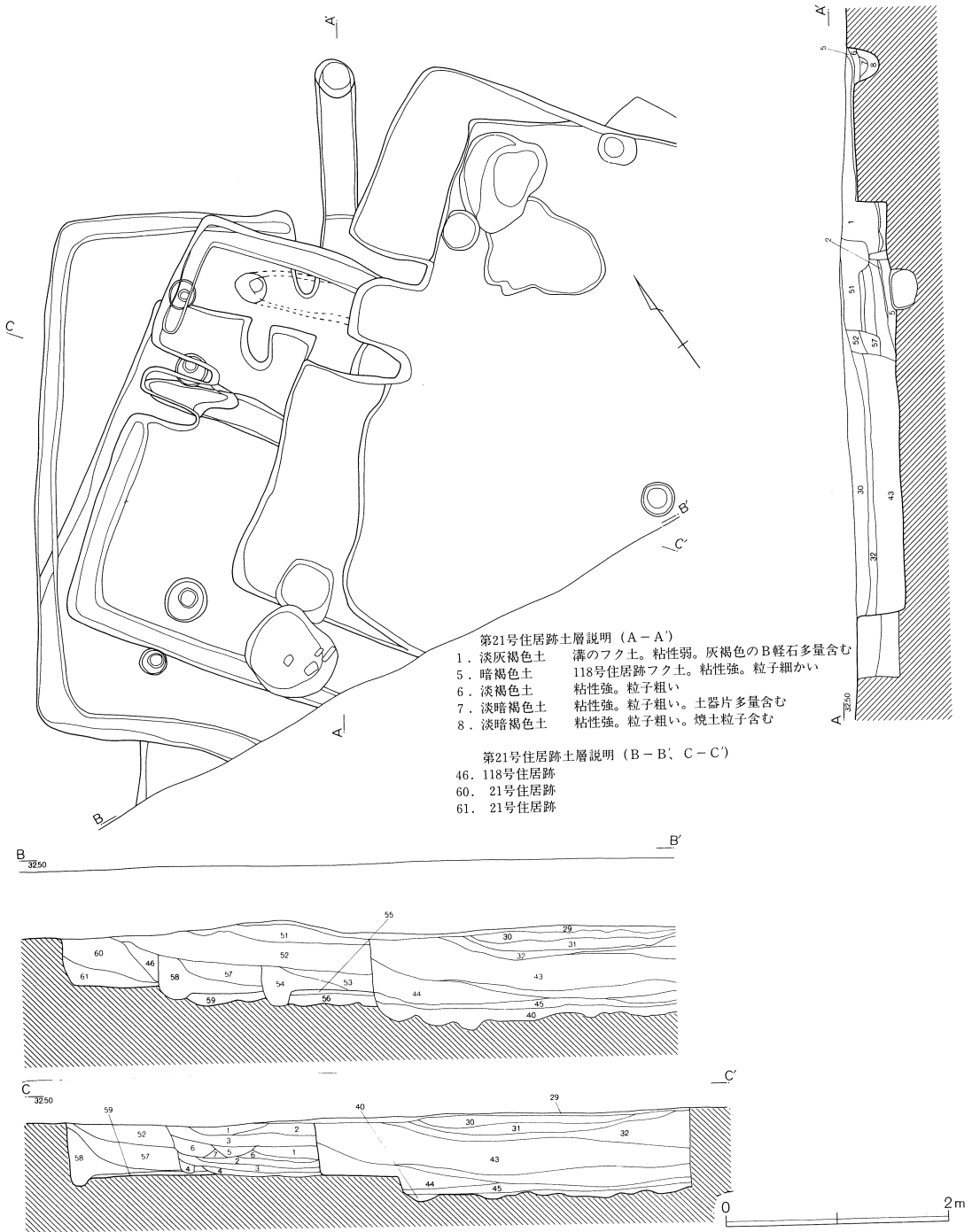
カマドは、北辺に接し辛うじて残っている。煙道は、袖の長



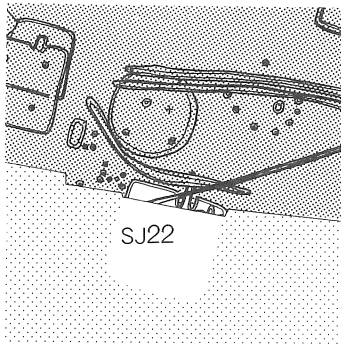
第 113 図 第20号住居跡

さの二倍近くあり、煙出し部のピットは明瞭に残っている。焚き口部は、検出されていない。

当初の遺構確認の時点では、複数の重複によって、多量の遺物の散乱が認められ、遺構として確認するのは、困難であった。出土遺物は、土師器坏類だけである。



第114図 第21号住居跡



第 115 図 位置図

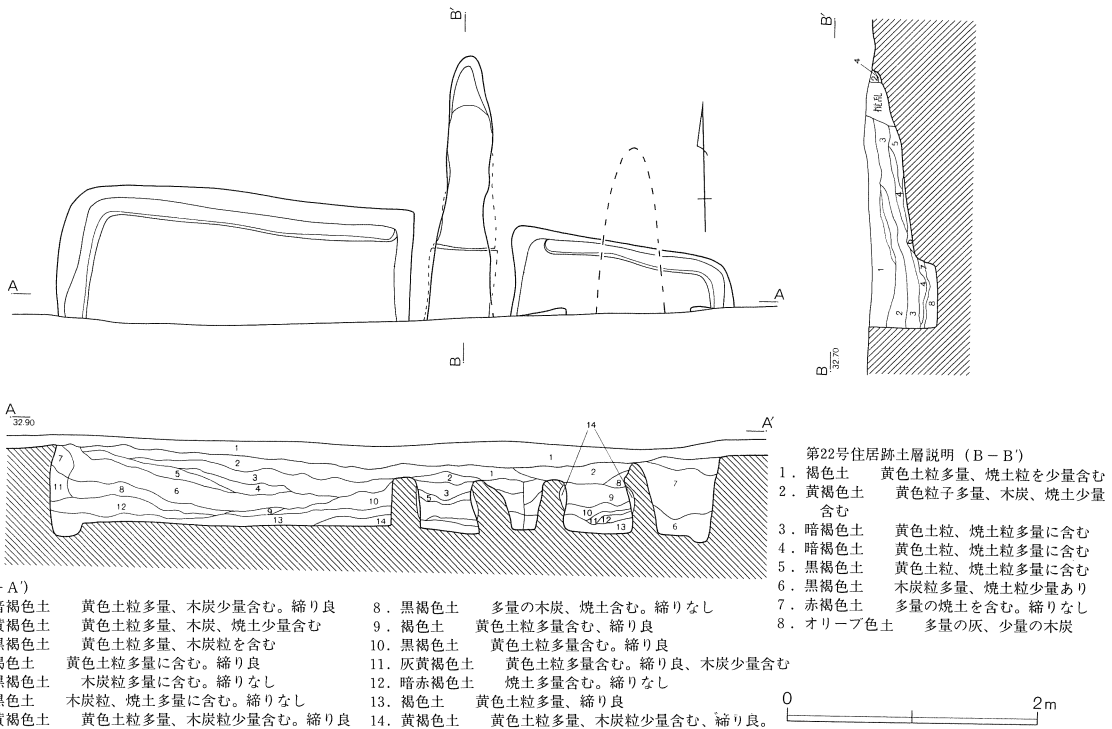
第22号住居跡（調査時C 2区71号住居跡）

ユ-278グリッドに位置する。重複関係は、第140号住居跡よりも新しい。遺構の大半が、調査区域外のため全体の形状は分かりにくい。住居跡の規模は、長軸5.30m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、120cmである。壁周溝は、北側5分の1を確認しただけだが、四辺を巡りカマドの部分で切れるのであろう。幅12~15cm。柱穴は、確認されていない。

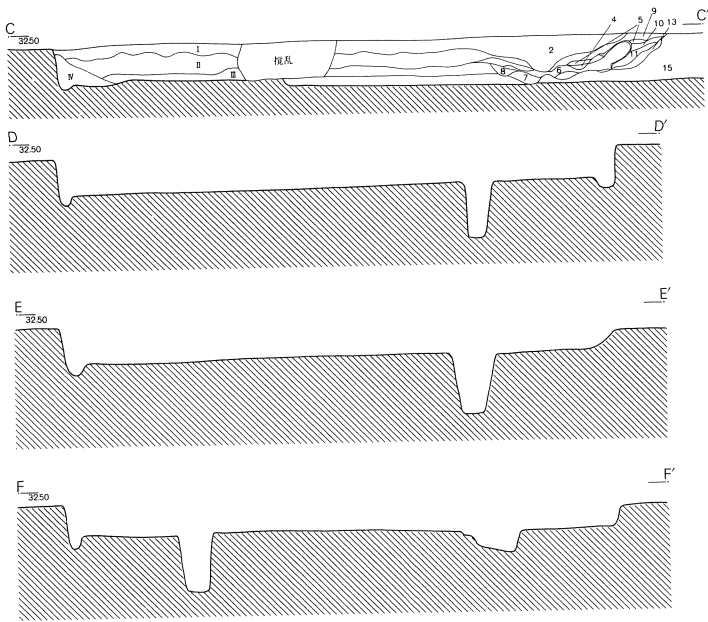
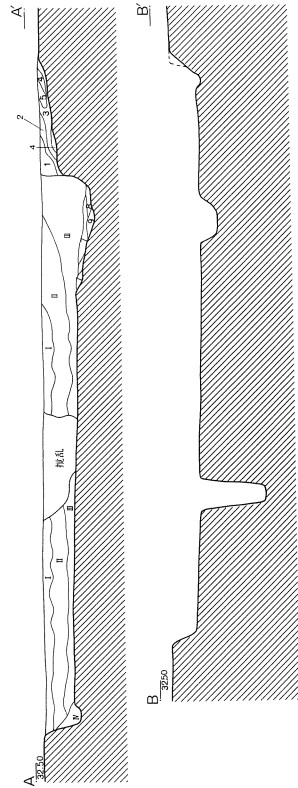
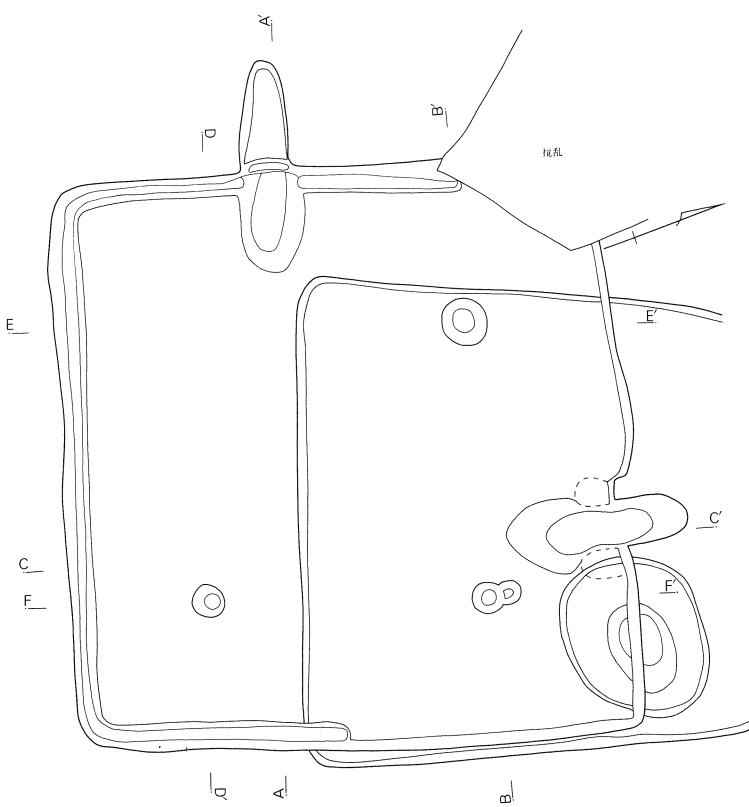
カマドは、袖の一部が調査区域外に存在する他は、完璧に確認できた。北辺のやや右よりに存在し、長い袖と、長い煙道をもつ。左右の袖は、地山掘り残しで造られる。燃焼部は、比較的大きく、焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃焼部から煙道部へは、一旦段差をもって立ち上がり、煙出し穴に向かう。

地山の堆積層と覆土は近似し、また当初は、第140号住居跡のカマドが、重なっていることを予測できずに調査をしてしまった。

第22号住居跡に伴う出土遺物は、大量の土師器環（実測可能個体で、74個体）と、高坏である。

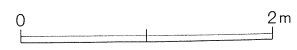


第 116 図 第22号住居跡



第23号住居跡土層説明 (A-A')

1. 灰赤褐色土 焼土粒子多量含む。強粘性、灰色土を主とした層
 2. 灰赤褐色土 1層より明るい黒褐色ブロック多量含む
 3. 暗灰褐色土 強粘性、粗粒子、炭化物粒子、炭化物
 4. 黄褐色土 地山
 5. 暗灰褐色土 炭化物多量に含む
 6. 赤褐色土 下方に至るに従い淡くなる。焼土中心
 7. 暗褐色土 炭化物多量含む
 8. 黄褐色土 地山
 9. 暗褐色土 黄色粒子を多量に含む。木炭少量、締り良
 10. 褐色土 黄色粒子を多量に含む。木炭、焼土少量含む。締り良
 11. 褐色土 黄色粒子を多量含む。木炭微量、締り良
 12. 暗褐色土 黄色粒子を多量含む。締り良
- (B-B')
2. 暗黄褐色土 微量のカーボン粒子含む。粘性あり
 4. 灰褐色土 多量のカーボン微粒子、少量の焼土粒子
 5. 橙褐色土 多量の焼土ブロックを含む、粘性なし
 6. 暗灰色土 多量のカーボンブロックを含む。
 7. 暗橙褐色土 多量の焼土微粒子を含む、粘性なし
 8. 青灰色土 ブロック状に入った青灰色の粘土層。
 9. 黄褐色土 多量の黄褐色土ブロックを含む
 10. 淡灰褐色土 混入物の少ない砂質土層、粘性なし
 11. 暗橙褐色土 多量の焼土ブロック、カーボン粒含む
 13. 橙褐色土 多量の焼土で構成される。弱粘性、締り良
 15. 黄褐色土 少量の細粒砂を含む。粘性、締り良



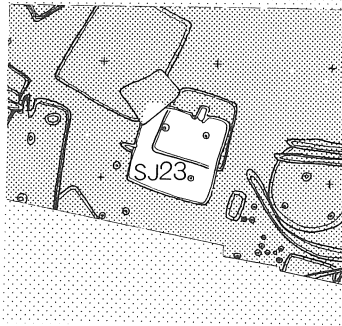
第 117 図 第23号住居跡

第23号住居跡（調査時C 2区86号住居跡）

メー280グリッドに位置する。重複関係は、第14号住居跡よりも新しい。西北隅が、一部攪乱によって破壊されているが、そのほかはほとんど壊されていない。住居の規模は、長軸4.50m、短軸4.35mを測る。掘り込みの深さは30cmである。壁周溝は、南辺で全体、東辺・西辺で一部を確認したのみである。西辺の周溝は、第一次構築のカマドが廃絶した後に、燃烧部を埋め戻し、再び掘られている。幅12～15cm。柱穴は北壁側に2本、南に1本確認されている。

カマドは、西辺左より（第一次カマド）と北辺右より（第二次カマド）と、使用時期の異なる二つのカマドが確認された。[第一次カマド] 袖部は全て破壊され、壁外に煙道が、延びるだけである。貼り床の下に燃烧部の底面が確認でき、カマド袖の規模もおおよそ推定することができる。

[第二次カマド] 天井部は落ちていたが、良好に残っていた。北辺右よりに構築され、左右の袖は地山を一部掘り残して造られ、壁外へ袖の長さとおなじくらい煙道が延びる。燃烧部は、比較的大きく、焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃烧部から煙道部までの立ち上がりは、段差がない。



第 118 図 位置図

遺構の確認は比較的簡便であったが、第23号住居跡の下に、第14号住居跡が存在していることは、貼り床を剥すまで認識できなかった。

第13号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・壺・高坏・甕・小形甕・甑・壺など良好なセットである。

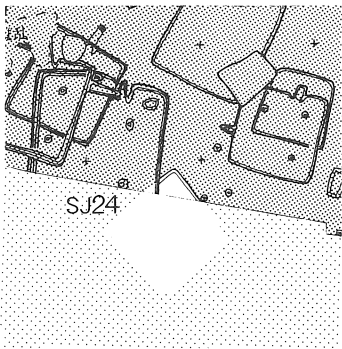
第24号住居跡（調査時C 2区110号住居跡）

メー281グリッドに位置する。重複関係は、第51号住居跡よりも古い。遺構の大部分は、調査区域外である。北隅のごく一部分を調査したにすぎない。住居の規模は、長軸一一m、短軸一一m、掘り込みの深さは、54cmである。壁周溝がめぐり、ここに遺物が落ち込んでいる。貯蔵穴・柱穴等は確認されていない。

カマドも調査区域外である。

遺構の直接の確認は、第51号住居跡の土層断面の観察によって検出された。

第24号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・高坏だけである。



第 119 図 位置図

第25号住居跡（調査時C 2区27号住居跡）

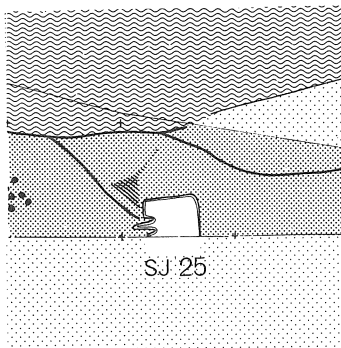
ヒー277グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は全く無いが、河川跡の侵食によって、遺構の東側の大半が失われている。覆土の多くもこの侵食によって失われてはいるが、かろうじて床面は確認できた。住居跡の規模は、長軸・短軸ともに不明である。掘り込みの深さは、5cm程度し

が残っていない。壁周溝・柱穴は、確認できない。

カマドは、西辺に痕跡程度確認されている。袖の長さや煙道の長さがほぼ同程度の長さであり、焼土や炭化物等は確認できなかった。

遺構確認作業の時点では、確認することができず、河川跡の調査時に遺構の存在を確認した。

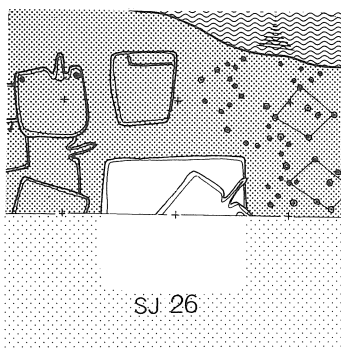
第25号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏類のみである。



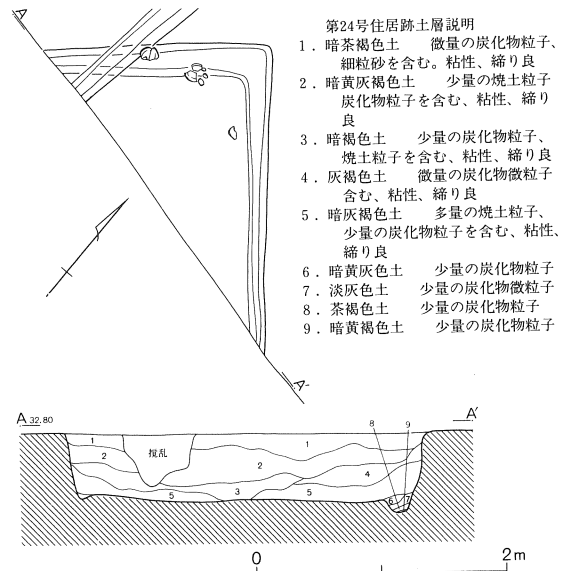
第121図 位置図

第26号住居跡（調査時C 2区41号住居跡）

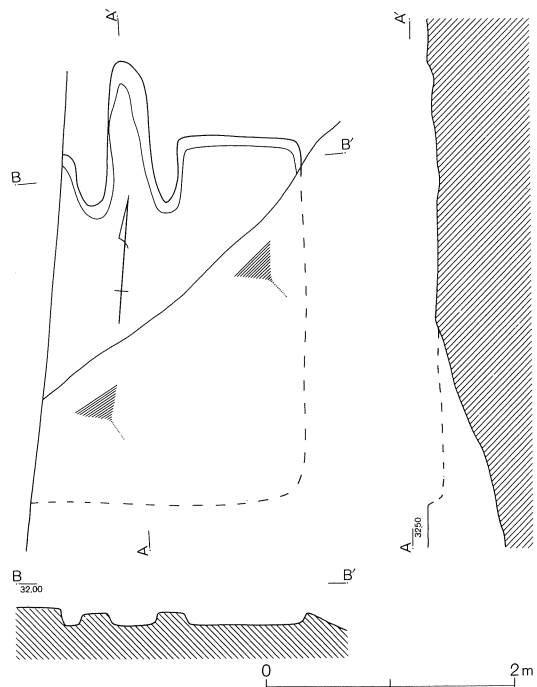
ヒ-282グリッドに位置する。重複関係は、第74号住居跡よりも古い。南半分は、調査区域外である。第74号住居跡によって壊され、床面の大部分が失われている。住居跡の規模は長軸



第123図 位置図



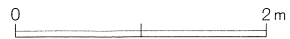
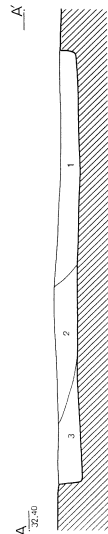
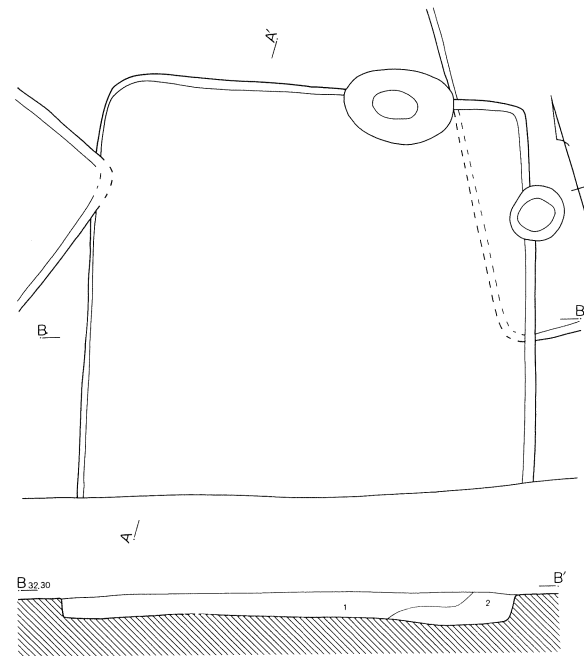
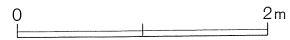
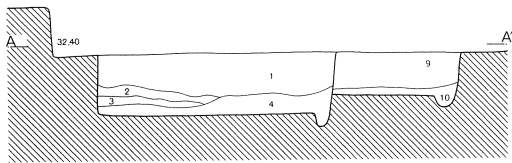
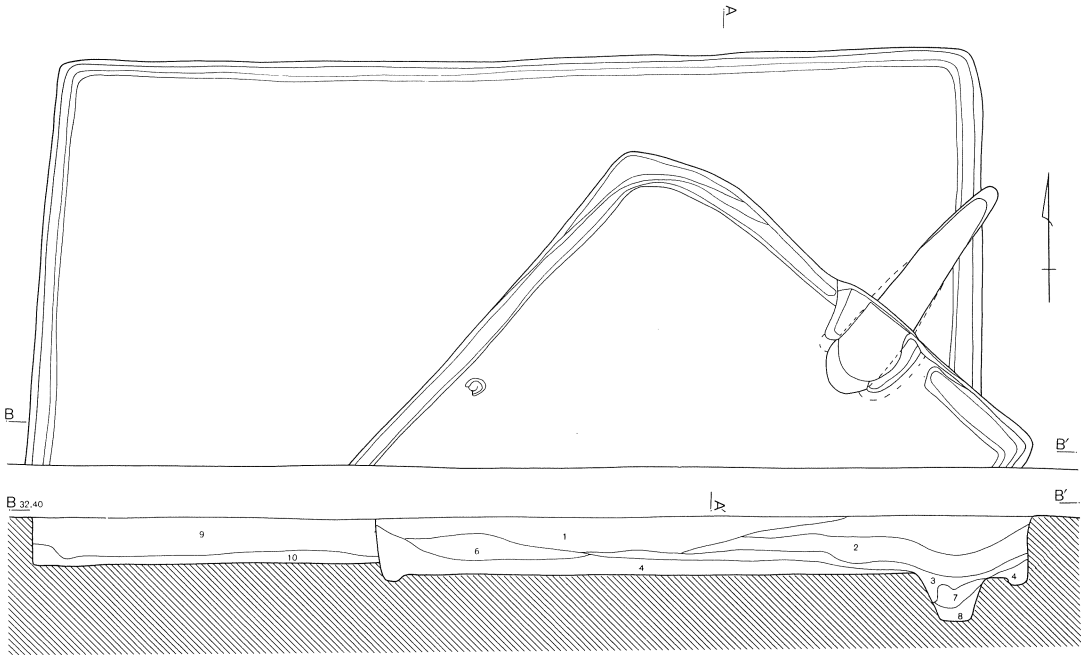
第120図 第24号住居跡



第122図 第25号住居跡

7.50m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは38cmである。壁周溝・柱穴は、見られなかった。

カマドは、確認されていない。煮沸形態については、検討する材料がない。



第26号住居跡土層説明

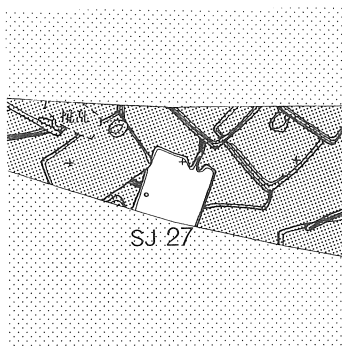
1. 褐灰色土 焼土粒、炭化物多量含む
2. 黄褐色土 焼土粒、炭化物少量含む
3. 黒褐色土 炭化物多量含む。焼土粒少量含む
4. 暗灰黄色土 焼土粒、炭化物微量含む
6. 暗灰黄色土
7. オリーブ褐色土 灰化物少量含む。粘性強
8. オリーブ褐色土 粘性強
9. 暗灰黄色土 焼土粒子少量含む
10. 黄褐色土 カーボン微量、焼土粒含む

第27号住居跡土層説明

1. 灰オリーブ色土 粘土ブロックと炭化物含む
2. 暗灰黄色土 焼土と炭化物含む
3. オリーブ褐色土

第 124 図 第26・27号住居跡

第26号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏である。



第 125 図 位置図

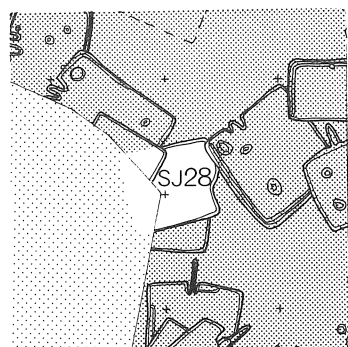
第27号住居跡（調査時C 2区76号住居跡）

ミー285グリッドに位置する。重複関係は、第16号住居跡よりも新しく、第40・125号住居跡よりも古い。南側が調査区域外である。全体の形状は明瞭で、床面まで破壊されていない。住居跡の規模は、長軸3.60m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、20cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

カマドは確認されていないが、北側に焼土が痕跡程度残存している。

重複が激しいうえに、調査区が狭いこともあって、遺構の確認・精査作業は難行した。

第27号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・有孔小形碗・高坏・罌・甕・壺などがある。



第 126 図 位置図

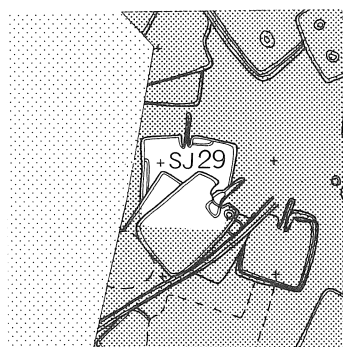
第28号住居跡（調査時B区41号住居跡）

ミー293グリッドに位置する。重複関係は、第80・43・102号住居跡よりも古い。西半分は、調査区域外である。北東隅を43号住居跡によって、西北を102号住居跡によって破壊されている。住居跡の規模は、長軸4.10m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは51cmである。壁周溝・柱穴は、検出されていない。

カマドも、検出されていない。

住居跡の覆土と地山が近似し、重複も激しく、確認に大変手間取った。

第28号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・小形甕・甕・甌・須恵器蓋などがある。

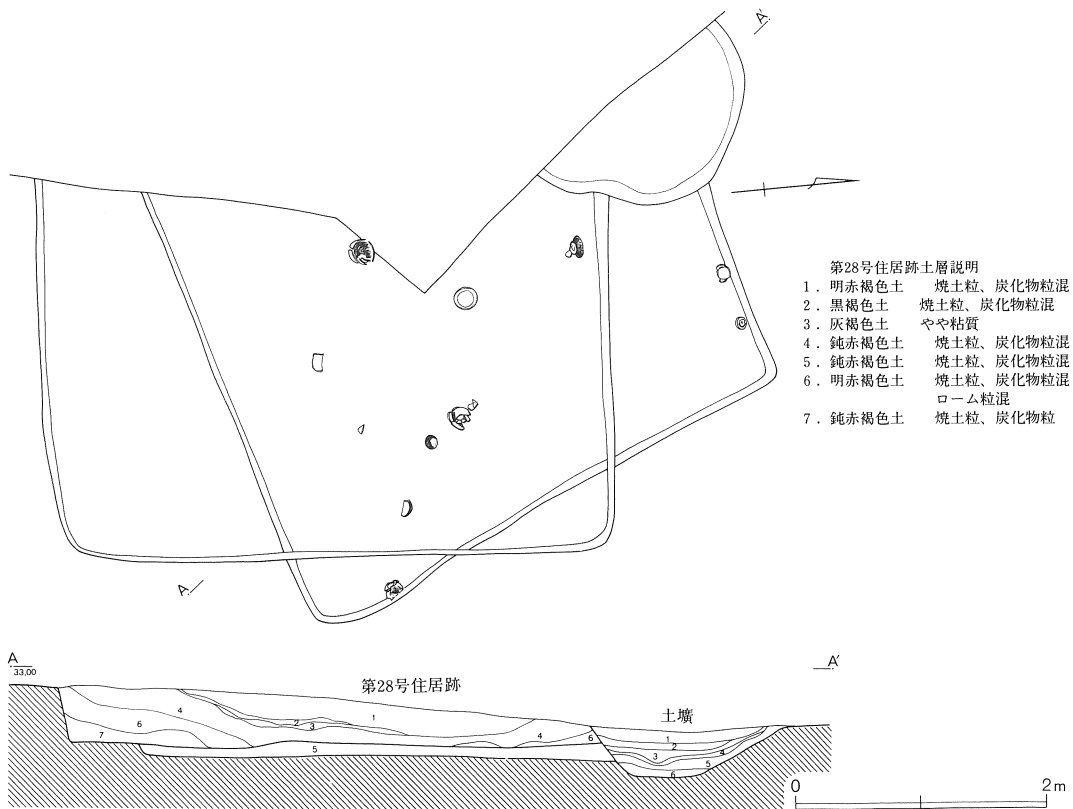


第 127 図 位置図

第29号住居跡（調査時B区11号住居跡）

ミー293グリッドに位置する。重複関係は、第45・101号住居跡よりも古い。この二つの住居跡によって南側半分を破壊されている。住居跡の規模は、長軸4.85m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、58cmである。壁周溝は、カマド部分と北東隅で一部切れるが、完周すると思われる。幅12~15cm。柱穴は、確認されていない。

カマドは、ほぼ完全に調査された。北辺のやや左よりに存在し、長い袖と、長い煙道をもつ。左右の袖は、地山を掘り残し



第 128 図 第28号住居跡

造られる。燃焼部はやや狭く、焚き口の下部には、円形の淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃焼部から煙道部へは、一旦段差をもって立ち上がり、煙出し穴に向かう。煙道は、トンネル状にやや左よりに掘り抜かれている。

地山の堆積層と覆土は近似し、また他の住居跡との重複関係から確認が難しかった。

第29号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・壺・高坏・甑・甕である。

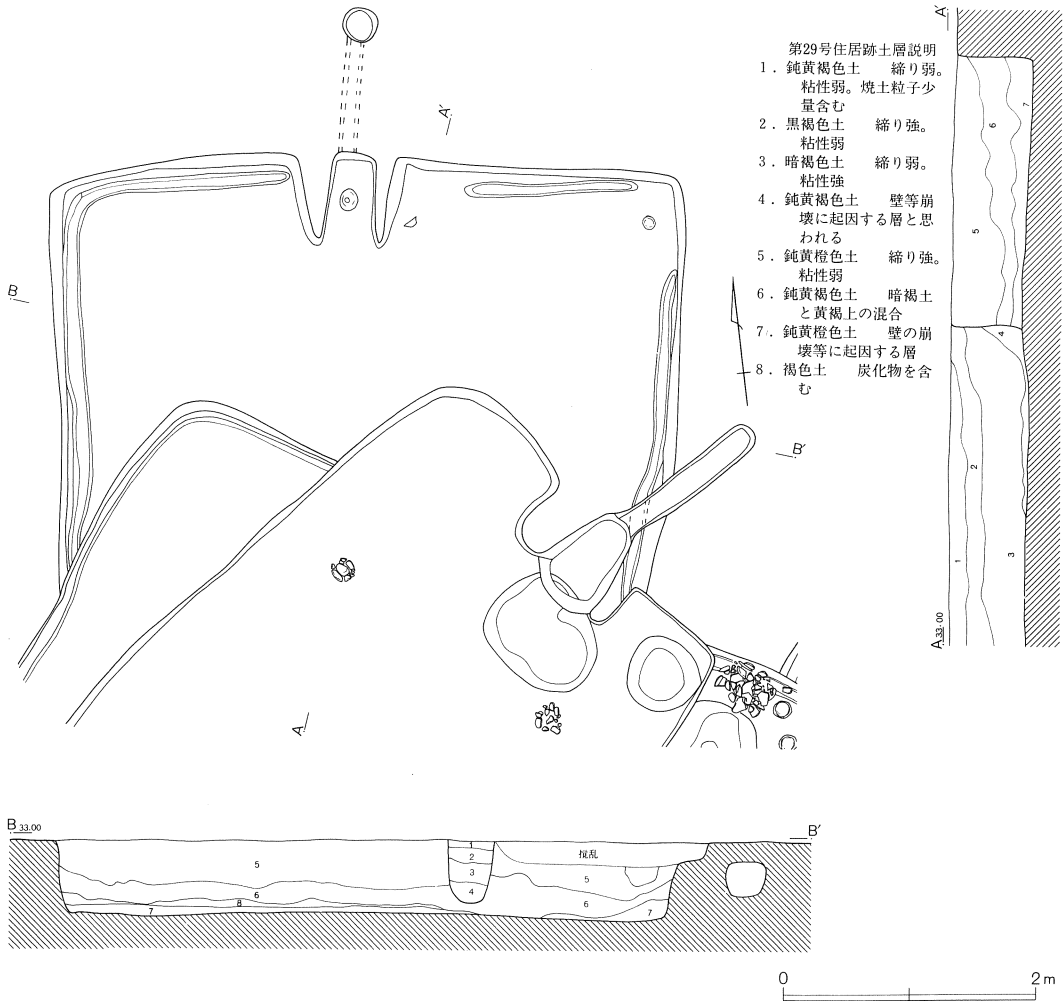
(3) 遺構各説 —遺物出土状態—

第19号住居跡

カマドの燃焼部を中心とする主要な部分が、掘立柱建物跡の柱穴によって破壊されているため、カマド内部の遺物については全くわからない。しかしその他の部分では、土師器杯のみ検出されるというきわめて特異な出土状態を示している。

(床面) 中央部のカマド前方に2点の坏が、正位に置かれていた。またやや左寄りにも一点正位に置かれた坏がある。床面上には、坏類が床直の状態に散漫に確認されている。

(カマド脇) 袖の右側では、カマド袖に接し3点の坏が、焚き口部よりに正位に置かれ、また貯



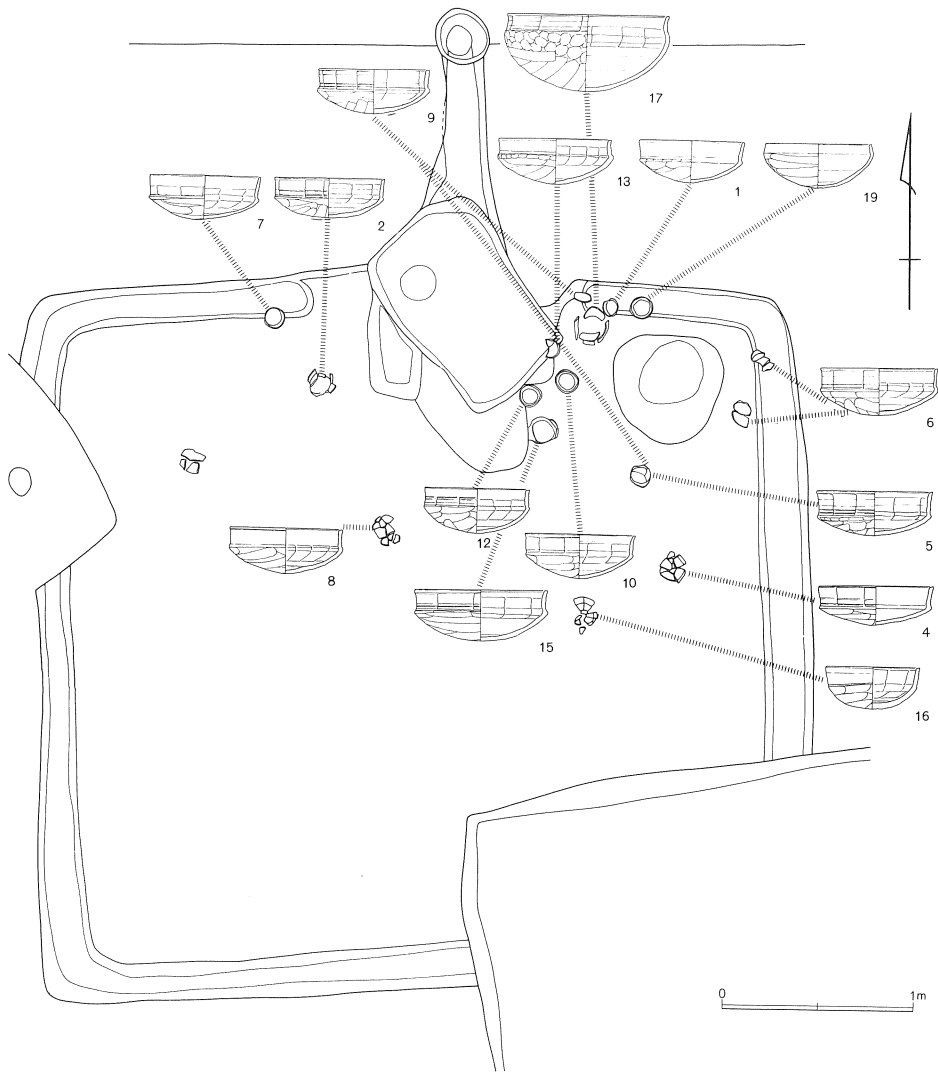
蔵穴とカマド袖の間の空間に、3点の坏と1点の大形坏が、これも正位に置かれている。カマド袖左側には、やや離れて坏が2点正位におかれている。2点はやや離れている。

あたかも貯蔵穴とカマドを取り囲むように、土器が整然と出土した。

第22号住居跡

（床面） 調査区域の端で確認された住居跡であったため、全体の遺物の出土状態を考えることは大変難しいが、確認された部分のみを考えると、カマドの右側部分に限り、おびただしい数の坏類が確認されている。とくにここでは、出土が坏類に限られること、床直の出土状態が多いこと、重坑の状態で出土していることなどが特長としてあげられる。なお出土状態を図化されている遺物は、最下層の部分だけであるため、本来的な遺物の出土はもっと激しい。

（カマド内） カマド内の遺物も、数点の坏類が占めている。ただし燃焼部と焼き口部の遺物につ



第130図 第19号住居跡遺物出土状態

いては、調査区域外のため不明である。

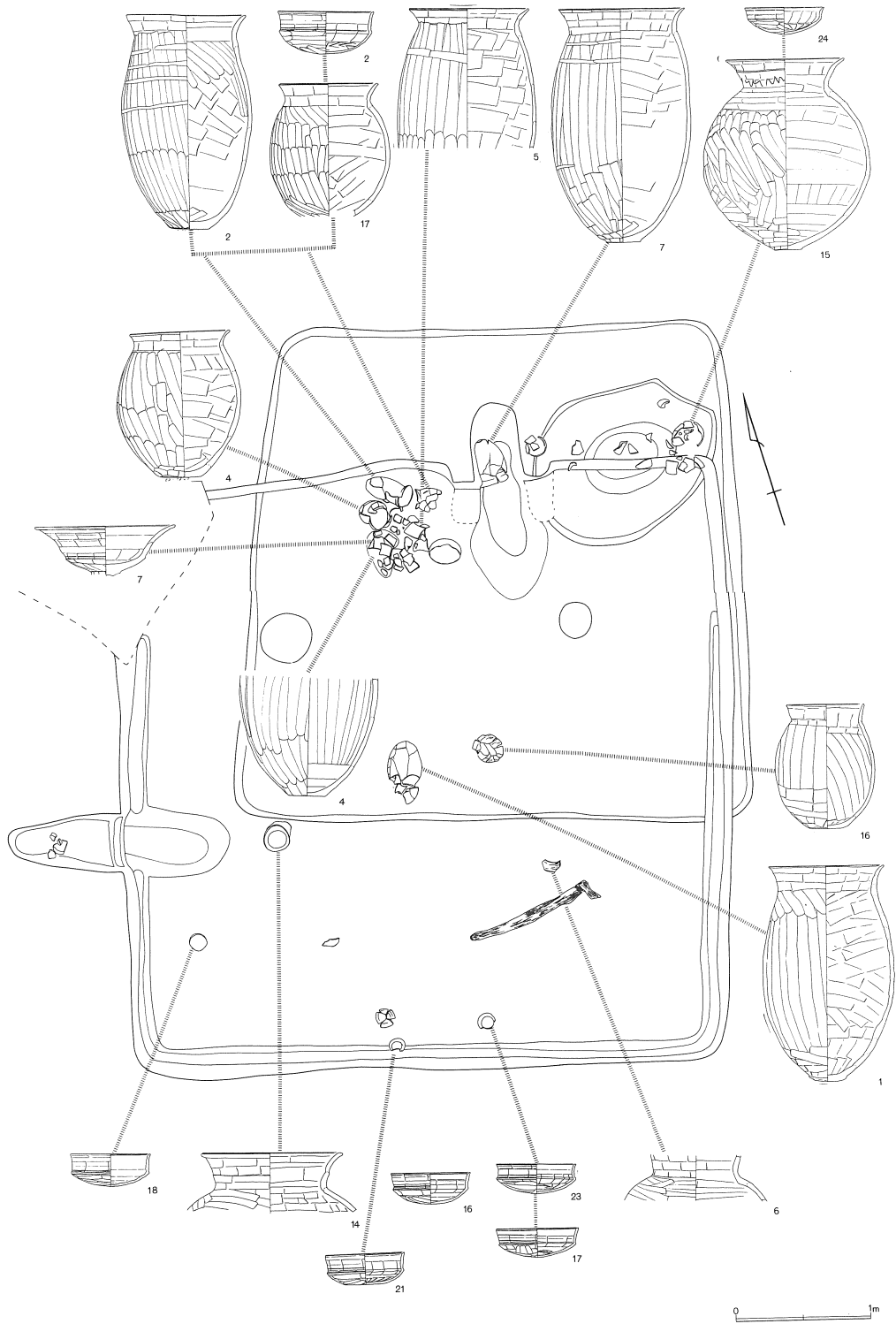
このような多量の土師器を出土する遺構は、深谷市上敷免遺跡にもみることができる。

第23号住居跡

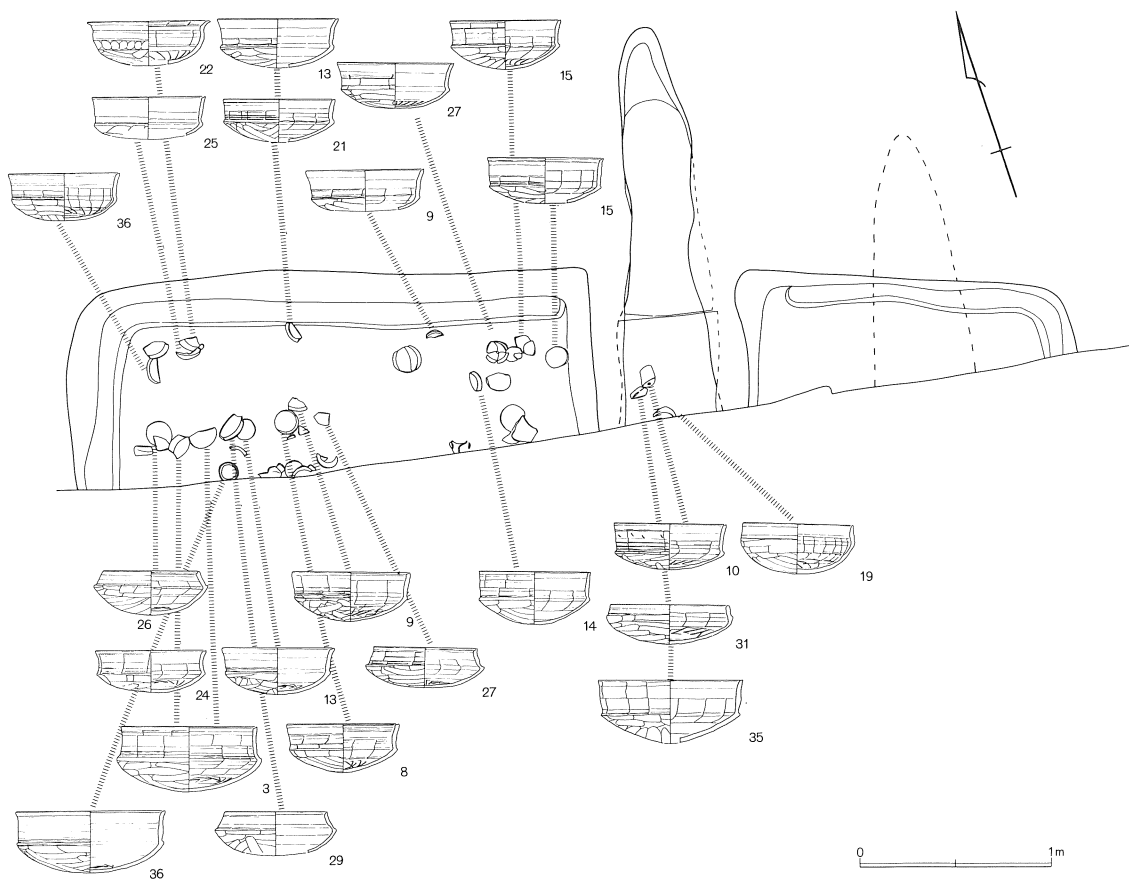
第23号住居跡では、カマドの作り替えが確認されるが、出土遺物のあり方からは、第2次カマドに伴う出土遺物のみであることがわかる。

(壁ぎわ) 第2次カマドと反対の方向に坏が、4点壁に接して置かれている。

(床面) 甕2点、壺1点、小形甕1点が、床面のほぼ中央に横倒しになって確認されている。甕1点と壺は胴下半が破碎されている。壺は口縁部が上を向き、置き台として転用されていた可能性がある。



第 131 图 第 23 号住居跡遺物出土狀態



第 132 図 第22号住居跡遺物出土状態

(カマド内) カマド内の遺物は、甕が1点横倒しになって、口縁部を焼き口部の方向に向けている。燃焼部でも最も奥の部分から出土している。

(カマド脇) 左脇の部分から、甕5点・坏1点・高坏1点が出土している。それぞれの土器をあたかも集めたかのように置かれており、小形の甕の口縁部は、坏によって蓋がされていた。

なお貯蔵穴状の部分から、口縁部に鋸歯状の沈線による文様が描かれた壺が出土しているが、これは、第15号住居跡に伴う遺物である。

(4) 遺構各説 —カマドと煮沸土器—

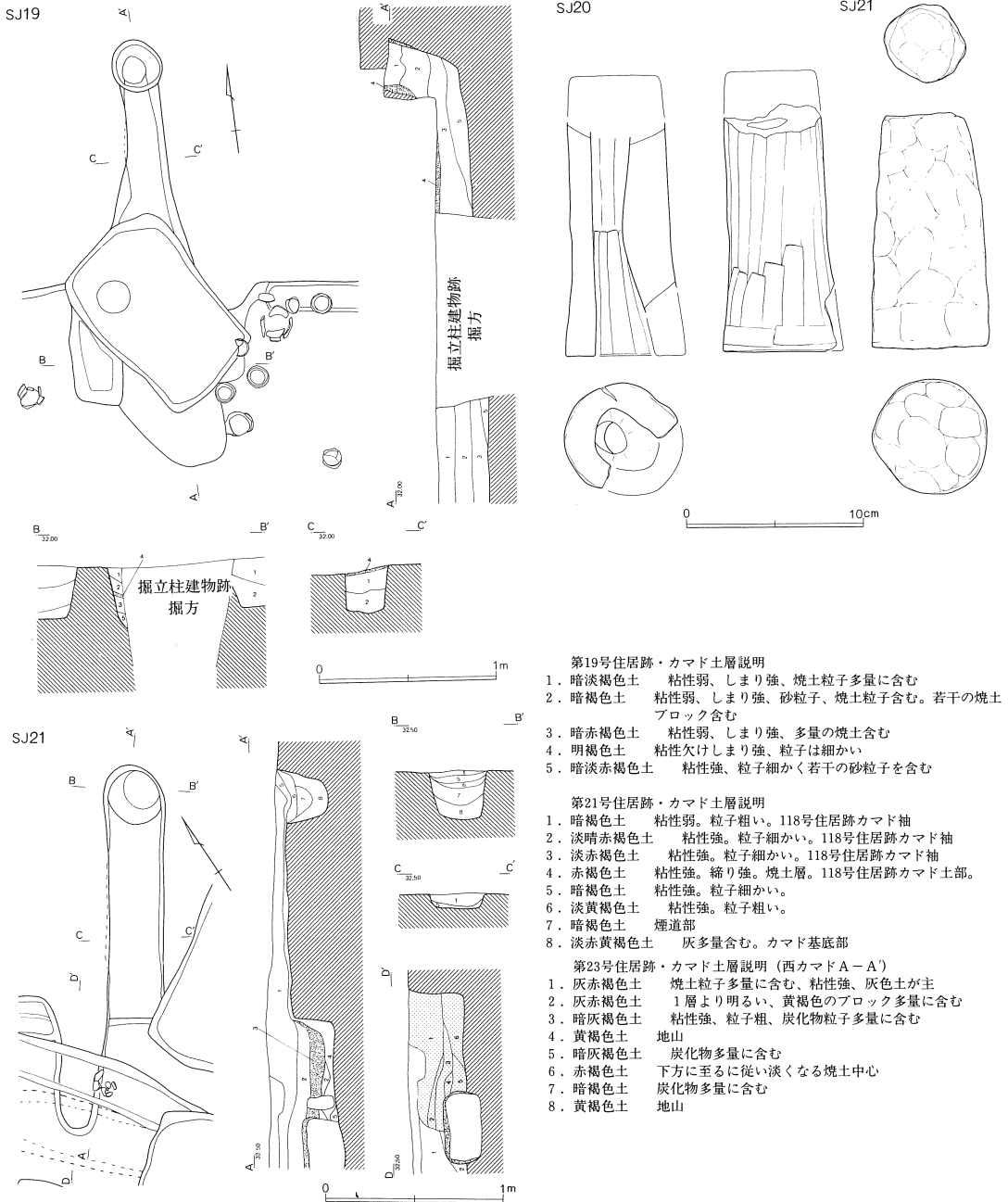
古墳時代第Ⅱ期のカマドと、煮沸にかかわる土器の関係について述べる。

古墳時代第Ⅱ期のカマドの確認された住居跡と構造についてはすでに述べた。以下主要な4軒5例のカマドについて詳細を述べる。

第19号住居跡

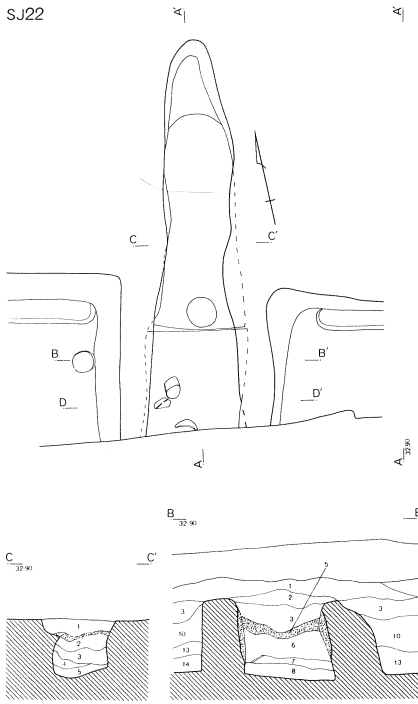
カマドに関係した遺物としては、明確な遺物を見ることができなかった。それは、カマド燃焼部

に、掘立柱建物跡の柱掘り方が、重複していたことから理解していただきたい。にもかかわらずここで上げたのは、カマド煙道が、調査区域のきわに位置し、クランク状に排煙していた状態が確認できたからである。焼土の痕跡を追うと、煙道天井部、煙り出し穴の全面に赤く焼けた痕跡を

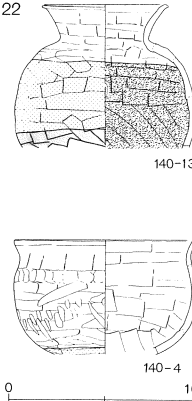


第133図 第19・21号住居跡カマド・遺物出土状態

SJ22

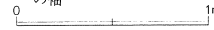


SJ22

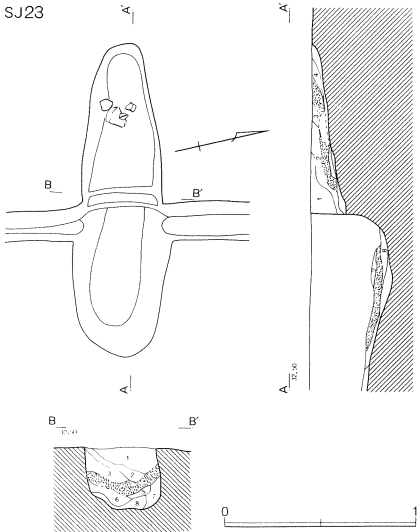


第22号住居跡カマド土層説明

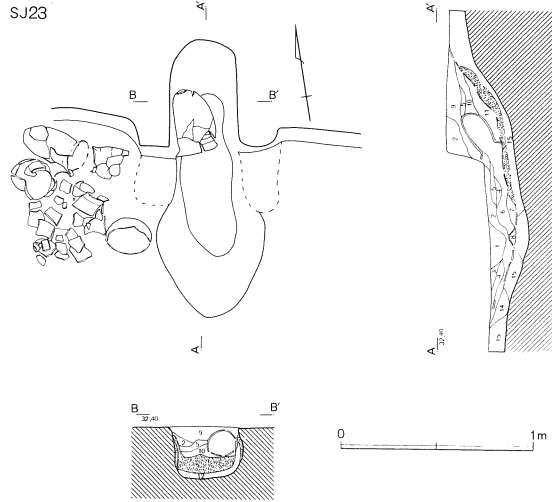
1. 暗黄褐色土 焼土粒子 (3~5mm) 少量含む、粘性、締り良好
2. 暗茶褐色土 焼土粒子 (5~10mm) 炭化物粒子 (7mm) 少量含む、粘性、締り良好
3. 褐色土 焼土粒子 (3~5mm) 炭化物粒子 (微量~3mm) 少量含む、粘性、締り良好
4. 褐色土 焼土粒子 (3mm位) 少量含む、粘性、締り良好
5. 暗茶褐色土 焼土粒子 (1cm位) 多量、炭化物粒子 (5mm位) 少量含む、粘性、締り良好
6. 暗黄褐色土 焼土粒子 (微粒~3mm) 炭化物粒子 (微粒~5mm) 少量含む、粘性、締り良好
7. 暗黄灰色土 焼土粒子 (5~10mm) 微量白色細粒砂、少量含む、粘性、締り良好
8. 暗黄褐色土 焼土粒子 (3~10mm) 多量炭化物粒子少量含む、粘性締り良好
9. 暗茶褐色土 焼土粒子 (3~10mm) 多量、炭化物粒子 (5mm位) 少量含む、粘性、締り良好
10. 暗茶褐色土 焼土ブロック (1~2cm) 多量、炭化物粒子微量含む粘性、締り良好
11. 橙茶褐色土 焼土ブロック (5cm位) 多量含む、粘性、締り良好 (天井崩落層)
12. 暗黄灰色土 焼土ブロック (2cm位) 多量含む、粘性、締り良好
13. 暗灰褐色 焼土ブロック (2~3cm) 多量、炭化物粒子 (微粒~5mm) 極多量に含む、粘性やや弱、締り良好
14. 暗橙色土 良く焼けた酸化燼層、粘性弱、締り良好
15. 橙色土 良く焼けた縮った焼土より成る、粘性欠、締り良好、カマド内壁
16. 暗黄色土 少量の細粒砂含む、粘性、締り良好、カマドの袖



SJ23



SJ23

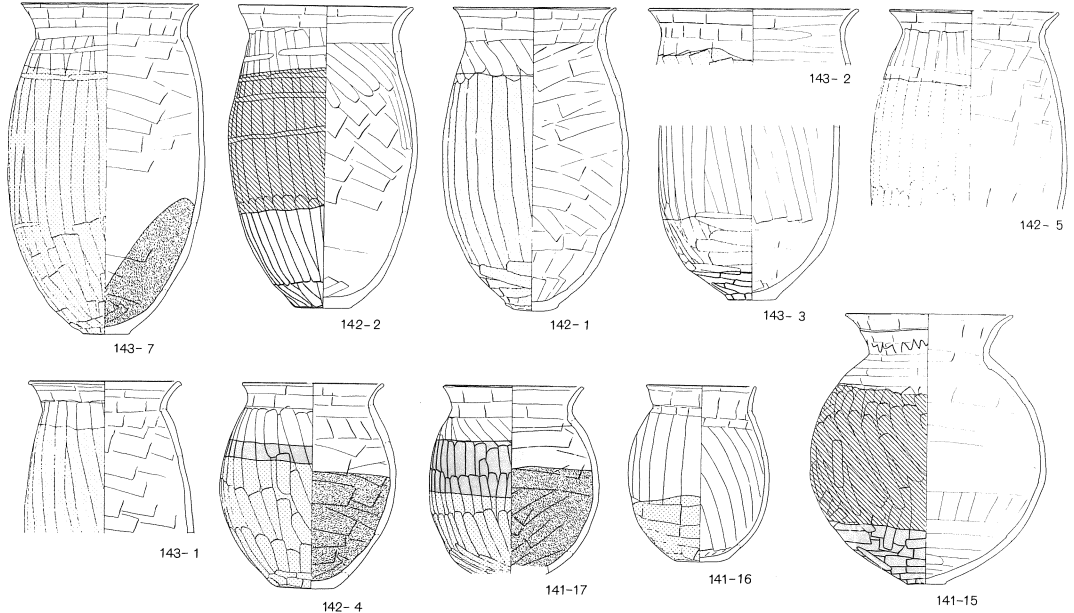


第23号住居跡・カマド土層説明 (北カマド)

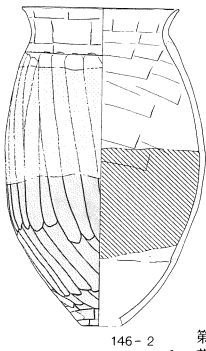
1. 暗黄灰褐色土 少量のカーボン粒子 (3mm位) 細粒砂含む、粘性、締り良好
2. 暗黄褐色土 微量のカーボン粒子 (3mm位) 含む、粘性、締り良好
3. 暗黄灰褐色土 少量のカーボン粒子 (3mm位) 焼土粒子 (5mm位) 含む、粘性、締り良好
4. 灰褐色土 多量のカーボン微粒子と少量の焼土粒子 (5~10mm) 含む、粘性、締り良好
5. 橙褐色土 多量の焼土ブロック (2~3cm) 含む、粘性欠、締り良好 (天井)
6. 暗灰褐色土 多量のカーボンブロック (3~4cm) 含む、粘性欠、締り良好
7. 暗茶褐色土 多量の焼土微粒子を含む、粘性欠、締り良好
8. 青灰色粘土 ブロック状に入った青灰色の粘土層、粘性、締り良好
9. 黄褐色土 多量の黄褐色土ブロック (1~2cm) 含む、粘性、締り良好
10. 淡灰褐色土 混入物の少ない砂質、カーボン粒、焼土粒等含まず、粘性欠、締り良好
11. 暗橙褐色土 多量の焼土ブロック (1~2cm) 及びカーボン粒 (5mm内外) を含む粘性欠、締り良好、色調等第7層に近似
12. 茶褐色土 少量の炭化物微粒子含む、粘性、締り良好
13. 橙色土 多量の焼土で構成、粘性弱、締り良好
14. 淡灰褐色土 少量の炭化物粒子 (3~5mm) 含む、粘性、締り良好
15. 黄褐色土 少量の細粒砂含む、粘性、締り良好 (地山)

第134図 第22・23号住居跡カマド・遺物出土状態

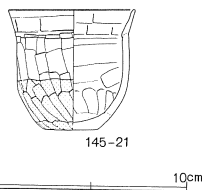
SJ23



SJ27

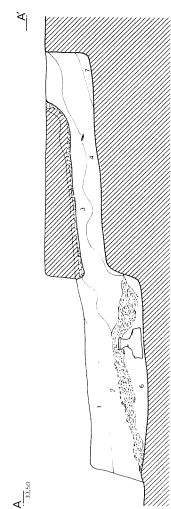
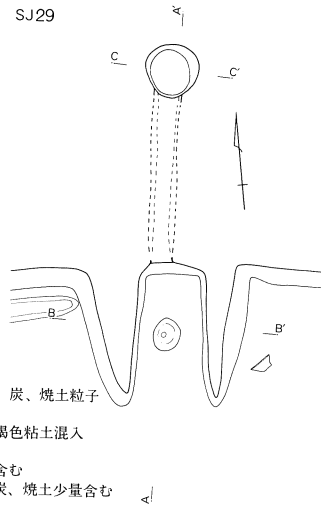


146-2



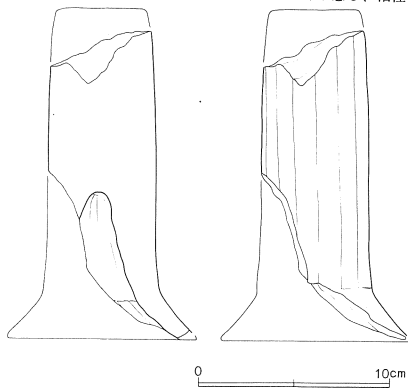
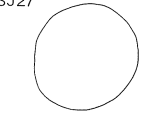
145-21

SJ29



147-12

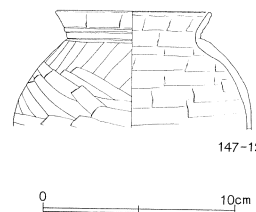
SJ27



0 10cm

- 第29号住居跡・カマド土層説明
1. 黄褐色土 焼土、炭多量含む
 2. 黄褐色土 焼土、炭多量含む
 3. 鈍黄褐色土 締り悪く、粒子細かい、炭、焼土粒子少量含む
 4. 鈍黄褐色土 炭、焼土多量混入。灰褐色粘土混入
 5. 暗赤褐色土 焼土アロク多量混入
 6. 褐灰色土 締り悪い、炭、焼土少量含む
 7. 明黄褐色土 締り悪い、粘性有り。炭、焼土少量含む

SJ29



0 10cm

第 135 図 第29号住居跡カマド・遺物出土状態

確認することができる。

第20号住居跡

カマドは確認されていないが、土製支脚が出土している。中空の土製支脚で、分厚い粘土帯からできている。埴輪馬の脚部のようなものである。内面は指押えで作り、外面は、縦にヘラケズリしたあと、底部を部分的にナデている。おそらく上部が欠損していると思われる。

第21号住居跡

カマドの燃焼部の中央やや手前に、土製支脚が立てられたままの形で残っている。中実の土製支脚で、粘土の塊を指頭押えによって仕上げている。完形品である。上部が、徐々に小さくなっている。なおこのカマドの特徴として、煙道部の工作方法が明確にわかっている。カマドの煙道は、燃焼部よりも一段高い。

第22号住居跡

大量に坏境類が出土した住居跡である。カマドの燃焼部と煙道部の境に、煙道部から転がるように坏が一点出土している。これは覆土の堆積状態から、カマド燃焼部の上に置かれた坏が、カマド天井部の崩壊とともに、落下したためと考えられる。カマド内ではないが、2点の被熱痕等の残る土器がある。140—13は、甕形土器で、胴下半が欠損しているが、胴部外面に被熱痕を認めることができる。また内面には、外面の同様の位置まで粒状の付着物を認めることができた。口縁部にこの痕跡が認められないことから、口縁部は、熱の回りにくい煮沸形態であったと考えられる。140—14は、小形の鉢形土器で、内面には被熱痕等は確認できないが、外面に口縁部直下から、底部にかけて全体的に被熱痕を観察することができた。

第23号住居跡

北・東二つのカマドが確認されており、大量の被熱痕等の残る土器をみることができた。カマドは、東カマドが廃絶後、北にカマドを移動させたと考えられる。遺物は、集中して北カマド側から出土している。北カマドには、煙道中に甕が1点横倒しになった状態で出土している。被熱痕等が確認された土器は、11点に及ぶ。143—7の甕の外面には、口縁部直下から全体に被熱痕が広がっている。内面には、底部斜めに粒状の付着痕がみられた。おそらく最終的な土器の放置の際に、液体状の内容物が、斜めの状態で置かれたのであろう。142—2の甕は、外面中位に帯状に粘土・焼土塊が付着している。カマド構築用の粘土の痕跡であろう。内面には全く痕跡がみられない。142—1の甕は、肩部以下に被熱痕を確認することができた。しかし肩部以上はこの痕跡が確認することはできず、カマドに掛けられる状態を反映しているのであろうか。内面には、なんら使用痕跡はない。143—2の甕は、口縁部のみしか確認されていない。しかしやはり口縁部と肩部の境に、被熱痕跡をみることができた。内面にはなにもみられなかった。143—3の甕は、胴下半部しか確認されていないが、胴中位以下に被熱痕を認めることができる。142—5の甕は、胴下半部が欠損しているが、胴中位以下に被熱痕を認める。内面になんら痕跡はなく、また口縁部にもそうした痕跡を認めることはできない。143—1の甕は、やはり胴下半部しか確認されていないが、胴中位以下に被熱痕を認めることができる。内面には痕跡はない。142—2の甕は、完形品である。胴中位やや下から底部にわたり、被熱痕を認める。内面には、中位以下に粒状の付着物を認めることができ

る。141—17の甕は、底部の一部が欠損している。胴中位以下から底部にわたり、被熱痕を認める。内面には、中位以下に粒状の付着物を認めることができる。141—16の甕は、完形である。胴中位やや下から底部にわたり、被熱痕を認める。内面には、なにも痕跡はなかった。141—15の壺は、完形である。胴中位に帯状に、粘土と焼土の付着物を認めることができた。他は内面も含め何等痕跡はない。

第27号住居跡

明確なカマドの痕跡はみられなかったものの、被熱痕等の痕跡の残る土器2点と土製支脚を確認している。土製支脚は、途中まで中空で、大半は中実である。外面を縦にヘラケズリし、底部の一部でヨコナデを行なっている。上部が欠損しているために全体の大きさはわからない。146—2は、甕で、口縁部から肩部にかけた部分を除く、胴上半部に被熱痕が認められる。内面では、胴中位に粘土の付着痕が認められた。145—21では、小形の甕だが、外面の底部下半部に被熱痕を認めることができた。

第29号住居跡

カマドは、煙道部がクランク状に残る残存状態の良いカマドである。小形高環が転倒し、燃焼部内に置かれており、これが、カマド支脚の代用となったのであろう。147—12が、カマド関連の土器として上げられるが、なんら被熱痕等は見られない。

(5) 遺物各説 一古墳時代第Ⅱ期の出土土師器分類一

1 坏埴類 食膳具の坏埴類には、5つの器種がある。

内斜口縁坏2（内坏2） 埴形の胴部で、口縁部でS字状に屈曲する。S字状の口縁部が、第Ⅰ期よりも緩く作られている。口縁内面は、扁平な面を形成し、外湾する。口縁部と胴部の接合が、外面は緩やかだが、内面には稜がある。稜は緩い。外面は、指押えのあと、底部を細かなヘラケズリし、口縁部を数回に亙る断続的なヨコナデによって仕上げる。内面には、ヘラオサエ痕が残る。稜を作り出す際に、断続的なヨコナデを行なう。

坏2（坏2） 緩やかに内湾する埴形の土器である。深めの土器で、口縁部が内湾する。口唇部は面をもち鋭い作りである。全体をヨコナデで成形し、底部を粗いヘラケズリによって作っている。底部から口縁部へかけての厚みの変化はない。口縁部は素口縁である。

須恵器模倣坏蓋2（盖坏2） 須恵器の蓋付坏の蓋を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK47の須恵器坏蓋Aの形態を模倣している。成形の過程は、まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。なお底部のヘラケズリの技法として、中心部を一定方向に連続して削り、底部周辺を縁に沿って、断続的に削る技法が出現する。口縁部は、一端強く内側に屈曲し、S字状粘土を折り曲げ口縁部を作り出す。口縁部は緩く外反し、外稜よりも口唇部の径が大きい。外稜は明瞭。工具による押えは強い。底部は細かくていねいにヘラケズリする。口唇部は、凹状に面をもって構成され、作りは全てシャープである。普通製品と、大振りの製品が存在する。須恵器の食膳具内への参入に伴い出現した器種を継承し、独自の発展を続ける土器である。

須恵器模倣坏身2（身坏2） 須恵器の蓋付坏の身を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK47の須恵器坏身（TK47の須恵器坏身のBの系譜を引く）に、形態は近似している。蓋坏2と同様、底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。口縁部は、内側に傾斜しつつ立上がり、S字状に粘土を折り曲げて口縁部を作り出す。外稜よりも口唇部の径は小さい。外稜は明瞭。工具による押えは強い。底部は細かくていねいにヘラケズリする。口唇部は、凹状に面をもって構成され、作りは全てシャープである。この口唇部の面は内側に傾斜している。須恵器の食膳具内への参入に伴い出現した器種を継承し、独自の発展を続ける土器である。

平底坏1（平坏1） 底部の扁平な坏で、径が大きい。水平な底部から僅かに立上がり、口縁部で外反する。稜は明瞭で、口縁部の断続ヨコナデも良く残る。底部のヘラケズリも、底部ヘラケズリから周辺ヘラケズリへと進んでいる。第25号住居跡で一点だけ確認されているが、あるいは、さらに後出するもので、本来は共伴資料としては適確ではないかもしれない。

2 高坏・器台類 食膳具の高坏・器台類には、5つの器種がある。

和泉式系高坏2（和高2） 細長い柱状の脚は、輪積みによって作られ、高さが減り、ラッパ状に開く。坏部は、外稜によって底部と口縁部が区切られる。緩く立上がる底部は、湾形をし、長く外反していく口縁部とで構成される。断続ヨコナデにより外稜が作り出される。口唇部は、緩く外反している。脚裾部には、断続ヨコナデが見られる。脚部のくびれは失われている。

平底高坏2（平高2） 高坏の坏部が平底の高坏である。大形の高坏の坏部しか見られない。断続ヨコナデによってていねいに作られている。口唇部の形状は不明ではあるが、おそらく凹状であろう。外稜の部分は欠損しているが、存在すると考えられる。内面は、ていねいなヘラオサエが見られる。

有稜口縁高坏2（有稜高2） 口縁部の有稜部のみが確認されている。有稜高1に比較し、外稜部の突出が低くなっている。有稜高1では口縁部の突出する外稜にハケメが残っていたが、見られなくなっている。精巧さが欠けてきている。

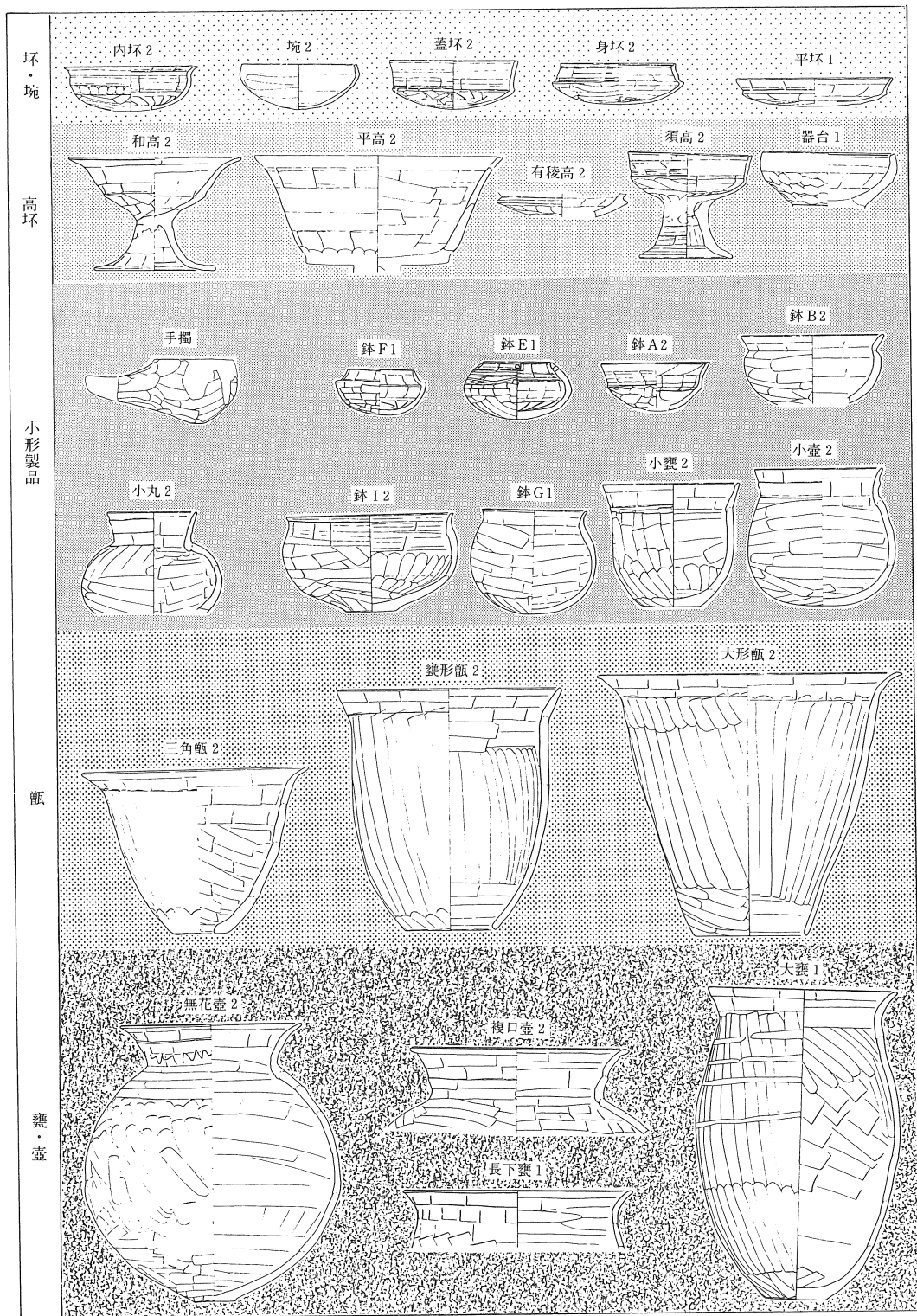
須恵器小形高坏模倣高坏2（須高2） 須恵器高坏の模倣をしたと考えられる土師器である。とくに坏部が、いわゆる模倣坏であり、裾部もあまり広がらず、明瞭な坏部が、伴っておらずやや不明瞭。しかし脚接合部の著しくくびれ、脚から裾への激しい屈曲、ていねいなヨコナデ等から、従来の高坏にこの器形の抽出は難しい。外来の要素、須恵器高坏の影響であろう。

器台1（器台1） 受皿部しか残っていない。指押えで外形を作り上げ、口縁部をヨコナデによって仕上げていく。内面は、ヘラオシアテで作りあげる。点数は少なく、どのような用途があるか推定は不可能であるが、高坏類に入れておく。あるいは形式的に先行するものか。

3 小形製品 小形製品は、機能別に柱を立てるべきだが一括した。10の器種を設定した。

手燭形土器（手燭） 手燭形土器は、1点のみ確認されている。基本的には、指押えによって成形し、ハケメで細かな調整を行なったあと、細かなヘラケズリによって細部を整える。コップ型の坏部と柄部から構成される。

小形丸底壺2（小丸2） 口縁部から胴部まで残るが、底部までの製品はない。内面をヘラオサエ



第 136 図 古墳時代第Ⅱ期の出土土器分類

によって成形し、外面は縦にヘラケズリした後、胴下半を横にヘラケズリする。口縁部は、内外面ともに断続ヨコナデしている。球形の胴部は、扁平化し広口の口縁部が接合されている。

鉢A類1（鉢A1） 小形の鉢形土器である。成形方法等は、模倣坏蓋の影響を受け、各部にその影響がみられる。深めの椀。強く外反し、底部から緩く立ち上がっている。口縁部は、底部との境で強く屈曲する。外面のヘラケズリは、粗く雑になる。内面はていねいにヨコナデされている。

鉢B類2（鉢B2） 小形の鉢形土器である。成形方法等は、内湾坏のそれを継承しているものと思われる。深めの湾形の口縁部で、厚く作られ、底部との境で強く屈曲する。外面のヘラケズリは前段階に比べると粗く雑になる。内面はていねいにヨコナデされている。

鉢E類1（鉢E1） 小形の鉢形土器。扁平な球胴。口縁部は、素口縁で、口唇部でやや膨らむ。底部は縦に連続したヘラケズリが成され、肩部を横方向のていねいなヘラケズリが施される。口縁部はていねいに断続ヨコナデされる。口縁部に一對の穿孔がみられる。

鉢F類1（鉢F1） 小形の鉢形土器である。成形方法等は、模倣坏身の影響が、各部に見られる。深めの碗形。口縁部は強く内傾する。底部から緩く立ち上がっている。外面のヘラケズリは、粗く雑になる。内面はていねいにヨコナデされている。

鉢I類2（鉢I2） 大形の鉢形土器。扁平な球胴。球胴甕の胴下半部を切断した形状に近似している。口縁部は、内斜口縁環の口縁で外反が強い。口唇部でやや膨らむ。底部は細かなヘラケズリがされ、肩部には横方向のていねいなヘラケズリが施される。口縁部はていねいに断続ヨコナデされる。内面はていねいに指押えがされている。

鉢G類1（鉢G1） 深めの鉢形土器、球胴に近い胴部で、小甕と小壺と鉢の中間形態。外面は、ていねいにヘラケズリされている。内面はヘラオシアテ。口縁部は、内斜口縁環の口縁で外反が強い。口唇部でやや膨らむ。

小形壺2（小壺2） 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで成形する。外面は、胴部を縦にヘラ削りしたあと、横方向のヘラケズリを行ない調整する。口縁部は断続ヨコナデによって作られている。口縁は、球胴の胴部から強く屈曲して作られている。外反している。第I期に比較し、胴の張りがなくなり、頸部の締付けも緩くなっている。

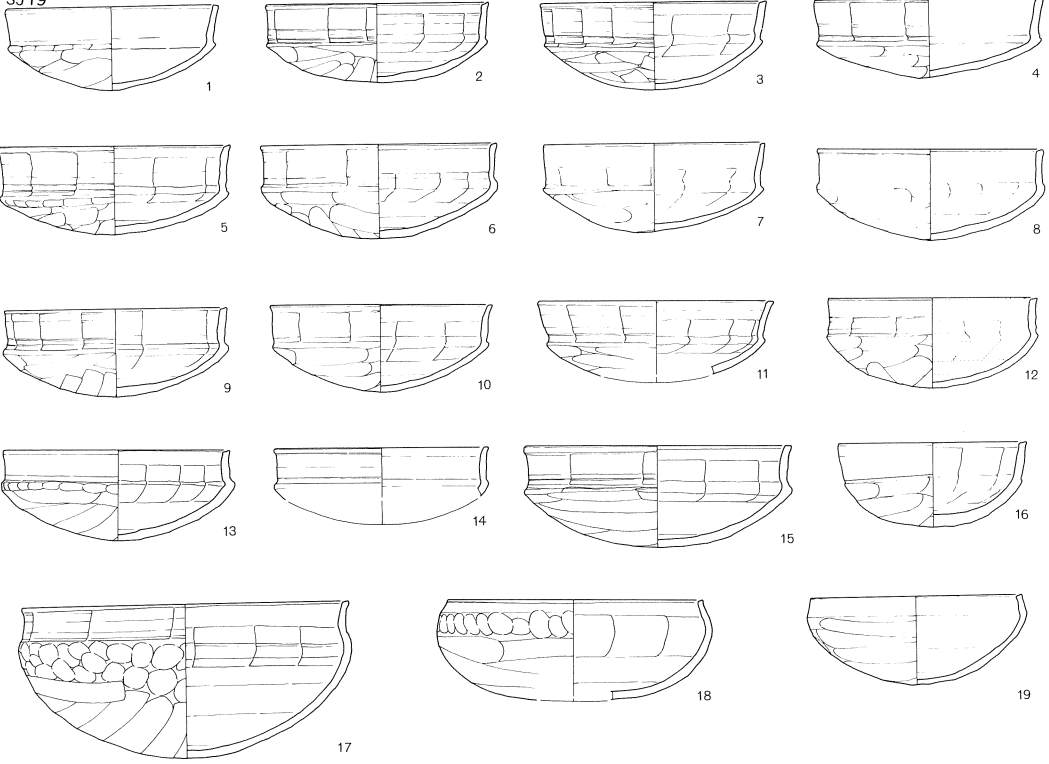
小形甕2（小甕2） 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで、胴下半を成形する。内面の胴上半は、断続的なヨコナデによって成形される。外面は、胴部を縦にヘラ削りしている。短い口縁部は、胴部から強く屈曲し外反する。底部は扁平になり、外面のハケメが見られなくなる。

4 甌 甌の土師器全体に占める割合は、多くない。しかし3つの器種の設定が可能である。

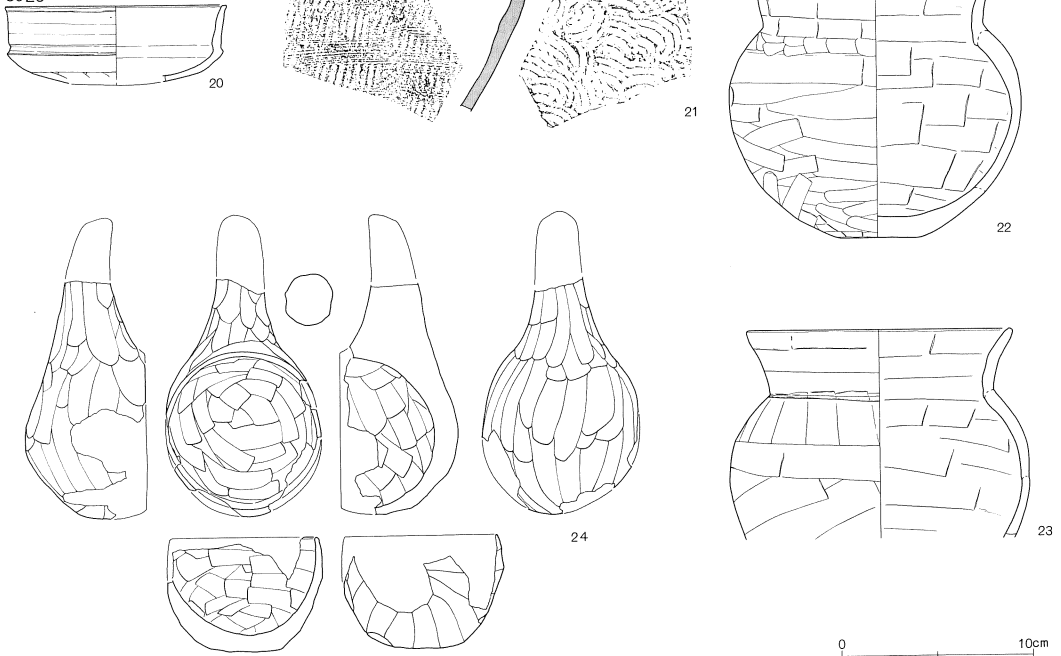
三角甌2（三角甌2） 消火活動で使用する三角バケツに、形態が近似する。底部が緩く締まる。底部を横方向にヘラケズリする特徴がある。口縁部はていねいにヨコナデされている。底部の穿孔は、細く作られている。内面は、ヘラオサエによって成形されている。

甕形甌2（甕形甌2） 頸部のあまり締まらない甕形の甌で、滑らかなS字カーブを描き、口縁部に到達する。外面は、縦にヘラケズリされ、底部のきわで再度縦にヘラケズリされる。口縁部は断続的にヨコナデされている。内面は、下から1/5の部分までヨコナデされており、胴部は縦にナデ

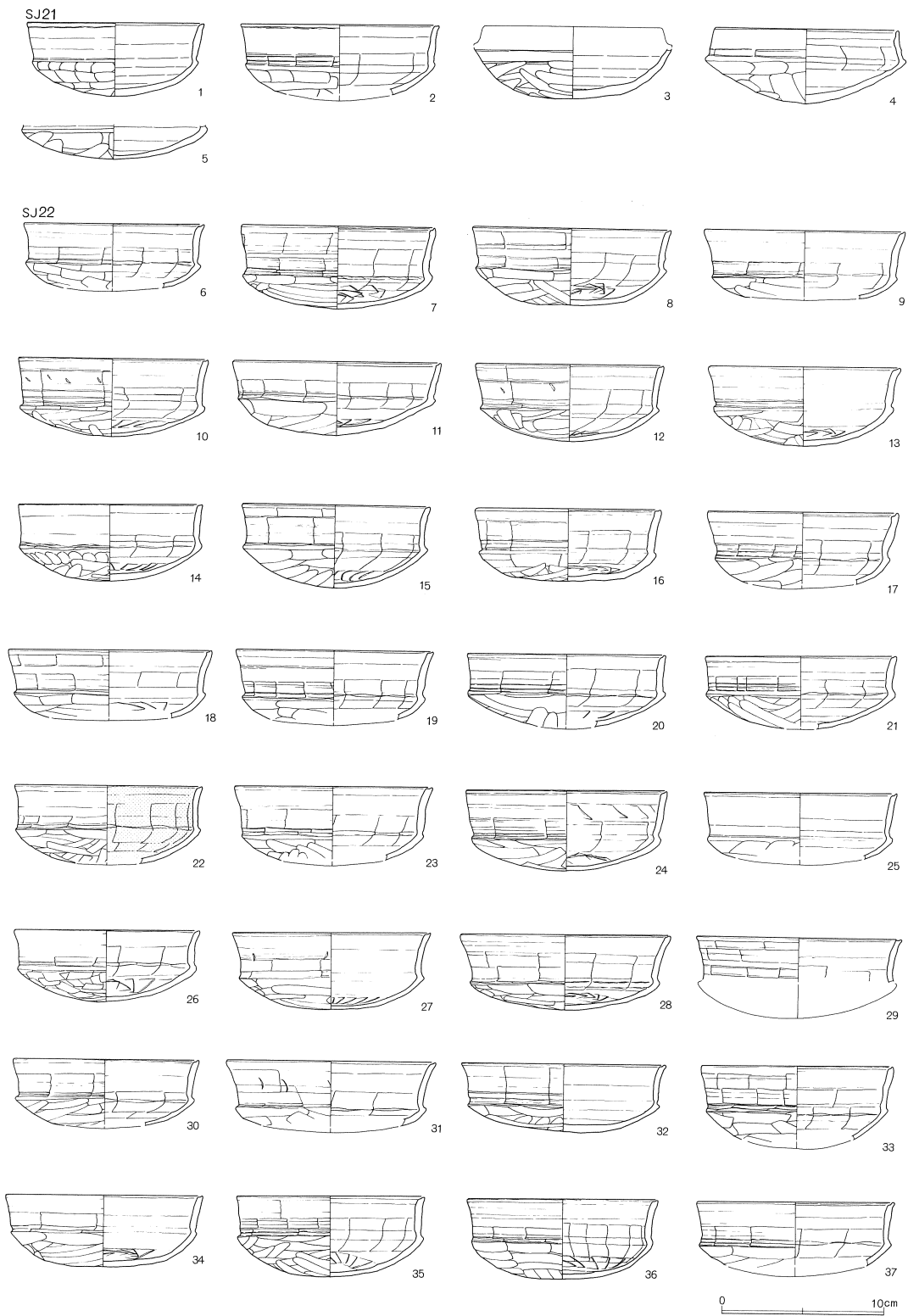
SJ19



SJ20

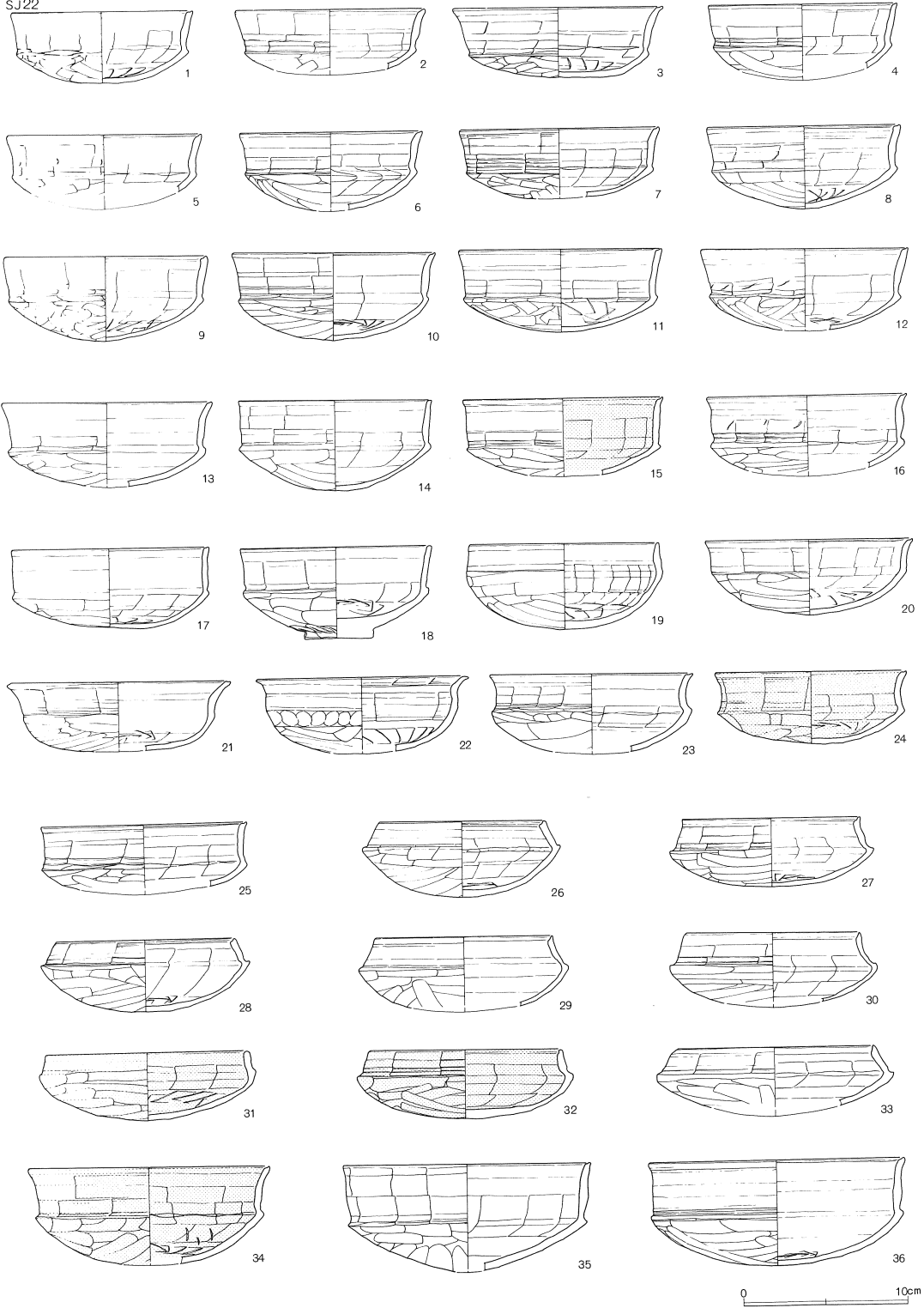


第 137 图 第 19·20 号住居跡出土遺物



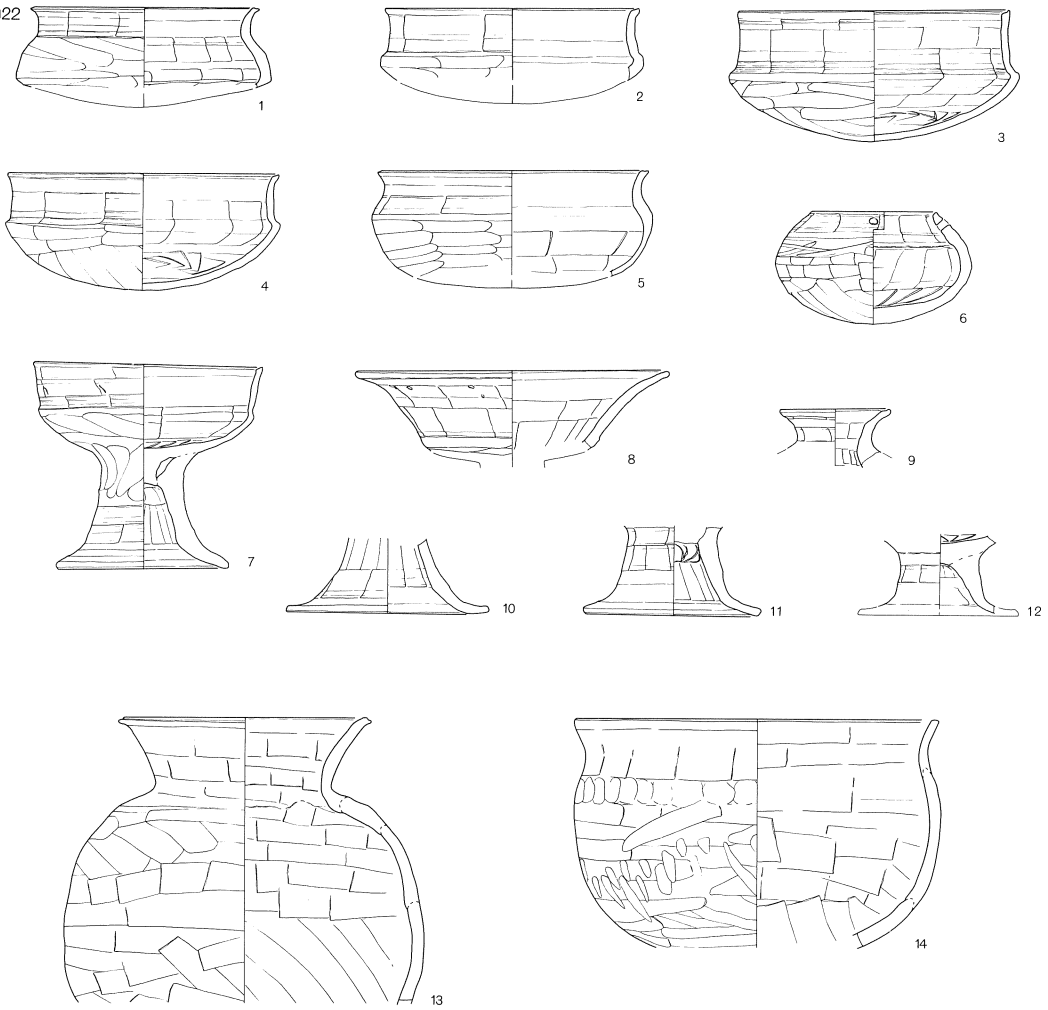
第 138 图 第21・22(1)号住居跡出土遺物

SJ22

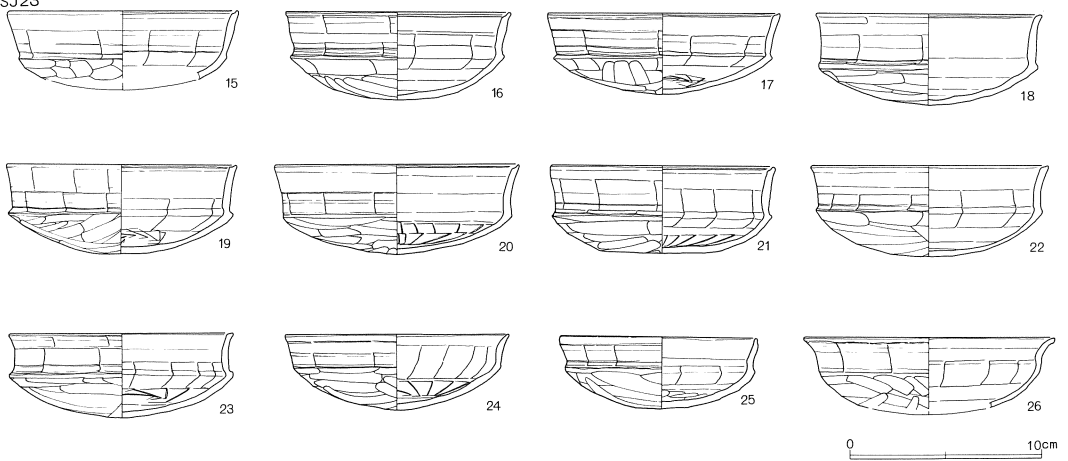


第 139 图 第22(2)号住居迹出土遺物

SJ22

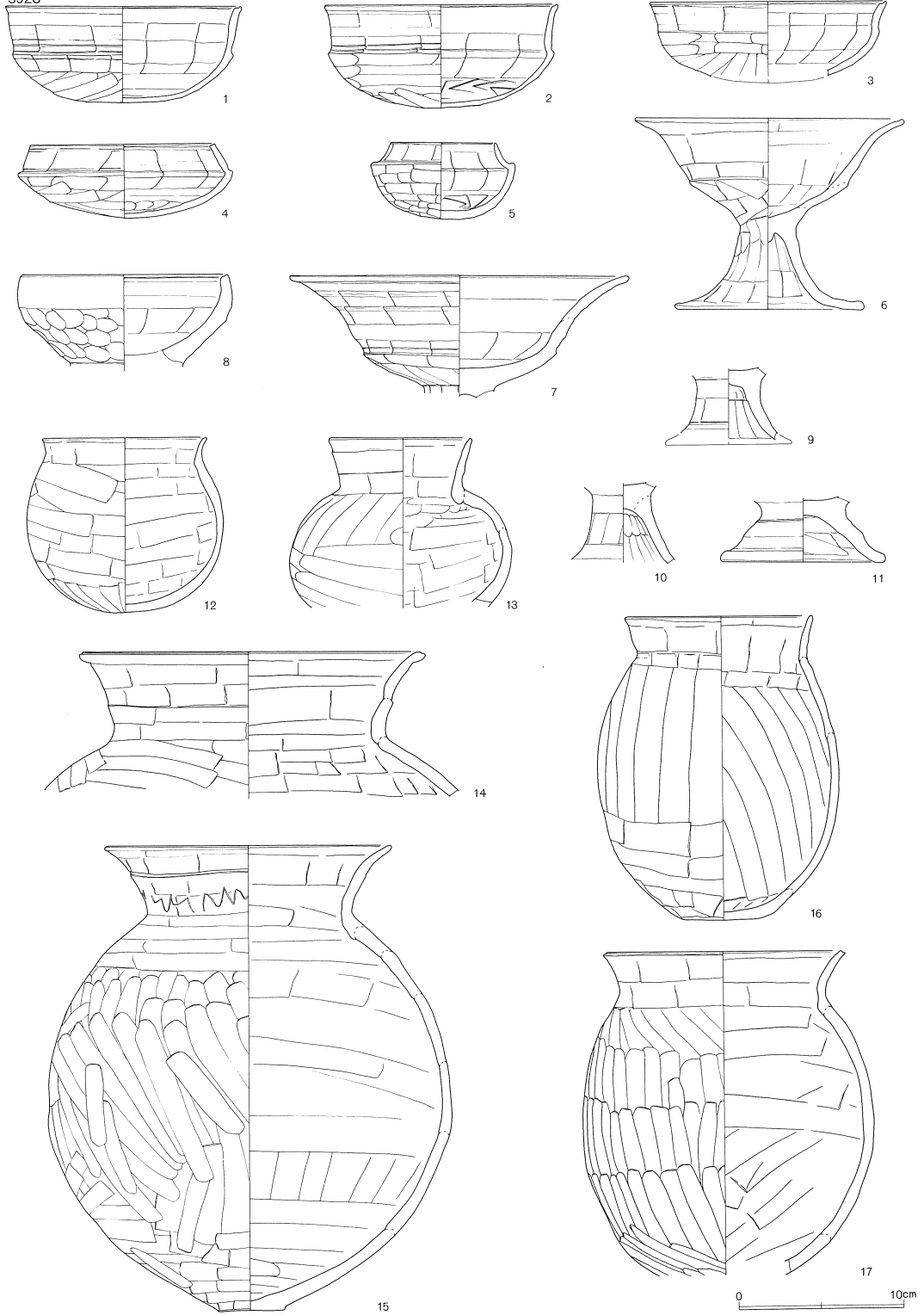


SJ23



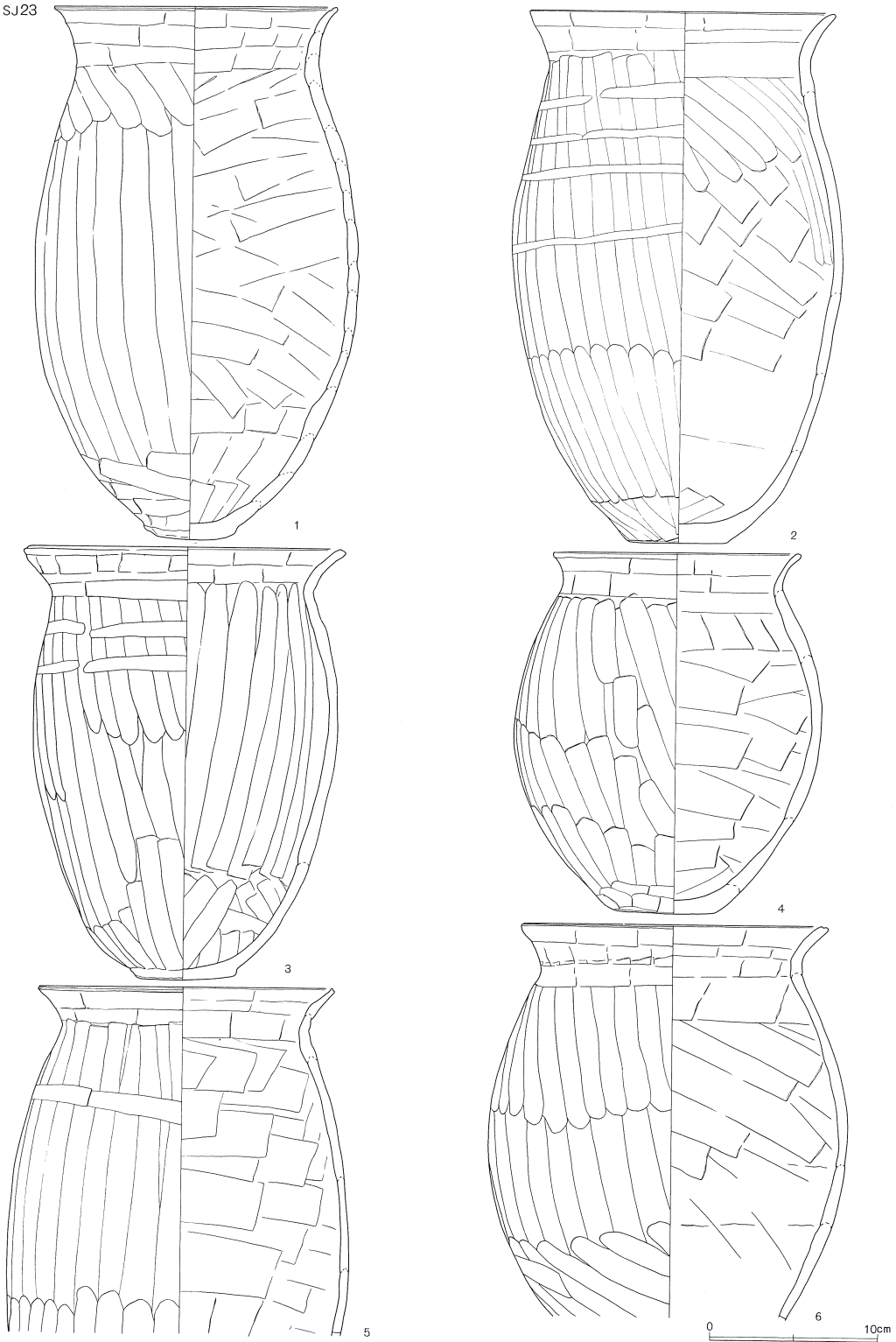
第 140 图 第22(3)·23(1)号住居跡出土遺物

SJ23



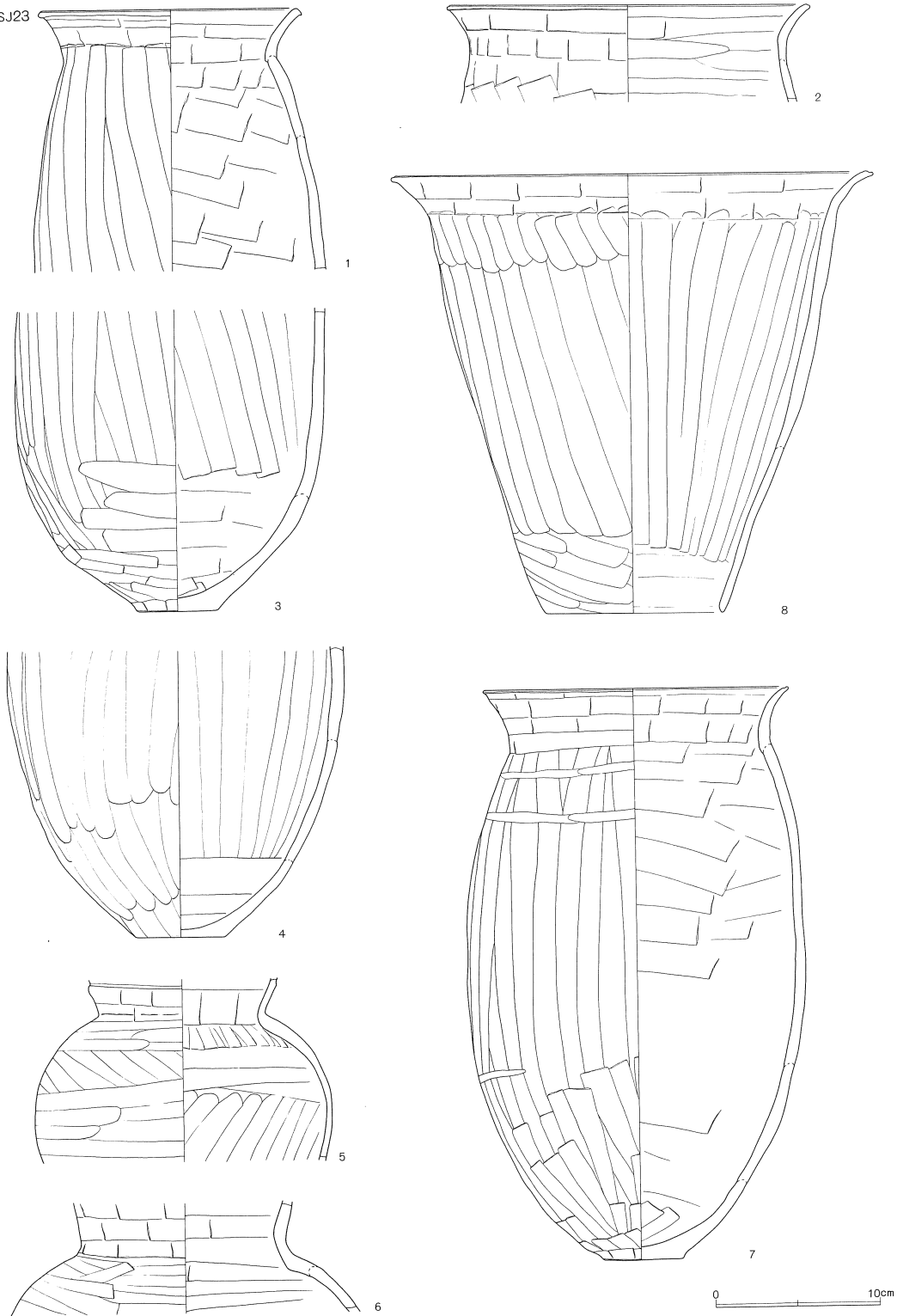
第 141 图 第23(2)号住居跡出土遺物

SJ23

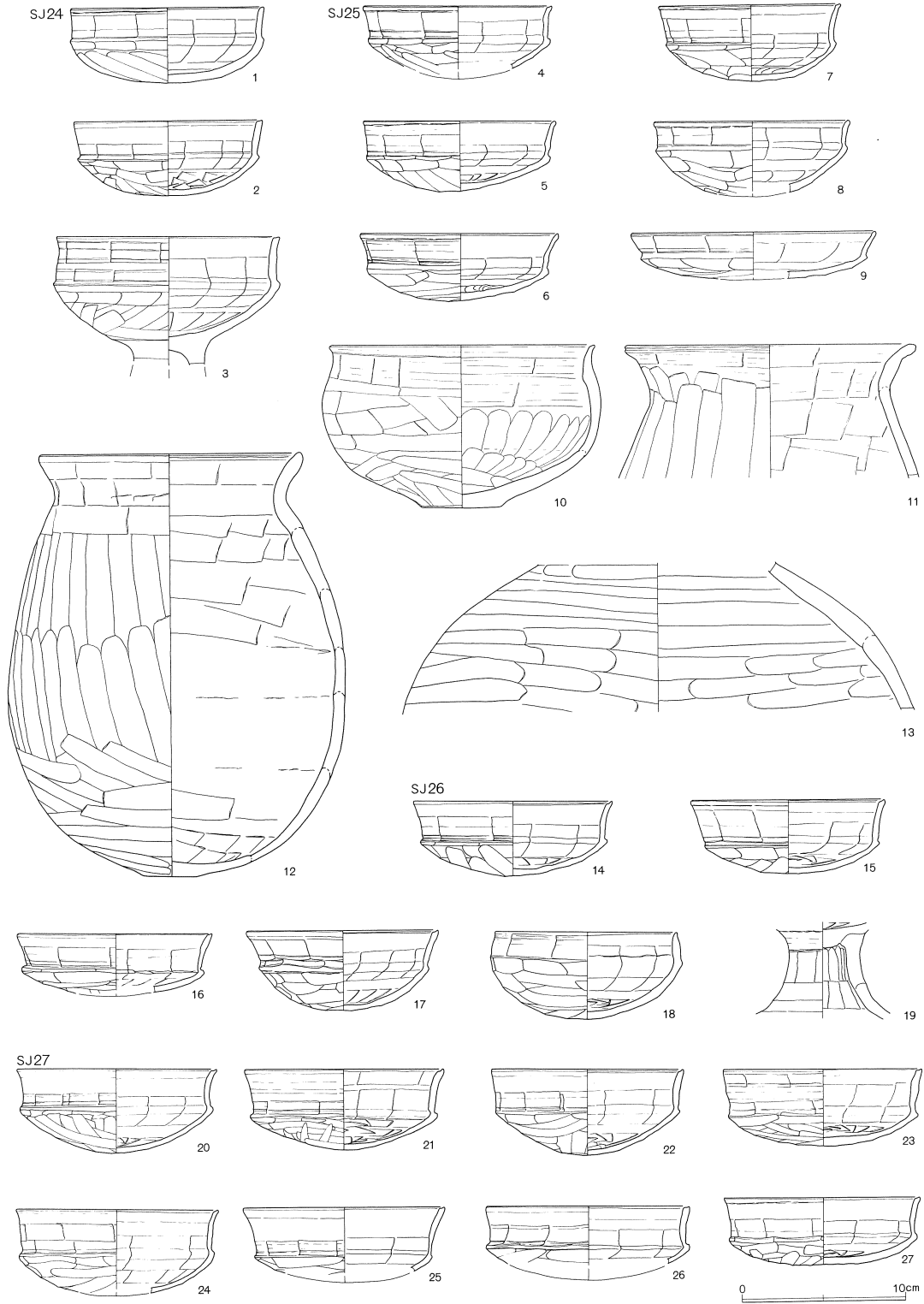


第 142 图 第23(3)号住居跡出土遺物

SJ23

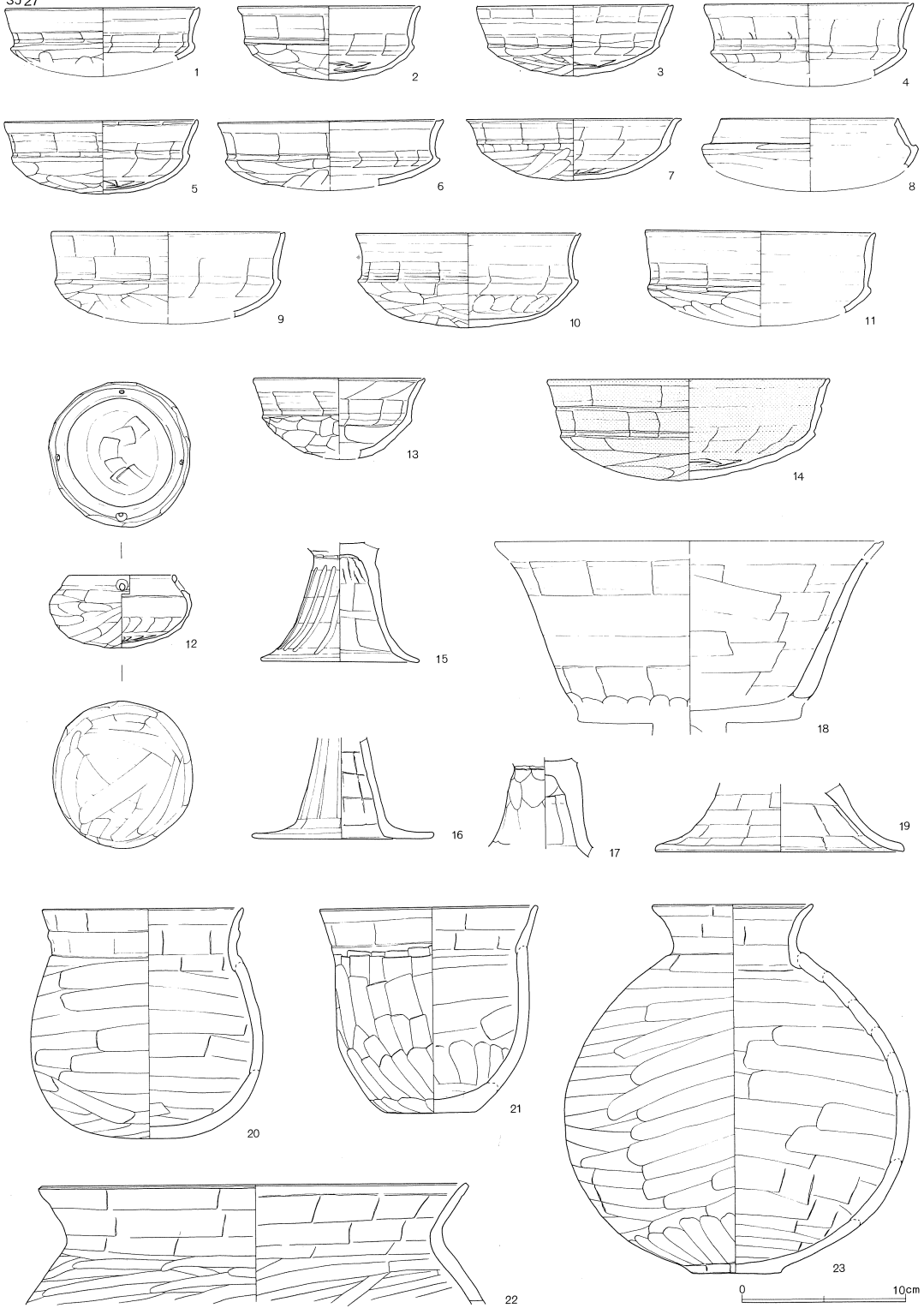


第 143 图 第23(4)号住居跡出土遺物

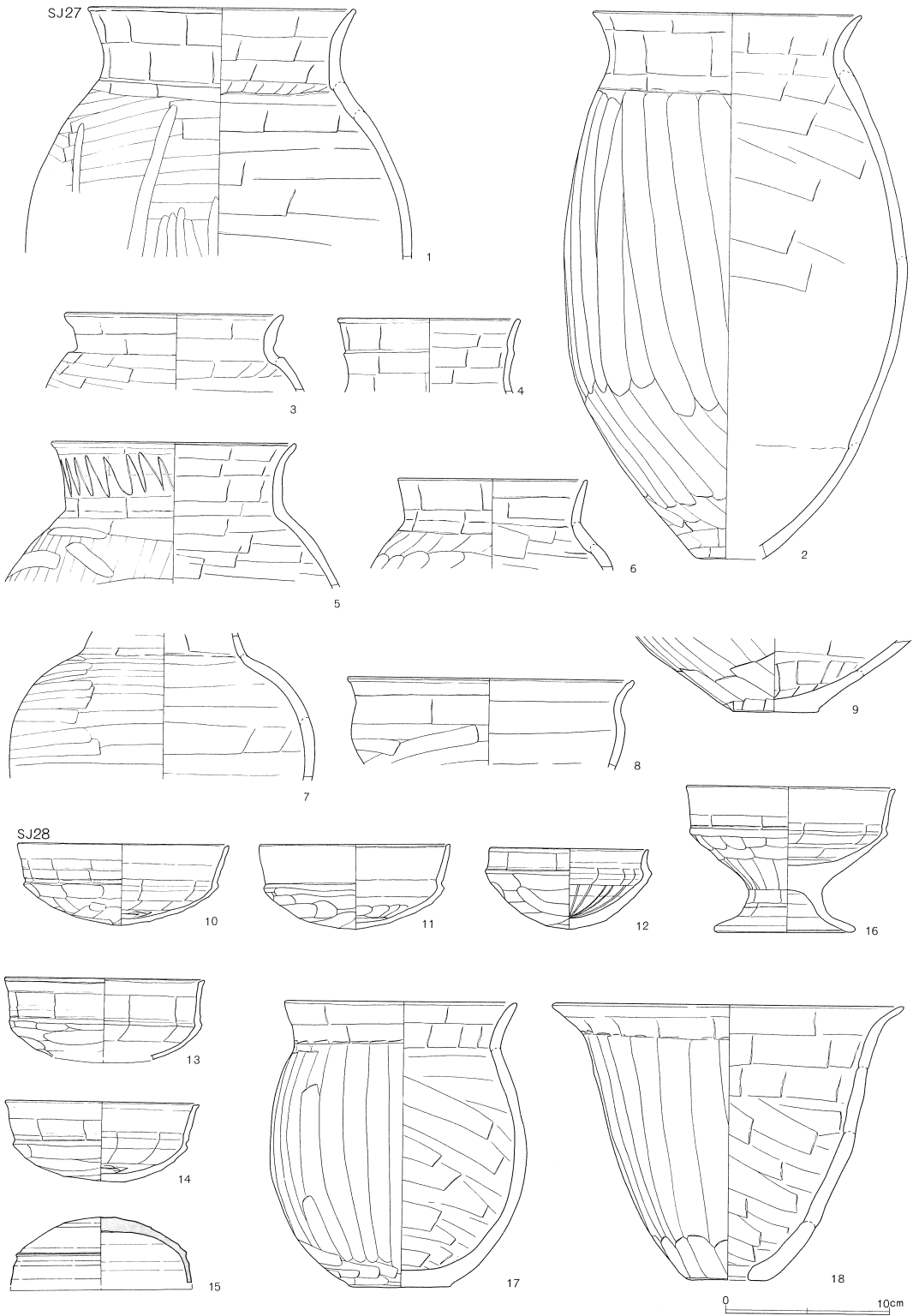


第 144 图 第 24·25·26·27(1)号住居跡出土遺物

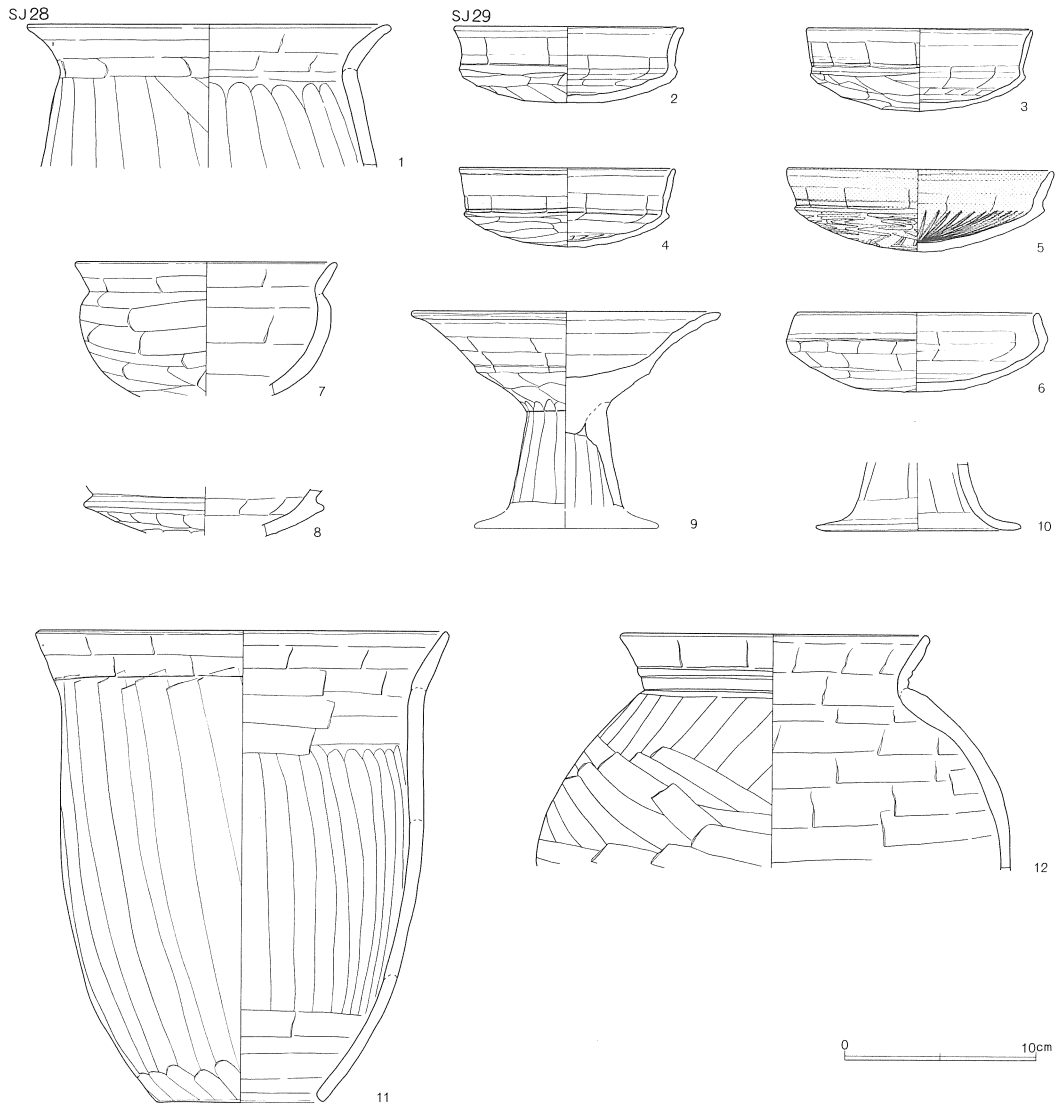
SJ27



第 145 图 第27(2)号住居跡出土遺物



第 146 图 第27(3)・28(1)号住居跡出土遺物



第 147 図 第28(2)・29号住居跡出土遺物

第23表 第19号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 137 図								
1	蓋坏 2	11.3	11.1	4.5	240	一部欠	底部へラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ。	5 Y R 6 / 8
2	蓋坏 2	11.9	11.7	4.2	240	3 / 5	底部へラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
3	蓋坏 2	12.0	11.6	4.4	380	2 / 3	底部へラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
4	蓋坏 2	12.2	12.0	4.2	260	1 / 2	底部へラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナ	5 Y R 7 / 8

第24表 第19号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
5	蓋環 2	12.3	12.2	4.7	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→断続横ナデ。	2.5 Y R 4 / 6
6	蓋環 2	12.6	12.6	5.1	340	3 / 5	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
7	蓋環 2	11.8	11.8	4.7	320	完形	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
8	蓋環 2	12.0	12.1	5.0	340	2 / 3	底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
9	蓋環 2	11.7	12.0	4.8	340	3 / 4	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
10	蓋環 2	11.9	11.5	4.7	300	完形	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 8
11	蓋環 2	12.5	11.6	4.4	1 / 5		底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
12	蓋環 2	11.1	11.2	4.7	280	完形	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	内面黒色処理 5 Y R 6 / 8
13	蓋環 2	12.0	12.4	4.8	300	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラオサエ→口縁部横ナデ。内面工具使用断続ナデ。	5 Y R 6 / 8
14	蓋環 2	11.4	11.5	4.0		破片	口縁部横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
15	蓋環 2	14.2	14.2	5.4	480	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
16	蓋環 2	10.1	9.5	4.5	180	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
17	壺 2	17.4	17.5	8.2	1,000	一部欠損	底部ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ→断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
18	壺 2	13.5	14.3	5.4		1 / 5	底部ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部ナデ→内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 4
19	壺 2	11.3	11.7	4.7	280	完形	底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ→内面横ナデ。	5 Y R 6 / 8

第25表 第20号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等	
		口径	底径	器高	容量				
第 137 図									
20	蓋環 2	11.8	11.5	4.2		1 / 6	底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ。	7.5 Y R 7 / 6	
21	須恵器壺					破片	平行タタキ→横カキメ。内面同心円文連続タタキ	5 Y R 5 / 1 破片は他にもある。須恵器	
22	小壺 2	12.6	4.2	13.7	1,400	4 / 5	胴部横ヘラケズリ→底部ナナメヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 7 / 4	
23	球胴壺 II	14.0				2 / 3	胴部タテヘラケズリ→横ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6	
24	手燭					180	2 / 3	壺内面工具オシアテ→口縁部横ナデ。外面壺部ヘラケズリ→把手部ヘラケズリ。	2.5 Y R 5 / 6

第26表 第21号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 138 図								
1	蓋坏 2	11.2	10.5	4.6	260	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面断続ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
2	蓋坏 2	12.5	12.0	4.7		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ナデ。内面断続ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
3	身坏 2					1 / 3	底部ヘラケズリ→内面横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
4	身坏 2					1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
5	蓋坏 2	11.2	10.5	4.6		1 / 4	底部ヘラケズリ→底部周辺ヘラケズリ。内面横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8

第27表 第22号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 138 図								
6	蓋坏 2	11.4	11.4	4.3		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
7	蓋坏 2				380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
8	蓋坏	12.4	12.1	4.7	360	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	蓋坏 2	12.5	11.6	4.4		1 / 5	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
10	蓋坏 2	12.0	11.6	5.0	360	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部横ナデ→ヘラオシアテ→断続横ナデ。	爪跡が口縁部にタテにつく 2.5 Y R 5 / 6
11	蓋坏 2	13.2	12.5	4.5	380	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 7 / 4
12	蓋坏 2	11.8	11.3	4.8	320	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオシアテ→断続横ナデ。	2.5 Y R 4 / 6
13	蓋坏 2	12.1	11.3	5.0	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面底部ヘラオシアテ→横ナデ。	5 Y R 7 / 8
14	蓋坏 2	11.5	11.5	4.8		1 / 2	ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
15	蓋坏 2	11.7	11.6	5.3	340	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ユビオシアテ→口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
16	蓋坏 2	11.6	11.1	4.8	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
17	蓋坏 2	12.0	11.0	4.8		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
18	蓋坏 2	12.7	12.0	4.5		1 / 5	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオサエ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8

第28表 第22号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
19	蓋環2	12.4	11.5	4.8		1/5	周辺部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
20	蓋環2	12.5	12.4	4.7		1/5	周辺部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
21	蓋環2	12.0	11.9	4.5		1/3	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面口縁部断続横ナデ。	5 Y R 7 / 6
22	蓋環2	11.7	11.7	5.0		1/4	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	内面黒色処理 2.5 Y R 6 / 6
23	蓋環2	12.5	11.4	5.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
24	蓋環2	12.7	11.8	5.1	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
25	蓋環2	12.2	11.7	4.5		1/5	周辺部ヘラケズリ→口縁部横ナデ。内面横ナデ。	5 Y R 6 / 8
26	蓋環2	11.6	11.2	4.4		1/4	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
27	蓋環2	12.5	11.7	4.7	320	4/5	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→横ナデ。	爪跡が口縁部にたてに残る 2.5 Y R 6 / 8
28	蓋環2	13.2	11.8	4.8		2/3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオサエ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
29	蓋環2	12.9	12.5	5.0		1/6	口縁部断続横ナデ。内面横ナデ。	5 Y R 6 / 8
30	蓋環2	11.6	11.2	4.5		1/6	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 5 / 8
31	蓋環2	13.2	12.0	4.5		1/5	底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	5 Y R 5 / 8
32	蓋環2	12.8	12.0	4.2		1/3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
33	蓋環2	12.0	11.4	5.2		1/6	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ（2段）。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
34	蓋環2	12.4	11.7	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオサエ→横ナデ。	5 Y R 6 / 8
35	蓋環2	11.8	11.7	5.1		3/4	底部ヘラケズリ（細かい）→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 8
36	蓋環2	12.0	11.5	5.1	34	4/5	周辺部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面底部ヘラオシアテ→断続横ナデ。	2.5 Y R 6 / 8
37	蓋環2	12.5	12.1	4.7		1/5	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
第 139 図								
1	蓋環2	11.3	10.6	4.4		1/4	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→断続横ナデ。	5 Y R 6 / 8
2	蓋環2	11.8	10.7	4.1		1/5	周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6
3	蓋環2	11.8	11.0	4.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→断続横ナデ。	7.5 Y R 6 / 6
4	蓋環2	13.0	11.2	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続横ナデ。内面ヘラオシアテ→断続横ナデ。	2.5 Y R 5 / 6

第29表 第22号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
5	蓋坏2	12.1	11.5	4.5		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。断続ヨコナデ。	口縁部に爪痕跡 2.5YR 4/6
6	蓋坏2	11.4	10.7	4.9		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5YR 6/6
7	蓋坏2	12.4	11.7	4.4		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
8	蓋坏2	12.0	11.1	5.1	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 3/6
9	蓋坏2	12.6	12.1	5.2	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/8
10	蓋坏2	12.6	11.8	5.4			底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	
11	蓋坏2	12.6	12.0	5.0	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 6/8
12	蓋坏2	12.9	11.9	5.1		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
13	蓋坏2	13.0	12.3	5.3		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ	5YR 7/6
14	蓋坏2	12.0	12.0	5.6	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 7/6
15	蓋坏2	12.5	12.1	4.8	360	1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 4/3
16	蓋坏2	12.4	12.0	5.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	口縁部に縦に爪痕あり 2.5YR 5/8
17	蓋坏2	12.3	12.1	4.8	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5YR 7/6
18	蓋坏2	12.0	11.6	5.6	320	4/5 完形	底部ユビオサエ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 6/8
19	蓋坏2	11.9	12.1	5.3	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 7/6
20	蓋坏2	12.8	12.0	4.6		4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
21	内坏2	13.6	11.8	4.4	360	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5YR 5/8
22	内坏2	13.2	11.9	4.8		1/3	底部ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 6/8
23	蓋坏2	12.5	12.5	5.0		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR 6/6
24	蓋坏2	11.8	11.7	4.4	300	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内面黒色処理 5YR 5/3
25	蓋坏2	12.7	12.7	4.3		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 6/6
26	身坏2	10.4	12.3	4.7	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 7/8
27	身坏2	11.0	12.7	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 4/6
28	身坏2	11.2	13.0	4.5	300	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/8

第30表 第22号住居跡出土土器④

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
29	身坏2	11.0	13.0	4.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
30	身坏2	11.8	13.0	4.7		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
31	身坏2	12.7	13.4	4.3		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
32	身坏2	12.0	13.5	4.2		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 7 / 6
33	身坏2	12.5	14.6	4.3		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
34	蓋坏2	15.0	14.2	6.1		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 4 / 3
35	蓋坏2	15.4	14.4	6.7		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
36	蓋坏2	15.8	15.6	6.4	760	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
第 140 図								
1	内坏2	12.3	11.6	5.3		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
2	蓋坏2	13.5	14.0	5.0		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
3	身坏2	14.5	15.4	6.9	700	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
4	蓋坏2	14.5	14.6	6.2		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
5	内坏2	14.4	15.0	6.3		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
6	鉢E1	6.7	9.7	6.0	240	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	口縁部に一對穿孔あり 2.5 Y R 5 / 6
7	須高2	12.2	11.5	10.7		2/5	坏底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面坏部断続ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
8	和高2	16.7	9.5			1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
9	小丸2					1/5	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
10	和高2					1/6	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
11	須高2					1/5	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
12	須高2					1/4	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
13	球胴壺2	13.0				1/4	胴部横ヘラケズリ→胴上半部左上から右下ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナメナデアゲ→胴上半部ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第31表 第22号住居跡出土土器⑤

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
14	鉢 1 2	18.5				1 / 4	指頭オサエ→横ヘラケズリ→底部細かなヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 6

第32表 第23号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 140 図								
15	蓋 2	12.3	10.1	4.2		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
16	蓋 2	12.0	11.4	4.7	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
17	蓋 2	12.4	11.6	4.3	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
18	蓋 2	12.0	11.6	4.8	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
19	蓋 2	12.2	12.0	4.7	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
20	蓋 2	13.0	12.2	4.7		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
21	蓋 2	12.0	11.7	4.7	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
22	蓋 2	12.6	12.1	4.8	340	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
23	蓋 2	11.9	11.9	4.5	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
24	蓋 2	12.0	11.1	4.1	200	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
25	蓋 2	10.5	10.1	3.8		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 4 / 3
26	内 2	13.4	12.0	4.1		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
第 141 図								
1	蓋 2	14.6	13.7	6.0		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
2	蓋 2	14.5	14.0	6.3	600	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
3	蓋 2	14.5	13.7	5.1		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
4	身 2	11.5	13.3	4.5		一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
5	鉢 F 1	6.5	9.0	4.6	140	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5 Y R 6 / 8

第33表 第23号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
6	和高2	16.5	9.8	11.7	400	3/4	ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。 坏底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面坏部断続ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ。	2.5YR7/6
7	和高2	13.4	12.0	4.1		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（4段）。内面断続ヨコナデ。	5YR6/6
8	器台1	12.3	13.1			1/4	ユビオサエ→ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/8
9	須高2						断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/6
10	和高2					1/4	断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ。	2.5YR5/8
11	須高2					1/3	断続ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ。	5YR7/6
12	鉢G1	10.1	10.0	10.7	800	4/5	胴上半部斜めヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部ヨコナデ。	5YR5/8
13	小丸2					1/3	胴上半部斜めヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR6/6
14	複口壺2	21.1				1/4	胴上半部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR6/6
15	無花壺2	17.6	4.0	28.5	7,600	3/4	ヨコナデ成形→胴中位縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→鋸歯状文施文内面縦ナデアゲ→横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR7/6
16	球胴甕2	11.6	4.5	18.5	2,000	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→胴下半部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→ヘラナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR7/4
17	球胴甕2	14.5				4/5	胴部縦ヘラケズリ（4段）→底部横ヘラケズリ内面ナデアゲ→横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR6/4
第142図								
1	長下甕1	17.2	5.5	32.0	5,300	5/6	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→胴上半部斜めヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部ユビナデアゲ→ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR8/4
2	長下甕1	18.1	5.7	32.0	5,800	5/6	胴部縦ヘラケズリ→胴下半部縦ヘラケズリ→胴上半部ヨコナデ→口縁部ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10R6/6
3	長下甕1	19.1		26.0	4,200	完形	胴部縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→胴上半部斜めヘラケズリ→胴上半部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部ヘラナデアゲ→底部ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR7/8
4	球胴甕2	15.0	6.0	21.7	3,200	5/6	胴部縦ヘラケズリ（3段）→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR6/8

第34表 第23号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
5	長下甕 1	17.7				2/3	胴部縦ヘラケズリ→胴上半部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 3
6	長下甕 1	18.5			(5,800)	2/3	胴部縦ヘラケズリ→胴上半部斜めヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
第 143 図								
1	長下甕 1	22.3				1/3	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10 R 5 / 3
2	長下甕 1					1/8	胴部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
3	長下甕 1		5.0			1/3	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面胴部横ヘラオサエ→縦ヘラナデアゲ。	2.5 Y R 6 / 8
4	長下甕 1					1/3	胴部縦ヘラケズリ。内面胴部横ヘラオサエ→縦ヘラナデアゲ。	7.5 Y R 7 / 3
5	球胴壺 2					1/5	胴部斜めヘラケズリ→胴中位横ヘラケズリ→肩部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部ナデアゲ→肩部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
6	球胴壺 2					1/4	胴部横ヘラケズリ口縁部断続ヨコナデ。内面胴部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
7	長下甕 1	18.9	4.7	35.0	6,900	1/3	胴部縦ヘラケズリ→胴下半部斜めヘラケズリ→胴上半部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部横ヘラナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
8	大型甕 2	29.5	10.5	26.9	6,400	一部欠損	底部斜めヘラケズリ→胴部縦ヘラケズリ→胴上半部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→胴部縦ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8

第35表 第24号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 144 図								
1	蓋坏 2	12.0	12.0	4.7		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
2	蓋坏 2	11.2	11.3	4.6		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
3	須高 2	13.9	14.2			1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8

第36表 第25号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 144 図								

第37表 第25号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	蓋坏 2	11.7	11.4	4.5	1,200	1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
5	蓋坏 2	12.0	11.5	4.4		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 6/8
6	蓋坏 2	12.3	11.3	4.2		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR 8/4
7	蓋坏 2	11.3	10.6	4.7		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 5/6
8	蓋坏 2	12.2	12.0	4.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
9	平底 1	15.1				2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 6/4
10	鉢 1 2	16.3	4.9	10.0		1/2	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→胴部ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR 6/8
11	長下甕 1	17.9				1/6	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10YR 8/4
12	長下甕 1	16.3	3.2	26.0		1/2	胴部縦ヘラケズリ（2段）→肩部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR 6/6
13	無花壺 2					1/6	横指頭ナデ。内面横指頭ナデ。	5YR 7/4

第38表 第26号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 144 図								
14	蓋坏 2	12.3	11.6	4.6	300	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
15	蓋坏 2	12.0	11.0	4.6		完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
16	蓋坏 2	12.0	11.4	3.9		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 4/8
17	蓋坏 2	12.0	10.6	5.0		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/6
18	身坏 2	11.4	12.0	5.5	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 5/8
19	須高 2					1/4	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	2.5YR 4/8

第39表 第27号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 144 図								
20	蓋坏 2	12.3	12.0	5.2		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 6/8

第40表 第27号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成(整)形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
21	蓋環2	12.5	11.6	4.9		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/8
22	蓋環2	12.0	11.5	5.3		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
23	蓋環2	12.3	11.8	4.8		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/6
24	蓋環2	12.5	12.1	5.4		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面→断続ヨコナデ。	5YR6/6
25	蓋環2	12.6	11.1	4.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/8
26	蓋環2	12.6	12.7	4.5		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR5/8
27	蓋環2	12.2	11.7	4.2		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR5/6
第 145 図								
1	蓋環2	12.0	11.5	4.2		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。断続ヨコナデ。	2.5YR5/6
2	蓋環2	11.4	10.6	4.5		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/8
3	蓋環2	12.2	11.7	4.4		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR6/6
4	蓋環2	13.0	12.2	5.1		1/3	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	口縁部に爪痕跡が残る 2.5YR6/8
5	蓋環2	12.0	11.1	4.6		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/6
6	蓋環2	14.1	13.4	4.4		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR6/8
7	蓋環2	13.4	12.1	3.8		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR6/8
8	身環2	11.1	13.5	4.5		1/6	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR6/8
9	蓋環2	14.6	14.1	5.8		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR5/8
10	蓋環2	14.0	13.6	5.8		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR5/8
11	蓋環2	14.3	13.8	6.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR5/8
12	鉢E1	6.7	7.9	4.6	140	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	口縁部に4つの穿孔ある 5YR6/8
13	鉢B2	10.7	9.3	5.1		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR6/8
14	蓋環2	17.5	15.8	6.2	360	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR5/6
15	和高2					1/3	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	2.5YR6/8
16	和高2					1/4	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	5YR6/8

第41表 第27号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
17	須高2					1/4	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 6
18	平高2	24.1				1/4	ヨコナデ→断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ。	2.5 Y R 4 / 8
19	和高2					1/6	横ヘラケズリ。内面横ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 8
20	小壺2	12.5	3.0	14.2	1,000	4/5	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 2
21	小甕2	13.5	5.5	12.7	800	完形	胴部縦ヘラケズリ（4段）→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
22	長下甕1	26.5				破片	肩部横ユビナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ユビナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
23	球胴壺2	10.0	5.5	22.7	6,200	1/2	胴部横ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
第 146 図								
1	無花壺2	16.7				1/5	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
2	長下甕1	16.7		33.5		4/5	胴下半部斜めヘラケズリ→胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
3	長下甕1	13.5				1/3	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
4	小壺2	11.3				1/5	口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
5	長下甕1	15.2				1/5	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→口縁部鋸歯状文。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
6	無花壺2	11.7				1/6	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 2
7	球胴壺2					1/6	横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ。	10 Y R 4 / 6
8	鉢I2	17.7				1/5	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
9	長下甕1		5.4			1/5	縦ヘラケズリ。内面ヘラオサエ。	7.5 Y R 7 / 6

第42表 第28号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 146 図								
10	蓋環2	13.2	12.0	5.0	400	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
11	蓋環2	11.8	11.3	5.3	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
12	鉢F1	8.9	10.3	5.0	200	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 4
13	蓋環2					1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5 Y R 6 / 6

第43表 第28号住居跡出土土器②

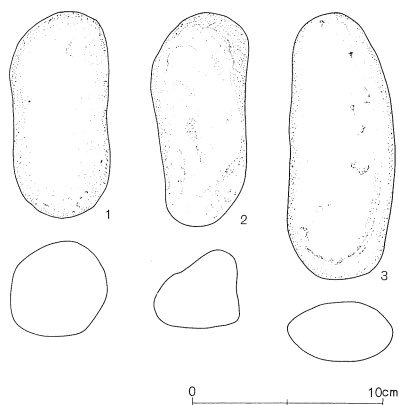
番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
14	蓋坏 2	12.1	10.8	4.9		1/3	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘ ラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
15	須坏蓋	11.3	10.5	4.5		1/6	ロクロヨコナデ。	須惠器（蓋） 5 Y 3 / 2
16	須高 2	13.0	12.3	9.0	380	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内 面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ→脚部ヨコナデ	5 Y R 6 / 8
17	球胴甕 2	14.4	6.3	17.6	1,800	一部欠 損	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部 断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続 ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
18	三角甕 2	21.7	5.0	17.0	2,200	4/5	胴部縦ヘラケズリ→底部周辺縦ヘラケズリ→口 縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨ コナデ。	2.5 Y R 7 / 6
第 147 図								
1	長下甕 1	19.4				1/6	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y 8 / 3

第44表 第29号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
2	蓋坏 2	12.2	11.6	4.0		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
3	蓋坏 2	12.0	11.5	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	口縁部に縦に爪痕跡 2.5 Y R 6 / 8
4	蓋坏 2	11.5	10.9	4.2	260	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
5	蓋坏 2	14.3	13.3	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ→細かな横ヘラミガキ。内面ヘラオサ エ→断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 7 / 4
6	身坏 2	13.0	13.9	4.2		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
7	鉢 A 2	14.0				1/5	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断 続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 4 / 8
8	有稜高 2					破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
9	和高 2	16.4	9.2	11.5	200	2/3	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部縦 ヘラケズリ。内面ヨコナデ→底部ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 8
10	和高 2					1/5	縦ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 6
11	甕形甕 2	22.7				1/5	縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨ コナデ。内面縦ナデアゲ→底部断続ヨコナデ→ 口縁部断続ヨコナデ。	内面黒色処理 7.5 Y R 6 / 6
12	無花壺 2	16.4				1/4	肩部縦ヘラケズリ→胴部周辺ヘラケズリ→口縁 部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6

第45表 古墳時代第Ⅱ期の編物石

番号	出土遺構	長さmm	厚みmm	重さg	石質等
第148図					
1	S J 19	109	49	465	安山岩
2	S J 19	112	42	320	安山岩
3	S J 26	140	56	430	安山岩



第148図 古墳時代第Ⅱ期の編物石

られている。横にヘラオサエされている。作りには、ていねいさが見られない。

大形甕2（大形甕2） 大形の筒抜けの甕である。形状は、三角甕の大型化したもの。一直線に口縁部に達する。口縁部では短く、しかも急激に屈曲し外反する。底部から1/5程度のところがヨコナデされている。

5 甕・壺 甕・壺は、煮沸・貯蔵用として多く生産される。4つの器種の設定が可能である。

複合口縁壺2（複口壺2） 扁平な球胴部は、欠損しておりここではみられない。口の広い口縁部がくの字に付く。口縁部は、途中に稜を作り複合口縁となる。ヨコナデによって成形。肩部は横方向のヘラケズリによって成形される。口縁部の内外面は、断続ヨコナデされている。

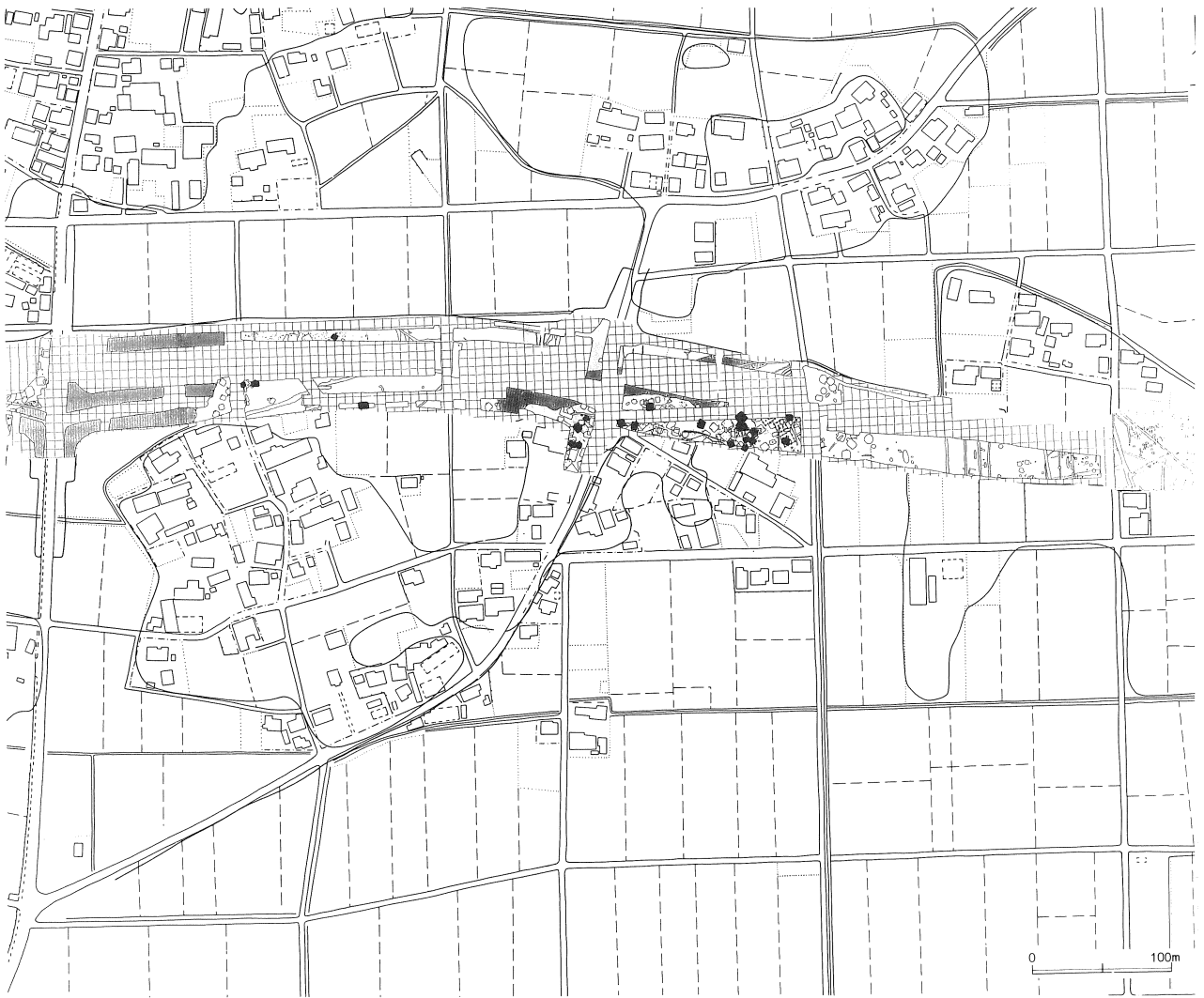
無花果形甕2（無花甕2） 胴部が、無花果形をした壺を一括する。底部は、やや出っ張りを残し緩いカーブを描く。口縁部は、くの字に曲がり胴部と付く。口縁部は長く、複合口縁状を成す。口縁部には、まま沈線によって波状文が施文されている。胴部はヨコナデによって成形され、細かな部分をヘラケズリによって調整している。

大形甕1（大甕1） 口縁部だけの資料で全体を測れないが、非常に大形の甕と考えられる。口縁部を断続ヨコナデし、胴部を縦にヘラケズリしている。内面はヨコナデ。新しく登場してきた器種と考えられる。

下膨れ長胴甕1（長下甕1） 長胴でしかも最大径が、胴下半にある下膨れの甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをし、胴上半部に横方向のミガキを数条入れている。底部は、ヘラケズリされるものと、やや出っ張りを残し緩いカーブを描くものがある。口縁部は、くの字に曲がり胴部と付く。口縁部は短い。断続ヨコナデによって調整される。

(6) 遺物各説 一古墳時代第Ⅱ期の編物石一

第19号住居跡の覆土中から編物石が2点、第22号住居跡の覆土中から1点出土している。両者とも直接住居跡の使用時に伴うわけではない。



第 149 図 古墳時代第Ⅲ期の新屋敷東遺跡

4 古墳時代第Ⅲ期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

自然堤防上の開発は、第Ⅱ期から継承し進められ、同様の地に竪穴式住居が営まれた。竪穴式住居の数も2倍に増え、本郷前東の自然堤防上にも住居跡がみられる。安定した農業経営が、行なわれた結果であろうか。

集落は、大きく3群から構成されていた。北側を流れていた河川跡も、十分に物資の輸送に機能していたと思われ、また水田への豊富な給水も行なわれていたと考えられる。

北武蔵最大の古墳群である埼玉古墳群でも、最大級の古墳が、稲荷山—二子山—鉄砲山へと続く中間に当たっており、ヒエラルキーの頂点にあっても、安定した交代があったといわれている。

カマドにかかる調理や、食膳の道具、あるいは貯蔵等の器物は、前段階のそれを全く踏襲していた。模倣坏等の各器種は、前段から暫移的な変化を示したに過ぎず、大胆な変化はなかった。

■集落の構成 確認された竪穴式住居跡は、21軒である。第Ⅱ期同様、小山川や福川の河川跡の南側の自然堤防上に、集落が形成され、本郷前東の自然堤防上にも、4軒の竪穴式住居跡を見ることができる。竪穴式住居跡は、その分散のあり方から、3グループに分けて考えられる。便宜的に東・中央・西群とする。東群は、9軒の竪穴式住居跡から構成され、大形住居跡の第37号住居跡を中心にほぼ同様の規模の竪穴式住居跡で構成される。

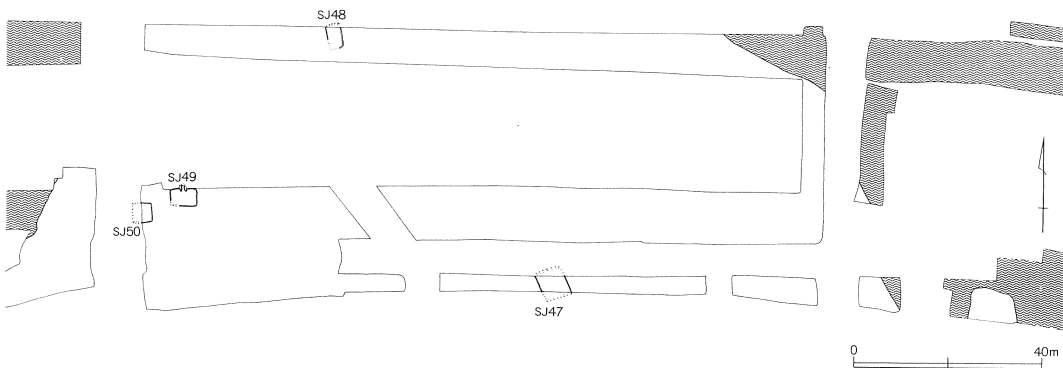
中央群は、やはりやや大形の第41号住居跡を中心に、8軒の竪穴式住居跡が確認されている。調査範囲が狭いために、集落の竪穴式住居跡全てのデータは揃っていないが、ある程度の傾向は確認することができる。

西群は、4軒の竪穴式住居が、散発的に確認されているに過ぎない。調査区がきわめて変則的であったため、一軒としてまともな形で確認された竪穴式住居跡はないが、この段階に本郷前東の自然堤防に、新しく進出した集落の一部をみることができよう。

■竪穴式住居跡 全掘できた住居跡は、第38・31・42号住居跡と増えたが、基本的には、遺構の重複や調査区の設定によって、3分の1程度しか調査されていない。竪穴式住居跡の基本的な構造は、壁の回りに壁周溝をもち、一辺にカマドを付設し、4本の柱で上屋を支える。一般的な構造である。前段階と変化はない。

■カマド カマドを調査した住居跡は、10軒に及ぶ。煙道の良好に残るカマドも、第31号住居跡や第41号住居跡などで確認されており、構築方法も前段階の形態を踏襲している。また短煙道のカマドも、第38号住居跡から良好な状態で確認されている。概して短煙道のカマドは、燃焼部の幅が狭く、長煙道のカマドは、燃焼部の幅が広いという傾向がある。第31・38・44号住居跡のカマドでは、煮沸具である甕が、カマドに掛けられたままの状態出土している。

■煮沸具 カマドで使われた器は、前段階とあまり変化がない。煮沸のための甕、食物を蒸すための甑、甕を支えるための支脚から構成され、高坏転用による支脚は全く見られない。第38号住居跡のカマドは、甕2個と小形甕1個を同時に、圧着するようにして掛けられていた姿が検出された。おそらく甕を掛けた状態で、カマドの天井部を構築した傍証になろう。甕は、長胴の下膨れの甕の他に口径の大きな甕が出現してきている。内容物の付着が少なからずみられる。支脚は、カマドの



第150図 古墳時代第Ⅲ期遺構全体図(1)

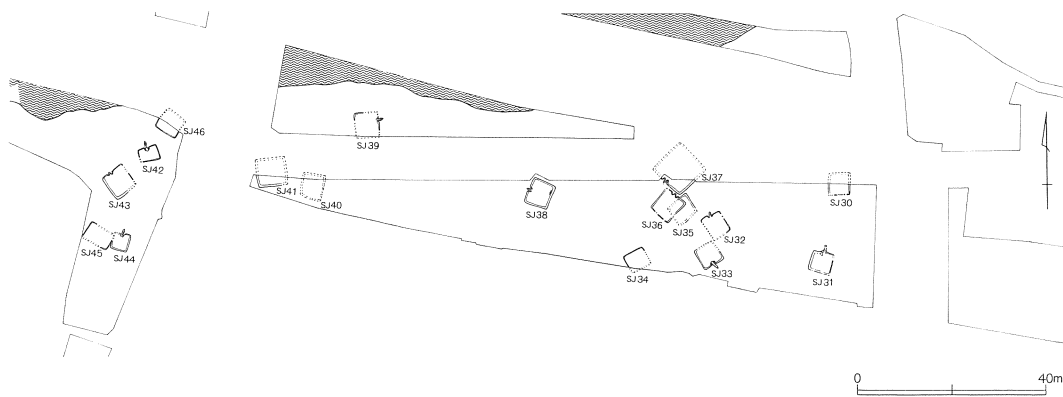
構築の際に、固定的に使用されている。

■食膳具 少ない変化のなかで、一定の変化を示したのは、食膳具である。高坏と、坏の比率は前段階の傾向を踏襲しているものの、いわゆる模倣坏にバラエティーが出現するようになる。プローションも、口縁部が外反気味になり、大形製品も登場する。また坏身模倣坏が、一定量生産されるようになることも見逃すことができない。整形技法上の変化として、口唇部の整形が、第Ⅰ期では、凹状であったのが、コの字状に変わり、また口縁部と底部の境を成す外稜が、やや曖昧さをもってくる。

■貯蔵具 貯蔵具としての明瞭な甕・壺は、第43号住居跡でみられたが、他では確認することができなかった。口径の大変大きな甕で、作りはあまりいいねいではないが、他の住居跡から出土していないことを考慮すれば、この甕のもつ意味は重要であろう。また各住居跡から小形の甕・壺形土器が出土している。これらがどのような使われ方をしたか明らかではないが、この時期以降、こうした土器が増加していくことは、注目に値しよう。

■須恵器 古墳時代第Ⅲ期以降、須恵器の出土量が増す。第Ⅰ期に2個、第Ⅱ期に2個だったが、第Ⅲ期には、8個にまで増加する(破片資料を含める)。土師器との関係からみれば、決して多くはないが、それにつけてもこの増加は、注目しておく必要があるだろう。

■第31号住居跡 第31号住居跡の北東のコーナー部分に、白色の粘土が集中して確認された。80×120×20cmの範囲で確認され、この部分には、壁周溝は巡っていないかった。用途・性格等は全く不明であるが、検出当時はまだ生乾きの柔らかい状態であった。

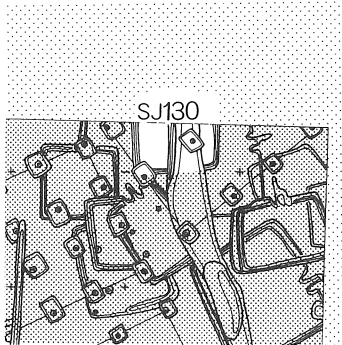


第 151 図 古墳時代第Ⅲ期遺構全体図(2)

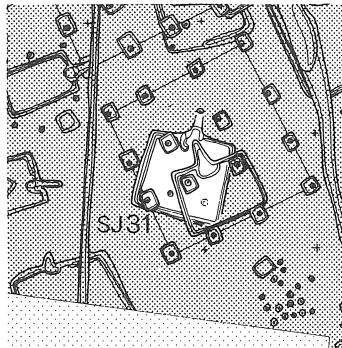
第46表 古墳時代第Ⅲ期住居跡一覧

No. /	住 居 跡 規 模				カ マ ド					貯 蔵 穴		備 考
	長軸長さ	短軸長さ	掘込深さ	形 態	煙道長さ	煙 道 幅	右袖長さ	左袖長さ	形 態	幅	深 さ	
30	4.38		0.13	正方形								シ-266
31	4.80	4.60	0.48	長方形	1.63	0.42	0.77	0.98	C類			ユ-267
32				正方形	0.83	0.35	0.32	0.52	B類			ミ-271
33	4.82	4.80	0.50	正方形	1.24	0.31	0.85	0.80	C類			ユ-271
34	3.85		0.45	正方形			0.70	0.63	A類			ユ-273
35				正方形								ミ-272
36	5.70	5.30	0.22	長方形								ミ-273
37			0.47	正方形	1.05	0.45		1.03	C類	3.60	1.60	シ-272
38	5.60	4.92	0.30	長方形	0.28	0.37	0.90	0.80	A類			シ-277
39				長方形	1.34	0.42	0.85	0.84	C類			ヒ-283
40	4.55		0.22	長方形								シ-285
41			0.20	正方形								シ-287
42	4.20	3.00	0.18	長方形	1.34	0.30	0.79	0.80	C類	2.30		エ-291
43	5.68	5.52	0.42	長方形						2.40	0.60	ン-292
44	4.15	3.70	0.78	長方形	1.03	0.20	0.78	0.76	C類			メ-292
45	5.90	3.82	0.62	長方形						2.50		メ-293
46	4.82		0.08	長方形								エ-290
47	5.55		0.16	長方形								モ-317
48	2.95		0.07	正方形								へ-325
49	5.44	3.73	0.10	長方形			0.62	0.70	C類			ン-330
50			0.05	正方形								ン-331

(2) 遺構各説 —遺構構築段階—



第152図 位置図



第153図 位置図

第30号住居跡（調査時C 2区6号住居跡）

シー266グリッドに位置する。重複関係は、第9号住居跡よりも新しく、第3号掘立柱建物跡よりも古い。中央部に溝が南北に走り、さらにこの遺構が、噴砂によってズタズタにされていたため全体の形状を知るのに困難であった。なお北辺は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸4.38m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、13cmである。壁周溝は、調査区域内では完周している。柱穴は、一ヶ所も確認できなかった。

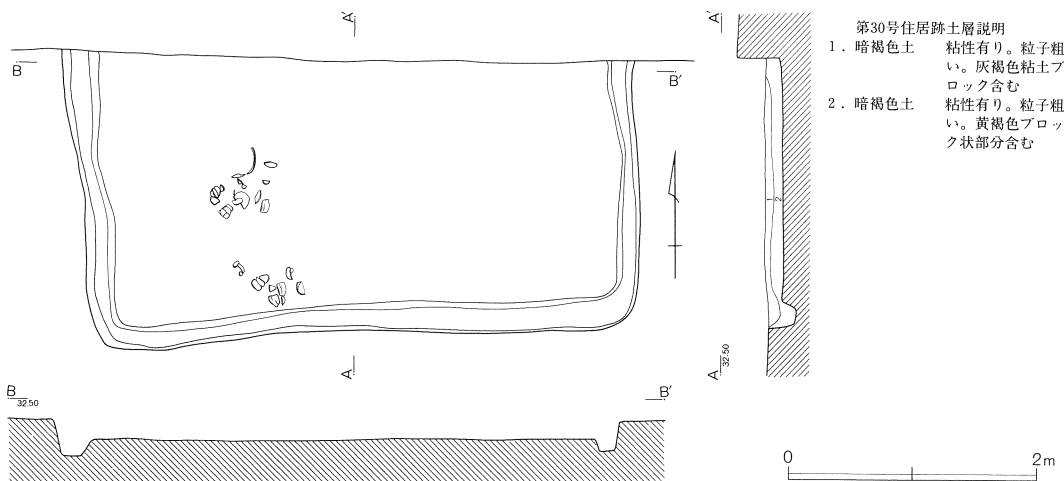
カマドは、調査区域内では確認できなかった。

出土遺物は、土師器坏・甕などがある。

第31号住居跡（調査時C 2区18号住居跡）

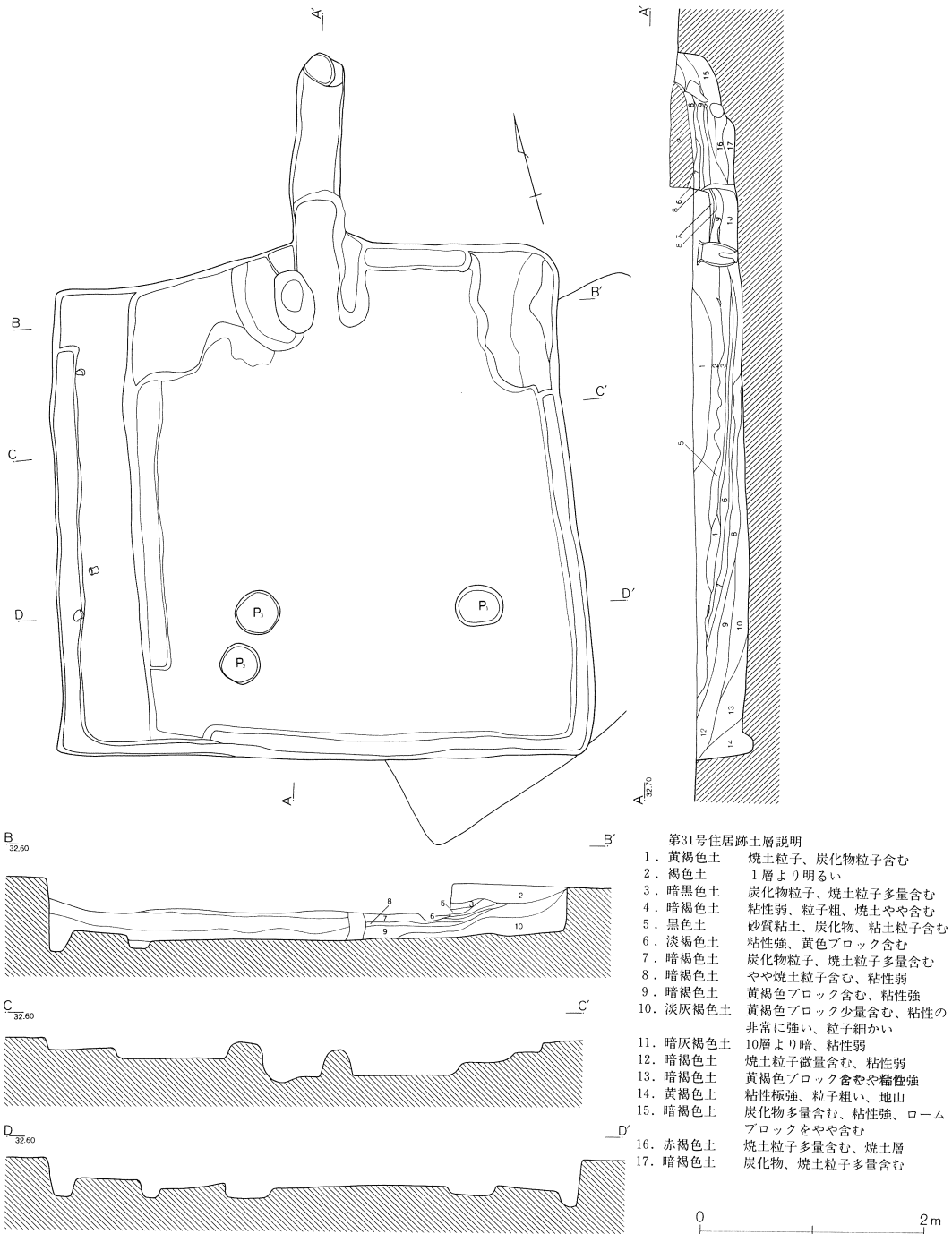
ユー267グリッドに位置する。重複関係は、第66号住居跡・第1号掘立柱建物跡よりも古い。ほとんど完掘に近く調査できた数少ない例である。住居跡の規模は、長軸4.80m、短軸4.60mを測る。掘り込みの深さは、48cmである。壁周溝は北辺を除いて完周している。床面には、カマドと反対側に一對の柱穴が確認されている。西側に65cmほど西辺を拡張している。

カマドは、北辺に接し、左よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、壁外へ袖の長さの2倍ほど煙道



第154図 第30号住居跡

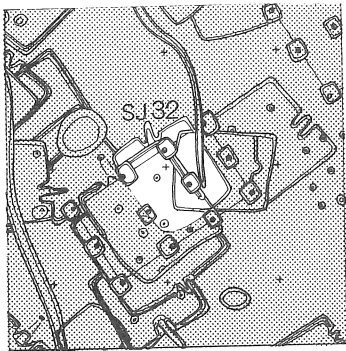
が延びる。燃焼部には、焼土と炭化物の堆積層が認められ、焚き口部の被熱痕跡も確認された。燃焼部から一旦立ち上がり、煙道部がトンネル状に掘られ煙出し穴に続く。



第 155 図 第31号住居跡

覆土が、地山の堆積層と近似していて検出が困難であった。

出土遺物は、土師器坏・高坏・甑・甕・壺などがある。



第156図 位置図

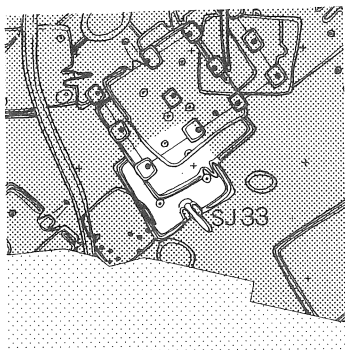
第32号住居跡（調査時C 2区50号住居跡）

ミー271グリッドに位置する。重複関係は、第11号住居跡よりも新しく、第67・128号住居跡よりも古い。重複関係によって、北側の一部を残してほとんど壊滅的に壊されている。住居跡の規模は測定不可能。壁周溝は巡らず、柱穴も確認されていない。

カマドは、北側に確認され、袖の長さに比べ煙道が長い。燃焼部から煙道にかけて一段高く造られる。微量の焼土が、全体に確認されている。

当初、多くの住居跡が重複する部分であったため、遺構確認に大変手間取ったが、カマドを中心に作業を進めた。

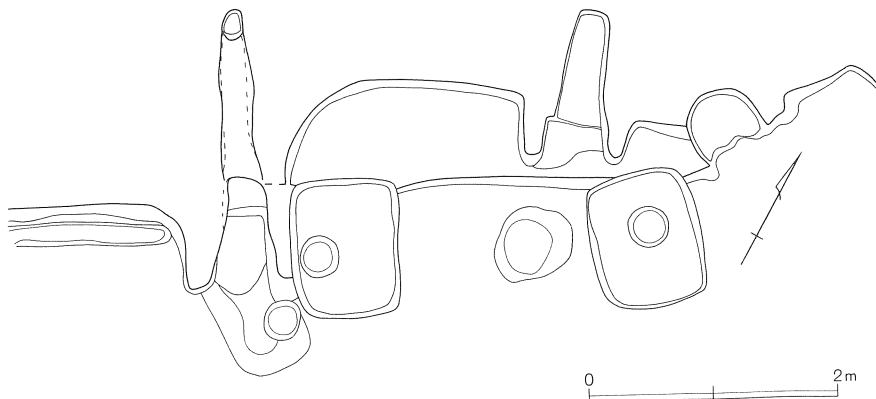
出土遺物は、土師器坏・埴などがある。



第157図 位置図

第33号住居跡（調査時C 2区10号住居跡）

ユー271グリッドに位置する。重複関係は、第67号住居跡よりも古い。第6号住居跡よりも新しい。北東隅が、第67号住居跡によって壊されている。しかし破壊は、床面までは達しておらず、全体の形状は復元できる。住居跡の規模は、長軸4.82m、短軸4.80mを測る。掘り込みの深さは、50cmである。壁周溝は、四辺を巡りカマドおよびカマド左側で切れる。幅12~15cm。柱穴は、4本確認されている。東西柱軸長と、南北柱軸長は、2:1の関係である。

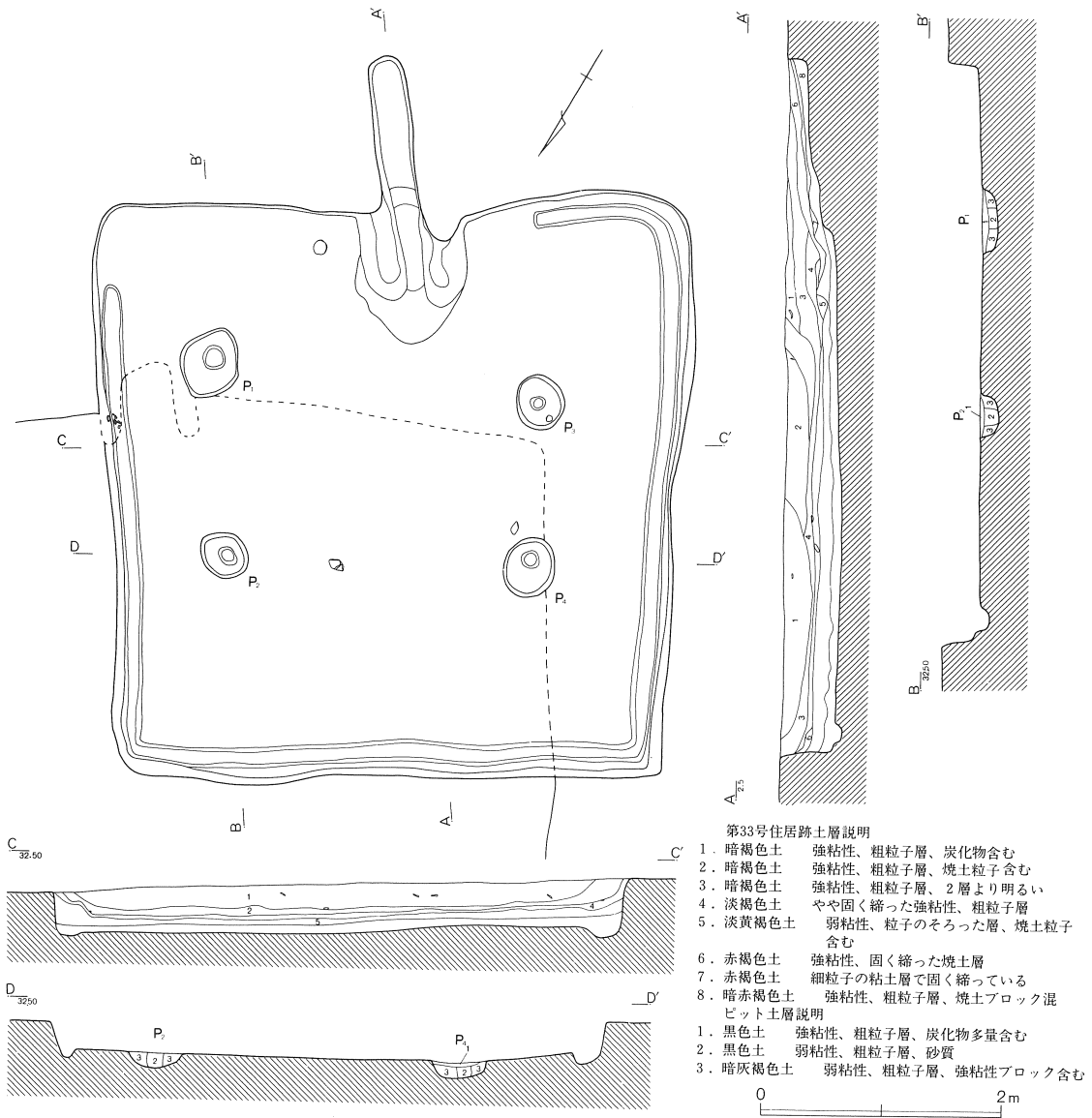


第158図 第32号住居跡

カマドは、他の遺構と関わらず右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、壁外へ袖の長さより長い煙道が延びる。燃烧部は、大変狭く、甕がやっと掛かる程度である。焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。燃烧部から煙道部までの立ち上がりは、段差が存在する。また煙道もクランク状に構築されている。

遺構の確認は、カマドを中心に調査を行ない全体像を把握していった。

覆土中から第6号住居跡に伴う縄文時代後期の土器片が出土している。第33号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・小形壺・埴・高坏・甕・須恵器蓋など良好なセットがある。



第 159 図 第33号住居跡



第 160 図 位置図

第34号住居跡（調査時C 2区67号住居跡）

ユ-273グリッドに位置する。重複関係は、第20号住居跡よりも新しく、第118・128号住居跡よりも新しい。ほとんど第118・128号住居跡によって壊され、残存する部分ごく僅かである。規模は、長軸3.85m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは45cmである。壁周溝は、北辺・東辺で確認した。カマドの部分で切れる。幅12~15cm。柱穴は、確認されていない。

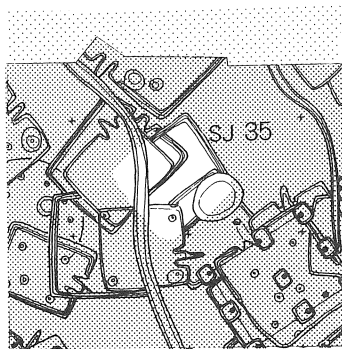
カマドは、燃焼部が小規模で、ごく僅かに煙道が延びるだけである。北辺に接し右よりに構築されている。左右の袖は地山を掘り残して造られる。燃焼部から煙道部までの立ち上がり

は、段差が存在しない。

遺構の確認は、多くの重複関係から困難を極めた。

第34号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・須恵器蓋・高坏などである。

なお遺構平面図は、第114図を参照。



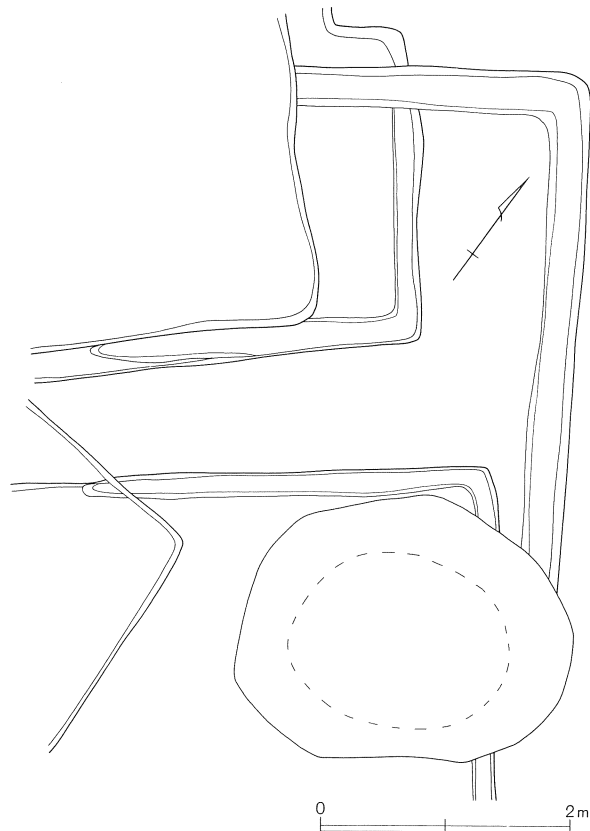
第 161 図 位置図

第35号住居跡

（調査時C 2区105号住居跡）

ミ-272グリッドに位置する。重複関係は、第36号住居跡より新しく、第69・117・139号住居跡よりも古い。全体の3分の2が、他の遺構によって壊されており、大変残りが悪い。規模は、不明である。掘り込みの深さは、15cmである。壁周溝は、確認されている。柱穴は、確認されていない。

カマドは確認されなかった。



第 162 図 第35号住居跡

第35号住居跡に伴う出土遺物は、土師器・高坏である。

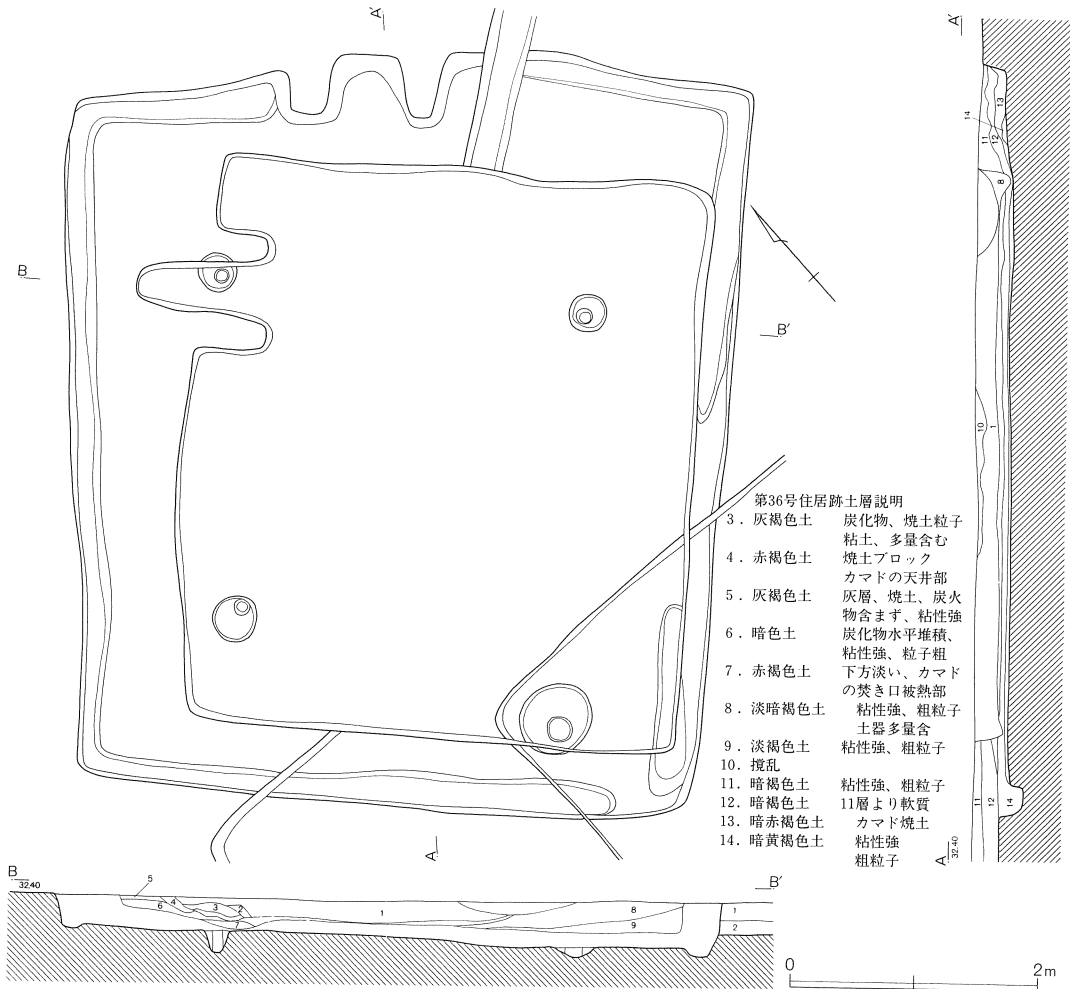
第36号住居跡（調査時C 2区100号住居跡）

ミー273グリッドに位置する。重複関係は、第69・97・117・35号住居跡よりも古く、第7号住居跡よりも新しい。第69号住居跡がすっぽりと入れ子状に納まっている。この住居跡によって第36号住居跡の覆土のほとんどが失われており、残存状態は良くない。住居跡の規模は、長軸5.70m、短軸5.30mを測る。

掘り込みの深さは、22cmである。壁周溝は、一周するが、南辺と、南西隅で途切れる。柱穴は、四本確認されており、住居の上屋を支えるに足る大きさと考えられる。



第163図 位置図



第164図 第36号住居跡

カマドは、東辺左よりに確認されている。しかし規模的にも小さく、また明瞭な焼土痕跡もないことから、はたして機能していたか疑問も残る。袖部分は、地山掘り残し。

覆土は地山と全く区別がつかず、また多くの重複遺構の存在から遺構の確認は困難を極めた。

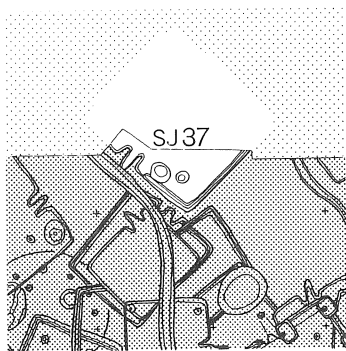
第36号住居跡の出土遺物は、土師器杯・高杯・甕・甑・壺・小壺、須恵器蓋などがある。

第37号住居跡（調査時C 2区103号住居跡）

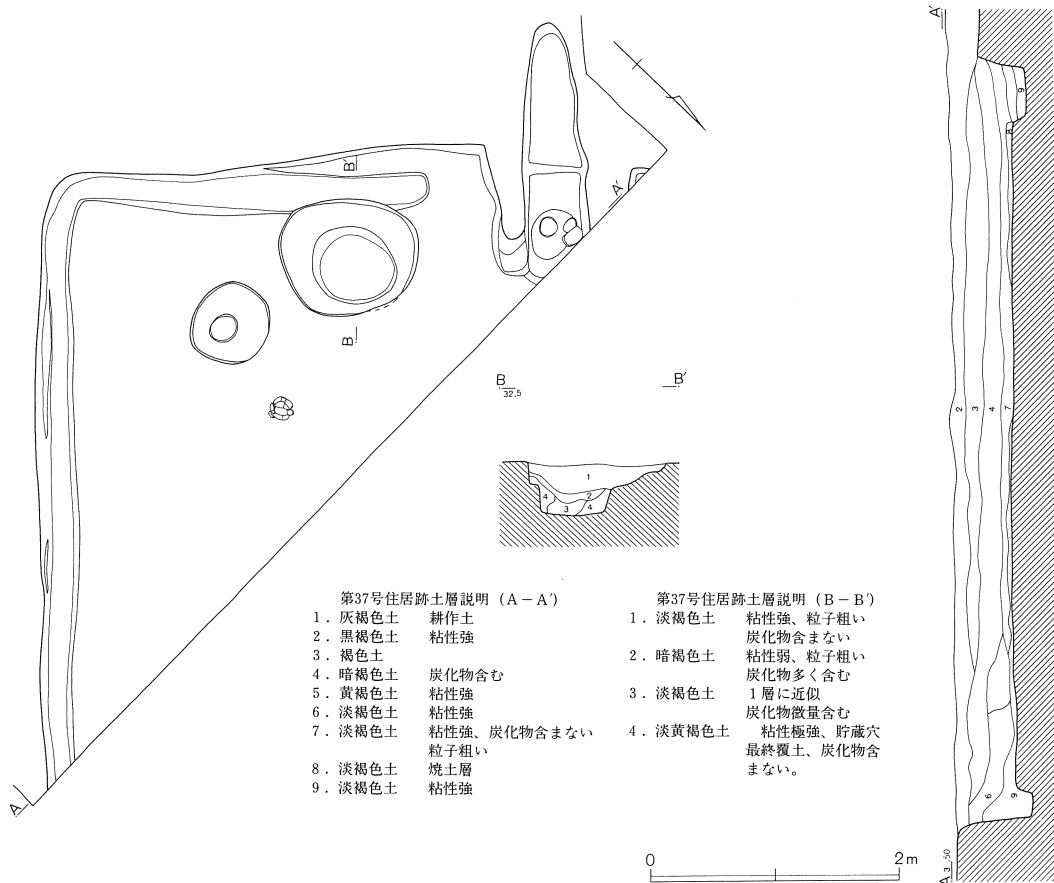
シー-272グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内では確認されていない。全体の8分の1程度の調査で、他の部分は、調査区域外である。住居跡の規模は不明だが、掘り込みの深さは47cmである。壁周溝は、確認部分にみることができた。柱穴は、一本確認できた。貯蔵穴が、カマドの左側に確認できた。

カマドは、南辺にみられ、袖の長さと同じ程度の煙道が残る。燃烧部から煙道部にかけては、一段高くなる。

第37号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・高杯である。



第 165 図 位置図



第 166 図 第37号住居跡

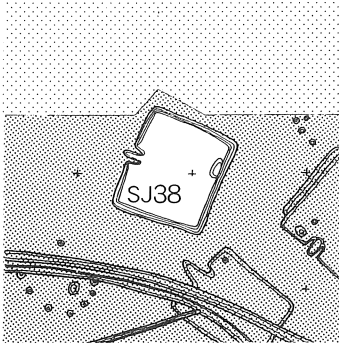
第38号住居跡（調査時C 2区64号住居跡）

シー-277グリッドに位置する。重複関係は、全くみられない。全体のプランは、良好に検出された。住居跡の規模は、長軸5.60m、短軸4.92mを測る。掘り込みの深さは、30cmである。壁周溝は、四辺を巡りカマドの部分で切れる。柱穴は、確認されていない。貯蔵穴は、カマドと対称の壁に接し確認されている。やや楕円形で、比較的深い貯蔵穴である。

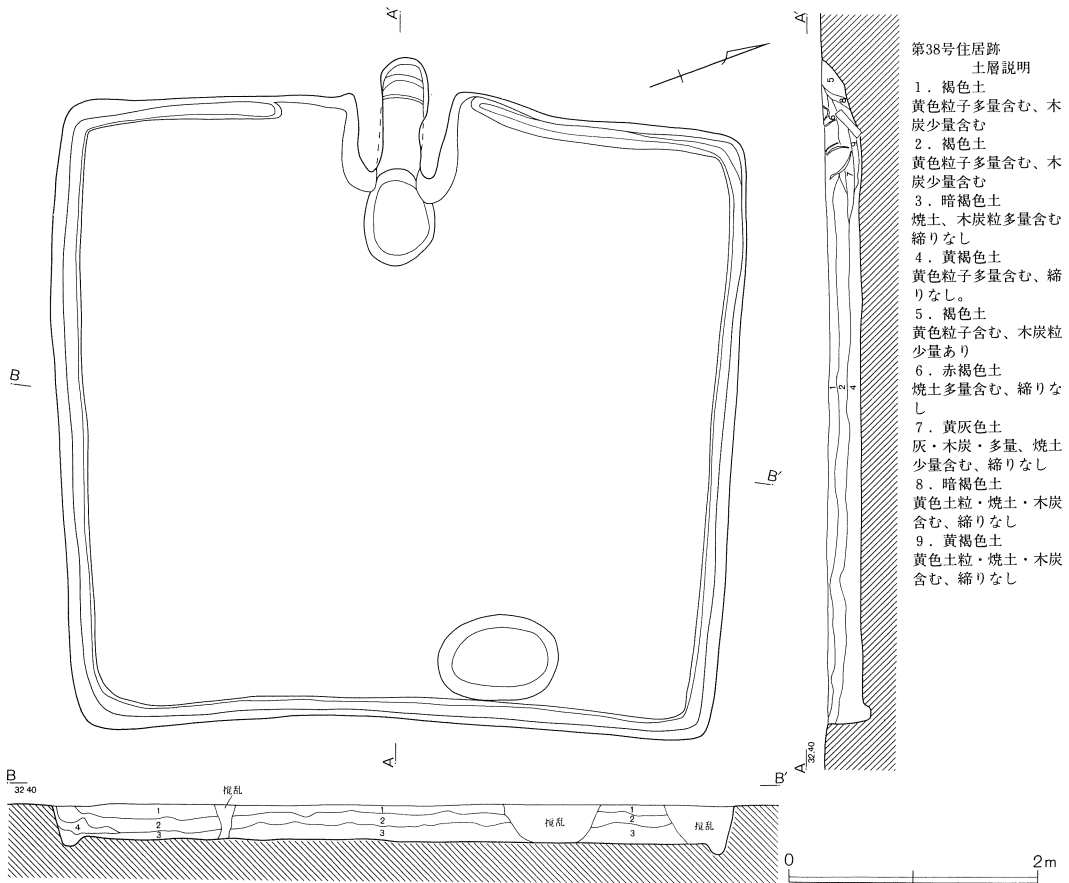
カマドは、西辺に接し、やや左よりに構築されている。煙道部が極端に短く、壁外にほとんど出ていない。袖は、比較的長く、地山掘り残しで構築されている。焚き口部は、薄く凹む。

比較的調査に当たっては重複も少なく、精査できた。

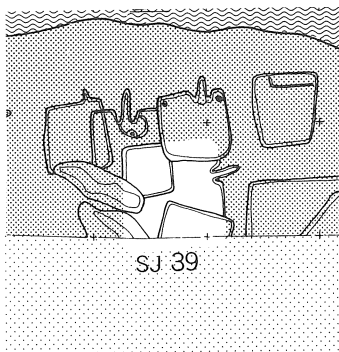
第38号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕・甑・小形甕・須恵器壺など豊富である。



第167図 位置図



第168図 第38号住居跡



第 169 図 位置図

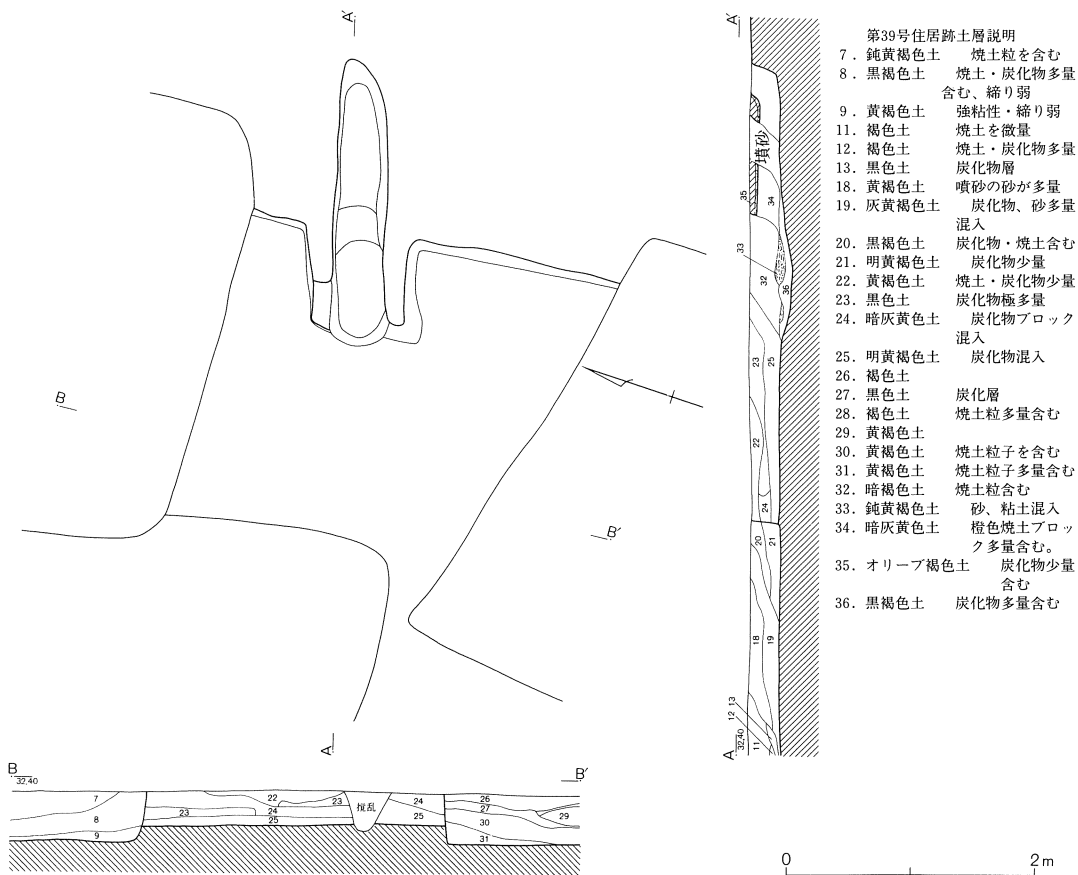
第39号住居跡（調査時C 2区43号住居跡）

ヒ-283グリッドに位置する。重複関係は、第52・75・100号住居跡よりも古い。南・西・北の各辺が、各遺構によって壊されており、全体のプランは不明確である。住居跡の規模は、不明であるが、23cmを測る壁周溝は、検出されていない。柱穴は、確認されていない。

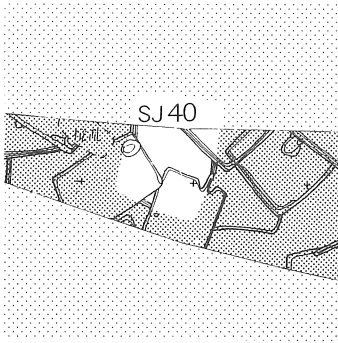
カマドだけが東辺に接して存在している。煙道部天井が残り、煙り出しがクランク状に立ち上がっている。袖は長く、さらに袖の2倍近くの煙道が延びる。焚き口部分は凹んでおり、燃烧部はやや狭い。燃烧部の天井は落ちている。

遺構の重複関係が激しく、また地山は覆土の色調が似通っており、当初はカマドの存在のみが明瞭に分かった程度であった。

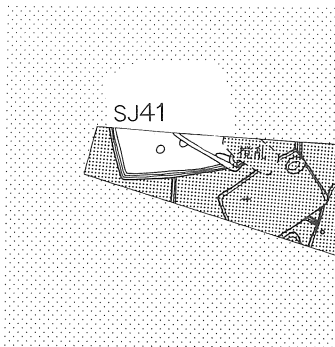
第17号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・埴・高坏・埴・小形甕・甕・壺などがある。



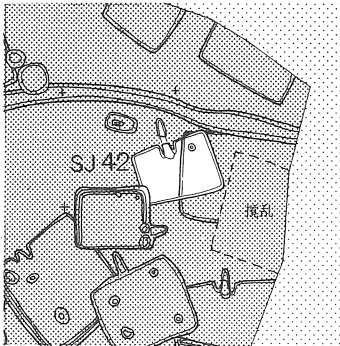
第 170 図 第39号住居跡



第171図 位置図



第172図 位置図



第173図 位置図

第40号住居跡（調査時C 2区84号住居跡）

シー285グリッドに位置する。重複関係は、第134・125号住居跡よりも古く、第27号住居跡よりも新しい。他の遺構との重複関係が激しすぎ、また調査区が狭いため、壁は、西辺と、東辺の一部が確認されているに過ぎない。北側が調査区域外である。住居跡の規模は、長軸4.55m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、22cmである。壁周溝は、西壁の確認部分のみにもみられる。柱穴は、みられない。

カマドは確認されていない。

多くの重複遺構の存在から、遺構の確認は困難を極めた。第40号住居跡の出土遺物は、土師器坏のみである。

第41号住居跡（調査時C 2区74号住居跡）

シー287グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内では第53・130号住居跡よりも古い。調査区が最も狭くなっているところで確認された遺構なので、北側部分については調査区域外である。住居の規模は不明だが、掘り込みの深さは20cmである。壁周溝は、確認部分で完周している。柱穴は、2本確認できた。しかしこの住居跡に関係するのは、西側の1本のみであろう。

カマドは、確認されていない。

重複が激しく、また調査区が狭いため、確認に難行した。第41号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏のみである。

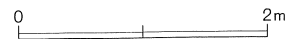
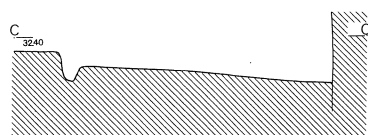
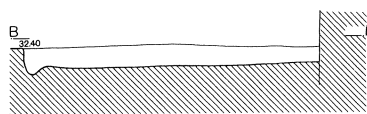
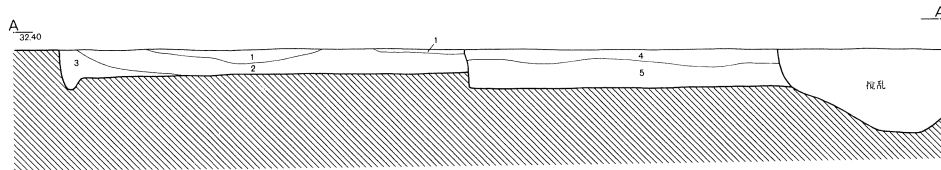
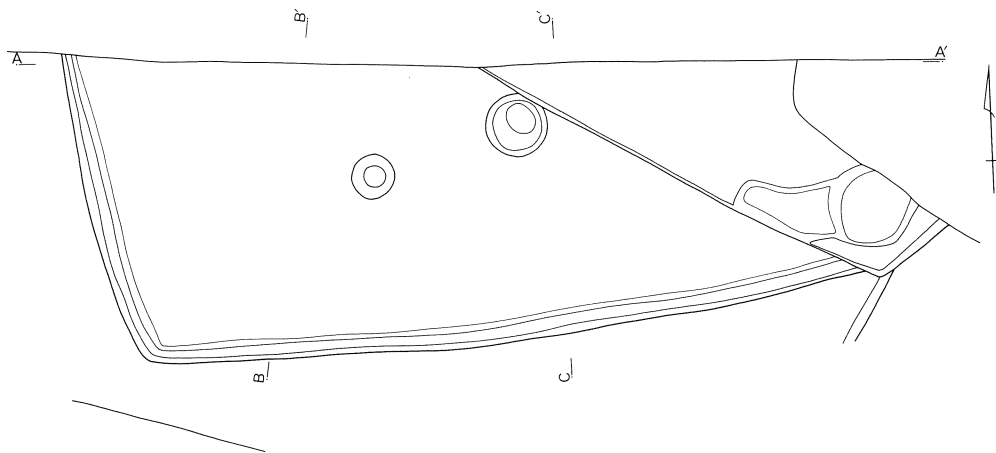
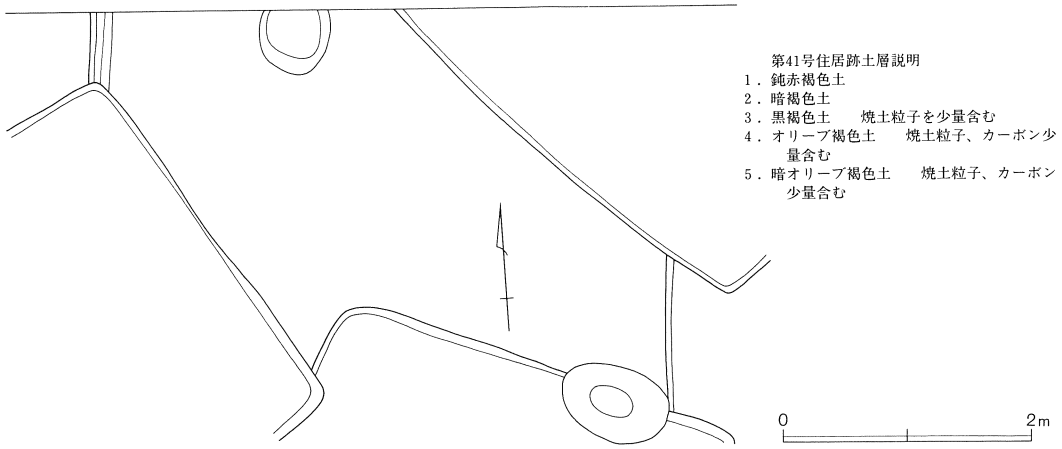
第42号住居跡（調査時B区52号住居跡）

エー291グリッドに位置する。重複関係は、第158号住居跡よりも古く、第17号住居跡よりも新しい。南西隅の一部が破壊されているだけで、他はほとんど完掘できた。住居跡の規模は、長軸4.20m、短軸3.00mを測る。掘り込みの深さは18cmである。壁周溝は、巡っていない。柱穴は、確認されていない。カマドの右側には、貯蔵穴が痕跡程度に残っている。

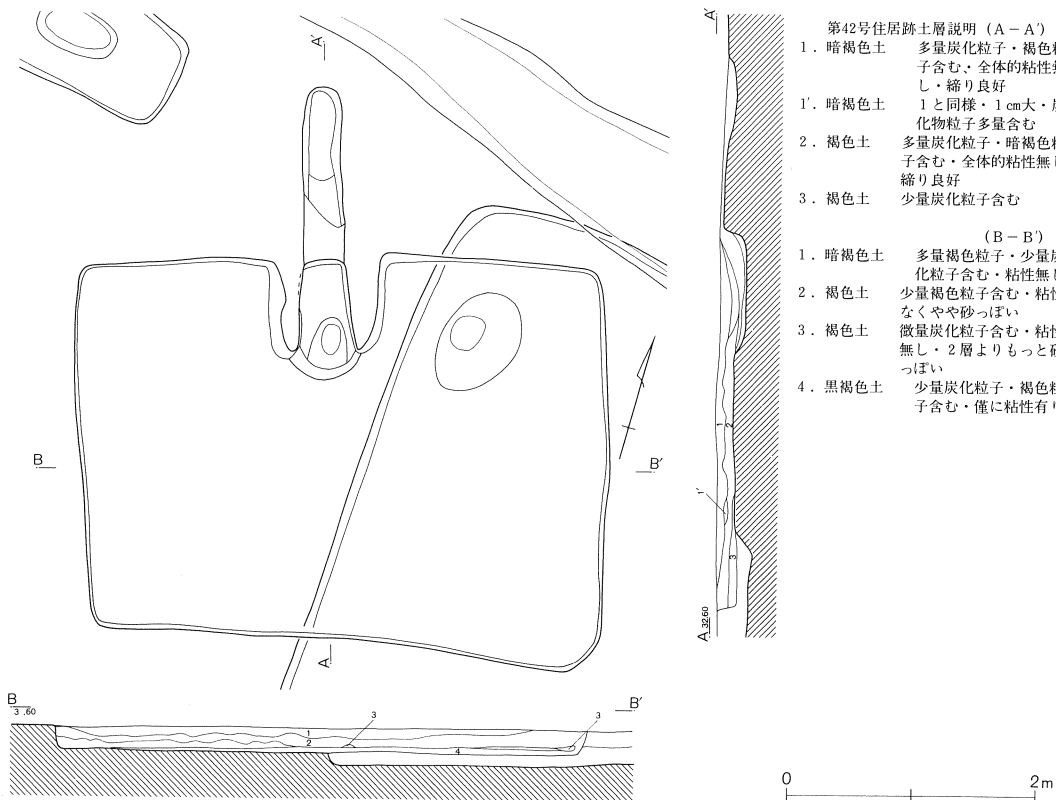
カマドは、北辺左よりに確認されている。住居跡の規模に対してカマドが大きく、長い袖と、その2倍ある煙道で構成されている。燃烧部はやや狭いが、一旦段をもって煙道となる。焚き口は凹んで造られている。袖部分は、地山掘り残し。

第42号住居跡の床面精査中に、第17号住居跡を確認する。

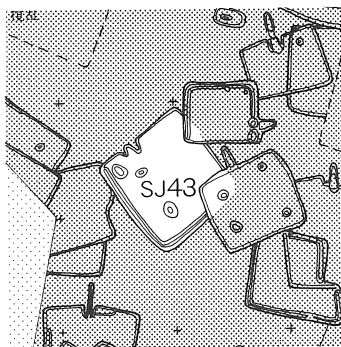
第42号住居跡の出土遺物は、土師器坏だけである。



第 174 図 第40・41号住居跡



第175図 第42号住居跡



第176図 位置図

第43号住居跡 (調査時B 2号住居跡)

シー292グリッドに位置する。重複関係は、第28号住居跡よりも新しく、第126・158号住居跡よりも古い。東南の隅を除きほぼ全体が確認された。住居跡の規模は長軸5.68m、短軸5.52mを測る。掘り込みの深さは、42cmである。西壁と南壁に壁周溝が、部分的に巡る。柱穴は西辺に2本確認できた。あまり掘り込みが深くなく、堆積層の状態からは、柱痕跡を確認することはできなかった。貯蔵穴が、カマドの左側に確認できる。

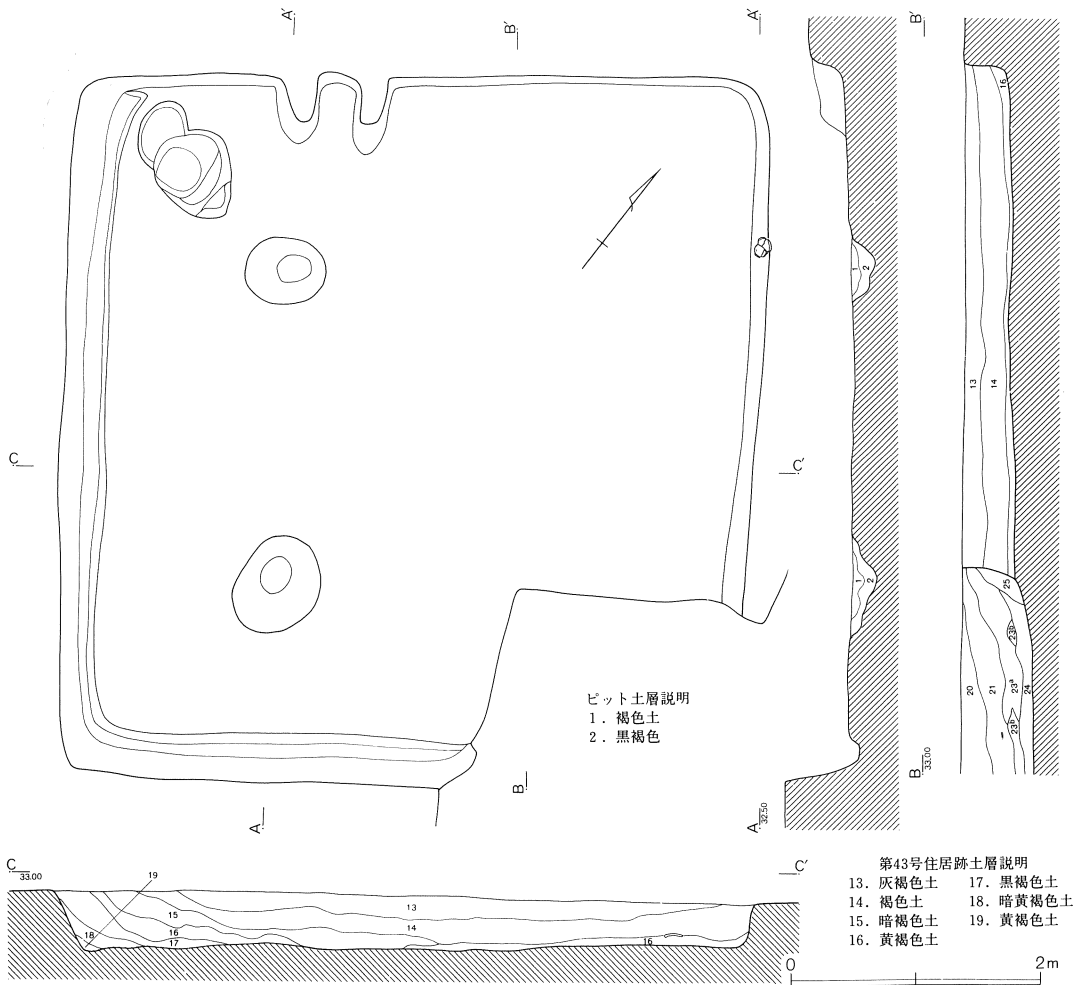
小形のカマドが、北辺にみられる。煙道は極端に短く、袖も短い。燃焼部も狭く、焼土の堆積層は、明瞭ではない。

重複関係の激しい部分だが、比較的明瞭に確認できた。

第43号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・高杯・甕・埴である。

第44号住居跡 (調査時B区13号住居跡)

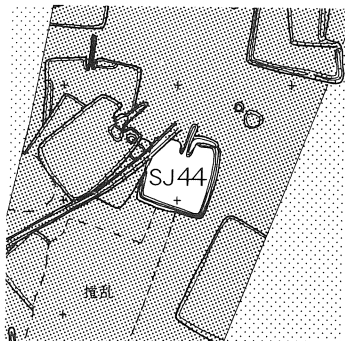
メー292グリッドに位置する。重複関係は、第45号住居跡よりも古い。西壁の一部を第45号住居跡によって壊されているが、他はほとんど全体に近く確認されている。住居跡の規模は、長軸4.15m



第177図 第43号住居跡

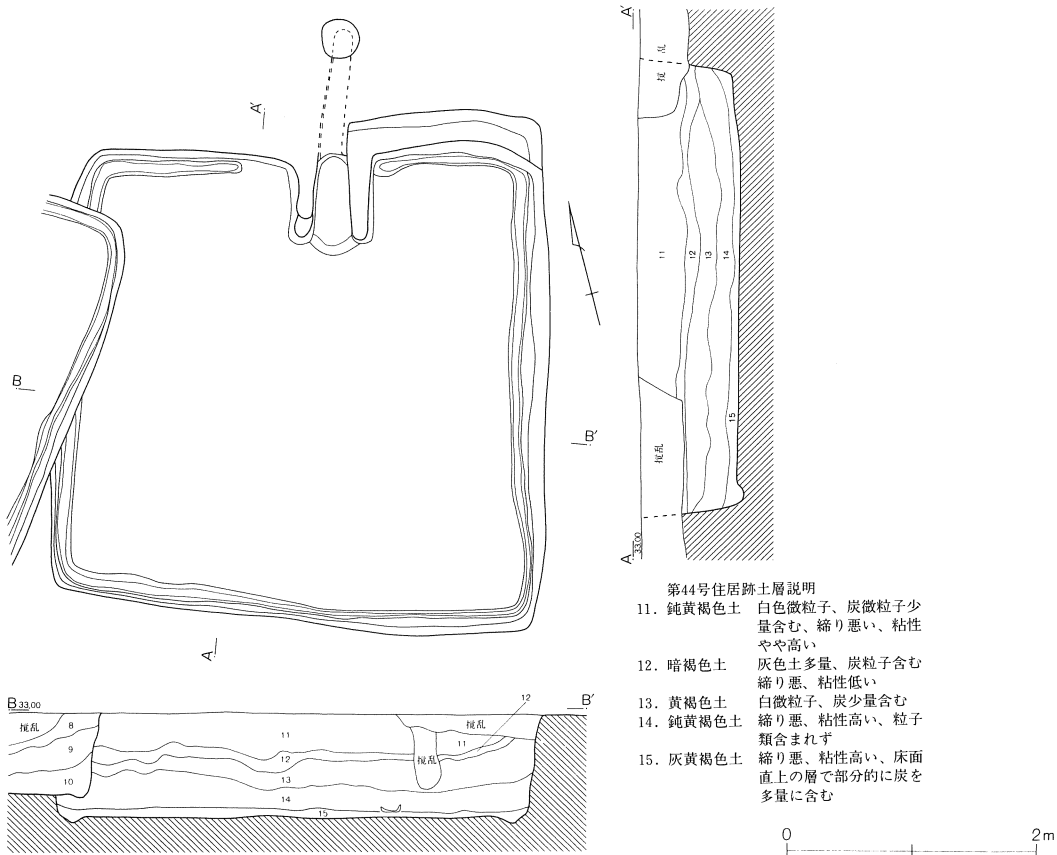
短軸3.90mを測る。掘り込み深さは、78cmである。壁周溝が全周している。カマド右脇には、棚状の掘り残し部分がある。柱穴は、確認されていない。

カマドは、北辺に接して確認されており、比較的良好に残っている。燃焼部天井はないが、煙道部天井は残り、カマドの構造を理解するうえで良好な資料である。長い煙道はトンネル状に掘り抜かれ、ピッド状に掘られた煙り出し穴に続く。燃焼部はやや狭く、緩やかな段をもって煙道部へと続く。袖は、比較的長く、地山掘り残しで構築する。焚き口部は、薄く凹む。焚き口部には、赤い被熱痕が残る。



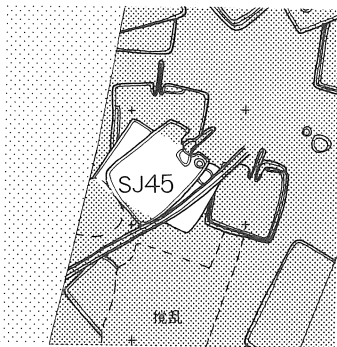
第178図 位置図

調査に当たっては比較的重複も少なく、精査できた。



第179図 第44号住居跡

第44号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・小形甕などがある。



第180図 位置図

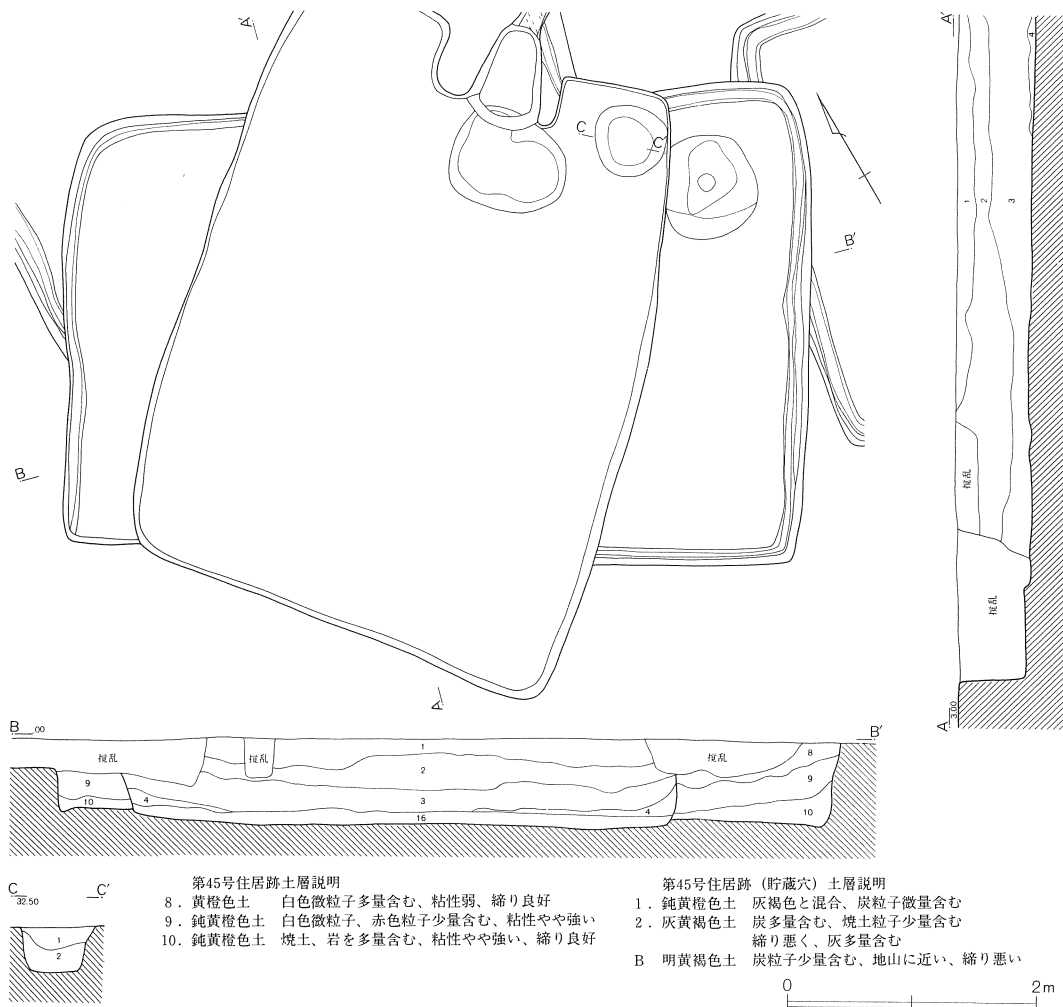
第45号住居跡（調査時B区15号住居跡）

メー293グリッドに位置する。重複関係は、第101号住居跡よりも古く、第29・44・81号住居跡よりも新しい。遺構の中央部分が第101号住居跡によって破壊されており、わずかに全体のプランが知れるだけである。住居跡の規模は、長軸5.90m、短軸3.82mを測る。掘り込みの深さは、62cmである。壁周溝は、確認された部分だけは、完周している。柱穴は確認されていない。北東隅に貯蔵穴が一つ確認されている。

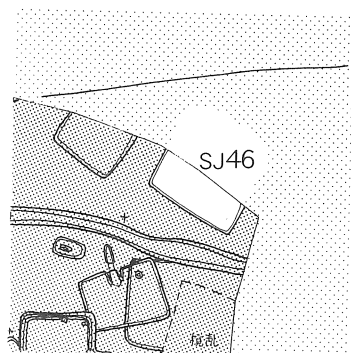
カマドは確認されていない。

遺構の重複関係が激しく、また地山と覆土の色調が似通っており、土層断面の確認によってこの住居跡の存在を確認した。

第45号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕・小形甕・甔などがある。



第 181 図 第45号住居跡



第 182 図 位置図

第46号住居跡（調査時B区49号住居跡）

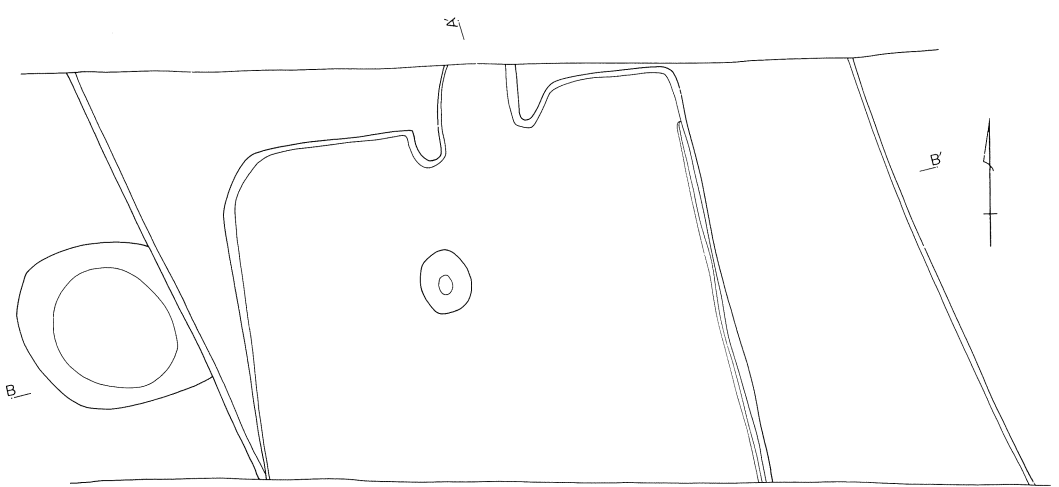
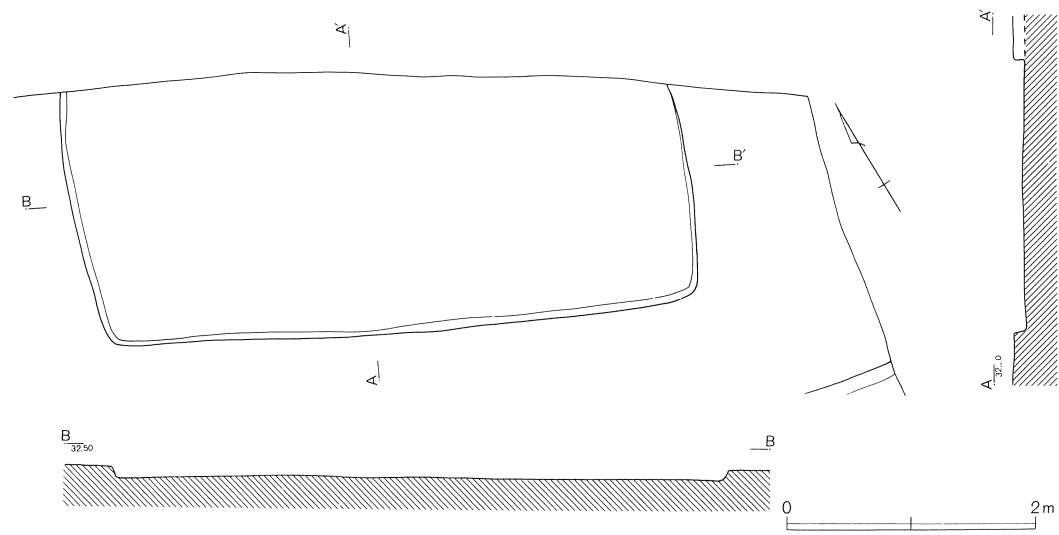
エー290グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内ではみられない。北側が調査区域外で、全体像はわからない。住居跡の規模は、長軸4.82m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、8cmである。壁周溝・柱穴はみあたらない。

カマドは確認されていない。

第46号住居跡の出土遺物は、土師器環の小破片のみである。

第47号住居跡（調査時B区20・21号住居跡）

モー317グリッドに位置する。重複関係は、第83号住居跡よりも古い。第83号住居跡が、すっぽりと重複しているためにこの住居跡の残りは非常に悪い。北側

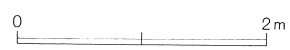
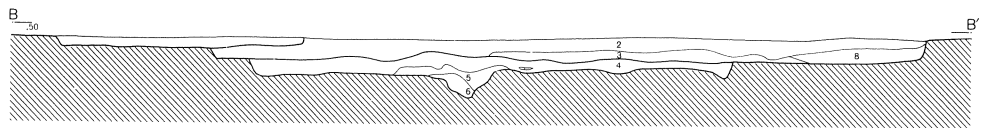
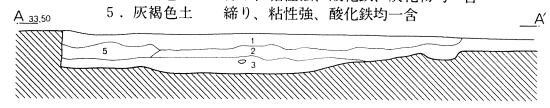


第47号住居跡土層説明 (A-A')

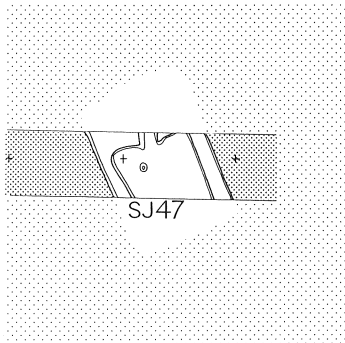
- 1. 褐灰色土 締り、粘性強、酸化鉄均一含
- 2. 灰褐色土 締り、粘性強、酸化鉄均一含
- 3. 黒褐色土 締り、粘性強、酸化鉄、炭化物均一含
- 5. 灰褐色土 締り、粘性強、酸化鉄均一含

第47号住居跡土層説明 (B-B')

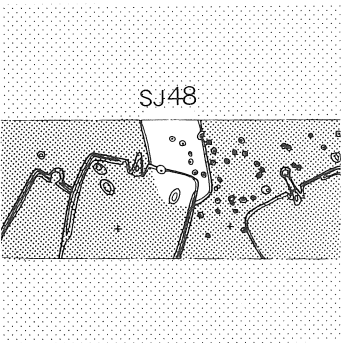
- 1. 褐灰土 締り強、弱粘性、近世の遺構の履土
- 2. 褐灰土 締り強、弱粘性、酸化鉄均一含む
- 3. 灰褐色土 締り強、弱粘性、酸化鉄均一含む
- 4. 黒灰土 締り強、粘性強、酸化鉄炭化物含む、20号住周囲の覆土
- 5. 黒褐土 締り強、粘性強、酸化鉄少含、炭化物、焼土多含
- 6. 黒褐土 締り強、粘性強、酸化鉄少含、炭化物、焼土多含、ビットの覆土
- 7. 浅黄土 締り強、酸化鉄均一含、(地山)
- 8. 褐色 締り強、酸化鉄全体シミ状含、22号住覆土



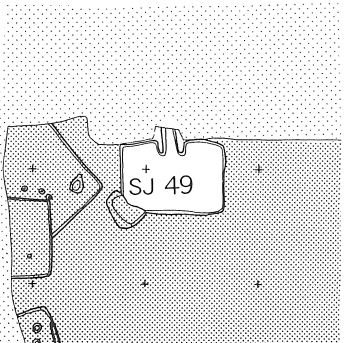
第183図 第46・47号住居跡



第184図 位置図



第185図 位置図



第186図 位置図

と南側が調査区域外である。住居跡の規模は、長軸5.55m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、16cmである。壁周溝・柱穴は、みられない。

カマドは確認されていない。

重複遺構の存在から、遺構の確認は困難を極めた。

第47号住居跡の出土遺物は、土師器坏・小形甕のみである。

第48号住居跡（調査時B区47号住居跡）

ヘー325グリッドに位置する。重複関係は、第106号住居跡よりも新しい。北側は調査区域外である。住居跡の規模は、長軸2.95m、短軸—m、掘り込みの深さは7cmである。壁周溝は、確認されなかった。床面に小穴が何ヶ所か確認できたが、柱穴とは断言できない。

カマドは、確認されていない。

調査区が狭く、覆土も薄く、確認には難行した。

第48号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏破片のみである。

第49号住居跡（調査時B区28号住居跡）

ンー330グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内ではほとんどみられず、南西隅を風倒木によって壊されているだけである。北側は、カマドの一部分が調査区域外である。他は全て検出された。住居跡の規模は、長軸5.44m、短軸3.73mを測る。掘り込みの深さは10cmである。壁周溝は、東辺に巡っているだけである。柱穴は、確認されていない。

カマドは、北辺左よりに確認されている。袖は短く、煙道は長い。燃焼部は広く、煙道と燃焼部の間には段差はない。煙道部の長さは不明である。袖部分は、地山掘り残し。

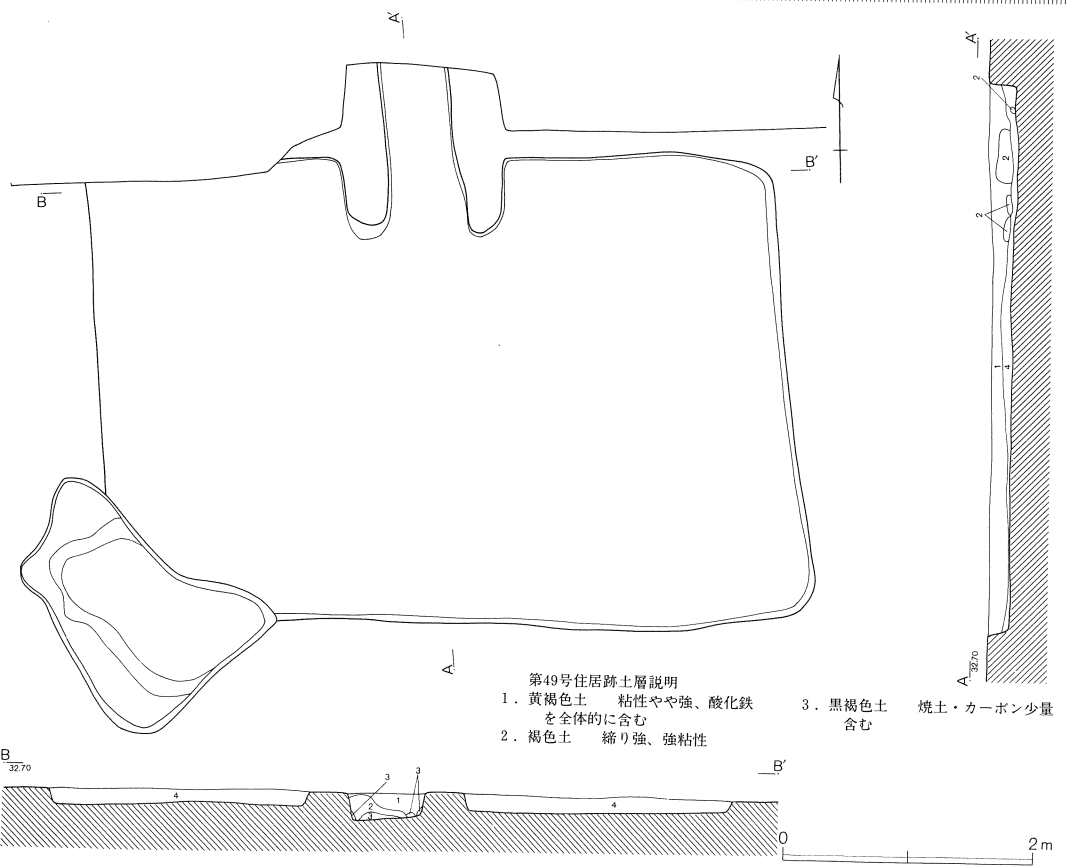
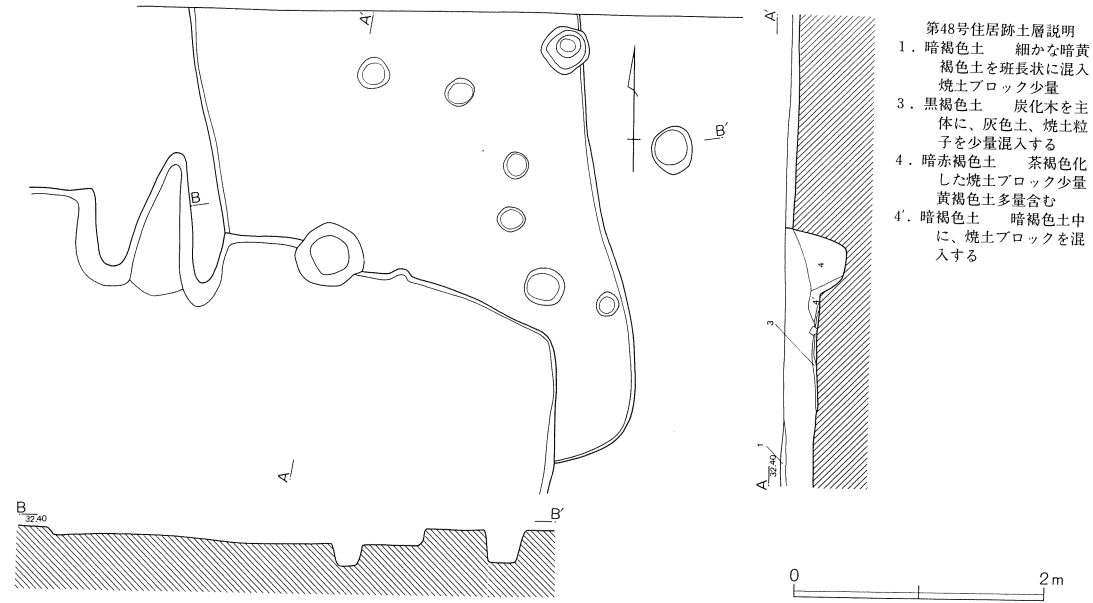
第49号住居跡の確認は、容易であったが、覆土が薄いために全体の残りは悪かった。

第49号住居跡の出土遺物は、土師器甕・高坏だけである。

第50号住居跡（調査時B区29号住居跡）

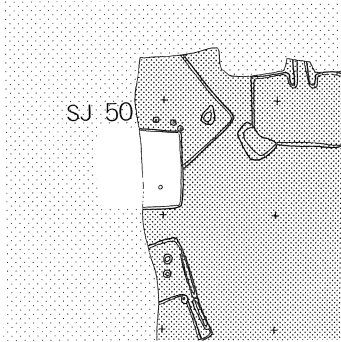
ンー331グリッドに位置する。重複関係は、第86号住居跡よりも古い。西側は、調査区域外である。住居跡の規模は、不明である。掘り込み深さは5cm。最近の攪乱によって大分痛め付けられている。壁周溝・柱穴は確認されていない。

カマドは確認されていない。



第187図 第48・49号住居跡

第50号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏の小破片のみである。なお住居跡の平面図は、第297図を参照。



第188図 位置図

(3) 遺構各説 —遺物出土状態—

遺物の出土状態について、確認される明瞭なもののみ、遺物分布図とともに記述しておきたい。

第31号住居跡

(壁ぎわ) 南壁、とくに南東隅に接して遺物の扁りがみられる。坏・高坏・壺・甕などである。南壁中央付近から小形甕の破片の上に置かれた坏が出土している。南東の角の壁周溝中から高坏が正位の状態出土し、これを取り巻き甕や壺の大形破片が出土している。

(床面) 中央ややカマドよりの床面には、甕・甑・坏がみられる。確認されている遺物のほとんどが、床直である。とくに中央左右に置かれた甕は、細かく破碎された状態で出土しており、この両者の間に検出された甕が、ほとんど無傷のまま出土しているのとは大きな違いである。坏は、この中央にある甕からカマドにかけて総数8点みられる。とくに中央部の甕に伴う坏は、2点とも甕の下敷きになっている。甕は横倒しだが、坏は2点とも正位である。

(カマド内) カマド内の遺物は、高坏・坏・甕がある。燃烧部の最も奥に坏が伏せて置かれ、この上に高坏が横倒しになって置かれていた。ただし高坏が支脚として使用されたか、カマドの上部に置かれていたかは定かではない。燃烧部の中央には、甕が2点正位で出土している。中央と右によった2点で、右の1点は、胴部の一边をカマドの袖に圧着していた。中央部の甕は、底部が砕けて支脚が、甕の内部に貫入された状態で出土している。おそらく土圧によって器壁が、耐えられなくなって支脚を内部に取り込んだのであろう。

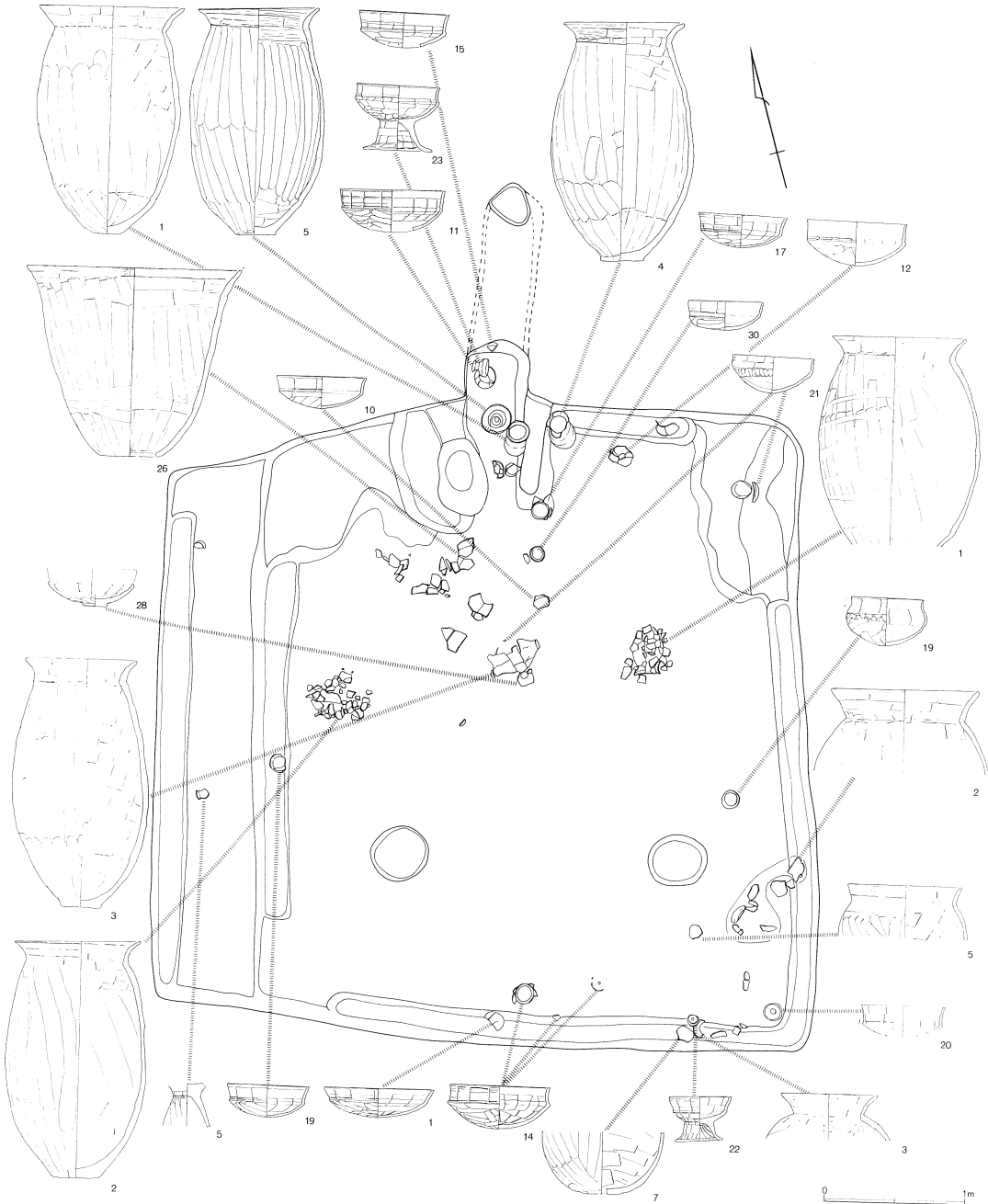
(カマド脇) 右袖と北壁に寄り掛かるように甕が、正位で1点出土している。左袖に接して大形の甑が、破碎された状態で確認されている。この破片は、床面中央部の甕の部分まで到達している。右袖の先端や右袖と東壁の間の空間には、坏が5点散漫ながら確認できる。それぞれ正位のまま確認されている。

第38号住居跡

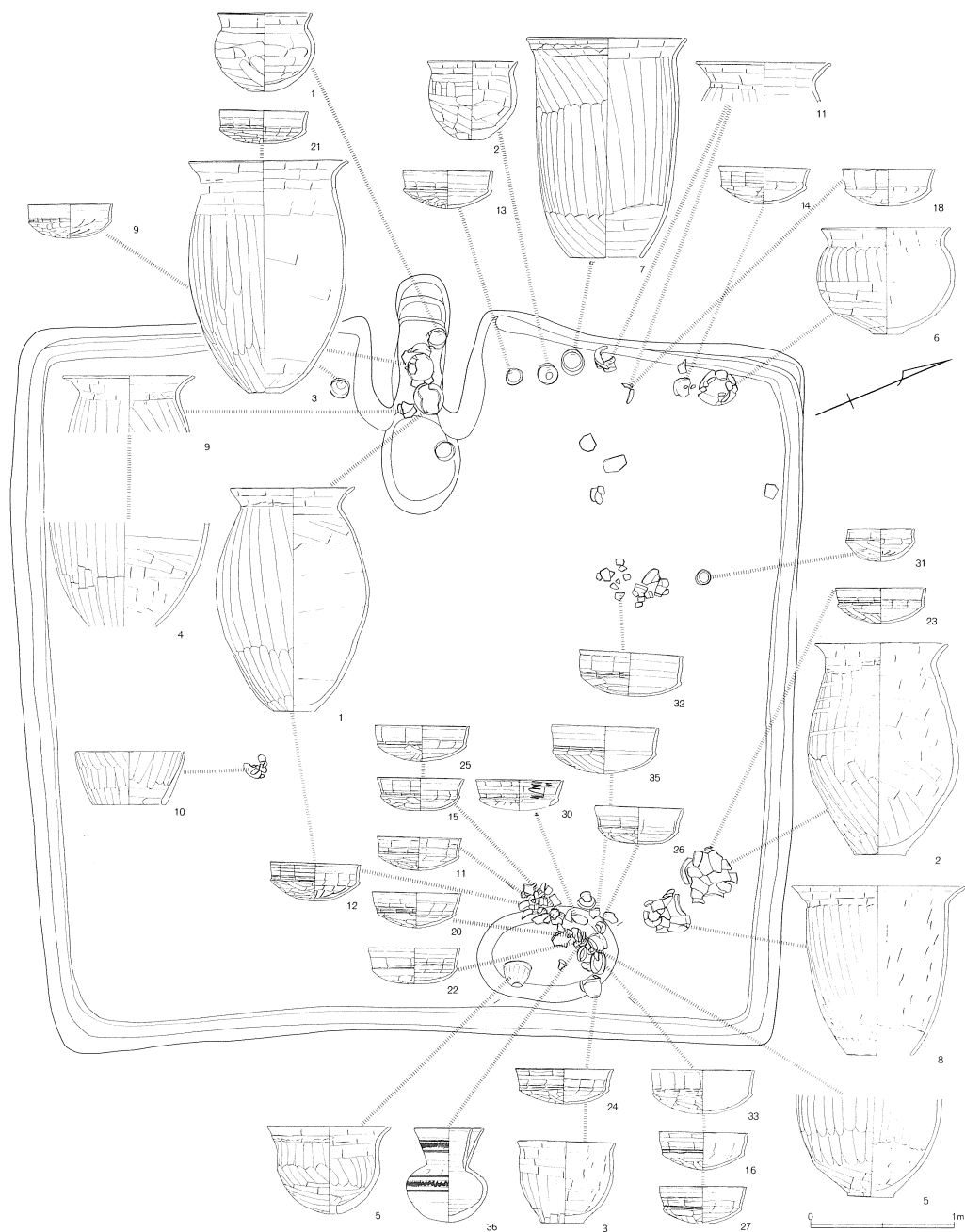
(壁ぎわ) カマド右の西壁に接して、坏・小形甕・甑・甕が等間隔に置かれている。カマド袖側

から坏—小形甕—甌—甕（口縁部）—坏—坏—小形甕の順に確認されている。全て正位に置かれており、壁にはほぼ接していることが特長である。

（床面） 中央やや南寄りに土師器甌の胴下半部が、倒位に置かれている。割れ口をていねいに磨き二次加工され、何らかの置き台として転用されていたと考えられる。北側中央には、坏が2点、



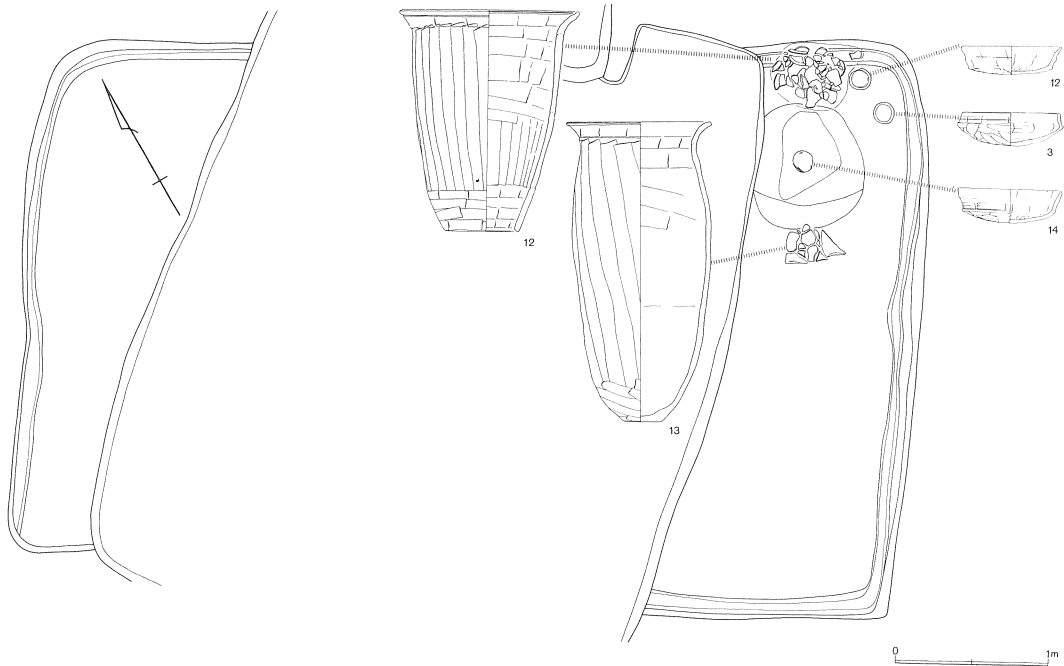
第 189 図 第31号住居跡遺物出土状態



第190図 第38号住居跡遺物出土状態

破碎された状態で置かれている。両者とも床直の状態である。

(カマド内) カマド内の遺物は、坏・甕・小形甕がある。燃烧部いっぱい到手前から甕一甕一小形甕の順に隙間なく配列されている。中央の甕には、口縁部に土師器坏で蓋がされている。全て正位に置かれ、これがこの形態のカマドによる、煮沸具の掛け方の一般的形態だろう。



第191図 第45号住居跡遺物出土状態

(カマド脇) カマドの左脇に坏が1点、袖に接するように正位に置かれていた。

(貯蔵穴) 須恵器長頸壺を中心に貯蔵穴内に流れ込むように坏が、13点確認されている。また小形甕と小形甑が南壁寄りに伏せた形で置かれている。これらを総合すると出土状態からは、貯蔵穴上に何らかの有機質の蓋が掛けられ、ある時期に上蓋が欠落し、上部の遺物が貯蔵穴内に流れ込んだと解釈したい。なおこの貯蔵穴と北壁の空間には、甕と甑が横倒しになった状態で置かれている。とくに甕は、その下に正位の坏があり、これと同時に潰された状態で出土している。

第45号住居跡

(壁ぎわ・貯蔵穴) 北東隅の壁と貯蔵穴の間に、大形甑と坏2点がまとまって出土している。坏2点は正位に置かれているが、甑は粉々に破碎された状態で出土しており、対称的である。貯蔵穴内には、貯蔵穴底面から浮いた状態で坏が1点確認されている。貯蔵穴の全面には、甕が横倒しのまま確認されている。

このほかに顕著な遺物の出土はみられない。

(4) 遺構各説 —カマドと煮沸土器—

古墳時代第Ⅲ期のカマドと、煮沸にかかわる土器の関係について述べる。

古墳時代第Ⅲ期のカマドの確認された住居跡とその構造についてはすでに述べたが、11軒のカマドについて詳細が分かっている。

第31号住居跡

カマドに関係した遺物として、甕6点と高坏・土製支脚が出土している。前述したように、甕に土製支脚が、突き刺さった状態で出土しており、カマド内の甕・支脚の据えられていた位置が分かる。この支脚は、底部が広がる柱状の支脚で、中心部は細い筒抜けになっている。おそらく棒状の芯に、粘土を巻き付けて作ったものであろう。指押えによって大まかな形を作り、外面をヘラケズリして細部を成形する。上部と下部に指押えの痕跡が残る。カマド内には、甕が2点燃焼部のほぼ中央にあり、燃焼部の奥には、高坏が横倒しの状態で出土している。この高坏、当初からカマド内にあったものではなく、燃焼部天井上から落下したものであろう。

200—5は、長胴の甕で、外面胴下半に帯状に被熱痕が認められる。底部付近や内面には、この痕跡を認めることはできない。

200—2は、長胴の甕で、外面胴部に被熱痕がみられる。この痕跡、外面全体に認められ、とくに口縁部と、底部に認められないことから、カマドの被覆粘土の範囲を示しているのであろうか。内面には、胴下半に粒状付着物の痕跡を認めることができる。内面底部や胴上半部には、この痕跡を認めることはできない。外面胴下半に帯状の被熱痕が認められる。底部付近や内面には、この痕跡を認めることはできない。

200—1は、長胴の甕で、外面胴上半から底部にかけて被熱痕がみられる。口縁部や胴上半部には見られない。また内面にも認められない。

200—3は、長胴の甕で、外面の全体、口縁部と底部を除き、被熱痕が認められる。内面には、この痕跡を認めることはできない。

200—4は、長胴の甕で、外面胴下半部に被熱痕跡が帯状にみられる。内面には、この被熱痕のラインよりも下の部分に、粒状の付着痕跡が見られる。両者が、関係性をもった使用痕跡であることは、間違いないであろう。

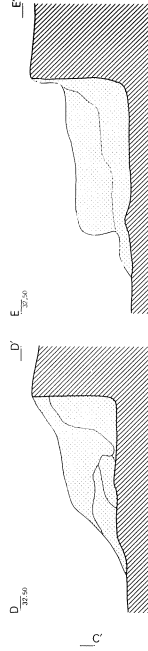
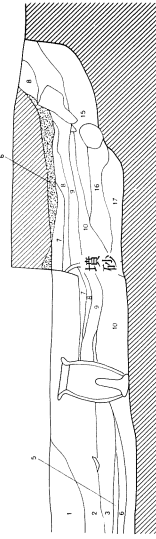
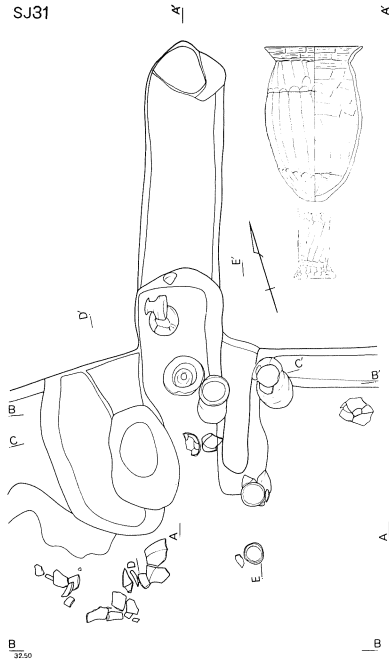
201—1は、長胴の甕で、底部が欠損している。外面胴上半から底部にかけて、被熱痕跡がみられる。口縁部には見られない。また内面には、口縁部直下から底部にかけて、粒状の付着痕跡が見られる。両者が、関係性をもった使用痕跡であることは、間違いないであろう。

第32号住居跡

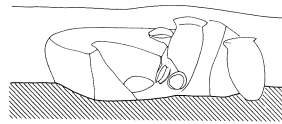
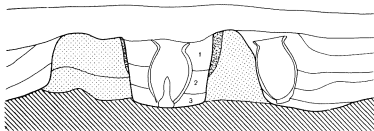
カマドは、大変稚拙な作りで、僅かに焼土の痕跡が認められることから、カマドと分かる程度であった。ここから出土した201—17は、短口縁の壺であり、被熱痕が確認できる。外面には、一様に被熱痕が残り、内面には、粒状の粒子が認められる。

第33号住居跡

SJ31

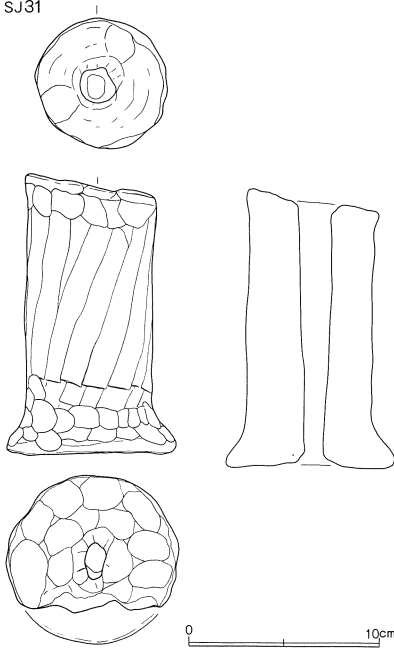


1. 褐色土 粘性強。粒子粗い。焼土粒子・炭化物粒子含む
2. 褐色土
3. 暗褐色土 炭化物粒子多量含む。粘性弱。焼土粒子含む。
4. 暗褐色土 粘性弱。粒子粗い。焼土粒子含む
5. 黒色土 砂質粘土。粒子粗い。やや大粒の炭化物・粘土粒子含む
6. 淡褐色土 粘性強。粒子細かい。黄色土ブロック少々含む
7. 暗黒色土 炭化物粒子多量含む。粘性弱。焼土粒子含む
8. 暗褐色土 粘性弱。粒子粗い。焼土粒子含む
9. 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。黄褐色土ブロック含む
10. 淡灰褐色土 粘性強。粒子細かい。黄褐色土ブロック少々含む
11. 暗褐色土 10層より暗い。粘性弱
15. 暗褐色土 炭化物多量含む。粘性強。ロームブロック含む
16. 赤褐色土 粘性強。焼土粒子多量含む
17. 暗赤褐色土 粘性強。粒子粗い。焼土粒子・炭化物多量含む

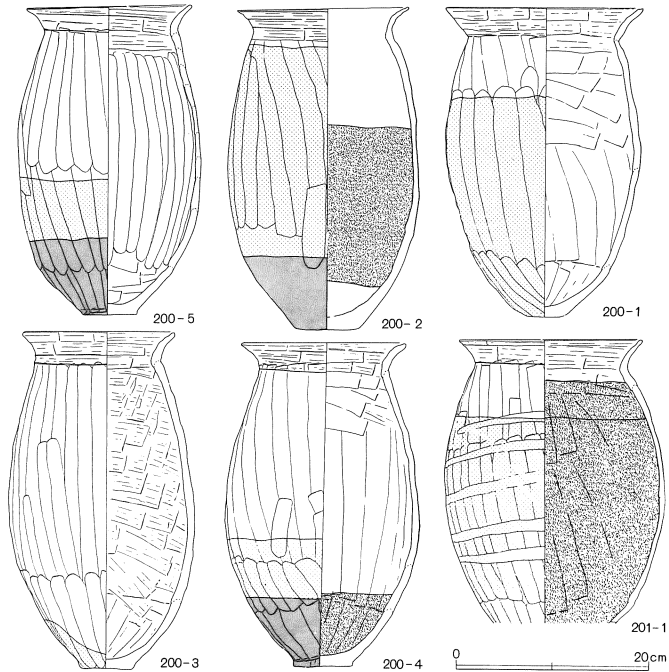


0 1m

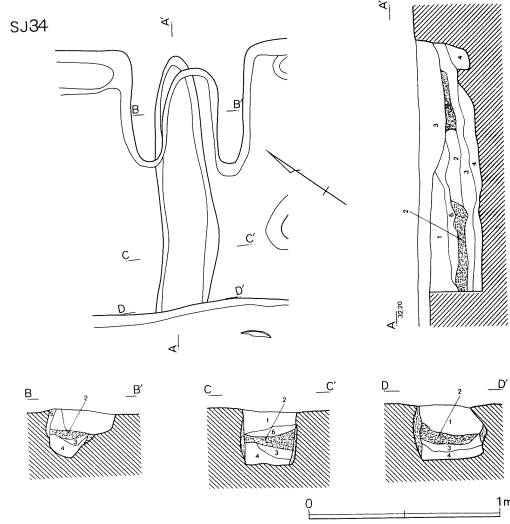
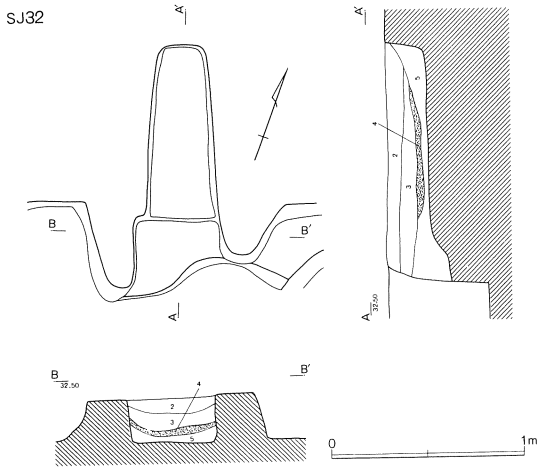
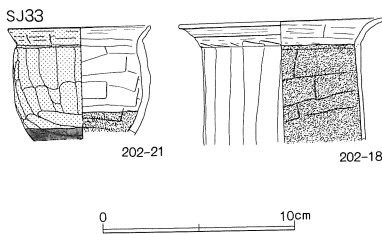
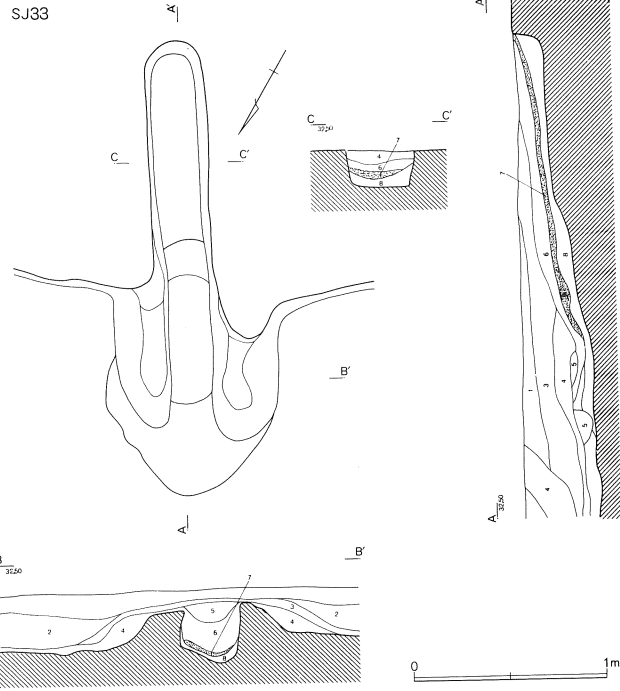
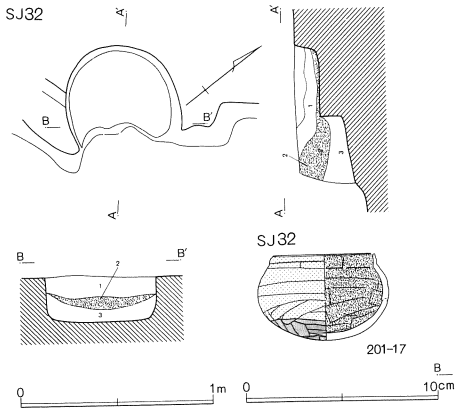
SJ31



SJ31



第 192 図 第31号住居跡カマド・遺物出土状態

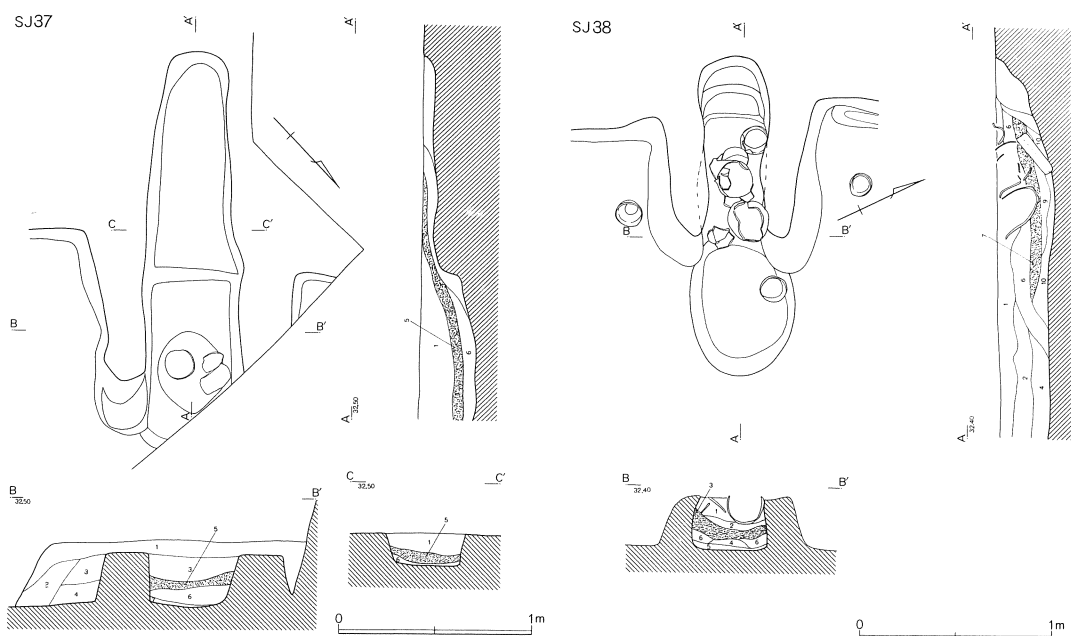


- 第32号住居跡・カマド土層説明
1. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量含む。炭化物粒子多量含む
 2. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量含む。焼土ブロック多量
 3. 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。炭化物多量含む
 4. 暗褐色土 粒子細かい
 5. 暗褐色土 粒子細かい

- 第33号住居跡カマド土層説明
1. 淡灰褐色土 溝のフク土。粘性弱。灰褐色の軽石多量含む
 2. 淡褐色土 溝のフク土。粘性強。粒子粗い。
 3. 暗褐色土 118号住居フク土。粘性強。粒子粗い。炭化物・焼土粒子多量含む。
 4. 淡黄褐色土 118号住居フク土。粘性強
 5. 暗褐色土 118号住居フク土。粘性強炭化物、焼土粒子多量含む

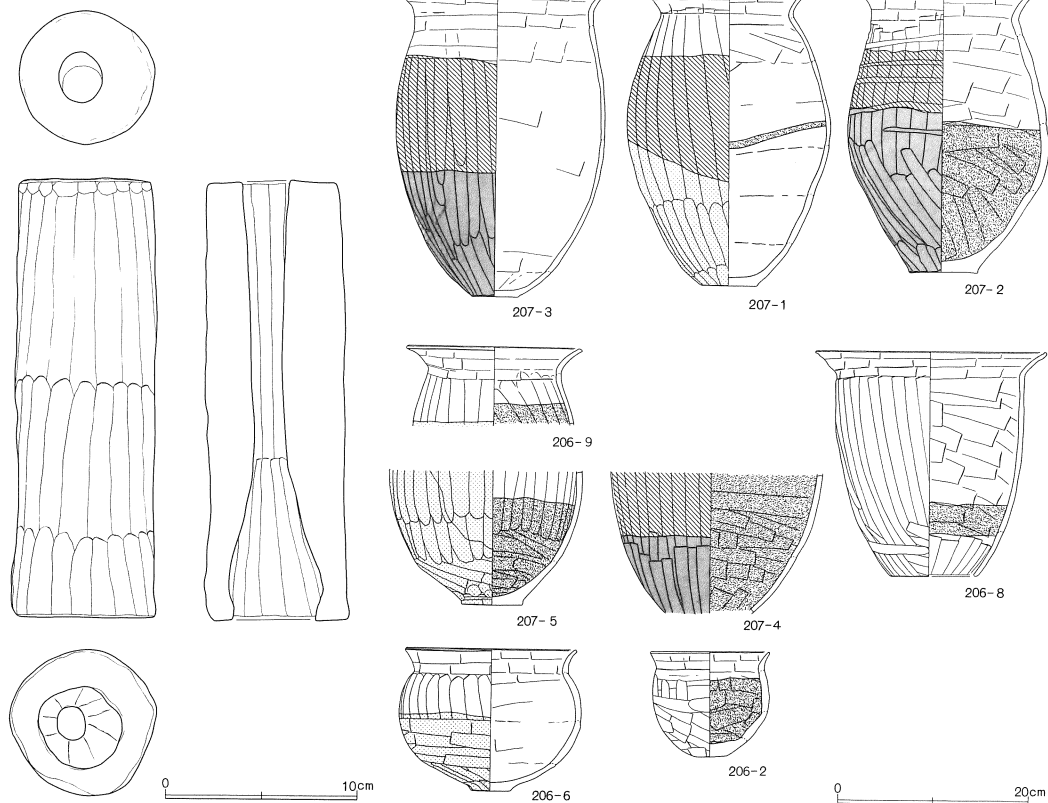
- 第34号住居跡カマド土層説明
1. 淡灰褐色土 粗粒子、強粘性土層
 2. 淡褐色土 締めやや強、強粘性、粗粒子土層
 3. 淡黄褐色土 弱粘性、粒子の揃った土層。焼土粒子含む。
 4. 暗褐色土 強粘性、粗粒子土層。炭化物含む
 5. 焼土ブロック
 6. 赤褐色土 焼土層、強粘性、締め強
 7. 粘土 細粒子、締め強
 8. 暗赤褐色土 強粘性、粗粒子土層。焼土ブロック混入

第193図 第32・33・34号住居跡カマド・遺物出土状態

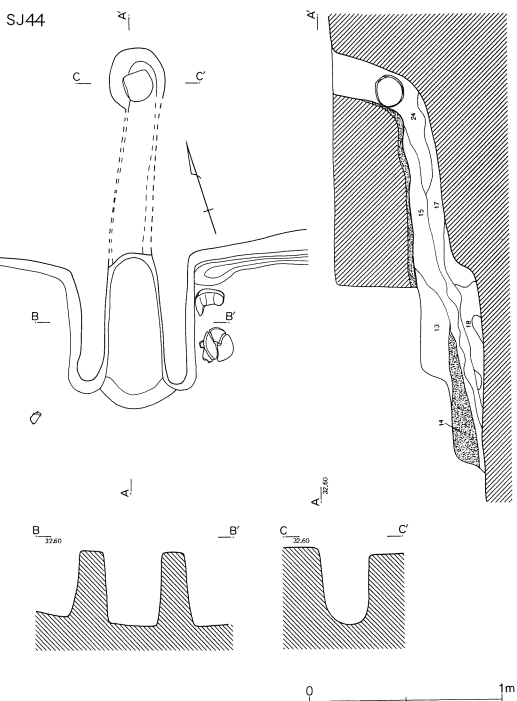
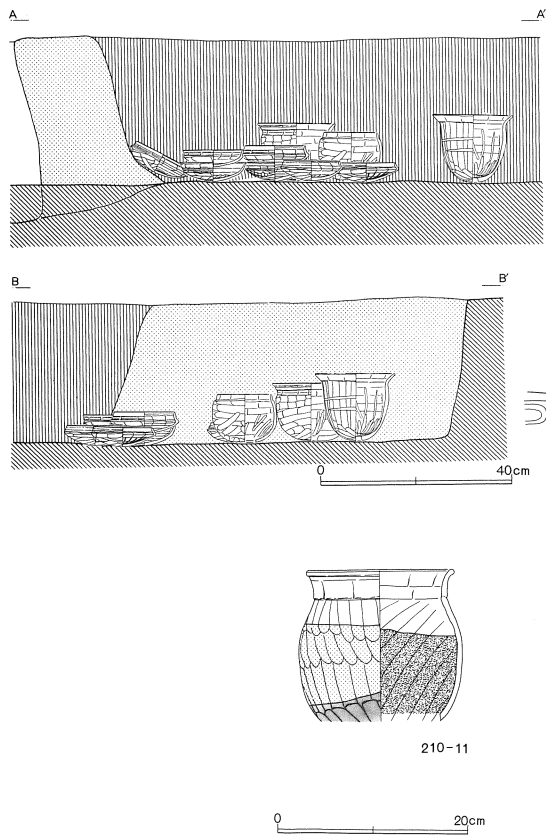
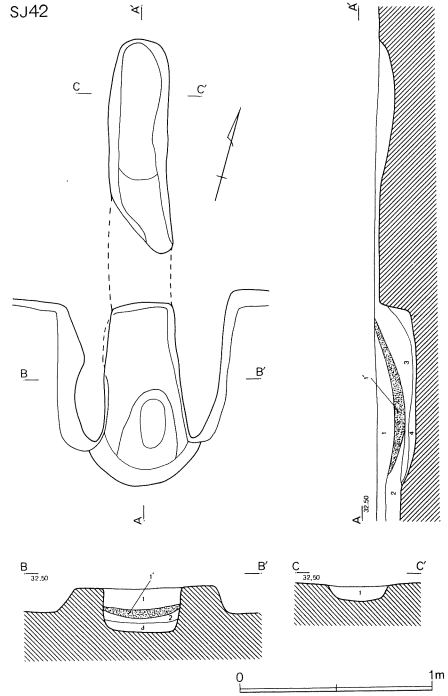
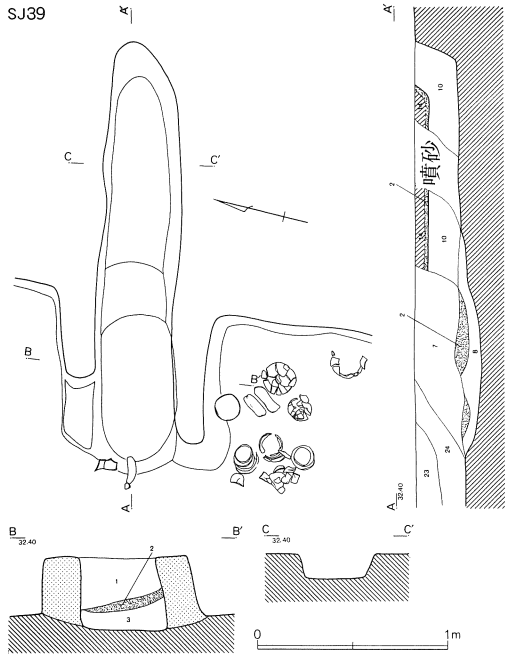


SJ37

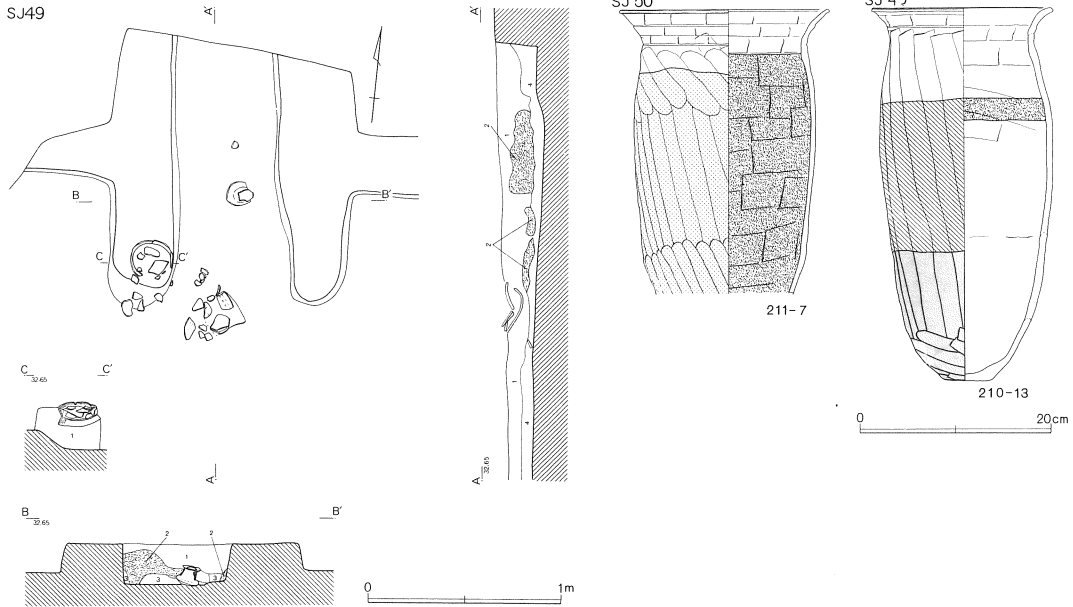
SJ38



第 194 図 第 37・38号住居跡カマド・遺物出土状態



第195図 第39・42・44号住居跡カマド・遺物出土状態



第37号・117号住居跡・カマド土層説明

1. 淡褐色土 粘性強、粒子粗、炭化物含まず
2. 暗褐色土 粘性弱、粒子粗、炭化物多量に含む
3. 淡黄褐色土 粘性強、粒子粗、炭化物含まず
4. 淡茶色土 粘性強、粒子細、炭化物多量に含む
5. 赤褐色土 焼土ブロック、天井部崩落土
6. 暗黒褐色土 炭化物・灰、粘性強、粒子粗
7. 黄褐色土 ブロック

第38号住居跡・カマド土層説明

1. 褐色土 黄色粒子多量に含む、木炭少量有り
2. 褐色土 黄色粒子多量に含む、木炭少量有り(1層より多い)
3. 暗褐色土 多量の焼土・木炭粒含む、締りなし
4. 黄褐色土 多量の黄色粒子含む、締りなし
5. 褐色土 多量の黄色粒子含む、木炭粒少量有り
6. 赤褐色土 焼土多量に含む、締りなし
7. 黄灰色土 多量の灰・木炭・少量の焼土含む、締りなし
8. 暗褐色土 黄色土粒・焼土・木炭含む、締りなし
9. 黄褐色土 黄色土粒、焼土、木炭含む、締りなし
10. 褐色土 焼土・木炭粒少量含む、締りなし

第42号住居跡・カマド土層説明

1. 暗褐色土 炭化粒子、褐色粒子含む。粘性無し。締り有り
- 1'. 暗褐色土 炭化粒子、暗褐色粒子含む。粘性無し。締り有り
2. 褐色土 炭化粒子少量含む
3. 褐色土 炭化粒子多量含む
4. 褐色土 炭化粒子多量含む

第44号住居跡・カマド土層説明

13. 33・34フク土
14. 33・34フク土
15. 33・34フク土。焼土部分の小ブロック状に含む
17. 赤色土 焼土主体。カマド天井部崩落。煙道部灰層を部分的にブロック状に含む
18. 赤灰色土 灰主体。炭粒子多量含む。焼土小ブロック状に少量混入。締り悪い。粘性強。黄褐色土大ブロック状に混入
24. 鈍橙色土 15層主体。焼土、炭多く含む。締り悪い。粘性強。煙道屈折部に土器横位に落ち込む

第39号住居跡土層説明

1. 暗灰黄色土 砂、粘土混入
2. 鈍黄褐色土 砂、粘土混入
3. 明赤褐色土 砂、粘土混入
7. 暗褐色土 焼土粒含む
8. 黒褐色土 焼土、炭化物多量含む。締り弱
10. 暗灰黄色土 橙色焼土ブロック多量含む。灰少量含む
14. オリーブ褐色土 炭化物少量含む
23. 黒色土 炭化物多量含む
24. 明黄褐色土 炭化物含む

第49号住居跡土層説明

1. 黄褐色土 締り強。粘性やや強。酸化鉄を均一に含む
2. 暗青灰色土 粘土主体。均一に焼土塊含む
3. 褐色土 締り強。粘性やや強。酸化鉄全体均一に含む。焼土、カーボン少量含む
4. 褐色土 締り強。粘性やや強。酸化鉄全体均一に含む

第196図 第49号住居跡カマド・遺物出土状態

長い煙道をもつカマドだが、燃焼部は狭く深く作られている。カマド内から関係した土器は出土しなかった。しかし長胴甕と小形の甕が、被熱痕等を認められた。

202—21は、小形の甕で底部は欠損している。口縁部を除く全面に被熱痕が巡る。内面の胴下半には、粒状の付着物が確認されている。胴上半部にこの痕跡はない。

201—18は、長胴甕で、胴下半は欠損している。内面に粒状の付着物を確認することができる。

第34号住居跡

カマドの煙道部分のみ確認できたが、煙道の先端の煙出し穴の造りが、明瞭に観察できた。

第37号住居跡

調査区のきわに確認されたカマドで、焼土の堆積や土器片が、燃焼部に認められるが、被熱痕等のある遺物は確認されていない。

第38号住居跡

短煙道のカマドが確認されている。燃焼部の奥に土製支脚、これに乗った甕と他に甕2点の3点が出土している。土製支脚は、筒形の中空の支脚で、中空部分は、ユリの球根状である。外面は、縦に細かなヘラケズリが施され、また両端部には、ていねいなナデが施される。

207-3は、長胴甕で、胴上半部に焼土と粘土の付着痕跡が見られる。帯状に確認されており、カマドの構築粘土の痕跡であろう。この部分より下には、被熱痕が確認されている。内面には、何等痕跡はない。

207-1は、長胴甕で、胴上半部に焼土と粘土の付着痕跡が見られる。ただし207-1のように、水平には確認されていない。甕自身がカマドへ斜めに掛けられていたか、天井部の傾斜する部分に掛けられていたかのいずれかであろう。この部分より下には、被熱痕が確認されている。内面には、粒状の付着痕が、胴中央に筋状に確認されている。

207-2は、長胴甕で胴中位を除く胴上半部に焼土と粘土の付着痕跡が見られる。カマドの天井部構築粘土であろう。内面には、この付着痕跡の下のラインと同じ位置まで、粒状の付着痕が確認できる。

206-9は、長胴甕で胴上半以上しか残っていない。内面の肩部以下に、粒状の付着痕跡が認められる。

207-5は、長胴甕の胴下半が残る。外面には、被熱痕が全面にわたり確認されている。内面の下半部には、粒状の付着痕跡が認められる。

207-4は、長胴甕の胴部の資料で、胴中位に焼土や粘土の付着痕跡を見ることができる。内面には、粒状の付着痕跡が認められる。

206-8は、大形の甕で、内面の下から1/3の部分に、粒状の付着痕跡が認められる。

206-6は、大形の鉢で、外面の胴部中位以下に被熱痕が確認できる。

206-2は、小形の甕で、内面口縁部以下に、粒状の付着痕跡が認められる。

第39号住居跡

カマドの燃焼部中には、遺物はなにも残ってはいなかった。しかし、カマドの右袖の脇の空間には、食膳具を中心とした遺物が、床直の状態を確認できた。各土器が、どのように置かれたか推定しておく（第195図）。

第42号住居跡

カマドは確認されているが、被熱痕の残る遺物は確認されていない。

第44号住居跡

カマドの燃焼部中には、遺物はなにも残ってはいなかった。長煙道のカマドの構造が、きわめて

明瞭に観察できた。210—11は、小形の甕で底部が筒抜け。外面肩部以下に被熱痕が確認できる。内面には、粒状の付着物が確認できる。

第49号住居跡

カマドの燃焼部の中には、遺物はなにも残ってはいなかった。僅かに左袖の先端にカマド芯材として、甕が伏せられていた。焼き口部には、土器片が散らばっていた。

このほかに二次的な被熱痕等のある土器は、第45・50号住居跡から出土している。

211—7は、長胴甕で、外面の肩部以下に被熱痕が見られる。内面には、口縁部以下に粒状の付着物が見られる。底部が欠損しているので、明確なことはわからない。

210—13は、長胴の甕で、外面の胴中位に帯状に粘土・焼土の付着痕跡が確認できる。内面には、外面の付着痕跡の上の部分に平行した位置に、粒状の付着痕跡がみられる。

(5) 遺物各説 一古墳時代第Ⅲ期の出土土師器分類一

古墳時代第Ⅲ期の出土土師器は、27種の器種をみることができる。

1 坏塚類 食膳具の坏塚類には、6つの器種がある。

内斜口縁坏3（内坏3） 碗形の胴部。口縁部でS字状に屈曲する。S字状の口縁部が、第Ⅱ期よりもさらに緩やかになっている。内面の扁平な面は形骸化し、外反の度合いが緩い。外稜は僅かである。外面は指押えのあと、底部を細かくヘラケズリし、口縁部を数回に亙る継続的なヨコナデによって仕上げる。内面は、ヨコナデを行なう。

碗3（碗3） 緩やかに内湾する碗形の土器である。やや浅めになる。口縁部でやや外反する。全体をヨコナデで成形し、底部を粗くヘラケズリする。内面は、ヨコナデを行ない、口縁部では、断続ヨコナデが行なわれている。底部から口縁部へかけての厚みの変化はない。

須恵器模倣坏蓋2（蓋坏2） 須恵器の蓋付坏の蓋を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK47～MT15の中間型式の須恵器坏蓋Aの形態を模倣していると考えられる。成形の過程は、まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。底部ヘラケズリの技法である。中心部を一定方向に連続して削り、底部周辺を縁に沿って、断続的に削る技法が定着化する。口縁部は、一端強く内側に屈曲し、S字状粘土を折り曲げ、断続ヨコナデし、口縁部を作り出す。口縁部は緩く外反し、外稜よりも口唇部の径は大きい。外稜はきわめて明瞭。工具による押えは強い。口唇部は面をもつが、コ字状に近づく。第Ⅱ期に比べると扁平化し、大型化する。やはり普通製品と、大振りの製品が存在する。古墳時代後期土器を代表する土器である。

須恵器模倣坏身3（身坏3） 須恵器の蓋付坏の身を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK47～MT15の須恵器坏身（TK47の須恵器坏身のBの系譜を引く）に、形態は近似している。蓋坏3と同様、底部内面を円形にヘラオサエし、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。口縁部は、内側に傾斜しつつ立ち上がり、S字状に粘土を折り曲げて口縁部を作り出す。外稜よりも口唇部の径は小さい。口縁部の返りが小さくなる。外稜は明瞭。工具による押えは強い。底部は細かくていねいにヘラケズリする。口唇部は、面

をもつが、コの字状になる。作りは全てシャープである。内側にこの口唇部の面は傾斜している。大振りの製品と小振りの製品がある。古墳時代後期土器を代表する土器である。

平底坏2（平坏2） 底部の扁平な坏で、径が大きい。水平な底部から僅かに立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は厚く作られる。口唇部の内側に緩い沈線状の部分が見られる。成形方法は、須恵器模倣坏と同様である。断続ヨコナデが明瞭に残る。本来は、この段階以降出現する形態であろうか。須恵器の影響のもとに、成立した土器と考えられる。

内屈口縁坏2（屈坏2） 分厚い底部から緩やかに立ち上がり、口縁部で内側にやや屈曲する。底部のヘラケズリは、須恵器模倣坏と同様である。口縁部はていねいな断続ヨコナデによって成形されている。内面には、放射状のヘラミガキが施されている。第Ⅰ期の内屈口縁坏よりも、浅めになり作りがシャープになっている。

2 高坏・器台類 食膳具の高坏・器台類には、4つの器種がある。

有稜口縁高坏3（有稜高3） 口縁部の有稜部のみが確認されている。有稜高2よりもさらに外稜部の突出が短くなっている。精巧さがなく、末期的形態。破片資料。

須恵器小形高坏模倣高坏3（須高3） 須恵器高坏の模倣をしたと考えられる土師器である。とくに坏部が、いわゆる模倣坏である。裾部もあまり広がらず、太い脚部が付いている。坏底部は、指押えによって作られている。坏部に須恵器の影響を強く留めるが、独自の発展を繰り返している。

須恵器長脚高坏模倣高坏1（長高3） 須恵器の長脚高坏を模倣した形態と考えられる。須恵器も田辺編年陶器古窯跡群MT15から長脚化が進む。これと連動した変化であろうか。坏部は強く口縁部が屈曲し、外反している。断続ヨコナデが明瞭である。脚部は極端に長く、脚の付け根も空間が広い。外面は縦にヘラケズリされ、内面は、脚の絞り込みが少ない。新たに登場した形態で、須恵器の影響を留めつつも、独自の発展を繰り返している。

器台1（器台1） 受皿部しか残っていない。指押えで外形を作り上げ、口縁部をヨコナデによって仕上げている。内面も同様である。点数は少なく、どのような用途があるかわからない。一応、高坏類に入れておく。

3 小形製品 小形製品は、機能毎に柱を立てるべきだが一括した。10の器種を設定した。

小形丸底壺3（小丸3） 胴部だけが残存している。内面をヘラオサエによって成形し、外面は横方向に細かなヘラケズリを行なわれる。球形の胴部は、さらに扁平化し、広口の口縁部が接合されると思われる。底部も欠損している。

長頸壺1（長壺1） 須恵器の長頸壺をまったく模倣したもので、口縁部の沈線や、プロポーシオンなど驚くほど一致している。胴部は、細かな横方向のヘラケズリによって成形されている。口縁部はていねいな断続ヨコナデが行なわれている。内面もていねいなナデである。球胴丸底の胴部に、ハの字に開く口縁部が付く。

鉢B類3（鉢B3） 大形の鉢形土器である。成形方法等は、内湾坏のそれを継承し、口縁部は僅かに屈曲している。深めの湾形の口縁部で、厚く作られている。外面のヘラケズリは前段階に比べるとさらに粗く雑になる。内面はヘラオサエの後、ヨコナデされている。

鉢E類2（鉢E2） 小形の鉢形土器。扁平な球胴。口縁部は、素口縁で口唇部に面をもつ。底部

は縦に連続したヘラケズリが施され、肩部を横方向にしていねいなヘラケズリが施される。口縁部はていねいに断続ヨコナデされる。穿孔は見られない。

鉢F類2（鉢F2） 小形の鉢形土器である。成形方法等は、模倣坏身の影響を受け、各部にその影響が見られる。坏身を深くした形態と考えれば良い。壙形の底部から球形に立ち上がり、口縁部で内屈する。口縁は外反気味。外面は細かくヘラケズリされ、口縁部は丁寧にヨコナデされている。

鉢G類2（鉢G2） 深めの鉢形土器。球胴に近い胴部で、小甕と小壺と鉢の中間形態。外面は、ていねいにヘラケズリされている。内面はヘラオシアテ。口縁部は、小さく立ち上がる。明瞭なヨコナデが施されている。

鉢I類3（鉢I3） 大形の鉢形土器。扁平な球胴。球胴甕の胴下半部を切断した形状に近似している。口縁部は、内斜口縁環の口縁から外反する口縁部へ変化する。口唇部はコの字状である。底部は細かなヘラケズリが成され、肩部は横方向のていねいなヘラケズリが施される。口縁部はていねいに断続ヨコナデされる。内面はていねいに指押えされている。

鉢H類（鉢H） 小形の鉢形土器。深い壙形の器形で口縁部は、二段である。底部はまず、細かなヘラケズリで調整される。そのあと底部に縦方向の、胴部に横方向の細かなヘラミガキが施される。二段に作られた口縁部にも、波状のヘラミガキが施される。内面は、ていねいなヘラオサエがされ、そのあとヨコナデがされている。内外面には、黒色処理がされている。出目は明らかではないが、搬入土器である。

小形壺3（小壺3） 粘土を輪積みし内面を指、あるいはヘラによる押し当てで成形する。外面は、胴部を横方向のヘラケズリを行ない調整する。口縁部は断続ヨコナデによって作られている。口縁は、球胴の胴部から強く屈曲して作られている。口唇部内側が、僅かに屈曲する。小壺2に比べると、扁平化し、口縁部の開きが大きい。

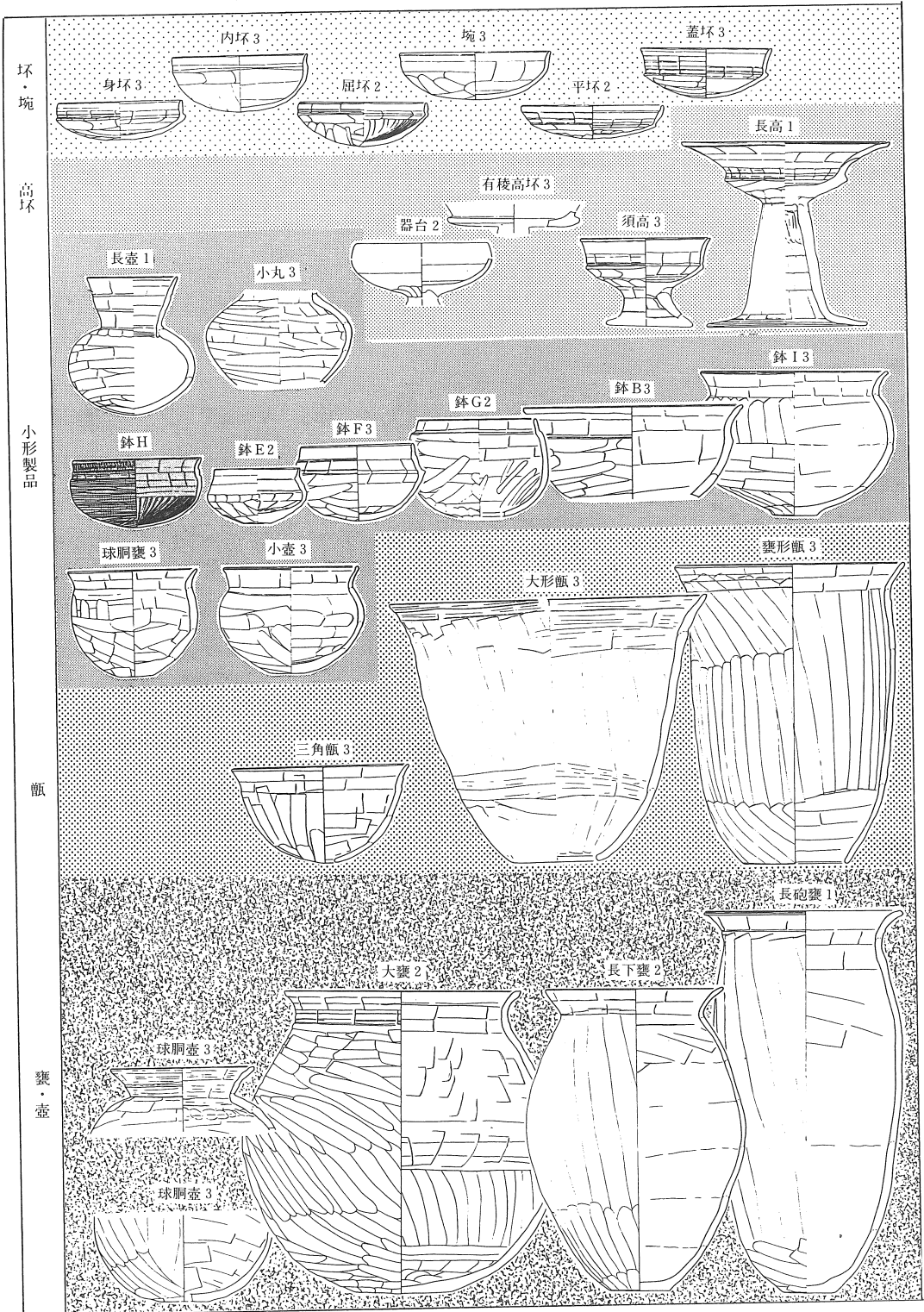
小形甕3（小甕3） 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで、胴下半を成形する。内面はヘラオサエで成形されたあと、胴上半は、断続的なヨコナデによって成形される。外面は、胴部を縦にヘラ削りし、横方向のヘラケズリで調整している。短い口縁部は、胴部から強く屈曲し外反する。

4 甑 甑の土師器全体に占める割合は、多くない。しかし3つの器種の設定が可能である。

三角甑3（三角甑3） 三角バケツに形態が近似する三角甑は、扁平化がさらに進む。底部を横方向にヘラケズリする特徴がある。口縁部はていねいにヨコナデされ、強い屈曲で曲がっている。底部の穿孔は、細く作られている。内面は、ヘラオサエによって成形されている。

甕形甑3（甕形甑3） 頸部のあまり締まらない、ずん胴の甕形の甑である。口縁部はくの字に屈曲している。外面は、縦にヘラケズリされ、底部のきわで再度縦にヘラケズリされる。口縁部は断続的にヨコナデされている。内面は、下から1/4の部分までヨコナデされており、胴部は縦に撫でられている。横にヘラオサエされている。作りには、ていねいさが見られない。

大形甑3（大形甑3） 大形の筒抜けの甑である。形状は、三角甑の大型化したもの。一直線に口縁部に達する。口縁部では短く、なだらかに屈曲し外反する。底部から1/5程度のところがヨコ



第 197 图 古墳時代第三期の出土土器分類

ナデされている。

5 甕・壺 甕・壺は、煮沸・貯蔵用として多く生産される。4つの器種の設定が可能である。

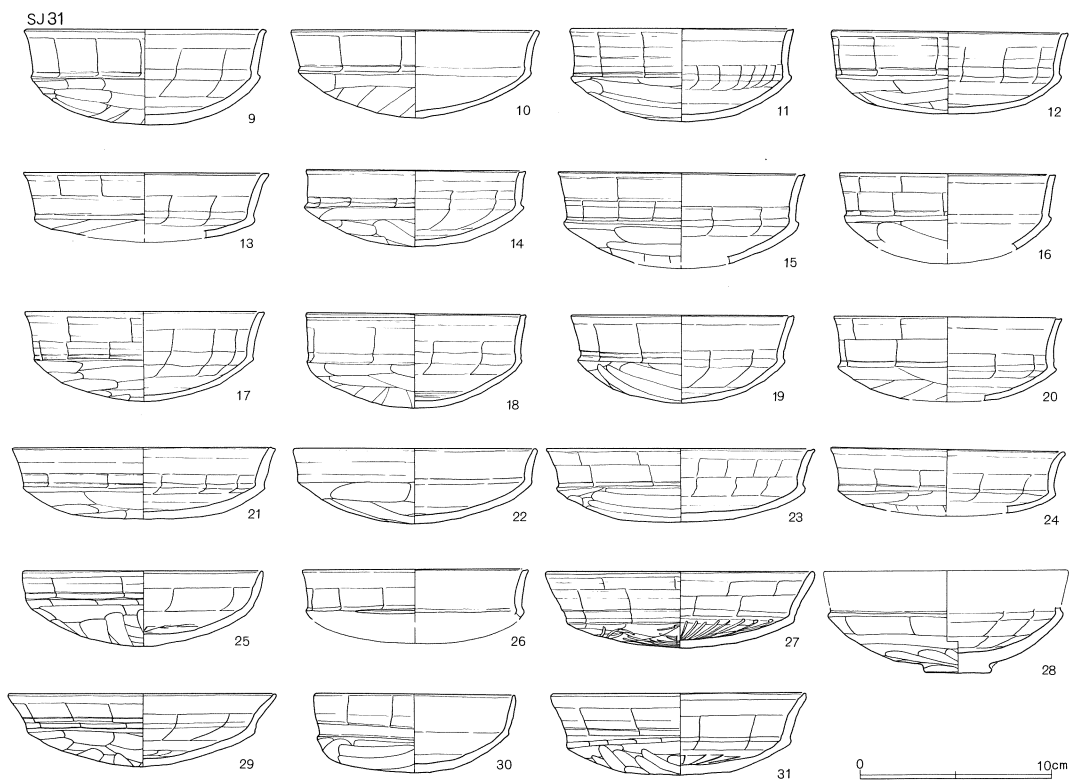
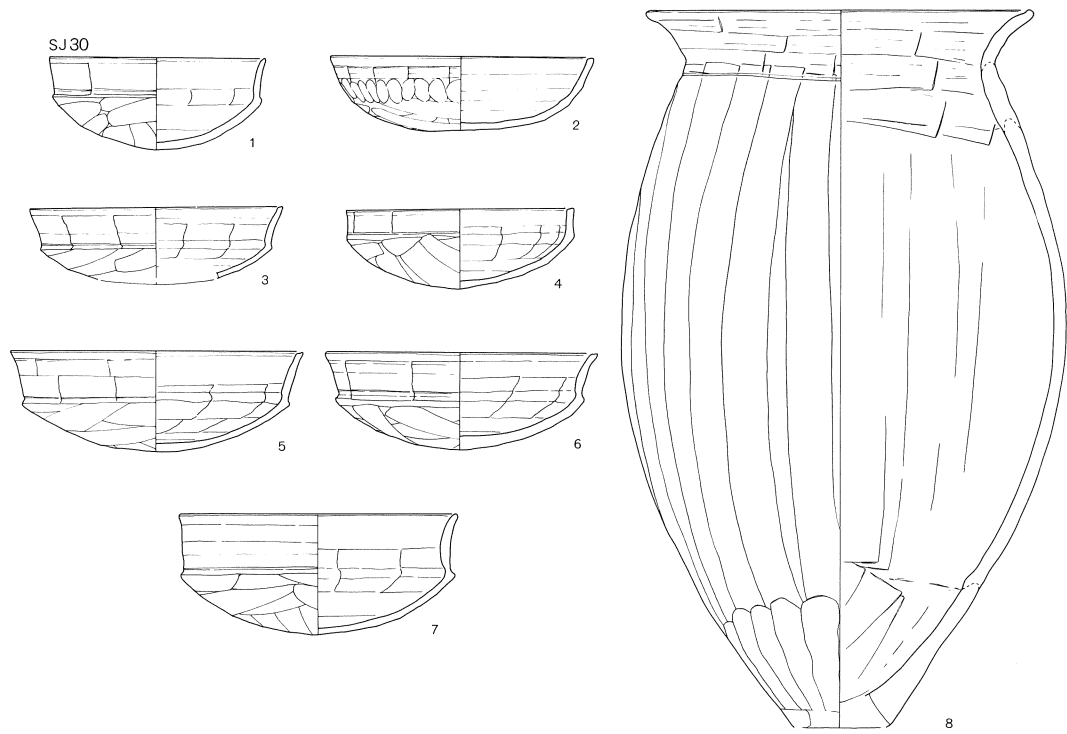
球胴壺（球胴壺） 胴の中位が欠損しており、形状はやや不明瞭だが、球胴の壺と考えられる。口縁部が二段に形成され、複合口縁状を成す。胴上半は、横にヘラケズリされ、胴下半は、縦にヘラケズリされる。内面はヘラオサエされ、口縁部はヨコナデされている。

大形甕2（大甕2） 口径の大きな大形の甕である。下膨れの胴部で、胴部の全面をヘラケズリされている。口縁部は緩く断続ヨコナデされている。内面は、ヘラオサエされており、口縁部はヨコナデである。点数は少ないが確実に系列をたどれる。

下膨長胴甕2（長下甕2） 長胴でしかも最大径が、胴下半にある下膨れの甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをしている。口縁部が、くの字に近く屈曲する。内面は、ヘラオサエのあと、ヨコナデが施されている。

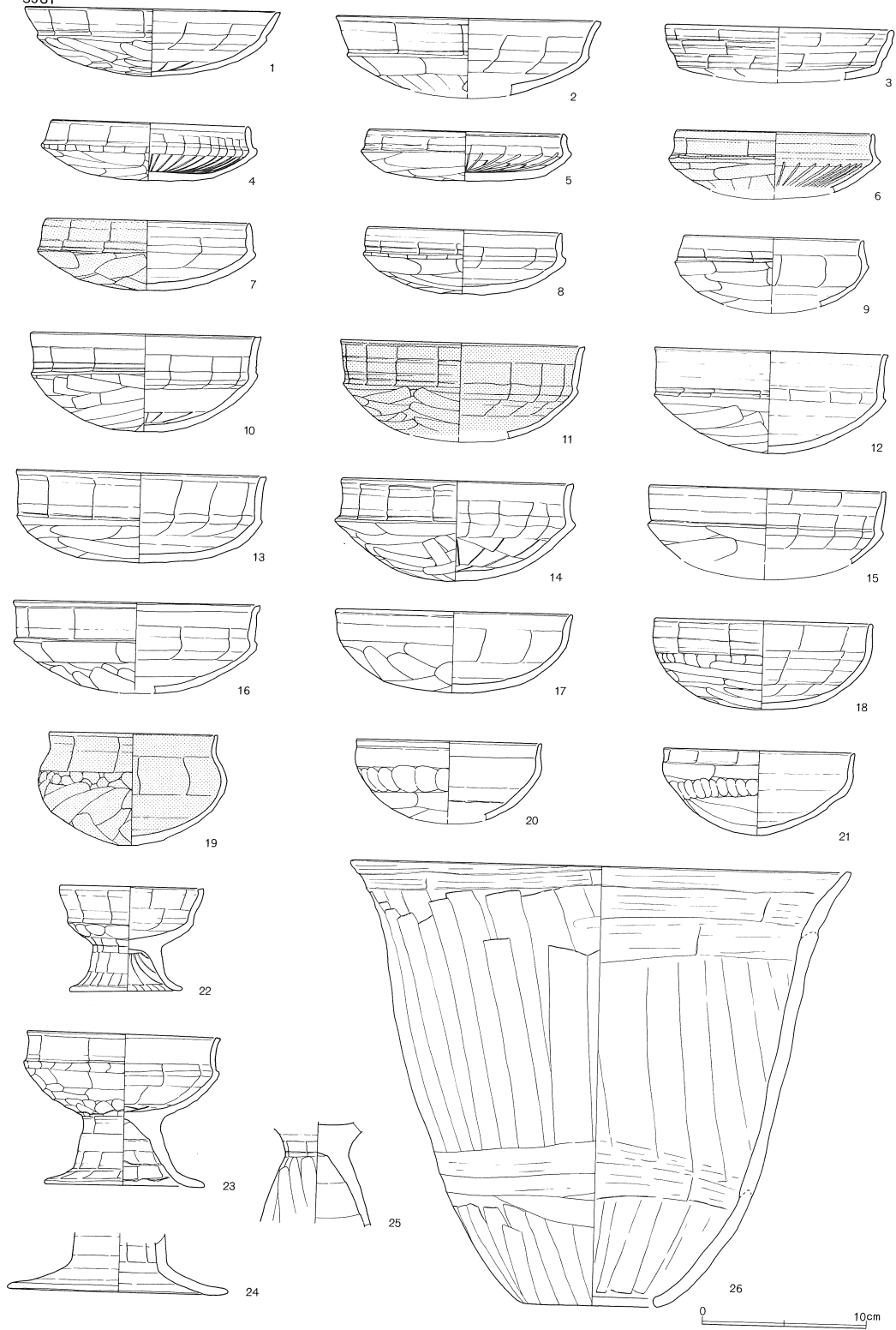
砲弾形長胴甕1（長砲甕1） 長胴でしかも最大径が、胴上半肩部にある甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをし、底部付近を斜め横に削っている。口縁部は、くの字に近く屈曲する。新しく出現してきた煮沸用具である。

古墳時代第三期として分類した土師器は、第二期に出現した須恵器模倣の器種を多く取り入れた土器組成を踏襲し、さらにいくつかの器種に新しい要素が加わり、第二期を変形させた形となっている。さらに長胴甕に新たな器種が出現することと、長脚高坏が出現することである。しかし総体としては、土器の変化は、暫移的な推移のなかにとらえられる。



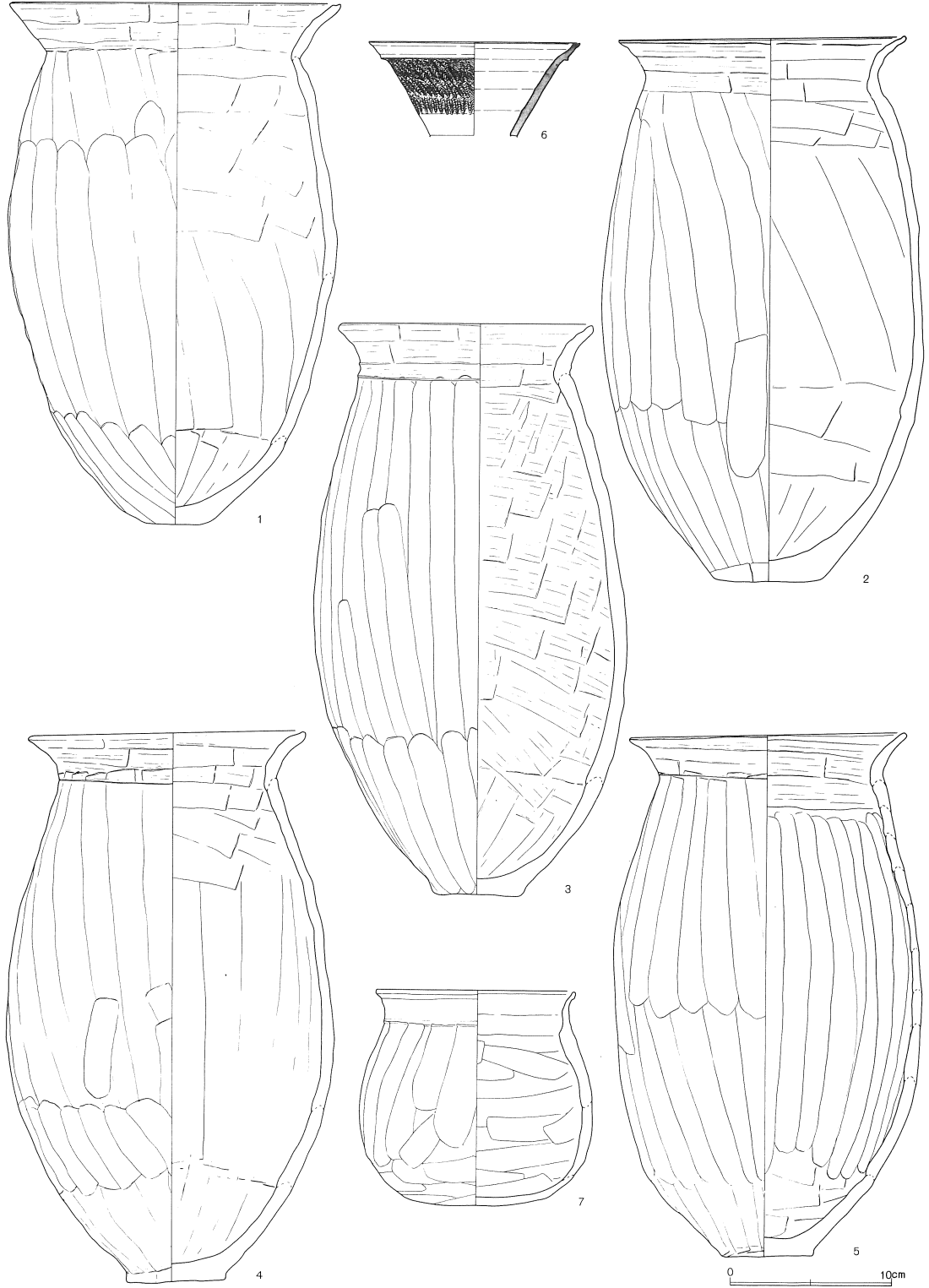
第 198 图 第 30 · 31(1)号住居跡出土遺物

SJ31

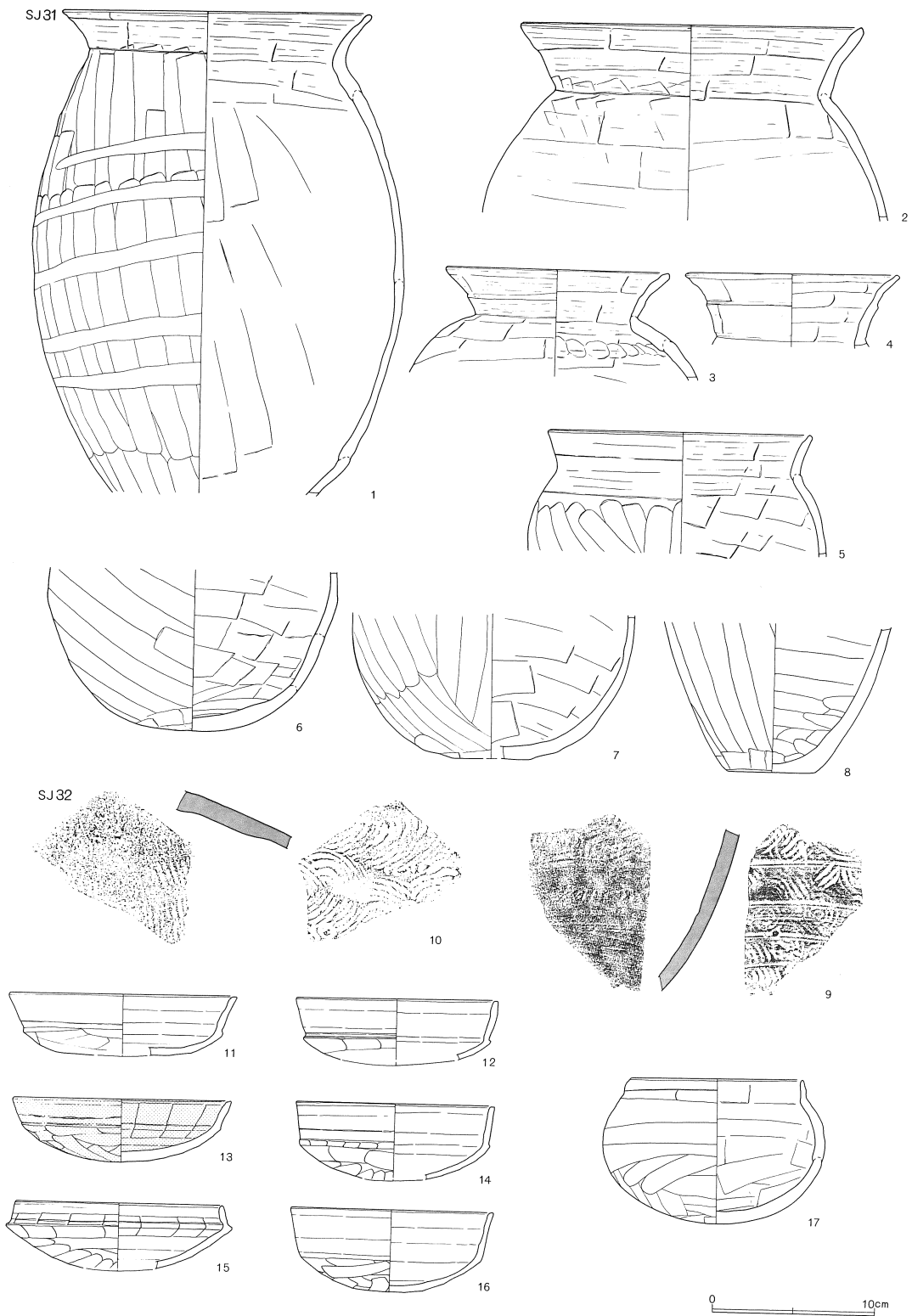


第 199 图 第31(2)号住居跡出土遺物

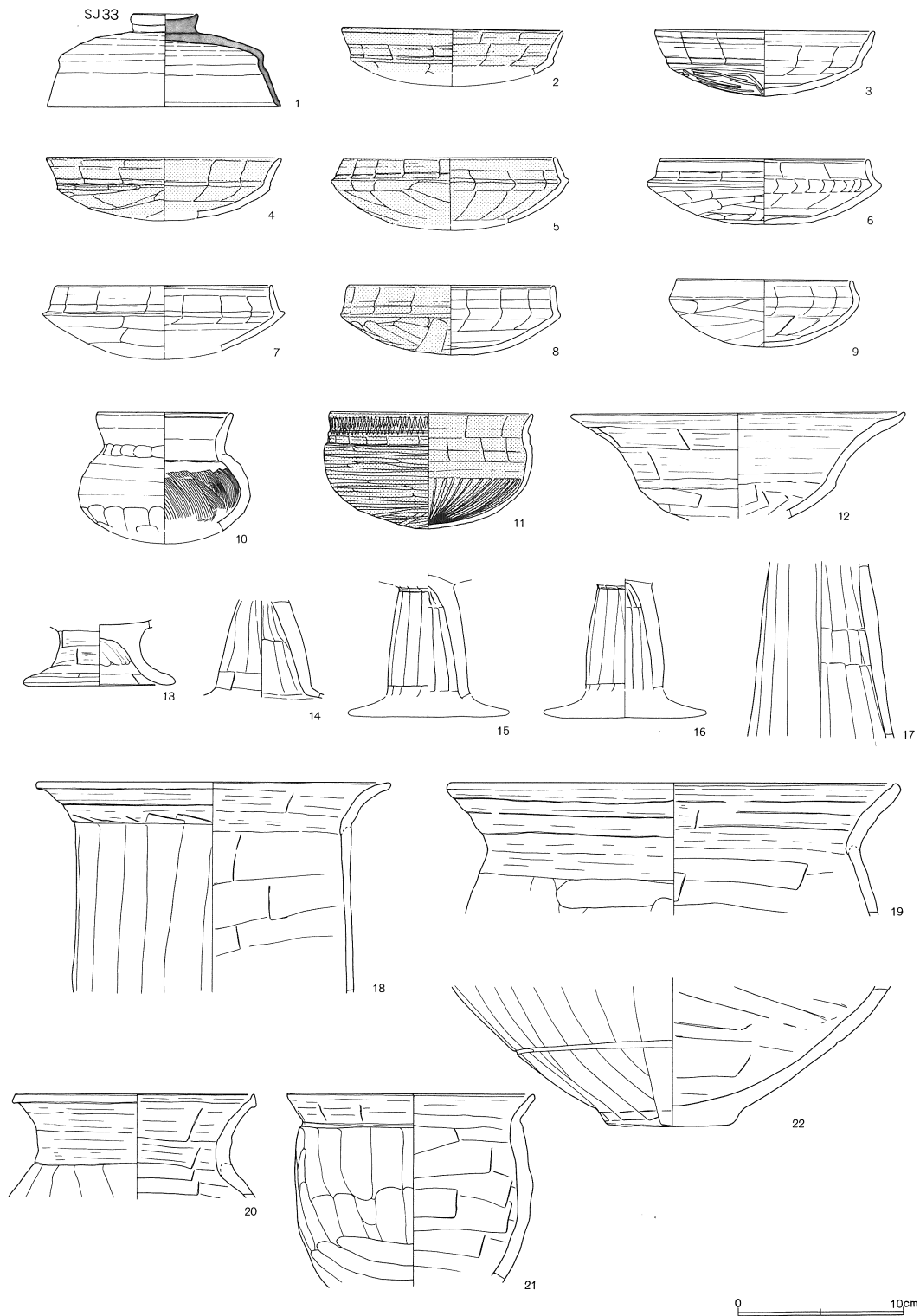
SJ31



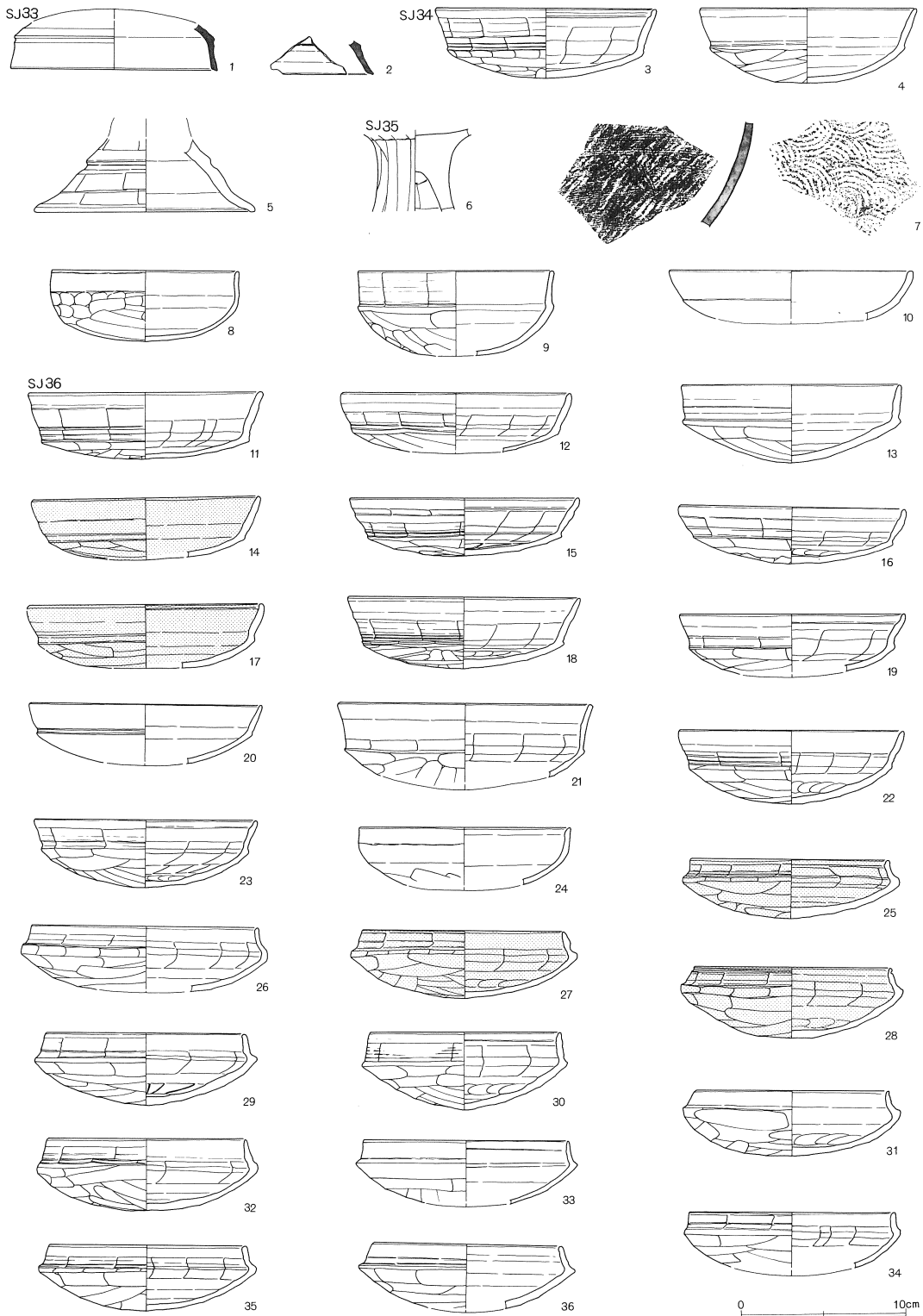
第 200 图 第31(3)号住居跡出土遺物



第 201 图 第31(4)·32号住居跡出土遺物

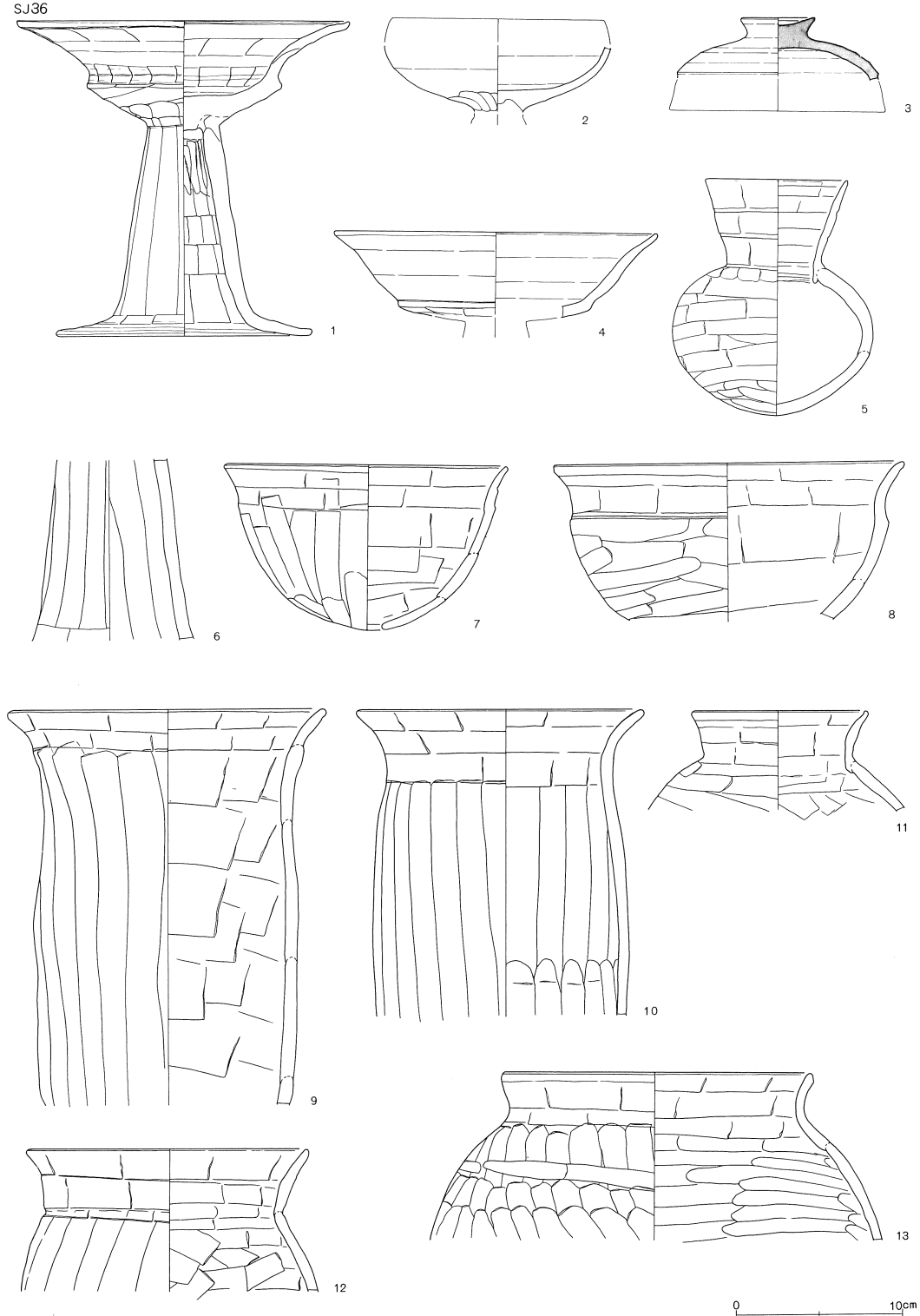


第 202 图 第33(1)号住居跡出土遺物

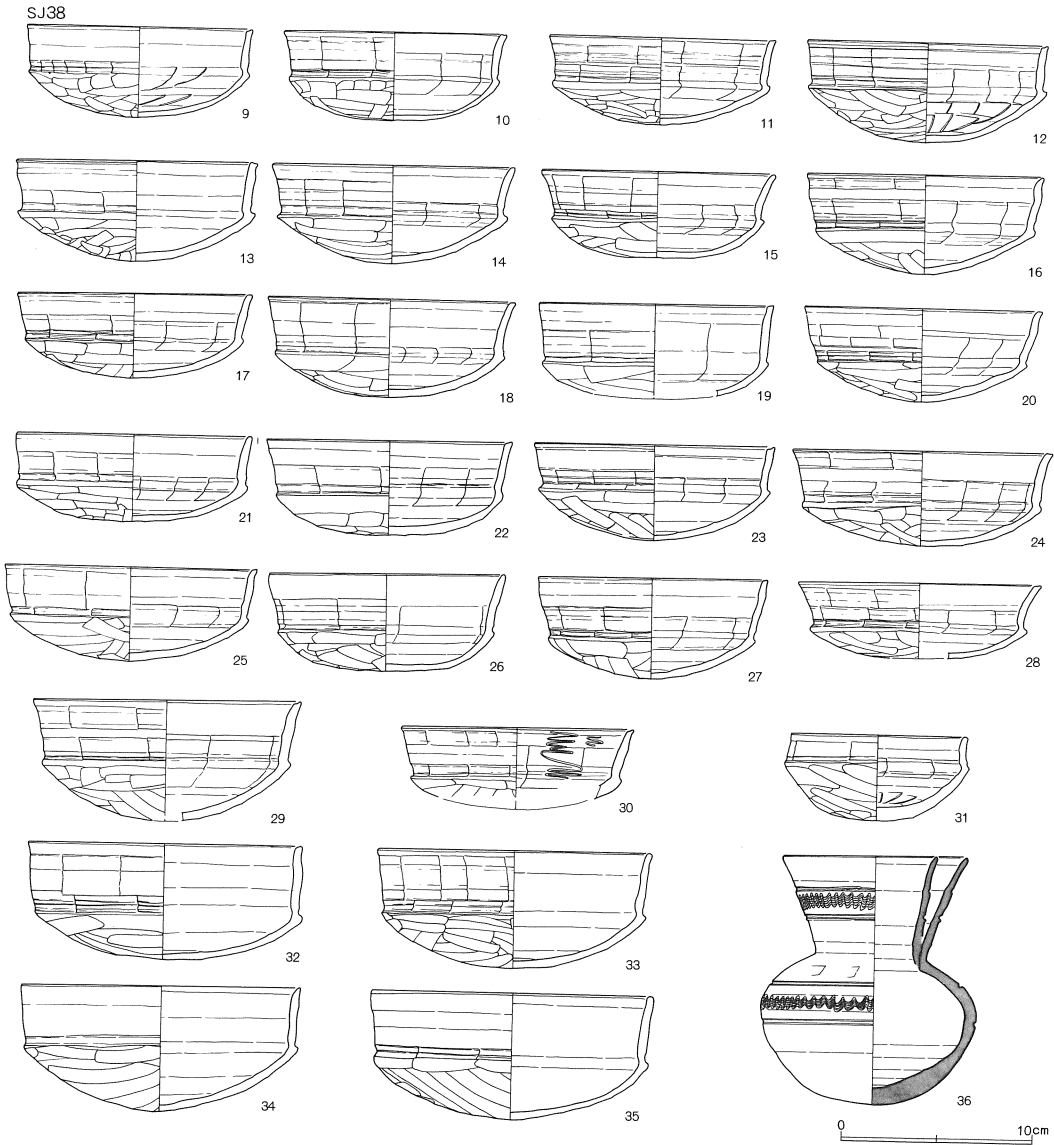
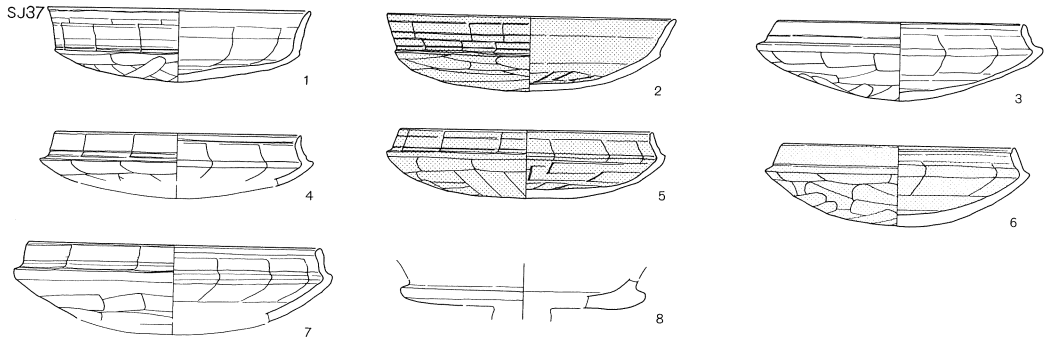


第 203 图 第 33(2)·34·35·36(1)号住居跡出土遺物

SJ36

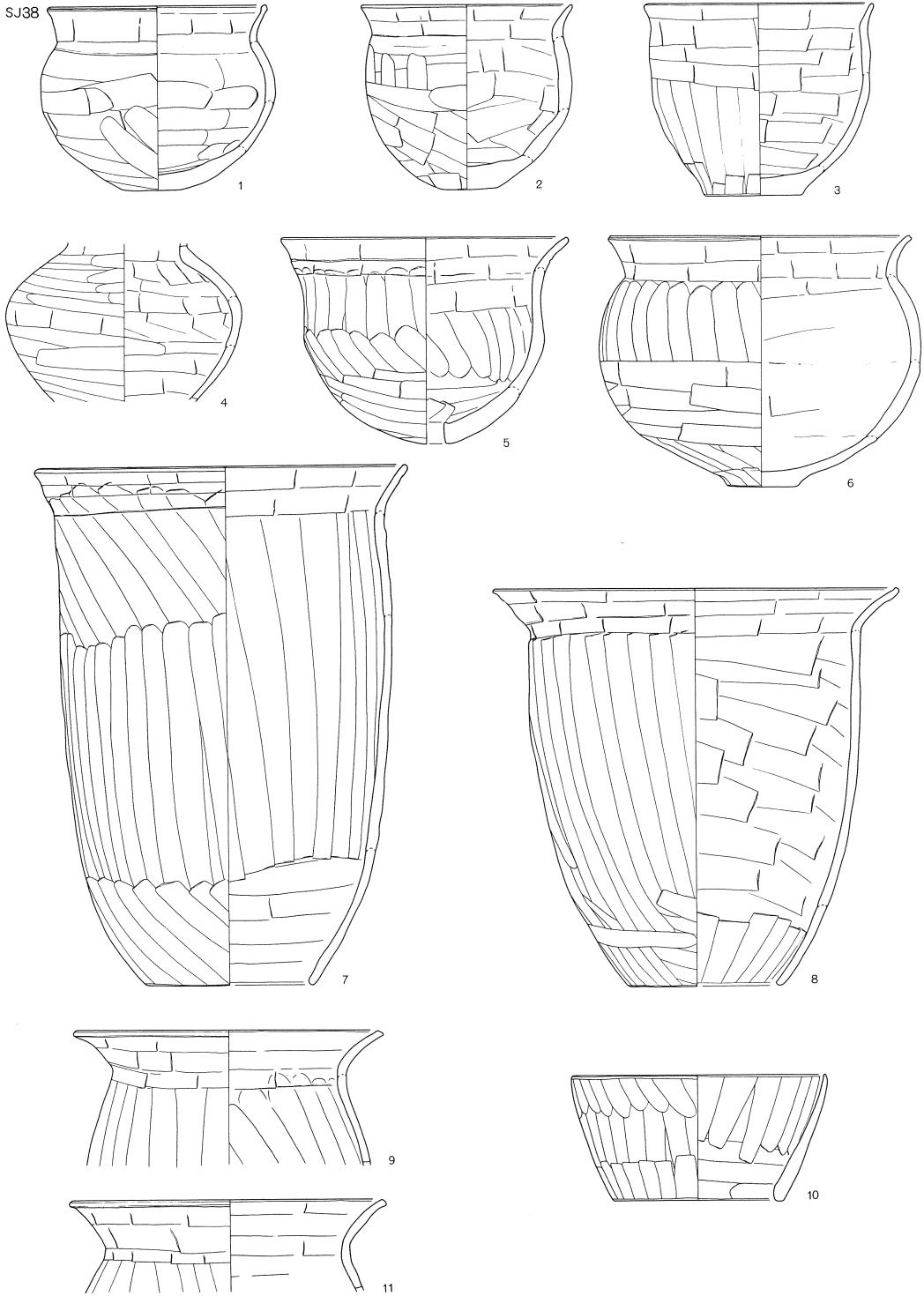


第 204 图 第36(2)号住居跡出土遺物

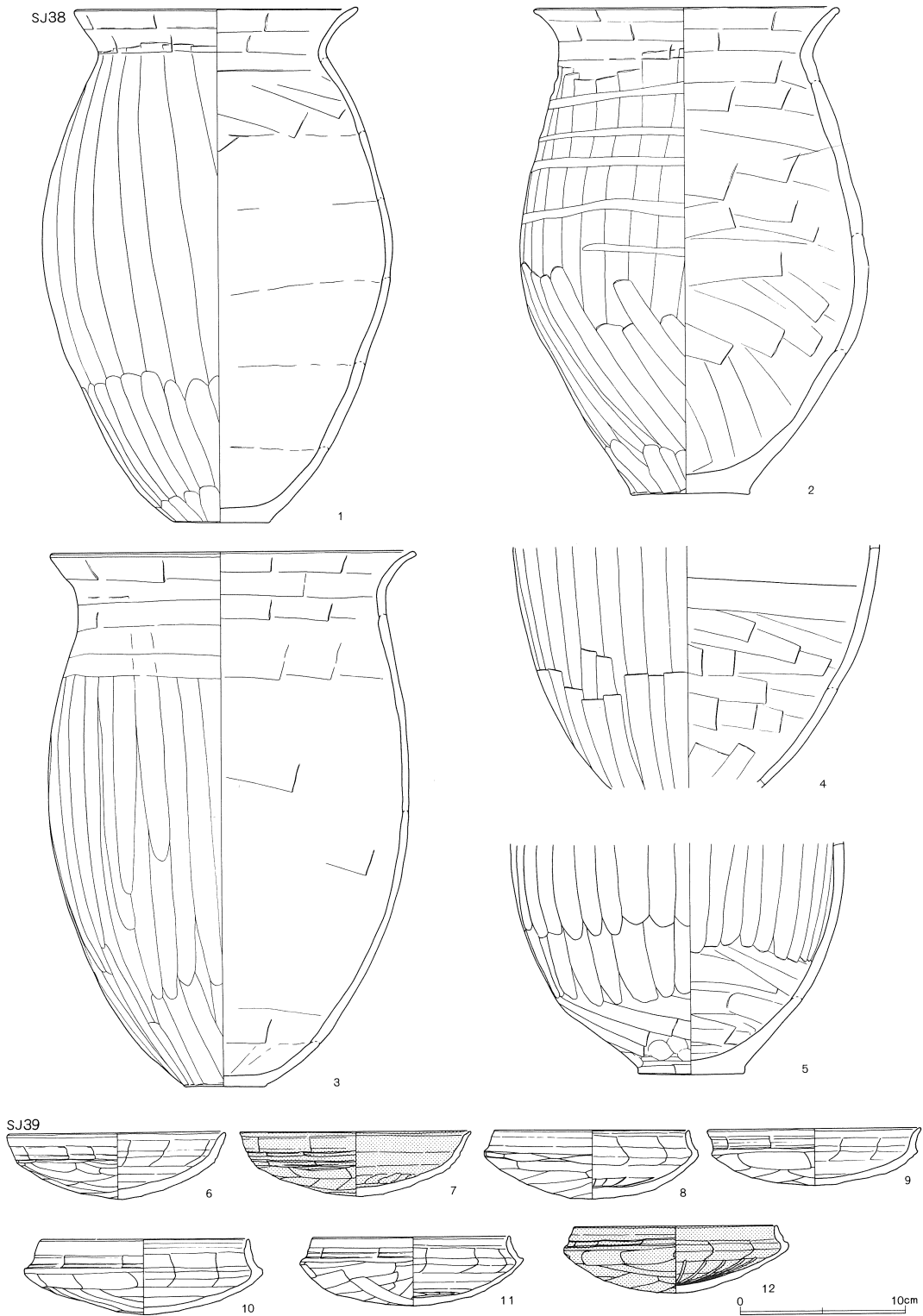


第 205 图 第 37·38(1)号住居跡出土遺物

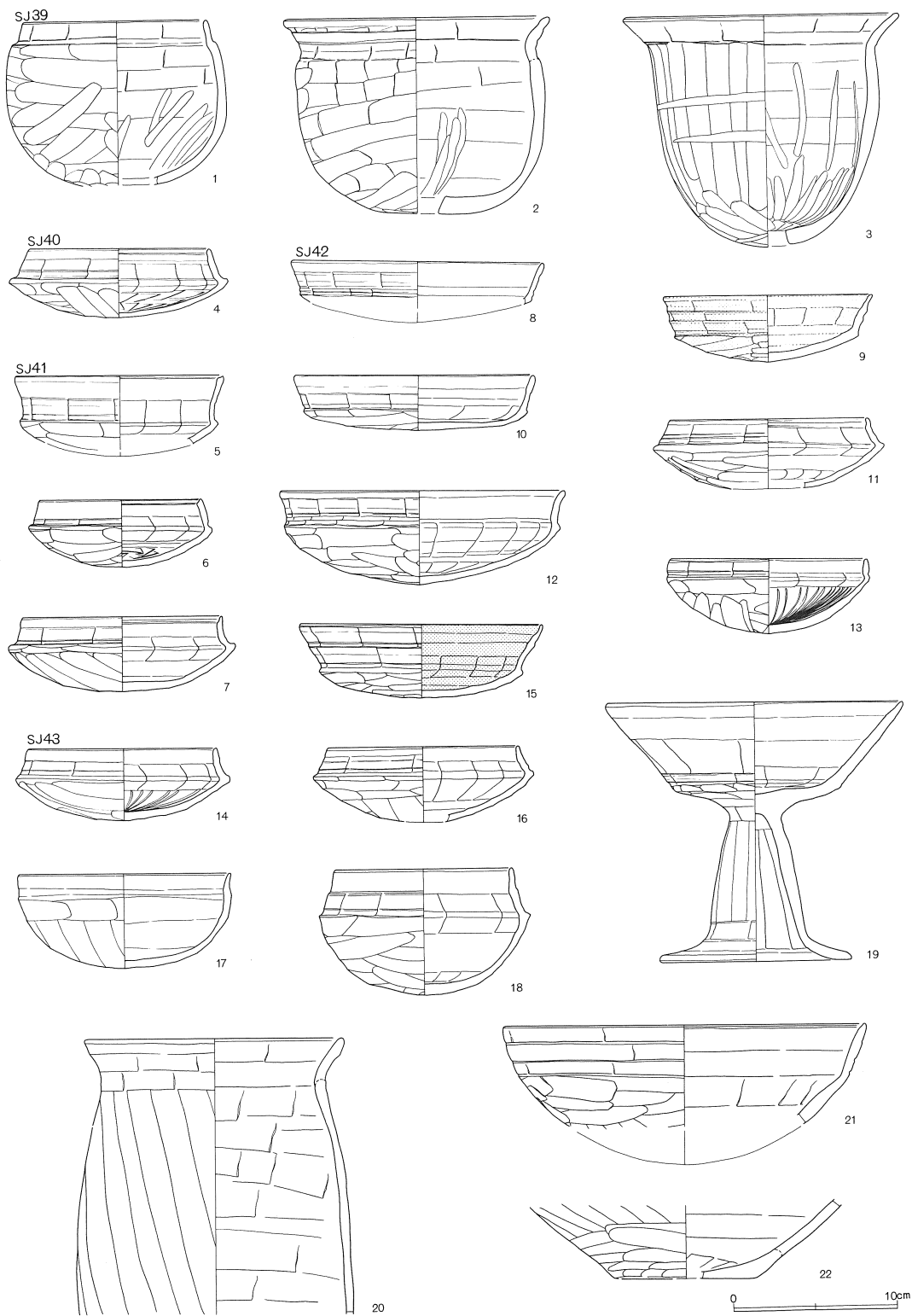
SJ38



第 206 图 第38(2)号住居跡出土遺物

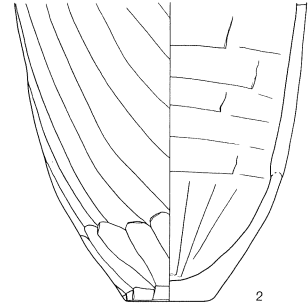
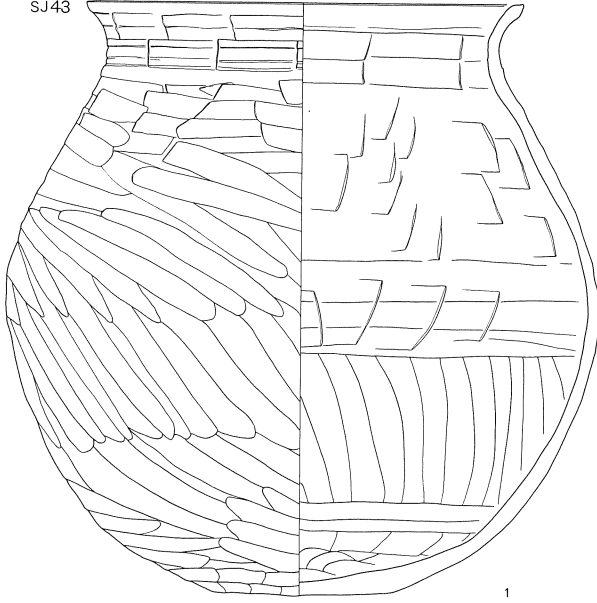


第 207 图 第38(3)・39(1)号住居跡出土遺物

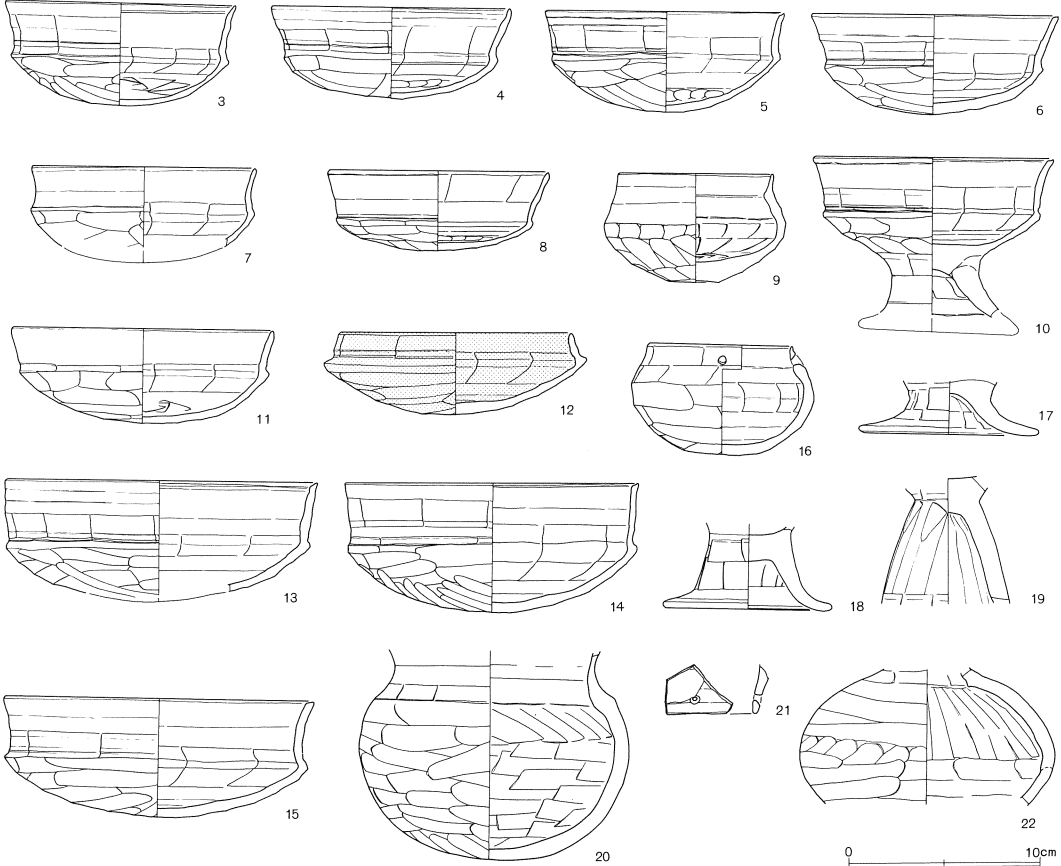


第 208 图 第39(2)·40·41·43(1)号住居跡出土遺物

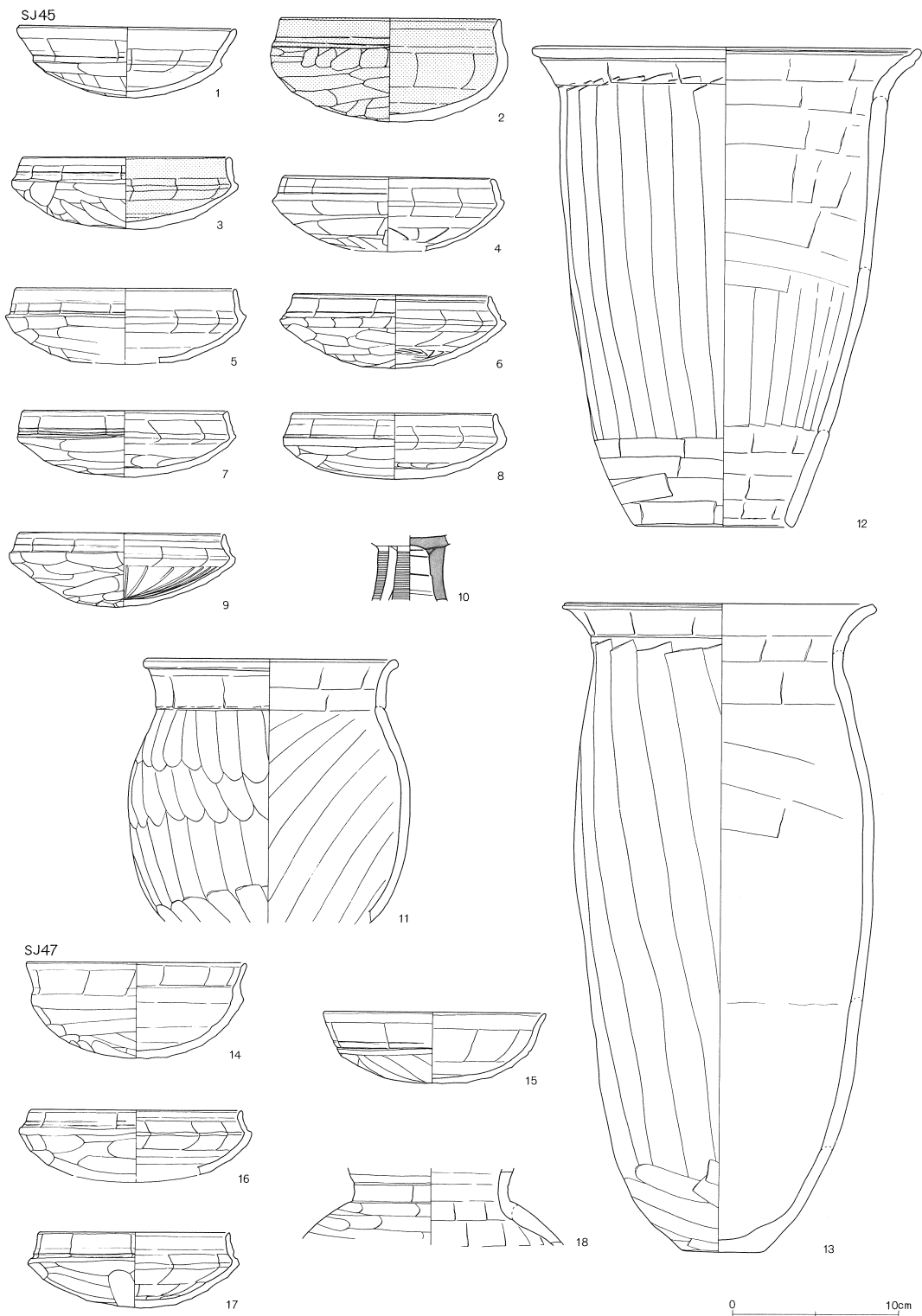
SJ43



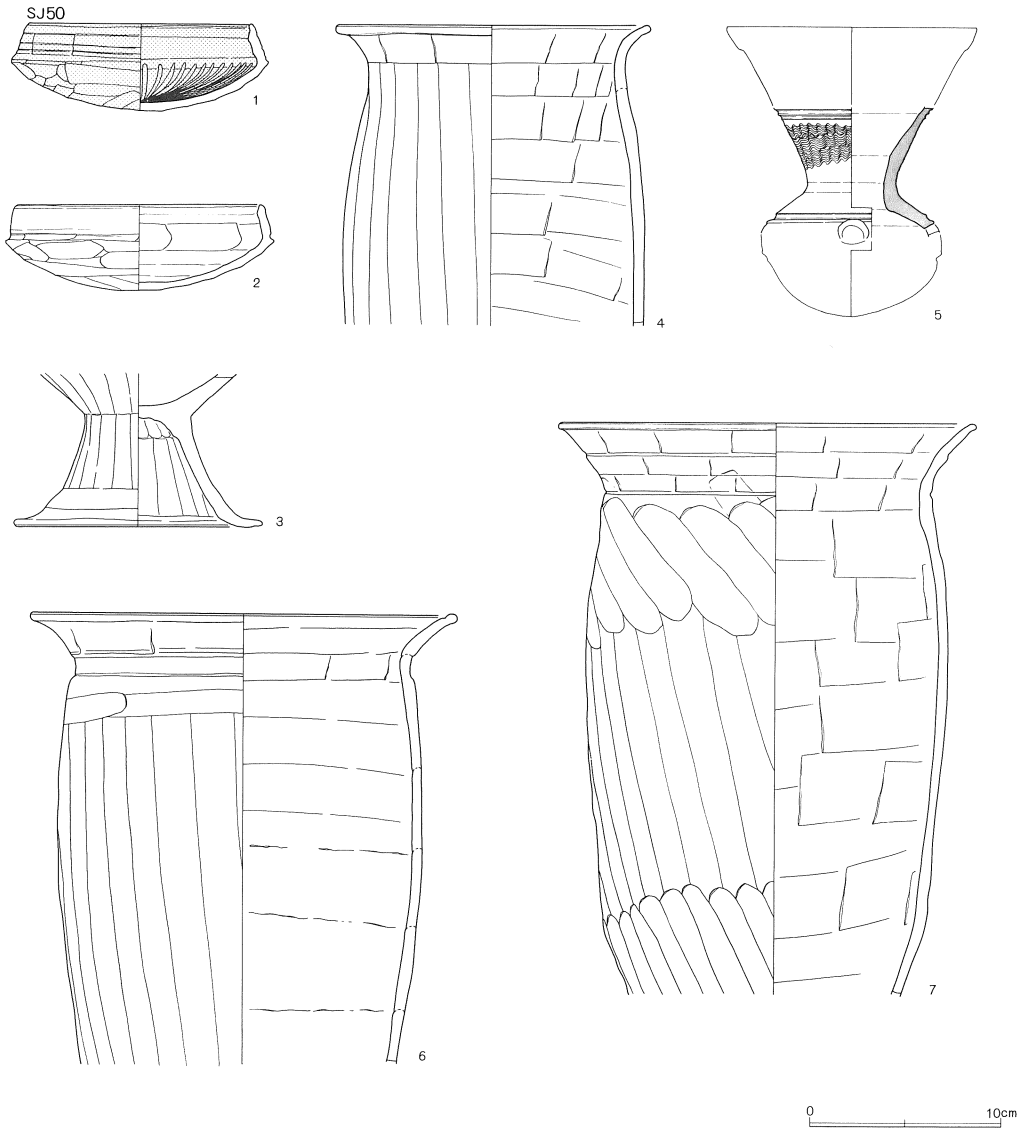
SJ44



第 209 图 第43(2)・44号住居跡出土遺物



第 210 图 第 45·47 号住居跡出土遺物



第 211 図 第50号住居跡出土遺物

第47表 第30号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 198 図								
1	蓋坏 3	11.5	10.6	4.9	260	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
2	平坏 2	14.0	13.2	4.0	300	1/2	底部ヘラケズリ→周辺指オサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
3	平坏 2	13.5	12.3	4.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8

第48表 第30号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	蓋坏3	12.1	12.1	4.2		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
5	蓋坏3	15.5	14.2	5.4		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
6	蓋坏3	14.5	13.3	5.2		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
7	蓋坏3	14.8	14.6	6.5	580	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
8	長下甕2	20.5		37.7	9,600	1/4	胴部縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面縦ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 1

第49表 第31号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 198 図								
9	蓋坏3	12.9	12.3	5.0	300	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
10	蓋坏3	13.3	12.5	4.7	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
11	蓋坏3	12.0	11.7	4.9		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
12	蓋坏3	12.6	12.0	4.3	300	1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
13	蓋坏3	13.0	11.8	3.6		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
14	蓋坏3	11.7	11.7	4.0		3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
15	蓋坏3	14.1	12.5	5.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
16	蓋坏3	11.5	11.0	4.9		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
17	蓋坏3	12.8	11.7	4.8		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
18	蓋坏3	11.7	11.5	5.0	340	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
19	蓋坏3	11.8	11.0	4.7	300	一部欠損	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
20	蓋坏3	12.0	11.6	4.5	300	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
21	蓋坏3	14.0	12.9	3.8		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
22	蓋坏3	13.0	12.5	4.0		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8

第50表 第31号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
23	蓋坏 3	14.2	13.3	3.9		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ（2段）	7.5 Y R 7 / 8
24	蓋坏 3	12.4	11.5	3.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
25	平坏 2	12.8	12.0	3.9	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 4 / 3
26	蓋坏 3	12.1	11.7			1/5	口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
27	平坏 2	14.3	12.0	4.0		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→細かなヘラミガキ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ→底部放射状ヘラミガキ。	5 Y R 5 / 6
28	蓋坏 3	13.0	12.5	5.4		1/3	底部ヘラケズリ柱状部分削り残し→周辺ヘラケズリ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
29	平坏 2	14.3	12.2	3.9	300	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
30	蓋坏 3	10.7	10.2	4.1	200	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
31	蓋坏 3	13.6	12.0	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 2
第 199 図								
1	身坏 3	15.4	14.3	4.3		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
2	蓋坏 3	16.5	15.0	5.0		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
3	平坏 2	14.2	12.5	3.4		1/6	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ（2段）。	5 Y R 6 / 8
4	身坏 3	12.3	14.5	3.6		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→放射状暗文。	2.5 Y R 6 / 6
5	身坏 3	12.2	13.1	3.1		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→放射状暗文。	2.5 Y R 5 / 6
6	身坏 3	12.4	13.2	4.2		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→放射状暗文。	内外面黒色処理 7.5 Y R 5 / 2
7	身坏 3	12.7	13.5	4.4		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
8	身坏 3	12.1	12.6	4.0		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
9	身坏 3	11.2	12.1	4.6		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
10	蓋坏 3	14.3	14.1	6.0		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
11	蓋坏 3	15.2	14.6	6.1	600	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 6
12	蓋坏 3	14.4	14.5	6.3		3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6

第51表 第31号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
13	蓋坏 3	15.5	15.2	5.6		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
14	蓋坏 3	14.5	15.0	6.2	600	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
15	蓋坏 3	14.6	14.6	5.6		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
16	蓋坏 3	15.2			(600)	1 / 2	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
17	平坏 2	14.7	14.0	5.0		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
18	平坏 2	13.5	13.2	5.5	420	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ユビオサエ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ	5 Y R 6 / 8
19	鉢 E 2	10.5	11.6	7.0	420	完形	底部ヘラケズリ→周辺ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
20	平坏 2	11.5	11.4	5.0	320	1 / 2	ヘラケズリ→ユビオサエ→ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
21	平坏 2	12.0	11.8	5.2	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
22	須高 3	8.9	7.8	6.5	140	一部欠損	坏部底部ヘラケズリ→断続ヨコナデ→脚部断続ヨコナデ→脚裾部断続ヨコナデ。内面坏底部ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→脚内面ヘラケズリ→脚裾部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
23	須高 3	12.0	12.3	9.4	380	完形	坏部底部ヘラケズリ→断続ヨコナデ→脚部断続ヨコナデ→脚裾部断続ヨコナデ。内面坏底部ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→脚内面ヘラケズリ→脚裾部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
24	長高 1					1 / 5	脚裾部断続ヨコナデ。内面脚裾部断続ヨコナデ	5 Y R 7 / 8
25	須高 3					1 / 5	→縦ヘラケズリ。内面横ヘラケズリ	2.5 Y R 6 / 8
26	大型甗 3	31.1	8.4	27.0	9,200	5 / 6	胴部縦ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面縦ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
第 200 図								
1	長下甗 2	20.7	3.5	32.5	6,100	一部欠損	肩部縦ヘラケズリ→胴部斜めヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面肩部ナデアゲ→口縁部ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
2	長下甗 2	18.1	6.8	34.0	6,100	4 / 5	胴部縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部横ヘラオサエ→縦ヘラナデアゲ。胴部縦ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 4
3	長下甗 2	15.9	5.7	35.4	5,800	3 / 4	胴部縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ→底部ナデアゲ。	2.5 Y 8 / 2
4	長下甗 2	17.5	6.4	34.1	6,100	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→胴下位縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部縦ナデアゲ→肩部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 4
5	長下甗 2	17.5	5.8	32.6	5,600	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ（3段）→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部横ヘラナデ→口縁部断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 2

第52表 第31号住居跡出土土器④

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
6	須恵器甗	13.3				破片	ロクロ成形→横位波状文	須恵器10Y7/1
7	小壺3	12.0	4.0	13.4	1,400	2/3	胴部縦ヘラケズリ→胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→胴部縦ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR6/8
第201図								
1	長下甗2	19.3				2/3	胴部縦ヘラケズリ→胴部ヨコナデ（5段）→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR7/3
2	大甗2	21.2				1/5	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10YR8/3
3	球胴壺3	14.0				1/8	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR4/6
4	球胴壺3	13.3				1/5	口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR7/6
5	球胴壺3	16.5				1/5	口縁部断続ヨコナデ→胴部縦ヘラケズリ。内面胴部横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR7/8
6	球胴壺3		9.0			1/5	胴下半斜ヘラケズリ→底部ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→ヘラケズリ。	5YR7/6
7	球胴壺3		5.0			1/5	胴下半斜ヘラケズリ→底部ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→ヘラケズリ。	7.5YR8/6
8	長砲甗1		5.5			1/10	胴下半斜ヘラケズリ→底部ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→ヘラケズリ。	5YR5/2
9	須恵甗					破片	平行線タタキ→ヘラケズリ。同心円文タタキ→横カキメ。	須恵器5PB7/1

第53表 第32号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第201図								
10	須恵甗					破片	平行線タタキ。内面同心円文タタキ。	須恵器N4/0
11	平环2	14.3	12.5	3.9		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR5/6
12	蓋环3	12.6	12.9	4.1		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5YR7/3
13	平环2	13.6	12.5	4.0		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面→断続ヨコナデ。	5YR3/4
14	蓋环3	12.5	12.0	4.9		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR6/8
15	身环3	13.0	14.2	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR5/6
16	蓋环3	12.3	11.2	5.1		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR6/8
17	鉢G2	10.8	4.5	9.0	800	4/5	胴部横ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR5/8

第54表 第33号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 202 図								
1	須有紐蓋				420	一部欠	ロクロナデ成形。内面ロクロナデ成形。	須恵器蓋2.5YR 4 / 1
2	平坏 2	13.5	12.5	3.6		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR 5 / 6
3	平坏 3	13.5	12.1	4.1		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→細かなヘラミガキ。内面断続ヨコナデ→ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR 6 / 6
4	平坏 2	14.4	13.1	4.9		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR 4 / 2
5	身坏 3	13.2	14.6	4.4		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR 4 / 2
6	身坏 3	13.0	14.4	4.0		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR 6 / 6
7	身坏 3	13.3	14.9	4.5		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 5 / 8
8	身坏 3	12.2	13.5	4.3	300	3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR 6 / 8
9	身坏 3	11.0	11.7	4.2	200	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 6 / 8
10	鉢G 2	8.5	8.0	8.0		3 / 10	胴部ヨコナデ→頸部指オサエ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ハケメ→口縁部ヨコナデ。	5YR 7 / 4
11	鉢H	12.5	12.8	7.1	580	4 / 5	胴部ヨコナデ→底部ヘラケズリ→細かな横ヘラミガキ→底部ヘラミガキ→口縁部断続ヨコナデ→口縁部鋸歯状ヘラミガキ。内面底部細かなヘラミガキ→口縁部断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR 3 / 3
12	長高 1	20.5	12.0			1 / 3	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段） 内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR 7 / 6
13	須高 3					2 / 5	ヨコナデ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	5YR 7 / 6
14	須高 3					2 / 5	縦ヘラケズリ→周辺断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 6 / 8
15	長高 1						縦ヘラケズリ→周辺断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	
16	長高 1					1 / 5	縦ヘラケズリ→周辺断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	2.5YR 6 / 8
17	長高 1					1 / 10	縦ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	5YR 7 / 4
18	長砲壺 1	21.7				1 / 3	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR 6 / 6
19	大甕 2	27.5				1 / 8	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR 5 / 6
20	球胴壺 3	14.1				1 / 5	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10YR 7 / 3
21	球胴壺 3	15.1				2 / 3	胴部縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5YR 5 / 8
22	無花壺 3		7.5			1 / 3	縦ヘラケズリ→ヨコナデ（一条）。内面ヘラオ	7.5YR 7 / 8

第55表 第33号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第203図								
1	須坏蓋A					破片	ロクロ成形→外面に全体に自然釉がかかる。	須恵器N5/0
2	破片					破片	ロクロ成形	10BG6/1

第56表 第34号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第203図								
3	蓋坏3	13.6	12.1	4.4	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR8/4
4	蓋坏3	13.3	12.1	4.6	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR6/8
5	長高1					破片	裾部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR6/6

第57表 第35号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第203図								
6	長高1					破片	縦ヘラケズリ→内面ヘラケズリ	2.5YR5/8
7	破片					破片	平行線文タタキ。内面同心円文タタキ。	須恵器N8/0
8	平坏2	11.6	11.8	4.4	300	完形	周辺ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR7/8
9	蓋坏3	12.1	12.3	5.3		1/5	周辺ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR5/8
10	平坏2	15.0	13.5	3.4		1/6	口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR7/6

第58表 第36号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第203図								
11	平坏2	14.5	13.0	4.1		1/3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
12	平坏2	14.2	12.8	3.8		1/6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/8
13	蓋坏3	13.6	13.5	4.9	360	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5YR8/4
14	平坏2	14.0	12.1	3.9	300	1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5YR6/6
15	平坏2	14.3	12.0	3.6	300	1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5YR5/8
16	平坏2	14.0	12.4	4.4	300	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5YR7/8

第59表 第36号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
17	平環 2	14.5	13.3	4.0		1 / 5	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 7 / 6
18	蓋環 3	14.3	12.4	4.4	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
19	平環 2	13.9	12.7	3.9		1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
20	平環 2	14.4	13.3	3.8		1 / 3	口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
21	蓋環 3	15.6	14.8	5.3		破片	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
22	平環 2	13.9	12.6	4.4	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
23	蓋環 3	13.8	12.8	4.2	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 6
24	平環 2	13.0	13.0	4.0		破片	底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 4 / 6
25	身環 3	12.3	13.4	3.6		3 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 8
26	身環 3	14.0	15.1	4.1		1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
27	身環 3	12.6	14.0	4.2	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 4 / 4
28	身環 3	12.2	13.8	4.2		1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 5 / 4
29	身環 3	12.4	13.8	4.4	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
30	身環 3	11.9	12.6	4.8	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
31	身環 3	12.0	13.5	4.0		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
32	身環 3	12.3	13.6	4.4		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
33	身環 3	12.6	13.7	4.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
34	身環 3	12.7	13.5	3.8		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 6
35	身環 3	12.3	13.0	4.1		1 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
36	身環 3	11.7	13.5	4.1		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
第 204 図								
1	長高 1	20.5	12.0	19.2	400	3 / 5	坏底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→脚部横ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
2	器台 1	13.0				1 / 5	底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8

第60表 第36号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
3	須有紐蓋					1/4	ロクロ成形	須恵器蓋 N6/0
4	長高1	19.7	11.9			1/5	底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR5/8
5	長壺1	8.6		14.3	560	完形	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR7/8
6	長高1					1/5	縦ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	7YR8/4
7	三角甌3	17.4		10.1		1/2	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→底部ヘラケズリ。内面ヨコヘラオサエ。	7.5YR8/3
8	鉢B3	21.4				1/5	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ。	5YR6/8
9	長砲甕1	19.4				2/3	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ。	7.5YR7/8
10	長砲甕1	17.5				1/2	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面縦ナデアゲ。	10R4/6
11	球胴壺3	10.3					肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ。→断続ヨコナデ。	2.5YR6/6
12	身下甕2	17.1				1/5	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
13	大甕2	19.0				1/5	肩部縦ヘラケズリ→ヨコナデ（一条）→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR6/8

第61表 第37号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第205図								
1	平环2	14.0	13.1	4.0		7/8	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR7/6
2	平环2	15.4	14.1	4.0	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5Y5/6
3	身环3	13.3	15.2	4.2		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR7/8
4	身环3	13.2	14.6	3.5		破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR7/6
5	身环3	13.5	14.9	3.6		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR4/2
6	身环3	12.5	14.0	4.2		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR2/1
7	身环3	15.7	17.0	4.7		1/7	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/6
8	有稜高3					破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR6/8

第62表 第38号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 205 図								
9	蓋坏 3	12.0	11.8	4.9	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 6
10	蓋坏 3	11.8	11.3	4.7		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 8
11	蓋坏 3	12.0	11.6	4.6	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
12	蓋坏 3	12.9	12.7	5.3	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 6
13	蓋坏 3	12.8	12.6	5.4	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6
14	蓋坏 3	12.9	12.3	5.2		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
15	蓋坏 3	12.5	11.4	4.6	360	2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 6
16	蓋坏 3	12.6	11.6	5.3	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
17	蓋坏 3	12.5	11.7	4.5		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 8
18	蓋坏 3	13.1	12.3	5.2	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
19	蓋坏 3	12.4	12.1	5.0		1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 6
20	蓋坏 3	12.7	11.2	5.0	360	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 9 / 8
21	蓋坏 3	12.5	12.3	4.5	360	7 / 8	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
22	蓋坏 3	13.1	12.1	5.0		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
23	蓋坏 3	12.7	12.4	5.1	360	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
24	蓋坏 3	13.8	12.7	4.9		一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 8
25	蓋坏 3	13.4	12.7	5.0		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
26	蓋坏 3	12.1	11.0	5.1	380	1 / 8	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
27	蓋坏 3	12.2	11.0	5.3	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6
28	蓋坏 3	12.9	11.5	3.9		1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 6
29	蓋坏 3	14.3	13.2	5.4		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
30	蓋坏 3	12.4	11.3	4.3		1 / 8	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→口縁部ジグザグのヘラミガキ。	2.5Y R 6 / 6
31	蓋坏 3	9.4	9.9	3.0	160	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 7 / 6

第63表 第38号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成(整)形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
32	蓋環 3	14.6	14.3	6.1	640	4/5	ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5YR 5/8
33	蓋環 3	14.5	14.0	6.2	600	完形	ヨコナデ。内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5YR 8/6
34	蓋環 3	14.8	14.6	6.7	620	完形	ヨコナデ。内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ	2.5YR 6/8
35	蓋環 3	15.0	14.6	6.7	660	一部欠損	ナデ。内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナ	5YR 6/6
36	須恵器 甗	9.8			500	完形	ロクロ成形→胴部・口縁部波状文→胴部口縁部 波状文をはさむ2条の沈線。	N 7/0
第 206 図								
1	小壺 3	13.2	3.0	11.1	1,100	3/4	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR 5/8
2	球胴甕 3	12.7	3.0	11.1	500	完形	胴部横ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ→口縁 部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続	5YR 7/4
3	小甕 3	13.8	5.9	11.6	800	9/10	ヨコナデ。 胴部縦ヘラケズリ→肩部・口縁部断続ヨコナデ 内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR 7/6
4	小丸 3					1/4	細かな横ヘラケズリ。内面ヘラオサエ。	7.5YR 7/8
5	小甕 1	17.2		12.3	1,200	完形	胴上半縦ヘラケズリ→胴中位斜ヘラケズリ→底 部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナ	5YR 7/4
6	鉢 1 3	18.3	4.2	15.0	2,200	4/5	デアゲ→断続ヨコナデ。 胴上半縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→胴中 位横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナ	2.5YR 6/8
7	甕形甕 3	22.4	2.9	30.9	6,900	一部欠損	デアゲ→断続ヨコナデ。 縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断 続ヨコナデ。内面ナデアゲ→底部横ヘラオサエ	5YR 8/4
8	大型甕 3	24.5	9.3	23.7	5,200	一部欠損	→口縁部ヨコナデ。 縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断 続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→底部縦ヘラオ	2.5YR 6/8
9	長砲甕 1	18.6				1/10	サエ→口縁部ヨコナデ。 縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビ ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	10R 5/8
10	甕形甕 3					1/4	ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。 縦ヘラケズリ。内面ヨコナデ→縦ヘラオサエ。	7.5YR 8/8
11	長砲甕 1	19.1				1/10	ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。 縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビ ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR 7/4
第 207 図								
1	長下甕 2	17.5	5.9	31.4	6,000	4/5	胴部縦ヘラケズリ→胴下半部縦ヘラケズリ→口 縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→胴上半部ヘ	2.5YR 7/8
2	長下甕 2	18.6	7.3	29.6	5,300	一部欠損	ラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。 胴部縦ヘラケズリ→胴下半部斜ヘラケズリ→胴 上半部ユビナデ(5条)→口縁部断続ヨコナ	2.5YR 6/8
3	長下甕 2	22.5	4.9	32.6	6,000	3/4	デ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。 胴部縦ヘラケズリ→胴下半部斜ヘラケズリ→肩 部・口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口	5YR 6/8

第64表 第38号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	長下甕 2					1 / 5	縁部断続ヨコナデ。 胴部縦ヘラケズリ→胴下半部縦ヘラケズリ。内面ヘラオサエ。	5 Y R 7 / 6
5	長下甕 2		6.5			1 / 3	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面ヘラオサエ→縦ナデアゲ。	2.5 Y R 7 / 6

第65表 第39号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 207 図								
6	身坏 3	13.5	12.3	4.1	(280)	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 6
7	身坏 3	14.3	12.0	4.0	260	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
8	身坏 3	12.1	13.2	4.2	300		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 8
9	平坏 2	13.2	12.7	3.5	260	9 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
10	身坏 3	13.0	14.6	4.7	400	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
11	身坏 3	12.3	13.8	4.3	(380)	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	7.5 Y R 5 / 6
12	身坏 3	12.5	13.9	4.2	(320)	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	7.5 Y R 7 / 3
第 208 図								
1	鉢 G 2	11.5			800	4 / 5	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 6
2	小甕瓶 1	16.5		12.1	1,200	3 / 4	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
3	小甕瓶 1	17.0		14.3	1,600	1 / 2	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→ナデアゲ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8

第66表 第40号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 208 図								
4	身坏 3	11.3	13.7	4.3	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ	7.5 Y R 8 / 4

第67表 第41号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 208 図								
5	蓋環 3	13.0	12.4	5.0		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
6	身環 3	10.2	11.4	4.1		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
7	身環 3	12.0	12.1	3.7	340	完形	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 4

第68表 第42号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 208 図								
8	平環 2	15.7	14.5	4.1		1 / 10	口縁部断続ヨコナデ(2段)内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	平環 2	13.0	11.4	4.2		1 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
10	平環 2	15.0	14.0	3.5	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 6
11	身環 3	12.4	14.4	4.4		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 3
12	蓋環 3	17.8	17.2	5.8		1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
13	屈環 2	12.3	12.6	4.7	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	2.5 Y R 7 / 6

第69表 第43号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 208 図								
14	身環 3	11.7	13.3	4.5	320	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	2.5 Y R 7 / 6
15	平環 2	15.1	12.6	4.6	400	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 7 / 3
16	身環 3	12.0	13.8	4.6		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
17	内環 3	13.2	12.1	5.9		1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
18	鉢 F 2	11.2	13.3	7.8	560	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
19	長高 1	18.5				3 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオシアテ→断続ヨコナデ→脚部ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
20	長砲甕 1	16.2				1 / 2	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面	7.5 Y R 8 / 4

第70表 第43号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
21	鉢K 3	22.5	21.0			1/5	胴部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。 胴部横へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面横へラナデ→口縁部ヨコナデ。	7.5Y R 7/8
22	無花壺 2		7.0			1/10	底部斜めへラケズリ→底部横へラケズリ。内面へラオサエ→ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
第209図								
1	大甕 2	23.2	9.0	31.4	12,000	1/4	胴下半部斜めへラケズリ→底部胴上半部斜めへラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面胴部縦ナデアゲ→ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5Y R 7/6
2	長砲壺 1		4.5			1/4	胴下半部斜めへラケズリ→底部斜めへラケズリ 内面縦ナデアゲ→ヨコナデ。	10R 6/6

第71表 第44号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第209図								
3	蓋環 3	12.3	11.6	5.5	320	1/2	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 7/8
4	蓋環 3	12.7	11.4	4.7	320	1/2	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面へラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/8
5	蓋環 3	12.7	12.0	5.4	340	完形	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面へラオサエ→断続ヨコナデ。	5Y R 7/6
6	蓋環 3	13.0	11.6	5.3		1/5	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/6
7	蓋環 3	12.0	12.0	5.1		1/4	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5Y R 7/6
8	蓋環 3	11.8	10.5	4.2	240	3/4	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面底部へラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/8
9	鉢E 2					4/5	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続へラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/6
10	須高 3	12.7	11.5		340	1/2	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。→脚部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→脚部断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
11	蓋環 3	14.0	13.3	5.0		完形	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面へラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 6/4
12	身環 3	12.5	14.0	4.3		1/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 6/4
13	蓋環 3	16.6	16.0	6.3		1/2	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5Y R 7/6
14	蓋環 3	15.6	15.4	6.8	760	4/5	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/8
15	蓋環 3	16.5	16.2	6.3	(700)	一部欠損	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
16	鉢E 2	7.7	9.6	5.7		1/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	口縁部一対の穿孔あり 2.5Y R 6/8
17	須高 3					1/10	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5Y R 7/6

第72表 第44号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
18	須高3					1/10	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
19	須高3					1/8	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面底部ヘラケズリ。	2.5 Y R 6 / 8
20	小丸3					一部欠損	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
21	甌					破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。甌底部の受のための穿孔。	5 Y R 7 / 4
22	小丸3					1/10	胴部横ヘラケズリ。周辺ヘラケズリ→内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6

第73表 第45号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第210図								
1	蓋坏3	13.5	11.7	4.4	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
2	内坏4	13.6	14.4	6.2	560	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→周辺部ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 4 / 2
3	身坏3	13.0	14.0	4.4	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
4	身坏3	13.0	14.3	4.5		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
5	身坏3	13.5	14.8	4.7		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
6	身坏3	12.2	13.9	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
7	身坏3	12.7	13.5	4.1		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
8	身坏3	12.6	13.7	4.0	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
9	身坏3	12.8	14.0	4.5	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	2.5 Y R 6 / 8
10	須高坏					破片	ロクロ成形→横カキメ。内面ロクロ成形。	須惠器 N 5 / 0
11	球胴壺3	15.6				4/5	胴縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
12	壺形甌3	23.8	9.6	29.2	3,300	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→底部横周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面縦ナデアゲ→底部・胴上半ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
13	長砲壺1	19.0	4.7	39.4	6,400	4/5	胴部縦ヘラケズリ→底部周辺横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 6

第74表 第47号住居跡出土土器

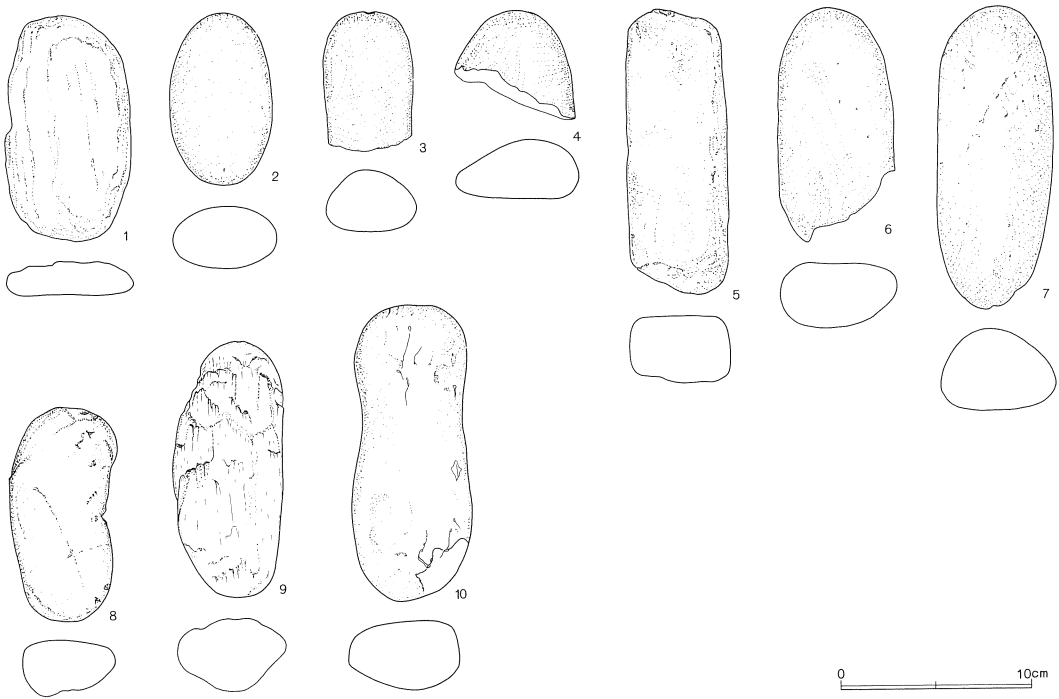
番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 210 図								
14	鉢B 3	13.5	13.1	5.9	340	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/6
15	平坏 2	13.7	12.0	4.3		一部欠損	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8/6
16	身坏 3	13.2	14.3	4.4		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 3/4
17	身坏 3	12.8	13.0	4.7		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/6
18	球胴壺 3					破片	横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	内外面黒色処理 5Y R 7/4

第75表 第50号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 211 図								
1	身坏 3	12.1	13.7	4.7	340	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	5Y R 7/6
2	身坏 3	13.3	14.4	4.5		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/6
3	長高 1					1/2	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。	5Y R 7/4
4	長砲壺 1	16.6				1/3	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/6
5	須恵器 甗	13.5				1/5	ロクロ成形→頸部波状文→胴部・頸部中央横沈線 2条 1単位。	須恵器 10Y 4/1
6	長砲壺 2	22.5				1/3	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ→断続ヨコナデ 内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 8/6
7	長砲壺 2	22.0				1/2	胴部縦ヘラケズリ→肩部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/6

(6) 遺物各説 一古墳時代第Ⅲ期の編物石一

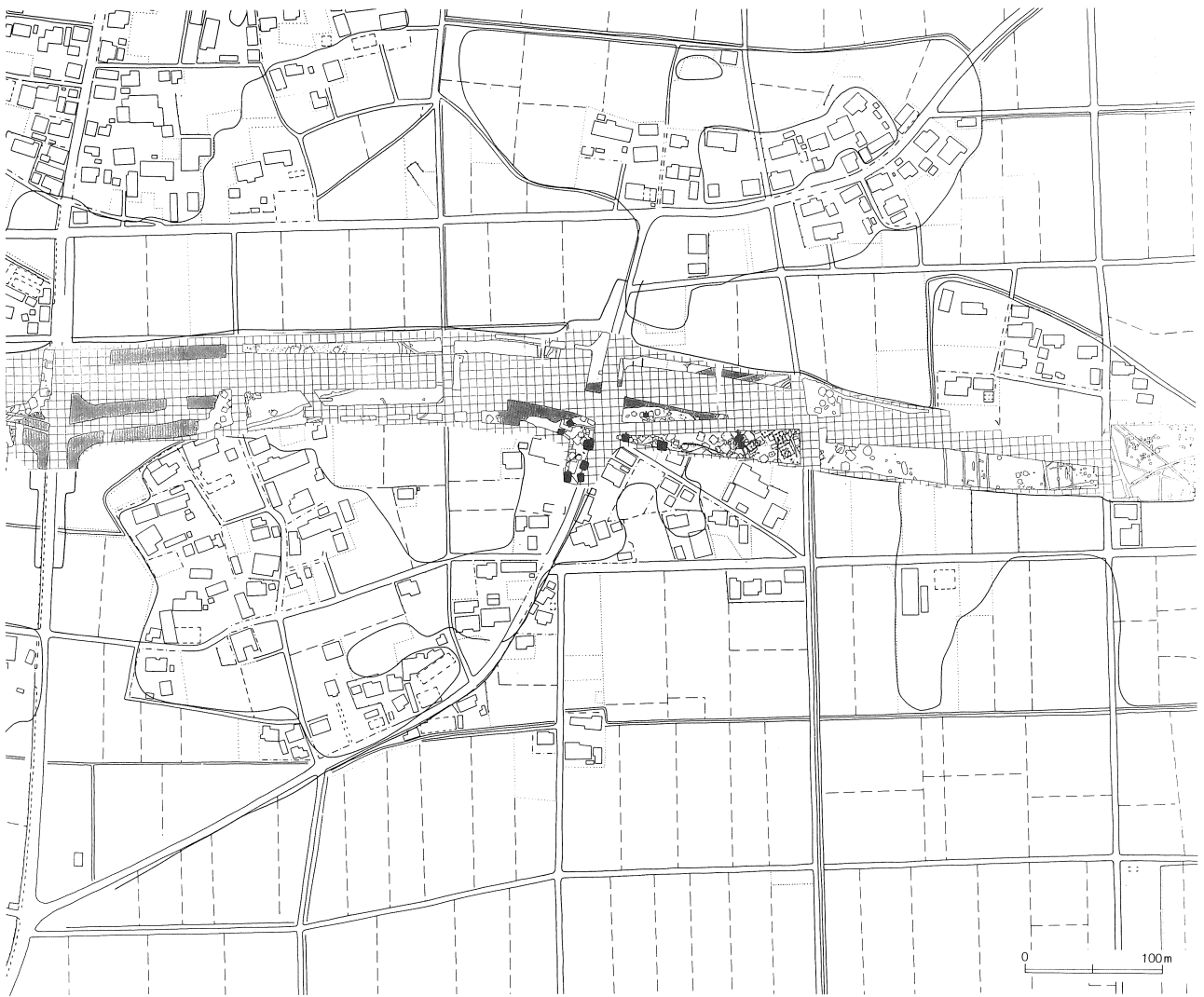
第33号住居跡では、まとまった編物石が出土している。しかし直接住居跡の使用時に伴うわけではない。このほかに古墳時代第Ⅲ期の住居跡では、確実に編物石をもつ住居跡は確認されていない。



第 212 図 古墳時代第Ⅲ期の編物石

第76表 古墳時代第Ⅲ期の編物石

番号	出土遺構	長さ mm	厚み mm	重さ g	石質等
第 212 図					
1	S J 33	119	57	240	緑泥石片岩
2	S J 33	91	55	205	安山岩
3	S J 33	—	—	—	安山岩
4	S J 33	—	—	—	安山岩
5	S J 33	146	53	540	緑泥石片岩
6	S J 34	120	61	335	安山岩
7	S J 36	160	61	615	安山岩
8	S J 42	112	41	285	安山岩
9	S J 39	134	60	435	緑泥石片岩
10	S J 33	156	60	650	緑泥石片岩



第 213 図 古墳時代第Ⅳ期の新屋敷東遺跡

5 古墳時代第Ⅳ期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

竪穴式住居跡の展開が、第Ⅲ期に比べると極端に後退し、竪穴式住居跡の集中も中央群だけとなる。本郷前東の自然堤防上では、竪穴式住居跡が姿を消し、集落の構成史に大きな展開があったことがわかる。全て大形の竪穴式住居跡で、一辺の軸を揃えおおむねカマドを北にもつ。いままでとは、一味違った竪穴式住居跡群である。河川跡も、土砂が堆積していたにもかかわらず、十分に物資の輸送や、水田への豊富な給水も行なわれていたと考えられる。

北武蔵の一集落の大きな転換は、そのまま在地首長層間の権力闘争に反映し、『日本書紀』に記載された安閑紀のいわゆる武蔵国の内乱を生む。埼玉古墳群で鉄砲山古墳を境に、首長墓の交代が曖昧となっていくことも、あながち見逃すことはできない。

一方、生活様式の反映である器物は、カマドにかかる調理や貯蔵等、前段階の様相を踏襲していた。しかし有段口縁杯が、食膳具の主要型式として出現する。最大の特徴である。

■集落の構成 確認された竪穴式住居跡は、9軒である。第Ⅲ期の3グループから中央群の一群に変化する。これは、実質的な集落内の竪穴式住居跡数の減少、あるいは竪穴式住居跡群の占地の移動等によるのであろう。少なくともこの段階で大規模な集落の再編成が行なわれた結果であろう。

この集落の再編成は、それまでの変化と異なり、きわめて組織的に行なわれたらしい。竪穴式住居跡の各壁面の軸が、ほぼ東一西、南一北を指し、カマドは北壁に設置されるのである。各住居跡の配置もこの軸をもとに決められたようであり、とくに第51・52・53・54・55・56・57号住居跡にみられる共通性は、何らかの規準尺や規矩術の存在をにおわせていよう。

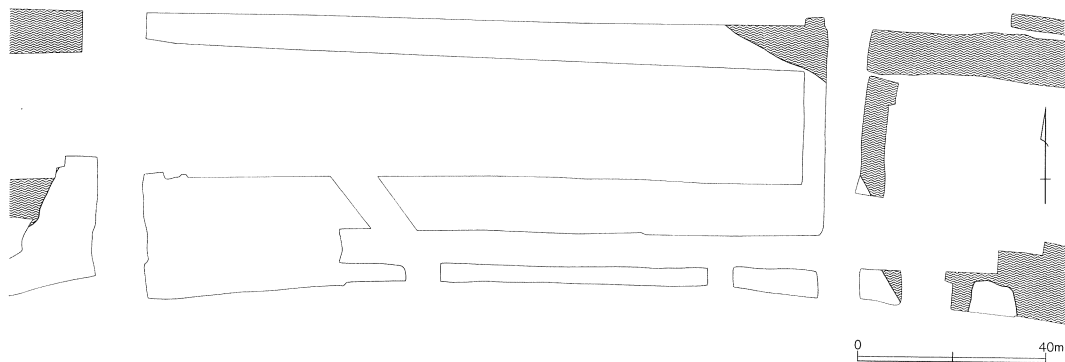
ただし重複遺構が多く、調査区が狭く的確なことがわからない。

■竪穴式住居 当初から全掘できた住居跡はない。遺構の重複や調査区の設定によって、3分の1程度しか調査されていない。ただしこれまでの住居跡に比較して、一回り規模が大きくなったことは特筆されよう。つまり第Ⅲ段階の大形竪穴式住居跡と、一般竪穴式住居跡の中間的な専有面積を抱えるようになる。

■カマド カマドを調査した住居跡は、7軒であるが、短煙道・長煙道のカマドとも確認され、両者が併存していたことが分かる。短煙道は、第51・59号住居跡、長煙道は、第52・54・56・57・58号住居跡で確認されている。第54・56・57号住居跡では、カマド支脚が、燃焼部に立てられたままの姿で確認され、カマドに掛けられる甕と火回りの関係、カマドの構築に関係することなどが確認された。また第56号住居跡では、カマド左袖の先端に正位に立てられた甕が確認されており、あるいは、袖の芯材として甕が使われていた可能性もある。

■煮沸具 カマドで使われた器は、前段階とあまり変化がない。煮沸のための甕、食物を蒸すための甑、甕を支えるための支脚から構成される。甕は全て砲弾形の長胴甕となり、球胴形の甕は跡を残さず見られなくなる。第57号住居跡では、甕とカマドの関わりが明瞭に確認されており、第Ⅳ期の指標となろう。

■食膳具 しかし最大の変化は、坏類に現われた。いわゆる有段口縁坏の出現である。北武蔵の6～7世紀の土師器を特徴付けるこの有段口縁坏は、口縁部を2～4の段をもって構成する。その出所は明確ではないものの、大振りの須恵器坏身模倣坏に伴なって出現する。整形技法は、きわめて



第214図 古墳時代第Ⅳ期遺構全体図(1)

ていねいで、段の構成も当初は、4段以上の段をもつタイプが多い。底部も細かくヘラケズリの後、細かくていねいにヘラミガキされている。段は、一度のヨコナデで作られるのではなく、7～12回程度の断続的なヨコナデによって作られている。また器面には、黒色処理が行なわれる。

いままでの模倣坏が全く作られなくなるわけではないが、きわめて生産量は減少し、小針型坏の模倣坏とも呼べる大振りの坏が、この段階にはみられる。

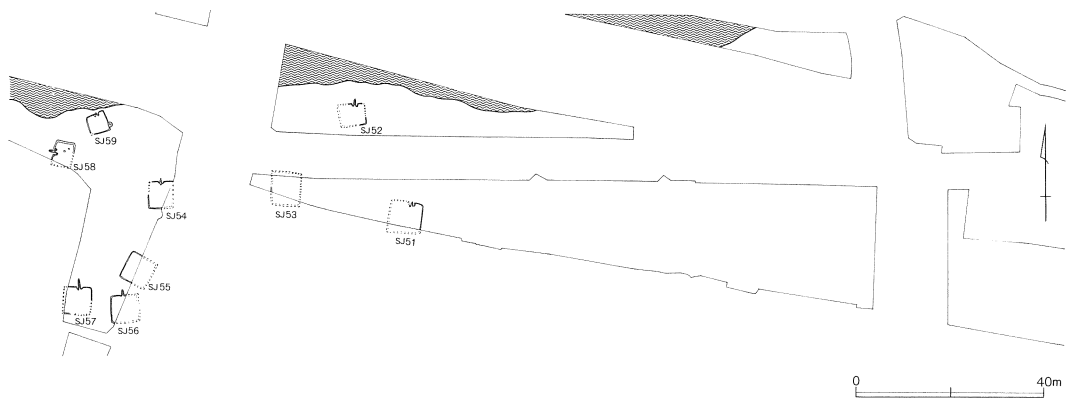
■貯蔵具 貯蔵具として明瞭な甕・壺は、みられない。しかし各住居跡から、小形の甕・壺形土器が出土している。これらがどのような機能を果たしたか明らかではないが、貯蔵の品目に多様性があったことが伺われよう。

■須恵器 この段階に須恵器を伴う住居跡は、確認されていないが、須恵器を丁寧に模倣した甗や高坏がある。第58号住居跡から出土した甗は、大きくラップ状に開く口縁部が、小形で球形の胴部に付く器形で、大阪府陶邑古窯跡群TK10型式に併行する須恵器を模倣したと考えられる。とくに口縁部が2段になる手法は、有段口縁坏の影響かとも思われる。

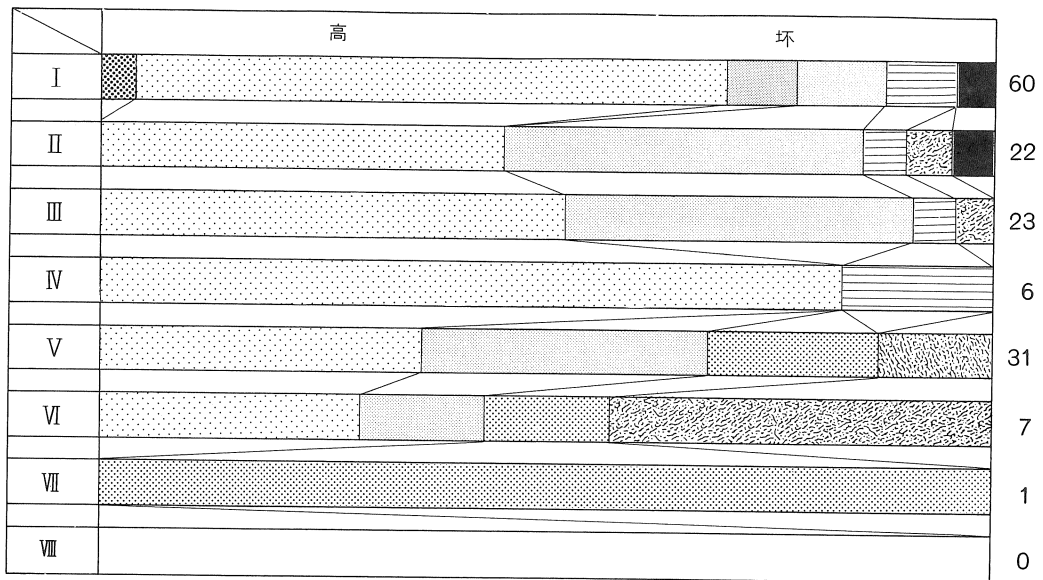
また同じ第58号住居跡から出土した高坏の脚部の断片は、透かし穴をもつ高坏の脚部の断片である。おそらく長脚三方二段透かしの須恵器高坏を模倣したものであろう。両者とも黒色処理によって作られており、有段口縁坏との関係が注目される。

■黒色処理の土師器 第IV期以降、新屋敷東遺跡にも、食膳具の表面を黒色に仕上げた土師器が、出現してくる。それまでの土師器の中に、こうした器面の仕上げ処理を施す土器が、なかったわけではないが、有段口縁坏の出現に伴い、広範囲にみられるようになった。おそらく東北地方仙台湾を中心とする地域で、伝統的に生産され続けていた黒色処理土師器に色彩的影響を受け成立したと思われる。

土師器も生地に見られる色彩以外に、表面彩色・特殊加工により、色彩的共通性を一定の集団内あるいは集団間相互の認識に当てていたことは、充分考えることができる。さらにその現象をここに、首長層による地域社会の支配構造も分析が可能であろう。



第 215 図 古墳時代第IV期遺構全体図(2)



- 内斜口縁高坏
- 和泉系高坏
- 素口縁高坏
- 須恵器模倣高坏
- 有稜口縁高坏
- 器台
- 平底口縁高坏
- 有段口縁高坏

資料数

150

高坏類器種別生産量の推移

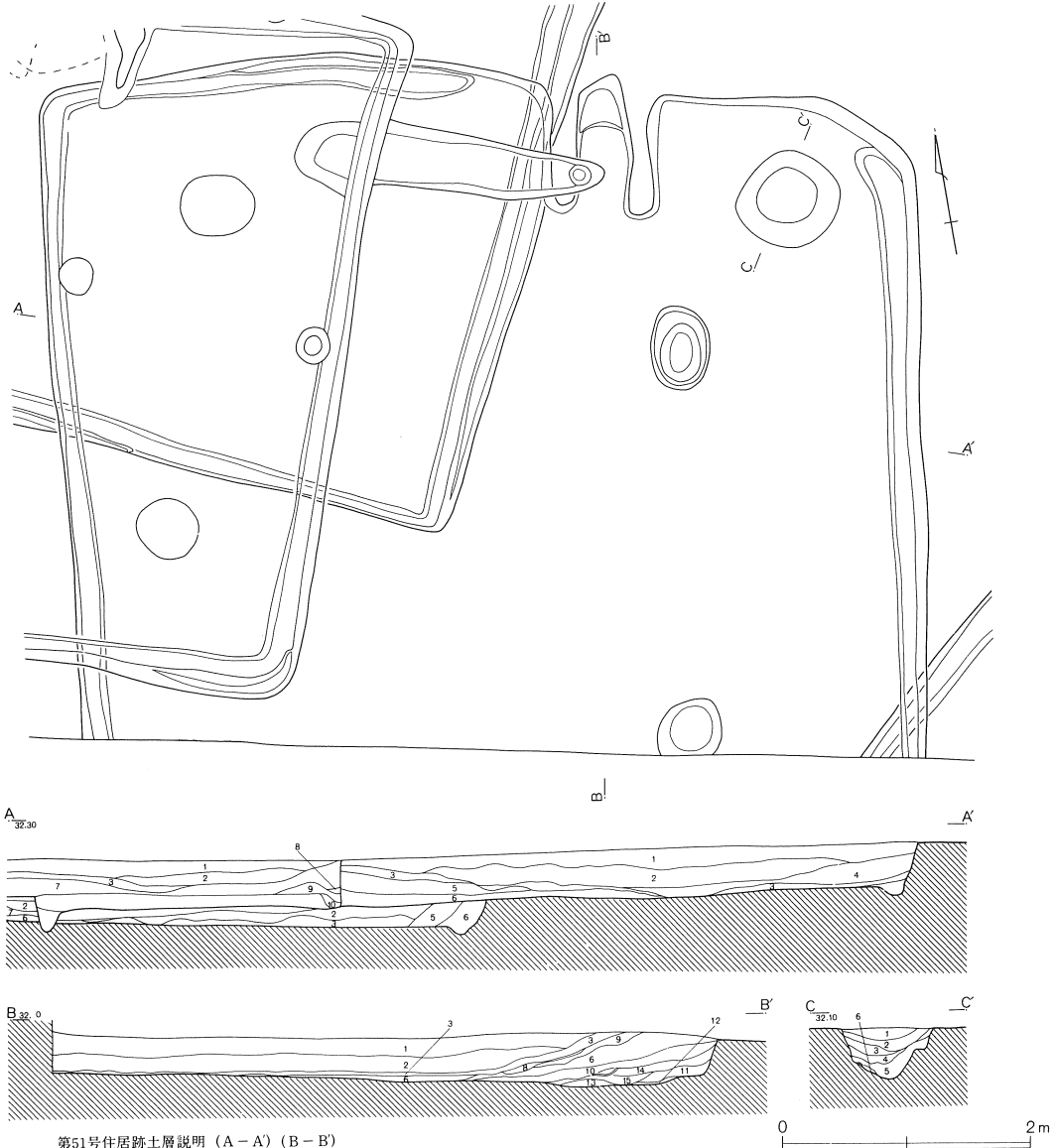
第77表 古墳時代第IV期住居跡一覧

No. /	住 居 跡 規 模				カ マ ド					貯 藏 穴		備 考
	長軸長さ	短軸長さ	掘込深さ	形 態	煙道長さ	煙 道 幅	右袖長さ	左袖長さ	形 態	幅	深 さ	
51	6.90		0.40	長方	0.11	0.23	1.01	1.04	A類	2.90	1.50	ミ-282
52	4.90	4.80	0.26	長方	1.10	0.38	0.94	0.83	C類			ヒ-284
53	6.48		0.30	長方								ミ-286
54	5.80		0.42	長方	0.77	0.42	0.84	0.78	A類			ミ-290
55	6.25		0.15	正方								ユ-291
56	5.75		0.25	長方	1.24	0.38	0.41	0.52	C類			サ-291
57	5.67		0.42	正方	1.95	0.35	0.75	0.80	C類	2.00		サ-293
58	4.40		0.30	長方	1.10	0.32	0.88	0.97	C類			エ-274
59	4.30	4.00	0.08	長方			0.77	0.78	A類	2.80		ヒ-292

(2) 遺構各節 —遺構構築段階—

第51号住居跡（調査時C 2区108号住居跡）

ミ-282グリッドに位置する。重複関係は、第15・24号住居跡よりも新しく、第77号住居跡より



第51号住居跡土層説明（A-A）（B-B）

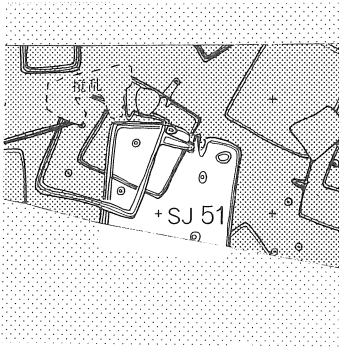
1. 暗褐色土 炭化物混り、黄褐色ブロック多量含む、粘性強
2. 暗褐色土 1層より暗い、粘性強、粒子粗い、土器片含む
3. 暗黒褐色土 炭化物層、粘性強、粒子細かい、土器片含む
4. 黄褐色土 炭化物全く含まず、粒子細かい、粘性強
5. 黄褐色土 4層に似るが若干暗い、炭化物含む
6. 暗灰褐色土 粘性極めて強、炭化物粒子含む、粒子細かい
7. 黄褐色土 77号住居跡貼床層、締り強
8. 黄褐色土 軟質な粒子粗い、炭化物全く含まない
9. 暗黒褐色土 炭化物層
10. 黄褐色土 8層と似るか炭化物含む、粘性強、粒子粗い
11. 淡灰黄褐色土 炭化物多量含む、粘性強、粒子粗い
12. 黄褐色土 褐色の地山ブロック、粘性極強

13. 赤色土 カマドの焚き口部の焼土推積層
14. 淡灰赤褐色土 焼土粒子多量含む、粘性強、粒子粗い
- 淡黒色土 炭化物層、バサバサに軟らかい、粒子細かい

第51号住居跡貯蔵穴土層説明（C-C）

1. 暗灰褐色土 炭化物粒子含む、粘性極強、粒子細かい
2. 黄褐色土 77号住居跡、貼床層、締り強
3. 暗黒色土 粘性富む、炭化物、焼土粒子多量含む
4. 黄褐色土 粘性極強、粒子細かい
5. 暗黄褐色土 焼土多量含む、粒子粗い
6. 黄褐色土 黄褐色ブロックより成る、粘性強

第 216 図 第51号住居跡

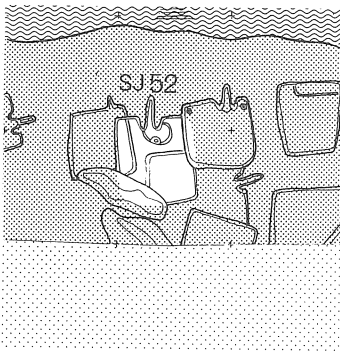


第 217 図 位置図

で、一旦立上がり垂直に立上がる。

覆土が、地山の堆積層と近似していて検出が困難であった。

出土遺物は、土師器杯・壺・短頸壺などがある。



第 218 図 位置図

焼き口部は深く掘り込まれており、最前部は小穴状になっている。煙道は、壁の線で燃焼部から一旦立上がり壁外に延びている。

覆土が、地山の堆積層と近似し、多くの遺構と重複したため検出が困難であった。

出土遺物は、土師器杯・高杯・小形壺・甕・壺・甕などがある。

第53号住居跡（調査時C 2区85号住居跡）

ミ-286グリッドに位置する。重複関係は、第40・41号住居跡よりも新しく、第125・130号住居跡よりも古い。調査以前に宅地であったため北側は破壊されており、また南側も調査区域外である。重複関係も激しく、検出された部分のごくわずかである。住居跡の規模は、長軸6.48m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、30cmである。壁周溝が、東辺にみられるが、柱穴はない。

カマドは、北側にも確認されていない。調査区域外であろう。

重複が激しく、遺構の確認は困難であった。

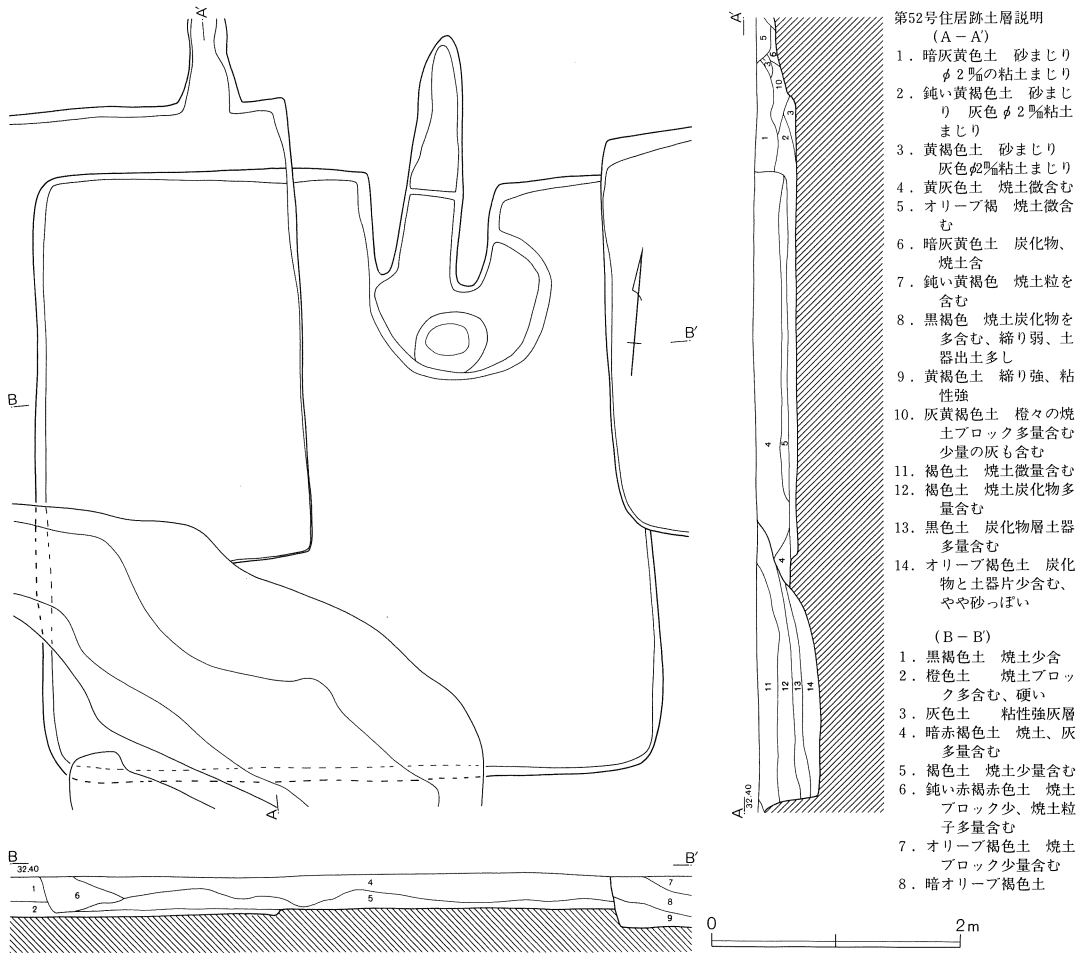
も古い。他の住居跡との重複関係は激しいが、全景は知ることができる。なお南辺は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸6.90m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、40cmである。壁周溝は、調査区域内では北辺の一部を除き完周している。柱穴は、東辺に2本確認された。北東の隅には、貯蔵穴が確認されている。ややいびつな方形の貯蔵穴で40cmと深い。

カマドは、北辺に接し、右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残して造られ、煙道は、壁外へほとんど延びない。燃焼部には、焼土と炭化物の堆積層が認められ、焼き口部の被熱痕跡も確認された。カマドの底部は、燃焼部から壁ぎわ

第52号住居跡（調査時C 2区57号住居跡）

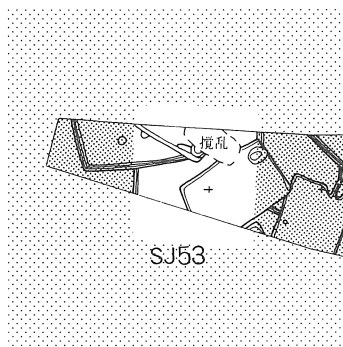
ヒ-284グリッドに位置する。重複関係は、第39号住居跡よりも新しく、第100・129号住居跡よりも古い。また南西隅は、噴砂の影響によって層位が乱れており、明確ではなかった。しかしほとんど完掘に近く調査できた数少ない例である。住居跡の規模は、長軸4.90m、短軸4.80mを測る。掘り込みの深さは、26cmである。壁周溝・柱穴は確認されていない。

カマドは、北辺に接し右よりに構築されている。左右の軸は、地山掘り残して造られ、壁外へ軸の長さの1.5倍ほど煙道が延びる。燃焼部には、焼土と炭化物の堆積層が認められる。



第219図 第52号住居跡

出土遺物は、坏・埴がみられる。

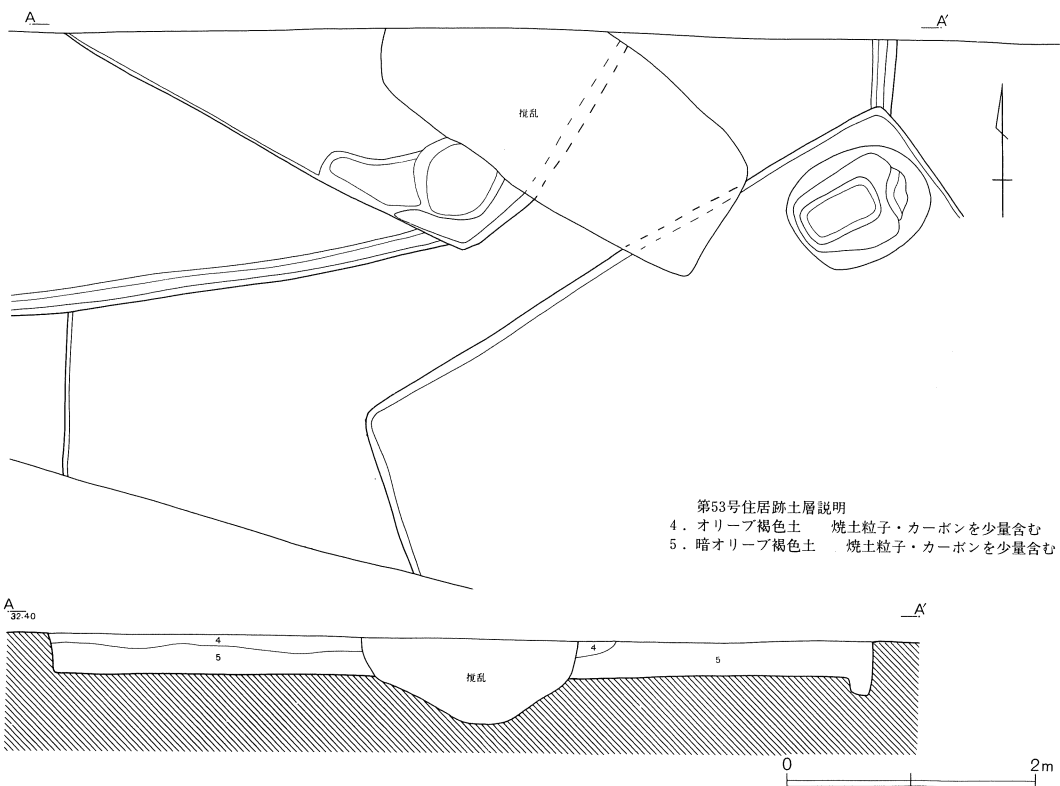


第220図 位置図

第54号住居跡（調査時B区4号住居跡）

ミ-290グリッドに位置する。重複関係は、第78・126号住居跡よりも古い。東側が調査区域外である。また北西隅は、住居跡の重複によって消滅している。住居跡の規模は、長軸5.80m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、42cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

カマドは、他の遺構とかわからず、左よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残して造られ、壁外へ、袖の長さと同じくらい煙道が延びる。しかし煙道は、基本的には壁外に僅かに延びるタイプと同様と思われる。カマド底部は、床面とほぼ同レベルに構築されていき、壁をごく僅かに出たところで、極端に



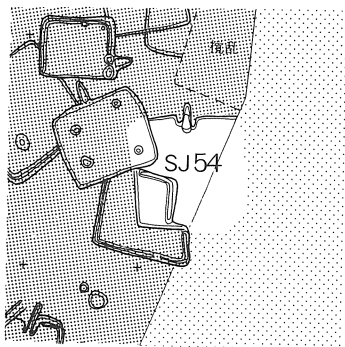
第53号住居跡土層説明
 4. オリーブ褐色土 焼土粒子・カーボンを少量含む
 5. 暗オリーブ褐色土 焼土粒子・カーボンを少量含む

第 221 図 第53号住居跡

立ち上がっている。燃焼部は、大変狭く、甕がやっと掛かる程度である。焚き口の下部には、円形に淡い赤褐色の被熱痕跡が確認された。

覆土が遺構構築層と極めて近似していたため、遺構の確認は、カマドを中心に調査を行ない全体像を把握していった。

第54号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・壺・甕である。



第 222 図 位置図

第55号住居跡（調査時B区6号住居跡）

ユ-291グリッドに位置する。重複関係はみられない。遺構の大半は、調査区域外である。規模は、長軸6.25m、短軸—

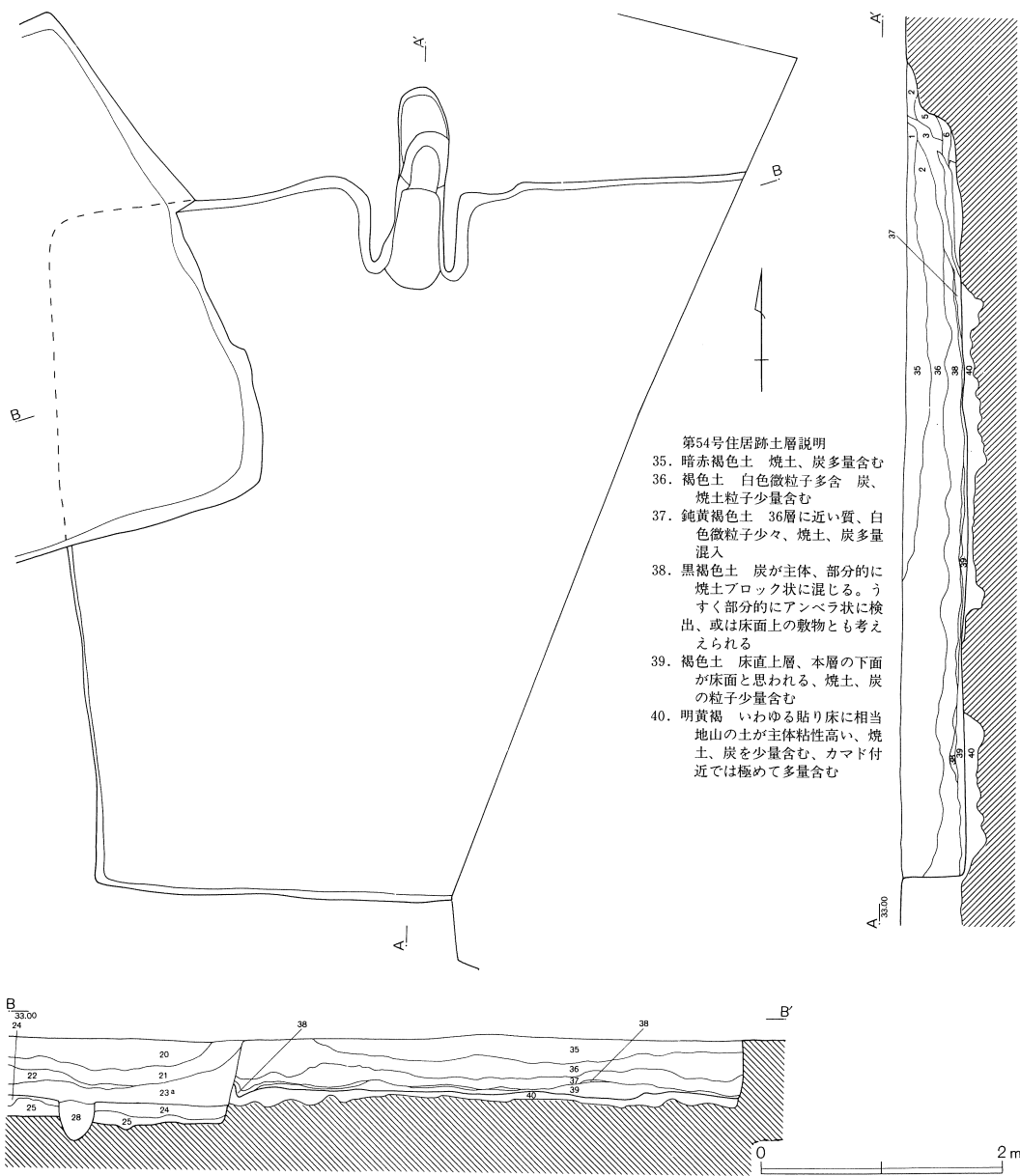
mを測る。掘り込みの深さは15cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

カマドは、調査区域内では確認できなかった。

覆土が、遺構の構築面と近似していたため、確認に困難を極めた。

第55号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・甑・甕・小形甕・小形壺など多彩である。

なお壁の立ち上がりについては、やや正確さに欠ける。

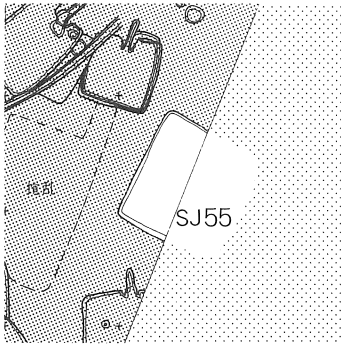


第 223 図 第54号住居跡

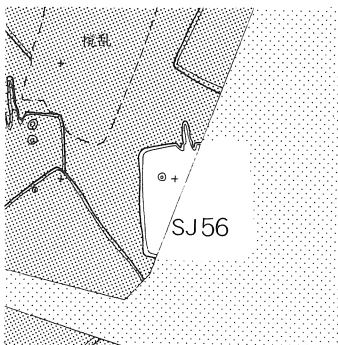
第56号住居跡（調査時B区40号住居跡）

サー291グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内では確認されていない。ただし東側半分は、調査区域外となっている。規模は、長軸5.75m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、25cmである。壁周溝は、西辺部と北辺部の一部に確認されているが、完周するかわからない。柱穴は、2個確認されているが、そのほかについては不明である。

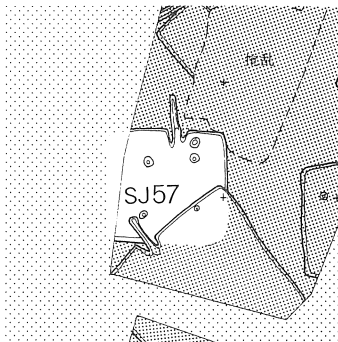
カマドは、北辺に確認されている。地山掘り残しの袖は短く、2.5倍程度の煙道が延びる。燃焼部は広く、煙道にかけてはゆるい段があり煙り出し穴に通じる。



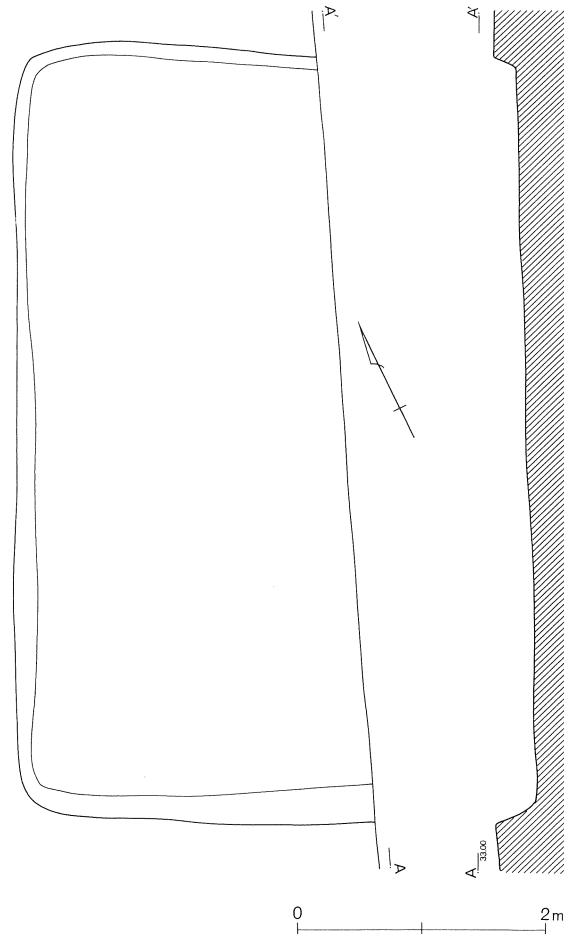
第224図 位置図



第225図 位置図



第226図 位置図



第227図 第55号住居跡

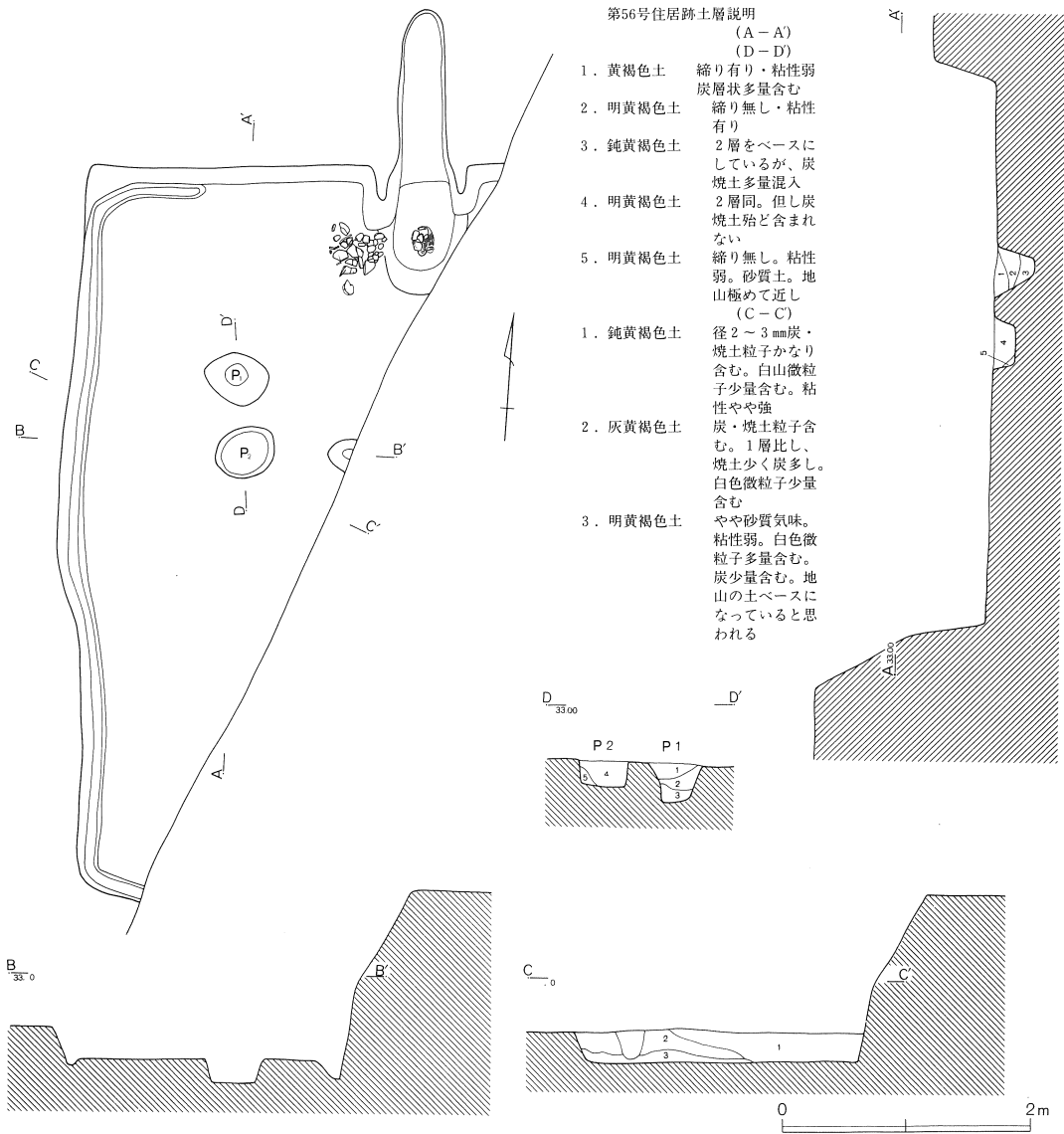
第56号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・甕である。

第57号住居跡（調査時B区39号住居跡）

サー293グリッドに位置する。重複関係は、第82号住居跡よりも古い。西辺は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸5.67m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、42cmである。

壁周溝は、南辺で確認されているが完周しない。柱穴は、当間隔に四本確認されており、住居の上屋を支えるに足る大きさと考えられる。カマドの右に貯蔵穴が確認されている。

カマドは、北辺右よりに確認されている。袖は短い、煙道は、その2倍程度はある。袖は地山掘り残して造られている。煙道は、やや左よりに造られており、天井部が良好に残る。煙り出し穴は、ピット状に掘られ、クランク状に煙道とつながる。燃焼部は狭く、甕が一個掛かるか掛からない程度である。焚き口部には、多くの遺物が確認されている。



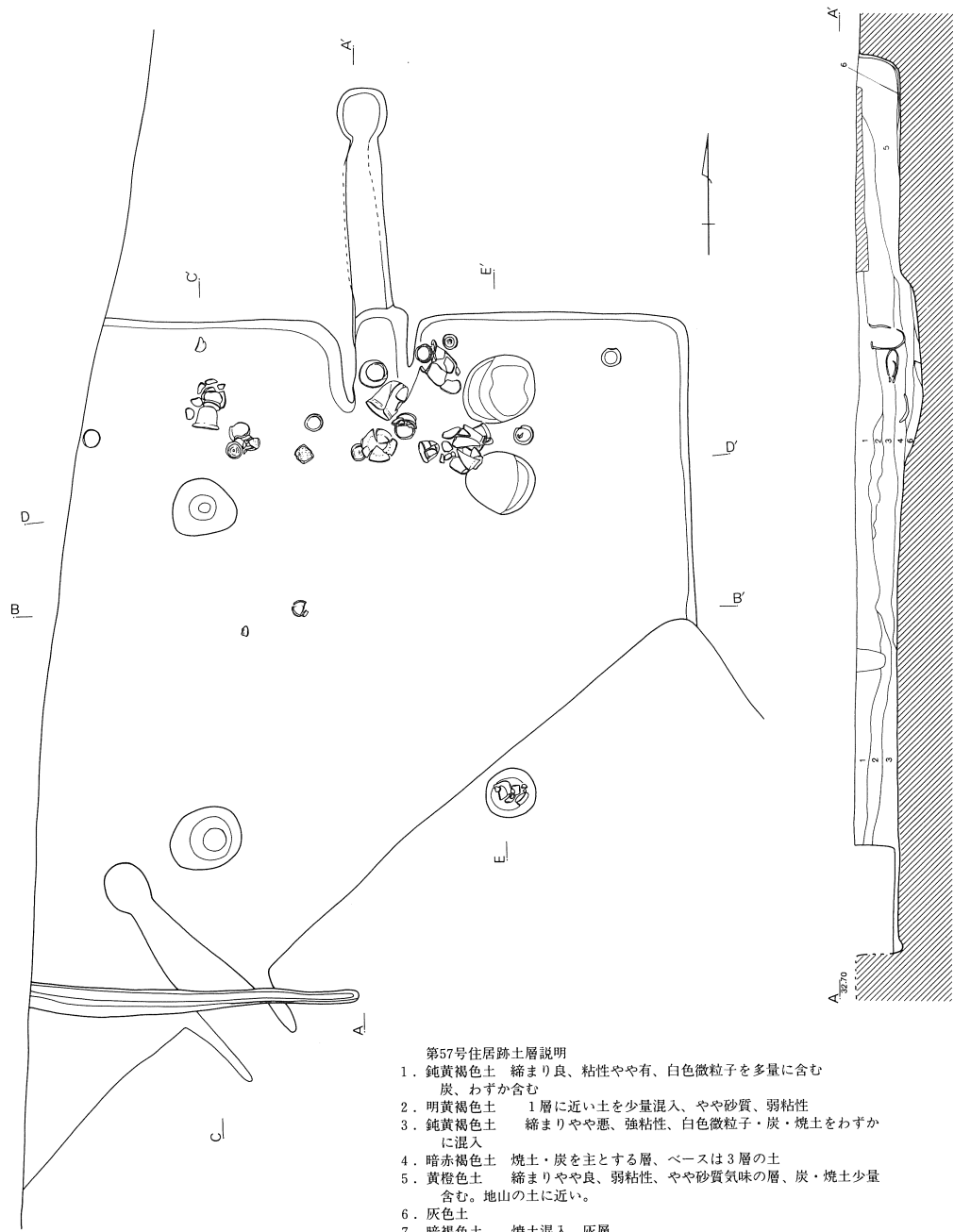
第 228 図 第56号住居跡

覆土は地山と全く区別がつかず、また重複遺構の存在から、遺構の確認は困難を極めた。

第57号住居跡の出土遺物は、土師器杯・壺・甕・小形甕・壺・小形壺、須恵器などがある。

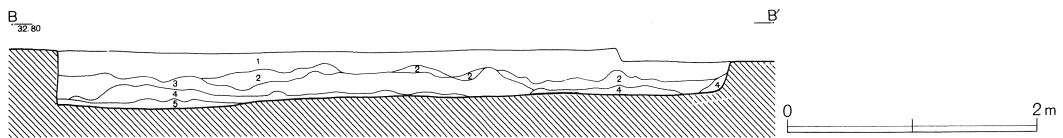
第58号住居跡（調査時B区38号住居跡）

エー294グリッドに位置する。重複関係は、第102・144号住居跡よりも古い。南側は、調査区域外である。壁外に低いテラス状の部分が、竪穴の形状とは一致しないが巡っている。住居跡の規模は、長軸4.40m・短軸一一mである。掘り込みの深さは30cmである。壁周溝は、北側半分に確認することができた。この部分では完周している。柱穴は、等間隔に4本確認され、それぞれ中央から放射状に楕円形に広がる掘り方をもつ。

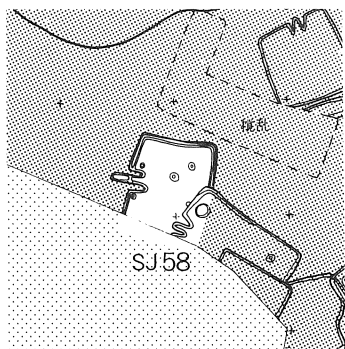
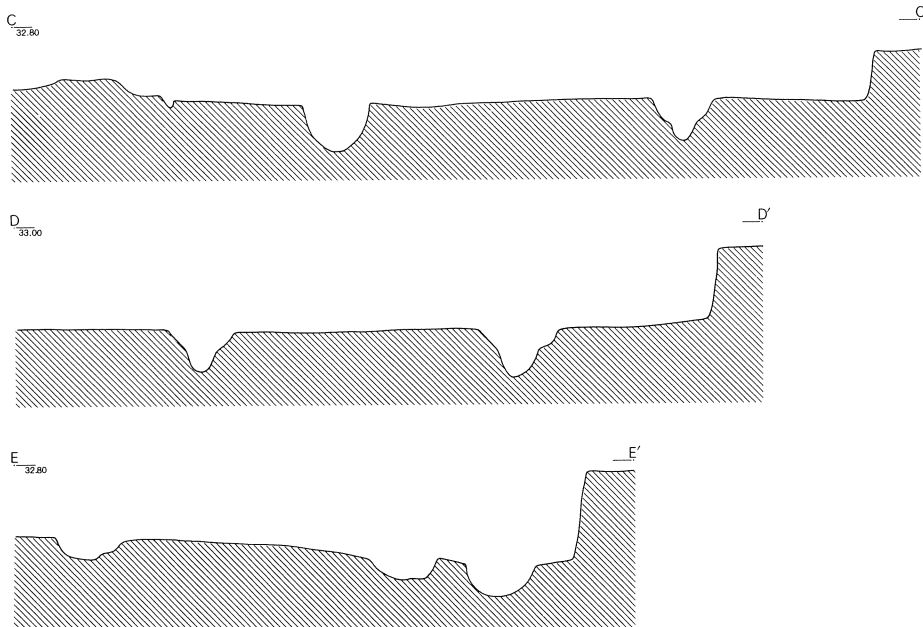


第57号住居跡土層説明

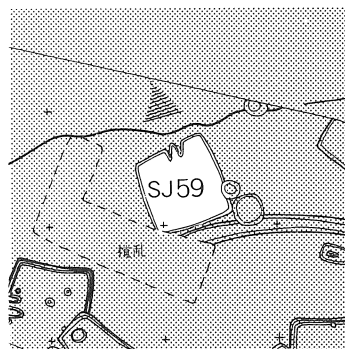
1. 鈍黄褐色土 縮まり良、粘性やや有、白色微粒子を多量に含む炭、わずか含む
2. 明黄褐色土 1層に近い土を少量混入、やや砂質、弱粘性
3. 鈍黄褐色土 縮まりやや悪、強粘性、白色微粒子・炭・焼土をわずかに混入
4. 暗赤褐色土 焼土・炭を主とする層、ベースは3層の土
5. 黄橙色土 縮まりやや良、弱粘性、やや砂質気味の層、炭・焼土少量含む。地山の土に近い。
6. 灰色土
7. 暗褐色土 焼土混入。灰層



第 229 図 第57号住居跡



第 230 図 位置図



第 231 図 位置図

カマドは、西辺にみられ、袖の長さの1.5倍ほどの煙道がやや右よりに造られている。燃焼部から煙道部にかけては、一段高くなる。燃焼部は狭く、甕を一個掛ける程度の大きさしかない。煙道は煙り出し穴の部分で一端やや低くなり、また一気に立ち上がる。

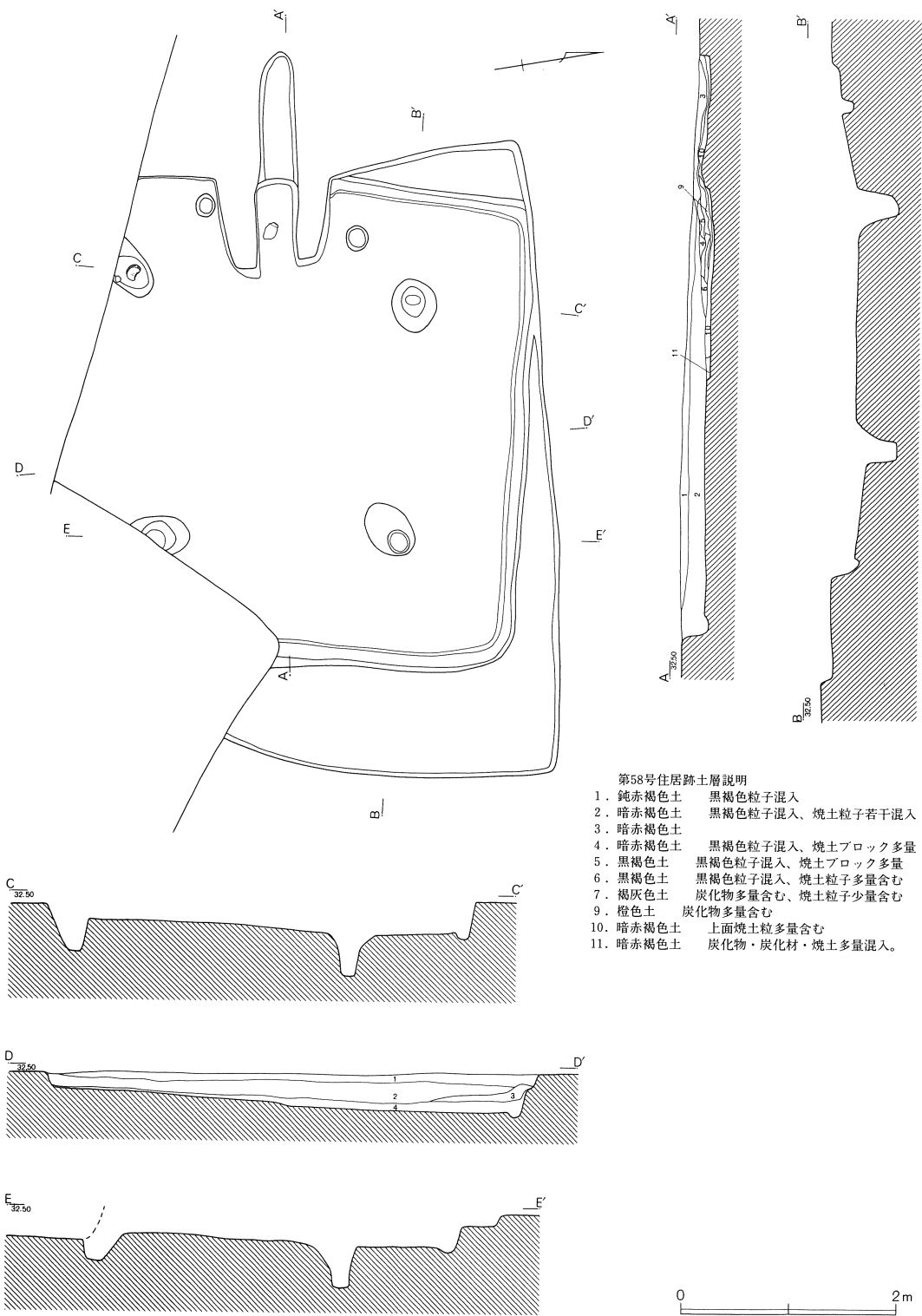
調査区域のきわでまた遺構確認面まで大変深く、調査には手間取った。

第58号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕・甕である。

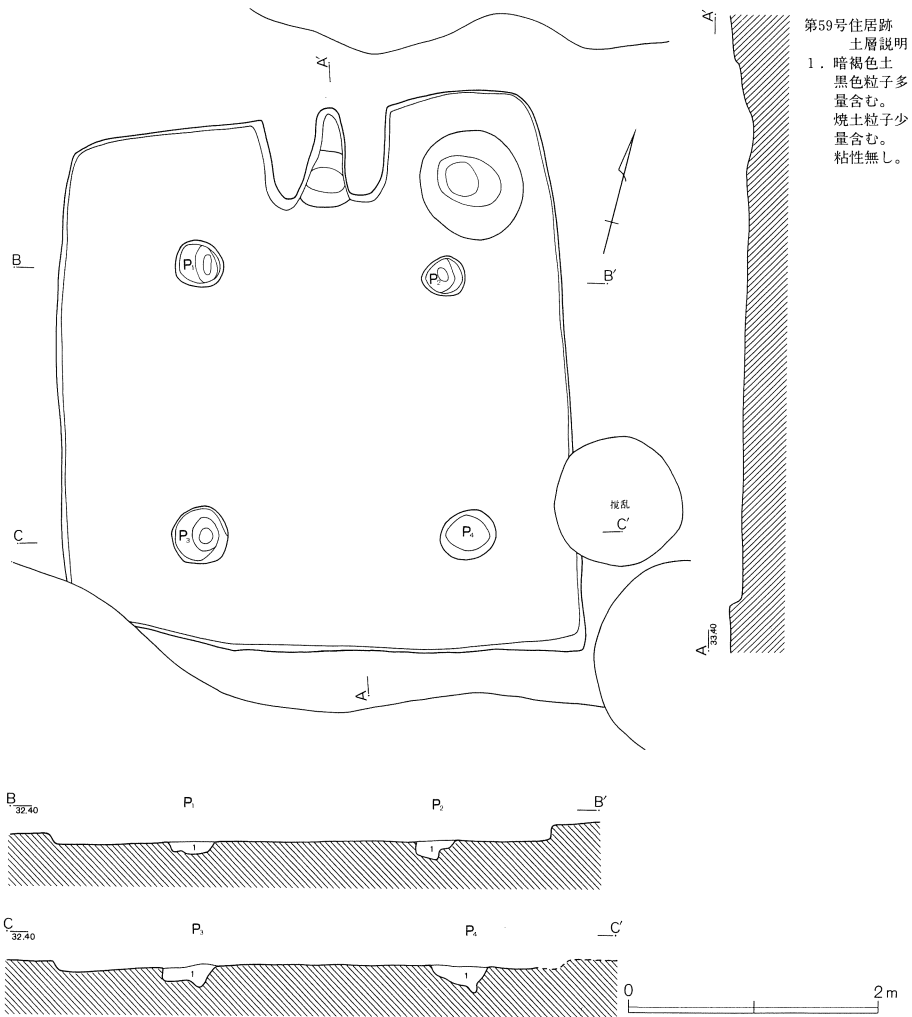
第59号住居跡（調査時B区51号住居跡）

ヒー292グリッドに位置する。重複関係は、溝・土壇に壁の一部を切られるほかは、全くみられない。全体のプランは、良好に検出された。住居跡の規模は、長軸4.30m、短軸4.00mを測る。掘り込みの深さは、8cmである。壁周溝は巡っていない。柱穴は、等間隔に4本確認されており、南東の一本を除き、柱痕跡も確認されている。また貯蔵穴は、カマドの右側に大きく円形に確認されている。比較的深い貯蔵穴である。

カマドは、西辺に接しやや右よりに構築されている。煙道部が極端に短く、壁外にほとんど出ていない。袖は、比較的長く地山掘り残して構築されている。燃焼部はややへこんでいる



第 232 図 第58号住居跡



第 233 図 第59号住居跡

が、極端に狭い。焚き口部は、明瞭ではない。

調査に当たっては、比較的重複も少なく精査できた。しかし覆土の堆積が薄かったために、不明確な部分も多い。

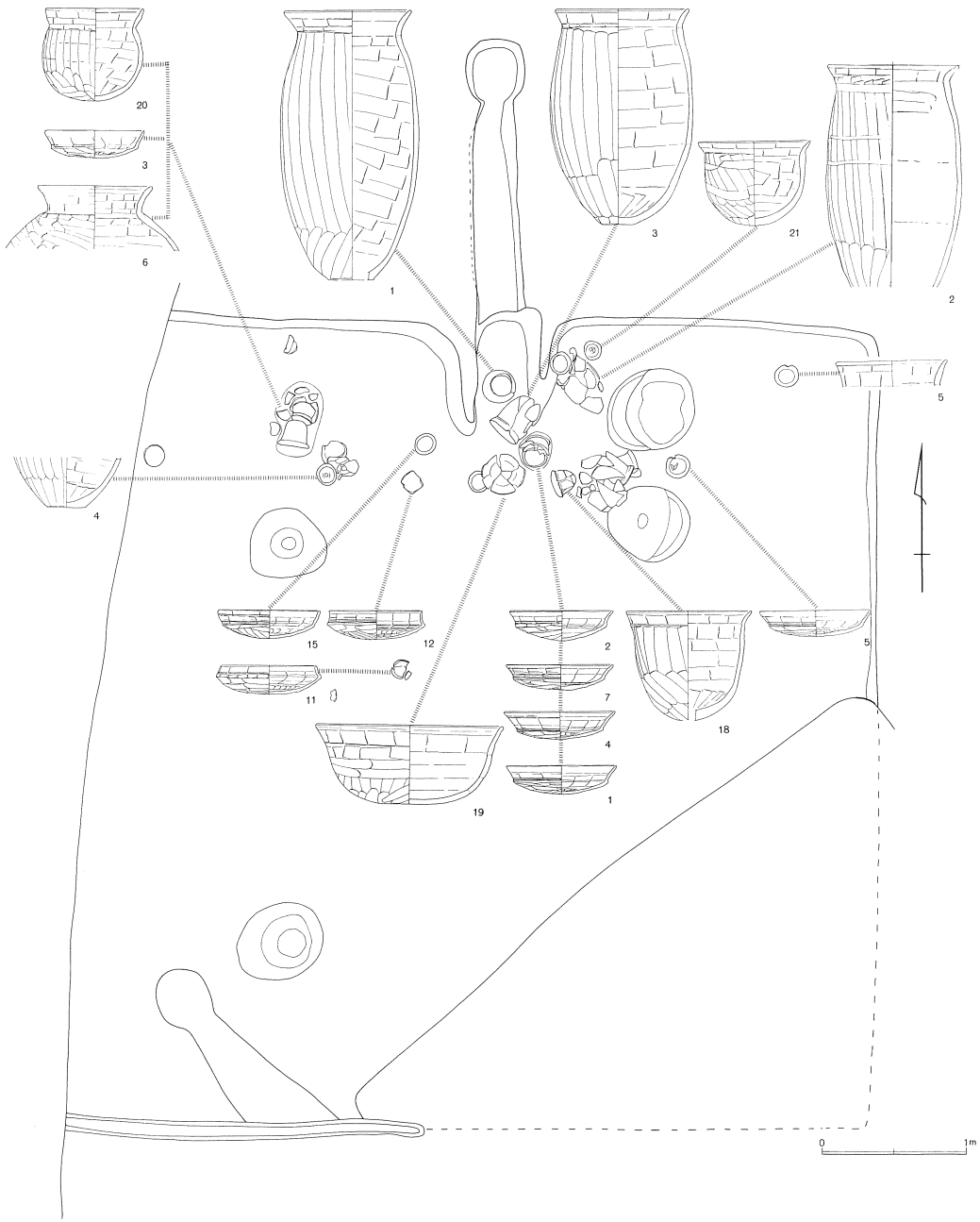
第59号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕・脚付小形甕などである。

(3) 遺構各説 一遺物出土状態一

古墳時代第IV期の遺構で、遺物の良好な出土状態を保っているのは、第57号住居跡のみである。

第57号住居跡

住居跡の北半分、カマドの周囲に遺物が集中する傾向がある。なお南東は重複遺構によって破壊されているため、全くわからない。



第 234 図 第57号住居跡遺物出土状態

(床面) 中央部に坏が1点だけ正位に検出されている。

(カマド内) 甕が、2点カマド内から出土している。1点は、燃烧部のほぼ中央付近から出土しており、もう1点は、その前方やや右より出土している。手前の甕は転倒しているが、おそらく中央の甕と同様、正位の状態でカマド内に掛けられた状態であったが、土圧によって倒れたのであ

ろう。

(カマド脇) 袖の右側では、カマド袖に接し小形甕と甕が、右袖に接して立て掛けられるように正位に出土している。右袖の焼き口部からは、4点の坏が、重ね合せた形で出土している。全て正位である。さらにこの隣には、大形の鉢が正位に出土している。左袖の先端には、坏が2点これも正位に置かれている。これらは全て床直である。このほかこのゾーンには、大形壺の口縁部を置き台として、この上に坏を置き、さらに小形甕が置かれていた。さらに4枚重ねの坏の手前には、甗・甕を横倒しに、坏を正位に置いたところがある。

(4) 遺構各説 一カマドと煮沸土器一

古墳時代第Ⅳ期のカマドと、煮沸にかかわる土器の関係について述べる。

古墳時代第Ⅳ期のカマドの確認された住居跡とその構造についてはすでに述べたが、7軒のカマドについて詳細が分かっている。

第51号住居跡

カマドに関係した遺物は、出土していない。しかし短煙道のカマドとして残存状態も良く、重要視しておく必要があろう。

第52号住居跡

長煙道のカマドで、燃焼部の中央やや左よりに、土製支脚が立ったままの状態出土している。カマド内の覆土中の焼土の堆積状態から、立てられたまま天井部が崩壊したものと考えられる。土製支脚は、このほか住居跡覆土中から一点出土しており、合せて2点の出土をみる。235-1は、緩やかに裾広がり台形状で中実の土製支脚である。縦にヘラケズリを行ない、底部を横方向に連続したヨコナデを行なっている。235-2は断片資料だが、ていねいな作りで外面を縦にヘラケズリ、内面には、輪積み痕跡が残っている。

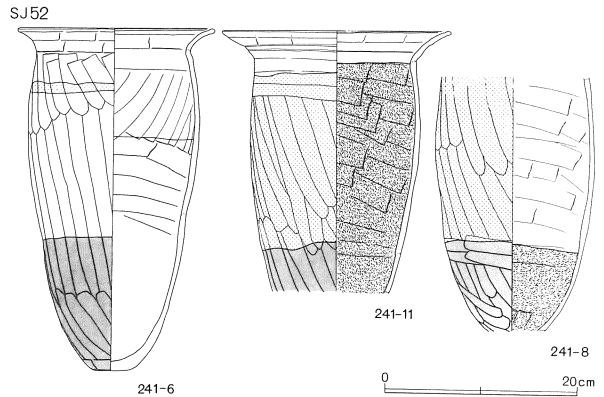
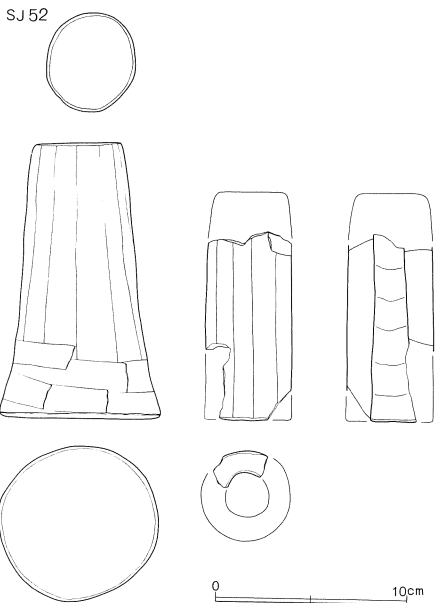
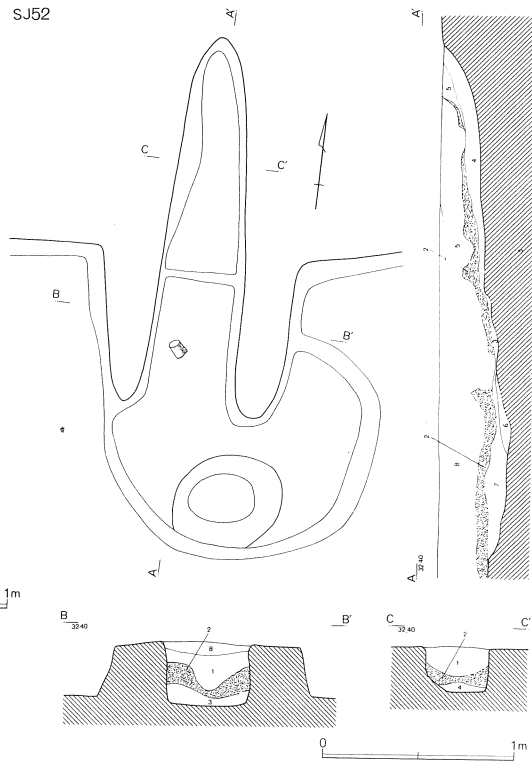
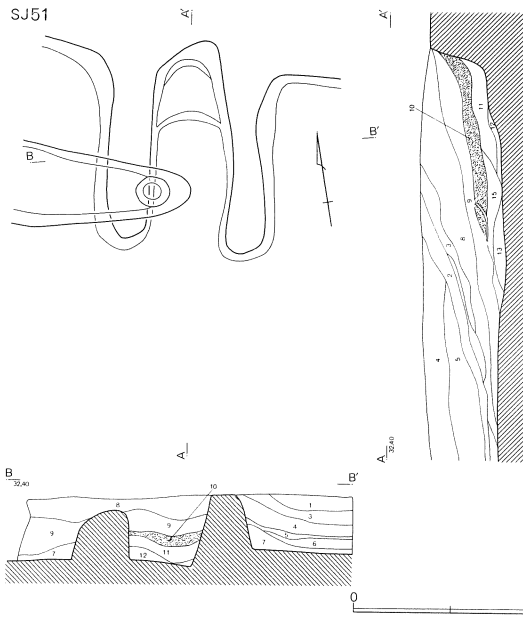
241-6は、長胴の甕で外面胴下半に帯状に被熱痕が認められる。胴中位には、焼土の塊や粘土の付着が認められた。内面には、胴部の3/5の部分に粒状の付着痕跡を認めることができた。底部付近や口縁部には、この痕跡を認めることはできない。

241-11は、長胴の甕で、底部付近が欠損している。外面胴中位に、帯状に被熱痕跡がみられる。内面には、口縁直下から残存部いっぱい粒状粒子の付着が確認されている。外面の痕跡は、カマドの被覆粘土の範囲を示しているのであろうか。内面いっぱい、粒状の付着物が確認できることは、この甕による煮沸が、他の器種、例えば甗や鉢などとともに使用されたのではなく、単独に煮沸用具として使用されていたことを示すのであろう。

241-8は、長胴の甕で口縁部と底部を欠く。外面の底部から1/4のところから上部にかけて全体に被熱痕跡がみられる。外面の被熱痕のラインから底部にかけて内面には、粒状の付着物を見ることができる。

第54号住居跡

カマドは、短煙道である。燃焼部の中央やや左よりに土製支脚が、立てられたままの状態出土している。住居跡に伴う煮沸痕跡等の残る土器は、確認されていない。



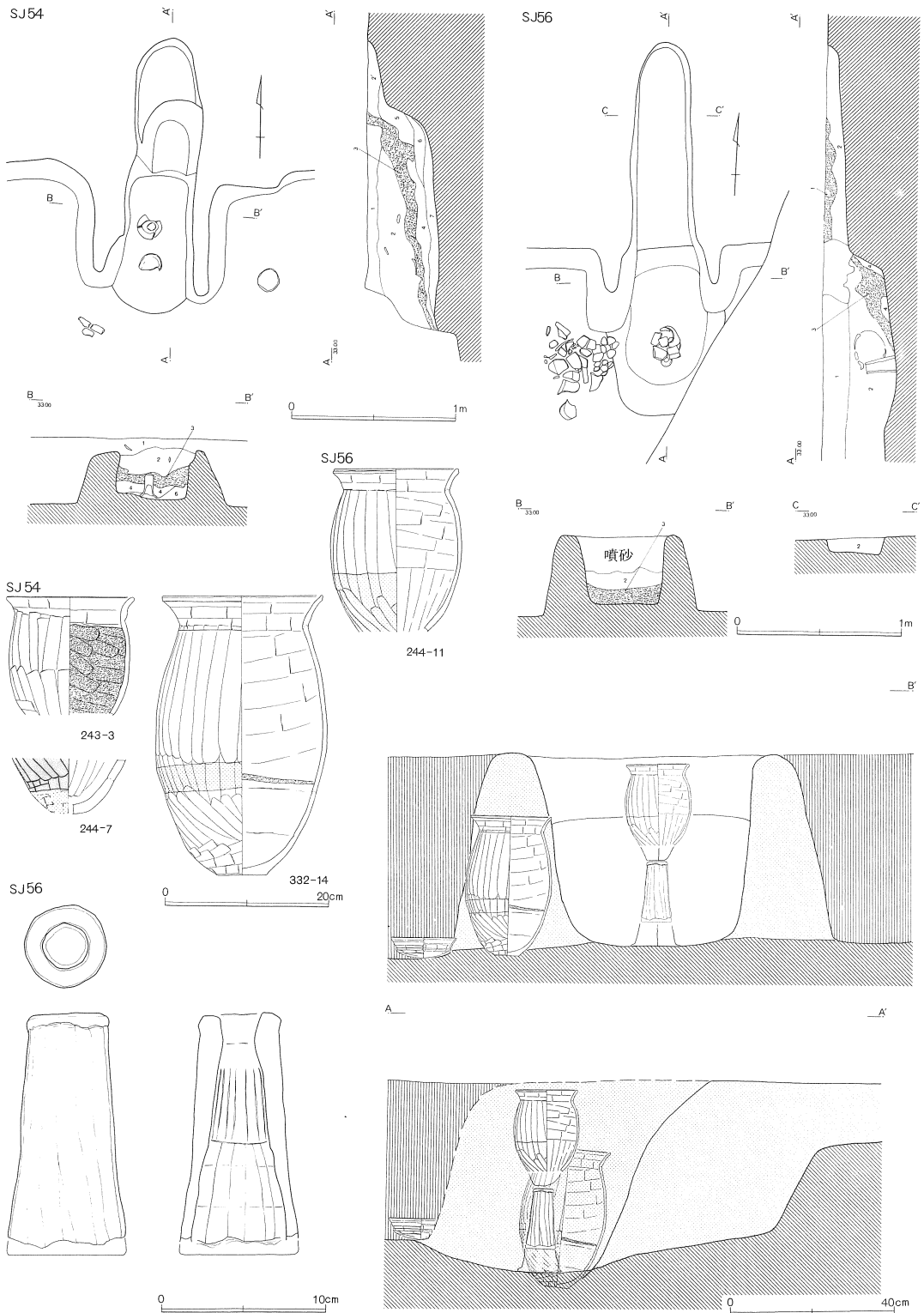
第51号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。炭化物混入。黄褐色ブロック多量含む
2. 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。土器片多量含む
3. 暗褐色土 粘性強。粒子細かい。炭化物層
4. 黄褐色土 粘性強。粒子細かい。
5. 淡黄褐色土 粘性強。粒子細かい。焼土混入
6. 黄褐色土 若干暗い。炭化物含む。
7. 暗灰褐色土 粘性強。粒子細かい。炭化物粒子含む
8. 黄褐色土 粘性強。粒子細かい
9. 淡赤黄褐色土 カマド天井部。粘性強。粒子細かい
10. 淡黄褐色土
11. 淡灰黄褐色土 粘性強。粒子粗い。炭化物多量含む
12. 黄褐色土 地山ブロック。粘性強
13. 赤色土 カマド焚き口部
14. 淡灰褐色部 粘性強。粒子粗い。焼土粒子多量含む
15. 淡黒色土 炭化物層。粒子細かい。

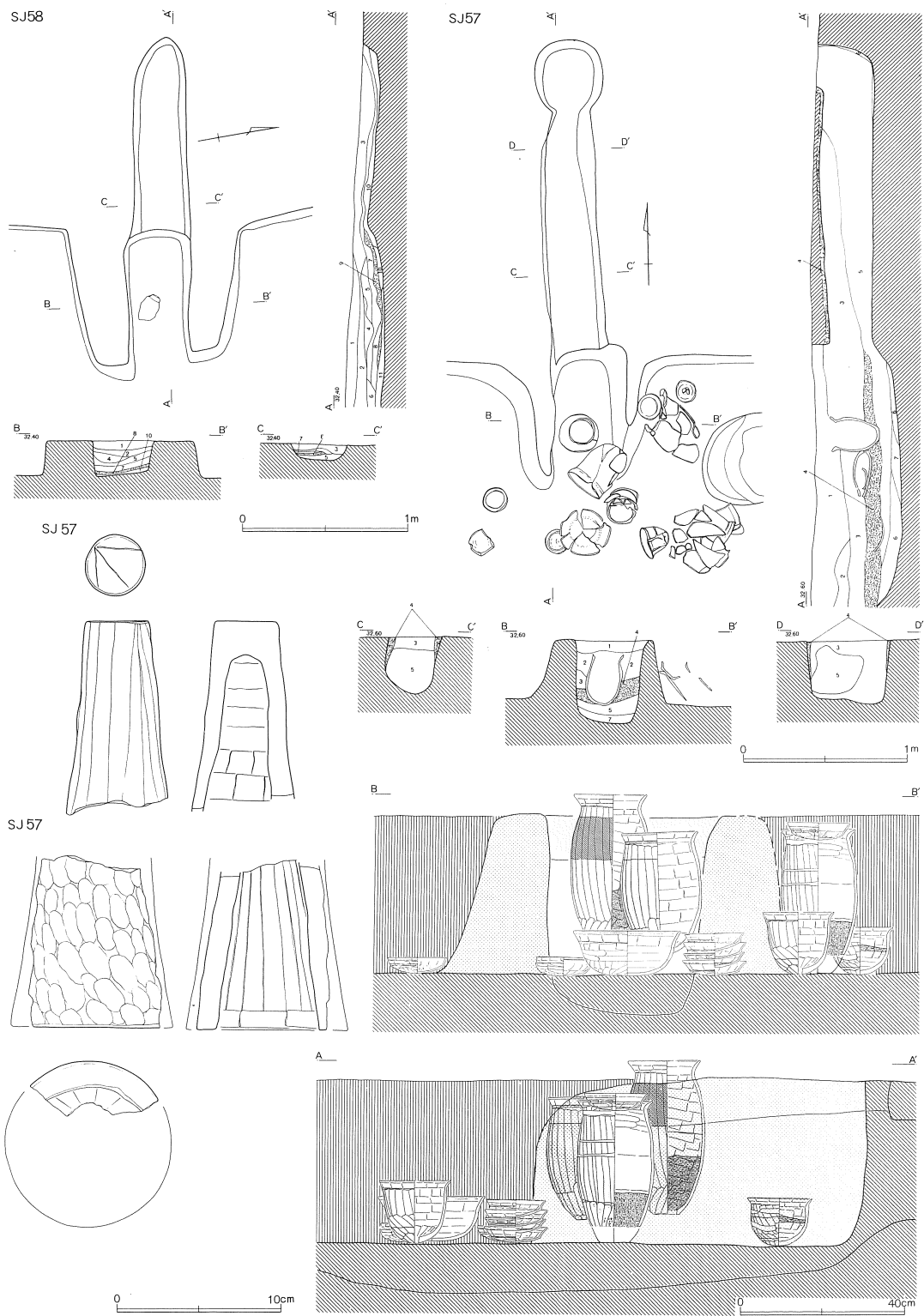
第52号住居跡カマド土層説明

1. 暗赤褐色土 焼土少量含む
2. 橙色土 焼土ブロック多量含む
3. 灰色土 粘性強
4. 暗赤褐色土 焼土、灰多量含む
5. 褐色土 焼土少量含む
6. 鈍赤褐 焼土ブロック少量含む。焼土粒子多量含む
7. オリーブ褐色土 焼土ブロック少量含む
8. 暗オリーブ褐色土

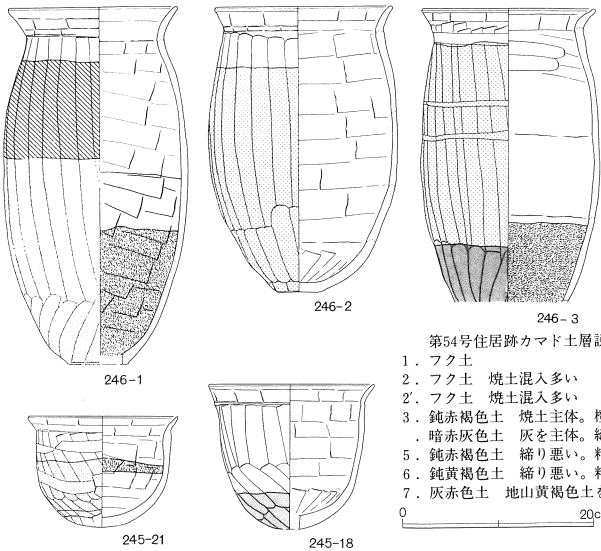
第 235 図 第51・52号住居跡カマド・遺物出土状態



第 236 図 第54・56号住居跡カマド・遺物出土状態



第 237 図 第57・58号住居跡カマド・遺物出土状態

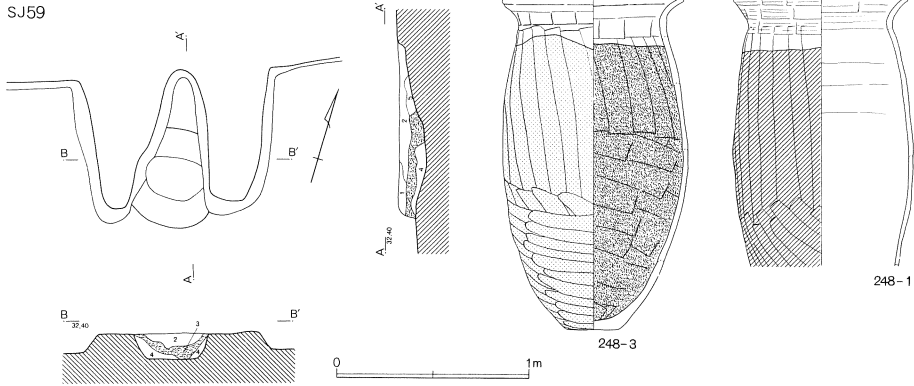


第54号住居跡カマド土層説明

1. フク土
2. フク土 焼土混入多い
- 2'. フク土 焼土混入多い
3. 鈍赤褐色土 焼土主体。橙色の焼土ブロック状に混入
- 3'. 暗赤灰色土 灰を主体。締り悪い。焼土粒多量含む
5. 鈍赤褐色土 締り悪い。粘性強。
6. 鈍黄褐色土 締り悪い。粘性強。部分的に焼土、炭多く混入
7. 灰赤色土 地山黄褐色土をベース。粘性やや高い

0 20cm

SJ59



第56号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 粘性弱い
2. 暗褐色土 粘性強い
3. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量含む
4. 鈍褐色土 締り悪い。粘性強。やや灰混入。焼土少々含む

第57号住居跡カマド土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土 天井崩落土
5. 暗褐色土
6. 灰色土
7. 暗褐色土 焼土混入。灰層

第57号住居跡カマド土層説明 (B-B', C-C', D-D')

1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 赤褐色土 焼土主体。天井崩落土

第58号住居跡カマド土層説明

1. 鈍赤褐色土 黒褐色粒子混入
2. 暗赤褐色土 黒褐色粒子混入。焼土粒子若干混入
3. 暗赤褐色土
4. 暗赤褐色土 黒褐色粒子混入。焼土ブロック粒子多量含む
5. 黒褐色土 黒褐色粒子混入。焼土ブロック粒子多量含む。天井崩落土
6. 黒褐色土 黒褐色粒子混入。焼土粒子多量含む
7. 褐灰色土 炭化物多量含む。焼土粒子少量含む
8. 橙色土 焼土層
9. 橙色土 炭化物多量含む
10. 暗赤褐色土 上面焼土粒多量含む
11. 暗赤褐色土 炭化物、炭化材。焼土多量混入。

第59号住居跡カマド土層説明

1. 灰黄褐色土 焼土粒子多量含む。炭化粒子少量含む
2. 暗赤褐色土 焼土層。灰黄褐色粒子少量含む
3. 暗褐色土 焼土粒子少量含む
4. 褐色土 焼土粒子微量含む
5. 褐色土 黒褐色粒子多量、灰褐色粒子含む。焼土粒子少量含む

第238図 第59号住居跡カマド・遺物出土状態

第56号住居跡

カマドは、長煙道である。燃烧部の袖部より手前に、土製支脚が立てられたままの状態出土している。この土製支脚は、脚部が欠損しており全容はつかみにくいが、裾広がりやや長い支脚である。下1/3ほどは、保存状態が悪くぼろぼろになっていた。

243-3は、小形の甕で底部は欠損している。外面には被熱痕等は見られない。しかし内面の口縁部直下から、全面に粒状の付着物が確認されている。

244-7は、甕の底部である。外面に大変強い被熱痕が認められる。

244-11は、やや小形の甕で、底部が欠損している。外面に胴下半が、被熱痕によって劣化している。カマドの燃烧部内に残る支脚に倒れ掛るようにして出土している。

332-14は、長胴甕である。外面の胴中位に、5cmほどの帯状の被熱痕が確認できる。この位置に対応するように、内面に筋状の粒状の付着痕跡が確認されている。

第58号住居跡

長煙道のカマドで、燃烧部の一部から土器片が出土しているが、明確な出土遺物はなかった。

第57号住居跡

天井部の残る保存状態の良い長煙道のカマドである。燃烧部手前に土器が集中し、とくに2点の支脚は注目する必要があるだろう。237-1は、下部の欠損した支脚で、外面を縦方向のヘラケズリによって仕上げている。中空の支脚で、途中まで輪積みの痕跡が残っているが、中央より下部は、横方向の細かなヘラケズリが見られる。237-2は、上部の欠損した支脚である。中空。分厚い器肉で外面は、指押えがされたままである。

246-1は、長胴甕で底部の一部を欠損する。外面胴上半は、帯状に焼土・粘土が付着している。内面では、胴下半に粒状の付着物を見ることができる。底部まで達しているであろう。

246-2は、長胴甕で完形である。外面胴上半から底部にかけて、全体的に被熱痕を確認することができる。しかし内面には、粒状痕跡等は確認することはできなかった。

246-3は、長胴の甕で底部が欠損している。外面には、口縁部直下から底部から1/5にかけ、被熱痕が確認できる。内面では、底部から1/3の部分まで、粒状の付着痕跡が確認できた。

245-21は、小形の甕で外面には、胴中位に帯状に被熱痕が確認されている。内面には、この被熱痕の上部の対応する位置に、筋状に粒状の付着痕跡が確認されている。

245-18は、小形の甕で外面底部に被熱痕が確認されている。

第59号住居跡

短煙道のカマドが確認されている。燃烧部からは、被熱痕の残る土器は確認されなかった。

248-3は、長胴甕で胴部の外面全体、口縁部を除いて被熱痕が見られる。内面も口縁直下から底部にかけて粒状の付着物を確認することができる。

248-1は、長胴甕で胴下半は欠損している。外面の口縁部直下から残存している部分までは、焼土・粘土の付着痕跡が見られる。

(5) 遺物各説 —古墳時代第Ⅳ期の出土土師器分類—

古墳時代第Ⅳ期の出土土師器は、25種の器種を見ることができる。

1 坏塚類 食膳具の坏塚類には、6つの器種がある。

須恵器模倣坏蓋4（蓋坏4） 須恵器の蓋付坏の蓋を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK10～TK43にかけての須恵器坏蓋Aの形態を模倣していると考えられる。しかし前段階のように忠実な模倣ではなく、土師器模倣坏の内部の型式変化とみてよい。成形の過程は、やはり前段階と同様だが、底部のヘラケズリの技法が定形化している。まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデしている。口縁部の折り曲げが緩くなり、外稜は不明瞭化してくる。内面のS字状の戻りは緩くなる。外稜よりも口唇部の径はさらに大きくなる。工具による押えは緩くなる。口唇部は丸みを持ってくる。第Ⅲ期よりも扁平化・大型化する。やはり普通製品のみになり、大形製品は、他の器種と交換する。

須恵器模倣坏身4（身坏4） 須恵器の蓋付坏の身を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK10～TK43の須恵器坏身に、形態は近似している。ただし須恵器模倣坏蓋4とセットとなるのではなく、次に上げる小針型坏1や有段口縁坏A1にもなって出現してきたものである。成形技法は、前段階同様、底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。口縁部は、内側に傾斜しつつ立上がり、S字状に粘土を折り曲げて口縁部を作り出す。口縁部の返りが短くなる。底部は分厚いが、細かくていねいにヘラケズリされている。口唇部は、丸く作られている。大振りの製品である。須恵器の大形化を意識しているのであろうか。

小針型坏1（小針坏1） 行田市小針遺跡から出土するきわめて特徴的な土器の系譜を引くと思われる一群の土器を一括する。須恵器の蓋付坏の蓋の模倣の一形態と考えられる土師器の坏である。とくに小針型坏は、口径が大きく、口縁部が、大きく外反しながら開いていくのが特徴。白色の土器である。しかし新屋敷東遺跡から出土している土器は、この系譜上にありながらも、さらにいくつかの点で退化傾向にある土器である。口唇部の内側に沈線を持ったり、口縁部がさらに大きく外反している点などである。この土器自体、田辺編年陶邑古窯跡群TK10～TK43に併行すると考えられる。成形技法は、須恵器蓋付坏の蓋模倣坏とほぼ同様。底部のヘラケズリの技法が定形化している。まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデしている。口縁部の折り曲げが緩くなり、外稜は不明瞭。内面のS字状の戻りは緩くなる。工具による押えは緩くなる。大形製品である。

有段口縁坏A1（有坏A1） 須恵器の蓋付坏の蓋の模倣の一形態と考えられる。田辺編年陶邑古窯跡群TK10～TK43に併行する段階から出現する。口縁部を3段以上の多段で構成するものをA類とする。細かな断続ヨコナデが確認され、口縁部は内湾しながら立上がっている。おそらく須恵器蓋付坏の蓋の形態を踏襲するためであろう。底部は、ヘラケズリのあと細かなヘラガキが施されている。底部は概して扁平である。内面には、丁寧な断続ヨコナデが施されている。口唇部は丸みを持っており、面をもつものはない。ただし、内面に沈線状のへこみが生ずるときもままある。

大形製品で、黒色処理される製品である。

有段口縁坏 B 1 (有坏 B 1) 須恵器の蓋付坏の蓋の模倣の一形態と考えられる。田辺編年陶邑古窯跡群 T K 43 に併行する段階から出現する。口縁部は、二段以上はない。従来の坏蓋模倣坏の形態的特徴を充分加味した器形である。口縁部が二段以内の点を除けば、坏蓋模倣坏と変わらない。ただし坏蓋模倣坏よりも丁寧な作りである。これを B 類とする。口縁部には、細かな断続ヨコナデが認められ、やや外反気味に立上がる。底部は、ヘラケズリのあと細かなヘラミガキが施される場合がある。底部はやや扁平である。口唇部は丸みを持っており、面をもつものはない。ただし、内面に沈線状のへこみが生ずるときもままある。普通製品である。黒色処理される製品もある。

比企型坏 1 (比坏 1) いわゆる比企型坏と呼ばれる一群である。薄く作られた底部は、細かなヘラケズリが施され、口縁部は、丁寧な断続ヨコナデが施されている。口径は大きく、深めの製品である。口縁部で急激に S 字状に屈曲して立上がる。外面の底部を除く胴部と、内面の全体に赤色塗彩が認められる。大変シャープな作りである。

2 高坏・器台類 食膳具の高坏・器台類には、2つの器種がある。

有稜口縁高坏 4 (有稜高 4) 口縁部の有稜部のみが確認されている。有稜高 3 よりもさらに外稜部の突出が短い。破片資料。

須恵器長脚高坏模倣高坏 2 (長高 2) 須恵器の長脚高坏を模倣した形態。脚部のみが確認されているため、全体の形状等は分からない。脚部は極端に長く、脚の付け根は、さらに空間が広い。外面は縦にヘラケズリされ、内面は、脚の絞り込みが少なく、横方向のヘラケズリが施されている。

3 小形製品 小形製品は、機能毎に柱を立てるべきだが一括した。9の器種を設定した。

長頸壺 2 (長壺 2) 須恵器の長頸壺をまったく模倣したもの。口縁部の沈線や、プロポーションなど驚くほど一致している。胴部は扁平化が進み、広口の口縁部が付く。胴部は、細かな横方向のヘラケズリによって成形され、口縁部には、丁寧な断続ヨコナデがされている。内面も丁寧なナデである。

須恵器 隼 模倣隼 (模倣隼) 須恵器の隼を忠実に模倣した製品である。扁平で球胴の胴部に、大きく八の字に広がる口縁部が付く形態である。口縁部には、二条に沈線が巡っており、有段口縁を意識しているのであろうか。頸部は無文帯である。焼成後に胴部に注ぎ口のための穴が明けられ、この穴を挟んだ部分には、文様をみることはできない。内外面ともに黒色処理が施されている。田辺編年陶邑古窯跡群 T K 43 に併行する段階の須恵器に近似している。

鉢 B 類 4 (鉢 B 4) 大形の鉢形土器である。成形方法等は、口縁部は内側に屈曲し、深めの碗形となっている。外面のヘラケズリは前段階に比べるとさらに粗く雑になる。内面はヘラオサエの後、ヨコナデされている。

鉢 J 類 (鉢 J) 小形のコップ形の鉢形土器で、底部に小さな脚をもつ。この脚は、コップ形の胴部を作ったあと、ヘラケズリによって削り取られるはずの底部であろう。指押えのあとが明瞭に残り、製作途上の製品であったことが色濃く出ている。口縁部はていねいにヨコナデされている。内面はていねいに指押えされている。

鉢K類(鉢K) 大形の鉢形土器。深い壙形の器形で口縁部は、二段である。横方向に細かく断続ヨコナデされている。底部は、細かなヘラケズリで調整される。内面には、放射状のヘラミガキが残る場合がある。被熱痕の残る土器が多く、あるいは、煮沸用の土器であろうか。内外面に黒色処理がされる場合がある。

小形壺4(小壺4) 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで成形する。外面は、胴部を横方向のヘラケズリを行ない調整する。口縁部は断続ヨコナデによって作られている。口縁は、球胴の胴部から強く屈曲して作られている。口縁部は胴部から大きく開いている。口唇部内側が、僅かに屈曲する。

小形甕4(小甕4) 粘土を輪積みし、内面を指、あるいはヘラによる押し当てで、胴下半を成形する。内面はヘラオサエで成形されたあと、胴上半は、断続的なヨコナデによって成形される。外面は、胴部を縦にヘラ削りし、横方向のヘラケズリで調整している。短い口縁部は、胴部から強く屈曲し外反する。器高が低くなり、胴部は厚い作りになる。

4 甕 甕の土師器全体に占める割合は、多くない。しかし4つの器種の設定が可能である。

三角甕4(三角甕4) 三角バケツに形態が近似する三角甕は、扁平化がさらに進む。器壁はやや薄くなり、全体のプロポーシヨンは、小形甕形甕に近づく。口縁部は丁寧なヨコナデされ、強く屈曲している。内面は、ヘラオサエによって成形されている。

甕形甕4(甕形甕4) 頸部のあまり締まらない、ずん胴の甕形の甕である。口縁部はくの字に屈曲している。外面は、縦にヘラケズリされ、胴下半でヘラケズリされる。口縁部は断続的にヨコナデされている。内面は、縦にナデられている。作りにていねいさが見られない。

大形甕4(大形甕4) 大形の筒抜けの甕である。形状は、三角甕の大型化したもの。一直線に口縁部に達する。口縁部では短く、なだらかに屈曲し外反する。内面は、底部から1/3のところまでしかヘラオサエされていない。

小形甕形甕(小甕形甕) 小形の筒抜けの甕である。口縁部がほとんど屈曲せずに立上がる。甕形甕の小形版。口縁部は断続ヨコナデされている。外面は細かなヘラケズリ。内面は、底部から1/3のところまでしかヘラオサエされていない。

5 甕・壺 甕・壺は、煮沸・貯蔵用として多く生産される。4つの器種の設定が可能である。

球胴壺4(球胴壺4) 胴下半が欠損しており、形状はやや不明瞭だが、球胴の壺と考えられる。口縁部は素口縁で構成され、胴上半は、横にヘラケズリされている。内面はヘラオサエされ、口縁部はヨコナデされている。

大形甕3(大甕3) 口径の大きな大形の甕である。胴部の全面をヘラケズリされている。口縁部は緩く断続ヨコナデされている。内面は、ヘラオサエされており、口縁部はヨコナデである。点数は少ないが確実に系列をたどれる。口縁部は複合口縁状。

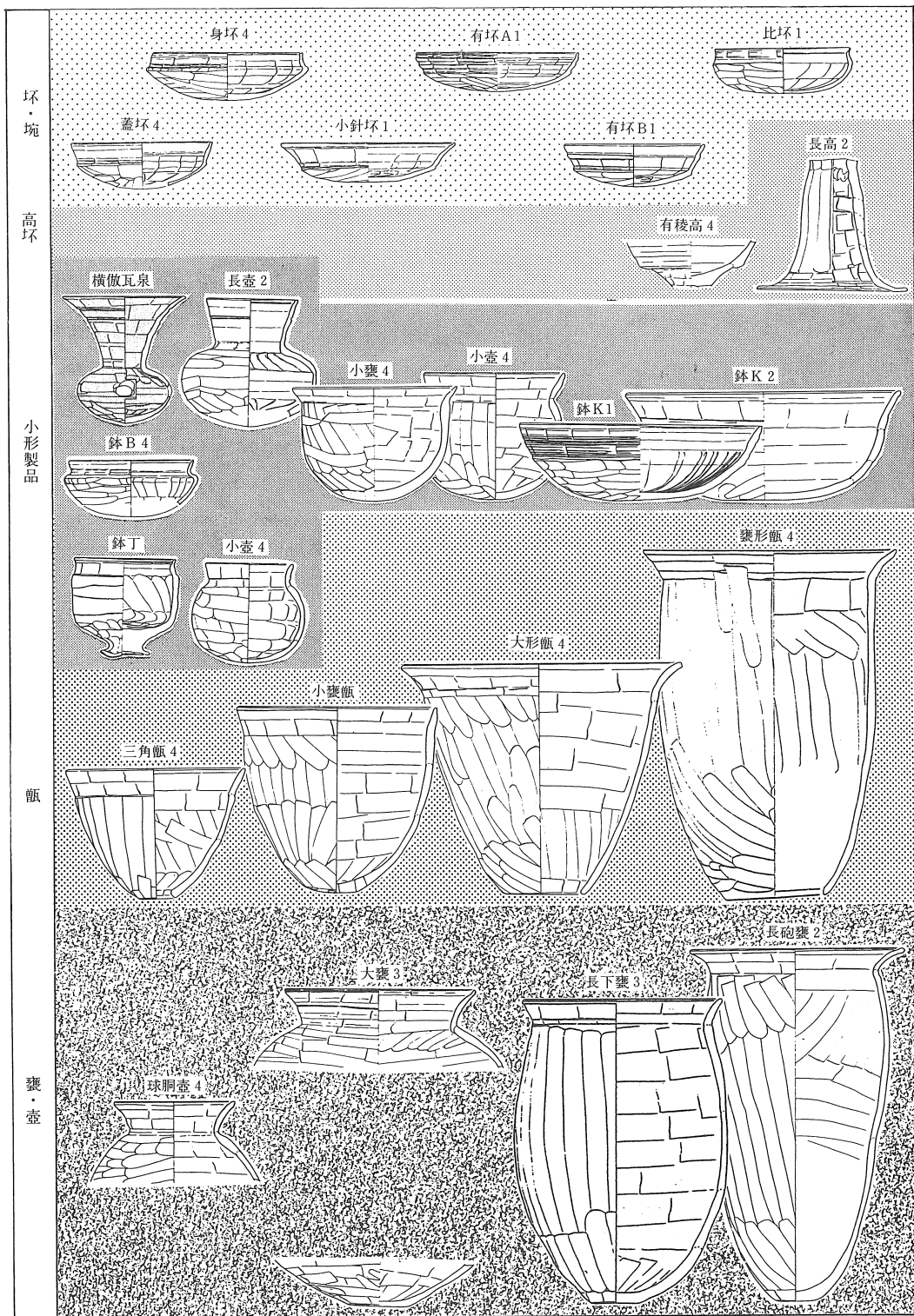
下膨長胴甕3(長下甕3) 長胴でしかも最大径が、胴下半にある下膨れの甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをし、胴下半をさらにヘラケズリしている。口縁部が、くの字に近く屈曲し、断続ヨコナデが施されている。内面は、ヘラオサエのあと、ヨコナデが施されている。

砲弾形長胴甕2(長砲甕2) 長胴でしかも最大径が、胴上半肩部にある甕を一括する。外面は

縦にヘラケズリをし、底部付近を斜め横に削っている。肩部が斜め縦にヘラケズリされるのが特徴である。

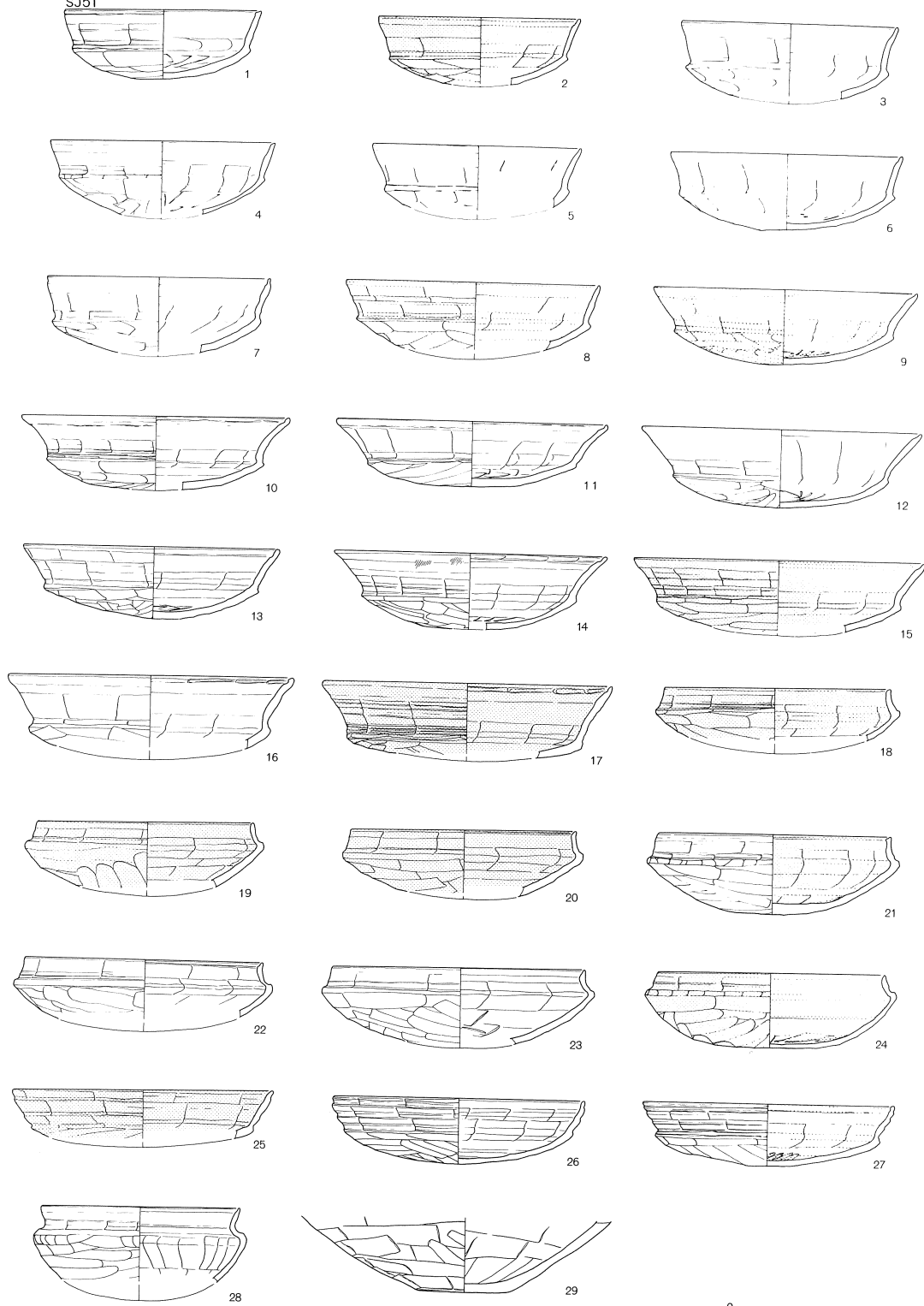
古墳時代第Ⅳ期として分類した土師器は、有段口縁杯の登場に見られるように、第Ⅲ期までの須恵器模倣系統の土師器の生産を塗り替えるほど、新たな展開があった。この出現は、新屋敷東遺跡の集落としての展開にも大きく関与していた。また比企型杯の出現にも見られるように、他地域の土器が、この集落に徐々に入りつつも、土器生産の各項目を変化させることはなかった。集落の展開が、爆発的になるのは、次の第Ⅴ期からなのである。





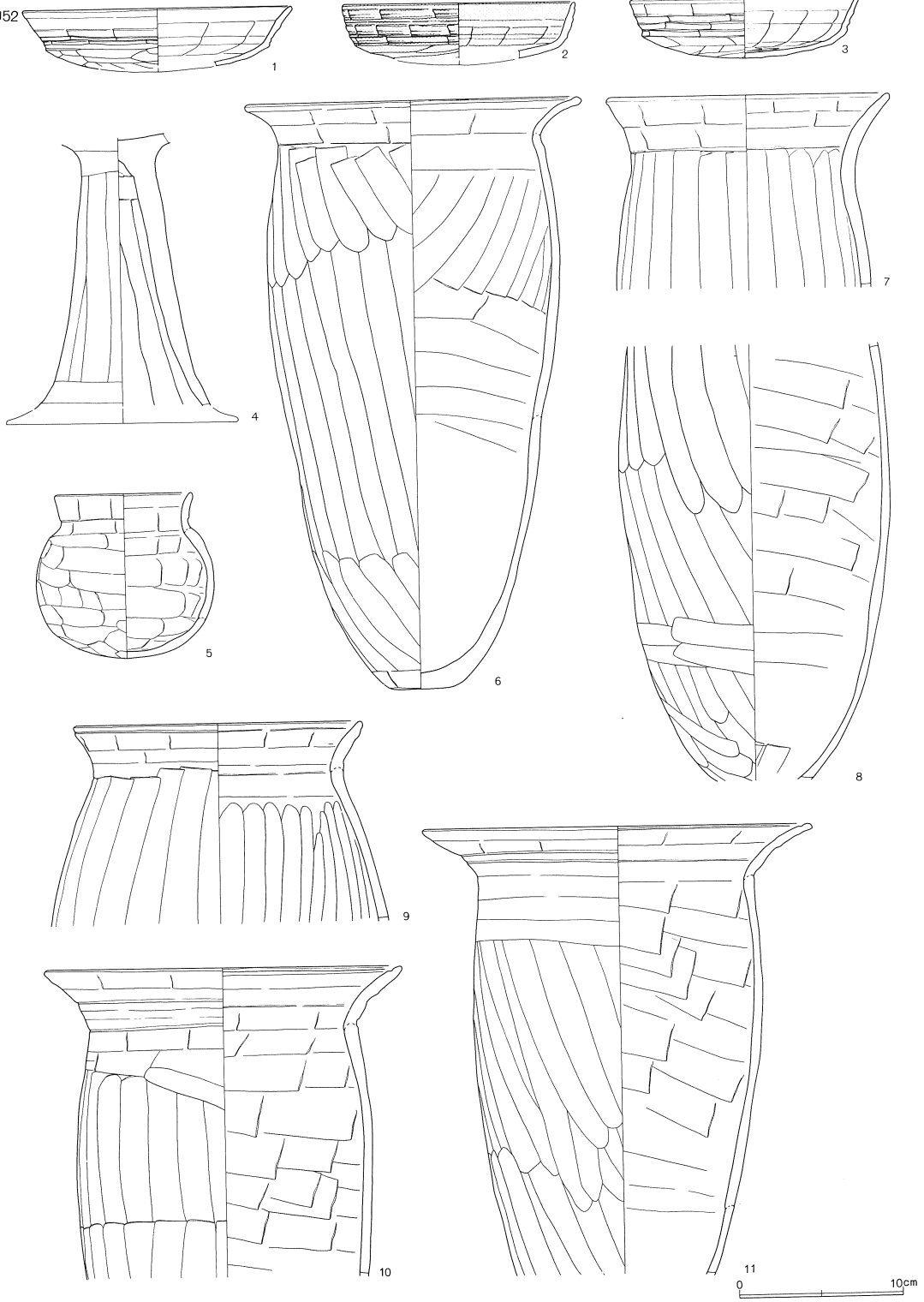
第 239 図 古墳時代第Ⅳ期の出土土器分類

SJ51



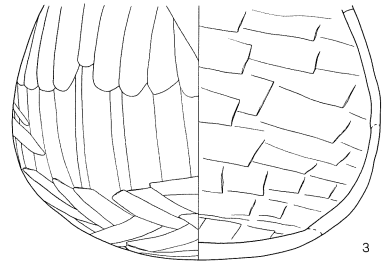
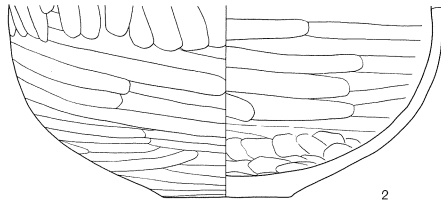
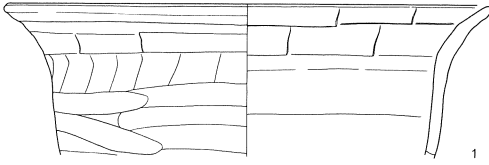
第 240 图 第 51 号住居跡出土遺物

SJ52

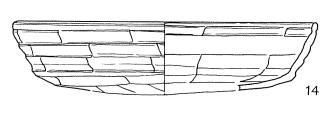
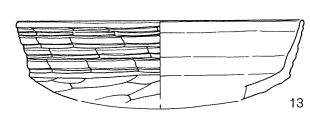
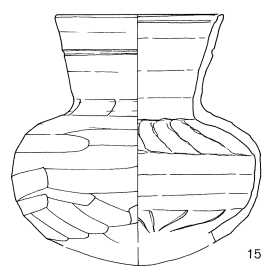
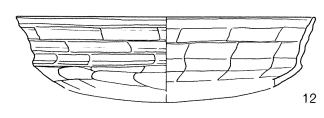
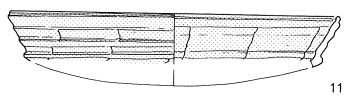
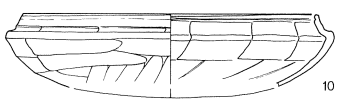
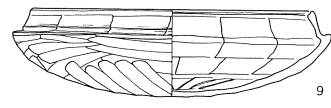
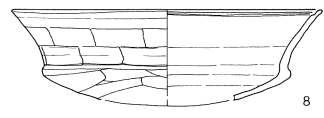
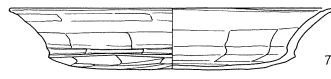
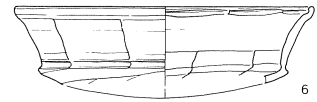
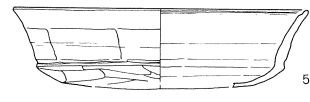
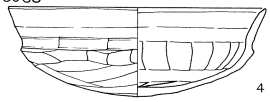


第 241 图 第52(1)号住居跡出土遺物

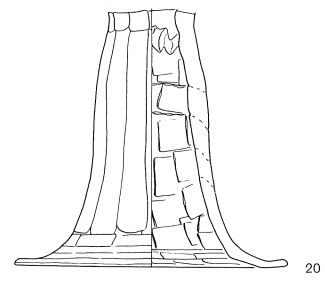
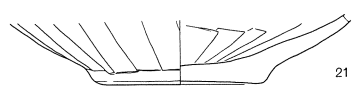
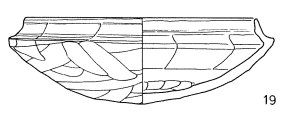
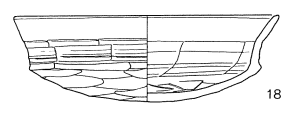
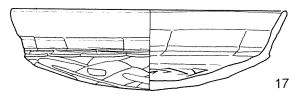
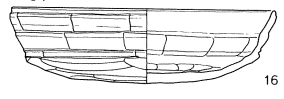
SJ52



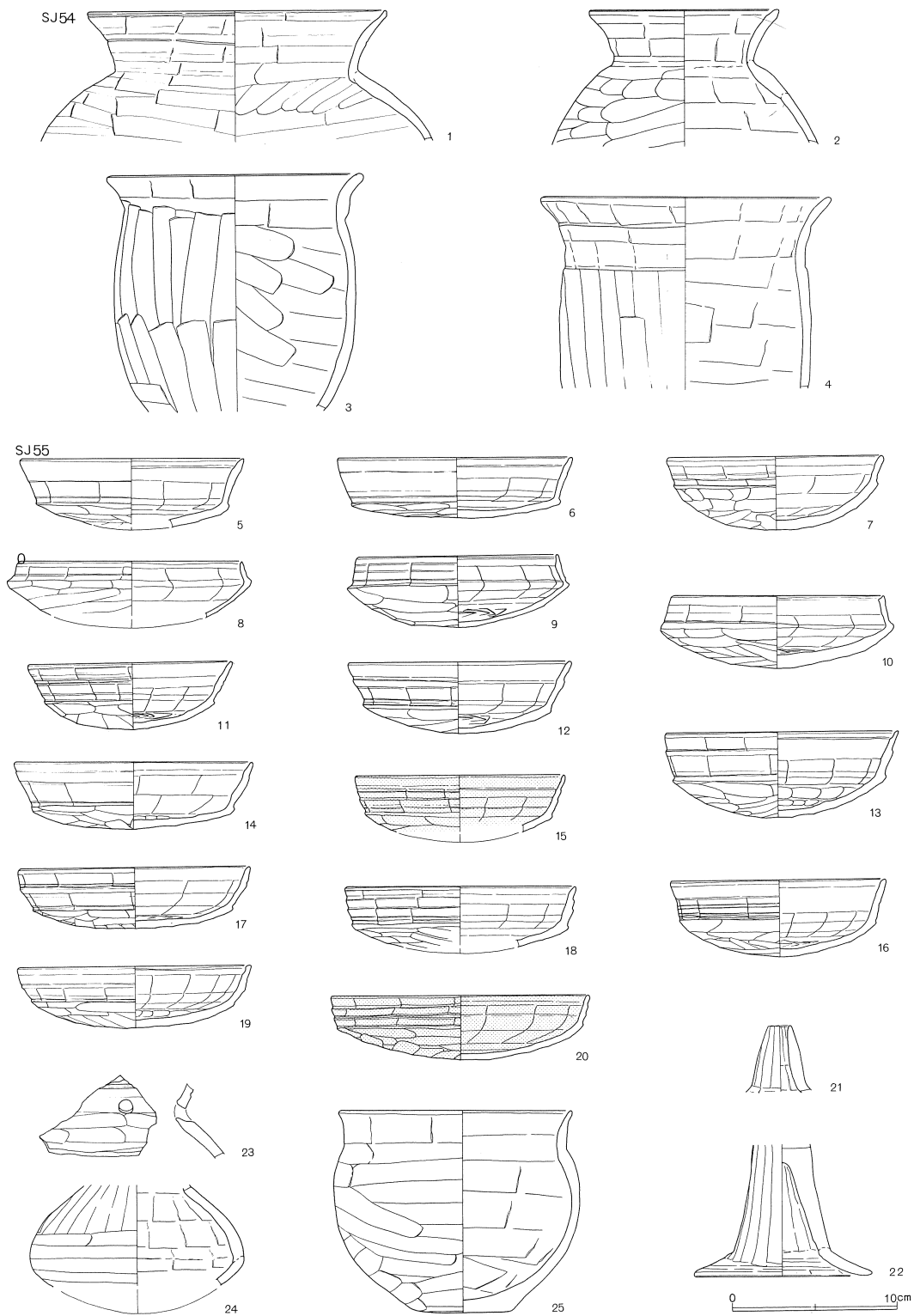
SJ53



SJ54

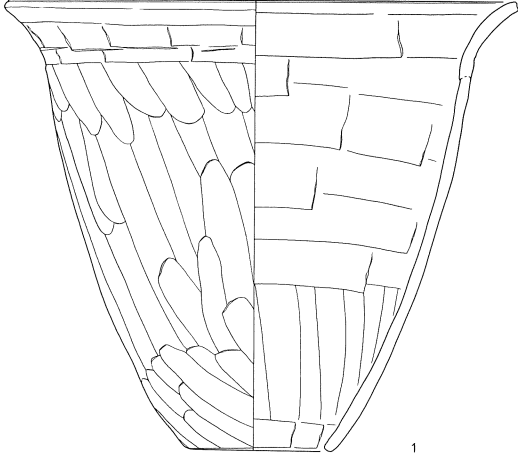


第 242 图 第52(2)·53·54(1)号住居跡出土遺物

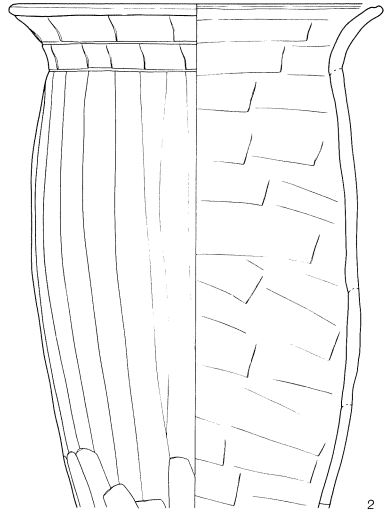


第 243 图 第54(2)·55(1)号住居跡出土遺物

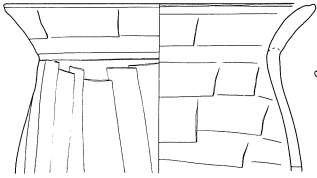
SJ55



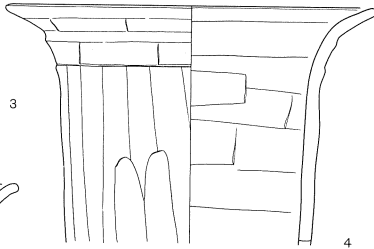
1



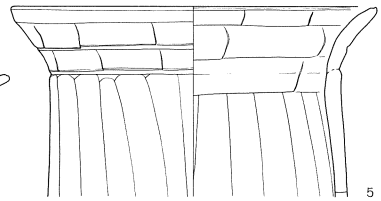
2



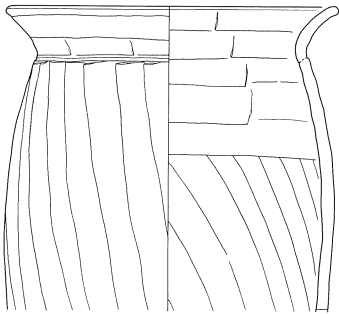
3



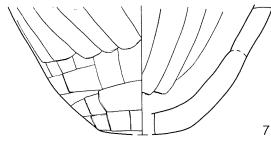
4



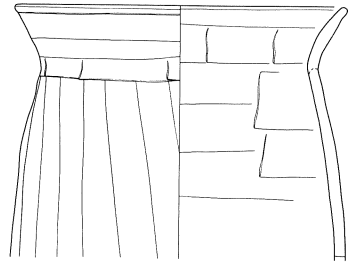
5



6

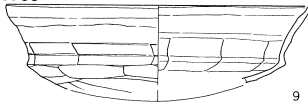


7



8

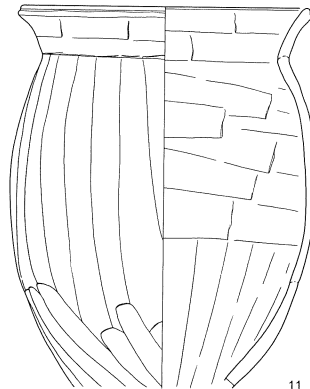
SJ56



9



10

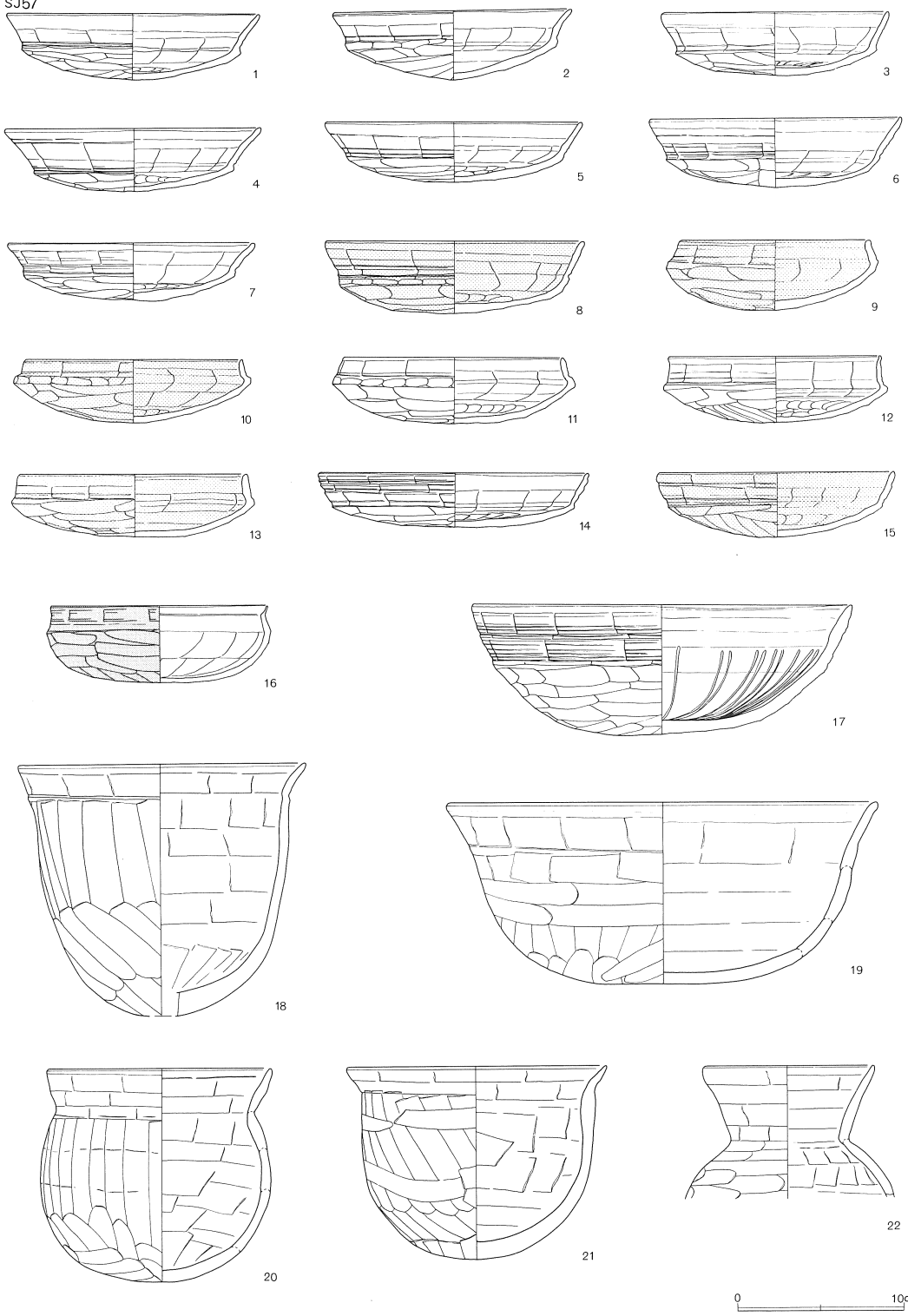


11

0 10cm

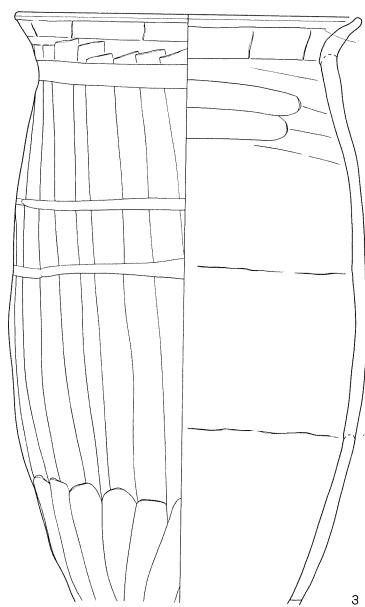
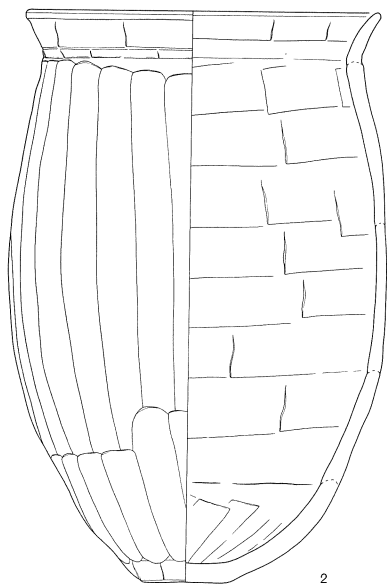
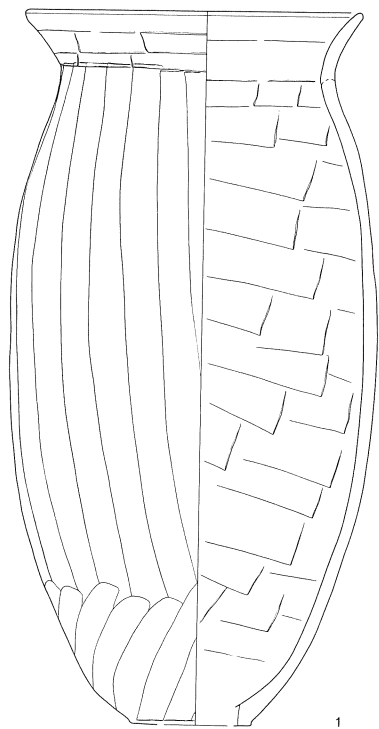
第 244 图 第55(2)·56号住居跡出土遺物

SJ57



第 245 图 第57(1)号住居跡出土遺物

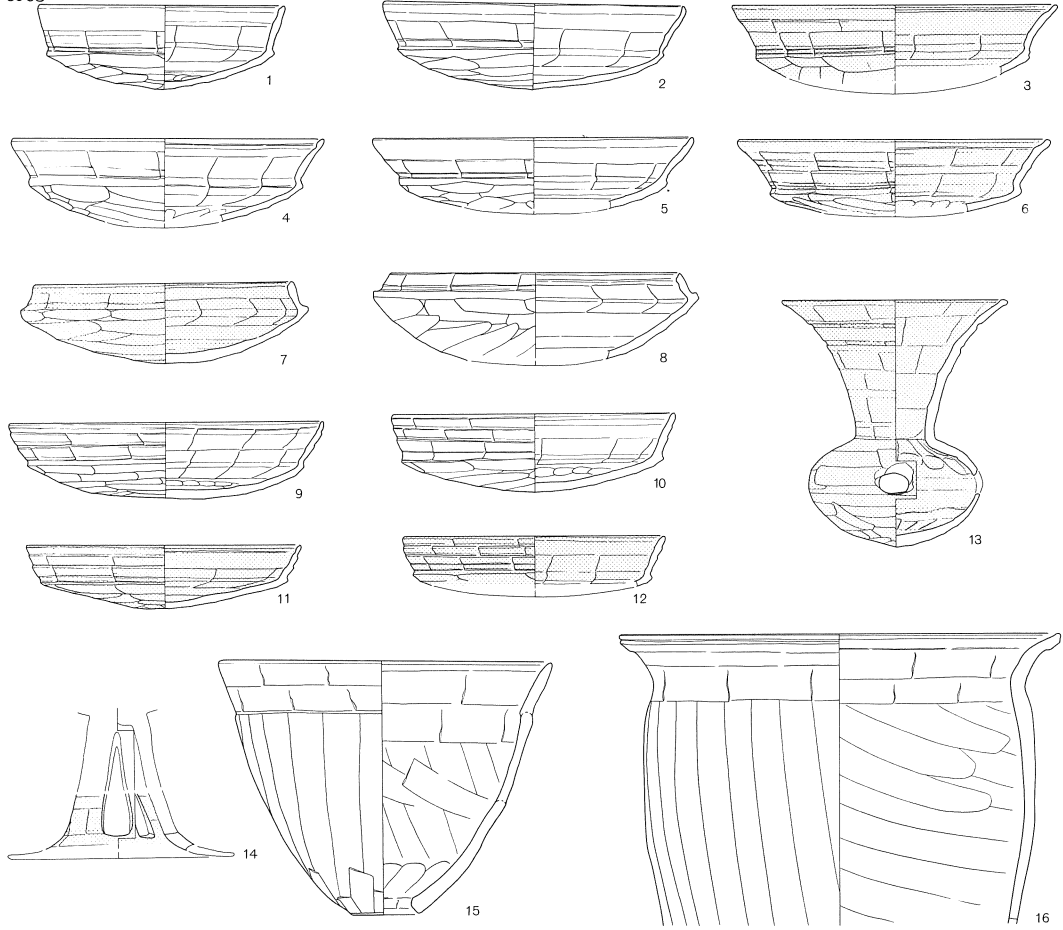
SJ57



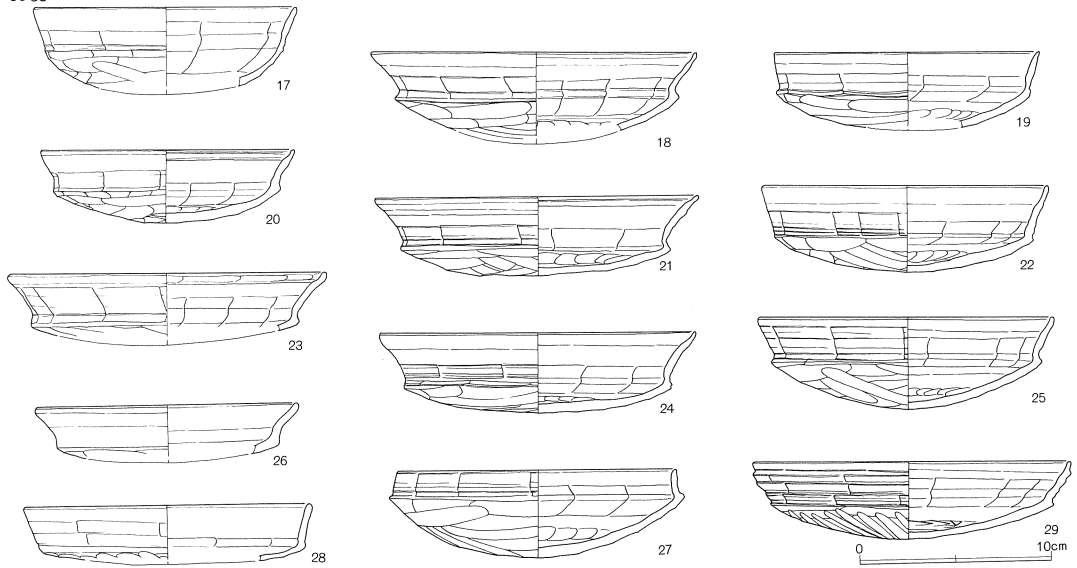
0 10cm

第 246 图 第57(2)号住居跡出土遺物

SJ58

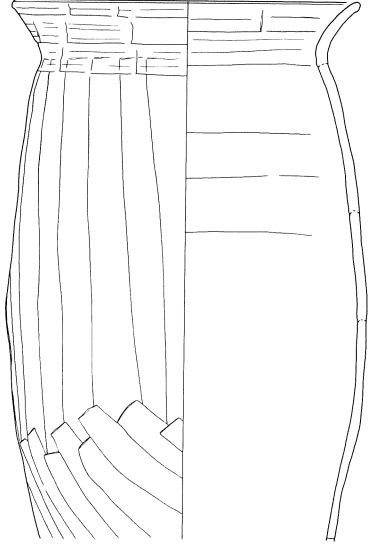


SJ59

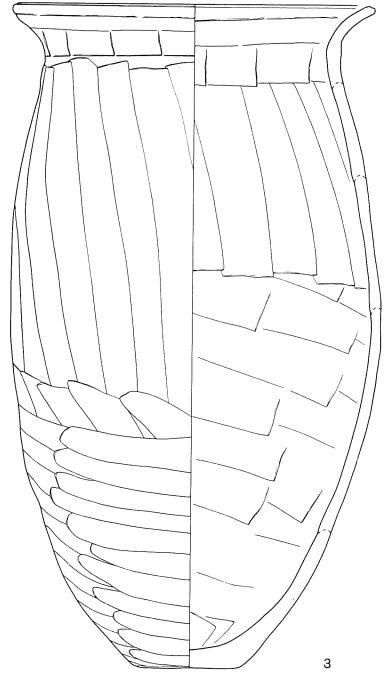


第 247 图 第 58 · 59(1)号住居跡出土遺物

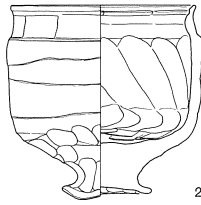
SJ59



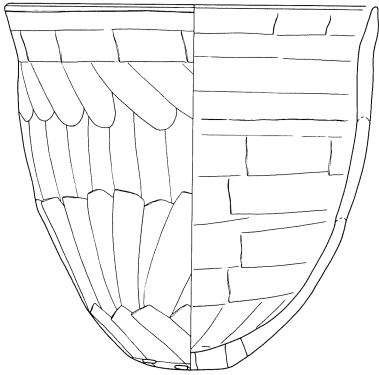
1



3

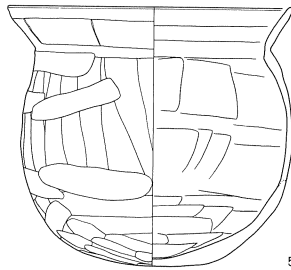


2

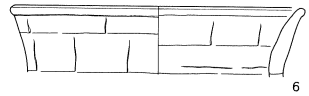


4

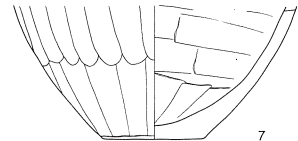
SJ57



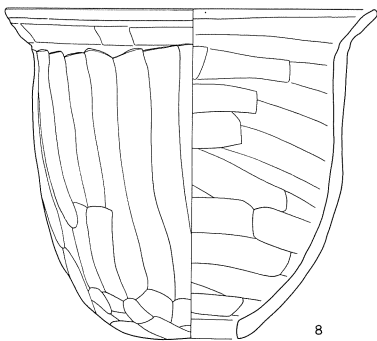
5



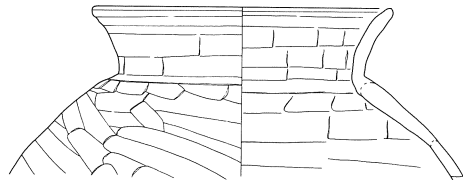
6



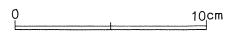
7



8



9



第 248 图 第59(2)号住居跡出土遺物

第78表 第51号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 240 図								
1	蓋坏 4	12.3	11.1	4.3	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 6	
2	蓋坏 4	12.6	11.2	4.3	1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 6 / 6	
3	蓋坏 4	13.4	12.6	5.0	1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8	
4	蓋坏 4	14.0	12.8	4.9	1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 4 / 8	
5	蓋坏 4	13.0	11.5	4.6	1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 6	
6	小坏 1	14.4	13.5	4.7	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 6	
7	有坏 B 1	13.8	12.9	5.0	1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8	
8	有坏 B 1	15.7	14.6	4.8	1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 4 / 4	
9	小坏 1	17.5	13.6	4.7	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 7 / 8	
10	小坏 1	16.6	13.5	4.6	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 4	
11	小坏 1	16.8	13.0	4.1	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8	
12	小坏 1	17.3	13.3	4.9	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 4	
13	小坏 1	15.9	13.3	4.4	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6	
14	小坏 1	17.0	13.3	4.8	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 8	
15	小坏 1	18.1	15.1	4.7	破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 7 / 4	
16	小坏 1	17.7	15.0	5.3	破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 4	
17	小坏 1	18.0	14.1	4.7	1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 8 / 3	
18	身坏 4	14.1	15.1		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 8 / 3	
19	身坏 4	13.5	14.7	4.5	1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 4	
20	身坏 4	14.0	15.0	4.2	破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 8 / 3	
21	身坏 4	14.5	15.7	5.0	400 2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 8 / 4	
22	身坏 4	14.8	16.0	4.5	破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6	
23	身坏 4	15.2	16.9	4.9	破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5Y R 7 / 6	

第79表 第51号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
24	身坏4	14.1	15.6	4.5		1/2	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	内外面黑色処理 5 Y R 7 / 6
25	有坏A1	16.2	13.8	3.5		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	内外面黑色処理 2.5 Y R 5 / 6
26	有坏A1	15.6	14.2	4.1	400	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
27	有坏A1					1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 4
28	鉢B4	12.3	13.1	5.8		1/4	底部横ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
29	大甕3		5.7			1/5	横ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 4

第80表 第52号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第241図								
1	小坏1	16.8	14.0	4.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
2	有坏A1	14.5	13.8	3.9		1/6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 5 Y R 4 / 3
3	有坏A1	14.2	12.0	3.8		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
4	長高2					1/3	縦ヘラケズリ→裾部ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ→ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
5	小壺4	8.5		10.0	560	1/3	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	10 Y R 5 / 1
6	長砲壺2	20.6	3.8	36.0	3,600	4/5	胴部縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ→口 縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続 ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
7	長砲壺2	17.5				1/5	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
8	長下甕3					1/3	縦ヘラケズリ。内面ヘラオサエ。	10 Y R 6 / 3
9	長下甕3	17.8				1/5	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデ アゲ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
10	長砲壺2	22.0				1/4	縦ヘラケズリ→肩部横ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナ デ。	7.5 Y R 7 / 3
11	長砲壺2	24.0				1/2	縦ヘラケズリ→肩部ヨコナデ→口縁部断続ヨコ ナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
第242図								
1	長砲壺2	26.5				破片	縦ヘラケズリ→胴部横ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
2	球胴壺3		2.0			1/5	ヨコナデ→縦ヘラケズリ。内面ユビオサエ→ヨ コナデ。	7.5 Y R 7 / 8

第81表 第52号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
3	球胴壺 4		6.8			1/3	縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面横ヘラオサエ。	10 Y R 7 / 2

第82表 第53号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 242 図								
4	蓋 4	13.6	12.4	4.8	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
5	小 4	15.6	13.2	4.3		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
6	小 4	15.9	13.3	5.9		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
7	小 4	17.3	13.1	3.3		1/2	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
8	小 4	16.5	13.2	5.1		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	身 4	15.1	17.0	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 6
10	身 4	15.3	17.3	4.4		1/6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
11	有 4	17.5	16.9	3.8		破片	口縁部断続ヨコナデ（4段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 5 / 6
12	有 4	16.6				1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（4段）。断続ヨコナデ。	
13	有 4	15.1	13.9	4.7		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（5段）。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
14	有 4	16.0	14.0	3.9		1/6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
15	長 2	9.0				1/5	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ→口縁部沈線。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第83表 第54号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 242 図								
16	有 4	14.1	12.4	4.0	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
17	蓋 4	14.6	12.9	4.3	360	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
18	蓋 4	14.0	12.3	4.6	400	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
19	身 4	12.3	14.1	4.5	300	一部欠	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 6 / 8

第84表 第54号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
20	長高2					損 1/2	ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。 縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ →断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
21	無花壺4		9.0			破片	底部ヘラケズリ→。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
第 243 図								
1	球胴壺3	20.1				1/10	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ナデアゲ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
2	球胴壺3	11.1				1/10	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
3	長砲壺2	15.8				1/2	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ヨコナデ。	5 Y R 6 / 4
4	長砲壺2	17.9				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3

第85表 第55号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 243 図								
5	蓋环4	13.8	11.9	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
6	蓋环4	14.5	12.9	3.7		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 7 / 4
7	蓋环4	13.4	12.7	4.5	300	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
8	身环4	13.9	15.1	4.1		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
9	身环4	12.5	12.8	4.5		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
10	身环4	13.0	14.4	4.5		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 3 / 1
11	有环B 1	12.7	10.5	4.1	280	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコ ナデ。	5 Y R 7 / 6
12	有环B 1	13.3	11.7	4.4	380	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
13	有环B 1	14.5	13.0	5.3		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
14	有环B 1	14.7	12.5	4.1		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
15	有环A 1	13.0	11.0	4.1		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 5 / 6
16	蓋环4	13.3	12.2	4.7		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
17	有环A 1	14.2	12.4	3.8		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヘラオシアテ→断続ヨ	2.5 Y R 5 / 6

第86表 第55号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
18	有环A 1	14.3	13.4	4.5	340	1 / 5	コナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5Y R 6 / 8
19	有环A 1	14.5	12.5	4.8		1 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（4段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
20	有环A 1	16.0	15.1	4.0		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面ヘラオシアテ→断続ヨ コナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 4 / 3
21	長高 2					破片	縦ヘラケズリ。横ヘラケズリ。	2.5Y R 6 / 6
22	長高 2					1 / 5	縦ヘラケズリ→裾部ヨコナデ。横ヘラケズリ。 裾部断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 6
23						破片	胴部横ヘラケズリ。ヨコナデ。	10Y R 8 / 2
24	小丸 4					破片	縦ヘラケズリ→胴部横ヘラケズリ。内面横ヘラ ナデ。	5 Y R 5 / 6
25	球胴甕 4	14.4	5.5	12.4	900	1 / 3	胴部横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラ オサエ→ヨコナデ。	10Y R 7 / 3
第 244 図								
1	大型甕 4	27.1	22.7	23.7	4,900	1 / 2	胴部斜めヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁 部断続ヨコナデ。内面胴部縦ナデアゲ→ヨコナ デ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
2	長砲甕 2	19.8				3 / 4	胴部縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁 部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	10Y R 6 / 2
3	長砲甕 2	16.5				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコ ナデ→口縁部ヨコナデ。	10Y R 8 / 2
4	長砲甕 2	19.7				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ヨコナデ→口縁部ヨコナデ。	2.5Y R 7 / 6
5	長砲甕 2	19.4				1 / 8	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ナデアゲ→口縁部ヨコナデ。	10Y R 7 / 3
6	長下甕 3	17.5				1 / 3	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ナデアゲ→口縁部ヨコナデ。	5 Y R 7 / 3
7	長砲甕 2		4.5			破片	底部横ヘラケズリ→胴部縦ヘラケズリ。内面断 続ヨコナデ。ナデアゲ。	7.5Y R 4 / 4
8	長下甕 3	17.5				1 / 5	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 ヨコナデ→口縁部ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6

第87表 第56号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 244 図								
9	小环 1	16.1				1 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 8
10	有稜高 4					破片	口縁部ヨコナデ→脚部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 6
11	球胴甕 4	15.3				3 / 4	胴部縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ→口 縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→ヘラオサエ	2.5Y R 6 / 6

第88表 第56号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
							→断続ヨコナデ。	

第89表 第56号住居跡出土土器③①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第245図								
1	小坏1	15.5	13.4	4.1	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR5/6
2	小坏1	14.6	13.0	4.3	4/5		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR6/6
3	蓋坏4	13.8	12.3	3.9	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR7/6
4	小坏1	15.6	12.2	4.0	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR7/6
5	小坏1	15.2	13.2	3.7	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	口縁部一對の穿孔あり 2.5YR5/6
6	小坏1	15.4	13.0	4.2	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
7	小坏1	15.0	13.0	3.5	340		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR5/6
8	小坏1	15.9	14.0	4.5	400	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR5/8
9	身坏4	11.7	13.0	4.3	2/3		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5YR8/3
10	身坏4	13.3	14.5	3.9	1/2		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR7/2
11	身坏4	13.5	14.9	4.0	1/2		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
12	身坏4	13.1	13.7	4.0	360	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR7/6
13	身坏4	14.0	14.9	3.8	1/5		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR6/3
14	有坏A1	16.5	14.8	3.3	1/3		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（4段）。内面断続ヨコナデ。	2.5YR6/6
15	有坏A1	14.4	13.1	4.1	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR6/6
16	比坏1	13.3	13.7	4.6	360	1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→外面赤彩。内面断続ヨコナデ。	比企型坏 7.5R4/6
17	鉢K1	23.2	20.2	8.0	1,800	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ユビオサエ→ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	7.5YR7/4
18	小甕4	17.5		15.1	1,600	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→ヘラオシアテ。	5YR7/4
19	鉢K2	26.2		11.0		2/3	縦ヘラケズリ→口縁部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5YR5/4

第90表 第57号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
20	小甕 4	13.8	12.2	13.0	1,600	完形	胴部縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
21	小甕 4	15.9	14.2	11.7	1,400	完形	縦ヘラケズリ→口縁部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ。内面横ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
22	長壺 2	10.5				1 / 10	胴部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
第 246 図								
1	長下甕 3	17.8		37.5	6,700	4 / 5	胴部縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 3
2	長下甕 3	18.8	4.5	30	2,300	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→底部周辺縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
3	長下甕 3	18.3			(5,600)	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→胴部上半ヨコナデ（2条）。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
4	甕形甕 4	25.1	10.0	34.5	8,800	1 / 4	胴部縦ヘラケズリ→底部周辺斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→肩部ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	10 Y R 8 / 4
第 248 図								
5	球胴甕 4	15.1	2.0	13.7		完形	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
6	球胴壺 3	15.5				1 / 10	口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
7	長砲壺 3		5.5			1 / 8	縦ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
8	小甕甕 2	19.8	4.0	17.4		1 / 4	胴部縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
9	球胴壺 3	16.0				1 / 10	横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6

第91表 第58号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 247 図								
1	有坏 B 1	13.2	12.2	4.5	340	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
2	小坏 1	16.0	14.1	4.6	520	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
3	小坏 1	17.3	14.5	4.9		1 / 6	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 5 / 4
4	小坏 1	16.6	14.6	5.0	520	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 6 / 8
5	小坏 1	17.0	14.2	4.0		1 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
6	小坏 1	16.5	13.3	4.2	420	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 5 / 6

第92表 第58号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
7	身坏4	13.7	15.5	4.3	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5Y R 5 / 6
8	身坏4	15.5	17.3	5.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 4
9	有坏A1	16.7	14.6	4.0	500	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6
10	有坏A1	15.0	13.8	4.1		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 8
11	有坏A1	14.6	13.2	3.4		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5Y R 4 / 3
12	有坏A1	14.0	12.7	3.3		1 / 10	口縁部断続ヨコナデ（4段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5Y R 4 / 3
13	模倣甕	12.0		13.0	380	2 / 3	胴部ヨコナデ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→2条の沈線。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 6 / 4
14	長高坏					破片	断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。	三角形の透かし穴あり 内外面黒色処理 7.5Y R 6 / 4
15	三角甕4	17.7		13.5		1 / 2	胴部縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5Y R 6 / 6
16	長砲甕2	23.4				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5Y R 7 / 6

第93表 第59号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第247図								
17	蓋坏4	14.0	12.2	4.7		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6
18	小坏1	17.4	15.0	4.9	580	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 6
19	蓋坏4	14.2	13.5	4.1		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
20	蓋坏4	13.5	12.2	3.8	260	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 7 / 6
21	小坏1	17.3	14.4	4.2	500	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5Y R 6 / 8
22	小坏1	15.2	13.7	4.6	440	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 8
23	小坏1	16.9	14.2	4.0		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5Y R 7 / 6
24	小坏1	16.8	14.2	4.3	480	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5Y R 6 / 8
25	小坏1	15.7	14.4	5.0	480	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5Y R 6 / 8

第94表 第59号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
26	蓋坏 1	15.3	14.2	3.0		破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
27	身坏 4	14.9	15.7	4.7	400	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
28	小坏 1	16.0				破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
29	有坏 A 1	16.9	15.1	4.2	460	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（4段）→底部細かなヘラミガキ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 5 / 4
第 248 図								
1	長下甕 3	18.4				1 / 2	胴部縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 1
2	鉢 J	9.8				完形	胴部ヨコナデ→底部ヘラオコシ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→口縁部ヨコナデ。	7.5 Y R 5 / 8
3	長下甕 3	19.2	5.5	35.0	6,700	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
4	小甕甕 2	19.8	5.5	19.2	3,200	完形	胴部縦ヘラケズリ→底部斜ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	10 Y R 7 / 2

第95表 古墳時代第Ⅳ期の編物石

番号	出土遺構	長さ mm	厚み mm	重さ g	石 質 等
第 249 図					
1	S J 55	153	52	490	緑泥石片岩
2	S J 55	133	70	425	安山岩
3	S J 55	135	52	490	安山岩
4	S J 55	120	67	450	安山岩
5	S J 55	—	—	—	安山岩
6	S J 55	97	57	235	安山岩
7	S J 55	129	44	185	安山岩
8	S J 57	166	70	665	南隅床直
9	S J 57	146	55	585	安山岩
10	S J 57	151	43	720	安山岩
11	S J 57	147	65	635	南隅床直
12	S J 57	149	71	665	南隅床直
13	S J 57	142	69	550	南隅床直
14	S J 57	135	62	670	安山岩
15	S J 57	140	57	600	南隅床直
16	S J 57	137	46	280	安山岩
17	S J 57	—	—	—	安山岩
18	S J 57	—	—	—	安山岩
19	S J 57	—	—	—	安山岩

(6) 遺物各説

—古墳時代第Ⅳ期の編物石—

第55・57号住居跡で数点まとまって、編物石が出土している。55号住居跡では、7点の編物石が出土している。450g前後の石材で、扁平な形の揃った編みもの石である。出土状態が確認されていないが、おそらく第55号住居跡に伴うものであろう。

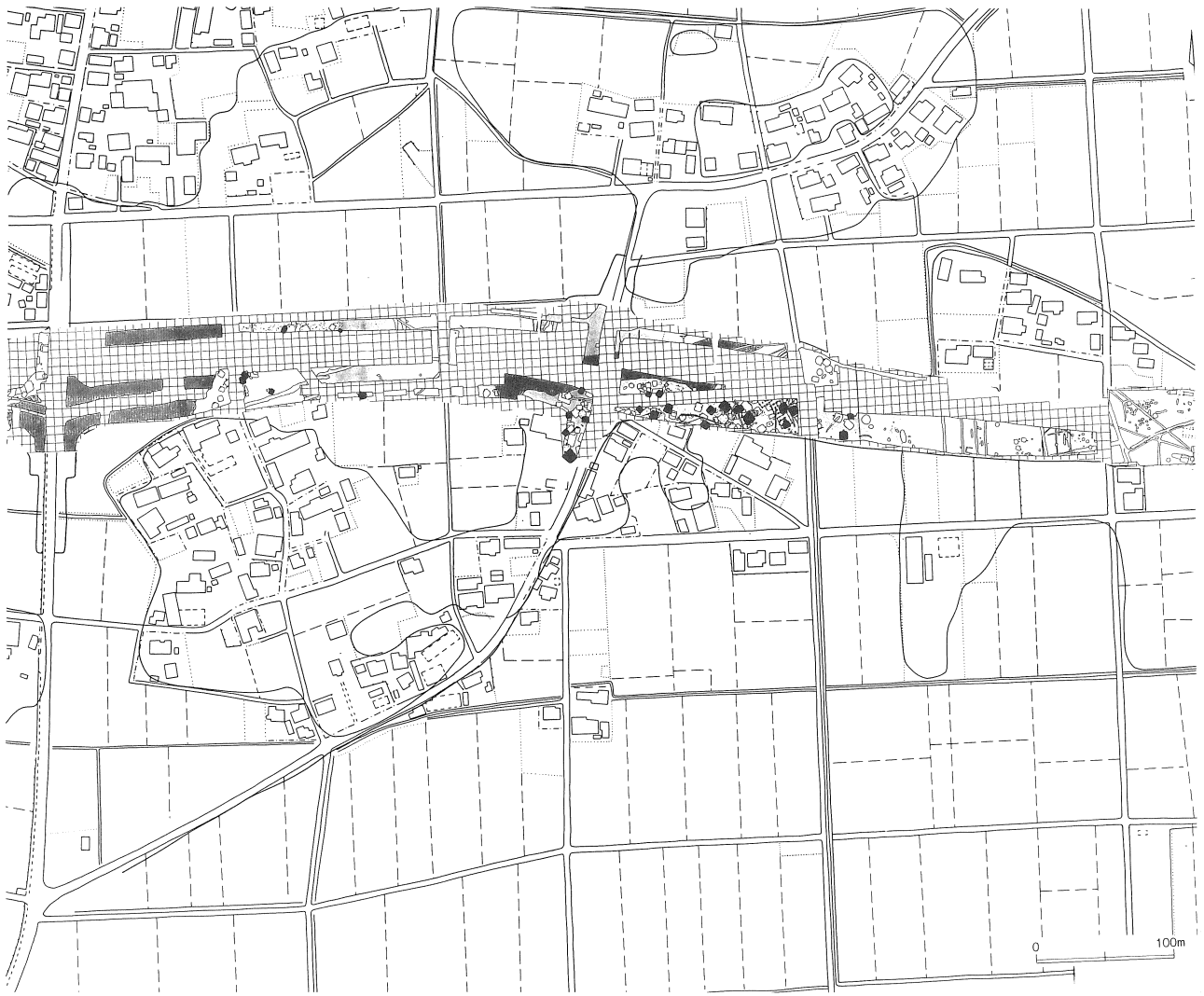
第57号住居跡では、12点の編物石が出土している。5点については、南隅から床直の状態出土している。625g前後の石材で、大きき形とも揃っている。

古墳時代第Ⅳ期の住居からは、まと



第 249 図 古墳時代第IV期の編物石

まった形でしかも床直の出土状態で編物石が出土しており、この段階には、確実に編物石がともなっていたことが分かる。



第250図 古墳時代第V期の新屋敷東遺跡

6 古墳時代第V期の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物の概観

竪穴式住居跡の展開は、第VI期と比べると、愕然するほど構築数を増加した。一概にこの現象を集落の規模の拡大と解釈できないが、再びいくつかの住居跡のまとまり（単位）へ発展したことは事実であろう。とくに大形住居跡と小形住居跡の各種の組み合わせは、集落内の複雑な諸問題を反映している。

本郷前東の自然堤防上にも、再び集落が形成され、河川跡も充分機能していたことをうかがうことができる。しかし集落に、第IV期のような整然とした竪穴式住居跡の配置はみられない。一見、竪穴式住居跡のスラム化と受け止められる配置は、実は集落の構成原理に則った、配置規範に添っているはずであり、それが現状では認識できないだけかもしれない。

一方、生活様式の反映である器物は、食膳具の主要型式として君臨した、有段口縁坏の漸移的で緩やかな変化に代表される。調理のための大形の鉢が、見られ始まるのもこの段階である。

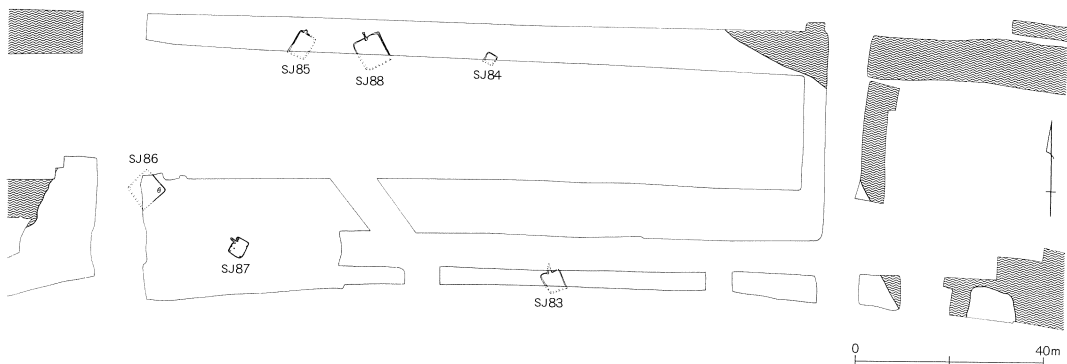
■集落の構成 確認された竪穴式住居跡は、29軒である。第IV期の1群から、5群へと変化する。実質的な集落内の竪穴式住居跡数の増大をもとに、他集落からの竪穴式住居跡群の占地の移動等による集落構成者の伸縮があったことがうかがえる。前段階の大規模な集落の再編成を基に、生まれ変わった新生集落の勃興とも言えようか。東からグルーピングを行なえば、第1群（60・61・62・63・64・65・66）第2群（67・68・69・70・71・72）第3群（73・74・75・76・77）第4群（78・79・80・81・82）第5群（83・84・85・86・87・88）となる。このまとまりは、集落内の血縁関係や、そのほかの紐帯を反映しているとは必ずしも言えない。あくまでも各竪穴式住居跡の構築された場所が、近接しているかどうかには過ぎないからである。また調査区が狭く、各群のまとまりも明瞭ではない。

■竪穴式住居跡 当初から全掘できた住居跡が、いくつか確認される。それは、この遺跡の形成がこの第V・VI期を境に、急速に居住域としての様相を失速させるからである。竪穴式住居跡の構造はそれまで通りであり、住居跡の規模によって構造的な差が存在したとは言えない。ただきわめて大形の竪穴式住居跡、第82号住居跡は、一辺8m以上の住居跡であり、他の竪穴式住居跡を遙かに凌いでいる。

■カマド カマドを調査した住居跡は、17軒に及ぶ。短煙道・長煙道のカマドともに確認されている。短煙道は、第70・71・76号住居跡、長煙道は、第61・62・63・66・67・69・72・74・77・82・87・88号住居跡で確認されている。圧倒的に長煙道が多い。カマドの袖の補強材として、甕が使用される住居跡もみられるようになる。第61・82号住居跡である。第82号住居跡では、カマドの天井部の補強材としても、甕を組み合わせカマド天井部の補強材としても使用している。

■煮沸具 煮沸具が、甕であることは、前段階とあまり大きな変化はない。しかし下膨れの甕が減少し、肩部を斜めにヘラケズリする長胴甕が、大量に生産されている。器壁の厚みが、急速に薄くなっていくのも、この段階からである。また大振りの鉢形土器が、カマドと関係するところから出土したり、底部に被熱されていたり、あるいは内面に炭化物の付着を見たりするのも、この段階からである。

■食膳具 有段口縁坏が、食膳具の過半数を占めるようになる。それまで3段以上で、口縁部を構



第 251 図 古墳時代第V期遺構全体図(1)

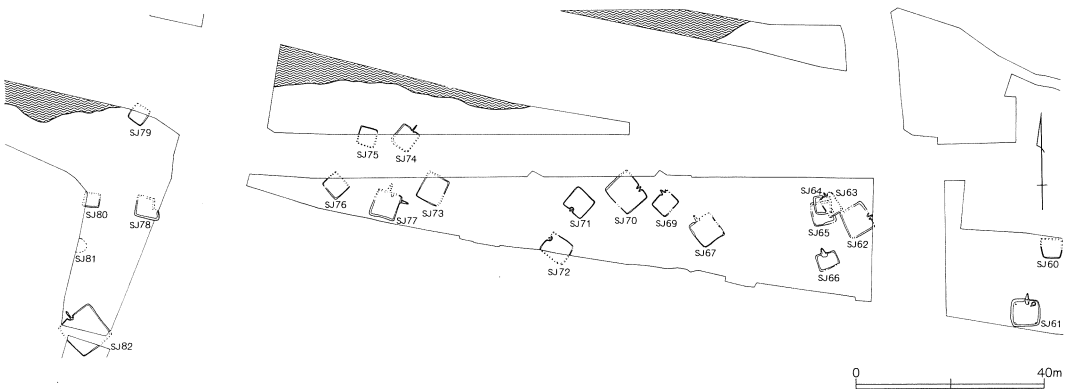
成する製品が多かったが、この段階以降は、2段だけになる。しかも口径が、12cm前後と小型化し底部の細かなヘラミガキも、施されなくなっていく。共伴するはずの坏身模倣坏が、姿を消し、伝統的な食膳具の組成が崩れた。ただし器面の黒色処理や、口縁部の段の表出手法は、継承されていたと考えられる。

■貯蔵具 貯蔵具としての明瞭な甕・壺は、第75・81・82号住居跡を除いてみられない。貯蔵用の大形の壺が、それまで見られなかった数軒の竪穴式住居跡から確認されていることは、重視すべきことである。小形の甕・壺形土器が、各住居跡から出土しており、これらがどのような内容物、貯蔵形態に関係したかは不明である。

■ミニチュア土器 一般に土師器・須恵器を問わず、既成の土器を小形、手のひらに載る程度に、模倣して作ったミニチュア土器と呼ばれる製品がある。多くの場合、いわゆる祭祀遺跡と呼ばれるところから出土する。しかし、このミニチュア土器が、一般の集落から、一般の土器に伴って出土しており、この種の土器の使用に当たり、祭祀性のみではなく、中には、日常什器の一部としての認識も持つ必要もあろう。第71号住居跡からは、この3点セットが出土している。

■須恵器 須恵器を多く出土した第67号住居跡（大甕・坏蓋・短頸壺・横瓶・大形器台・短脚無台高坏）・第68号住居跡（長脚高坏・長頸壺・甗）などでは、比較的整った須恵器のセットを保有している。しかし須恵器は、各住居跡に一点あれば良いほうである。

■編物石 いわゆる編物石と呼ばれる、十点前後まとまって出土する棒状の石材がある。新屋敷東遺跡からは、第V期以降、各住居跡からまとまった形で出土している。とくに第72号住居跡は、カマドの脇に片付けられた状態で出土する最初の例である。このほか第60・61・62・63・85・87号住居跡でまとまった形で出土しているが、第72号住居跡のような残り方はみられなかった。



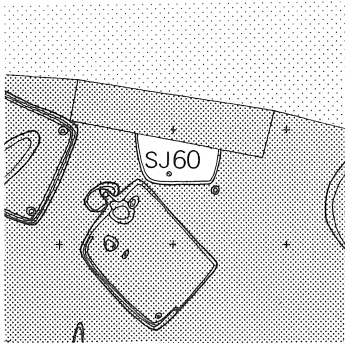
第 252 図 古墳時代第V期遺構全体図(2)

第96表 古墳時代第Ⅴ期住居跡一覧

No. /	住居跡規模				カマド					貯蔵穴		備考
	長軸長さ	短軸長さ	掘込深さ	形態	煙道長さ	煙道幅	右袖長さ	左袖長さ	形態	幅	深さ	
60	4.30		0.13	長方								ユ-258
61	5.82	5.70	0.55	長方	1.27	0.43	0.86	0.98	B類	3.80		サ-259
62	6.22	5.65	0.15	長方	0.55	0.38	0.80	0.78	A類	1.80	1.00	メ-265
63	4.55	3.20	0.19	長方	0.70	0.29	0.62	0.78	A類			ミ-266
64	4.77	3.79	0.28	長方								ユ-273
65	5.00	4.70	0.23	長方								ミ-267
66	4.35	3.40	0.28	長方	1.30	0.54						ユ-266
67	6.90	6.70	0.64	長方	1.42	0.34	0.74	0.76	C類	2.20		メ-270
68				正方								ミ-271
69	4.60	4.20	0.30	長方	0.54	0.36	0.52	0.59	A類			ミ-272
70	7.15	6.25	0.23	長方	0.16	0.30	0.92	1.00	A類	3.60		ミ-273
71	5.10	5.00	0.30	正方	0.19	0.42	0.78	0.92		2.20	2.90	シ-277
72	5.80	4.75	0.42	長方	1.05	0.29	0.81	0.93	C類			シ-276
73	5.90	5.20	0.07	正方								ミ-280
74		3.95	0.42	正方	1.31	0.35	0.56	0.56	C類	1.10		エ-281
75	3.60		0.36	正方								エ-283
76	3.60		0.20	長方								シ-284
77	5.30	5.30	0.28	正方	1.35	0.34	0.90	0.78	C類	1.90		エ-290
78	4.28	3.95	0.54	長方								ミ-290
79	3.58		0.07	長方								ヒ-291
80	4.43			長方								シ-293
81												ユ-293
82	8.30	8.18	0.32	正方	1.44	0.43	0.70	0.92	C類	3.00		サ-292
83	3.77		0.30	長方			0.30	0.44	C類			モ-317
84				正方								ほ-320
85				長方								へ-326
86	5.28	4.67	0.13	正方						2.50		い-332
87	3.95	3.18	0.30	正方	1.21	0.27	0.72	0.59	C類	1.60	1.50	セ-328
88	6.10		0.15	長方	1.15	0.31	0.63	0.42	C類			へ-324

(2) 遺構各説 一遺構構築段階一

第60号住居跡（調査時C区9号住居跡）



ユ-258グリッドに位置する。重複関係はみられないが、北側半分が第一次調査のトレンチによって攪乱をうける。住居跡の規模は、長軸4.30m、短軸一一mを測る。掘り込みの深さは、13cmである。壁周溝・柱穴は、みられない。南壁よりに小穴があるが、柱穴ではない。

カマドは、調査区域内では確認できなかった。

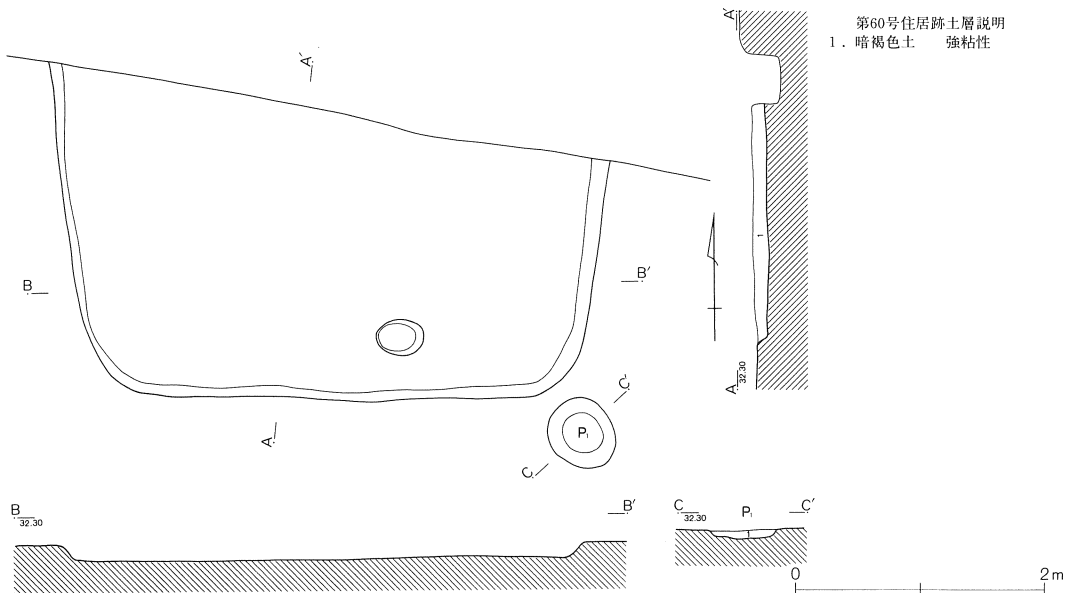
出土遺物は、土師器坏・甕・甔などがある。

第 253 図 位置図

第61号住居跡（調査時C区8号住居跡）

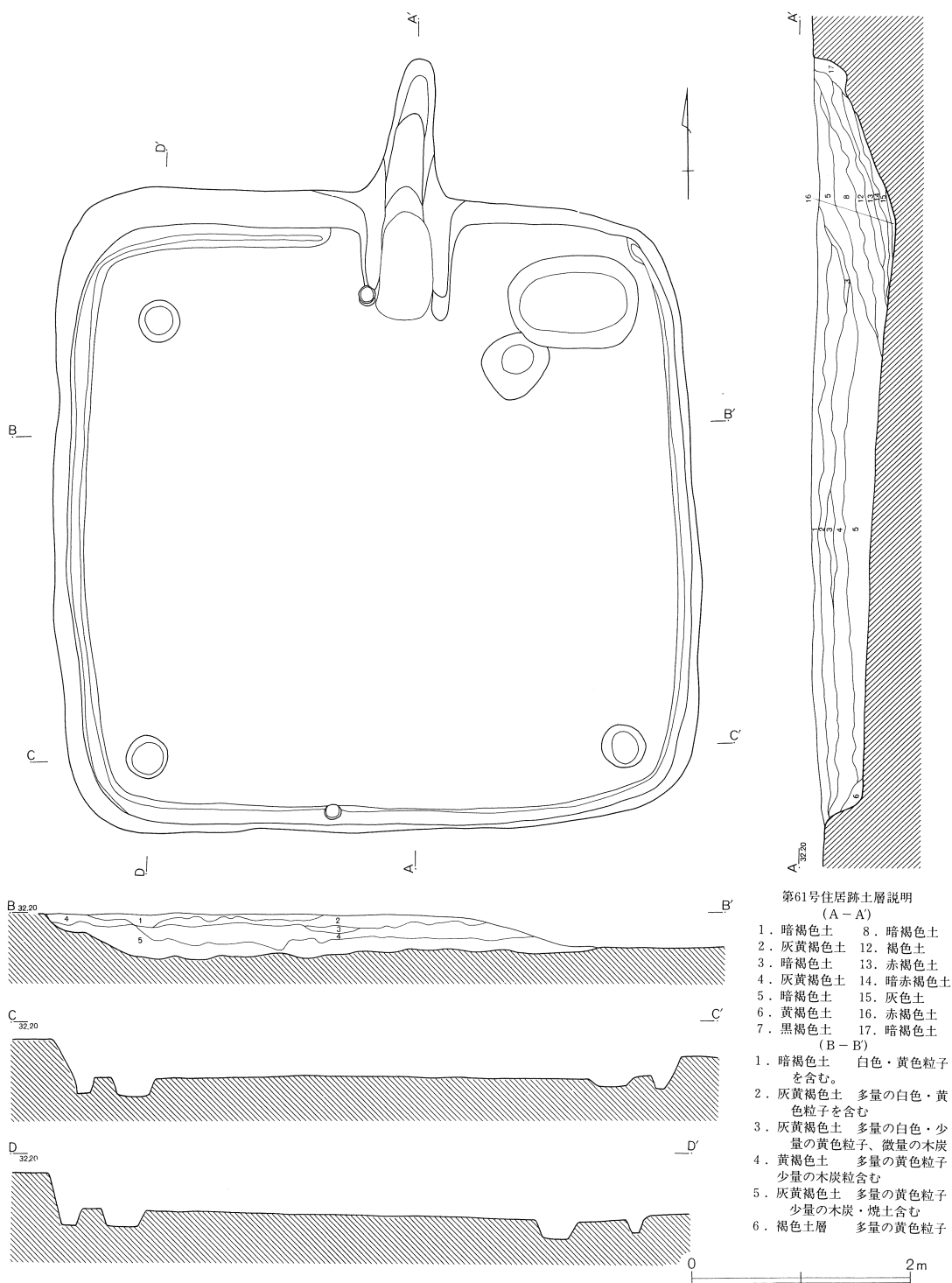
サー259グリッドに位置する。重複関係は全くみられない。規模は、長軸5.82m、短軸5.70mを測る。掘り込みの深さは55cmである。遺構の確認面が、やや南に傾斜していたため、残存状態は決して良くない。南東隅は、不整形となっている。壁周溝は、北辺のカマド部分を除いて完周している。床面には、各隅に柱穴が確認されている。但し大きさも小さく、あるいは補助柱穴の可能性もある。カマドの右側には、貯蔵穴がある。横長の楕円形で、やや深めの貯蔵穴である。

カマドは、北辺に接し右よりに構築されている。左右の袖は大変長く、地山掘り残しで造られ、壁外へ袖の長さと同じくらいの煙道が延びる。燃烧部には、焼土と炭化物の堆積層が認められ、焚

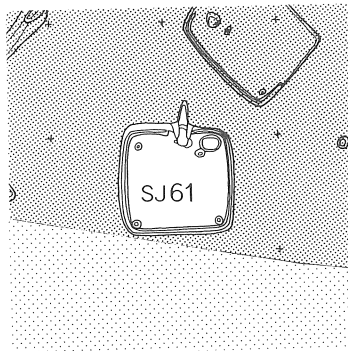


第60号住居跡土層説明
1. 暗褐色土 強粘性

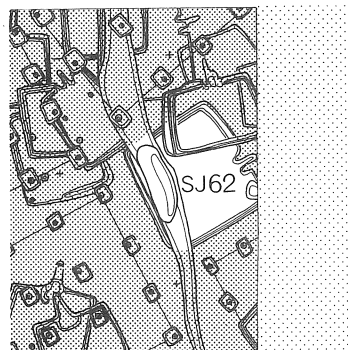
第 254 図 第60号住居跡



第 255 図 第61号住居跡



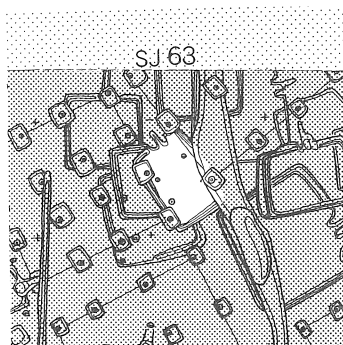
第 256 図 位置図



第 257 図 位置図

当初、多くの住居跡が重複する部分であったため、遺構確認に大変手間取った。カマドを中心に作業を進めた。

出土遺物は、土師器坏の破片があるのみである。



第 258 図 位置図

き口部の被熱痕跡も確認された。燃焼部はやや浅い掘り込みが認められる。燃焼部から煙道へは、徐々に傾斜しながら垂直に掘られた煙り出し部へと続く。住居跡内の覆土の堆積状況から、カマドが一旦崩壊した後、竪穴部分へ土砂が入ったことが分かる。

覆土が、地山の堆積層と近似していて検出は困難であった。出土遺物は、土師器坏・高坏・甑・甕・壺・単頸壺・須恵器壺などがある。

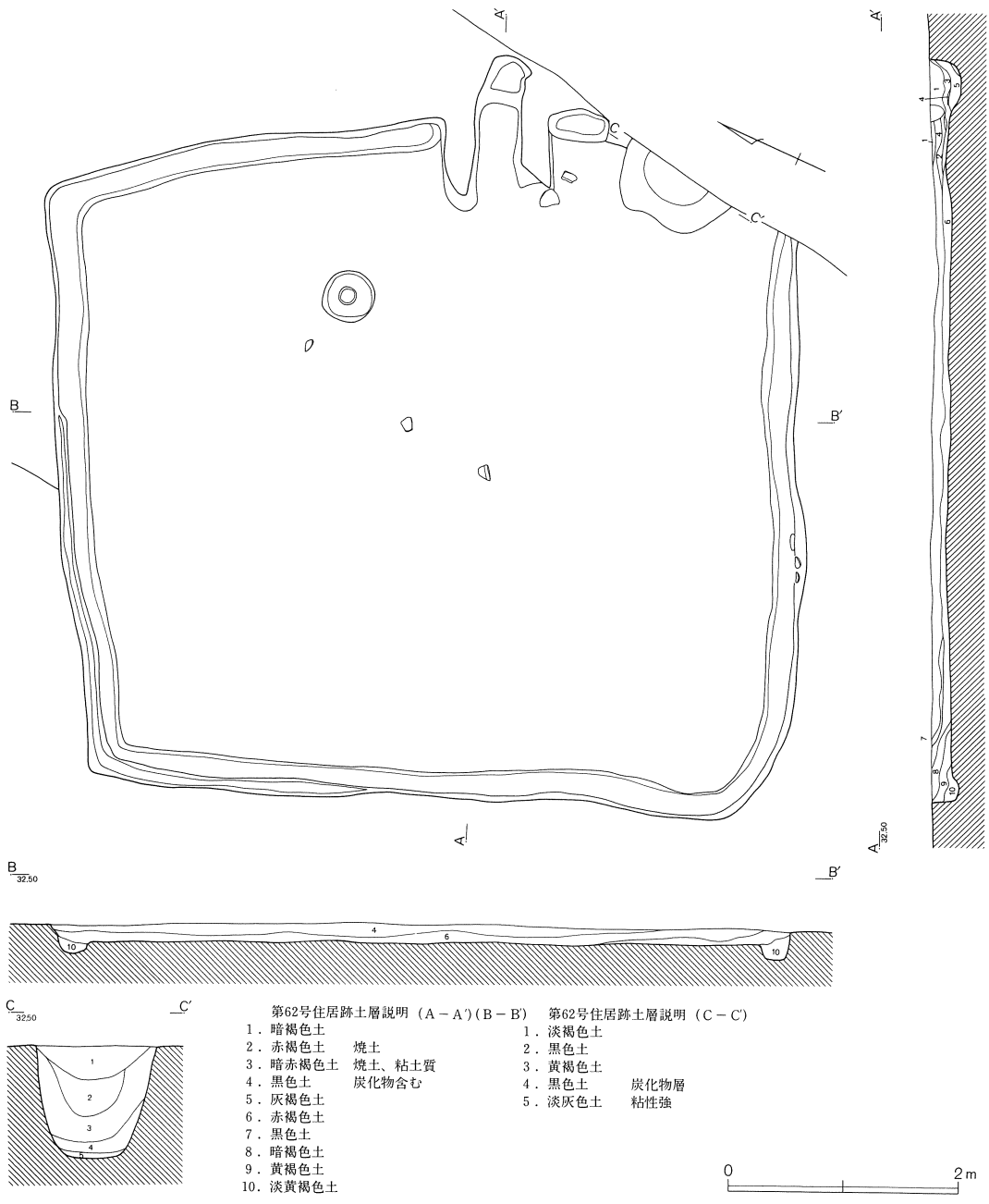
第62号住居跡（調査時C 2区23号住居跡）

メー265グリッドに位置する。重複関係は、第152号住居跡よりも古い。西側の壁を噴砂によって引き裂かれている。また東南の隅は、調査区域外となっている。住居跡の規模は、長軸6.22m、短軸5.65m。掘り込み深さは、15cmと浅い。壁周溝はカマドの部分を除いて全周している。明確な柱穴は、確認されていない。カマドの右側に貯蔵穴が確認されているが、半分以上は調査区域外である。円形のかかなり深い貯蔵穴である。

カマドは、東側右よりに確認され、袖の長さと同程度の煙道が、壁の外に延びる。燃焼部から煙道にかけて一段高く造られる。煙り出し穴は垂直に掘られ、煙道部分よりも深い。

第63号住居跡（調査時C 2区5号住居跡）

ミー266グリッドに位置する。重複関係は、第64・65号住居跡よりも新しい。ただしこの兩住居跡から出土した土器は、本住居跡の出土土器と形式的な変化が少なく、重複関係のみで新旧を確認するに留めておきたい。また東側は、第62号住居跡と同様の噴砂現象によって破壊されており明瞭ではない。さらに第2・3号掘立柱建物跡の柱穴によって、部分的に破壊されている。しかし破壊は、床面までは達しておらず、全体の形状は復元できる。住居跡の規模は、長軸4.55m、短軸3.20mを測る。掘り込みの深さは、19cmである。壁周溝は、東壁を除きめぐっている。柱穴は、東南を除き3本確認されている。東南の柱は噴砂で破壊されている。

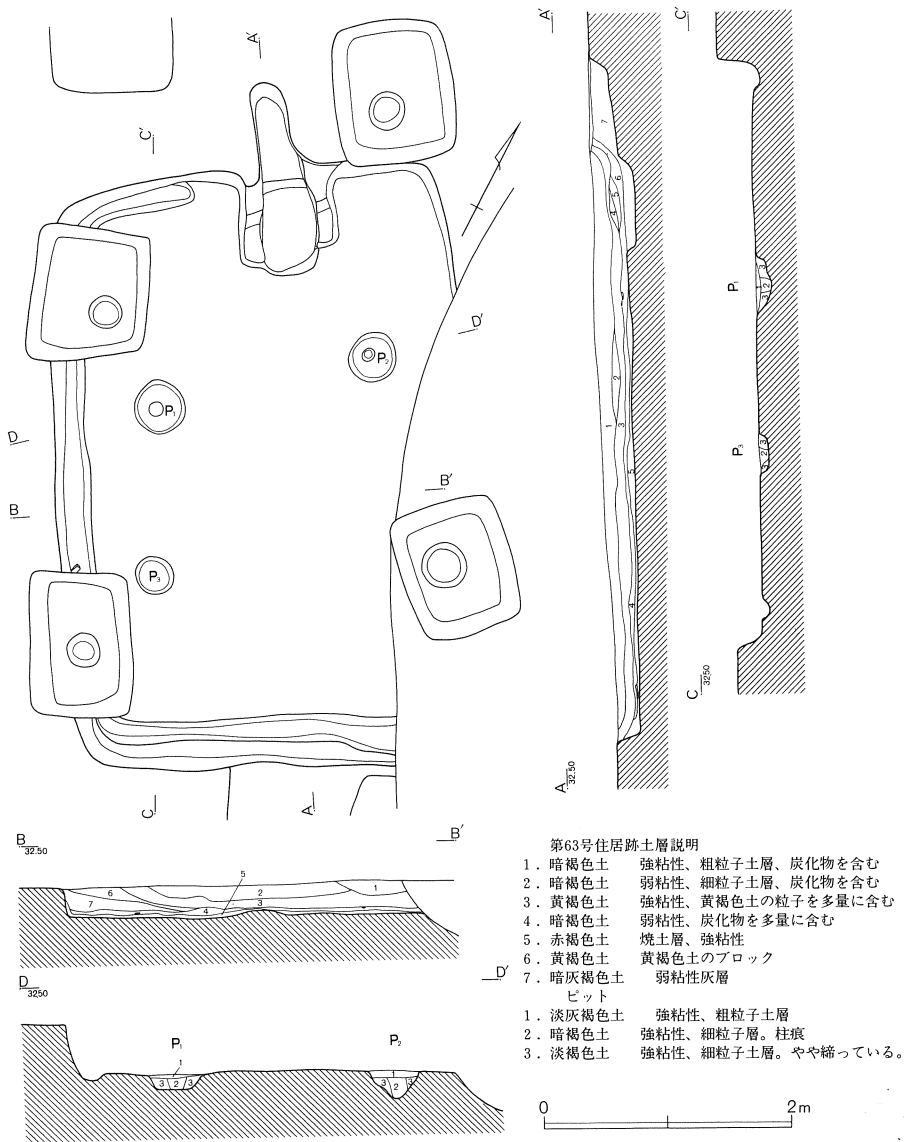


第 259 図 第62号住居跡

カマドは、他の遺構とかかわらず、右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残して造られ、壁外へ袖の長さと同じくらい煙道が延びる。燃烧部は、やや狭い。燃烧部の火床は、深く掘り込まれており、煙道部へは、一旦段をもって立ち上がる。煙道もクランク状に構築されている。

遺構の確認は、他の遺構と重複が激しく、また噴砂現象の爪跡も深く、困難であった。

第63号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・短頸壺・甌・甕などがある。



第260図 第63号住居跡

第64号住居跡（調査時C2区20号住居跡）

ユ-273グリッドに位置する。重複関係は、第65号住居跡よりも新しく、第64号住居跡よりも古い。また第2号掘立柱建物跡の柱穴によって壊され、残存する部分のごく僅かである。規模は、長軸4.77m、短軸3.79mを測る。掘り込みの深さは28cmである。壁周溝は、北辺の一部を除き確認されている。柱穴は、確認されていない。

カマドは、確認されていない。

遺構の確認は、多くの重複関係から困難を極めた。

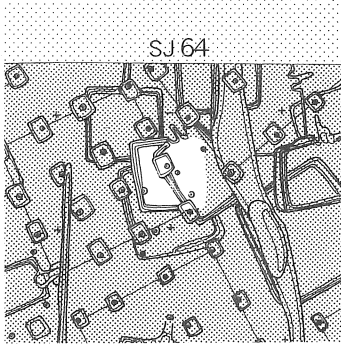
第64号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏の破片のみである。

第65号住居跡（調査時C 2区17号住居跡）

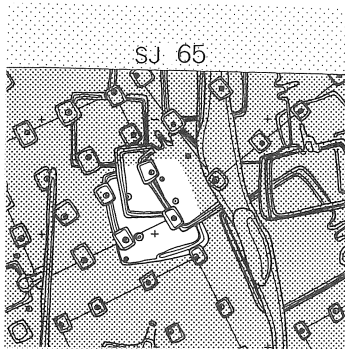
ミー267グリッドに位置する。重複関係は、第63・64号住居跡よりも古い。第1・2号掘立柱建物跡の柱穴によって部分的に壊されている。大変残りが悪い。規模は、長軸5.00m、短軸4.70mである。掘り込み深さは、23cmである。壁周溝は、南西の部分がとぎれるが、他は完周すると思われる。なおこの部分には、小穴が1個あり、入り口施設と関係すると思われる。柱穴は、4本確認され、等間隔にあることから本住居跡を支えるに足る柱穴と考えられる。

カマドは確認されなかった。

第65号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏の破片である。



第261図 位置図



第262図 位置図

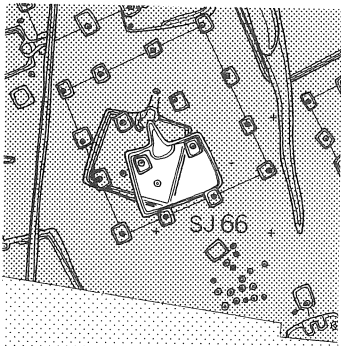
第66号住居跡（調査時C 2区15号住居跡）

ユー266グリッドに位置する。重複関係は、第31号住居跡よりも新しい。第1号掘立柱建物跡の柱穴に、一部分破壊されている。残存状態は良くない。住居跡の規模は、長軸4.35m、短軸3.40mを測る。掘り込みの深さは、28cmである。壁周溝は、南東の隅で切れるが、ほかは回っている。柱穴は、確認されていない。

カマドは、北辺左よりに確認されている。袖の部分が欠落しており、当初から存在しなかったのか、それとも袖の部分のみが先に破壊されたか不明である。しかし燃焼部は大きく、焚き口部も広い。また深い。煙道部は、徐々にせり上がっている。しかし明瞭な焼土痕跡がなく、はたして機能していたか疑問も残る。袖は、地山掘り残しと思われる。

覆土は地山と全く区別がつかず、遺構の確認は困難を極めた。

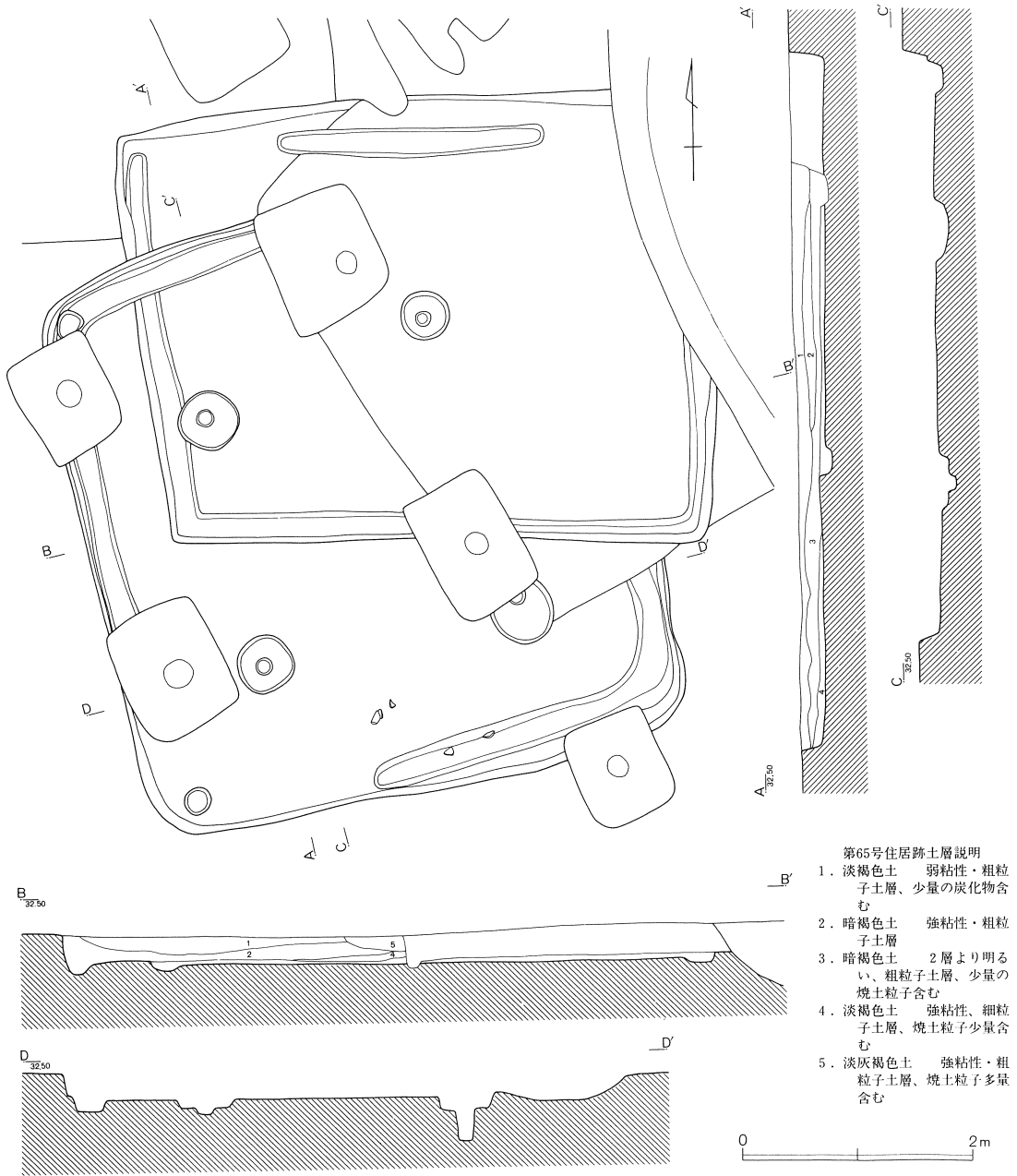
第66号住居跡の出土遺物は、土師器坏である。



第263図 位置図

第67号住居跡（調査時C 2区46・47号住居跡）

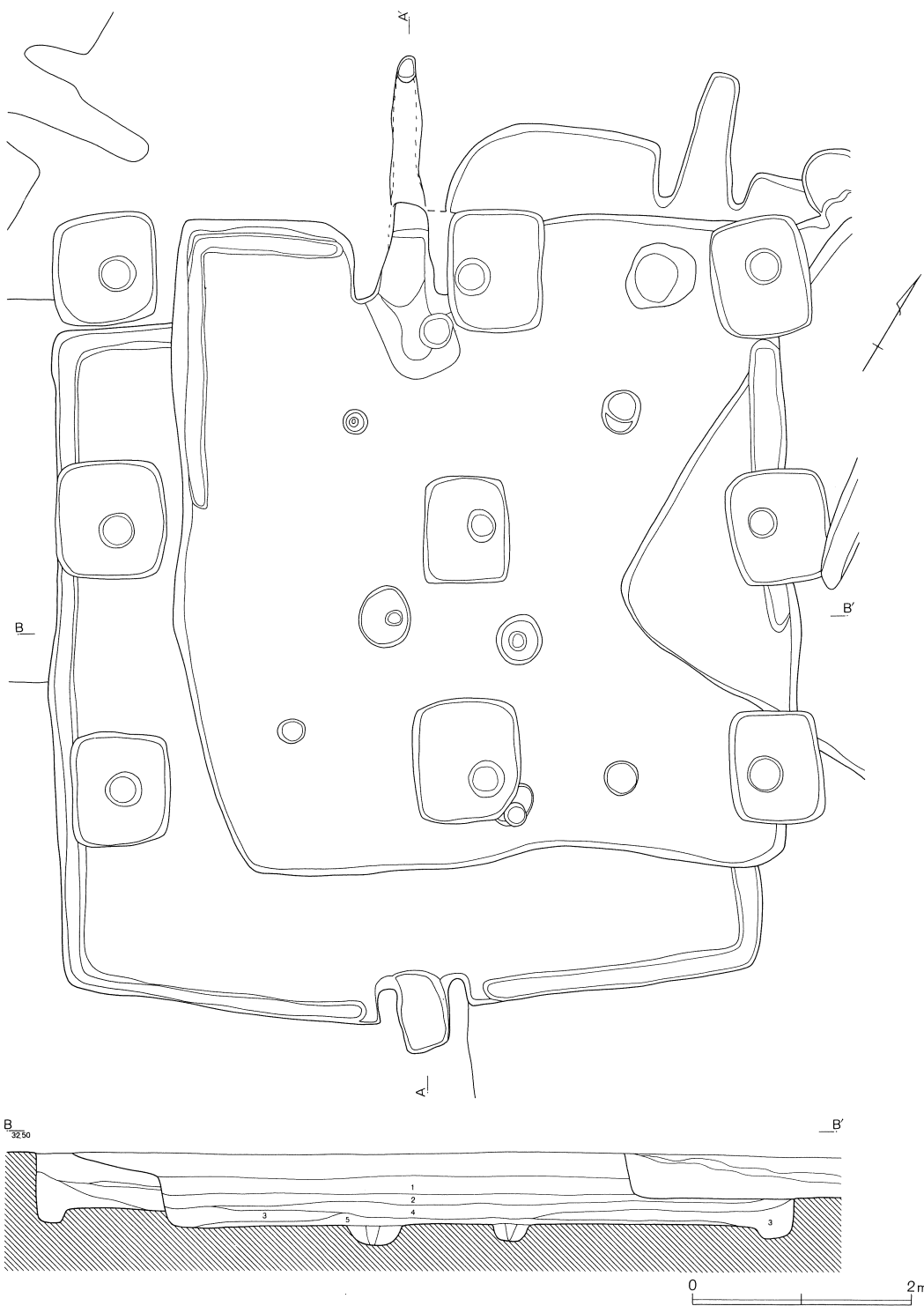
メー270グリッドに位置する。重複関係は、第11・32・33号住居跡よりも新しく、第128・130号住居跡よりも古い。第6号掘立柱建物跡よりも古い。当初南側に調査時第47号住居跡が、調査時第46号住居跡によって壊されたと判断していたが、その後の検討の結果、同一の住居跡を南側と西側へ1.20m拡張したものとわかった。第6号掘立柱建物跡が、すっぽりこの住居跡に納まっている。住居跡の規模は、長軸6.90m、短軸6.70m。掘り込みの深さは、64cmである。壁周溝は、カマド、貯蔵穴部分を除き完周すると思われる。柱穴は東側2本が確認されたに過ぎない。貯蔵穴



第 264 図 第64・65号住居跡

が、カマドの右側に確認できた。円形の小振りの貯蔵穴であるが、平面形の割りには深い貯蔵穴である。

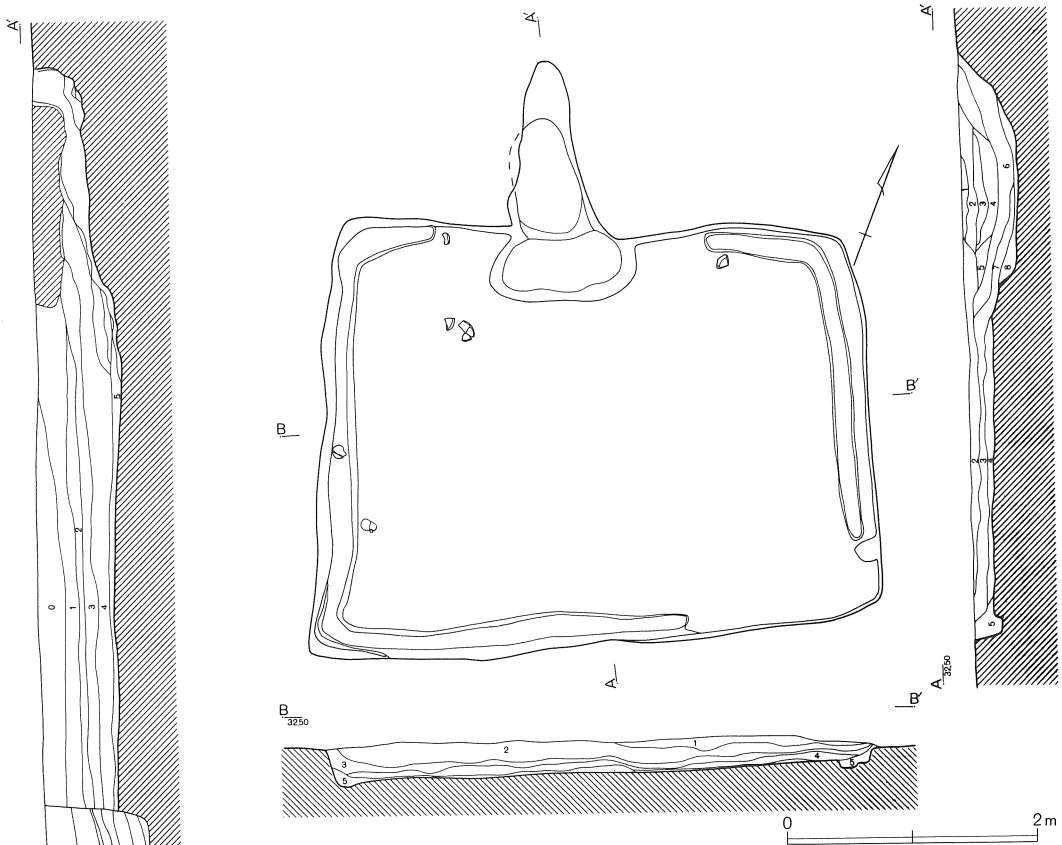
カマドは、北辺左側にみられ、袖の長さの2倍程度の煙道が延びる。燃焼部から煙道部にかけては、ゆるい段をもって構成される。焚き口部は、浅く掘り込まれている。燃焼部はやや狭く、ほぼ同じ幅で煙道へ続く。煙道はクランク状に構築され、煙り出し穴へ続く。煙り出し穴は、垂直に掘られ、煙道の下部よりも深く掘り込まれている。おそらく煙り出し穴を目指して、燃焼部からえぐ



第67号住居跡土層説明

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1 暗黒褐色土 粘性弱。粒子粗い | 3 暗褐色土 黄褐色粒子多量含む | 5 暗黄褐色土 粘性弱。粒子粗い |
| 2 褐色土 粘性弱。粗子粗い | 4 褐色土 粘性弱 | |

第 265 図 第67号住居跡



第66号住居跡土層説明

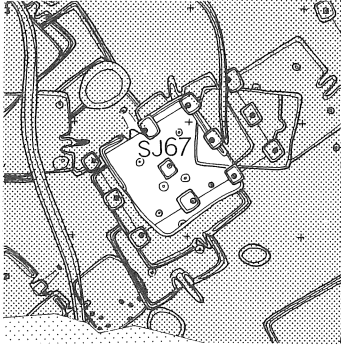
- | | |
|---------|-------------------|
| 1. 暗褐色土 | |
| 2. 暗褐色土 | 粘性強。粒子細かい。炭化物少量含む |
| 3. 淡褐色土 | 粘性強。粒子細かい。 |
| 4. 淡褐色土 | 粘性強。粒子細かい。炭化物多量含む |
| 5. 暗褐色土 | 粘性弱。粒子粗い。炭化物少量含む |
| 6. 暗褐色土 | |
| 7. 褐色土 | 粘性弱。粒子細かい |
| 8. 黄褐色土 | 粘性強。炭化物多量含む。粒子粗い |

第 266 図 第66号住居跡

り込んで連結させ、構築したと思われる。

他の遺構との重複が大変激しく、また微細な土師器片が多量に覆土中から出土したことから調査は難行した。しかし良好なカマドの精査が出来た。

第67号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・甕・須恵器坏蓋・無蓋高坏・短頸壺・器台脚部・甕など須恵器に良好な資料があった。



第 267 図 位置図

第68号住居跡（調査時C 2区105号住居跡）

ミー271グリッドに位置する。重複関係は、第36号住居跡よりも新しく、第69・117・139号住居跡よりも古い。なお本遺構は、第35号住居跡の覆土上層中に形成された遺物群からなり、決して住居跡として認識できるものではないが、第68号住居跡としてあげておくこととする。また規模等については、第35号住居跡を参照していただきたい。

出土遺物は、土師器坏・小形甕・甕・甑・高坏・須恵器横瓶長首壺・無蓋高坏など良好な資料がある。



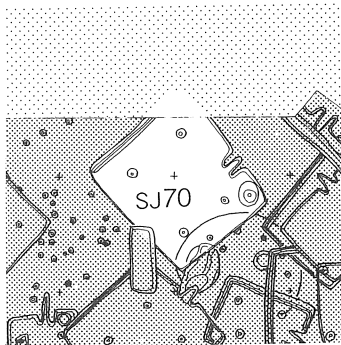
第 268 図 位置図

第69号住居跡（調査時C 2区99号住居跡）

ミー272グリッドに位置する。重複関係は、第7・36号住居跡よりも新しく、第97・117号住居跡よりも古い。第36号住居跡と入れ子状になっている。そのため全体のプランは、良好に検出された。住居跡の規模は、長軸4.60m、短軸4.20mを測る。掘り込みの深さは、30cmである。壁周溝・柱穴は確認されていない。

カマドは、北辺に接し、右よりに構築されている。袖部は短い、同じくらいの長さの煙道が延びる。燃烧部から煙道部にかけては、明確な変換点は見られず、緩いカーブで構成されている。

第69号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕である。



第 269 図 位置図

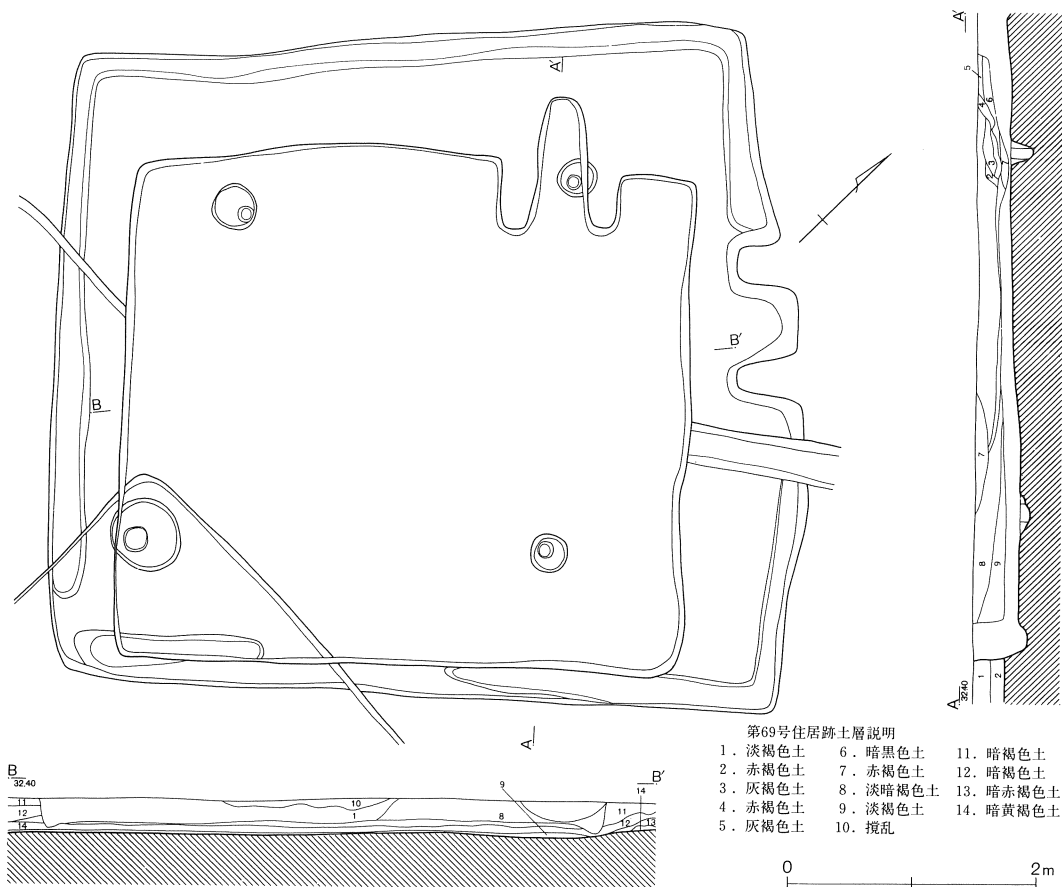
第70号住居跡（調査時C 2区98号住居跡）

ミー273グリッドに位置する。重複関係は、第7号住居跡よりも新しい。北隅が一部調査区域外であるが、他はほとんど完掘できた。全体のプランは、明確である。住居跡の規模は、長軸7.15m、短軸6.26mを測るが、掘り込み深さが短く、23cmしかない。壁周溝は、北壁側に存在するのみで、全体にはめぐっていない。柱穴は、等間隔に4本確認され、柱穴には、柱痕跡

も確認されている。カマドの右側には、円形の貯蔵穴がある。比較的大きめの貯蔵穴であり、深い造りである。

カマドは、東辺右よりに構築されている。煙道部の極端に短いカマドで、壁外にほんの僅か突出しているだけである。袖部は長く、地山掘り残しで構築されている。焚き口部はほとんど凹まず、燃烧部も決して広いとは言えない。

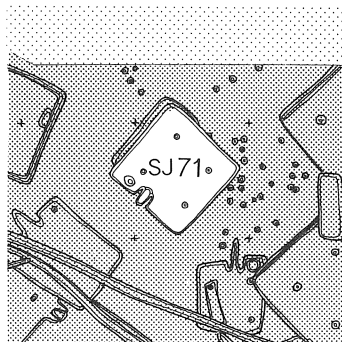
地山と覆土の色調が似通っており、当初はカマドの存在のみが明瞭にわかった程度であった。



第 270 図 第69号住居跡

第70号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・鉢・高坏・甕・須恵器などがある。

第71号住居跡（調査時C 2区77・78号住居跡）



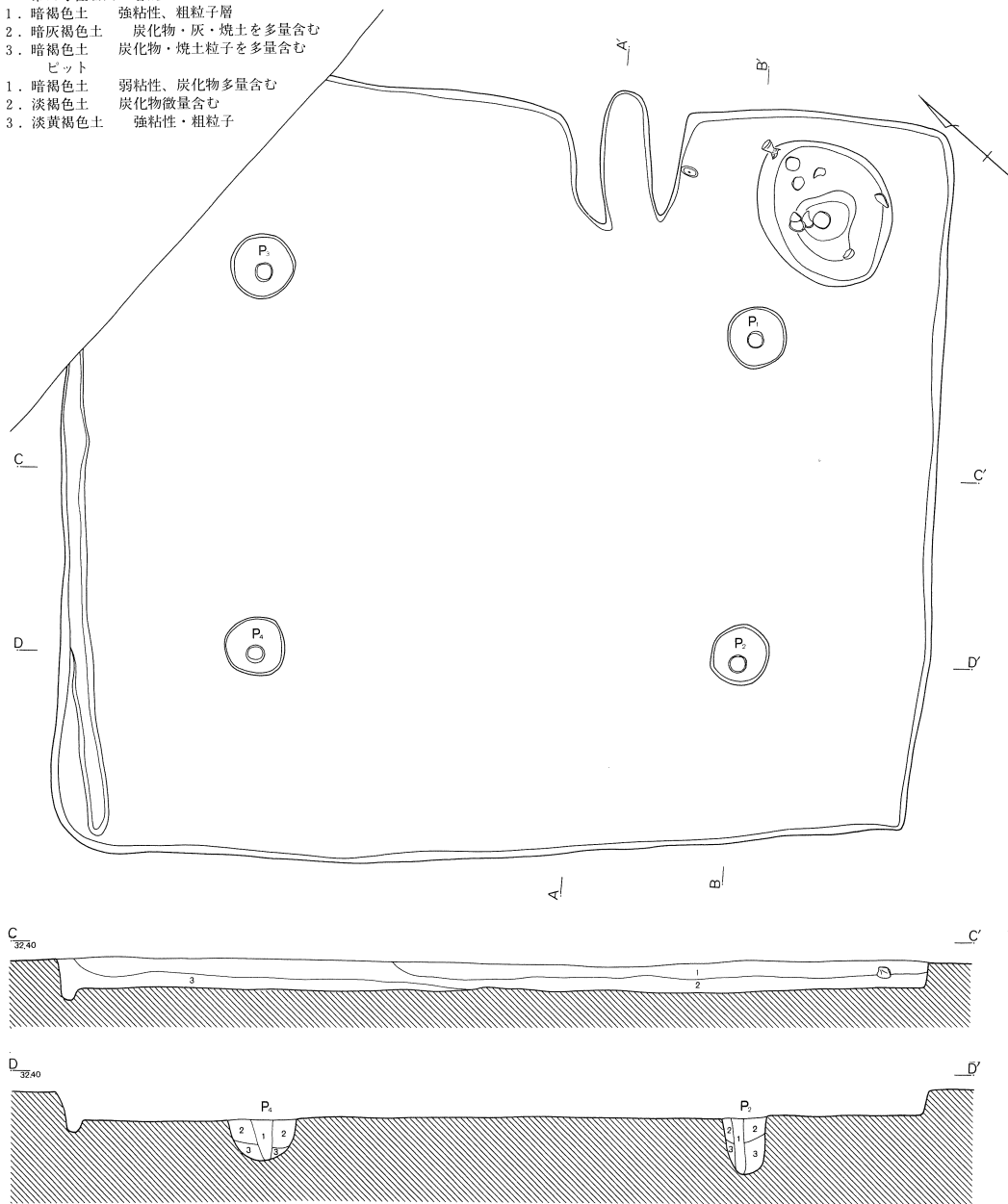
第 271 図 位置図

シー277グリッドに位置する。重複関係は、不思議なことにみられない。調査時には、本住居跡の北側に、平面プランをほぼ等しくするもう一つの住居跡があると想定して調査を進めていたが、この部分は、第71号住居跡の掘り方と判明した。住居跡の規模は、長軸5.10m、短軸5.00mを測る。掘り込みの深さは、30cmである。壁周溝は、カマドの部分を除いてほぼ完周している。柱穴は、等間隔に4本確認されており、本住居跡を支えるに足る柱であろう。柱穴には、柱痕跡も明瞭に確認できた。貯蔵穴が、カマドの右側に造られている。やや楕円形の比較的深い貯蔵穴である。

カマドは、西辺のやや右よりに構築されている。煙道の極端に短いカマドで、煙道は壁外にほん

第70号住居跡土層説明

- 1. 暗褐色土 強粘性・粗粒子層
 - 2. 暗灰褐色土 炭化物・灰・焼土を多量含む
 - 3. 暗褐色土 炭化物・焼土粒子を多量含む
-
- 1. 暗褐色土 弱粘性、炭化物多量含む
 - 2. 淡褐色土 炭化物微量含む
 - 3. 淡黄褐色土 強粘性・粗粒子

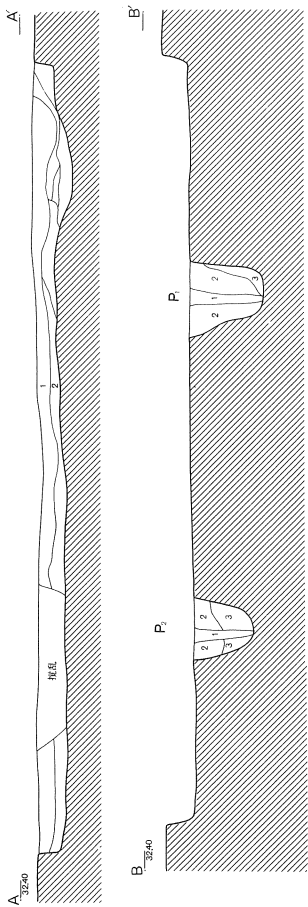


第 272 図 第70号住居跡

の僅か出ているだけである。袖は比較的長く、地山掘り残して造られている。燃焼部も決して広くはなく、ほぼ同じ幅で煙道部へ続くとと思われる。燃焼部から緩い段をもって、火床面は続いているが、焚き口部は明瞭ではない。

比較的調査に当たっては、順調に行なえた遺構である。

第71号住居跡の出土遺物は、土師器坏・鉢・甕の他にミニチュアの短頸壺・甕・韓式土器の模倣土師器がある。



第 273 図 位置図

第72号住居跡
(調査時C 2区88号住居跡)

シー276グリッドに位置する。重複関係は、第121・122号住居跡よりも古い。北壁に沿って近世の溝が走り、上部は破壊されている。また南側は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸5.80m、短軸4.75mである。掘り込みの深さは、42cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

カマドは、西辺右よりに確認され、煙道部が大変良く残っている。袖部は比較的長く造られているが、煙道部の天井が、住居跡の壁のラインよりも中に入っているため、燃烧部が浅く見える。燃烧部は狭く、焚き口部は、明瞭な凹みが見られない。しかし徐々に燃烧部が奥まるにつれ深くなり、煙道部との境目で一旦段を構成する。煙道部はクランク状に造られ、垂直に延びる煙り出し穴へ続く。煙り出し穴は、煙道部の底面よりも深く掘られ、煙



第 274 図 位置図

道が、燃烧部から掘り抜かれて造られたことが予想される。煙道部は、煙り出し穴に向かうに従って徐々に細くなっている。

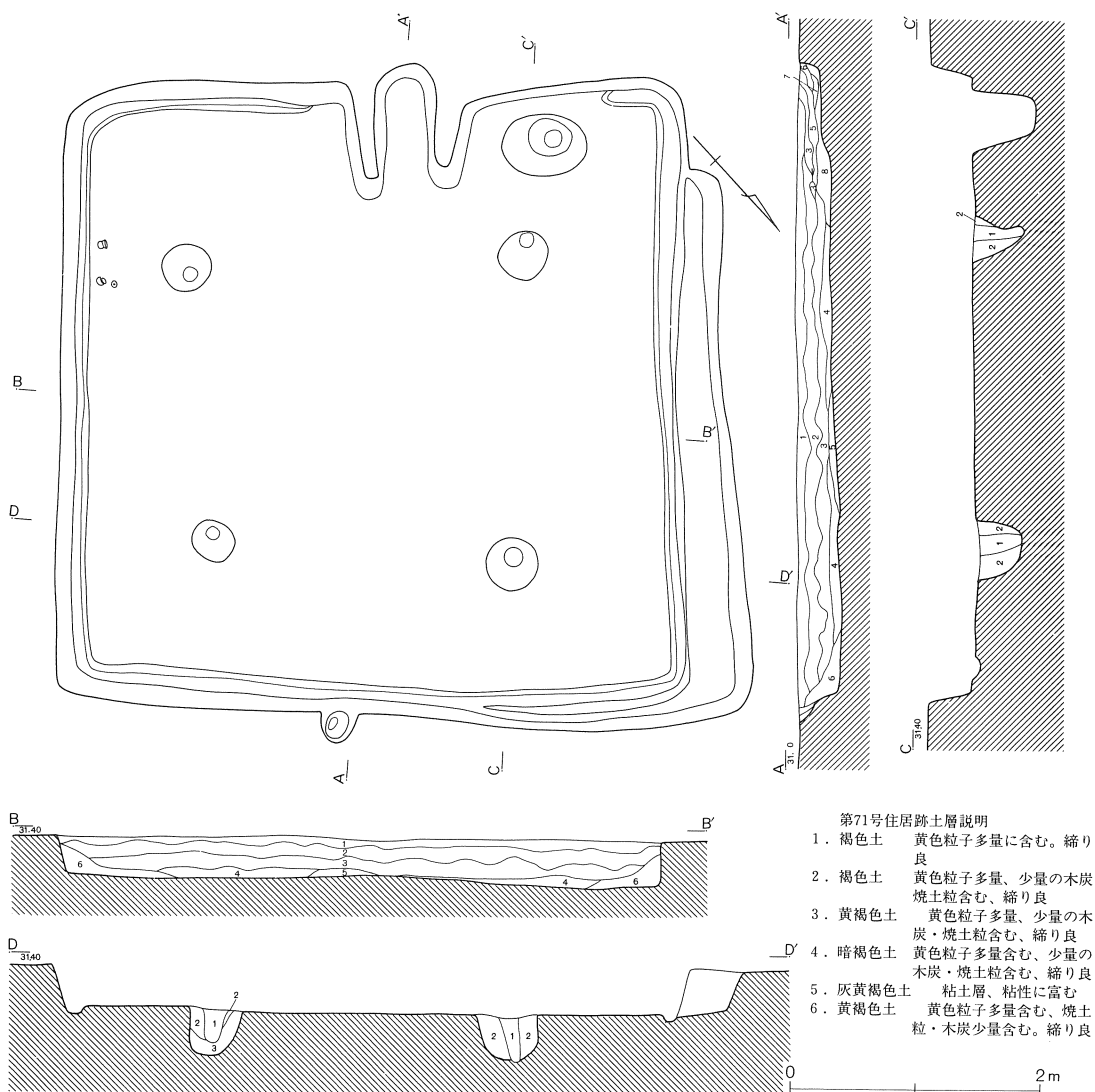
重複が激しく、また調査区の際に遺構が存在するため、確認に難行した。

出土遺物は、土師器坏・高坏のみである。

第73号住居跡 (調査時C 2区107号住居跡)

ミー280グリッドに位置する。重複関係は、第23号住居跡と重複しているようだが、最近の攪乱によってその関係は不明である。北隅の部分が、調査区域外となっている。住居跡の規模は、長軸5.90m、短軸5.20mを測る。掘り込みの深さは7cmしかなく、平面プランがかろうじて知れるに過ぎない。壁周溝は、おそらく四辺にめぐっていたと思われるが、柱穴は確認されなかった。

カマドは、確認されておらず、おそらく調査区域外に存在するのであろう。



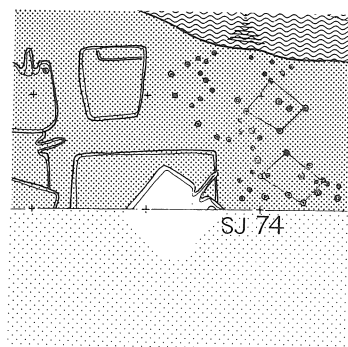
第275図 第71号住居跡

遺構確認の時点では、企画的規模が大きいので期待されたが、覆土が薄く予想外であった。

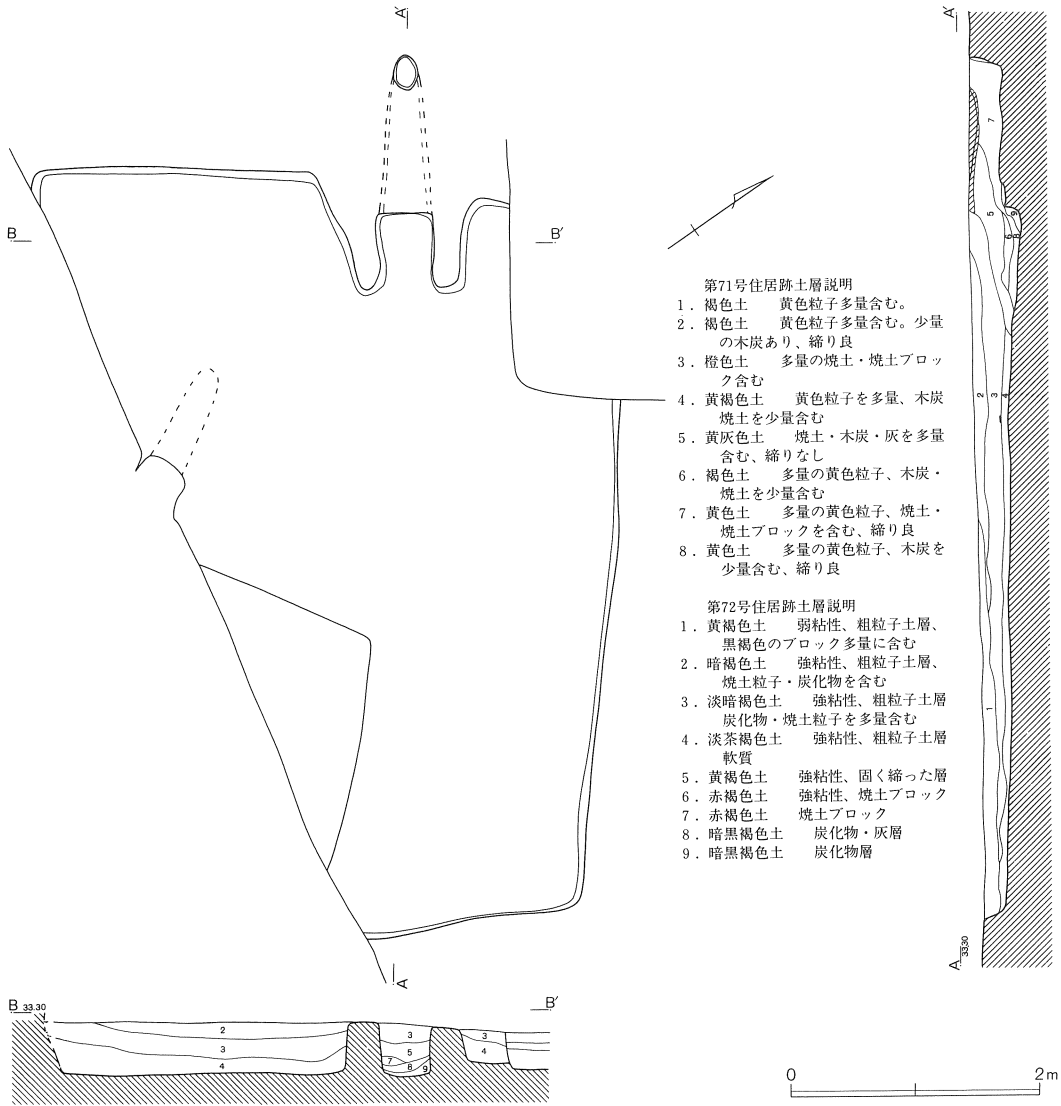
第73号住居跡の出土遺物は、土師器坏だけである。

第74号住居跡（調査時C 2区39号住居跡）

エー281グリッドに位置する。重複関係は、第26号住居跡よりも新しい。南側は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸—m、短軸3.95mを測る。掘り込みの深さは、42cmである。確認部分では、カマド部分を除き、壁周溝がめぐる。柱穴は確認されていないが、カマドの右側に貯蔵穴がある。比較的



第276図 位置図



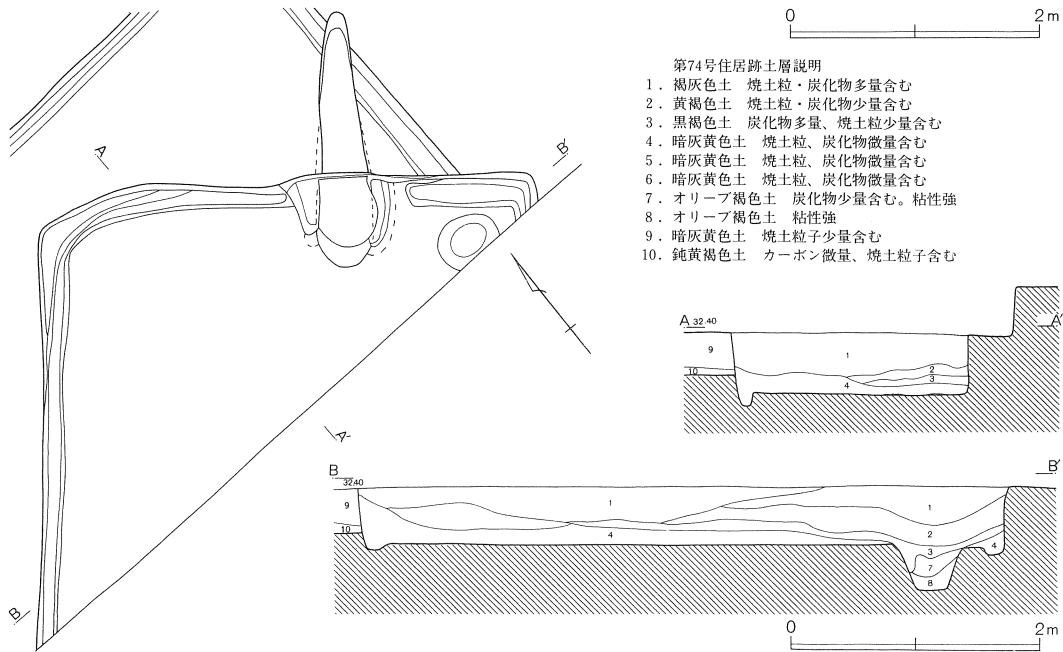
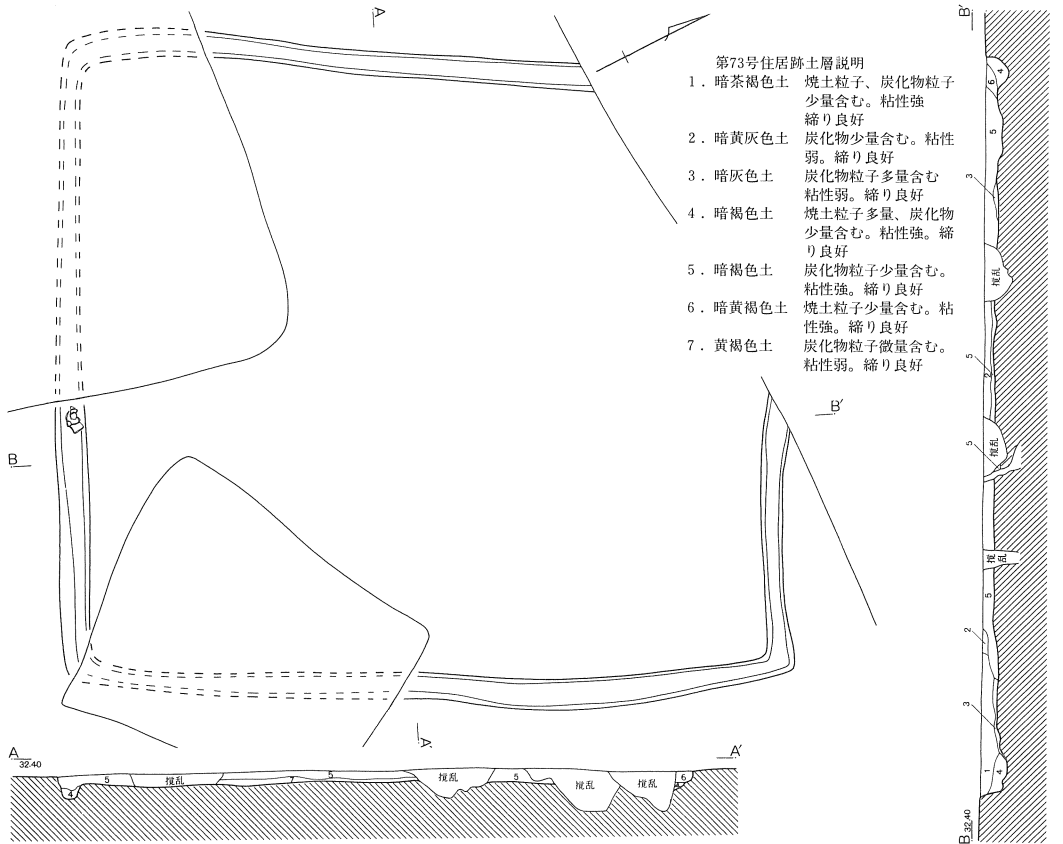
第 277 図 第72号住居跡

深く、円形の貯蔵穴である。

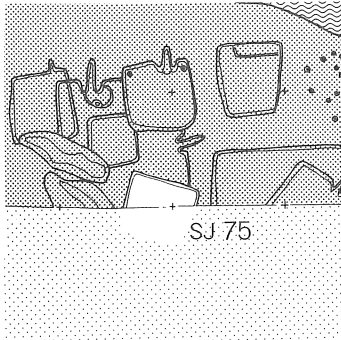
カマドが、東辺にみられる。袖はやや短い、煙道はその袖の2倍程度はある。袖の長さに比べると燃焼部は広く、火床は、やや掘り凹められている。燃焼部から煙道部にかけては、壁のラインで一旦段をもって高くなる。袖は極端に短い。燃焼部も狭く、焼土の堆積層は、明瞭ではない。煙道部は、煙り出し穴にむかって徐々に狭くなっている。

重複関係の激しい部分だが、比較的明瞭に確認できた。

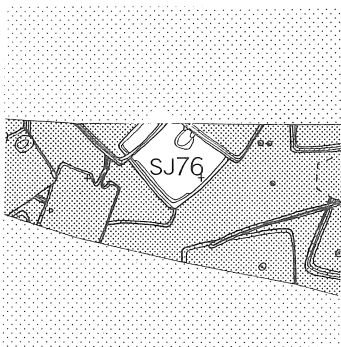
第74号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甕・甌・小形壺・小形甕である。



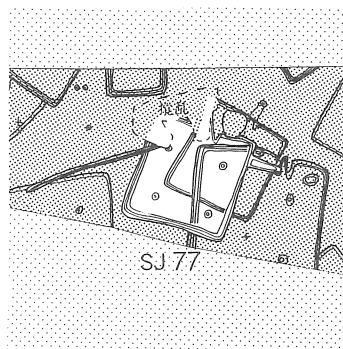
第 278 図 第73・74号住居跡



第 279 図 位置図



第 280 図 位置図



第 281 図 位置図

第75号住居跡（調査時C 2区42号住居跡）

エー283グリッドに位置する。重複関係は、第39号住居跡よりも新しい。南側は、調査区域外になっている。住居跡の規模は、長軸3.60m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは36cmである。壁周溝・柱穴は確認されていない。

カマドは、調査区域内には確認されていない。

地山と覆土が近似しており、確認が難行した。

出土遺物は、小形壺があるだけである。

第76号住居跡（調査時C 2区62号住居跡）

シー284グリッドに位置する。重複関係は、第132・134号住居跡よりも古く、第16号住居跡よりも新しい。遺構の北側が調査区域外となる。住居の規模は、長軸3.60m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、20cmである。壁周溝は、カマドと反対側の西壁・南壁にみられ、東壁では途切れている。柱穴は確認されていない。

カマドは北辺に接し構築されたと思われるが、この部分が、第131号住居跡の構築によって破壊されているために、燃焼部から煙道部にかけては不明である。しかし、残存する袖部分は、焚き口部と一部燃焼部を含んでおり、幅の狭いカマドだったことが分かる。

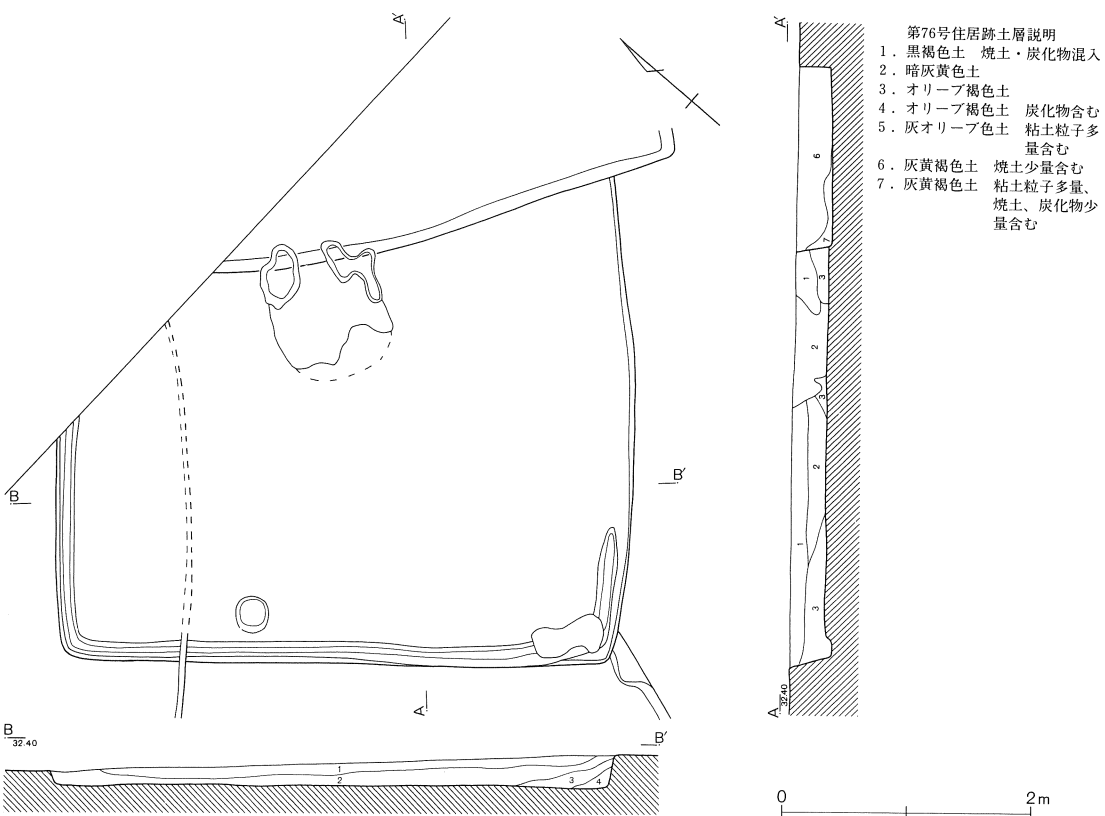
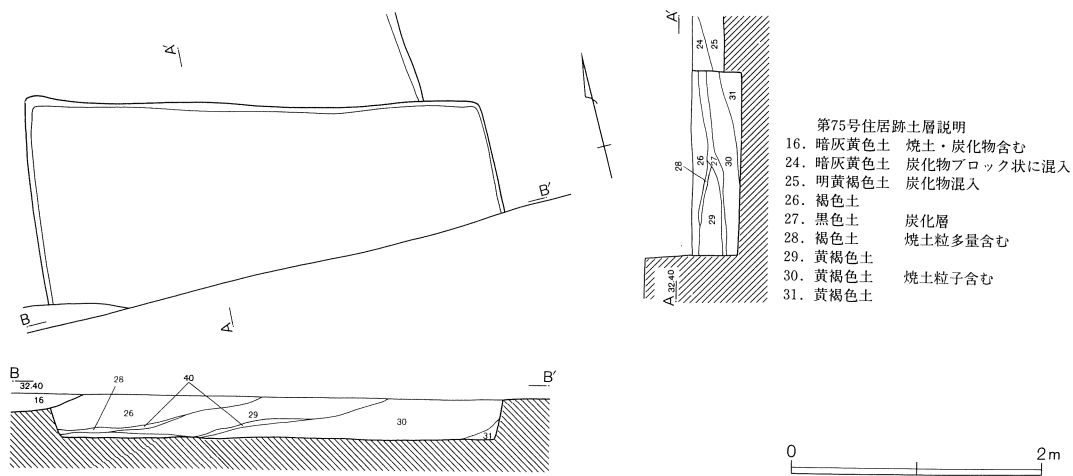
遺構の重複関係が激しく、また地山と覆土の色調が似通っており、調査区の北壁に設定した土層の断面確認によって、住居跡の存在を確認した。

第76号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・短頸壺・小形甕・甑などがある。

第77号住居跡（調査時C 2区106号住居跡）

エー290グリッドに位置する。重複関係は、第15・51号住居跡よりも古い。北側の一部が、最近の攪乱によって大分痛め付けられてはいるが、全体を知る好例である。住居跡の規模は、長軸5.30m、短軸5.30mを測る。掘り込みの深さは28cmである。壁周溝は、カマド部分を除いて完周している。柱穴は、東側に2本確認されているが、西側には確認できなかった。ただ柱痕跡は確認していない。北カマドの左側に貯蔵穴が存在する。第46号住居跡の出土遺物は、土師器坏の小破片のみである。

カマドは、2基確認されており、第1次構築の東カマド、第2次構築の北カマドがある。東カマドは、東壁左よりに構築されたカマドである。北カマドの使用時には、袖が外され煙道・焚き口部



第282図 第75・76号住居跡

が、埋め戻されていたと考えられる。煙道部は、細長く造られている。北カマドは、攪乱によって左袖のごく一部と、右半分がころうじて残っているにすぎない。しかし焚き口部が広く、煙道の長いカマドであったことがわかる。長い袖は、地山掘り残しで構築され、その1.5倍の煙道が延び

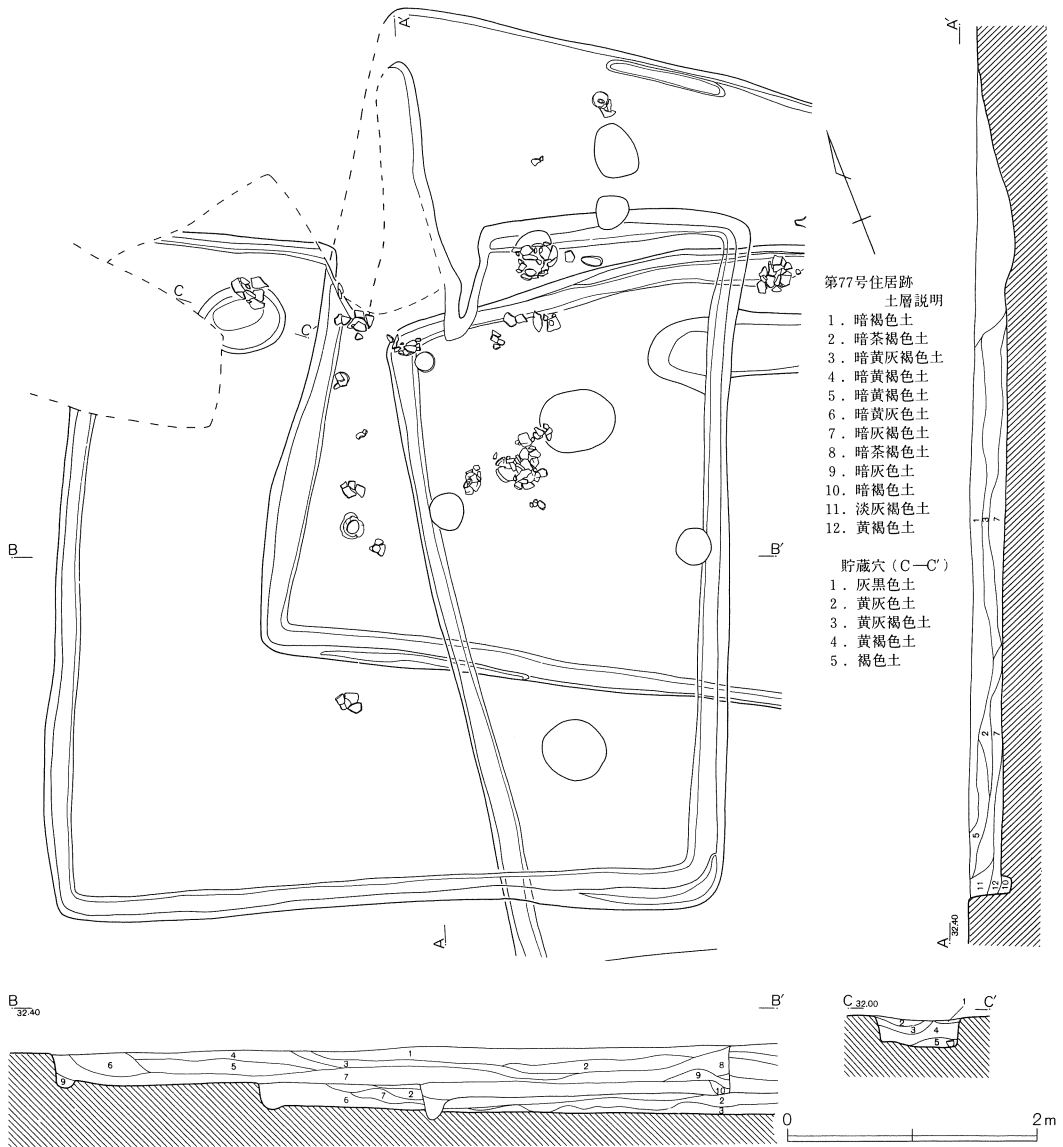
る。北壁の左より構築されている。焼き口部・煙り出しの構造については不明である。

最近の攪乱と、他の遺構の重複が激しく、調査には難行した。

出土遺物には、土師器杯・甑がある。

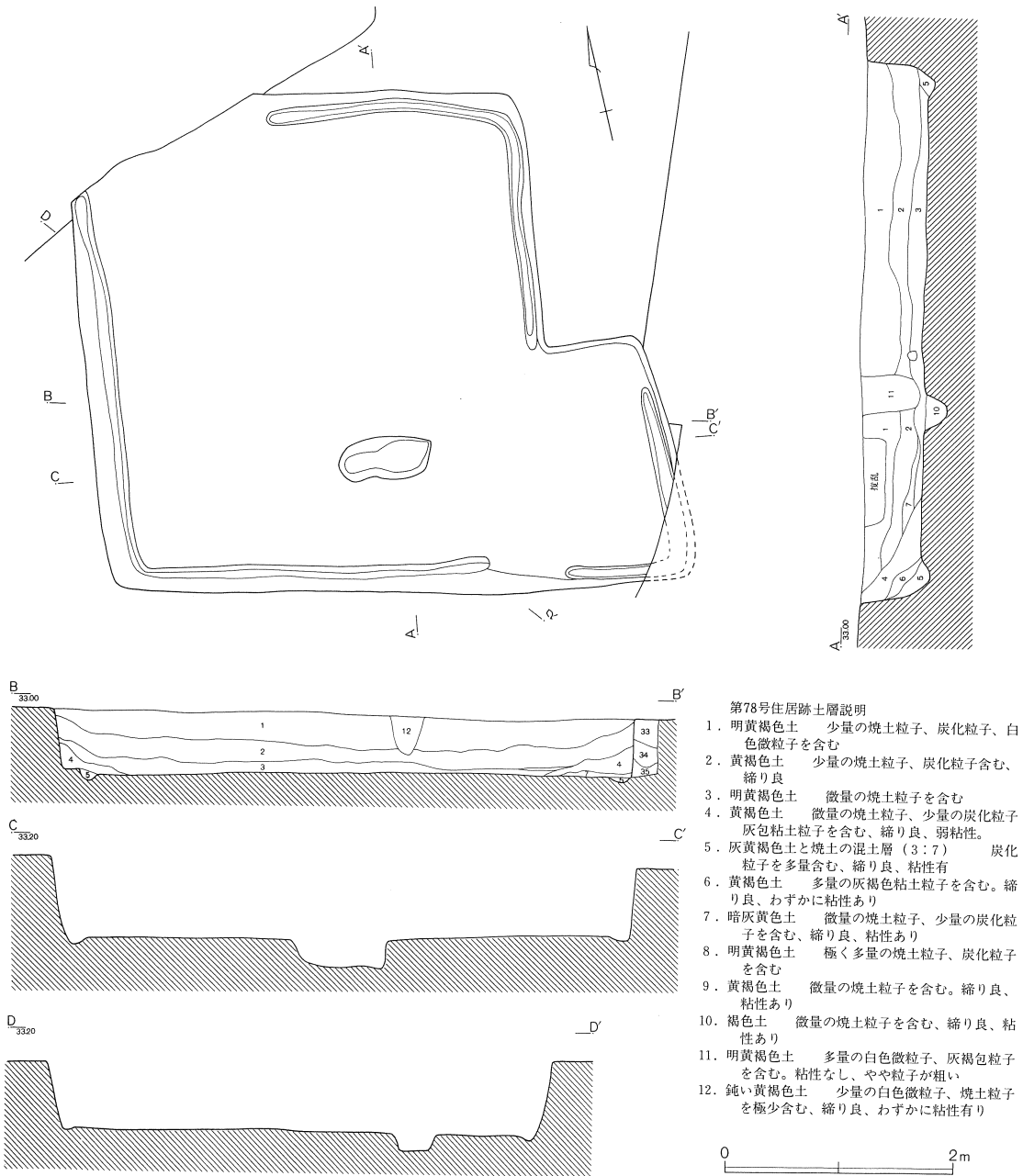
第78号住居跡（調査時B区1号住居跡）

ミ-290グリッドに位置する。重複関係は、第54号住居跡よりも新しく、第126・141号住居跡よりも古い。東側の一部が調査区域外となっている。基本的には、方形の住居跡であるが、東側に張



第 283 図 第77号住居跡

り出し部分があり、この遺跡内では極めて特殊な形態を示している。住居跡の規模は、長軸4.28m、短軸3.95mを測る。掘り込みの深さは、54cmとかなり深い。張り出し部分は、幅1.21m・長さ2.09mで、深さは変りがない。中央部分にやや凹んだ部分があるが、柱穴とは関連しないであろう。壁周溝は、張り出し部分の一部を除き、完周していると考えられる。



第 284 図 第78号住居跡

カマドは存在しなかったと考えられる。

重複遺構の存在から、遺物の確認は困難を極めた。

第78号住居跡の出土遺物は、土師器小形壺・壺・坏のみである。

第79号住居跡（調査時B区50号住居跡）

ヒー291グリッドに位置する。重複関係はみられない。北側は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸3.58m、短軸一一m、掘り込みの深さは7cmである。壁周溝・柱穴は、確認されなかった。床面に小穴が確認されたが、柱穴とは断言できない。



第 285 図 位置図

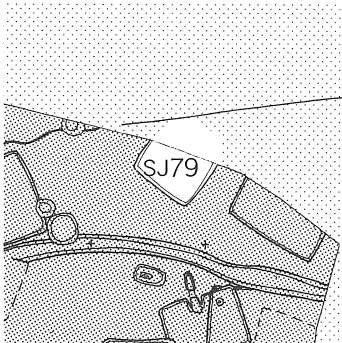
カマドは、確認されていない。

調査区のきわであり、覆土も薄く、確認には難行した。

第79号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏のみである。

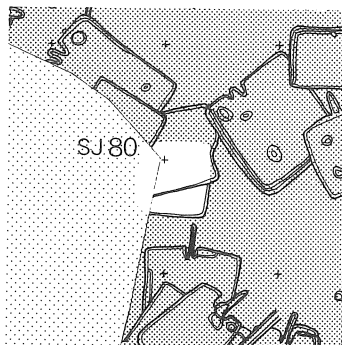
第80号住居跡（調査時B区7号住居跡）

シー293グリッドに位置する。重複関係は、第29号住居跡よりも新しい。西側は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸4.43m、短軸一一mを測る。掘り込みの深さは45cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

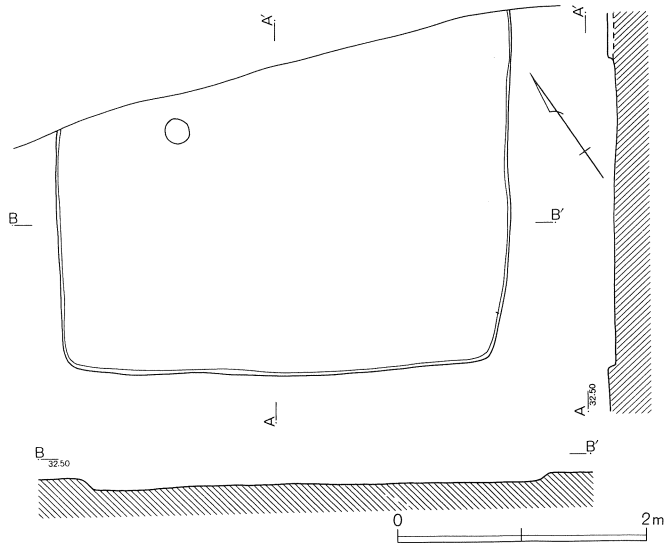


第 286 図 位置図

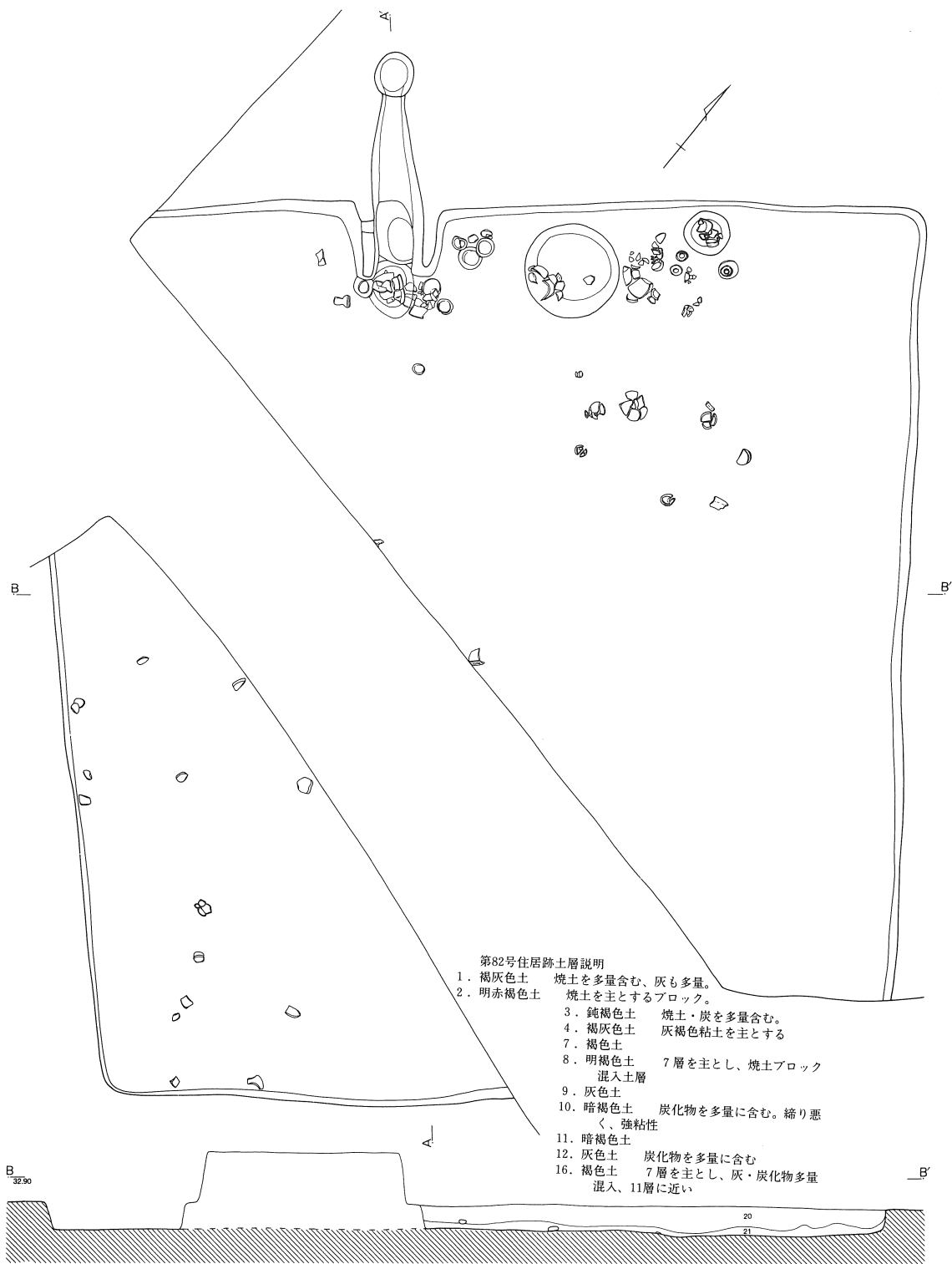
カマドは、確認されていない。



第 287 図 位置図



第 288 図 第79号住居跡



第 289 図 第82号住居跡

遺構の確認は、重複遺構が激しくまた覆土は薄く、調査区域の際に存在していたため調査は容易ではなかった。

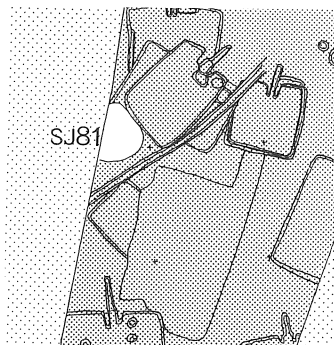
第80号住居跡の出土遺物は、土師器杯・高坏・鉢である。

第81号住居跡

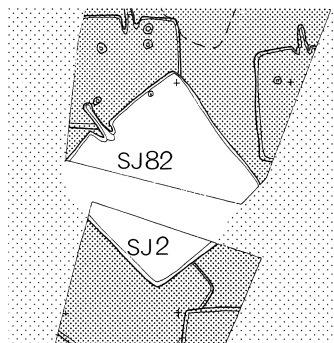
(調査時B区18号住居跡)

ユ-293グリッドに位置する。重複関係は、不明である。堆積層中に多量の土師器が確認されたが、重複・攪乱が激しく、住居跡として認識することができなかった。しかし、出土土器の多いことから、ここに住居跡の存在を推定した。

第81号住居跡に伴う出土遺物は、土師器杯・高坏・短頸壺・甕・鉢・壺などの他に製作途中の粘土塊や、中途作品のまま焼成したものなどがある。



第 290 図 位置図



第 291 図 位置図

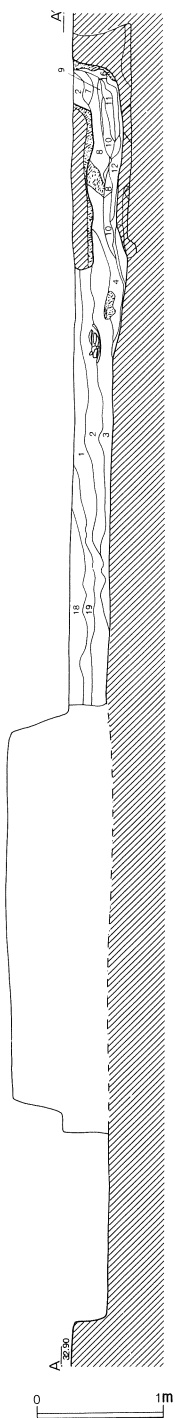
第82号住居跡

(調査時B区19号住居跡)

(1989年度報告第2号住居跡) ※

サー292グリッドに位置する。重複関係は、第57号住居跡よりも古い。また1989年度報告の第3号住居跡よりも新しい。私道によって破壊されている。住居跡の規模は長軸8.30m、短軸8.10mを測る。掘り込みの深さは、32cmである。調査された竖穴のなかでは、最大の床面積を誇る。壁周溝・柱穴は、確認されていない。

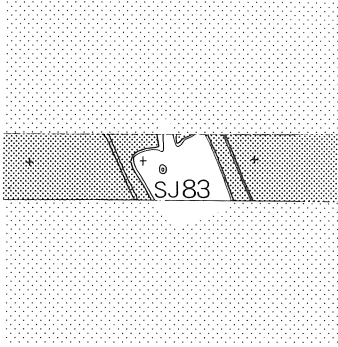
カマドは、北辺左よりにみられる。袖は長く、また煙道も長い。煙道は、袖の2倍程度の長さに造られる。袖は、地山掘り残しで造られる。燃烧部はやや狭い。煙道は、クランク状に構築されている。燃烧部でやや低く造られた底部は、水平に次第に幅を狭めながら、煙り出し穴に向かう。煙り出し穴は、垂直に掘られており、これと連結している。



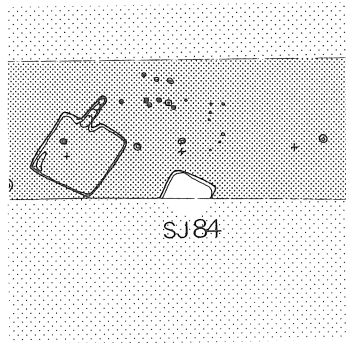
調査範囲が狭く、調査には難行した。

第82号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・高坏・短頸壺・甕・鉢・壺・須恵器高坏脚部などがある。

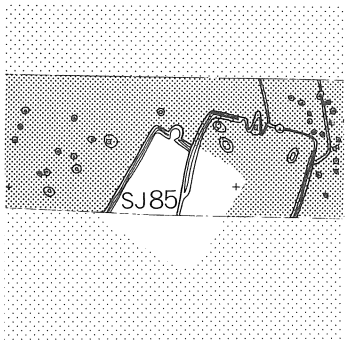
※財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団『本郷前東遺跡一県道深谷妻沼線関係埋蔵文化財発掘調査報告一』1989年 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第78集を参照。



第 292 図 位置図



第 293 図 位置図



第 294 図 位置図

第83号住居跡（調査時B区20号住居跡）

モ—317グリッドに位置する。重複関係は、第47号住居跡よりも新しい。南辺・北辺は、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸3.77m、短軸—mを測る。掘り込みの深さは、30cmである。壁周溝・柱穴は、確認されなかった。

カマドは、北辺に接し、右よりに構築されている。左右の袖は、地山掘り残しで造られ、煙道の先端は調査区域外であるため規模や形態はわからない。燃焼部には、焼土と炭化物の堆積層が認められる。袖は極めて短い、燃焼部は比較的規模が大きい。

覆土が、地山の堆積層と近似し、調査区域も狭く検出が困難であった。

出土遺物は、土師器坏・甕・甔などがある。

第84号住居跡（調査時B区44号住居跡）

ほ—320グリッドに位置する。重複関係はみられないが、調査区域の際に位置しているため、住居跡の規模等は不明な点が多い。掘り込みの深さは、7cmである。壁周溝・柱穴は確認されていない。

カマドは、確認されていない。調査区域外であろう。

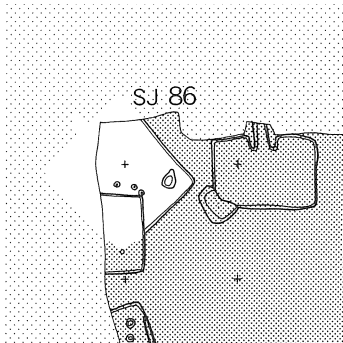
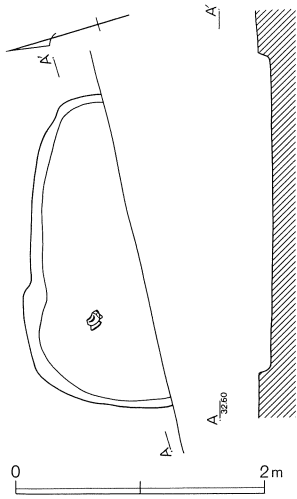
調査区域が狭く、遺構の全体像の推定が困難であった。

出土遺物は、土師器坏のみである。

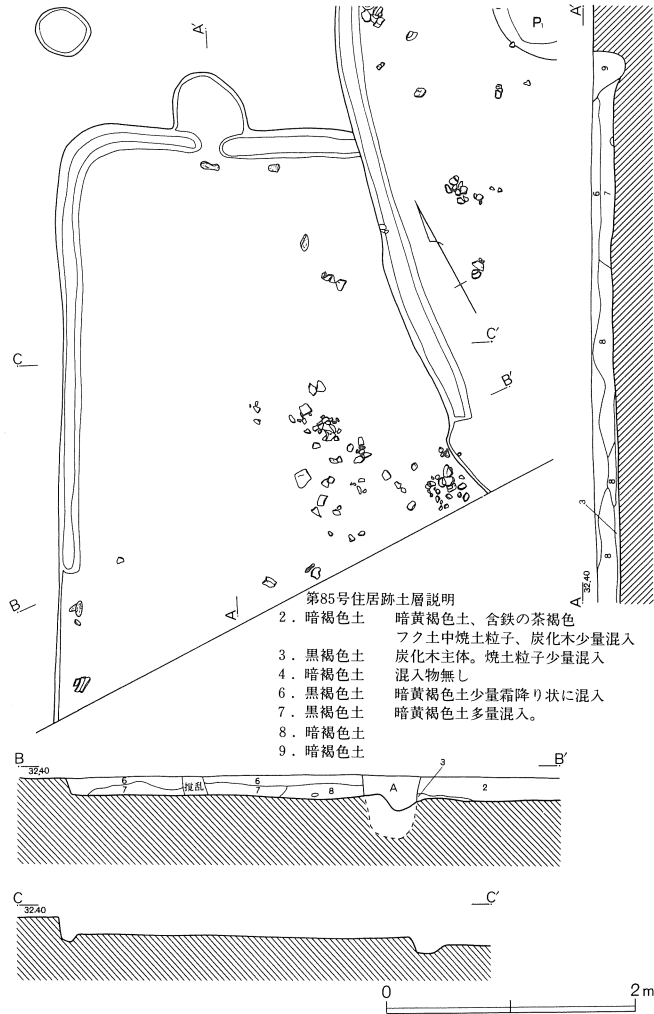
第85号住居跡（調査時B区48号住居跡）

へ—326グリッドに位置する。重複関係は、第106号住居跡よりも古い。南側は、調査区域外である。検出されたのはわずかである。住居跡の規模は、不明だが、掘り込みの深さは、18cmである。壁周溝が、西・北辺にみられるが、柱穴はみられない。

カマドは、確認されていない。調査区域外であろう。



第 296 図 位置図



第 295 図 第84・85号住居跡

重複が激しい上に、調査区域が狭く遺構の確認は困難であった。

出土遺物は、土師器鉢・甕・甌がみられる。

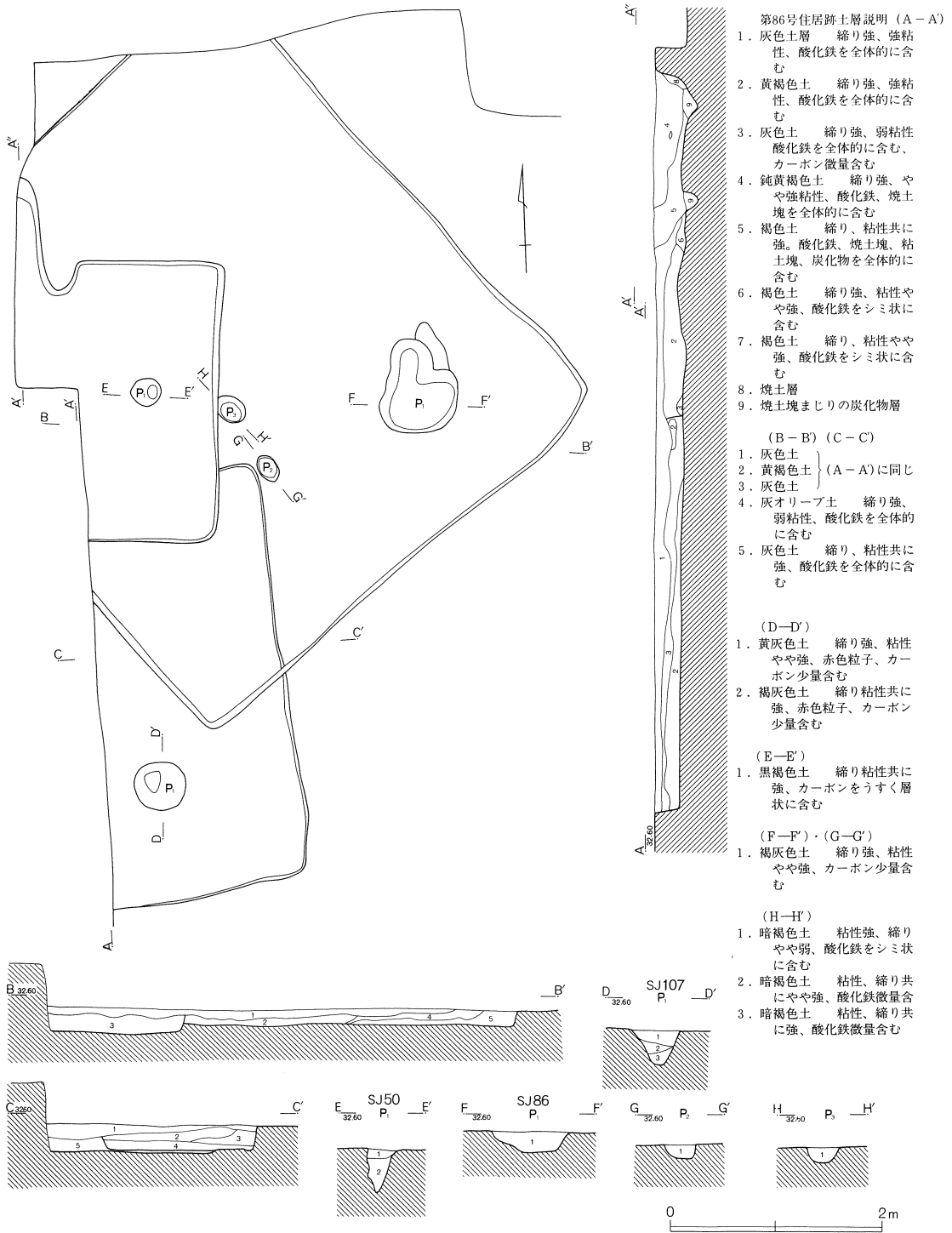
第86号住居跡（調査時B区31号住居跡）

いー332グリッドに位置する。重複関係は、第50号住居跡よりも新しい。西・北側が、調査区域外である。住居跡の規模は、長軸5.28m、短軸4.67mを測る。掘り込みの深さは、13cmである。壁周溝・柱穴は、確認されていない。住居跡南隅にやや大きめの落ち込みがあるが、柱穴やそのほかの施設とは違うであろう。

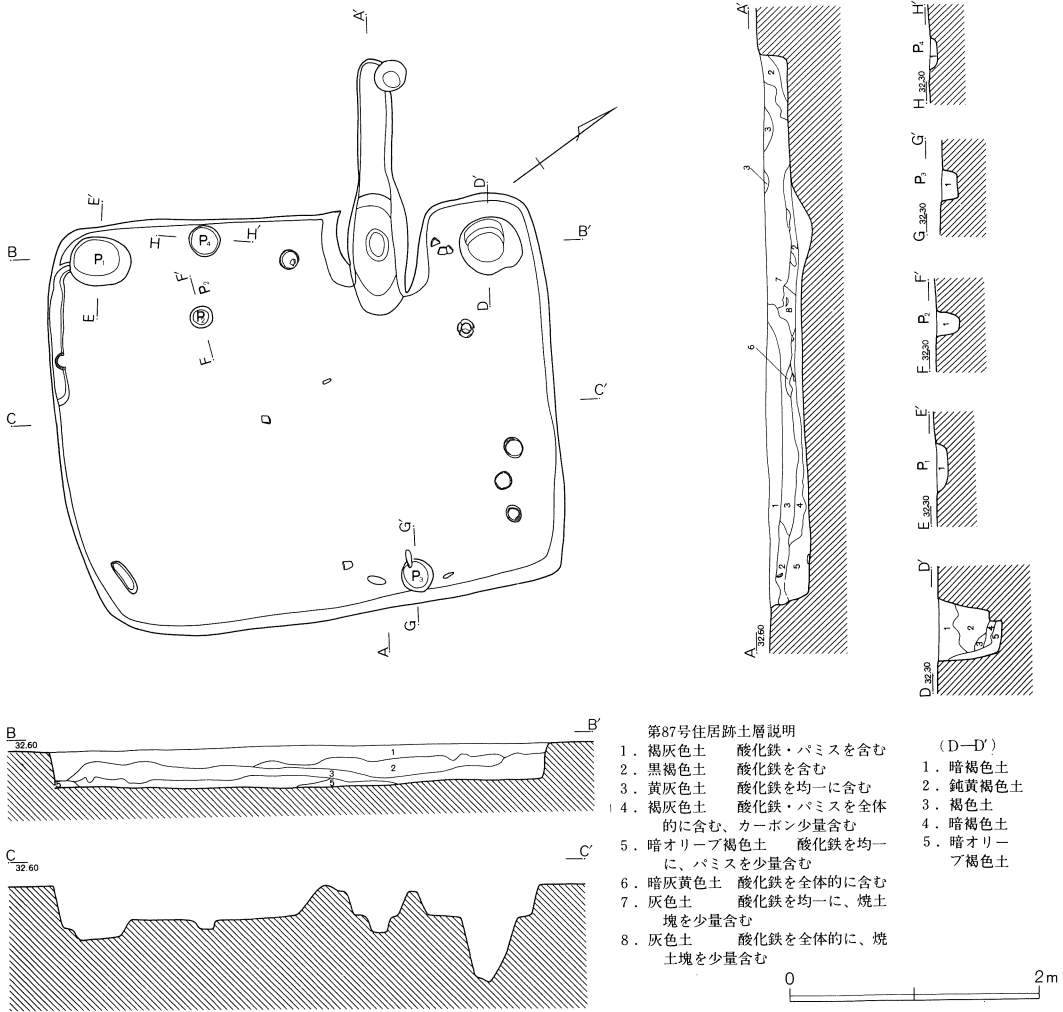
カマドは、確認されていない。

覆土は浅く、また遺構構築層と極めて近似しており、重複も激しく、調査は難行した。

第86号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏だけである。



第 297 図 第86号住居跡



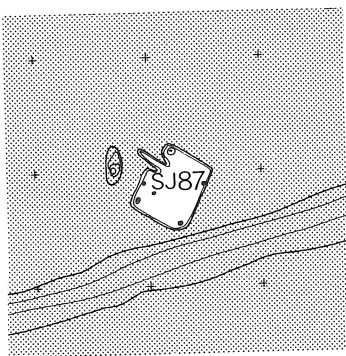
第298図 第87号住居跡

第87号住居跡（調査時B区33号住居跡）

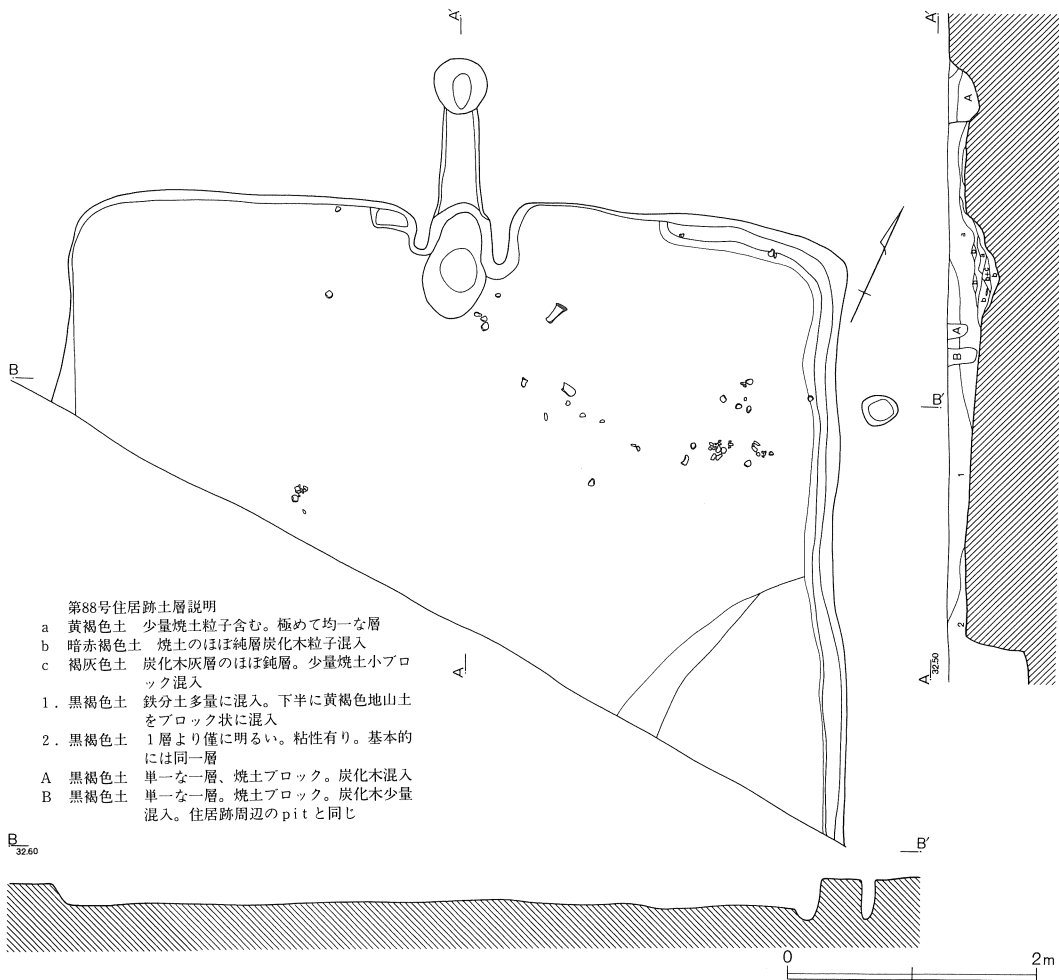
セー328グリッドに位置する。重複関係は、みられない。規模は、長軸3.95m、短軸3.18mを測る。掘り込みの深さは30cmである。壁周溝は、西壁際に一部分確認されているだけである。

小穴は、床面にいくつか確認されているが、明瞭な柱穴は、確認されていない。カマドの右側に貯蔵穴が確認されている。円形の比較的深い貯蔵穴であり、カマドと並行し壁ぎわまでいっぱい造られている。

カマドは、北辺右よりに確認されている。袖は長く、地山掘り残しで造られ、さらに1.5倍程度の煙道が延びる。燃烧部は深く掘り込まれ、やや狭く造られている。煙道はクランク状に



第299図 位置図

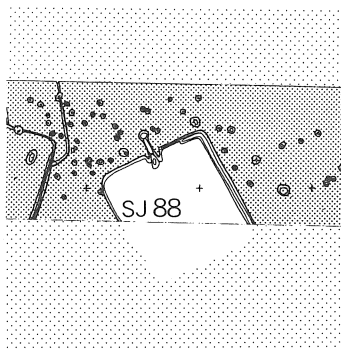


第 300 図 第88号住居跡

構築されており、幅のそれほど変わらない燃焼部と連結している。焚き口部もややへこんでいる。

他の遺構との重複関係がなく、調査は比較的順調だった。

第87号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏・甑である。



第 301 図 位置図

第88号住居跡（調査時B区45号住居跡）

へー324グリッドに位置する。重複関係は、調査区域内では確認されていない。ただし南側半分は、調査区域外となっている。規模は、長軸6.10m、短軸1.1mを測る。掘り込みの深さは、15cmである。壁周溝は、東辺部と北辺部の一部に確認されているが、完周するかわからない。柱穴は、確認されていない。

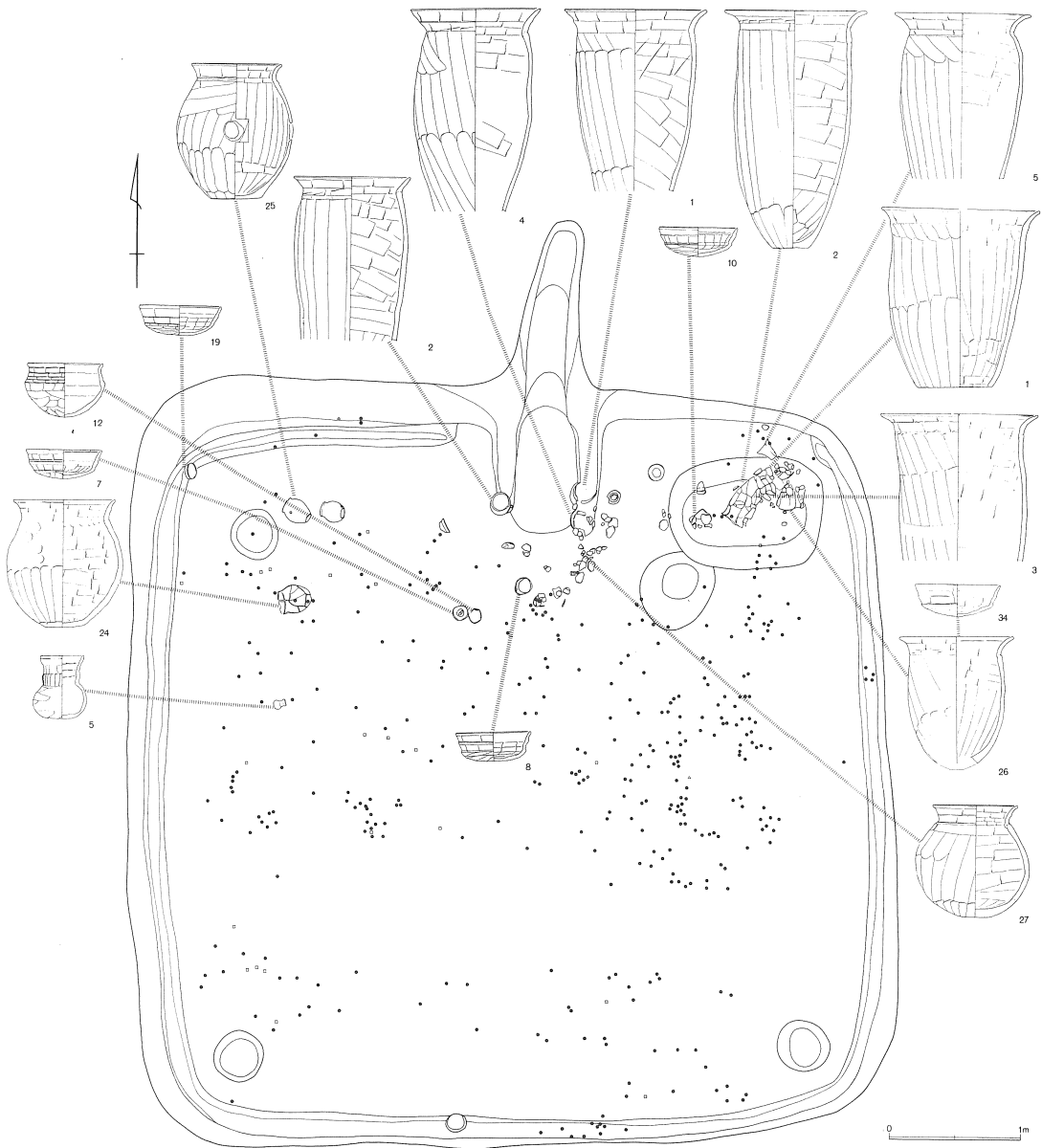
カマドは、北辺に確認されている。地山掘り残しの袖は短く、2.5倍程度の煙道が延びる。燃焼

カマドは、北辺に確認されている。地山掘り残しの袖は短く、2.5倍程度の煙道が延びる。燃焼

部は広く、煙道にかけてはゆるい段があり煙り出し穴に通じる。焼き口部は、燃焼部とともに深く掘り込まれており、凹地状になっている。煙り出し穴は、ピット状に深く掘り込まれており、煙道がクランク状に続くと思われる。

第88号住居跡に伴う出土遺物は、土師器坏破片のみである。

(3) 遺構各説 一遺物出土状態一



第 302 図 第61号住居跡遺物出土状態

古墳時代第V期の遺構で、遺物の良好な出土状態を保っている遺構について次に記す。

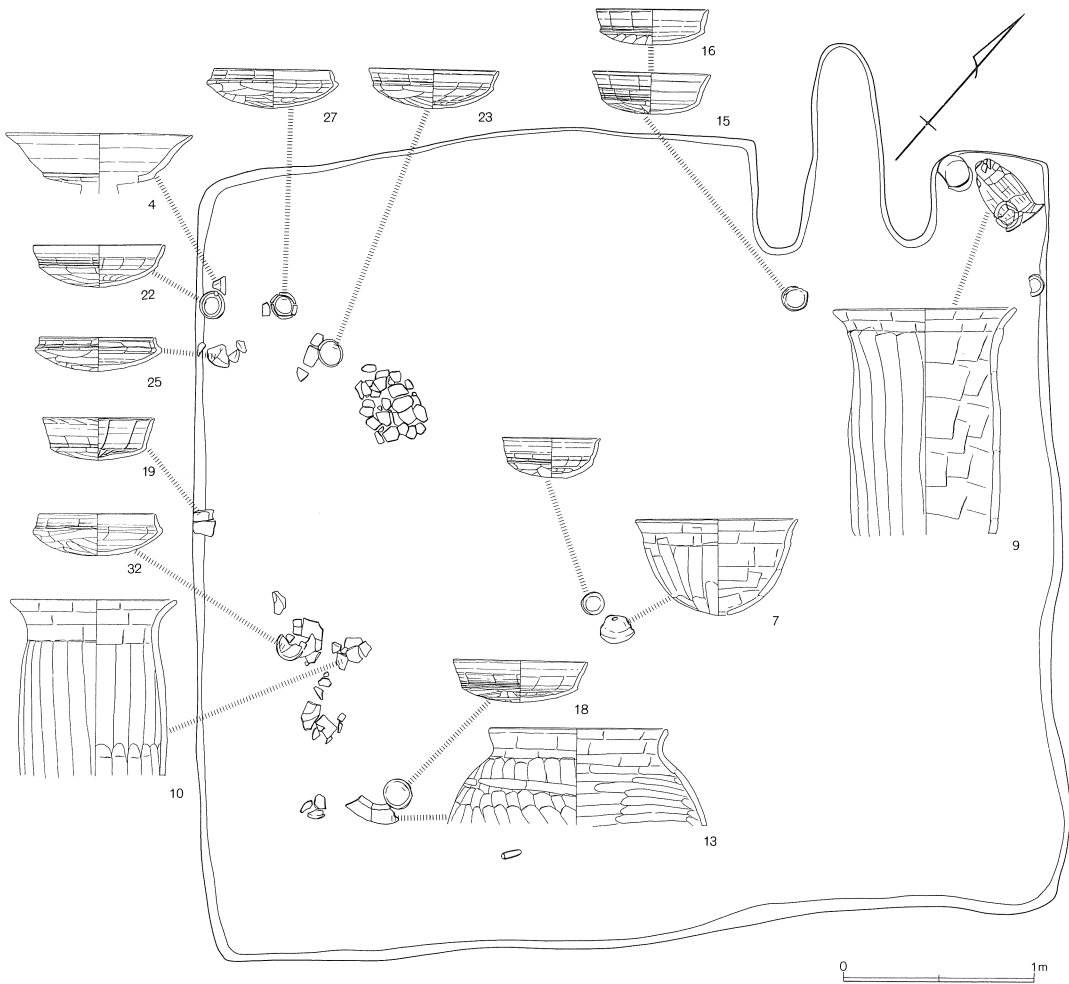
第61号住居跡

(壁ぎわ) 北西の角に坏が一点横倒しで、しかも壁に圧着した状態で出土している。

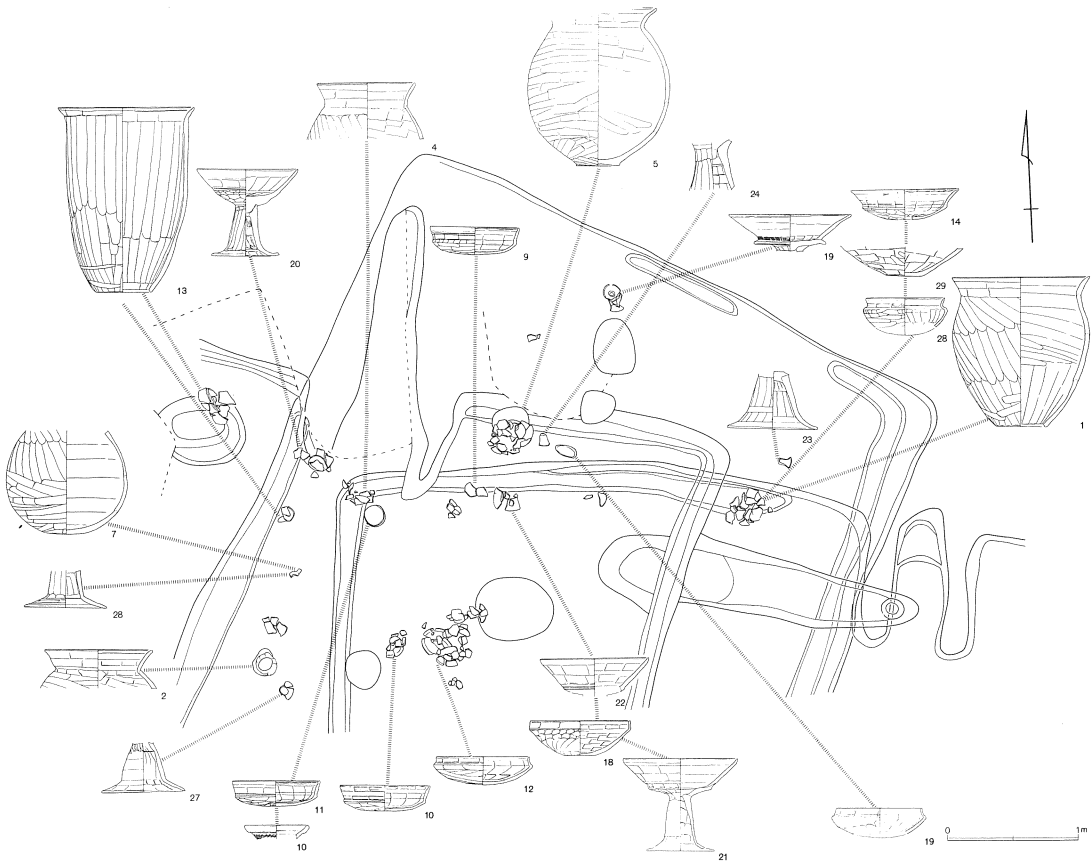
(床面) 北西の隅の柱穴の周囲に小型甕が3点、口縁部を西壁に向けたまま出土している。このやや南側には、小形の長頸壺が一点確認されている。全て床直の状態である。

(カマド) カマド構築材として、右袖に甕が倒位で2点使用され、左袖に倒位で1点使用されている。カマド内に遺物の出土はみられない。

(カマド脇) 右袖の前方には、小形甕が破碎された状態で出土しており、左袖の前方には、深めの坏と普通の坏がセットで出土している。この二つはあるいは坏蓋の関係になるのかもしれない。



第 303 図 第61号住居跡遺物出土状態



第304図 第77号住居跡遺物出土状態

(貯蔵穴) 貯蔵穴の上方から5点の甕、2点の坏が出土している。それぞれ甕は横倒しの状態、坏は正位に出土している。とくに貯蔵穴の最下端で出土しなかったことは、第38号住居跡同様の貯蔵穴の構造が、この住居跡にもあったのではないかとと思われる。

第69号住居跡

住居跡の西半分に遺物が集中する傾向がある。

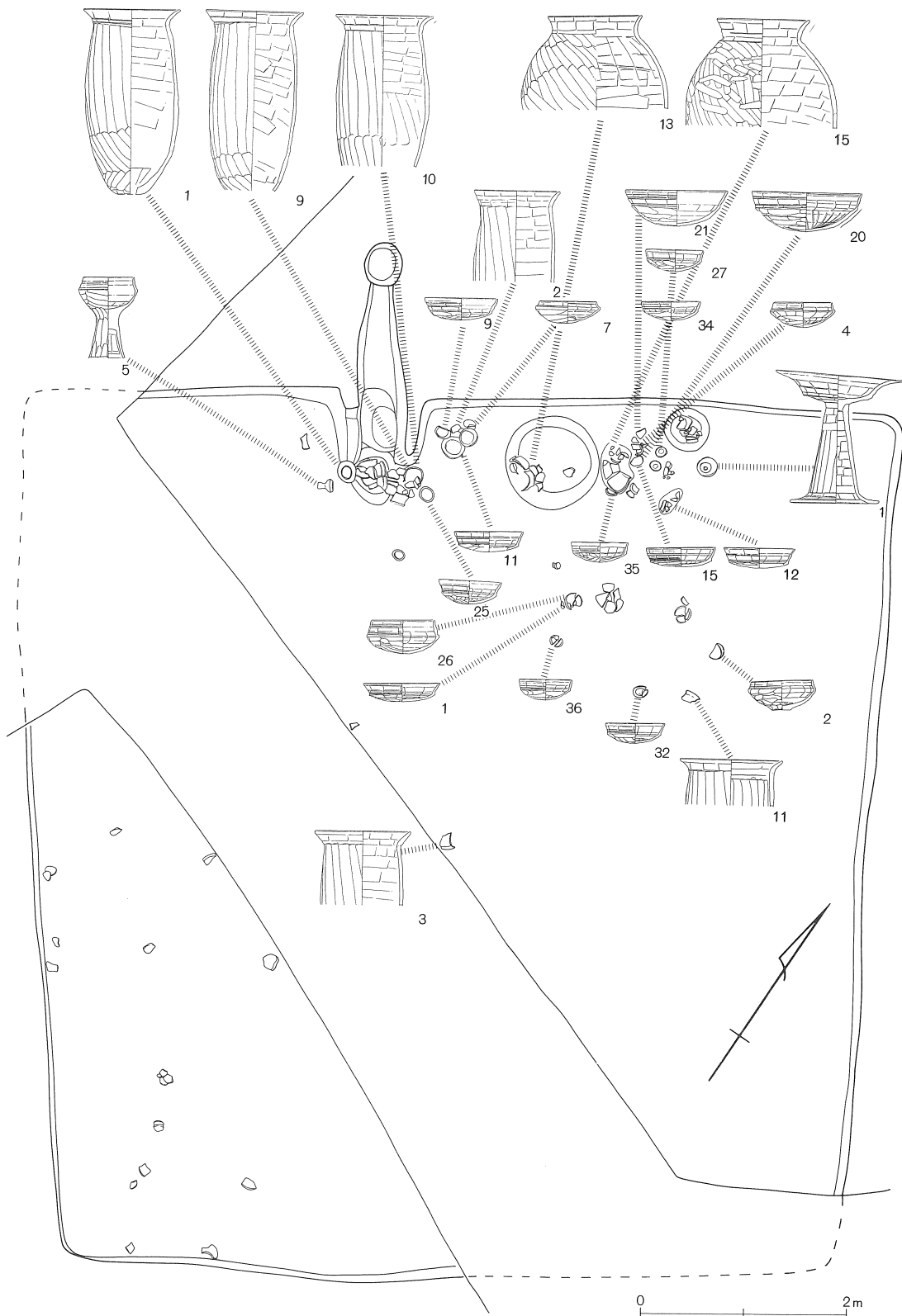
(壁ぎわ) 西壁ぎわに坏類が、集中して確認されている。北からみると、高坏—坏—坏—坏—坏—坏—甕の順序である。甕は横位であるが、他は床面に圧着し、正位で出土している。

(床面) 北西の柱の位置には、粉々に砕けた甕がある。ほぼ中央に坏が2点、重ね碗の状態出土し、その脇に伏せられた小形甕が出土している。

(カマド脇) 左袖の先端には、坏が2点重ね碗の状態を確認されている。また右袖と東壁の間には、甕が横転して出土している。

第77号住居跡

遺構の重複関係や攪乱が激しく、各遺物の帰属関係については、やや疑問の残るものの、第77号住居跡に帰属する遺物のみをあつかっておく。



第 305 图 第82号住居跡遺物出土状態

(床面) カマド前方の床面から甕・高坏・坏類が、散漫に確認されている。とくに北東の柱付近に確認された土器は、破碎された状態で出土している。

(カマド脇) 右袖の前方には、高坏が袖に接して転倒して確認されている。カマドの直前には、坏と甕が粉々になって出土し、この中に須恵器小形壺の口縁部破片が混じっていた。またカマドの左側に接して甕・高坏の脚部が出土している。

(貯蔵穴) 貯蔵穴の上方から甑が出土している。貯蔵穴の縁に口縁部を貯蔵穴内にむけて横倒しの状態で出土している。

第82号住居跡

遺物の明瞭な分布は、カマドと貯蔵穴の周囲に偏る傾向にある。

(床面) 床面中央には、甕の胴上半部のみ製品が、横倒しの状態で出土している。西北部には坏類を中心に(5点)、甕を混ぜた製品が、散漫に分布している。

(カマド) カマド構築材として、両方の袖に甕が倒位で1点ずつ使用され、まぐさに甕が横位に使用されている。カマド内部には土器は認められない。

(カマド脇) 右袖の脇に脚付短頸壺が横打押しの状態で確認されている。左袖の脇には、甕と坏2点が、まとまって床直の状態を確認されている。

(貯蔵穴) 貯蔵穴の上方から大形の壺2点、坏6点が、貯蔵穴に向かって傾斜した状態で出土している。またここから最も離れたところには、高坏が倒位の状態を確認されている。

(4) 遺構各説 —カマドと煮沸土器—

古墳時代第Ⅴ期のカマドと、煮沸にかかわる土器の関係について述べる。

古墳時代第Ⅴ期のカマドの確認された住居跡とその構造についてはすでに述べたが、16軒のカマドについて詳細が分かっている。

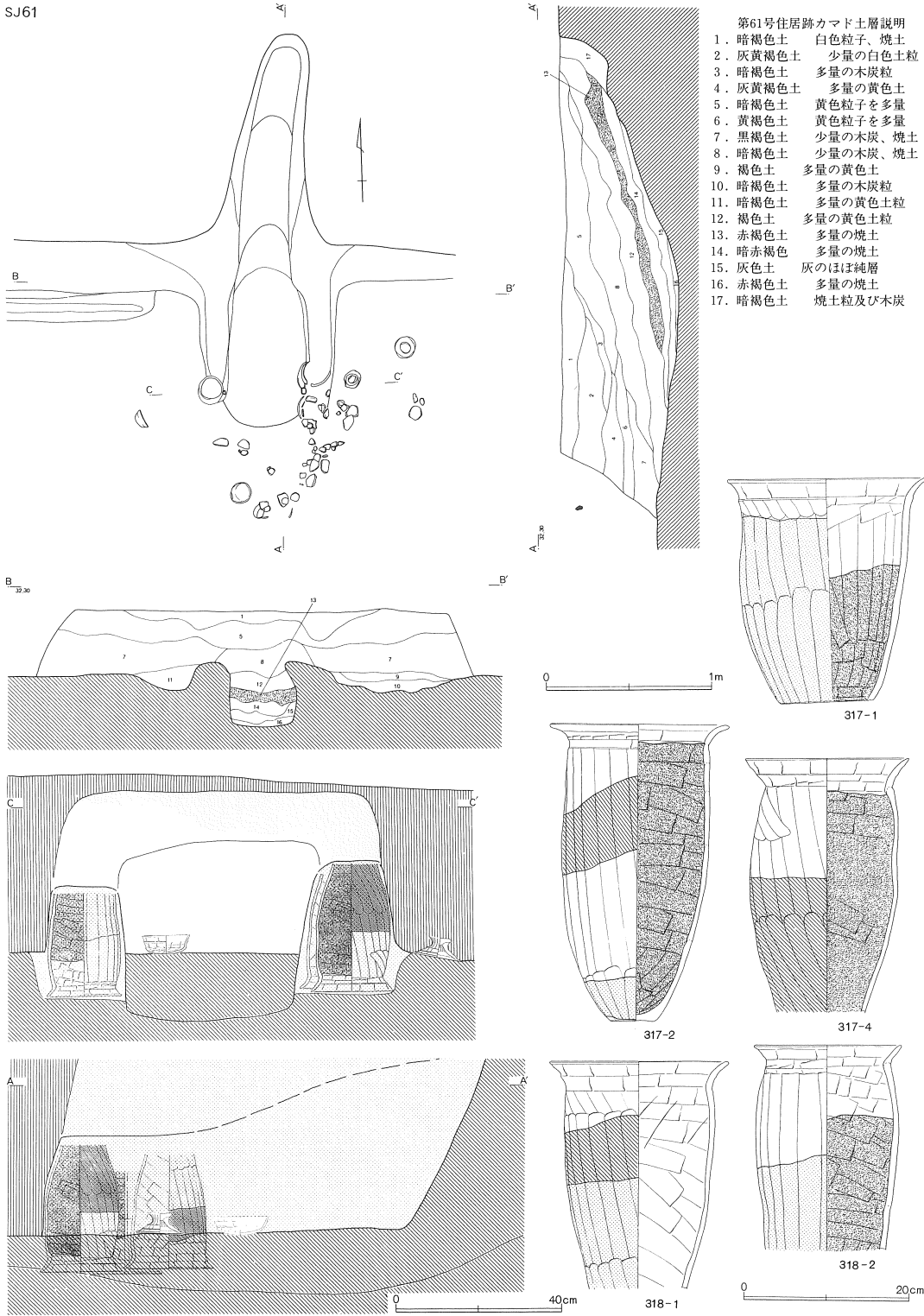
第61号住居跡

長煙道のカマドである。カマドの燃焼部からは、関係した土器は出土していないが、カマド袖に心材として使用された甕が出土している。右袖に2点、左袖に1点である。このほかの出土は、カマド以外の床面からである。

317-1は、甑で口縁部以下の外面には、一面に被熱痕が認められる。内面には、胴部の3/5以下の部分に粒状の付着痕跡を認めることができた。底部付近や口縁部には、この痕跡を認めることはできない。

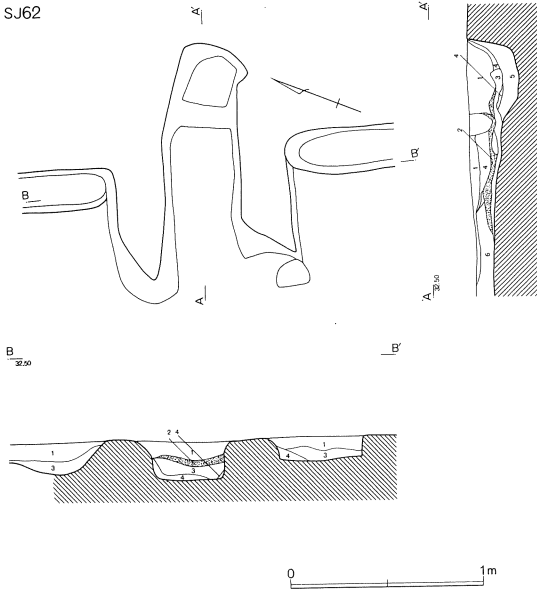
317-2は、長胴の甕で、外面胴中位斜めに帯状に粘土や焼土の付着痕跡が確認できる。底部付近には、被熱痕跡がみられる。内面には、口縁直下から底部いっぱい粒状粒子の付着が確認されている。

317-4は、底部が欠損している長胴の甕である。胴中位から底部にかけて、粘土や焼土の付着痕跡が確認できる。また内面には、口縁部直下から残存部いっぱい粒状の付着物が見られる。カマド右袖の先端に、心材として使用されていた。

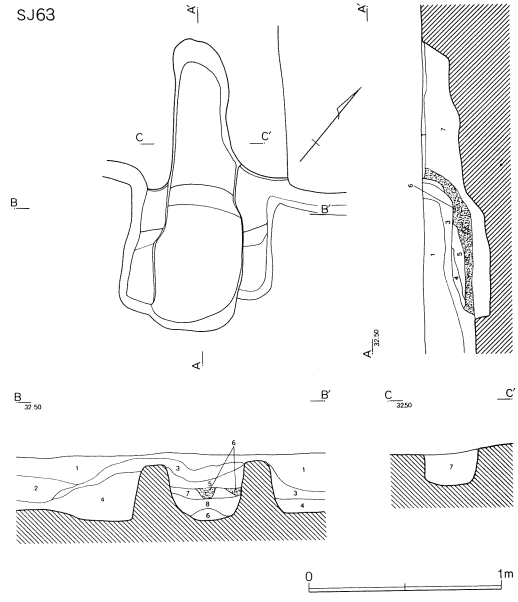


第 306 図 第61号住居跡カマド・遺物出土状態

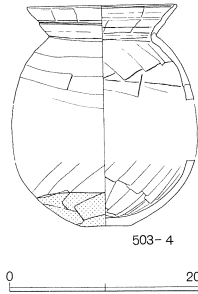
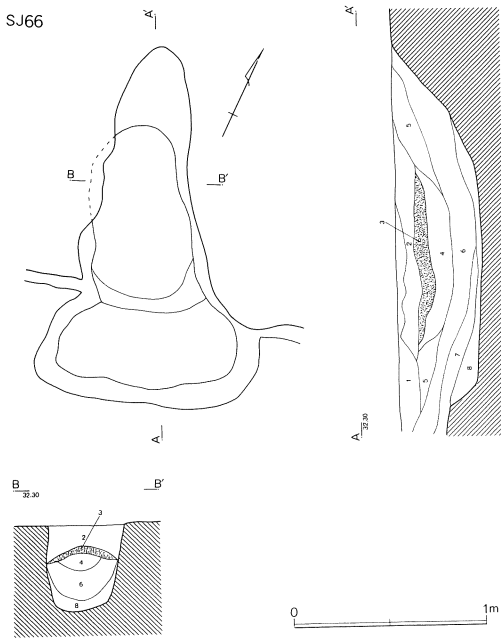
SJ62



SJ63



SJ66



第62号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土
2. 赤褐色土 焼土
3. 暗赤褐色土 焼土。粘土質
4. 黒色土 炭化物含む
5. 灰褐色土
6. 赤褐色土

第63号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 炭化物含む。焼土少々含む。粒子粗い。粘性強
2. 暗褐色土 炭化物やや含む。粒子細い。粘性弱
3. 黄褐色土 粘性強
4. 暗褐色土 炭化物多量含む。粘性弱
5. 赤褐色土 焼土層。粘性強
6. 黄褐色土 ブロック状
7. 暗灰褐色土 粘性弱
8. 暗褐色土 焼土混じる。粘性弱

第66号住居跡カマド土層説明

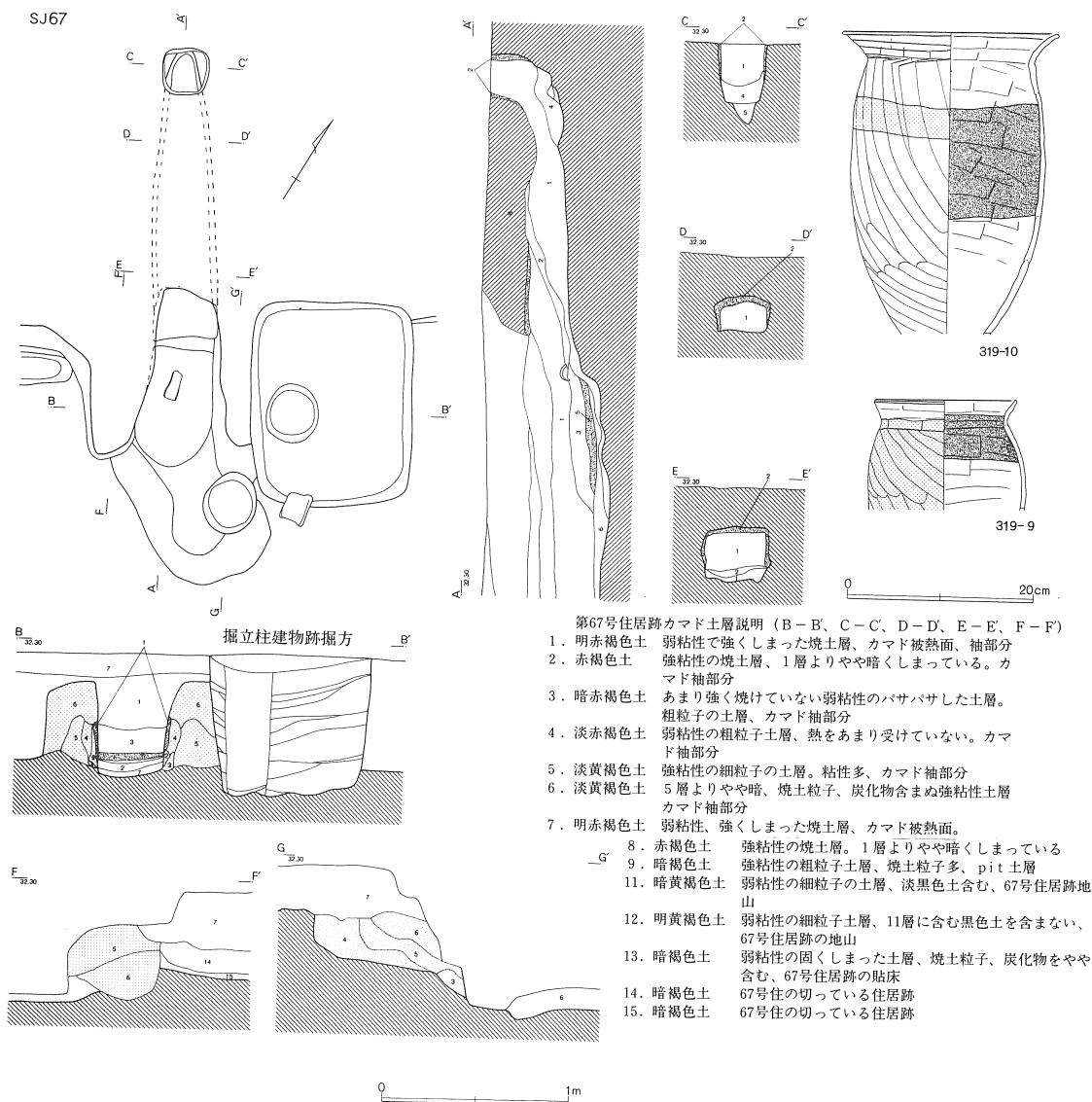
1. 暗褐色土 粘性弱。粒子粗い。
2. 暗褐色土 粘性強。粒子細かい。少量炭化物含む
3. 淡褐色土 粘性強。粒子細かい
4. 淡褐色土 粘性強。粒子細かい。多量炭化物含む
5. 暗褐色土 粘性弱。粒子粗い。少量炭化物含む
6. 暗褐色土 5層と似ているがやや明るい
7. 淡褐色土 粘性弱。粒子細かい。1層より軟
8. 黄褐色土 粘性強。炭化物多量含む。土層、粒子粗い。

第307図 第62・63・66号住居跡カマド・遺物出土状態

318-1は、底部が欠損しているが、長胴の甕である。外面の肩部に、粘土や焼土の付着痕跡が確認できる。内面には確認されていない。カマドの右袖の心材として、先端から二番目に使用されている。

318-2は、底部の欠損した長胴の甕である。外面の胴下半には、被熱痕が見られる。また内面

SJ67



第308図 第67号住居跡カマド・遺物出土状態

には、肩部以下に、粒状粒子の付着痕跡を確認することができる。カマドの左袖の心材として使用されていた。

第62号住居跡

カマドは、短煙道である。住居跡に伴う煮沸痕跡等の残る土器は、確認されていない。

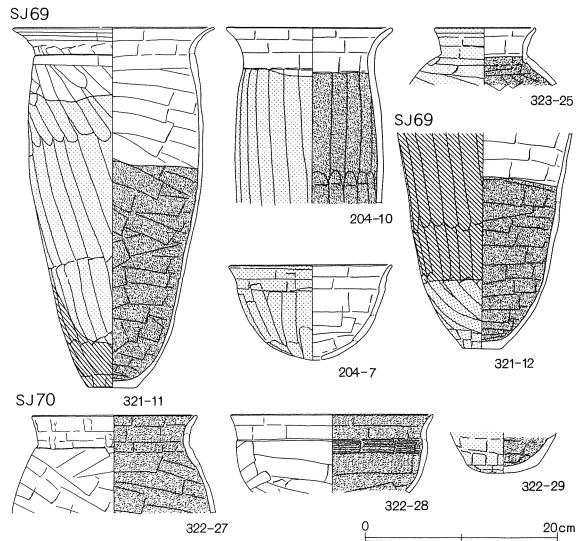
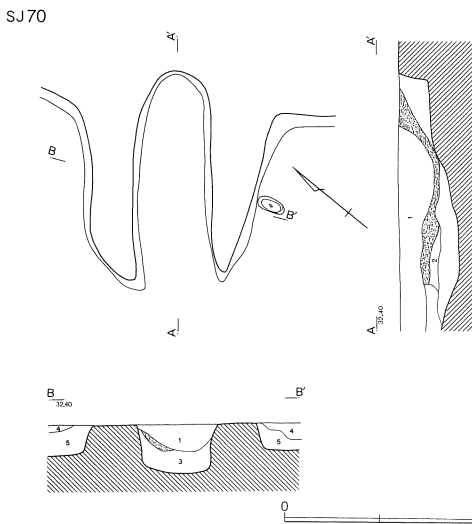
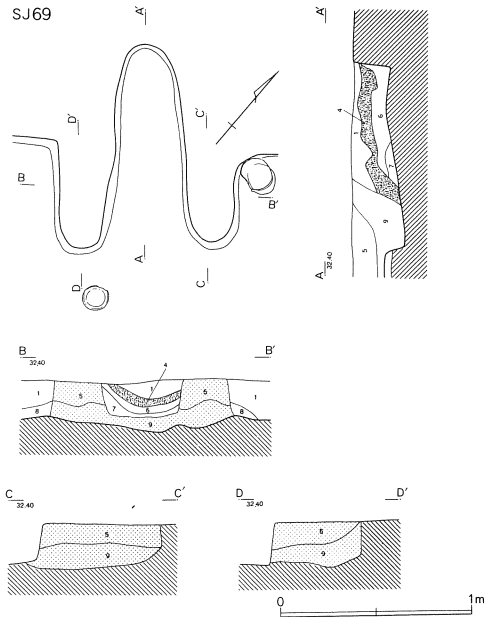
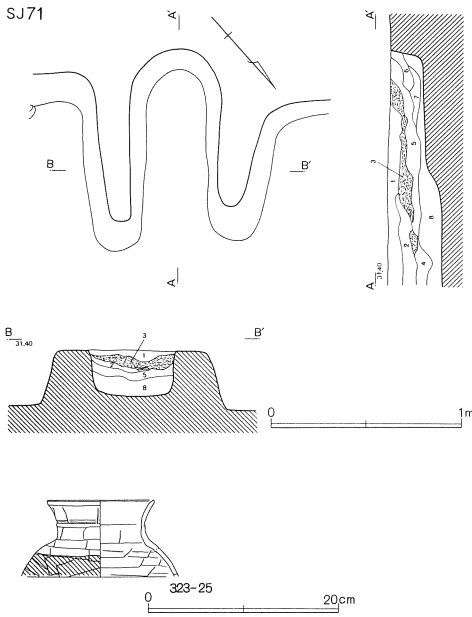
第63号住居跡

カマドは、長煙道である。住居跡に伴う煮沸痕跡等の残る土器は、確認されていない。

第66号住居跡

カマドは、長煙道である。ただし不正形をしており、本来のカマドの形状を留めていない。覆土中から煮沸痕跡等の残る土器が、一点確認されている。

503-4は、胴部の欠損した壺である。底部に被熱痕が認められる。内面には見られない。



第70号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 粘性少なく粒子粗、炭化物を多量に含む、柱痕跡
2. 淡褐色土 粘性強粒子が粗、炭化物を微量含む、柱穴、柱周囲の土
3. 淡黄褐色土 粘性大変強く粒子が細かい、地山粘土を入れる
4. 暗褐色土 粘性強粒子が粗い、炭化物多量に含む、98号住居跡の貼り床
5. 淡黒色土 炭化物多量含む、粒子が粗い、縄文式土器片多量に含む、土壇

第71号住居跡カマド土層説明

1. 褐色土 黄色粒子多量含む、締り良
2. 褐色土 黄色粒子多量含む、少量木炭有り、締り良
3. 橙色土 多量の焼土・焼土ブロック含む
4. 黄褐色土 黄色粒子多く含む、木炭・焼土少量含む
5. 黄灰色土 焼土・木炭・灰多く含む、締りなし
6. 褐色土 多量の黄色粒子・木炭・焼土少量含む
7. 黄色土 多量の黄色粒子・焼土・焼土ブロック含む、締り良
8. 黄色土 多量の黄色粒子・焼土・木炭少量含む

第67号住居跡カマド土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 粘性弱く粒子細かい
2. 赤褐色土 焼土層
3. 褐色土 粘性強く粒子粗い
4. 黄褐色土 粘性強く粒子細かい。炭化物、焼土多く含む
5. 暗灰褐色土 灰多量含む
6. 暗灰褐色土 粒子粗い。焼土粒子含む
7. 暗赤褐色土 焼土の砂質化
8. 黄褐色土 粘性強い。粒子粗い

第 309 図 第69・70・71号住居跡カマド・遺物出土状態

第67号住居跡

カマドは、長煙道である。残存状態が良く、煙道の天井部が良好に残っている。カマドに直接関係した土器は見られなかった。二点の土器に、被熱痕等の痕跡が残っていた。

319-10は、長胴の甕で底部付近が欠損している。外面の胴肩部には、帯状に被熱痕がみられ他にはない。内面には、胴中位にやはり粒状の付着物が確認されている。

319-9は、長胴の甕で胴下半が欠損している。外面には、口縁部の直下から残存部にかけて被熱痕が確認されている。内面には、口縁部から肩部にかけ粒状の付着物が確認されている。

第69号住居跡

カマドは、短煙道である。カマドに伴う土器は確認されていない。

第70号住居跡

カマドは、短煙道である。カマドに関係した土器は確認されていないが、被熱痕等の残る土器が確認されている。

321-11は、完形の長胴甕である。肩部以下に被熱痕が残っている。さらに底部付近には、被熱痕を覆うように、粘土・焼土の付着痕跡が確認されている。内面には、胴中位以下に粒状の付着物が、確認されている。

322-27は、長胴の甕で、胴部以下が欠損している。内面に、粒状の付着物を確認できる。

204-10は、覆土中から確認された第36号住居跡の遺物である。長胴の甕で、胴下半が欠損している。外面には、被熱痕が口縁部以下に確認され、内面には、やはり口縁部以下に粒状の付着物がみられる。

204-7は、やはり覆土中から確認された第36号住居跡の遺物である。小形の三角形の甕である。外面の口縁部以下に被熱痕を確認できる。内面にはこれらの痕跡はない。

323-25は、長胴の甕で、口縁部から肩部にかけてのみである。外面には被熱痕等は確認されていないが、内面に、口縁部直下から粒状の付着痕跡が確認されている。

321-12は、長胴甕の胴下半部である。外面には、底部を除き、胴部一面に、粘土・焼土の付着痕跡が確認されている。内面には、胴中位以下に、粒状の付着物が確認されている。

322-28は、底部の欠損した大形の鉢である。外面位は何等痕跡が確認されておらず、内面には、口唇部から残存部全体にかけて粒状の付着物が確認できる。

322-29は、長胴甕の底部である。外面に被熱痕が残り、内面に粒状の付着痕が残る。

第72号住居跡

カマドは、長煙道である。燃焼部には、何等カマドに伴う土器は確認されていない。カマドは煙道の天井部が良く残っていた。

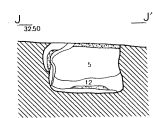
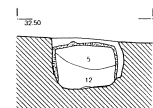
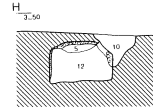
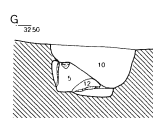
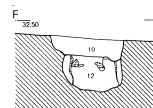
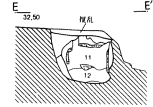
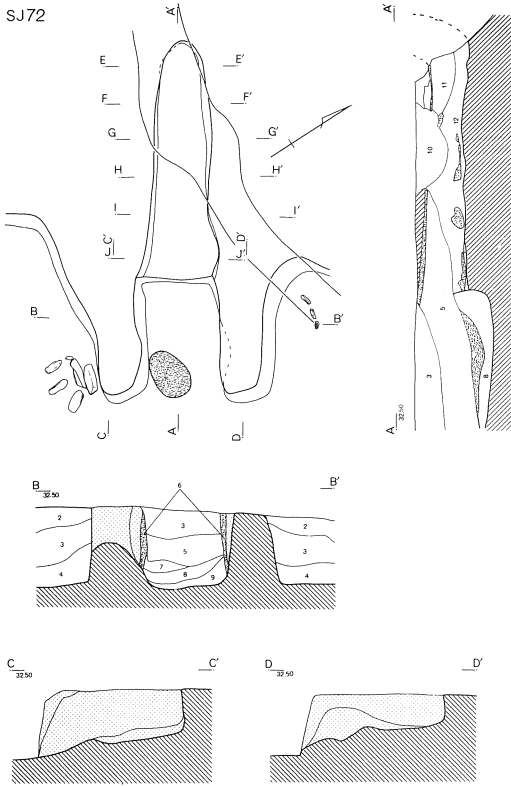
第74号住居跡

カマドは、長煙道である。カマド内からは、カマドに関係した土器は確認されていないが、被熱痕等の残る土器は2点確認されている。

324-23は、球胴の壺で、底部付近の外面に、被熱痕が確認される。内面にはなにも見られない。

325-5もやはり球胴の甕で、胴上半の外面肩部を中心に、帯状に焼土・粘土の付着を見る。内

SJ72

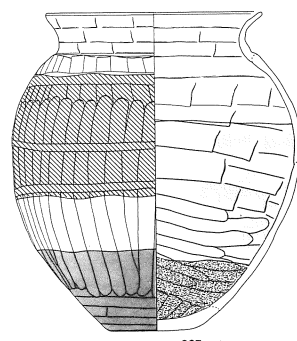
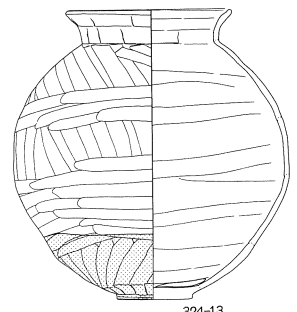
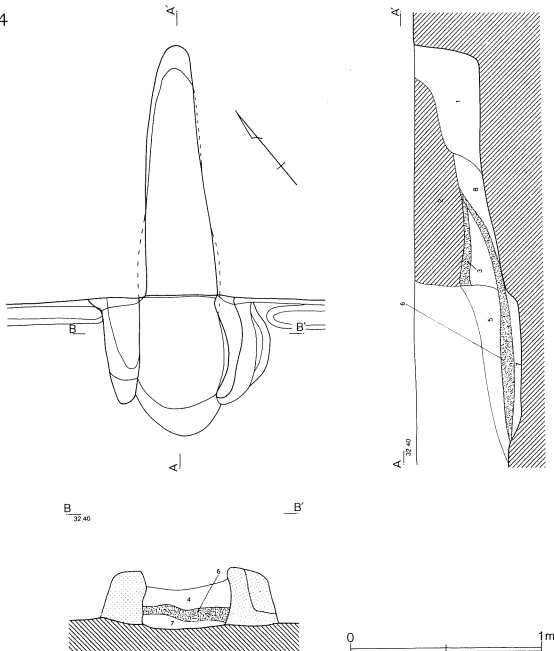


- 第69号住居跡カマド土層説明
1. 淡褐色土 粘性強粒子粗
 4. 赤褐色土 焼土ブロック、カマド天井部
 5. 灰褐色土 灰層、焼土・炭化物全く含まない粘性強
 6. 暗黒色土 炭化物層、水平堆積している、粘性強粒子が粗い
 7. 赤褐色土 下方に従い淡くなる、カマドの焼き口部の被熱部分
 8. 淡暗褐色土 粘性強粒子粗、土器片多量含む
 9. 淡褐色土 粘性強粒子粗

- 第72号住居跡カマド土層説明
1. 黄褐色土 粘性弱。粒子粗い。黒褐色ブロック多量含む
 2. 暗褐色土 粘性強。粒子粗い。焼土粒子、炭化物含む
 3. 淡暗褐色土 粘性強。粒子粗い。炭化物、焼土粒子多量含む
 4. 淡茶褐色土 粘性強。粒子粗い。軟質
 5. 黄褐色土 粘性強。カマド天井部
 6. 赤褐色土 粘性強。焼土ブロック
 7. 赤褐色土 焼土ブロック
 8. 暗黒褐色土 炭化物、灰層
 9. 暗黒褐色土 炭化物

- 第74号住居跡カマド土層説明
1. 鈍褐色土
 2. 暗灰黄色土 焼土、炭化物少量
 3. 暗灰黄色土 焼土多量含む
 4. 黄褐色土 粘土粒子多量含む
 5. 灰オリーブ色土
 6. 灰色土
 7. 黄褐色土 灰多量含む。上面焼土粒子多く含む

SJ74



第 310 図 第72・74号住居跡カマド・遺物出土状態

面には、底部よりに粒状の付着痕跡がある。

第77号住居跡

東辺と北辺にカマドが構築されていた。東辺が古く、このカマドを壊して周溝が巡り、焚き口の凹みには、貼り床がされている。出土した煮沸具は、北辺のカマドに伴うのであろう。両者とも長煙道のカマドである。覆土中から土製支脚が1点出土している。支脚は、中実である。上部は縦にヘラケズリされ、下部をヨコナデされている。

326—13は、長胴の甕で、内外面ともに被熱痕等は確認できなかった。

326—14は、長胴甕の口縁部である。肩部の一部が残存しており、この部分に被熱痕がみられる。内面にはこれらの痕跡は確認されていない。

第81号住居跡

覆土中から土製支脚が確認されている。中空の土製支脚で外面の全体がヘラケズリされ内面も削り取られている。

第82号住居跡

長煙道のカマドで煙道の天井部が明瞭に残っている。カマドの燃焼部の天井に横架材として長胴甕が使用されていた。

333—10は、長胴甕で外面の胴中位に粘土と焼土の付着痕跡が確認されている。内面にはこの痕跡はない。

333—8は、長胴甕で底部が欠損しており、胴上半から底部にかけて被熱痕が確認されている。内面にはみられない。

332—14は、長胴甕で胴部下位に帯状に被熱痕が確認されている。またこの位置と対応する内面には、筋状に粒状の付着痕跡が確認されている。

333—11は、長胴甕の口縁部である。胴部の一部が残り、この部分に被熱痕が確認されている。

第83号住居跡

長煙道のカマドと思われる。右袖に接して甕が倒れた状態で出土している。土製支脚が、1点出土している。指押え成形された中実の土製支脚で、下部が欠損している。

334—19は、長胴の甕で外面の肩部以下に被熱痕がみられる。内面には、胴下半に粒状の付着物が認められる。口縁部にはこれらは全く認められない。

334—18は、長胴の甕で外面の肩部に、粘土と焼土の付着が認められる。また底部付近には、被熱痕がみられる。内面には、胴中位以下に粒状の付着物が認められる。

第87号住居跡

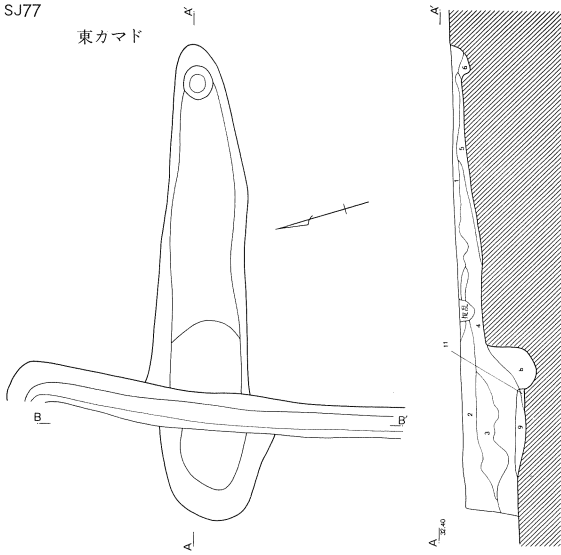
長煙道の保存状態のやや悪いカマドである。カマドに関係した遺物等は確認されていない。

第88号住居跡

長煙道の保存状態の良いカマドである。カマドに関係した土器は確認されていないが、土製支脚が1点確認されている。脚部の途中まで中空とした支脚で、裾部が滑らかに広がる。外面はヘラケズリがされ、裾部のみヨコナデされている。

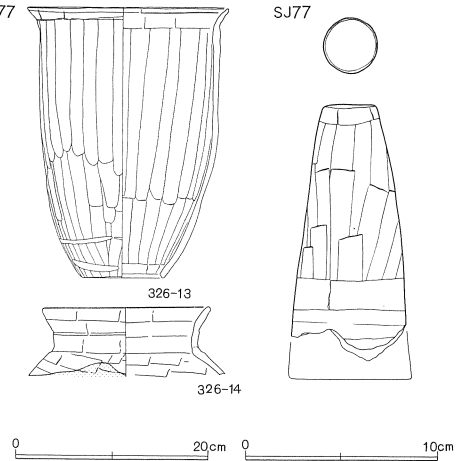
SJ77

東カマド



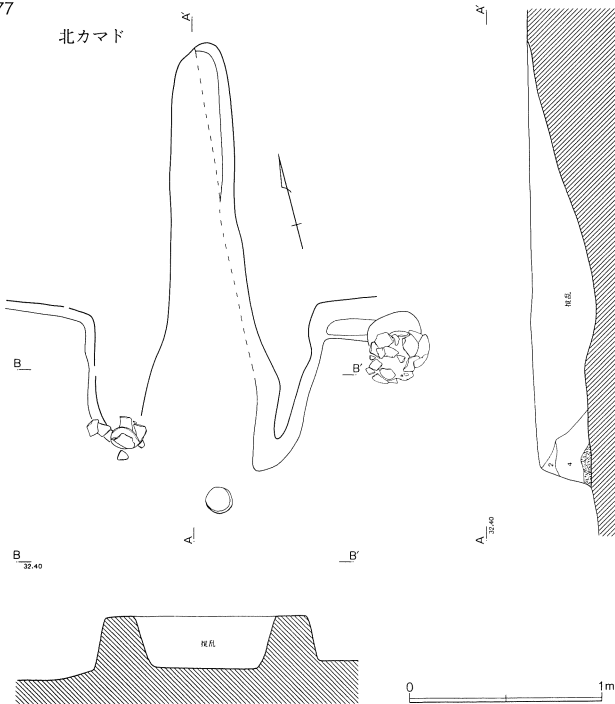
SJ77

SJ77



SJ77

北カマド



第77号住居跡カマド土層説明

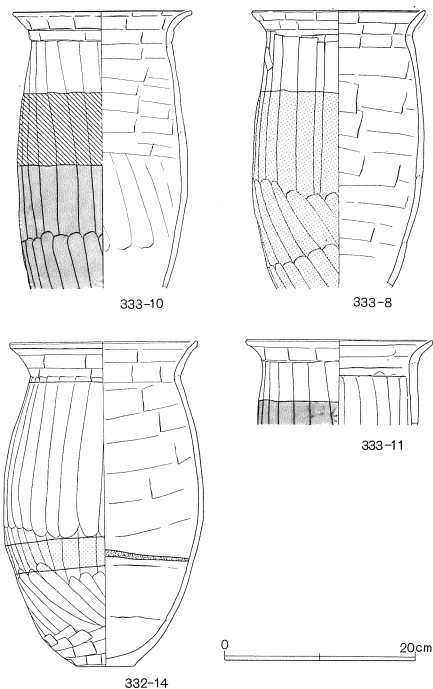
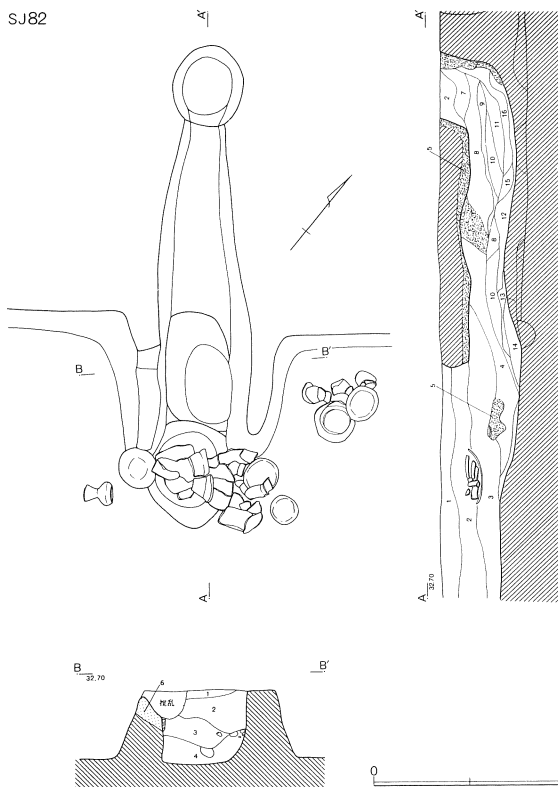
1. 暗灰色土 炭化物粒子、焼土粒子多量含む。粘性弱。縮り良好
2. 暗黄灰色土 焼土粒子多量含む。粘性強。縮り良好
3. 暗灰褐色土 焼土粒子少量含む。粘性強。縮り良好
4. 灰褐色土 炭化物粒子含む。粘性強。縮り良好
5. 暗黄褐色土 炭化物粒子少量含む
6. 暗茶褐色土 炭化物粒子多量含む
7. 暗黄褐色土 焼土粒子微量含む。粘性強。縮り良好
8. 暗茶褐色土 焼土ブロック少量含む。粘性強。縮り良好
9. 暗灰色土 焼土粒子、炭化物微粒子少量含む。粘性強。縮り良好
11. 淡灰褐色土 炭化物粒子含む。粘性強。縮り良好

第82号住居跡カマド土層説明

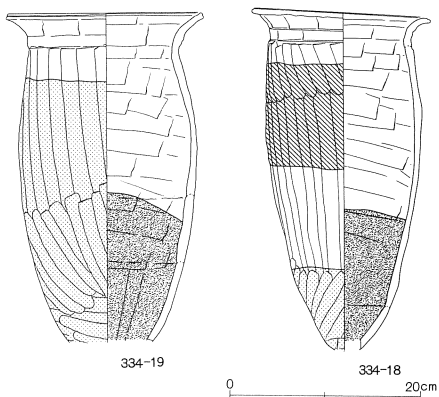
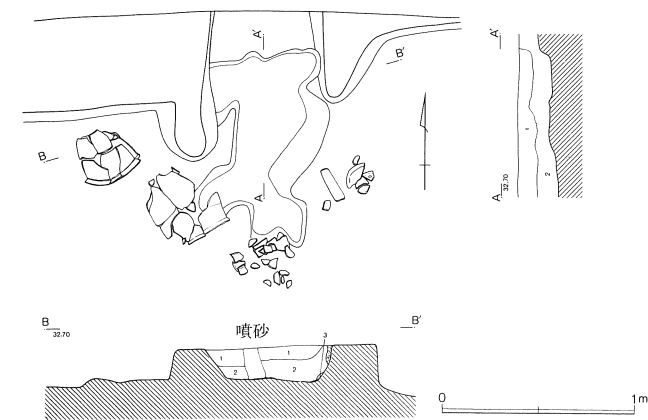
3. 鈍褐色土 砂質土、粘性灰褐色土混合。焼土、灰多量含む。縮り良好
4. 褐色土 灰褐色粘土主体、3層との混合。焼土、灰多量含む
5. 明赤褐色土 焼土主体ブロック
6. 灰褐色土 白色微粒子、焼土多量含む。縮り良好
7. 茶褐色土 煙道埋時上部落下流入土
8. 明茶褐色土 7層主体焼土ブロック混入
9. 灰色土
10. 暗茶色土 炭化物多量含む。縮り悪し。粘性強
11. 暗茶色土
12. 灰色土 炭化物多量含む
13. 暗茶色土
14. 黄茶色土
15. 暗茶褐色土 灰、炭化物多量混入
16. 暗茶褐色土 灰、炭化物多量混入

第311図 第77号住居跡カマド・遺物出土状態

SJ82

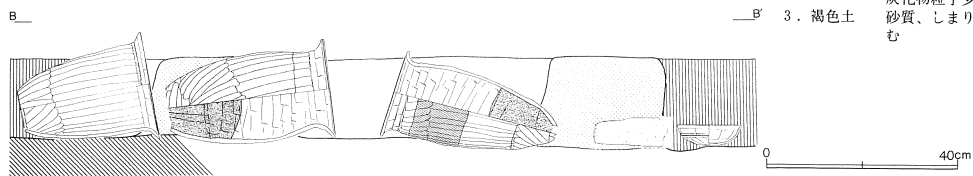


SJ83

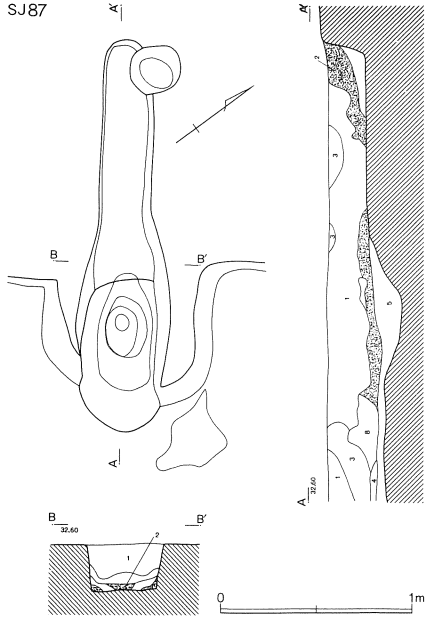


第83号住居跡カマド土層説明

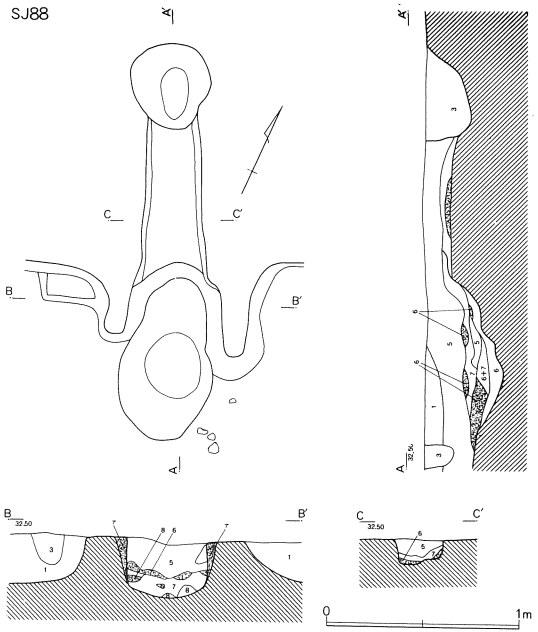
- 1. 黒褐色土 しまり強、粘性やや強、焼土塊・炭化物粒子少量含む
- 2. 褐灰色土 しまり強、粘性やや強、焼土粒子炭化物粒子少量含む
- 3. 褐色土 砂質、しまり強、焼土粒子少量含む



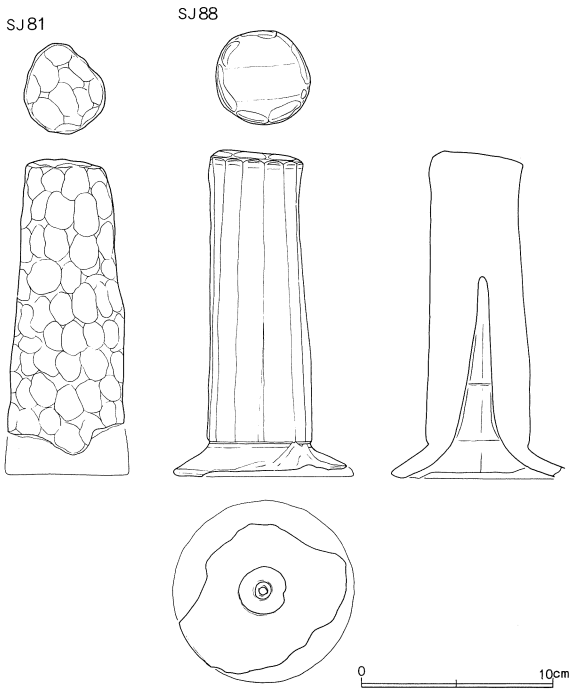
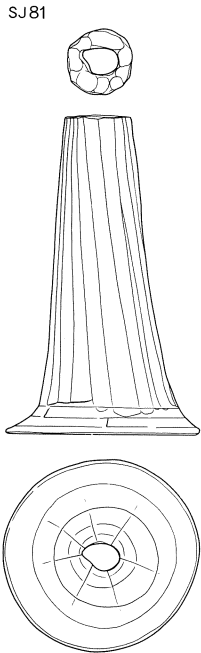
第 312 図 第82・83号住居跡カマド・遺物出土状態



- 第87号住居跡土層説明
1. 灰オリーブ粘質土 締り、粘性強。酸化鉄含む。焼土塊少量含む
 2. 灰オリーブ粘質土 締り、粘性強。酸化鉄含む。焼土粒子少量含む
 3. 黄色土 締り、粘性強。酸化鉄含む。
 4. 黄灰色土 締り、粘性強。酸化鉄少量含む。炭化物少量含む
 5. 暗オリーブ褐色土 締り、粘性強。酸化鉄、灰を少量含む
 6. 灰色土 締り、粘性強。酸化鉄含む。焼土塊少量含む



- 第88号住居跡土層説明
1. 黒褐色土 鉄分多量混入。黄褐色地山ブロック状混入
 2. 黒褐色土 粘性強。基本的には1層と同一
 3. 黒褐色土 焼土ブロック、炭化木混入
 4. 黒褐色土 焼土ブロック、炭化木少量混入
 5. 純黄褐色土 焼土粒子微量含む
 6. 暗赤褐色土 焼土ほぼ純層。炭化木粒子微量混入
 7. 褐灰色土 炭化木灰ほぼ純層。焼土ブロック微量混入



第 313 図 第87・88号住居跡カマド・遺物出土状態

(5) 遺物各説 一古墳時代第Ⅴ期の出土土師器分類一

古墳時代第Ⅴ期の出土土師器は、30種の器種を見ることができる。

1 坏埴類 食膳具の坏埴類には、8つの器種がある。

須恵器模倣坏蓋5（蓋坏5） 須恵器の蓋付坏の蓋を模倣した土師器の坏の系譜を引く坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK43～TK209にかけての須恵器と併行すると思われる。須恵器坏蓋Aの形態を模倣した土師器坏が、独自の型的発展を遂げたと思われる。成形の過程は、やはり前段階と同様だが、底部のヘラケズリの技法が定形化している。まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデしている。口縁部の折り曲げが緩くなり、外稜は不明瞭化してくる。内面のS字状の戻りは鈍くなる。口唇部は丸い。工具による押えは緩くなる。口唇部は丸みを持ってくる。第Ⅳ期よりも扁平化し小型化する。やはり普通製品のみになり、大形製品は、他の器種と交換する。

須恵器模倣坏身5（身坏5） 須恵器の蓋付坏の身を模倣した土師器の坏である。田辺編年陶邑古窯跡群TK43～TK209の須恵器坏身に、形態は近似している。前段階同様、須恵器模倣坏蓋5とセットとなるのではなく、有段口縁坏A2とセットになるとと思われる。成形技法は、前段階同様、底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって行なう。口縁部を断続ヨコナデし、底部を細かく削って仕上げる。口縁部は、内側に傾斜しつつ立ち上がり、S字状に粘土を折り曲げて作り出す。口縁部の返りが短くなる。底部は分厚く、全体の作りが雑になる。須恵器の変化に連動し、小形化の傾向がたどれる。

小針型坏2（小坏2） 小針型坏の系譜を引き、さらに形骸化した製品である。口径が大きく、さらに強く外反していることを特徴とする。本来は、白色の土器である。口唇部の内側に存在していた沈線は、ほとんど形骸化し、僅かに口唇部が内側に屈曲する程度となってしまう。成形技法は須恵器蓋付坏の蓋模倣坏とほぼ同様。底部のヘラケズリの技法が定形化している。まず底部内面を円形にヘラオサエを行ない、外面を指押えによって成形する。口縁部を断続ヨコナデしている。口縁部の折り曲げが緩くなり、外稜は不明瞭。内面のS字状の戻りは緩くなる。工具による押えは緩くなる。大形製品である。

有段口縁坏A2（有坏A2） 須恵器の蓋付坏の蓋の模倣の一形態と考えられる。田辺編年陶邑古窯跡群TK43～TK209に併行する段階。口縁部を3段以上の多段で構成するこのA類は、この段階には僅かに生産されるが、これをもって消滅する。細かな断続ヨコナデが確認され、口縁部は外反しつつ直に立ち上がる。おそらく須恵器蓋付坏の蓋の形態を踏襲するためであろう。底部は、ヘラケズリのあとの細かなヘラミガキは施されなくなる。底部は概して扁平である。内面には、ていねいな断続ヨコナデが施されている。口唇部は丸く作られる。ただし内面に沈線状のへこみが生ずるときがままある。大形製品で、中には黒色処理される製品もある。

有段口縁坏B2（有坏B2） 須恵器の蓋付坏の蓋の模倣の一形態と考えられる。田辺編年陶邑古窯跡群TK209に併行する段階から出現する。口縁部は、1段以上はない。この段階の普遍的な模倣坏の形態である。口縁部が有段であることは、口縁部の成形手法にかかわる問題である。口縁部

には、細かな断続ヨコナデが認められ、やや外反気味に立ち上がる。底部は、ヘラケズリ技法が発達している。底部はやや扁平だが、有段口縁であるために器高は高い。口唇部には内側に、沈線状の凹みが存在する。法量からみると普通製品である。黒色処理される製品もある。

有段口縁杯C 1（有杯C 1） 須恵器の蓋付杯の蓋の模倣の一形態と考えられる。田辺編年陶邑古窯跡群TK209に併行する段階から出現する。口縁部は、複数の段から構成される。新しくこの段階に出現した食膳具である。口縁部は、細かな断続ヨコナデによって複数の段が作られ、大きく外に開く器形である。底部は口径に比べ大変小さく、底部ヘラケズリ技法によって作られている。底部は扁平で、口縁部が大きく開くために器高は低い。口唇部の内側には、沈線状の凹みがある。法量からみると小形製品である。黒色処理される。

内斜口縁杯4（内杯4） 内斜口縁杯の系譜を引くと思われる末期的な形態の杯類である。口縁部が緩くS字状に外反しており、外面の成形は小形杯と同様である。内外面ともに断続ヨコナデが施されている。

碗4（碗4） 口縁部が素口縁の杯を一括している。底部内面には断続ヨコナデが施され、外面は細かくヘラケズリされている。口縁部はヨコナデがみられる。大振りの碗型の器形である。

2 高杯・器台類 食膳具の高杯・器台類には、4つの器種がある。

須恵器長脚高杯模倣高杯3（長高3） 須恵器の長脚高杯を模倣した形態。細長く高く作られた脚部に、大きく開く杯部が接合する形態。脚部と杯部の接合部は、ソケット状に挟み込まれている。脚部の先頭は、大きく開かれ、絞り込みは少ない。外面を縦にヘラケズリされ、接合部のみヨコナデされている。裾部は、断続ヨコナデされている。脚部は極端に長く、脚の付け根は、さらに空間が広い。杯部は、ていねいに作られ、断続ヨコナデが明瞭である。

須恵器模倣高杯（須高） 須恵器の模倣高杯の系譜を引くものであるが、脚部のみが確認されているに過ぎない。裾の広がりには大きくない。断続ヨコナデが施されている。

有段口縁高杯1（有高1） 口縁部が有段口縁となる高杯で、裾部も同様に有段化されている。器高は低く、脚部は縦にヘラケズリを行ない、裾部や口縁部など断続ヨコナデが行なわれている。脚部の作りはていねいである。田辺編年陶邑古窯跡群TK209前後に新たに出現する小形高杯と関係するのであろうか。

器台3（器台3） 前段階以前の器台の系譜を引くか不明である。口縁部がていねいにヨコナデされ、底部近くは断続ヨコナデされている。大形で厚手の土器である。

3 小形製品 小形製品は、機能毎に柱を立てるべきだが一括した。9の器種を設定した。

長頸壺3（長壺3） 須恵器の長頸壺をまったく模倣したもの。口縁部の沈線や、プロポーションなど驚くほど一致している。胴部はさらに扁平化が進み、広口の口縁部が付く。口縁部は、断続ヨコナデによって有段口縁化されている。胴部は、細かな横方向のヘラケズリによって成形されている。

ミニチュア土器（模甕・模壺・模韓式甕） 甕・短頸壺・韓式甕のそれぞれの模倣形態であり、共通して口縁部に対になる穿孔がされている。きわめて忠実に本来の器種をミニチュア化しており、外面のヘラケズリやヨコナデなどていねいである。形式的な変化はこの遺跡内では認められず、単

発的な資料である。

鉢B類5（鉢B5） 大形の鉢形土器である。成形方法等は、口縁部は内側に屈曲し、口唇部で再び外側に屈曲する。断続ヨコナデによってていねいに作られている。底部も細かくヘラケズリされ、内面はヨコナデされている。深めの碗形となっている。

鉢F類2（鉢F2） 小形の鉢形土器。口縁部は内湾し、複数の段によって構成されている。外面は細かくヘラケズリされ、内面は周到にヨコナデされている。

鉢K類（鉢K） 大形の鉢形土器。深い碗形の器形で、口縁部は、二段の口縁部である。横方向に細かく断続ヨコナデされている。底部は、細かなヘラケズリで調整される。被熱痕の残る土器が多く、あるいは、煮沸用の土器であろうか。内外面に黒色処理をされる場合がある。第IV期に比べ、小形化している。

小形壺5（小壺5） 粘土を輪積みし、内面を指あるいはヘラによる押し当てで成形する。外面は、胴部を横方向のヘラケズリを行ない調整する。口縁部は断続ヨコナデによって作られている。口縁は、球胴の胴部から強く屈曲して作られている。口縁部は胴部から大きく開いている。口唇部内側が、僅かに屈曲する。口縁部は有段口縁化し、大きく広がる。

小形鉢（小鉢） 指押えによって作られた小形の鉢である。

4 甑 甑の土師器全体に占める割合は、多くない。しかし4つの器種の設定が可能である。

三角甑5（三角甑5） 三角バケツに形態が近似する三角甑は、胴上半部しか確認されていない。しかし扁平化がさらに進んでいると思われる。小形甑形甑との境がなくなる。口縁部はていねいにヨコナデされ、緩く屈曲している。内面は、ヘラオサエによって成形されている。

大形甑形甑4（甑形甑4） 頸部のあまり締まらない、ずん胴の大形の甑形土器である。底部が欠損しているため、あるいは甑の可能性もある。口縁部は、くの字に屈曲している。外面は、縦にヘラケズリされ、口縁部直下を横方向にヘラケズリされる。口縁部は断続的にヨコナデされている。内面は、横にヘラオサエされている。

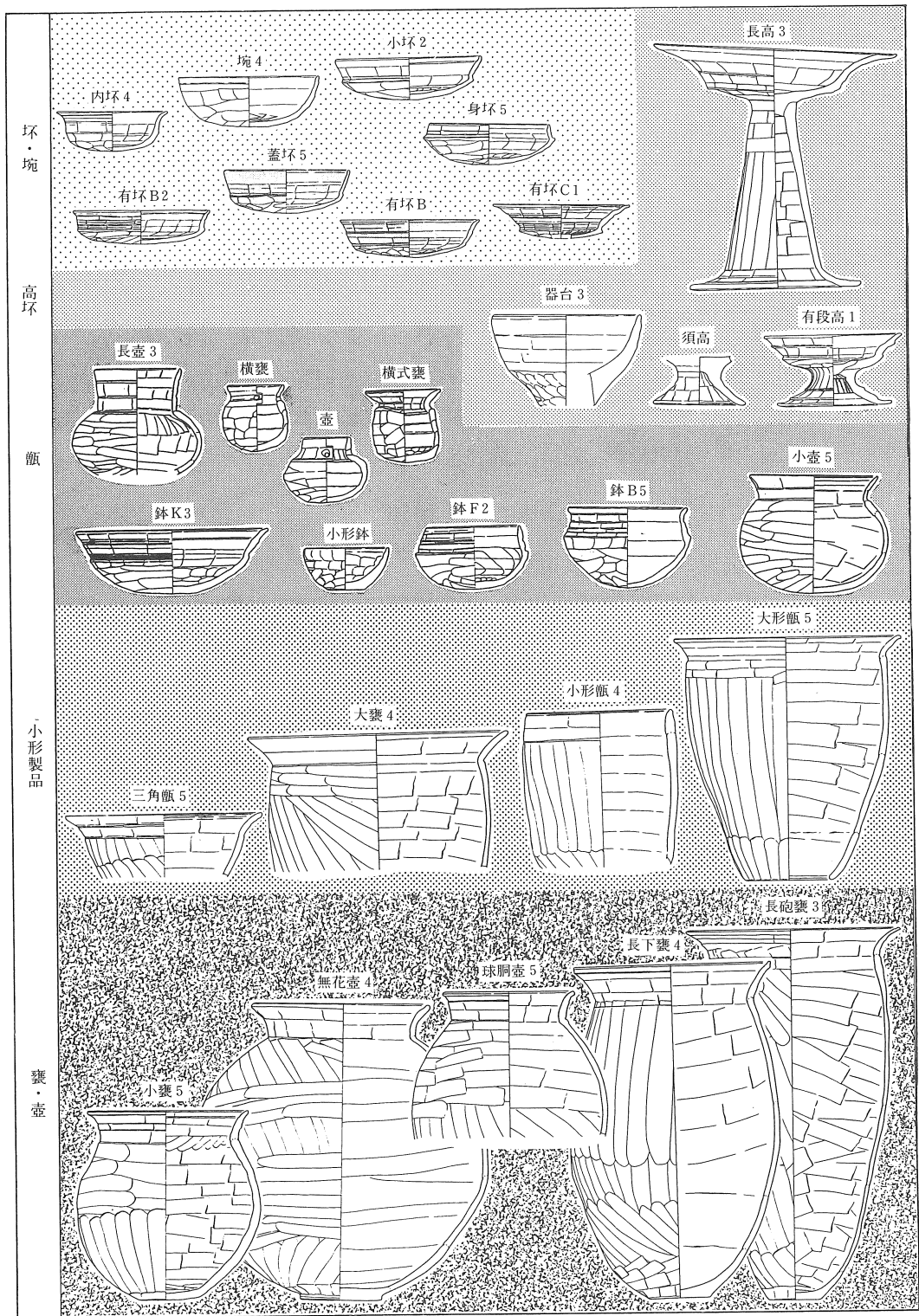
大形甑5（大形甑5） 大形の筒抜けの甑である。形状は、三角甑の大型化したもの。一直線に口縁部に達する。口縁部では短く、なだらかに屈曲し外反する。内面は、底部から1/3のところまでしかヘラオサエされていない。前段階よりもやや小形化する。

小形甑（小形甑） 底部は欠損しているが、小形の筒抜けの甑とおもわれる。口縁部は、胴部から一直線に作られ変化がない。口縁部は断続ヨコナデされている。外面は、縦に細かなヘラケズリ。内面は、ヘラオサエされている。

5 甕・壺 甕・壺は、煮沸・貯蔵用として多く生産される。5つの器種の設定が可能である。

球胴壺5（球胴壺5） 胴下半が、欠損しており形状はやや不明瞭だが、球胴の壺と考えられる。口縁部は素口縁で、口唇部で外反する。胴下半は、縦にヘラケズリされ、胴上半は、横にヘラケズリされている。内面はヘラオサエされ、口縁部はヨコナデされている。

無花果壺4（無花壺4） 口径の大きな大形の壺である。胴部の全面をヘラケズリされている。口縁部は緩く断続ヨコナデされている。内面は、ヘラオサエされており、口縁部はヨコナデである。球胴の大形の壺である。



第 314 図 古墳時代第V期の出土土器分類

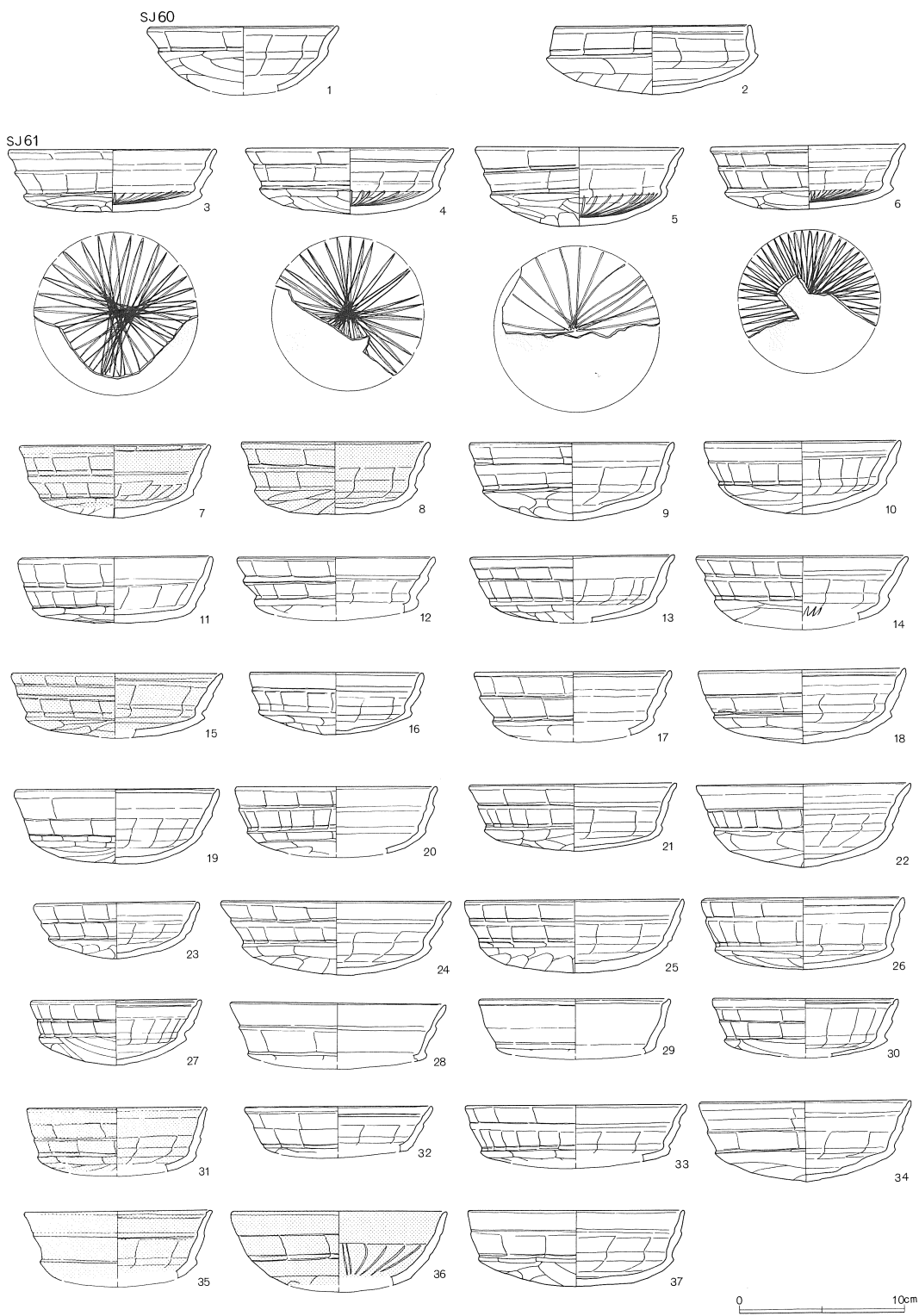
下膨長胴甕4（長下甕4） 長胴でしかも最大径が、胴下半にある下膨れの甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをし、胴下半をさらにヘラケズリしている。口縁部が、くの字に近く屈曲し断続ヨコナデを施している。内面は、ヘラオサエのあと、ヨコナデが施されている。胴部最大径が、上昇しつつある。

砲弾形長胴甕3（長砲甕3） 長胴でしかも最大径が、胴上半肩部にある甕を一括する。外面は縦にヘラケズリをし、底部付近を斜め横に削っている。肩部が斜め縦にヘラケズリされるのが特徴である。口縁部の開きがさらに広くなり、器高も高くなる。

小形甕5（小甕5） 口縁部は大きく開き、長胴甕の1/2の高さで作られている。胴部は、上半が横方向にヘラケズリされ、胴下半が縦にヘラケズリされている。

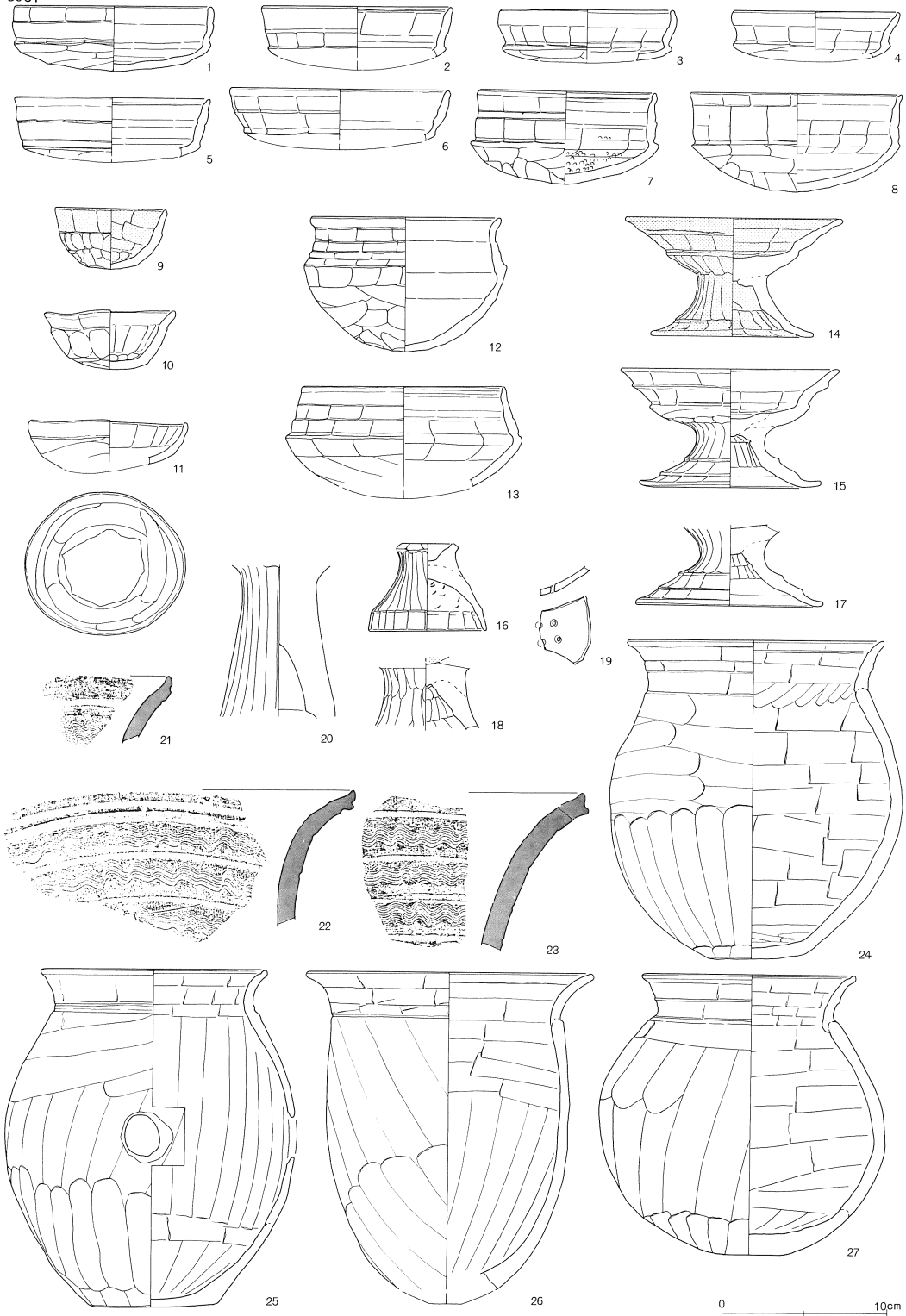
古墳時代第V期として分類した土師器は、有段口縁坏が、より一般化し、在地の土器生産の主流を占める段階である。集落は、その規模も2倍程度に拡大し、飛躍的な発展のあったことを窺うことができる。とくに次の第VI期へと続く、安定的な発展の背景には、首長層内部の抗争はともかく在地の諸生産が、うまく軌道に乗ったことを意味していよう。





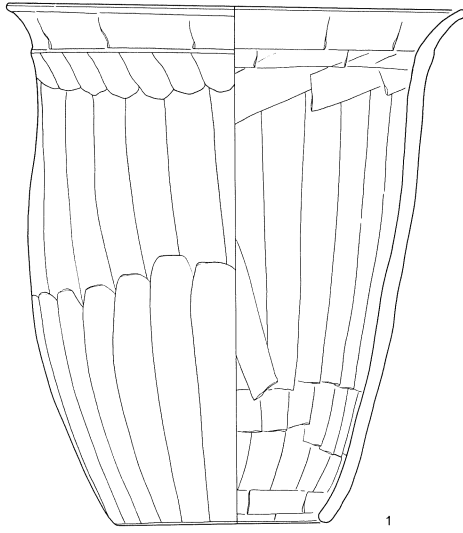
第 315 图 第 60·61(1)号住居跡出土遺物

SJ61

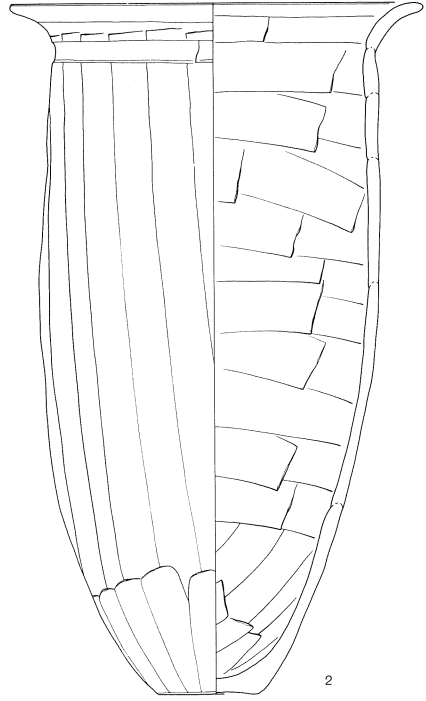


第 316 图 第61(2)号住居跡出土遺物

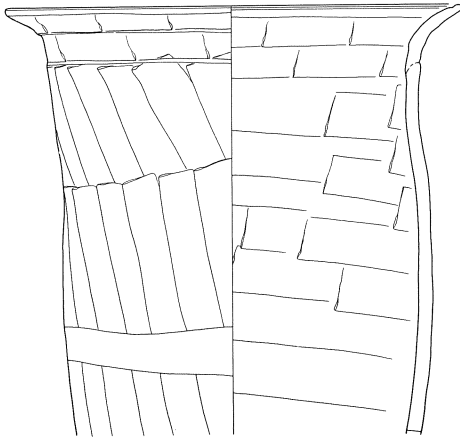
SJ61



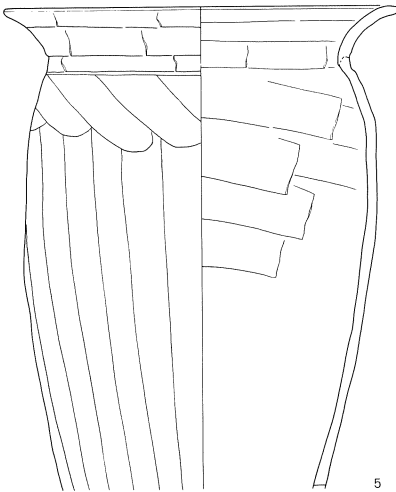
1



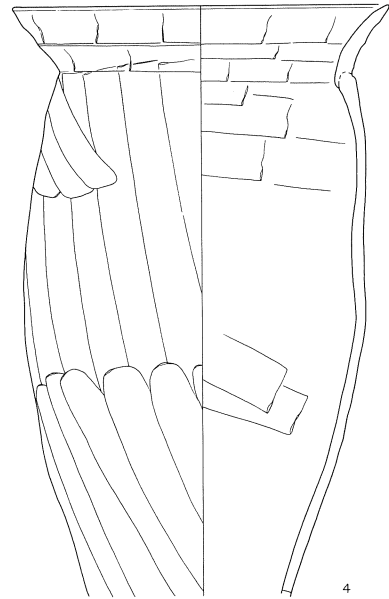
2



3



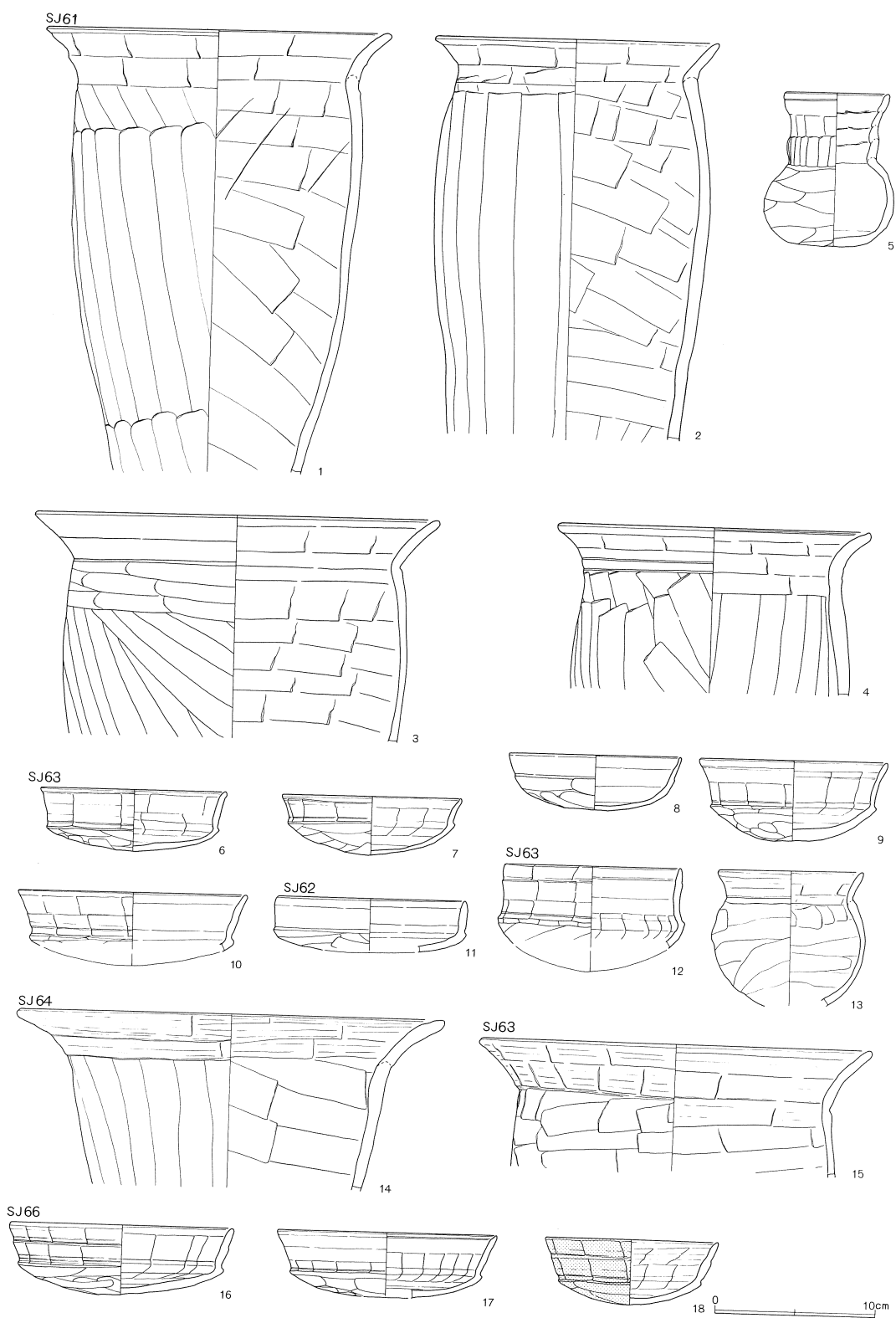
5



4

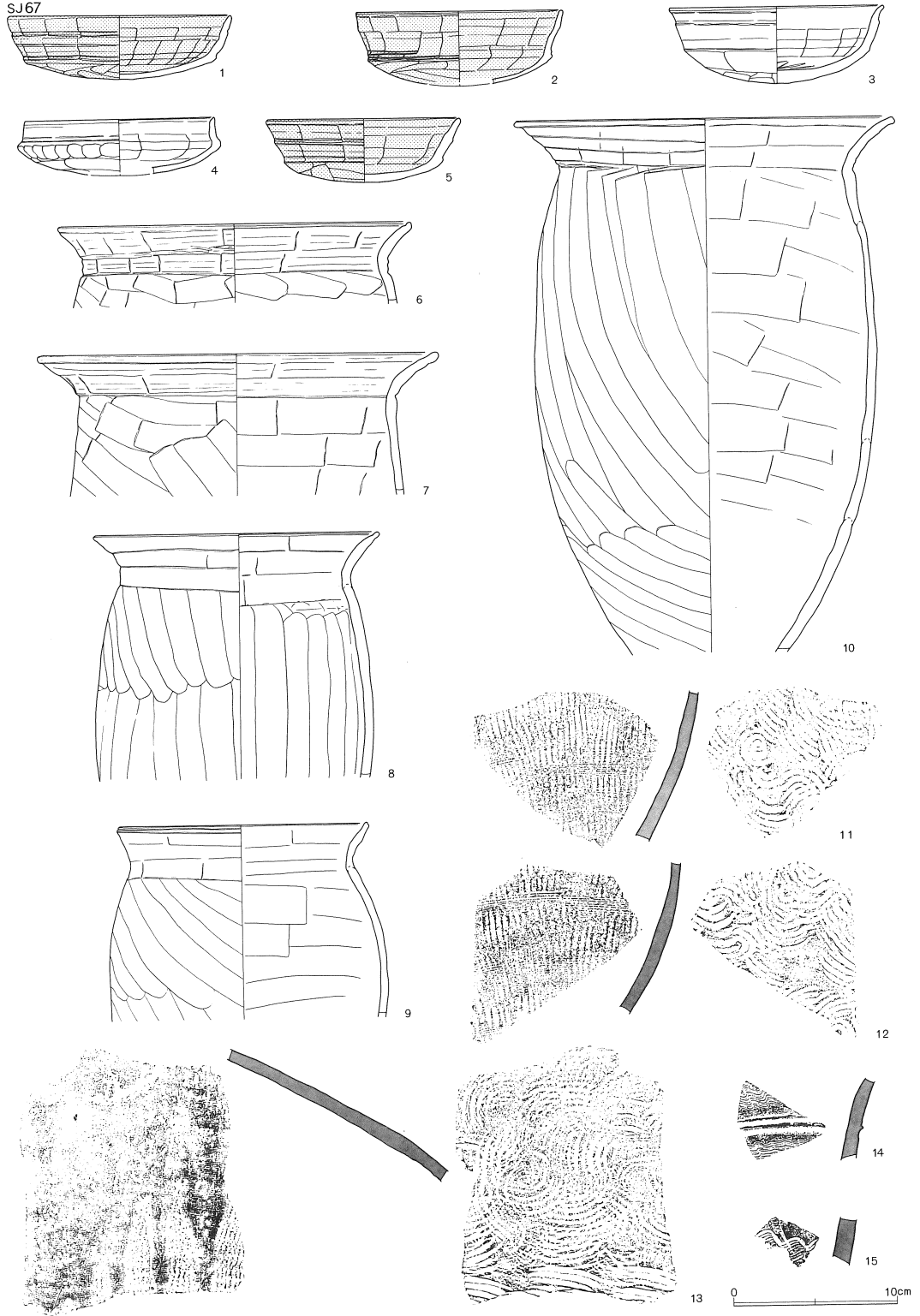


第 317 图 第61(3)号住居跡出土遺物



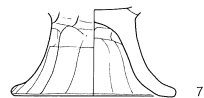
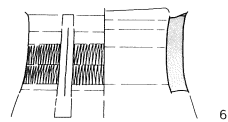
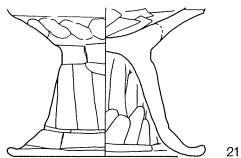
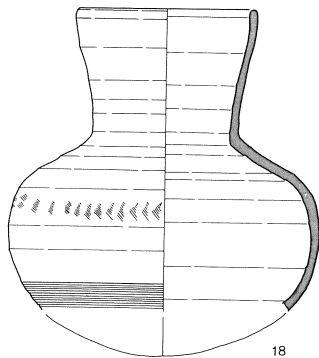
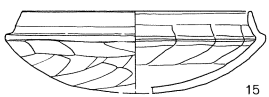
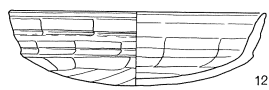
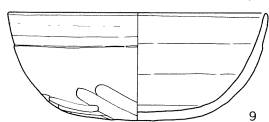
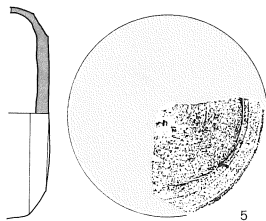
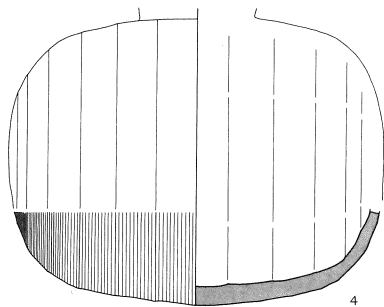
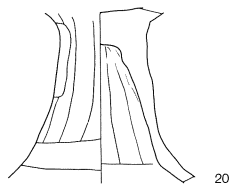
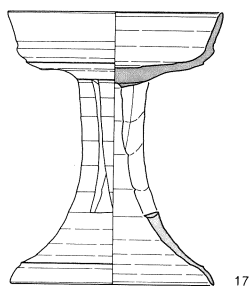
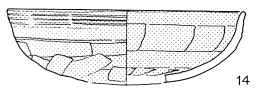
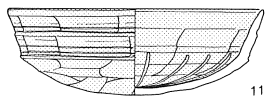
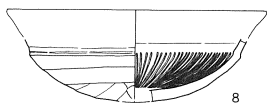
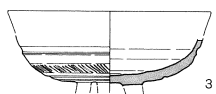
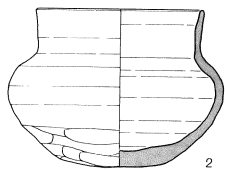
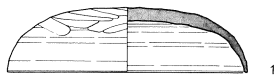
第 318 图 第61(4)·62·63·64·66号住居跡出土遺物

SJ67

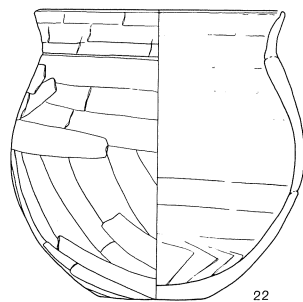
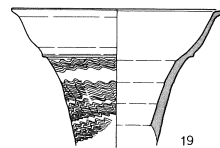
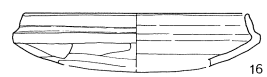
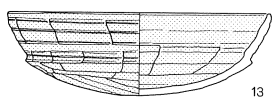
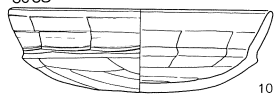


第 319 图 第67(1)号住居跡出土遺物

SJ67



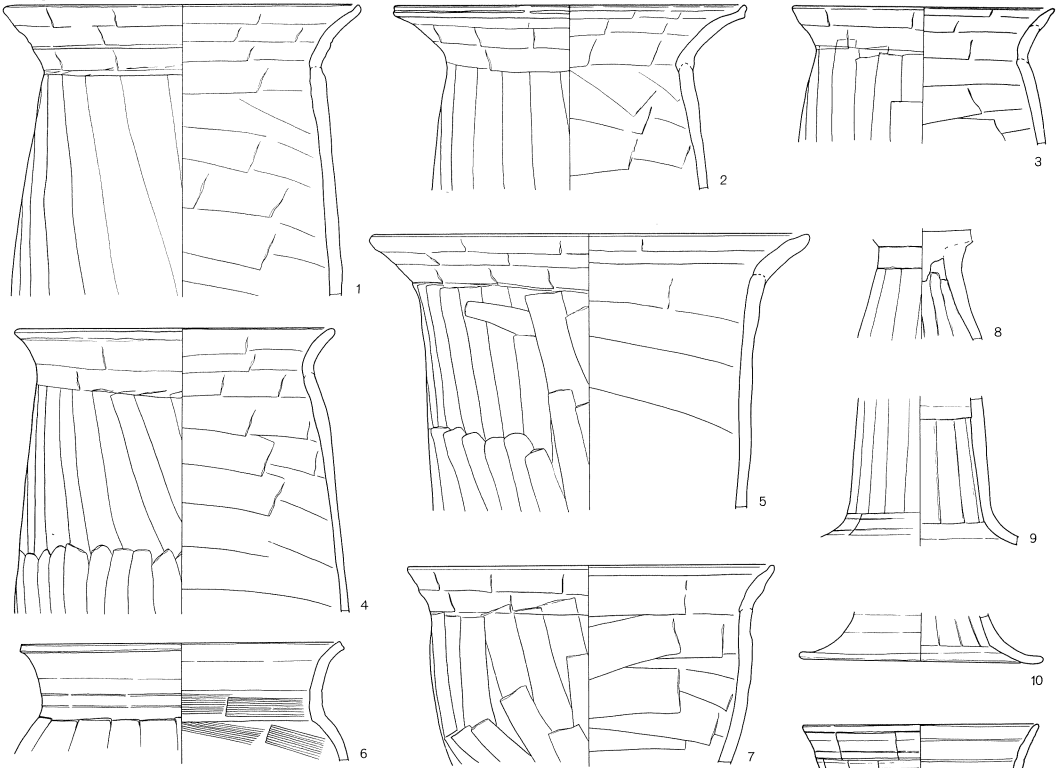
SJ68



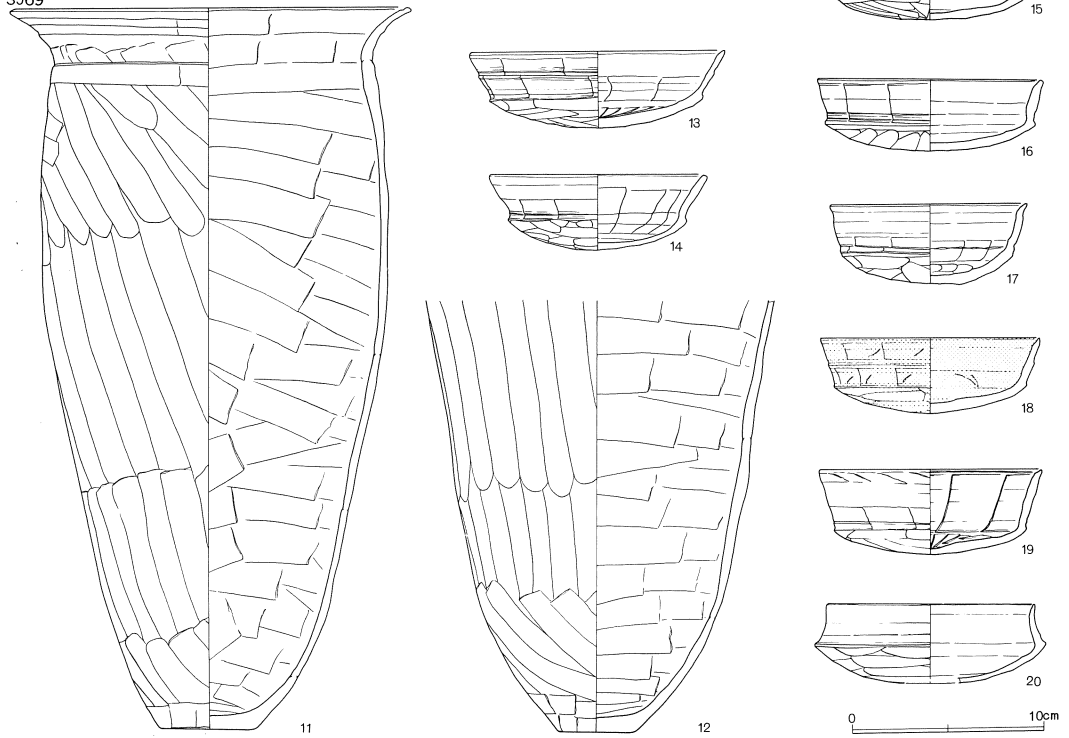
0 10cm

第320图 第67(2)・68(1)号住居跡出土遺物

SJ68

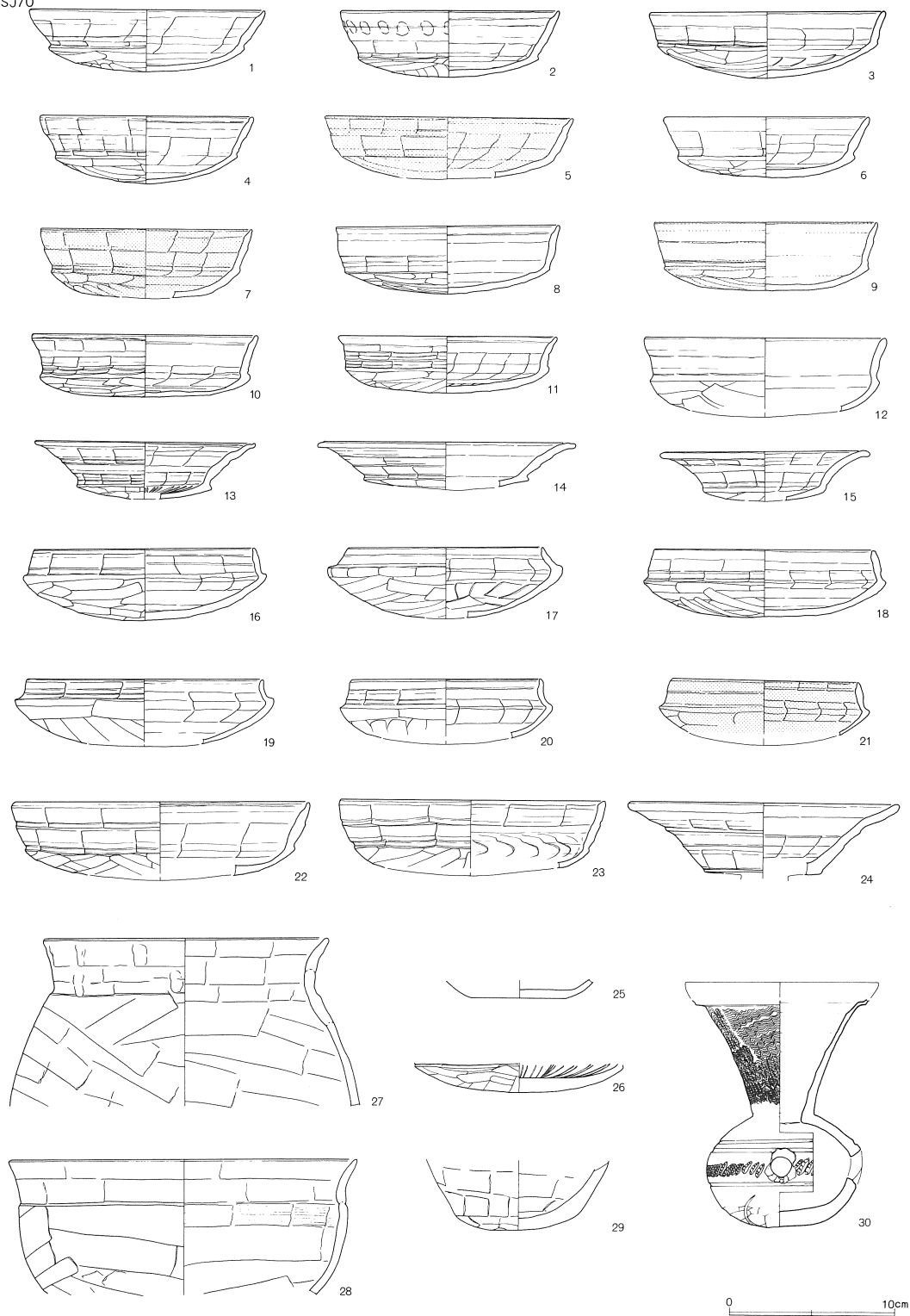


SJ69

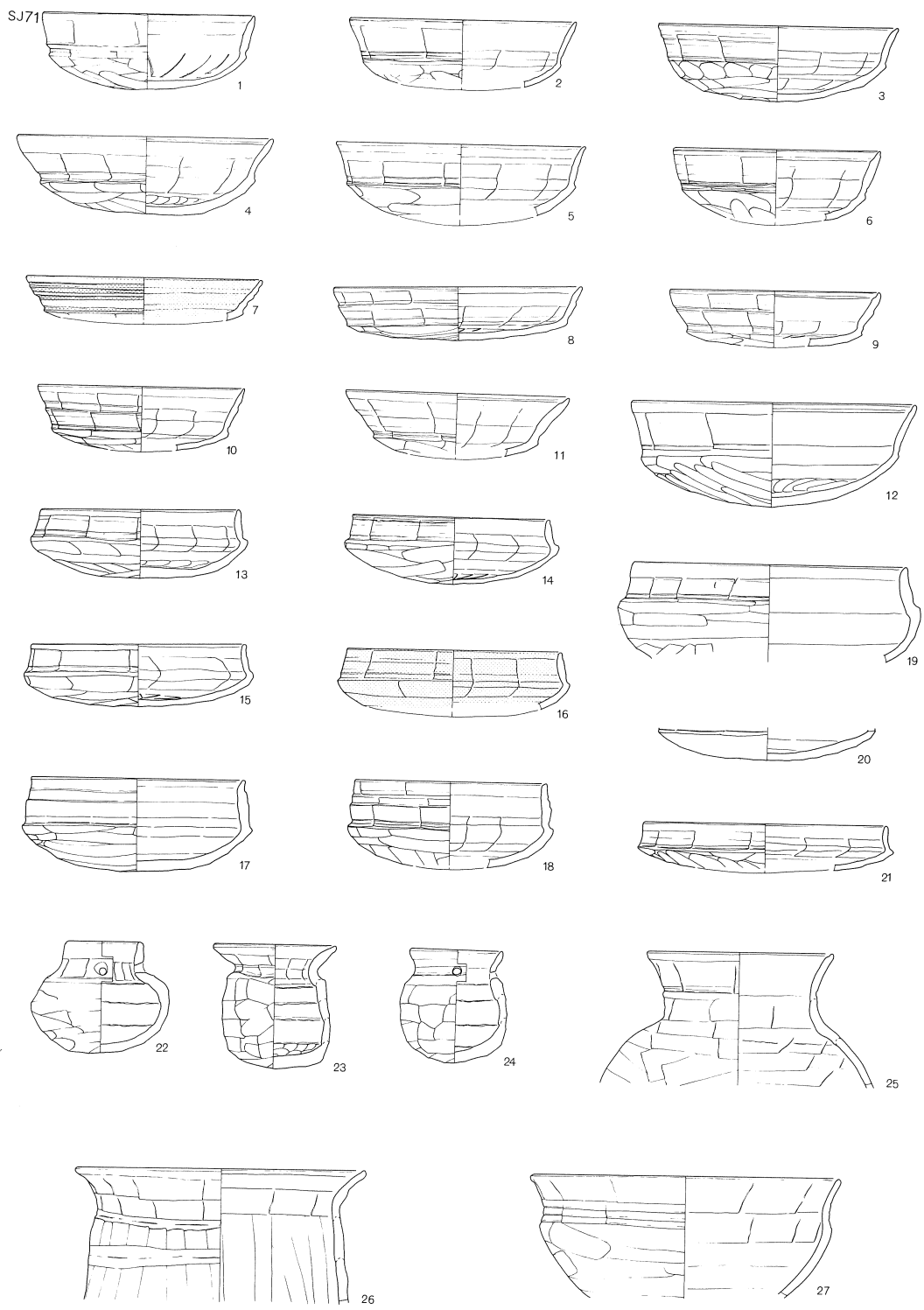


第 321 图 第68(2)·69号住居跡出土遺物

SJ70

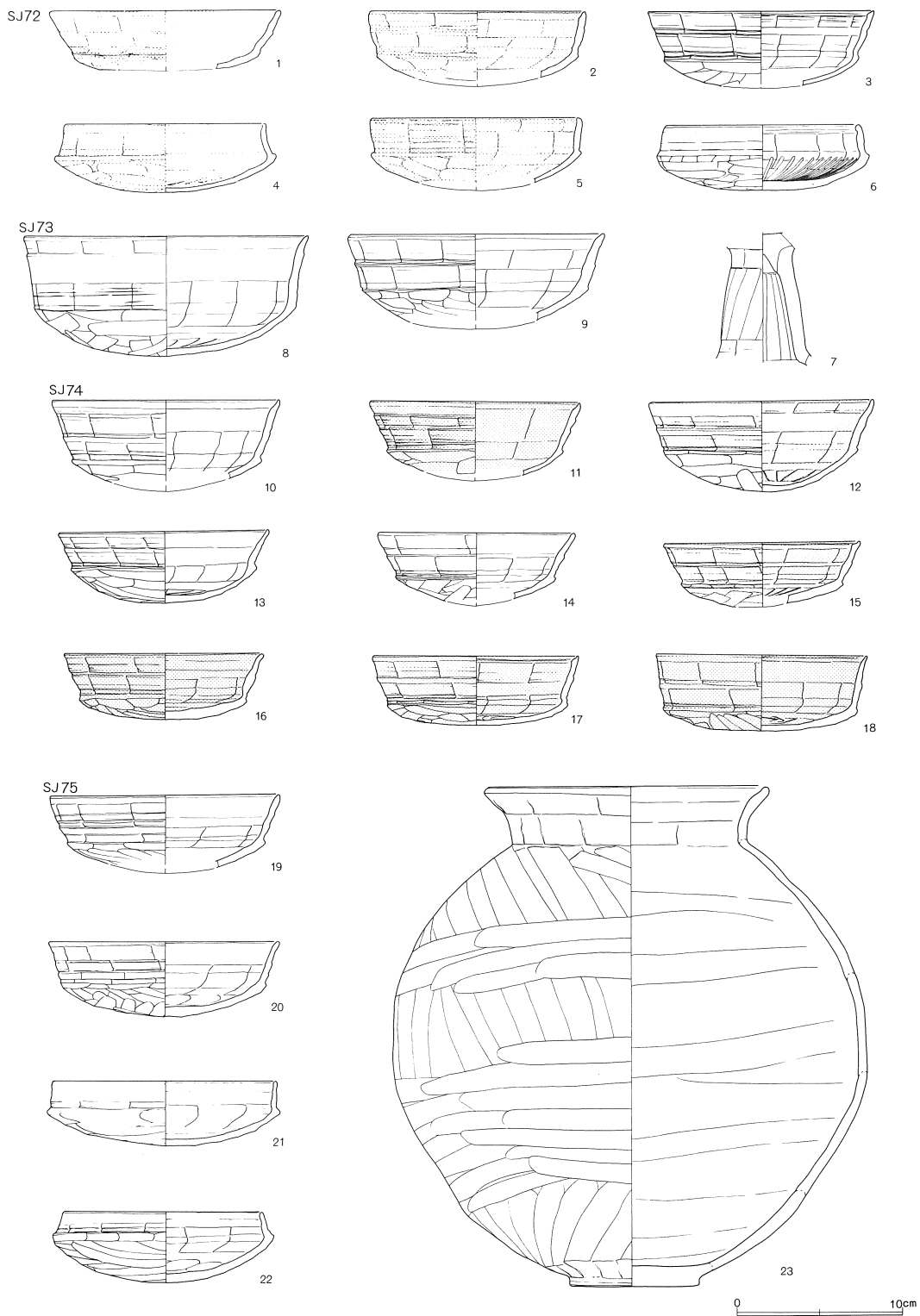


第 322 图 第70号住居迹出土遺物



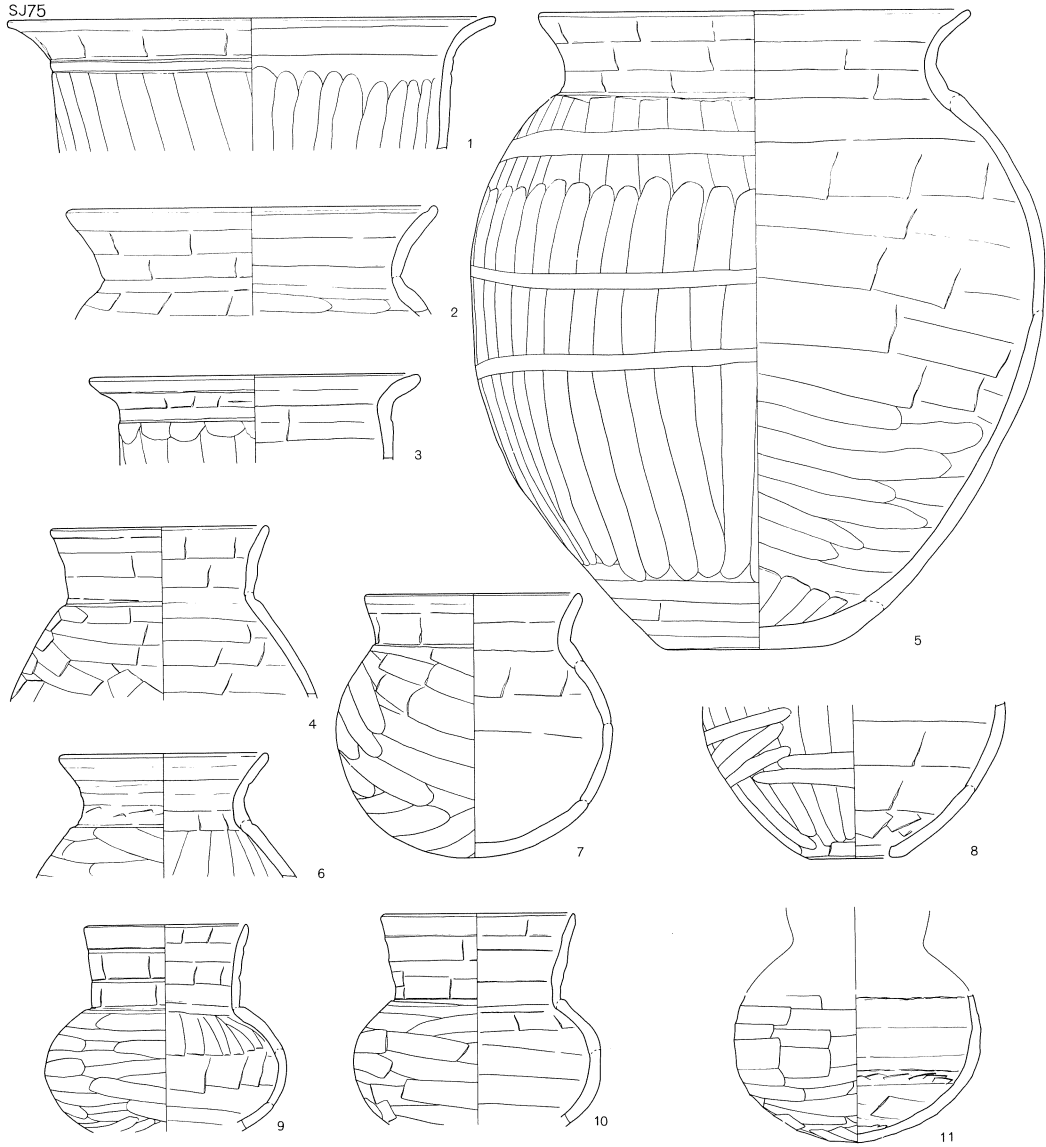
SJ71

第323图 第71号住居跡出土遺物

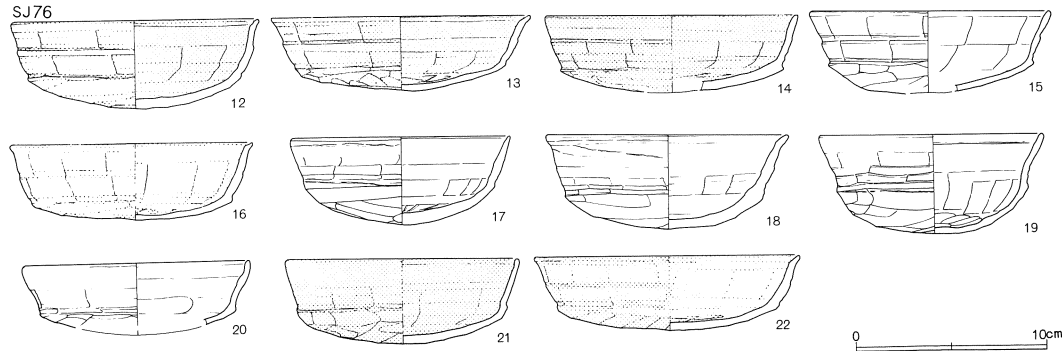


第 324 图 第 72·73·74·75(1)号住居跡出土遺物

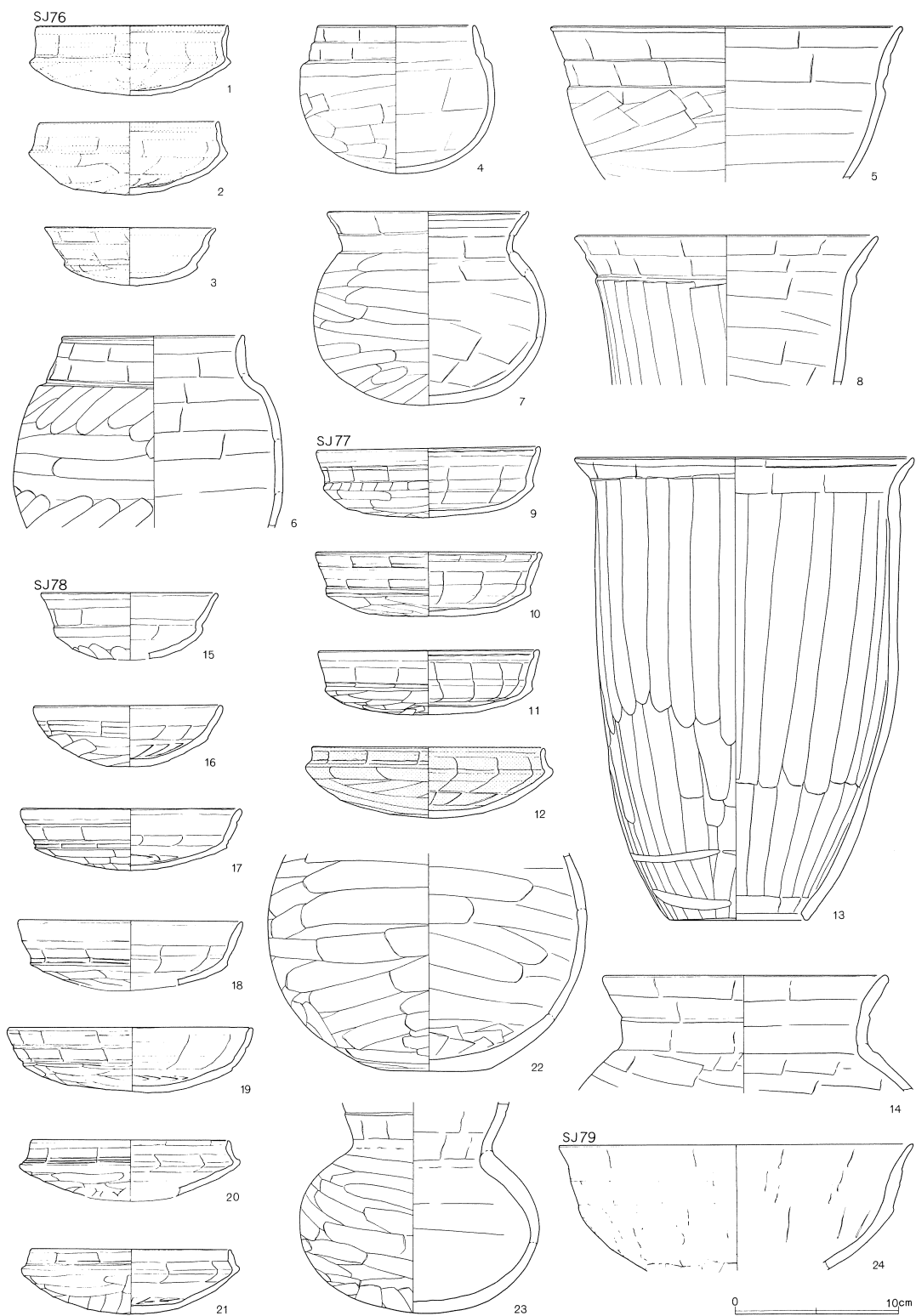
SJ75



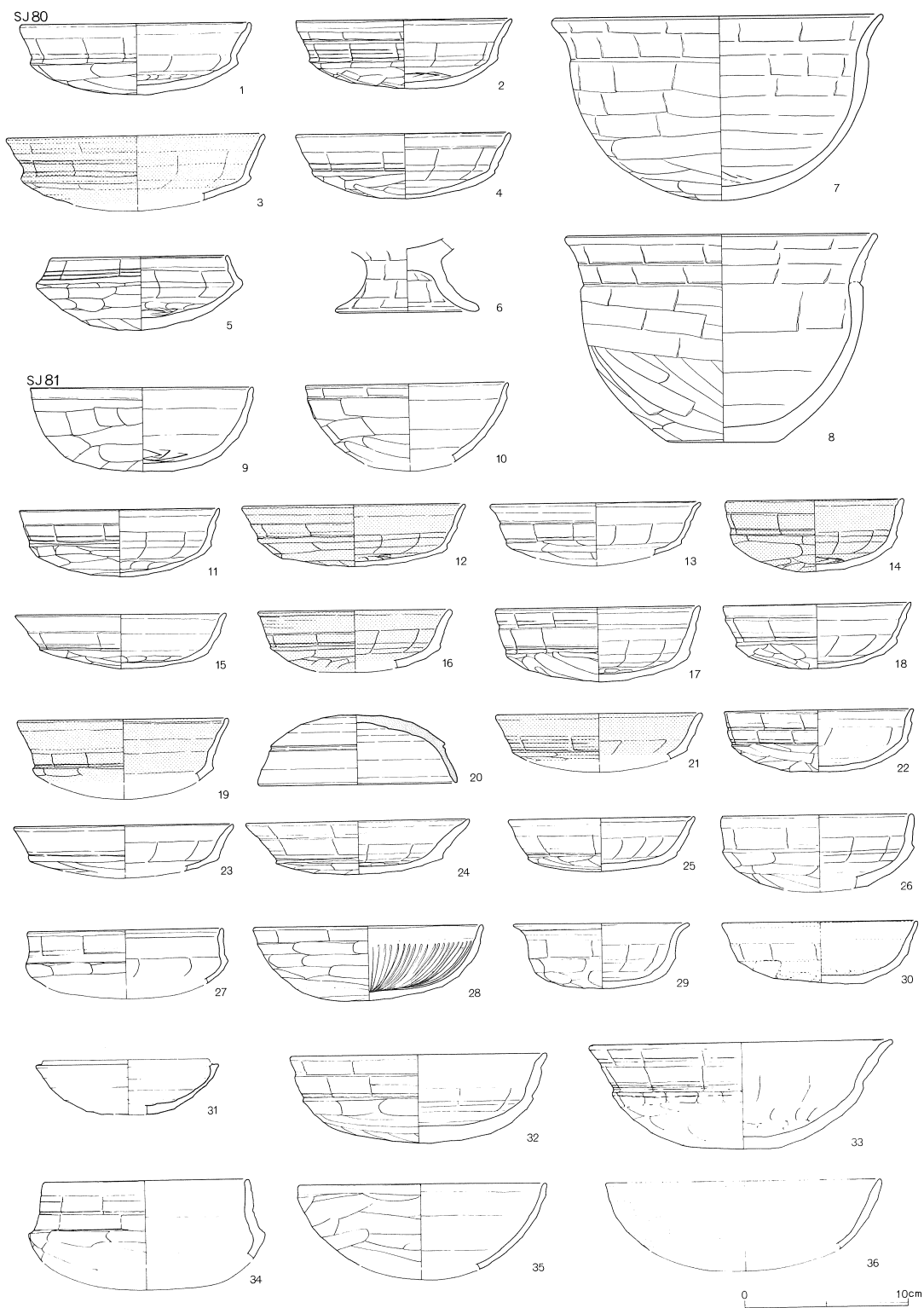
SJ76



第 325 图 第75(2)·76(1)号住居跡出土遺物

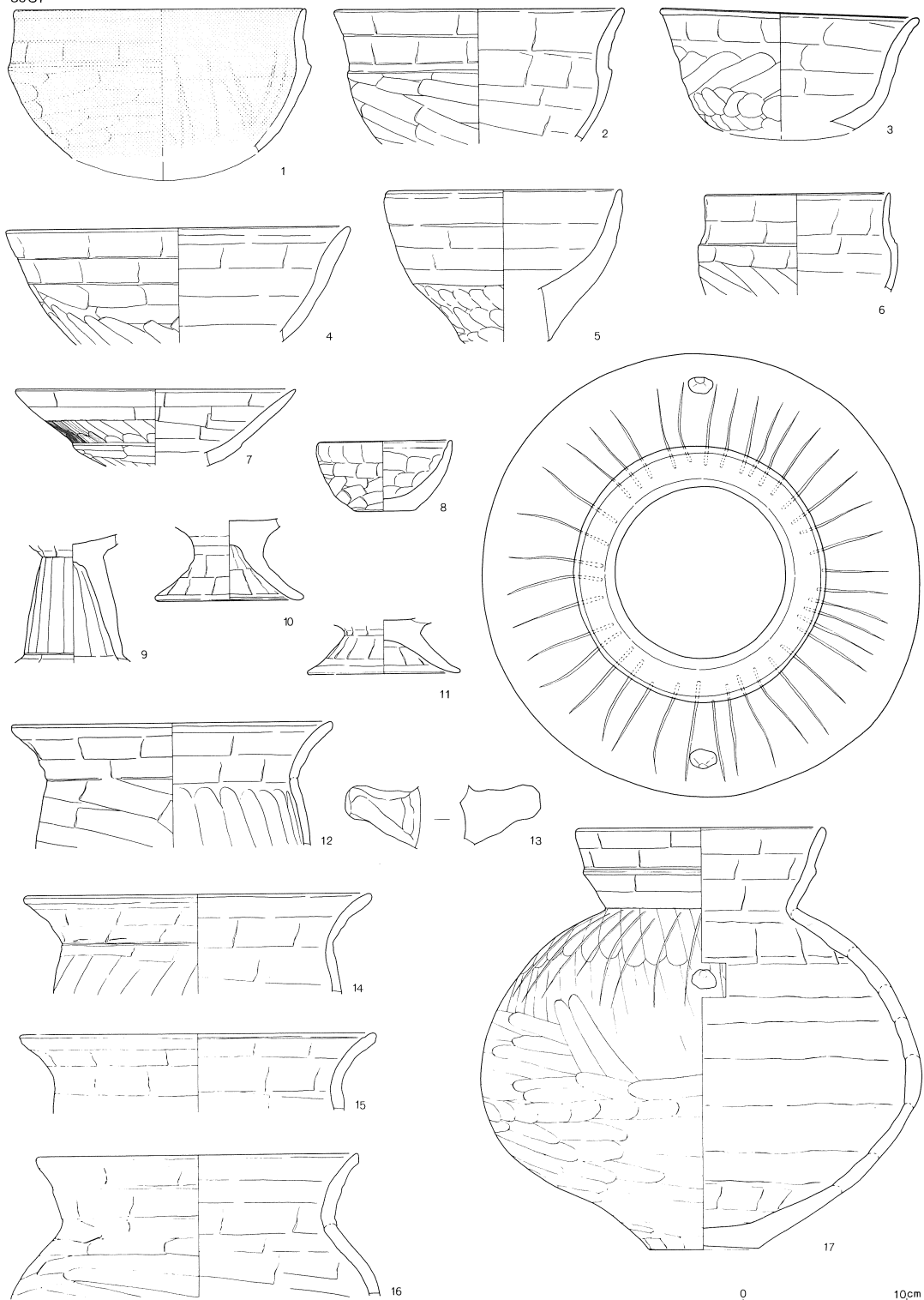


第 326 图 第76(2)·77·78·79号住居跡出土遺物



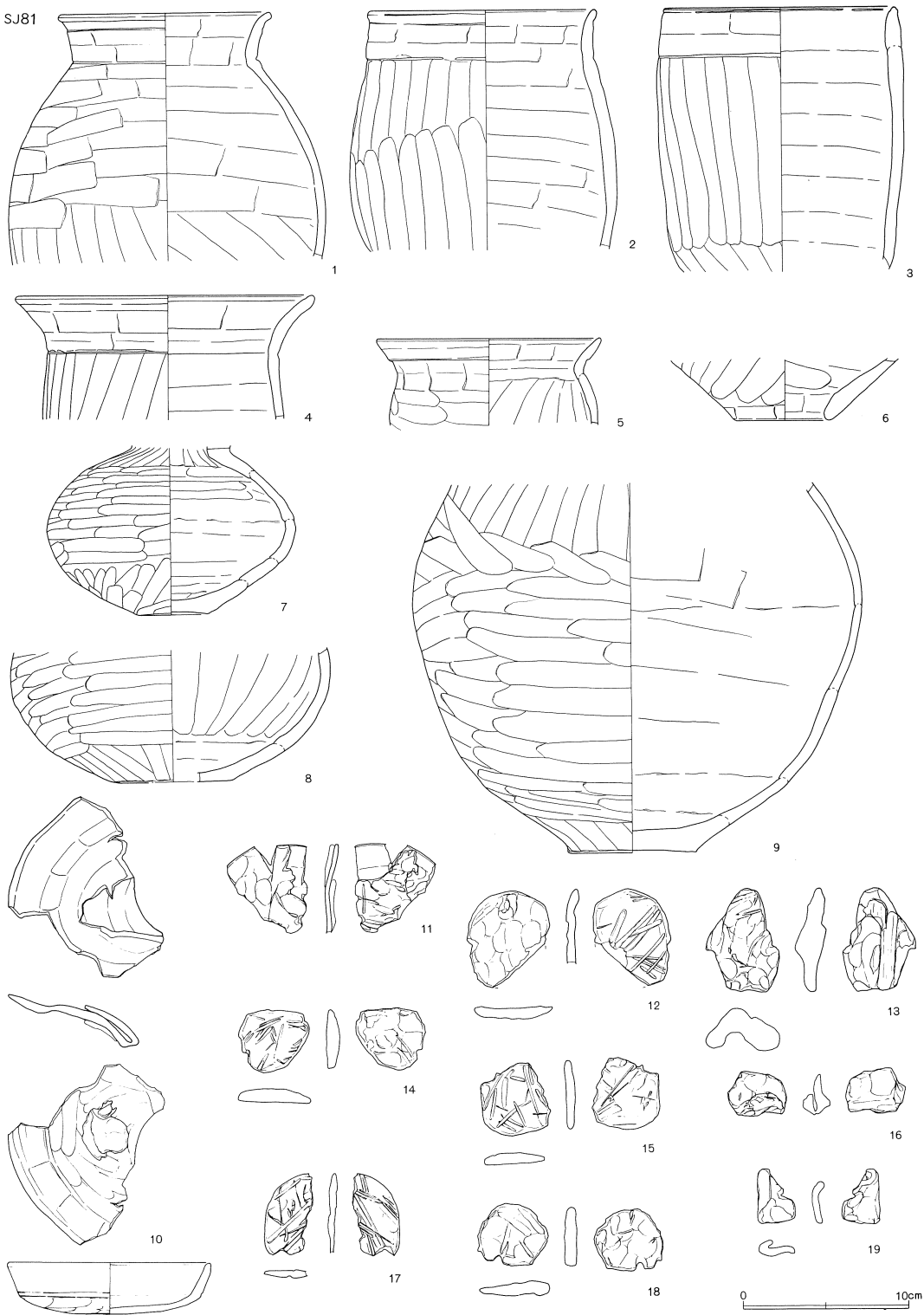
第 327 图 第80·81(1)号住居跡出土遺物

SJ81



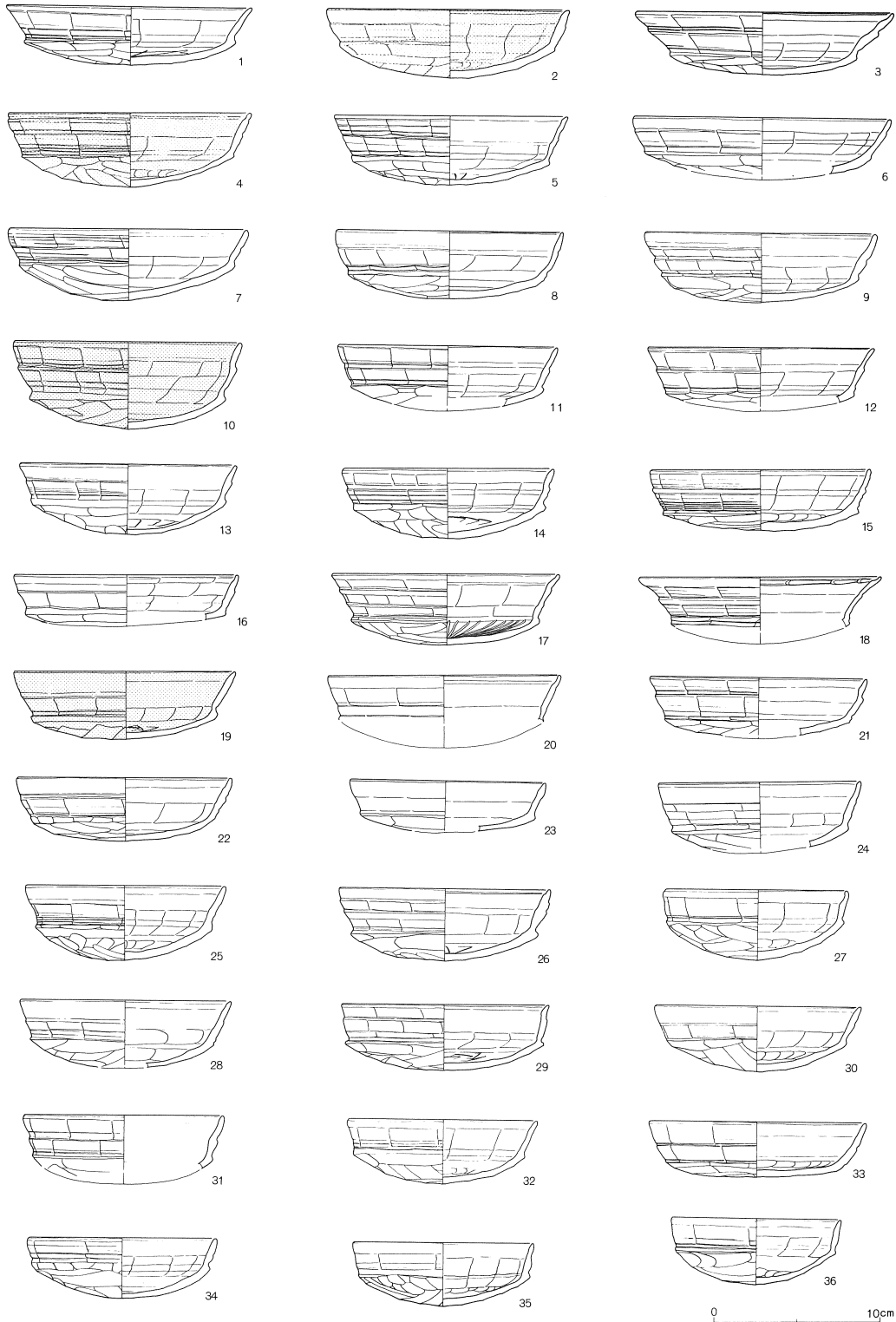
第 328 图 第81(2)号住居跡出土遺物

SJ81



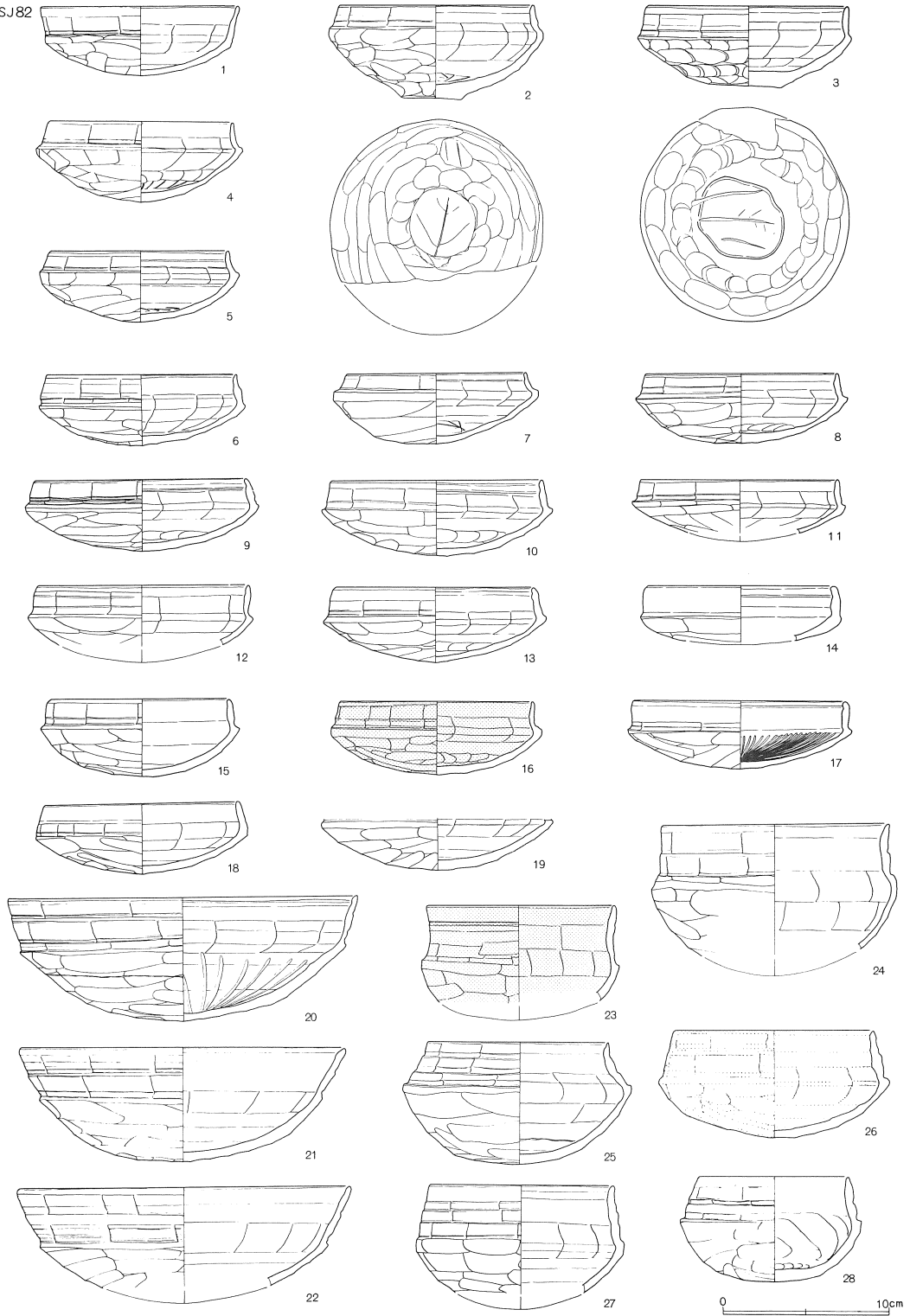
第 329 图 第81(3)号住居跡出土遺物

SJ82



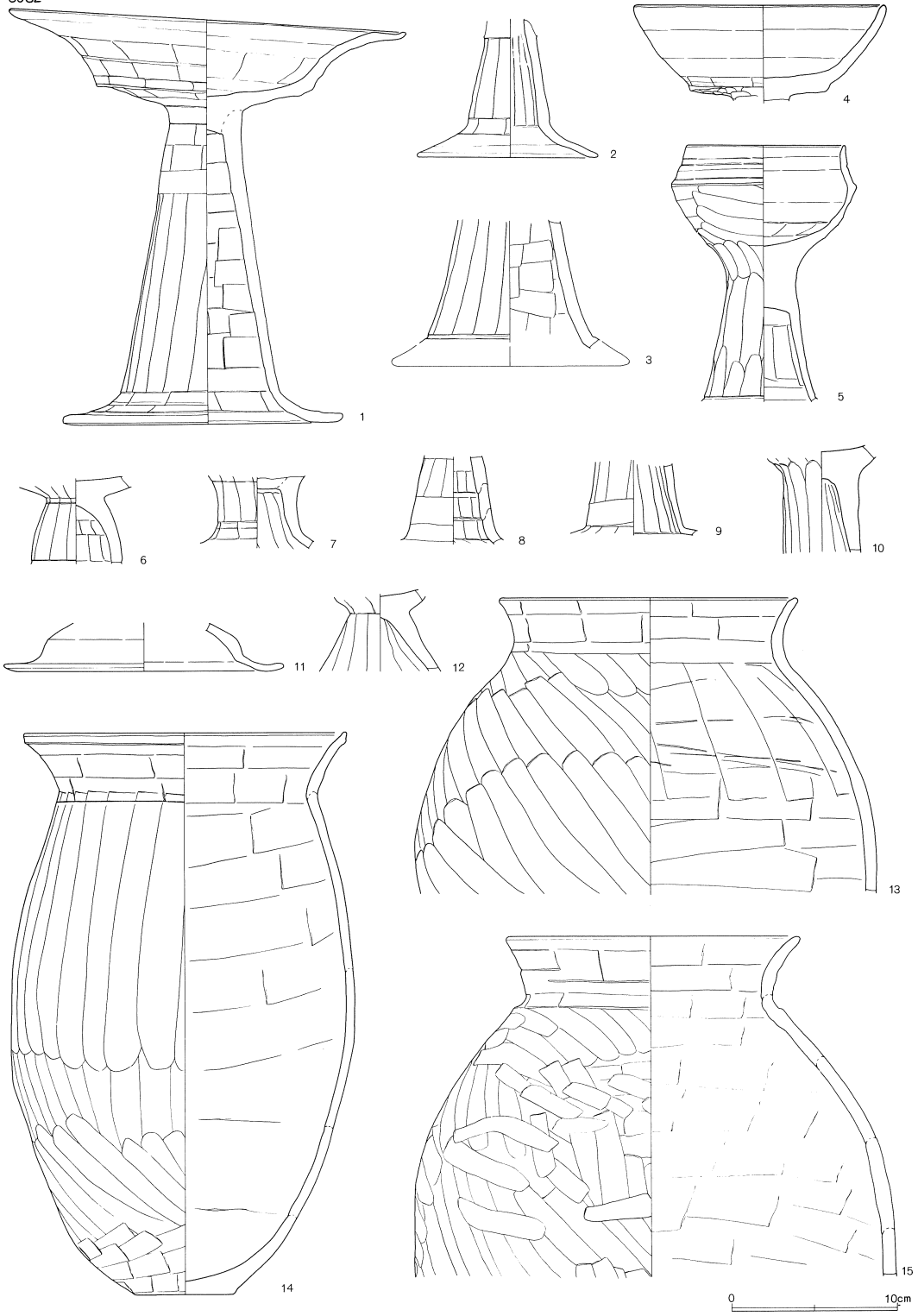
第 330 图 第82(1)号住居跡出土遺物

SJ82

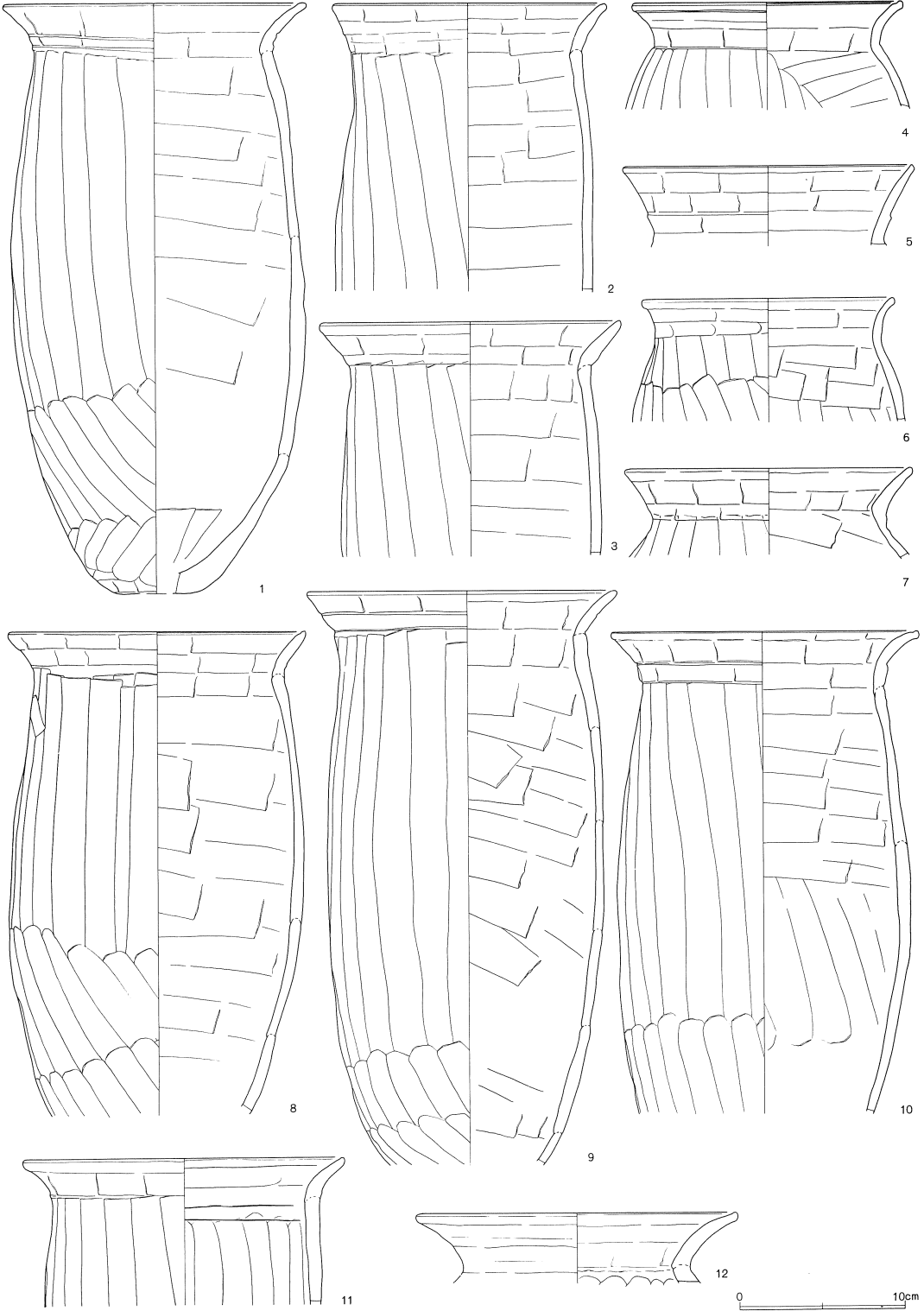


第 331 图 第82(2)号住居跡出土遺物

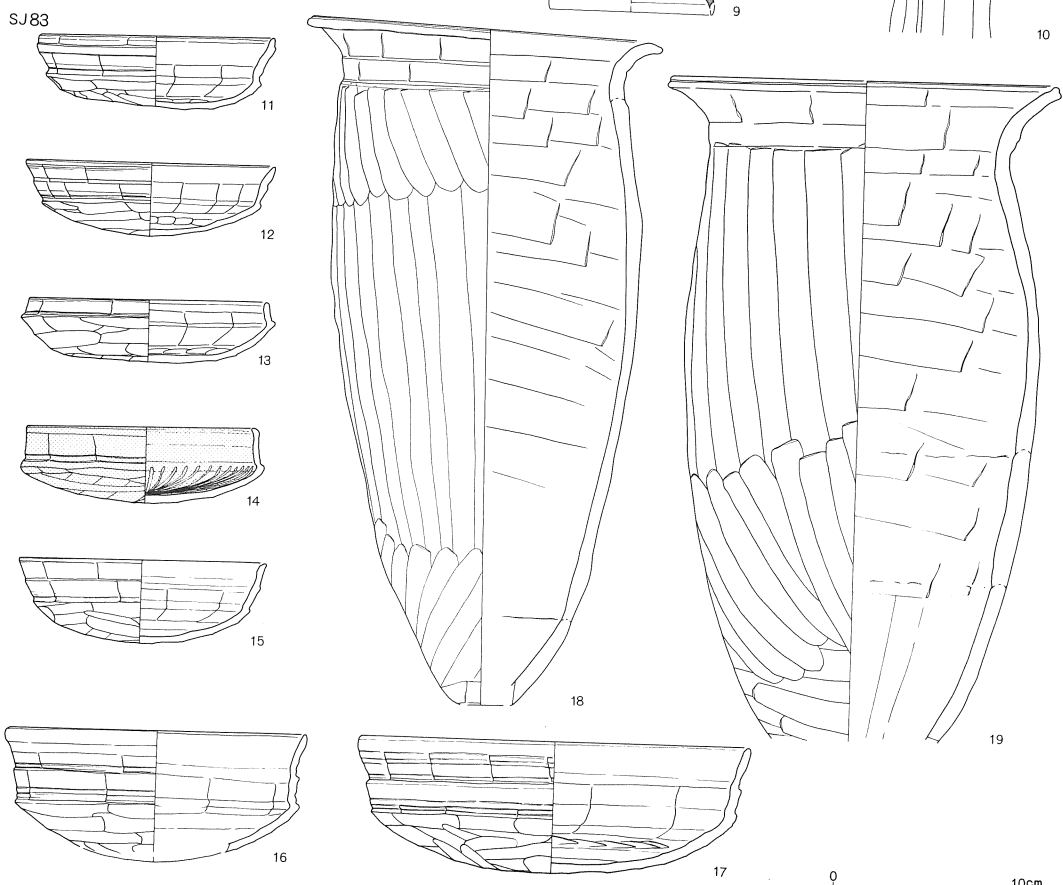
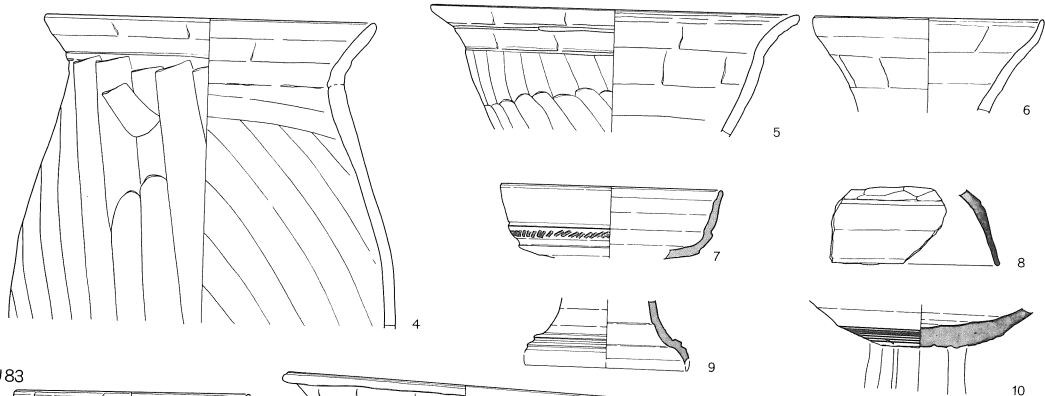
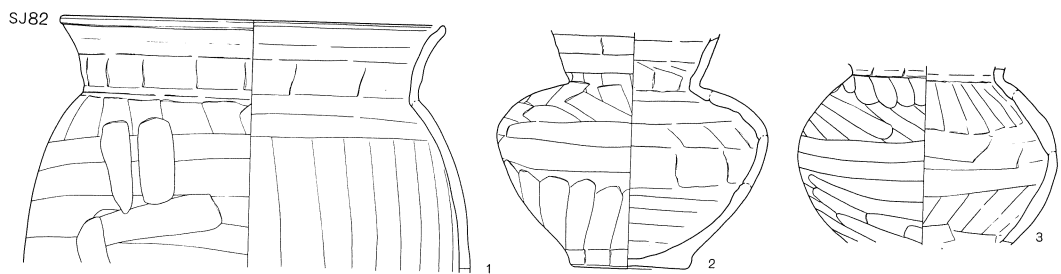
SJ82



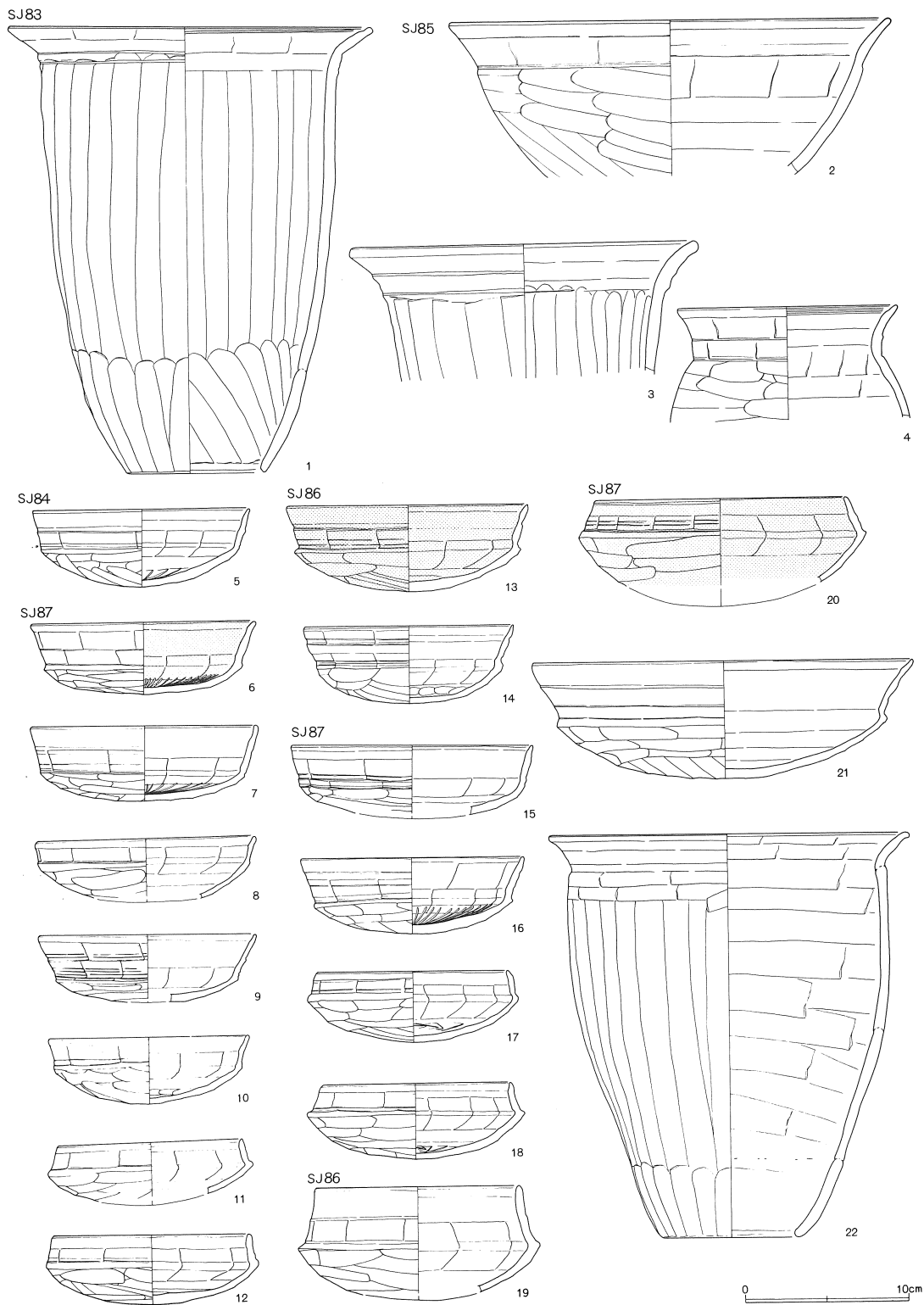
第 332 图 第82(3)号住居跡出土遺物



第 333 图 第82(4)号住居跡出土遺物



第 334 图 第 82(5)·83(1)号住居迹出土遺物



第 335 图 第83(2)·84·85·86·87号住居跡出土遺物

第97表 第60号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成(整)形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第315図								
1	蓋坏5	11.3	10.5	4.3		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
2	身坏5	12.1	13.0	4.3		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第98表 第61号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成(整)形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第315図								
3	有坏B2	12.7	10.5	3.9	320	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	7.5 Y R 6 / 1
4	有坏B2	12.9	11.2	4.1	280	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	5 Y R 7 / 6
5	有坏B2	12.8	11.0	4.9		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	7.5 Y R 4 / 1
6	有坏B2	12.0	10.5	4.0	280	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	5 Y R 5 / 1
7	有坏B2	11.7	9.5	4.5		完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 4 / 3
8	有坏B2	11.7	10.0	4.5	280	一部次 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 6 / 6
9	有坏B2	12.5	10.0	4.8	360	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 1
10	有坏B2	12.1	11.5	4.5		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
11	有坏B2	12.0	10.2	4.0	280	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 3
12	有坏B2	12.3	10.2	4.1		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
13	有坏B2	12.5	10.3	4.1		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
14	有坏B2	13.1	10.6	4.6		破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	7.5 Y R 4 / 1
15	有坏B2	13.0	11.0	4.0		1/3	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 3
16	有坏B2	11.8	9.0	3.9	200	一部欠 損	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
17	有坏B2	12.3	9.2	4.3		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 5 / 1
18	有坏B2	12.7	11.0	4.6	320	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 5 / 1

第99表 第61号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
19	有坏B 2	12.5	10.6	4.7	320	完形	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 8 / 2
20	有坏B 2	12.4	11.0			1 / 3	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 7 / 8
21	有坏B 2	12.8	11.1	4.1	320	2 / 3	ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 7 / 8
22	有坏B 2	13.2	11.0	5.0	400	1 / 5	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ	5 Y R 6 / 6
23	有坏B 2	10.1	8.3	3.5	180	1 / 2	ナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 7 / 8
24	有坏B 2	14.3	11.2	4.5		破片	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 8 / 1
25	有坏B 2	13.5	12.0	4.5	340	一部欠損	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 6 / 8
26	有坏B 2	12.5	11.1	4.4	360	一部欠損	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 7 / 8
27	有坏B 2	10.5	9.0	4.1		1 / 3	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5 Y R 6 / 8
28	有坏B 2	13.4	11.0	3.0		1 / 5	断続ヨコナデ。内面ヨコナデ	7.5 Y R 7 / 6
29	有坏B 2	12.0	9.9	4.0		破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 1
30	有坏B 2	11.5	10.1	3.7		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 7 / 8
31	有坏B 2	11.1	8.7	4.2		1 / 5	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	内外面黒色処理 7.5 Y R 5 / 3
32	有坏B 2	11.6	9.1	3.3		1 / 5	口縁部断続ヨコナデ。口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 2
33	有坏B 2	13.6	11.7	3.9	360	1 / 3	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。 内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
34	有坏B 2	13.1	11.2	4.9	340	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 8 / 1
35	有坏B 2	11.5	9.7	4.8		1 / 5	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 7 / 2
36	有坏B 2	13.3	11.2	5.0		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	内外面黒色処理 7.5 Y 6 / 3
37	有坏B 2	13.5	12.1	4.7	400	1 / 2	ヨコナデ。内面ヘラオサエ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 8 / 2
第316図								
1	有坏B 2	12.2	12.2	4.0		1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5 Y R 7 / 4
2	蓋坏5	11.7	11.1			1 / 5	ヨコナデ。内面ヨコナデ。 口縁部断続ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
3	身坏5	10.7	9.9	3.3		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続	7.5 Y R 7 / 4
4	蓋坏5	10.3	9.7	3.2		1 / 5	断続ヨコナデ。 周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続	7.5 Y R 8 / 3
5	有坏B 2	12.2	11.0	4.0		1 / 2	断続ヨコナデ。 周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナ	5 Y R 5 / 6
6	有坏B 2	13.6	12.0	3.9		1 / 5	デ。 断続ヨコナデ。内面ヨコナデ	5 Y R 5 / 6

第100表 第61号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
7	鉢D2	10.9	11.0	5.7	360	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。底部摩耗痕	7.5YR8/4
8	有坏B2	13.0	12.7	6.1	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5YR7/8
9	小型鉢	6.8	6.2	3.8		1/2	底部ユピオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユピオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR4/1
10	小型鉢	8.2	6.2	3.5	100	1/2	底部ユピオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユピオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR8/1
11	小型鉢	9.2	9.4	3.2	100	2/3	底部ユピオサエ→口縁部ヨコナデ。内面ユピオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR8/2
12	鉢B5	11.7	12.5	8.3		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（4段）。内面ヨコナデ。	5YR6/3
13	鉢B5	12.5	14.5	6.5		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5YR7/6
14	有段高1	13.3	8.2	7.2	140	1/2	坏底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→裾部断続ヨコナデ。	5YR7/2
15	有段高1	13.5	9.8	6.2	200	3/4	坏底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→裾部断続ヨコナデ。	7.5YR7/6
16	器台3					破片	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→裾部断続ヨコナデ。	7.5YR8/2
17	有段高1					1/3	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→裾部断続ヨコナデ。	5YR7/8
18	長高3					破片	縦ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	5YR5/3
19	甌					破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5YR8/8
20	長高3					破片	縦ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	5YR7/8
21	甕破片					破片	ロクロ成形→波状文。	7.5R5/1 須恵器
22	〃					破片	ロクロ成形→波状文→沈線2条。	2.5YR5/2 須恵器
23	〃					破片	ロクロ成形→波状文→沈線2条。	5R5/1 須恵器
24	小甕5	15.8	6.0	19.5	2,700	一部欠損	胴部横ヘラケズリ→胴下半縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR8/4
25	小甕5	13.8		20.7	3,100	完形	胴部縦ヘラケズリ→胴上半部横ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→縦ナデアゲ。口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR8/3
26	小甕5	17.5			2,200	4/5	胴部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→胴上半部ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
27	小甕5	13.0	4.0	17.1	2,300	完形	縦ヘラケズリ→肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR8/6
第317図								
1	甕形甌4	24.4			6,400	4/5	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面縦ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR7/6

第101表 第61号住居跡出土土器④

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
2	長砲甕 3	21.9	5.3	36.4	6,100	一部欠損	縦ヘラケズリ→肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
3	長砲甕 3	24.4	19.9			1 / 2	縦ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
4	長砲甕 3	19.9				2 / 3	斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
5	長砲甕 3	20.9				1 / 2	縦ヘラケズリ→肩部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
第 318 図								
1	長砲甕 3	21.9				2 / 3	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
2	長砲甕 3	18.0				2 / 3	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
3	大甕 4	25.5				1 / 8	斜めヘラケズリ→肩部ヨコナデ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
4	長砲甕 3	19.7				1 / 8	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面縦ユビヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y 8 / 2
5	模埴	17.7	3.0	2.0	200	完形	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6

第102表 第62号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 318 図								
11	身坏 5	12.0	12.3	3.5		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第103表 第63号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 318 図								
6	蓋环 5	11.8	11.0	3.9	260	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
7	蓋环 5	11.5	10.6	3.7		3 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
8	蓋环 5	11.0	10.2	3.5	180	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 8 / 4
9	蓋环 5	12.0	10.6	5.0		1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
10	有环 B 2	14.5	13.0	4.6		1 / 5	口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 8
12	鉢 F 2	11.2	11.9	6.6		1 / 5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）	7.5 Y R 8 / 3

第104表 第63号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
13	小壺 5	9.2				1/3	内面断続ヨコナデ。 横へラケズリ→ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
15	長砲壺 3	24.3				1/8	胸部横へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面へラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8

第105表 第64号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
14	大型甕 5	27.0				1/8	縦へラケズリ→ヨコナデ。内面へラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6

第106表 第66号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
16	有坏 B2	14.2	13.1	4.5	380	2/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
17	蓋坏 5	14.0	12.2	4.1		破片	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
18	有坏 B2	11.0	9.0	4.2		1/2	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	

第107表 第67号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
1	有坏 B 2	14.0	12.0	4.0		1/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 5 / 3
2	有坏 B 2	12.9	11.5	4.6		1/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 3 / 1
3	有坏 B 2	13.3	11.5	4.8		2/3	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面へラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
4	身坏 5	11.8	12.7	4.5		1/5	底部へラケズリ→周辺ユビオサエ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
5	有坏 B 2					1/5	底部へラケズリ→周辺へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 7 / 3
6	大壺Ⅳ	22.0				破片	胸部横へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部へラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
7	長砲壺Ⅲ	24.8				破片	胸部横へラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部へラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
8	長下壺Ⅳ	17.6				1/8	胸部斜めへラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3

第108表 第67号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
9	長下甕Ⅳ	23.4				1/5	胴部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
10	長下甕Ⅳ	23.4				3/5	胴部斜めヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 3
11	須甕					破片	平行タタキメ→横カキメ。内面同心円文タタキメ。	須恵器 5 R 4 / 1
12	須甕					破片	平行タタキメ→横カキメ。内面同心円文タタキメ。	須恵器 5 R 4 / 1
13	須甕					破片	平行タタキメ→横カキメ。内面同心円文タタキメ。	須恵器 5 Y 3 / 2
14	須甕					破片	波状文。内面ロクロナデ。	須恵器 7.5 Y R 4 / 1
15	須甕					破片	波状文。内面ロクロナデ。	須恵器 N 4 / 0
第 320 図								
1	須坏蓋 A	12.8	11.3	3.4	280	3/4	ロクロヨコナデ→底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器 10 Y 4 / 1
2	須短頸壺	9.0	9.9	8.4	500	2/3	ロクロヨコナデ→底部ヘラケズリ。ロクロヨコナデ。	須恵器 N 7 / 0
3	須高坏	10.7	9.2		100	1/5	ロクロヨコナデ→沈線横区画→連続キザミ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器 N 8 / 0
4	須横瓶					破片	ロクロヨコナデ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器 10 Y 8 / 1
5	須横瓶					破片	ロクロヨコナデ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器 N 5 / 0
6	須高 4					破片	ロクロヨコナデ→波状文。内面ロクロヨコナデ。	須恵器 2.5 Y 6 / 8
7	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	須恵器 5 Y R 6 / 8
8	撒坏	12.8	11.3	4.9		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	5 Y R 7 / 6
9	壺	13.8	13.2	5.7		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4

第109表 第68号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 320 図								
10	蓋坏 5	14.0	12.6	4.4		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 6
11	有坏 B 2	13.6	12.2	4.6	360	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 6 / 4
12	有坏 B 2	13.7	12.4	4.0		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
13	有坏 B 2	14.0	12.1	4.4		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 4 / 3
14	蓋坏 5	12.7	12.0	4.0	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 4 / 3

第110表 第68号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
15	身坏 5	12.3	13.8	4.4		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
16	身坏 5	12.0	13.2	3.1		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
17	須高坏	11.4	9.4	14.3	200	1/3	ロクロナデ。内面ロクロナデ。	須恵器 7.5 Y 4 / 1
18	須長頸壺	9.5				1/5	ロクロナデ→胴下半ヨコカキメ→肩部櫛歯状工具連続オシエテ。内面ロクロナデ。	須恵器 7.5 Y 4 / 1
19	須臬	11.3				1/10	ロクロナデ→波状文4単位。内面ロクロナデ。	須恵器 7.5 Y 4 / 1
20	長高 3					1/3	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面縦ヘラケズリ。	2.5 Y R 6 / 8
21	有段高 1					1/3	坏底部ユビオサエ→縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→縦ヘラケズリ。	5 Y R 7 / 6
22	小甕 5	13.2		15.3	1,700	一部欠損	縦ヘラケズリ→肩部横ヘラケズリ→底部周辺横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
第 321 図								
1	長下甕 4	17.0				1/2	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 4
2	長下甕 4	19.5				1/10	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 2
3	長下甕 4	14.0				1/10	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 2
4	長下甕 4	19.0				1/3	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
5	長砲甕 3	23.3				1/10	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 4
6	長下甕 4	17.2	15.0			破片	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面櫛歯状工具オサエ→口縁部ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
7	小甕 5	19.5				1/10	縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
8	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	須恵器 5 Y R 7 / 6
9	長高 3					1/10	縦ヘラケズリ→断続ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	7.5 Y R 7 / 6
10	長高 3					破片	ヨコナデ。内面ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6

第111表 第69号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 321 図								
11	長砲甕Ⅲ	21.3	5.0	38.0	5,800	4/5	胴部斜めヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面横ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
12	長砲甕Ⅲ		4.0			1/2	胴部縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面横ヘラオサエ。	2.5 Y R 6 / 8
13	有坏 B 2	13.5	11.3	4.0	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコ	5 Y R 7 / 6

第112表 第69号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
14	蓋坏5	11.6	9.5	4.0		1 / 3	ナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 4
15	有坏B 2	12.5	10.5	4.4	300	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 6
16	蓋坏	12.0	11.2	3.8		2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 6 / 8
17	蓋坏5	10.5	9.2	4.2	220	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面エビオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
18	有坏B 2	11.6	10.2	4.1	220	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	口縁部に爪痕跡あり 5 Y R 4 / 3
19	蓋坏5	11.9	11.1	4.5	280	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 8 / 4
20	身坏5	11.0	12.2	4.2		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4

第113表 第70号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 322 図								
1	有坏A 1	14.6	12.1	3.9		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
2	蓋坏5	13.5	11.2	4.1	320	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
3	蓋坏5	14.6	13.6	4.2		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
4	有坏B 2	13.2	11.2	4.2		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
5	有坏A 1	15.3	13.0	3.9		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 5 Y R 5 / 2
6	有坏B 2	12.7	11.0	3.9		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
7	有坏B 2	13.1	12.8	4.3		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 4 / 2
8	蓋坏5	13.8	12.7	4.2	400	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
9	有坏B 2	13.2	12.6	4.2	400	3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 4 / 3
10	蓋坏5	14.0	13.0	3.8		4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
11	有坏A 1	13.5	12.6	4.5		一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
12	蓋坏5	15.0	14.3	4.9		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
13	有坏C	13.6	8.4	3.5		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 4

第114表 第70号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
14	有環C	15.0	10.0	2.9	400	2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
15	有環C	13.0	7.6	3.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
16	身環5	13.6	15.0	4.4		完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
17	身環5	12.1	14.5	4.5		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
18	身環5	13.7	15.0	4.1		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
19	身環5	14.6	16.0	4.1		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
20	身環5	12.0	13.2	4.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
21	身環5	12.6	13.0	4.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 5 / 3
22	有環A 1	18.3	16.6	4.8		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 4 / 8
23	有環A 1	16.4	14.5	4.6		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
24	有段高 1	16.6				破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
25	須平安環					破片	底部ヘラケズリ。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	5 Y R 8 / 2 須恵器
26	暗環A					破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
27	無花壺 4	17.5				1/10	斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
28	鉢K 3	21.5				1/5	底部横ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→櫛歯状工具オシビキ。	7.5 Y R 5 / 1
29	小型鉢		7.0			破片	横ヘラケズリ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
30	須臬	12.0		15.0		一部欠損	ロクロナデ→胴部3条の沈線→櫛歯状工具の連続オシアテ→頸部波状文7単位。内面ロクロナデ。焼成後口縁部を故意に欠損している。	7.5 Y 2 / 1 須恵器

第115表 第71号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 323 図								
1	蓋環 5	13.0	12.1	4.5		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
2	蓋環 5	13.8	12.1	4.2		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 8
3	蓋環 5	14.6	13.2	4.6		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→周辺ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 6

第116表 第71号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成(整)形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	有环B 2	15.6	13.0	4.7		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 5 / 4
5	蓋环 5	15.2	14.0	5.0		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
6	蓋环 5	12.6	11.3	4.7		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
7	有环A 1	14.4	12.1	2.8		破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(4段)。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 6
8	有环A 1	15.2	13.5	3.3		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	有环B 2	12.8	10.7	3.5		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
10	有环B 2	12.6	10.8	4.0		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(2段)。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 4 / 4
11	有环C	13.6	9.0	4.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 3
12	有环B 2	17.3	15.7	6.3	800	2/5	周辺ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ニビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
13	身环 5	12.1	13.2	4.2	320	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ニビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
14	身环 5	12.1	13.1	4.1		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
15	身环 5	13.1	14.0	3.7	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	10 Y R 8 / 3
16	身环 5	13.1	14.2	4.0		破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 3 / 1
17	鉢B 5	13.0	14.0	5.6		3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
18	鉢B 5	11.7	12.5	5.3		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ(3段)。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
19	鉢K 3	16.6	18.5			1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 4
20	有环B 2					3/5	周辺ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
21	身环 5	15.0	15.1	3.1		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
22	模短頸壺	4.5	7.0	6.8	140	完形	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	頸部に2孔(焼成前) 5 Y R 5 / 8
23	模韓式壺	7.5	5.2	7.5	160	完形	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→胴部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 8
24	模壺	5.7	5.2	6.9	80	一部欠損	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヨコナデ。	頸部に2孔(焼成前) 5 Y R 6 / 8
25	球胴壺V	11.4				1/5	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
26	長下壺IV	17.6				1/8	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面	2.5 Y R 6 / 6

第117表 第71号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
27	鉢K 3	18.8				3/5	縦ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。 胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面 口縁部断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6

第118表 第72号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 324 図								
1	有环B2	14.2	11.5	3.8		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 4 / 3
2	有环B2	13.3	12.5	4.6		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5Y R 5 / 4
3	有环B2	14.0	12.0	4.8		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 7 / 6
4	身坏5	12.5	13.7	4.2	320	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5Y R 8 / 6
5	蓋坏5	13.0	13.1	4.5		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 4 / 3
6	身坏5	12.1	13.1	4.0	280	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	2.5Y R 5 / 8
7	長高4					1/5	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面縦ヘラ ケズリ。	7.5Y R 6 / 6

第119表 第73号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 324 図								
8	有环B2	17.5	16.2	7.4		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコ ナデ。	2.5Y R 5 / 8
9	有环B2	15.7	14.0	5.8		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5Y R 8 / 4

第120表 第74号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 324 図								
10	有环B 2	14.0	11.7	5.6		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 8
11	有环B 2	13.0	11.0	4.9		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 6 / 3
12	有环B 2	14.8	11.1	5.6	400	1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	7.5Y R 6 / 3

第121表 第74号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
13	有坏B 2	13.0	11.5	4.4		一部欠損	ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 4
14	有坏B 2	12.1	10.0	4.5		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
15	有坏B 2	12.1	10.1	4.0		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 5 / 2
16	有坏B 2	12.3	10.5	4.0		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 5 / 2
17	有坏B 2	12.7	11.1	4.3	320	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 5 / 3
18	有坏B 2	13.0	12.0	4.6		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 5 / 4

第122表 第75号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 324 図								
19	有坏B 2	14.3	12.3	4.8		破片	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
20	有坏B 2	14.2	12.8	4.6		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
21	身坏 5	13.9	14.3	3.9	360	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 7 / 8
22	身坏 5	12.3	13.6	4.5	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
23	無花壺 4	17.3	8.0	30.5	13,700	4 / 5	胴部縦ヘラケズリ→胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 3
第 325 図								
1	甕形甌 5	26.0				1 / 10	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→口縁部ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 3
2	無花壺 4	19.2				破片	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
3	長砲甌 3	17.6				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。	2.5Y R 6 / 8
4	球胴壺 5	11.6				破片	胴部横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
5	無花壺 3	17.3	8.5	30.5	13,700	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→胴部ヨコナデ→口縁部ヨコナデ。内面縦ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
6	球胴壺 5	11.2				1 / 10	胴部横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ナデアゲ→ヨコナデ。	7.5Y R 8 / 3
7	小壺 5	11.5		13.9		1 / 2	胴部横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコ	5 Y R 7 / 4

第123表 第75号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
8	小甕瓿 3					破片	ナデ。 胴部縦ヘラケズリ→横ヘラケズリ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 8 / 4
9	長壺 3	8.7				1 / 5	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
10	長壺 3	10.2				1 / 5	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
11	長壺 3					2 / 5	胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6

第124表 第76号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 325 図								
12	有环 B 2	13.3	11.3	4.8	340	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 5 Y R 7 / 6
13	有环 B 2	13.8	11.2	3.9		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 5 / 4
14	有环 B 2	13.5	11.9	4.0		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 2.5 Y R 6 / 8
15	有环 B 2	12.8	11.0	4.3		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 2
16	有环 B 2	13.0	10.7	4.1		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 5 / 4
17	蓋环 5	11.6	10.2	4.6	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 6
18	有环 B 2	12.9	10.5	5.0	340	2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 1
19	有环 B 2	12.0	10.3	5.3		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面底部ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
20	蓋环 5	12.1	10.5	3.9		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
21	蓋环 5	12.5	11.2	4.5	300	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 5 Y R 4 / 3
22	有环 B 2	14.1	11.7	4.0		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 5 / 4
第 326 図								
1	身环 5	12.0	12.6	4.3		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 7 / 4
2	身环 5	11.3	12.5	4.4		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 8 / 2
3	有环 B 2	10.7	8.4	3.7	180		底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	内外面黑色処理

第125表 第76号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
4	小壺 5	10.0		9.2	0,800	一部欠損	ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。 胴部横ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5YR 3 / 1 7.5YR 8 / 2
5	鉢K 3	22.1				2 / 5	横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。 内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ	2.5YR 7 / 8
6	小壺 5	11.4				2 / 5	横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	5YR 8 / 2
7	小壺 5	12.6		12.0	1,000	一部欠損	横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	10YR 8 / 1
8	甕形甗 5	19.0				1 / 10	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	10YR 7 / 2

第126表 第77号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 326 図								
9	有环B 2	14.0	13.2	4.3	380	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 7 / 6
10	有环B 2	14.1	12.8	4.0	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5YR 7 / 6
11	蓋环 5	13.8	13.0	4.0	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 7 / 6
12	身环 5	14.5	15.5	4.5	400	2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5YR 6 / 8
13	甕形甗 5	21.2			7,300	一部欠損	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビナデアゲ→ヨコナデ。	2.5YR 7 / 6
14	球胴壺 5	17.8				破片	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（3段）。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	7.5YR 8 / 3

第127表 第78号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 326 図								
15	蓋环 5	11.0	9.3	4.3		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 7 / 8
16	蓋环 5	11.8	10.0	3.8		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR 6 / 8
17	有环B 2	13.6	11.9	3.9		1 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR 5 / 8
18	有环B 2	14.0	12.3	4.4		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR 7 / 6
19	有环A 1	15.2	13.0	4.0	380	4 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5YR 5 / 8

第128表 第78号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
20	身坏 5	12.3	13.7	3.7		1 / 10	ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
21	身坏 5	12.5	13.5	4.1	300	3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	
22	球胴壺 5					1 / 5	横ヘラケズリ。内面ヨコヘラオサエ。	
23	長壺 3		7.8			4 / 5	胴部横ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	

第129表 第79号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
24	鉢 K3	22.0				1 / 10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段） 内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6

第130表 第80号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
1	小坏 2	14.5	13.0	4.4	360	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 1
2	有坏 B2	13.5	11.8	4.3	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→ヨコナデ	7.5 Y R 8 / 2
3	有坏 B2	16.2	14.4	4.6		破片	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段） 内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 5 / 6
4	有坏 B2	13.4	11.7	4.0	320	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
5	身坏 5	11.2	12.8	4.6	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
6	須高 4					破片	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
7	鉢 K3	20.6		11.4	2,000	一部欠損	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
8	小甕 5	19.5	6.7	12.7	1,800	一部欠損	胴部横ヘラケズリ→縦ヘラケズリ→ヨコナデ→口縁部ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第131表 第81号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
9	壺	13.4	13.2	5.2		2 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ	5 Y R 7 / 8

第132表 第81号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
10	壺	12.7	12.4	5.5		1/10	ナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
11	有坏B 2	12.5	11.4	4.2		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
12	有坏B 2	14.0	12.0	3.8	280	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 8 / 6
13	有坏B 2	13.1	10.9	3.9		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
14	有坏B 2	11.0	10.5	4.5		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 7 / 4
15	有坏B 2	13.2	10.5	3.4	180	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	10 Y R 6 / 6
16	蓋坏 5	12.2	10.6	3.9		2/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 4 / 2
17	有坏B 2	12.8	11.5	4.7	300	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヘラオシアテ→断続ヨコ ナデ。	7.5 Y R 8 / 6
18	有坏B 2	11.8	10.5	4.0	220	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
19	蓋坏 5	13.1	11.3	4.9		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨ コナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 8 / 2
20	須坏蓋 A					破片	ロクロナデ。内面ロクロナデ。	10 Y R 7 / 1 須忠器
21	有坏B 2	12.9	10.9	3.7	260	3/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	内外面黑色処理 7.5 Y R 7 / 4
22	有坏B 2	11.9	11.0	3.8	260	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
23	蓋坏 5	13.7	11.9	3.4		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 6 / 8
24	有坏C 1	14.0	10.4	3.2	240	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
25	有坏B 2	11.6	9.3	3.3	200	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
26	蓋坏 5	12.0	12.0	4.8		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 3 / 4
27	坏身 5	12.3	12.6	4.1		1/10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
28	暗坏B 1	14.3	14.0	4.6	400	1/3	底部ヘラケズリ→細かな周辺ヘラケズリ→口縁 部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→細かな放 射状暗文。	2.5 Y R 6 / 8
29	内坏 4	11.0	9.2	4.0		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
30	蓋坏 5	12.2	10.2	3.7		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→ヨコナデ。	内外面黑色処理 2.5 Y R 6 / 8
31	須坏蓋 A					破片	ロクロナデ。内面ロクロナデ。	7.5 Y 4 / 1 須忠器
32	有坏B 2	16.0	14.5	5.6	580	2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5 Y R 7 / 8

第133表 第81号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
33	鉢K 3	18.9	15.6	6.6	800	2/3	ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5 Y R 6 / 8
34	鉢K 3	13.0	14.7	6.7		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
35	壺	15.5	15.5	5.9		1/3	周辺ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
36	壺	17.2	16.6	4.5		1/10	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 6 / 3
第 328 図								
1	鉢K 3	18.2	18.9	10.6	(1,500以上)	2/3	周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。	内外面黒色処理 2.5 Y R 4 / 2
2	鉢K 3	18.0				1/3	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段） 内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
3	小型鉢	16.0				4/5	底部ユビオサエ→ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 4
4	鉢K 3	21.2				1/10	周辺ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
5	器台 3	14.7				2/5	脚部ユビオサエ→周辺部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
6	小壺 5	11.5				破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
7	有段高 1	17.3				1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
8	小型鉢	8.3	3.5	4.3	120	4/5	底部ユビオサエ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
9	長高 3					1/10	縦ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
10	須高 4					破片	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 6 / 6
11	須高 4					破片	断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 5 / 8
12	長砲壺 3	19.8				破片	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ナデアゲ→口縁部断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 3
13						破片	ユビオサエ。	7.5 Y R 7 / 6
14	長下甕 4	21.5				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 6
15	大甕 4	22.0				破片	口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	5 Y R 5 / 6
16	無花壺 4	19.9				破片	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 3
17	複口壺 1	15.4	7.0	26.7	6,400	3/5	胴上半斜めヘラケズリ→胴下半横底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）→肩部上から下へ垂下する放射状の沈線→肩部に一对の小突起。内面ヨコナデ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
第 329 図								
1	球胴壺 5	13.0				1/5	胴部縦ヘラケズリ→横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
2	小甕甕 3	14.0				1/2	胴部縦ヘラケズリ（2段）→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8

第134表 第81号住居跡出土土器④

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
3	小甕 3					1/2	胴部縦ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5YR 6/6
4	長砲甕 3	18.2				1/5	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR 6/8
5	小甕 5	13.8				1/5	胴部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR 5/6
6	三角甕 5		6.8			破片	斜めヘラケズリ→横ヘラケズリ。内面ヨコナデ	10YR 8/4
7	長壺 3		4.3			2/5	胴部横ヘラケズリ（2段）→底部横ヘラケズリ内面ヨコナデ。	2.5YR 6/6
8	球胴壺 5					破片	胴部横ヘラケズリ。内面ヨコナデ→ナデアゲ。	2.5YR 7/6
9	無花壺 4		8.0			破片	肩部縦ヘラケズリ→胴部横ヘラケズリ口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR 6/8
10	蓋环 5					破片	底部ユビオサエ→底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。→変形→焼成。	成形失敗作品だが、そのまま焼成する。 5YR 6/6
11	粘土塊					破片	ユビオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	〃 10YR 7/4
12	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 10YR 7/4
13	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 7.5YR 7/6
14	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 10YR 8/3
15	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 10YR 7/4
16	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 7.5YR 7/6
17	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 7.5YR 4/1
18	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 7.5YR 7/3
19	粘土塊					破片	ユビオサエ。	〃 5YR 6/6

第135表 第82号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 330 図								
1	有环 C	15.0	13.0	3.6	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 5/8
2	有环 A 1	14.8	13.2	4.3	380	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理
3	有环 C					1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	
4	有环 B 2	15.0	13.0	4.6	440	3/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR 6/6
5	有环 B 2	14.4	12.2	4.2		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5YR 6/6
6	有环 A 1	15.7	13.8	3.8		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR 5/6
7	有环 B 2	14.5	13.3	4.5		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5YR 6/6
8	有环 B 2	14.0	12.0	4.2	340	一部欠	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	2.5YR 5/6

第136表 第82号住居跡出土土器②

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
9	有坏B 2	14.2	12.1	4.4		損 4/5	ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
10	有坏B 2	14.0	12.2	5.4	420	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 7/4
11	有坏B 2	13.4	11.9	4.0		1/10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。 内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
12	有坏B 2	14.0	11.6	3.9		1/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。 内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
13	有坏B 2	13.3	12.0	4.3			底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7/6
14	有坏B 2	13.0	11.9	4.3	320	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6/8
15	有坏B 2	13.5	12.0	3.7		一部欠 損	底部ヘラケズリ（2段）→周辺ヘラケズリ→口 縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコ ナデ。	7.5Y R 7/6
16	有坏A 1	13.8	12.5	3.3		1/10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断 続ヨコナデ。	7.5Y R 7/4
17	有坏B 2	14.0	11.6	4.3		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（3段）。内面断続ヨコナデ→放射状 ヘラミガキ。	7.5Y R 7/4
18	有坏C	15.0	11.0	4.2		1/5	口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	7.5Y R 7/4
19	蓋环5	13.6	11.4	4.1		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5Y R 5/3
20	小坏2	12.0	13.0	4.4		1/10	口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
21	有坏B 2	13.4	10.4	3.7		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/6
22	有坏B 2	13.2	11.8	3.9		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/8
23	蓋环5	14.0	11.6	4.3		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコ ナデ。内面ヨコナデ。	7.5Y R 7/4
24	有坏B 2	12.5	11.0	4.3		1/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6/8
25	有坏B 2	12.3	10.8	4.6	260	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 6/6
26	有坏B 2	13.0	11.5	4.5		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 6/6
27	蓋环5	11.4	11.0	4.3		一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 5/6
28	有坏B 2	13.0	11.2	3.2		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7/6
29	有坏B 2	12.7	11.3	4.0		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナ デ。	5 Y R 6/8
30	蓋环5	12.6	11.0	4.1	260	一部欠 損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヘラオサエ→ヨコナデ。	5 Y R 6/8
31	有坏B 2	12.2	11.1	4.3		1/10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。	7.5Y R 8/6

第137表 第82号住居跡出土土器③

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
32	有坏B2	11.7	10.5	4.0	200	一部欠損	内面ヨコナデ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
33	有坏B2	13.3	11.0	3.4	340	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR7/4
34	蓋坏5	11.5	10.8	3.8	200	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/8
35	有坏B2	11.1	10.5	3.9	200	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
36	蓋坏5	10.5	9.8	4.1	200	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
第331図								
1	蓋坏5	12.2	11.2	4.3	380	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	
2	身坏5	12.0	13.2	5.7	360	2/3	底部周辺ユビオサエ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	底部木葉文 5YR7/6
3	身坏5	12.5	13.2	4.9	340	4/5	底部周辺ユビオサエ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオシアテ→断続ヨコナデ。	底部木葉文 5YR6/6
4	身坏5	11.5	12.7	4.9	320	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/6
5	身坏5	11.0	12.3	4.4	260	2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/6
6	身坏5	11.8	12.7	4.4		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5YR6/8
7	身坏5	11.2	12.5	4.4	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5YR6/6
8	身坏5	12.0	13.1	4.3	300	完形	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	5YR4/8
9	身坏5	12.9	14.5	4.5		3/5	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR8/6
10	身坏5	13.0	14.2	4.6	400	4/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5YR7/4
11	身坏5	12.2	13.0	3.8		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR6/6
12	身坏5	13.2	13.8	4.7	400	2/5	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5YR7/4
13	身坏5	12.2	13.6	4.6	380	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5YR7/6
14	身坏5	11.5				2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
15	身坏5	11.3	12.3	4.7	300	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5YR7/4
16	身坏5	12.0	13.0	4.5		2/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	内外面黒色処理 5YR7/6
17	身坏5	13.2	13.8	4.2		1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続	5YR5/4

第138表 第82号住居跡出土土器④

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
18	身坏 5	12.0	13.0	4.4		1 / 5	ヨコナデ。内面ヨコナデ→放射状ヘラミガキ。 底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
19	蓋坏 5	14.2				3 / 4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ。内面断続ヨ コナデ。	5 Y R 7 / 4
20	鉢 K 3	21.5	20.0	7.7	1,400	1 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ→放射状 暗文。	2.5 Y R 6 / 8
21	鉢 K 3	20.0	17.3	7.0	1,100	3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
22	鉢 K 3	20.4	17.6	6.9		1 / 10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
23	鉢 B 5	11.6	11.3	7.0		破片	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 7.5 Y R 5 / 4
24	鉢 K 3	14.0	14.7	9.4		3 / 10	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。 内面断続ヨコナデ。	
25	鉢 B 5	11.7	14.0	7.4	580	2 / 3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面底部ヨコナデ→断続ヨ コナデ。	2.5 Y R 6 / 8
26	鉢 B 5	12.5	14.2	6.6		3 / 5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 5 / 8
27	鉢 B 5	11.4	12.7	7.6		1 / 2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	
28	鉢 B 5	9.3	10.1	6.5	340	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続 ヨコナデ。内面底部ヘラオサエ→断続ヨコナデ	7.5 Y R 8 / 6
第 332 図								
1	長高 3	24.5	13.3	25.5	700	完形	坏部周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2 段）→脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。 口縁部内面断続ヨコナデ→脚部横ヘラケズリ→ 裾部断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 8
2	長高 3					1 / 5	脚部縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面脚 部横ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
3	長高 3					破片	脚部縦ヘラケズリ。内面脚部横ヘラケズリ。	7.5 Y R 7 / 8
4	素 1	15.5	8.3	6.0		3 / 10	ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8
5	身坏高 1	9.9	11.4		320	一部欠 損	坏部周辺ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ→脚部縦 ヘラケズリ。口縁部内面断続ヨコナデ→脚部横 ヘラケズリ。	7.5 Y R 8 / 6
6	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラケ ズリ。	5 Y R 6 / 6
7	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラケ ズリ。	5 Y R 6 / 8
8	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラケ ズリ。	
9	須高 4					破片	縦ヘラケズリ→裾部断続ヨコナデ。内面ヘラケ ズリ。	2.5 Y R 5 / 6
10	長高 3					破片	縦ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	2.5 Y R 5 / 6
11	器台 3					破片	ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 8

第139表 第82号住居跡出土土器⑤

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
12	須高 4					破片	縦ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	10Y 5 / 1 須恵器
13	無花壺 4	18.4				1 / 4	斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部断続ヨコナデ。	2.5Y R 3 / 5
14	長下甕 4	19.8	6.0	33.0	7,800	一部欠損	縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	2.5Y R 1 / 5
15	無花壺 4	18.0				1 / 2	斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→口縁部ヨコナデ。	2.5Y R 1 / 5
第 333 図								
1	長下甕 4	18.5	5.0	36.0	4,800	一部欠損	縦ヘラケズリ→底部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5Y R 3 / 5
2	長砲甕 3	16.7				2 / 5	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ。	7.5Y R 3 / 5
3	長砲甕 3	18.5				1 / 10	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ。	2.5Y R 3 / 5
4	長下甕 4	17.5				破片	縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコヘラオサエ。	5 Y R 7 / 6
5	長下甕 4	18.0				破片	口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5Y R 7 / 8
6	長下甕 4	15.4				破片	胴部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコヘラオサエ。	7.5Y R 7 / 8
7	長下甕 4	17.5				破片	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ。内面断続ヨコナデ→ヨコナデ。	5 Y R 1.7 / 1
8	長下甕 4	18.3				4 / 5	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ。内面断続ヨコナデ→ヨコナデ。	2.5Y R 5 / 6
9	長下甕 4	19.0			5,900	4 / 5	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ。内面断続ヨコナデ→ヨコナデ。	2.5Y R 3 / 5
10	長下甕 4	18.9			4,900	3 / 5	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ→ヨコナデ。	2.5Y R 3 / 5
11	長下甕 4	19.8				1 / 10	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ→胴下半斜めヘラケズリ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
12	無花壺 4	19.8				1 / 10	ヨコナデ。断続ヨコナデ。	7.5Y R 3 / 5
第 334 図								
1	無花壺 4	20.4				1 / 5	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 1 / 5
2	長壺 3		6.2			2 / 3	口縁部断続ヨコナデ→斜めヘラケズリ→胴横ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	7.5Y R 1 / 5
3	長壺 3					3 / 5	斜めヘラケズリ→胴横ヘラケズリ→胴下半横ヘラケズリ。内面ヨコナデ→断続ヨコナデ。	2.5Y R 3 / 5
4	長下甕 4	16.5				2 / 5	口縁部断続ヨコナデ→胴部縦ヘラケズリ。内面断続ヨコナデ→ヘラオサエ。	2.5Y R 1 / 5
5	三角甕 5	19.8				1 / 10	口縁部断続ヨコナデ→縦ヘラケズリ。内面断続ヨコナデ→ヨコナデ。	2.5Y R 1 / 5
6	長壺 3	12.3				1 / 3	口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
7	須高坏	11.8	9.6			3 / 5	ロクロヨコナデ→沈線（2条）→波状文。内面ロクロヨコナデ。	10Y 5 / 1 須恵器高坏
8	須坏					1 / 10	ロクロヨコナデ。内面ロクロヨコナデ。	10Y 5 / 1 須恵器坏

第140表 第82号住居跡出土土器⑥

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
9	須高坏					1/10	ロクロヨコナデ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器高坏 7.5Y 5/1
10	須高坏	14.0				1/5	ロクロヨコナデ。内面ロクロヨコナデ。	須恵器高坏 2.5Y 7/2

第141表 第83号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 334 図								
11	有坏B2	12.5	11.5	3.8		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
12	有坏B2	13.3	11.1	3.9	300	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 5 / 6
13	身坏5	12.7	13.5	3.3	280	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
14	身坏5	12.2	13.0	4.1		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ユビオサエ→放射状ヨコナデ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 1.7 / 1
15	有坏B2	13.2	11.5	4.4	320	4/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
16	有坏B2	16.0	15.1	7.0		2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
17	鉢K3	20.8	19.2	7.0		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
18	長砲壺3	18.6		35.6	(4,200)	一部欠損	胴縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→肩部斜めヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8
19	長下壺4	20.5				2/3	胴縦ヘラケズリ→底部ヘラケズリ→底部斜めヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 6
第 335 図								
1	甕形甌5	22.8	8.5	27.8	5,000	一部欠損	胴縦ヘラケズリ→底部縦ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8

第142表 第85号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
第 335 図								
2	鉢K3	27.6				2/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 1.7 / 1
3	大型甌5	21.7				1/10	胴横ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。内面ナデアゲ→断続ヨコナデ。	5 Y R 6 / 8
4	球胴壺5	13.9				1/10	肩部横ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 8

第143表 第84号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
5	有坏B2	13.6	12.4	4.9		1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6

第144表 第86号住居跡出土土器

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
13	有坏B2	15.2	14.3	5.5	580	2/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	内外面黒色処理 5 Y R 6 / 3
14	有坏B2	13.2	11.7	4.5	320	3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 4
19	鉢K3	13.0	15.2	7.2	600	1/3	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4

第145表 第87号住居跡出土土器①

番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
6	有坏B2	14.0	12.5	4.5	420	一部欠損	周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ（2段）。内面断続ヨコナデ→放射状暗文。	5 Y R 5 / 3
7	有坏B2	14.2	12.8	4.7	420	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 4
8	蓋坏5	13.3	13.3	3.9		1/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
9	有坏B2	13.6	11.5	4.2		3/5	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	7.5 Y R 7 / 4
10	蓋坏5	12.5	11.7	4.3	320	1/2	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
11	身坏5	11.7	13.0	3.9		2/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 8
12	身坏5	12.5	13.3	4.4	380	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6
15		15.2	14.3	4.7		1/4	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
16		14.0	12.5	4.8	400	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ→放射状暗文。	2.5 Y R 6 / 6
17	身坏5	12.0	13.3	4.6	320	完形	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ユビオサエ→断続ヨコナデ。	5 Y R 7 / 6
18	身坏5	12.0	13.7	4.7	340	一部欠損	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	2.5 Y R 7 / 6
20	身坏5	15.8	18.1	7.1		2/10	底部ヘラケズリ→周辺ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面断続ヨコナデ。	2.5 Y R 6 / 6

第146表 第87号住居跡出土土器②

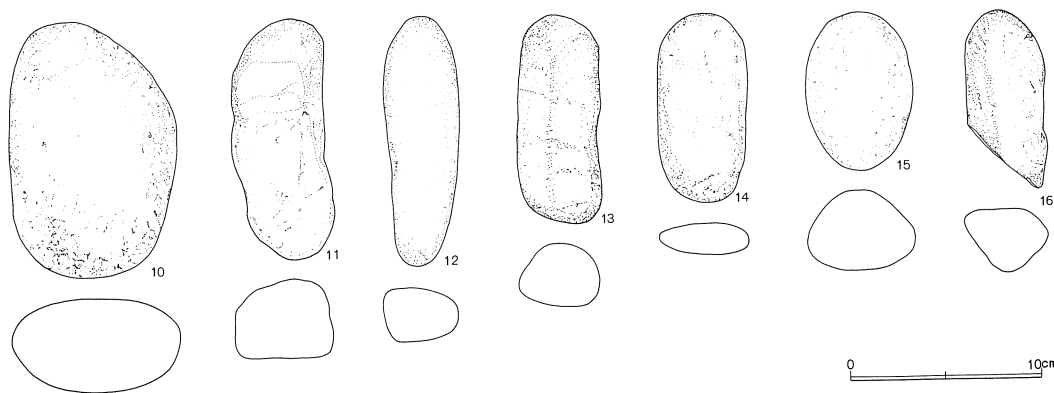
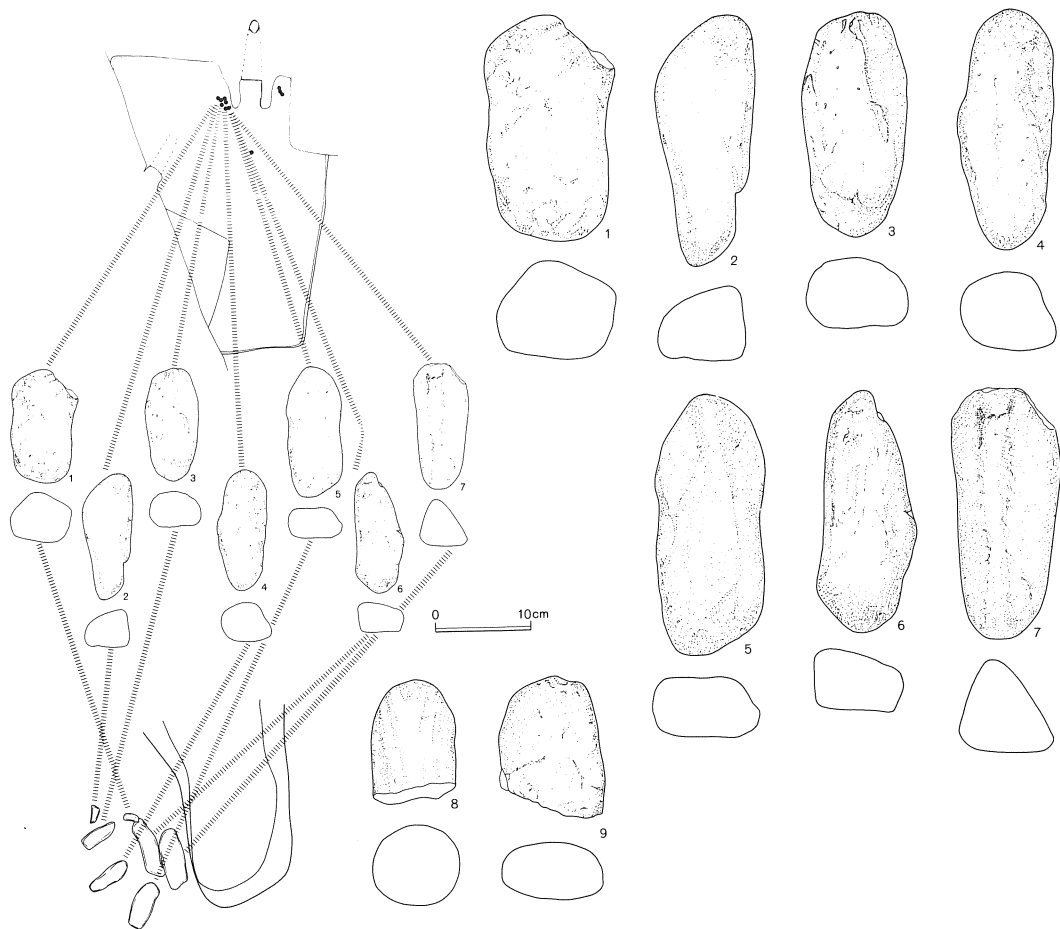
番号	器種分類	法 量				残存度	手法の特徴・成（整）形の順序	色調・焼成・使用痕跡等
		口径	底径	器高	容量			
21	鉢K 3	24.0	20.7	7.4	1,500	1/4	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ。内面ヨコナデ。	7.5 Y R 8 / 4
22	大型甕 5	22.5		25.1	4,700	8/10	底部ヘラケズリ→口縁部断続ヨコナデ→胴部縦ヘラケズリ。内面ヘラオサエ→断続ヨコナデ。	

(6) 遺物各説 —古墳時代第Ⅴ期の編物石—

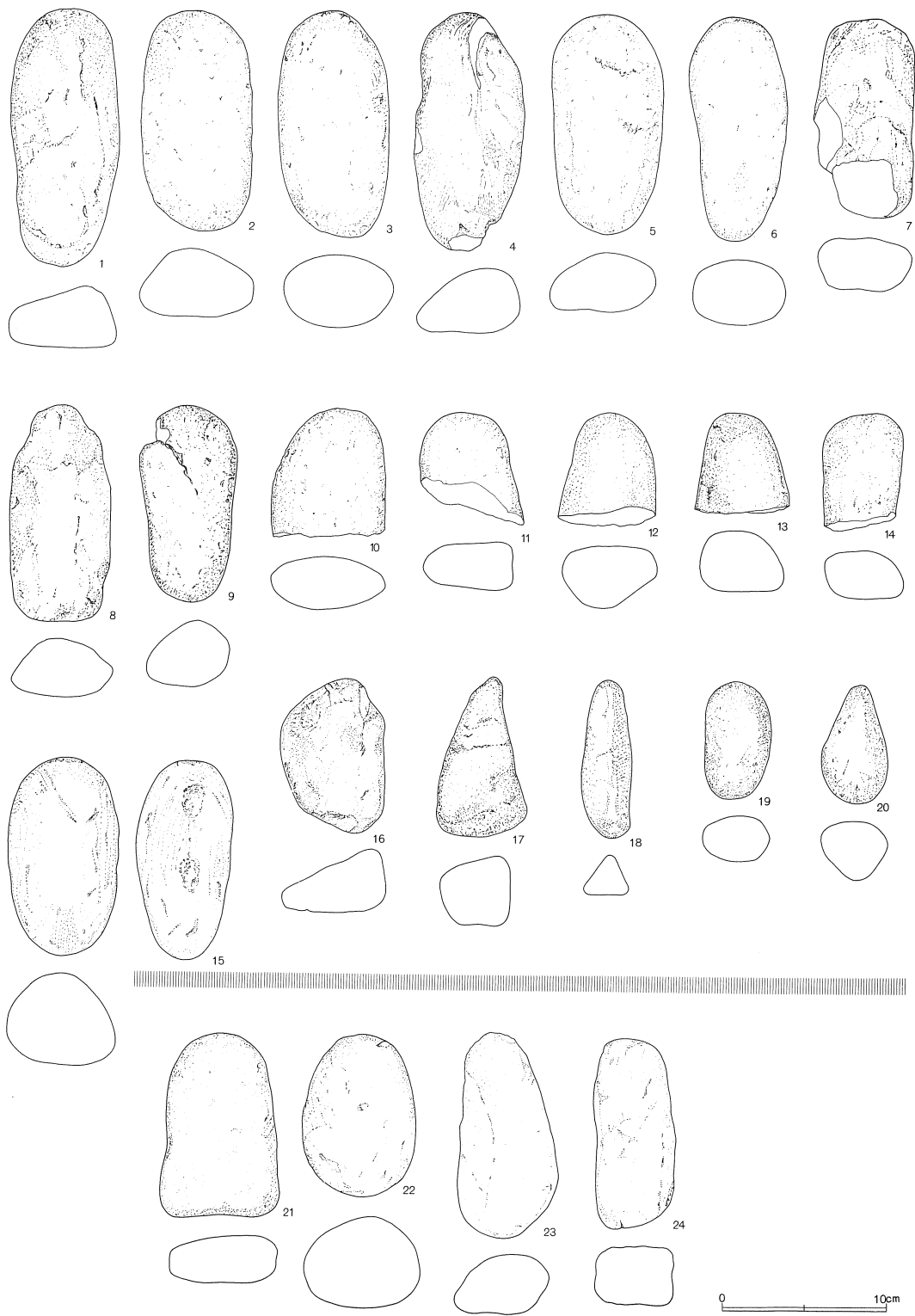
第72・60・61・62・63・67・68・69・74・70・82・87・85号住居跡で数点ずつまとめて、編物石が出土している。とくに72号住居跡では、重さにばら付きがあるが、カマド左脇にまとめて出土している。それぞれの編物石が重なるように出土しており、編物石の片付けられ方を考えるうえでは貴重な資料である。

このほかに、第60・61・62・63・67・85・87号住居跡から、編物石が、3～20点のまとまりをもって出土している。重量はまちまちだが、500g前後のものである。

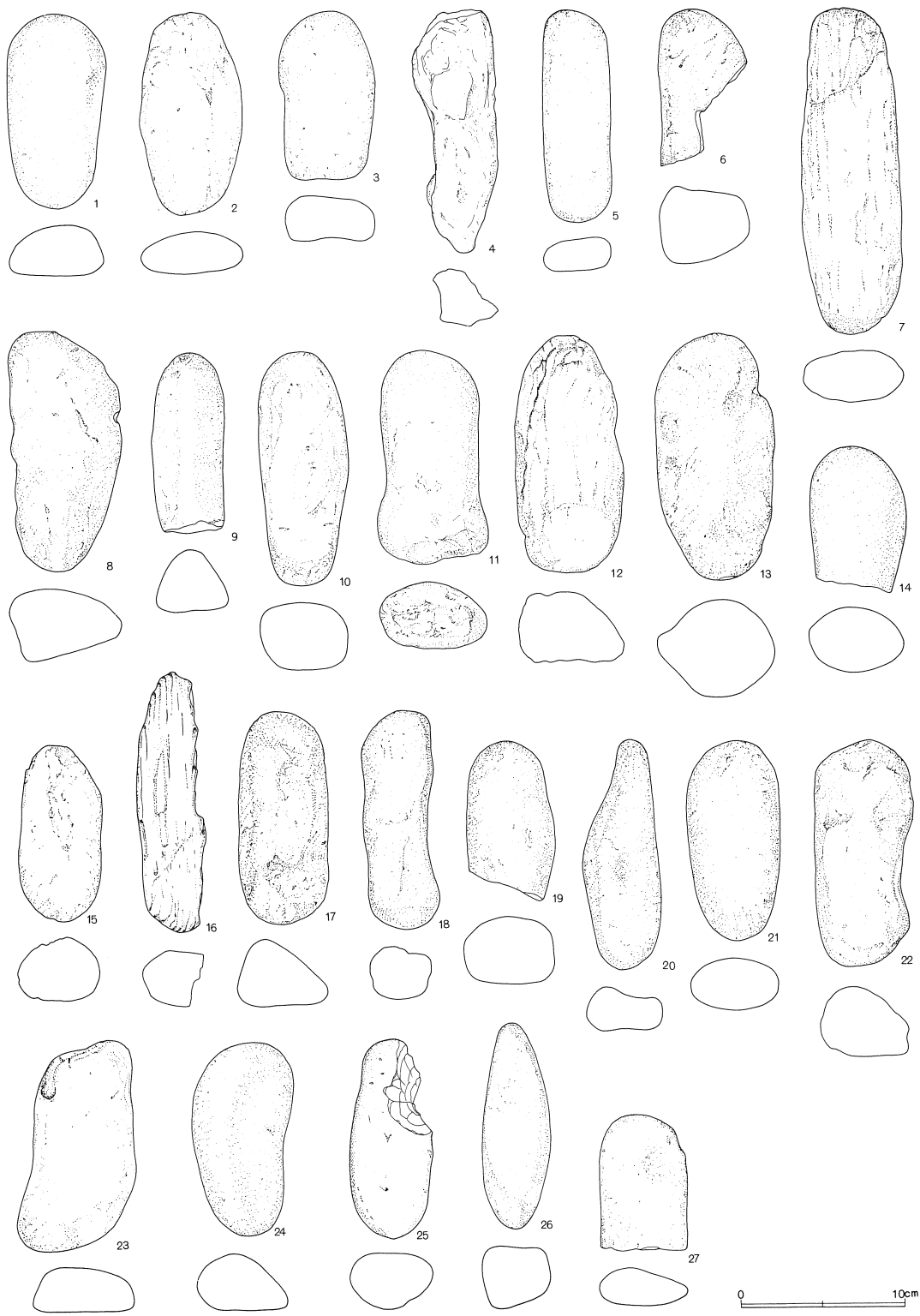
古墳時代第Ⅴ期の編物石は、2～3軒に1セット程度の割合で出土している。この段階に製品の需要が、飛躍的に高まったことを意味しているのであろうか。



第 336 図 古墳時代第 V 期の編物石(1)



第 337 図 古墳時代第V期の編物石(2)



第 338 図 古墳時代第 V 期の編物石(3)

第147表 古墳時代第V期の編物石

番号	出土遺構	長さmm	厚みmm	重さg	石質等	番号	出土遺構	長さmm	厚みmm	重さg	石質等
第336図						18	S J 61	97	30	95	安山岩
1	S J 72	119	64	715	安山岩	19	S J 61				安山岩
2	S J 72	132	53	500	安山岩	20	S J 61				安山岩
3	S J 72	119	51	360	安山岩	21	S J 62	111	68	475	安山岩
4	S J 72	126	56	375	安山岩	22	S J 62	100	61	475	安山岩
5	S J 72	127	49	465	安山岩	23	S J 62	125	58	365	安山岩
6	S J 72	122	46	350	安山岩	24	S J 62	116	49	365	安山岩
7	S J 72	130			安山岩	第338図					
8	S J 72				安山岩	1	S J 63	123	64	305	安山岩
9	S J 72				安山岩	2	S J 63				安山岩
10	S J 60				安山岩	3	S J 63	104	55	285	安山岩
11	S J 60	125	50	395	安山岩	4	S J 63	148	40	350	安山岩
12	S J 60	131	39	245	安山岩	5	S J 63	120	59	330	安山岩
13	S J 60	109	42	260	安山岩	6	S J 67				安山岩
14	S J 60	99	48	145	安山岩	7	S J 67	201	62	610	緑泥石片岩
15	S J 60				安山岩	8	S J 67	147	69	615	安山岩
16	S J 60	72	41	165	安山岩	9	S J 68	110	44	280	安山岩
第337図						10	S J 68	144	55	550	安山岩
1	S J 61	157	62	670	安山岩	11	S J 69	131	67	580	安山岩
2	S J 61	135	68	580	安山岩	12	S J 74				緑泥石片岩
3	S J 61				安山岩	13	S J 70	152	74	880	安山岩
4	S J 61	146	66	535	安山岩	14	S J 70				安山岩
5	S J 61	135	67	500	安山岩	15	S J 82				安山岩
6	S J 61	133	56	520	安山岩	16	S J 82	158	37	295	緑泥石片岩
7	S J 61	121	58	325	緑泥石片岩	17	S J 87	131	56	410	安山岩
8	S J 61	132	62	460	安山岩	18	S J 87	135	39	310	安山岩
9	S J 61	120	52	390	安山岩	19	S J 87				安山岩
10	S J 61				安山岩	20	S J 87	140	48	250	安山岩
11	S J 61				安山岩	21	S J 87	122	57	375	安山岩
12	S J 61				安山岩	22	S J 85	139	55	525	安山岩
13	S J 61				安山岩	23	S J 85	122	63	450	安山岩
14	S J 61				安山岩	24	S J 85	118	57	375	安山岩
15	S J 61	121	69	650	安山岩	25	S J 85	122	41	295	安山岩
16	S J 61				安山岩	26	S J 85	122	42	305	安山岩
17	S J 61	97	44	285	安山岩	27	S J 85				安山岩

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集

新屋敷東・本郷前東

一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

平成4年3月15日 印刷

平成4年3月16日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 大里郡大里村大字箕輪字船木884

電話 (0493) 39-3955

印刷 (株) きょうせい